HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道大学所蔵モヨロ貝塚（網走市）収集考古資料
Author(s)	中沢，祐一；伊藤，麻由；大沼，まり 他
Issue Date	2025-03-31
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/94609
Type	book
File Information	HUSCAP_moyoro_shell_midden.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

北海道大学所蔵

モヨロ貝塚（網走市）収集考古資料

A Catalogue of the Prehistoric Artifacts from the

Moyoro Shell Midden, Abashiri City, Hokkaido, Japan

HOKKAIDO
UNIVERSITY

令和７年３月　札幌

March　2025

Hokkaido University

Sapporo

例　言

１．　本書は、北海道大学医学部解剖学教室が北海道網走市北一条東二丁目・北二条東二丁目に所在するモヨロ（最寄）貝塚から収集した考古資料のカタログである。

２．　本書に掲載した資料の整理作業は、2022 ～ 2024（令和４～６）年度に北海道大学大学院医学研究院人類進化学教室が行い、主として中沢祐一、伊藤麻由、大沼まりが従事した。2024（令和６）年度の整理作業には、梨羽賢太郎が参加した。

３．　本書の編集は、中沢、伊藤、大沼、澤井　玄、高橋　健、種石　悠が担当した。

４．　整理作業の主たる分担は下記である。
遺物分類：中沢、伊藤、澤井、高橋、種石
写真撮影：伊藤、大沼、中沢　　図版作成：伊藤、大沼、中沢
遺物計測：中沢、大沼、澤井、梨羽
調査経緯・遺物記載：中沢（下記以外）
種石（第２章 - 第４節）、高橋（第２章 - 第６節、骨角器属性表【精査】）、澤井（属性表：擦文土器）

５．　文化遺物の認定や分類に際して、熊木俊朗、澤井　玄、高橋　健、種石　悠の諸先生より専門的なご教示ならびにご助力を頂戴した。

６．　遺物写真の縮尺は１/ ３、１/ ２、２/ ３、４/ ５、１/ １である（玉は２/ １倍）。ラベル類の写真の縮尺は１/ ２である。

７．　遺物の計測値は、mm および g 単位で属性表中に示している。

８．　本書掲載の資料は、北海道大学大学院医学研究院人類進化学教室にて保管している（2025年３月現在）。

９．　本書作成に関わる整理作業において、以下の諸氏・諸機関からご教示とご助力を頂戴した。ご芳名を記して、御礼申し上げる。（五十音順、敬称略）

青木要祐　赤井文人　天野哲也　株式会社イビソク　内山幸子　江田真毅　大上詩織　太田　圭　大塚宜明　大西秀之　小野裕子　加藤尚史　加藤　克　川添和暁　國木田大　久保大輔　熊木俊朗　越田賢一郎　坂梨夏代　坂本尚史　佐々木繁喜　澤井　玄　須山貴史　髙倉　純　高瀬克範　高橋　健　高畠孝宗　田口　尚　田才雅彦　種石　悠　東京大学常呂実習施設　直江康雄　長沼正樹　中村雄紀　橋本俊範　菱田絵美　福井淳一　北海道大学大学院医学研究院　宮内俊樹　村本周三　柳瀬由佳　山田　哲　米村　衛　鷲津未来　渡辺双葉

目　次

第１章　モヨロ貝塚の発掘調査概要
　第１節　モヨロ貝塚の位置……1
　第２節　モヨロ貝塚の発掘調査史と本書収録資料……1
　第３節　調査地区・地点について……5
　第４節　第二貝塚……6

第２章　遺物
　第１節　本書に掲載したモヨロ貝塚出土遺物の概要……12
　第２節　遺物 ID について……12
　第３節　土器……14
　第４節　オホーツク式土器とモヨロ貝塚（種石　悠）……17
　第５節　石器……22
　第６節　骨角器（高橋　健）……26
　第７節　金属器……38
　第８節　礫……40
　第９節　その他……40

第３章　まとめ……41
引用・参考文献……42

図版
　PLATE 1 ～ 93（戦中）……46
　PLATE 94 ～ 114（戦後・ラベル類）……139
遺物属性表
　表１　土器……160
　表２　石器……204
　表３　骨角器……227
　表４　金属器……258
　表５　礫……262
　表６　動物遺存体……268
　表７　その他の遺物……291
　表８　ラベル類の記載内容……293
　付表１　遺物 ID における共伴コードと対応する古人骨標本番号……294
　Summary……296

第１章　モヨロ貝塚の発掘調査概要

第１節　モヨロ貝塚の位置

モヨロ貝塚（最寄貝塚）は、北海道東北部オホーツク海沿岸に面する貝塚遺跡である。網走川がオホーツク海に注ぐ河口付近の網走川左岸とオホーツク海に挟まれた細長い砂州の上に形成された砂丘上に位置する（図１）。標高は４～７ｍである。

史跡指定された範囲は、21,200m² に及び、近年（2003 ～ 2008 年）の保存整備事業（米村・梅田編 2009）に至るまでの多年に及ぶ調査からは、同じモヨロ貝塚とされる砂州上にあっても、微地形の違いによって出土する遺構や時期が異なることが分かっている。遺構・遺物が分布する砂丘は２列あり、うち網走川寄りにある砂丘の上に竪穴が集中し、もう一方のオホーツク海側にある砂丘からは遺構・遺物はほとんど発見されていない。これら２列の砂丘に挟まれた中央は谷状の窪みとなり、墓壙が集中する。また、オホーツク文化期の貝塚、住居、墓壙は砂州の先端側に集中するのに対し、縄文時代および続縄文文化期に属する住居や遺構は内陸側に多い傾向が指摘されている（図３，河野 1958、米村 2004）。



図１　モヨロ貝塚の位置（国土地理院数値地図 25000、Google Earth より）

第２節　モヨロ貝塚の発掘調査史と本書収録資料

モヨロ貝塚は様々な調査団体によって発掘調査が進められてきた。

モヨロ貝塚と呼称される前の明治時代にあっては、網走川河口左岸から竪穴、貝塚、土器、人骨などが出土する遺跡として学界に報告された（斎藤 1964）。本格的な調査は、東京大学人類学教室の鳥居龍蔵から

師事を受けた米村喜男衛が、網走市へ移住した後に進展する。米村はモヨロ貝塚を継続的に調査した。自伝（米村 1969）によれば、1913 年（大正 2 年）の米村個人による調査を皮切りに、1928 ～ 1931 年（昭和 3 ～ 6 年）の調査（北見市郷土研究会の加藤要・高田耕吉と合同）、1933 年（昭和 8 年）の調査（河野広道と合同）、1936 年（昭和 11 年）の調査（名取武光と合同）、1937 年（昭和 12 年）の調査（中村恒次と合同）の記録がある。この間、1926 年（大正 15 年）には、京都大学の清野謙次が米村の協力を得て発掘調査を実施している（斎藤前掲）。いずれの調査地点も、米村（1935）の地図を見る限り、第一地点北側（図 2）のオホーツク海に面する範囲に限定されるようである。

オホーツク土器の認定もこの頃である。1933 年（昭和 8 年）6 月に札幌市で開催された「北海道原始文化展覧会」にて先史時代の遺物が集められた。そこへ米村が持ち込んだモヨロ貝塚の土器が注目され、よく似た土器が礼文島、根室、樺太、千島列島などの広範囲に分布することが着目された（野村 1997）。展示品解説目録の『北海道原始文化聚英』を著した河野広道は、これらの土器を「オホーツク海沿岸文化の石器時代後期から金属器時代に亘る文化を代表する土器群」と評し、縄文土器や擦文土器とは異なる「オホーツク式土器（群）」の名称を用いた（斎藤前掲、野村前掲）。

1934 年（昭和 9 年）には、名取武光（北海道大学農学部附属博物館）が史跡認定のための発掘調査を行い（米村 1935）、1936 年（昭和 11 年）12 月 16 日には史蹟名勝天然記念物保存法によって、文部省から史跡指定を受けている（斎藤前掲）。

第二次大戦中の 1941 年（昭和 16 年）と 1942 年（昭和 17 年）には、海軍の港湾工事に伴う緊急の発掘調査が、北海道大学解剖学教室の児玉作左衛門を中心として行われた。近年の学史的精査（種石 2023）によると、大湊海軍建設部の技師だった桑原清作が、モヨロ貝塚が位置する砂丘の上でなされた掘削工事によって遺物が散乱していることを目にしたことから、かねてより知古であった渋沢敬三（民俗学者）へ連絡をとり、さらに渋沢から児玉へと調査が要請されたという。

第二次大戦後の 1947 年（昭和 22 年）と 1948 年（昭和 23 年）には、東亜考古学会の島村孝三郎の先導によって文部省へ提出された現状変更願が受理され、発掘調査が実現した。調査団は、原田淑人、金田一京助、米村、児玉が中心となり、東京大学と北海道大学の研究者を中心とする調査団が組織された（駒井 1964b、斎藤前掲）。実際の発掘調査は、東京大学文学部考古学研究室の駒井和愛、北海道大学の名取武光、同医学部解剖学教室の伊藤昌一・大場利夫らが中心となって行った。この戦後の調査は、第 1 次調査が 1947 年（昭和 22 年）9 月 27 日～ 10 月 16 日、第 2 次調査が 1948 年（昭和 23 年）9 月 18 日～ 10 月 10 日である。第 1 ・ 2 次調査で未調査だった遺跡北側の竪穴住居群の発掘を、1951 年（昭和 26 年）10 月 4 日～ 10 月 12 日に行っており、これが第 3 次調査となる（駒井 1964b）。その後、2001 年と 2002 年に、網走市教育委員会が試掘調査を実施し、2003 年～ 2008 年に同教育委員会が保存整備のための発掘調査を実施した（米村・梅田 2009、和田 2006）。

本書に収録した資料は、戦中の 1941・1942 年の調査と戦後の 1947・1948 年になされた第 1 次および第 2 次調査によって収集された遺物からなる。とくに、北海道大学医学部解剖学教室が担当した調査範囲が、竪穴住居ではなく「貝塚と墳墓」（駒井 1964b：7）だったこともあり、貝塚およびそこから発掘された墓壙からの出土品が中心である。まず、調査地点について、以下にまとめる。

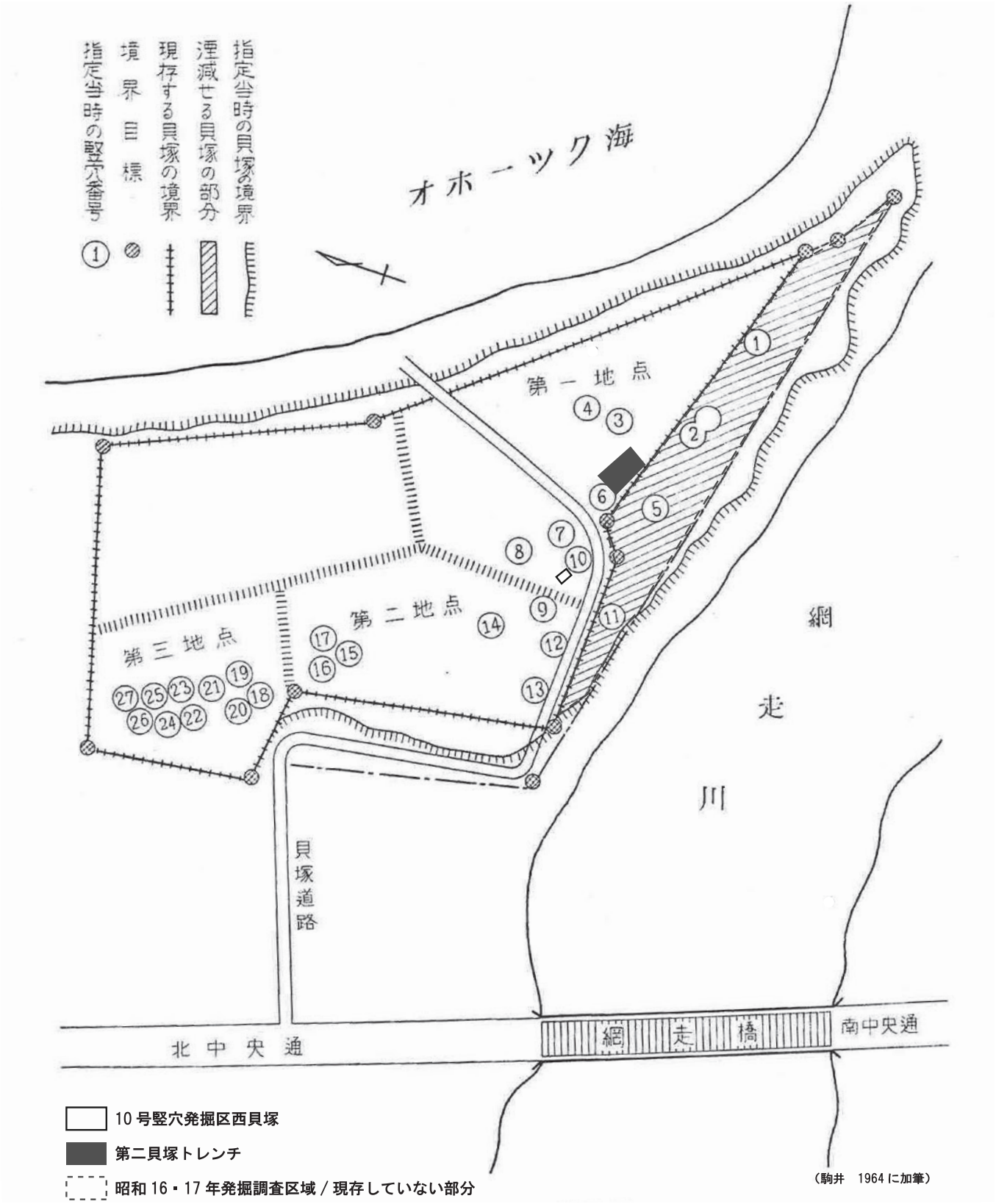
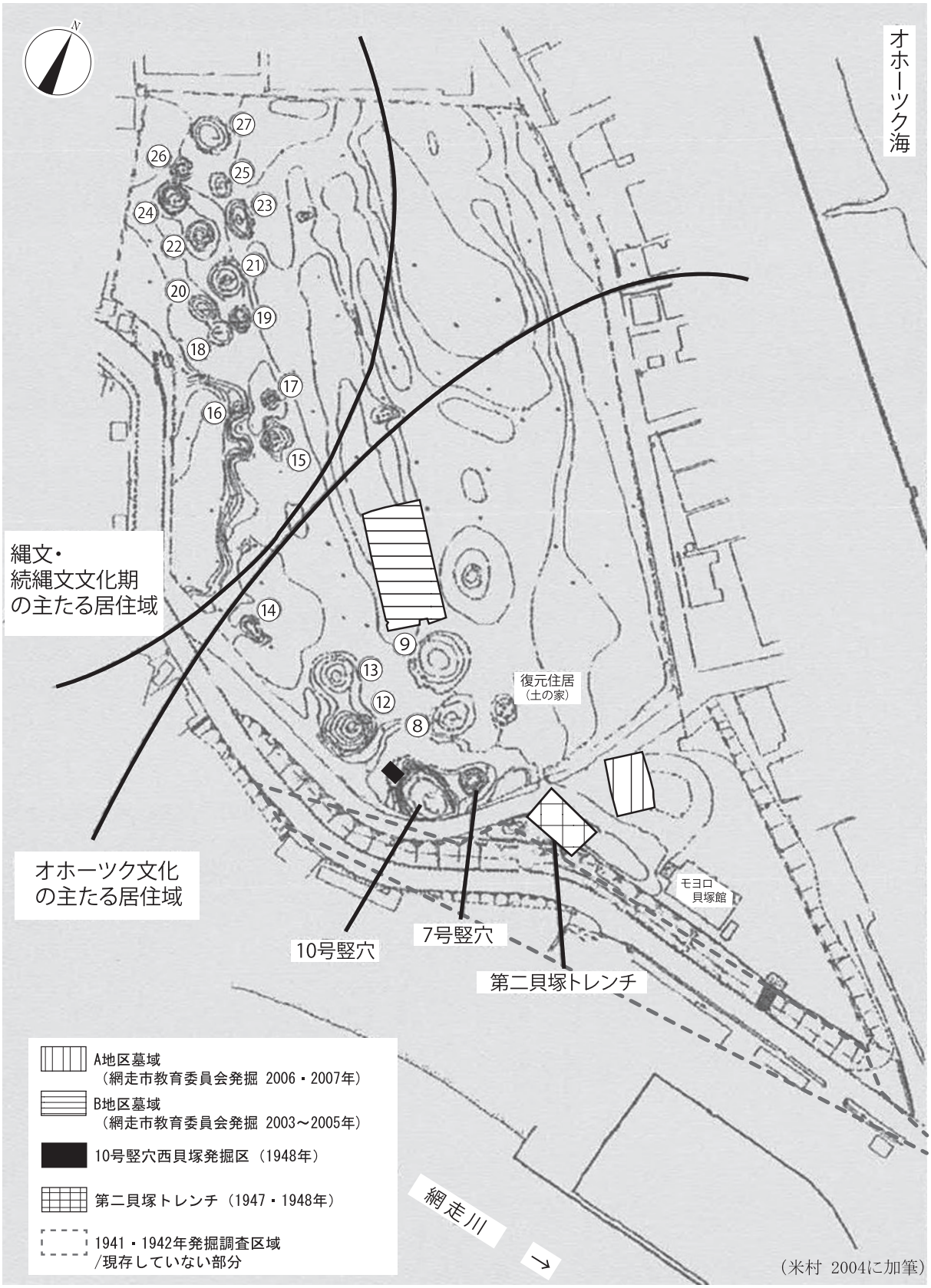


図２　モヨロ貝塚位置図（１）



駒井（1964b）、天野・小野(2006)、米村(2004)、米村・梅田(2009)を参考

図３　モヨロ貝塚位置図（２）

第３節　調査地区・地点について

図２および図３は、第二次世界大戦中の昭和 16・17 年（1941・1942 年）および、戦後の昭和 22・23 年（1947・1948 年）に発掘調査が実施された地区である。以下、前者を「戦中の調査」、後者を「戦後の調査」と呼称する。図２は駒井（1964）に掲載された図を基に、戦前の調査区と戦後に調査された第 10 号竪穴西貝塚発掘区と第二貝塚トレンチの位置を付加している。戦前の調査区は、モヨロ貝塚が残された砂州の先端部までのびる網走川に沿った砂丘である。戦中の工事によって大きく削平されてしまったが、遺跡の主体部だったと考えられている（米村・梅田編 2009）。丸で囲われた数字は竪穴住居の号数である。竪穴は 1933 年（昭和８年）にはすでに 27 基確認されており（児玉 1948）、その数は 1964 年の報告（駒井 1964b）でも再確認されている。図３も図２と同様、発掘調査範囲と竪穴の位置を示しており、網走市が近年調査したトレンチの位置（米村 2004）も含めている。表１には、調査区ごとの調査面積や遺物点数をまとめている。

表１　モヨロ貝塚における戦後に調査された遺構の面積および遺物数

調査遺構	1947（昭和 22）年			1948（昭和 23）年			
	発掘面積 (m^2)	発掘深さ (m)	出土遺物数	発掘面積 (m^2)	発掘深さ (m)	出土遺物数	総遺物点数
第７号住居	52	1.7	本資料体では 36 点確認	調査せず			＞ 36 点
第 10 号住居	調査せず			74	2.4	-	-
第 10 号竪穴西貝塚	調査せず			15	不明	31	31 点
第二貝塚	60（A 地区）	2	150 点以上	75（B/C 地区）	2	334 点以上	1331 点

戦後の調査については、残された記録から、大きく以下の調査遺構が区別できる。

１　第７号竪穴住居

昭和 22 年に東京大学が発掘調査した。駒井（1964a）に概要が報告されている。遺物の一部は本書で取り扱う。

２　第 10 号竪穴住居

昭和 23 年に東京大学が発掘調査した。駒井（前掲）にて報告済み。遺物の一部は本書で取り扱う。

３　第 10 号竪穴西貝塚

昭和 23 年に調査を実施した、第 10 号竪穴の外側に位置する貝塚である。第 10 号の外側に位置する貝塚である。「竪穴の西壁の外にも貝塚が見られ、鮭の鱗とともにオホーツク式土器の完形品や大形の骨斧のほか、柄の先端が海獣の頭に象ってある骨匙や、婦人の牙製の像など注目に値するものが出土した」（駒井前掲 :17）ことから、オホーツク文化期の貝塚と判断できる。出土品のうち、牙製婦人像は頭部と両腕を欠損しており、素材はマッコウクジラの歯牙とされる（高橋 2021）。共伴した土器から、刻文期～沈線文期の所産であることが推定されている（高橋前掲）。この牙製婦人像は東京大学文学部考古学研究室が所蔵管理している。

４　貝塚、第二貝塚

「貝塚」および「第二貝塚」の名称は、本資料体に付属していた記載情報に基づく。医学部解剖学教室が遺物を収納していたコンテナに貼られたラベルに、「モヨロ二十三年度副葬サレタ遺

物（貝塚、第二貝塚）」や「モヨロ ●和二十三年度 竪穴隣接第二貝塚出土」（●は昭と書かれていた可能性が高い）の記載がある。これらの記載から、「貝塚」と「第二貝塚」の二つの貝塚が区別されたようである。「竪穴隣接第二貝塚」の「竪穴」を 10 号竪穴と解すれば、第二貝塚は 10 号竪穴の西壁の外側に位置する貝塚の可能性もある。しかし、「貝塚、第二貝塚」と併記されることが多いことから、調査時に 2 か所の貝塚が区別されたとしても、その後の管理段階ではひと括りとしていた状況をうかがうことができる。今後精査を要するが、本書では、医学部解剖学教室がトレンチ発掘を実施した貝塚を、「第二貝塚」と一括して呼称する。

本書で扱う「第二貝塚」は、「第 1 次発掘の際，第 7 号，第 10 号竪穴住居の近くを走っている道路を距てた東側の砂地の貝塚」（駒井 1964b：10）と記載された規模の大きな貝塚である。昭和 22･23 年（1947･48 年）に、北海道大学医学部が主体となって発掘調査している。また、「発掘した貝塚の区域は網走川の左岸に残存する貝塚の一部で，竪穴群の東方約 20m 余りの地点である。その広さは Fig.10 に示す如くで，東西 15m，南北 9m の矩形」（伊藤 1964：20）の記載もあり、駒井と伊藤が記載した貝塚の位置は合致する。これらから、「第二貝塚」は第 7 号・第 10 号竪穴住居の東側に位置していたことがわかる。

「第二貝塚」の調査区は、伊藤（1964）にあるように、東西方向に長いトレンチである。調査団は昭和 22 年には A 地区（東西 15m、南北 4 m）、昭和 23 年には A 地区の南へ接する B 地区（東西 15m、南北 4 m）と北へ接する C 地区（東西 15m、南北 1 m）を、それぞれ拡張して発掘している。いずれも地表から深さ約 2 m まで掘り下げている。結果、東西 19m、南北 9 m の長方形のトレンチを完掘し、個別に埋葬された 30 体のオホーツク人骨を検出した（伊藤 1964）。これらの人骨の出土状況については、伊藤（1964）が詳細な記載を残している。本書では、伊藤（1964）が掲載した調査区内における人骨と遺構（墓壙、炉址）の位置図を再掲載した（図 6 ）。出土した文化遺物の一部は、名取・大場（1964）に記載がある。本書掲載の遺物の多くには、出土した地区の情報が付随する。地区は上記の A、B、C の 3 つであり、中には「AB 地区」として一括されている遺物や「地区不明」というグループもある。

5　「住居付近貝塚」

「住居付近貝塚」の正確な位置づけはできていない。昭和 23 年に調査された記録があるが、どの住居の付近であるかに関する記載がない。おおきく二つの可能性がある。10 号竪穴西貝塚が昭和 23 年に調査されていることから、10 号竪穴西貝塚を指すことも考えられる。同じく昭和 23 年には「第二貝塚」も調査されているため、「第二貝塚」を意味する可能性もある。その場合、「住居」は第二貝塚に隣接する 6 号竪穴住居を示すことになる。6 号竪穴住居は戦後の発掘調査対象ではなかったが、「窪んでいて明かに知ることが出来た」（駒井 1964b：9）とされることから、6 号竪穴住居の付近にあった貝塚（「第二貝塚」）を意味する可能性も排除しがたい。いずれにせよ、出土場所を特定しえないため、本書では「住居付近貝塚」とし、10 号竪穴西貝塚や「第二貝塚」とは別単位とした。

第 4 節　第二貝塚

本書掲載資料のうち、戦後調査資料の大部分は第二貝塚から出土している。戦後の調査報告（駒井 1964a）では、第二貝塚について様々な記録がある。中でも、層序（伊藤 1964、名取・大場 1964）、人骨の埋葬状態と人骨の形質的特徴（伊藤前掲）、出土遺物（名取・大場前掲）、オホー

ツク文化の葬制（藤本 1965）に関する詳細な報告がなされている。以下では、第二貝塚の層序と人骨との関係についてまとめる。出土遺物については、戦中の調査とあわせて別途記載する。

1　層序

層序は、原典である伊藤（1964）と名取・大場（1964）にそれぞれ記載がある。両者の記載内容には層厚などについて若干の違いがみられるが、層序関係に矛盾はない。両記載を総合すると、図 4 のようになる。第 1 層は表土の黒色土層 (15~40cm)。第 2 層は火山灰層 (2 ～ 2.5cm)。第 3 層は貝層（15 ～ 50cm）。貝層は 2、3 層に分かれる場所もあり、黒色の間層を挟むこともある。第 4 層は砂層。層厚は不明。その下は粘土層とされるが（伊藤 1964）、厚さや広がりなどの記載はない。

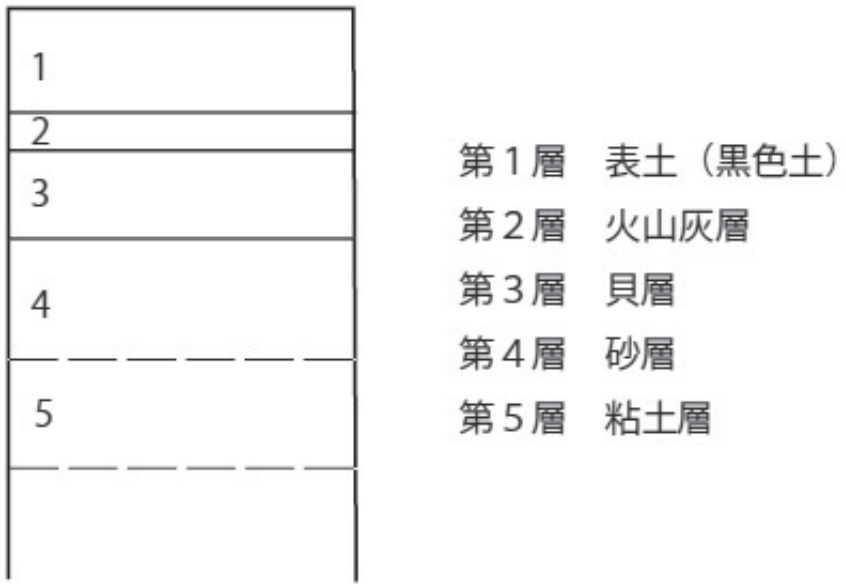


図 4　モヨロ貝塚層序模式図



図 5　「第二貝塚」A 地区の発掘状況。トレンチ西壁の土層断面を撮影。地表から黒色土、貝層、砂層の堆積がみえる。木杭は墓壙の位置を示す。写真は『史跡モヨロ貝塚ガラス乾板写真デジタルアーカイブ 』の D-51「貝塚トレンチ A 区域西壁」より転載。

２　墓壙・人骨・副葬品

大部分の人骨は第二貝塚より出土している。第二貝塚出土の人骨に関しては、北海道大学医学部解剖学教室の伊藤昌一（1964）によって埋葬状態、出土層位、人骨の体軸方向、埋葬方法（木槨葬、蒅石葬、甕形土器への幼児の埋葬など）の記載、および個別人骨の形質人類学的所見がまとめられている（表２）。

第二貝塚出土の人骨は、「発掘番号」（伊藤 1964：41）もしくは「番号」（名取・大場 1964：54）によって、人骨が出土した墓の番号と対応付けている。

人骨の個体ごとの情報（出土層位、頭位など）とそれに伴う副葬品の内容は、伊藤（前掲）の本文と第１表、および名取・大場（1964）の第１表にそれぞれ記載がある。本書ではこれらの記載を統合し、主として副葬品の内容を整理した（表３）。なお、「発掘番号」の１および２に該当する人骨は、表土層（貝層の上）から出土している。第７号竪穴住居からも１号・２号人骨が出土しているが、これらの号数は第二貝塚とは別の番号体系によっている。28 号・29 号は第 10 号竪穴西貝塚の墓壙から出土した。

墓壙は北西ー南東に軸をもつ（図６）。埋葬状態は、仰臥屈葬で頭位は北西方向を向く規則性がある。第二次調査で検出された第 22 号墓は、ホッキ貝の殻で覆われ、その周囲を厚さ５cm の砂で包まれた幼児人骨であり、頭位も南東を向くことから異例である（駒井 1964b）。炉址については記載が乏しいが、写真（伊藤 1964：20-21）を見る限りは掘り込み炉があったと判断できる。

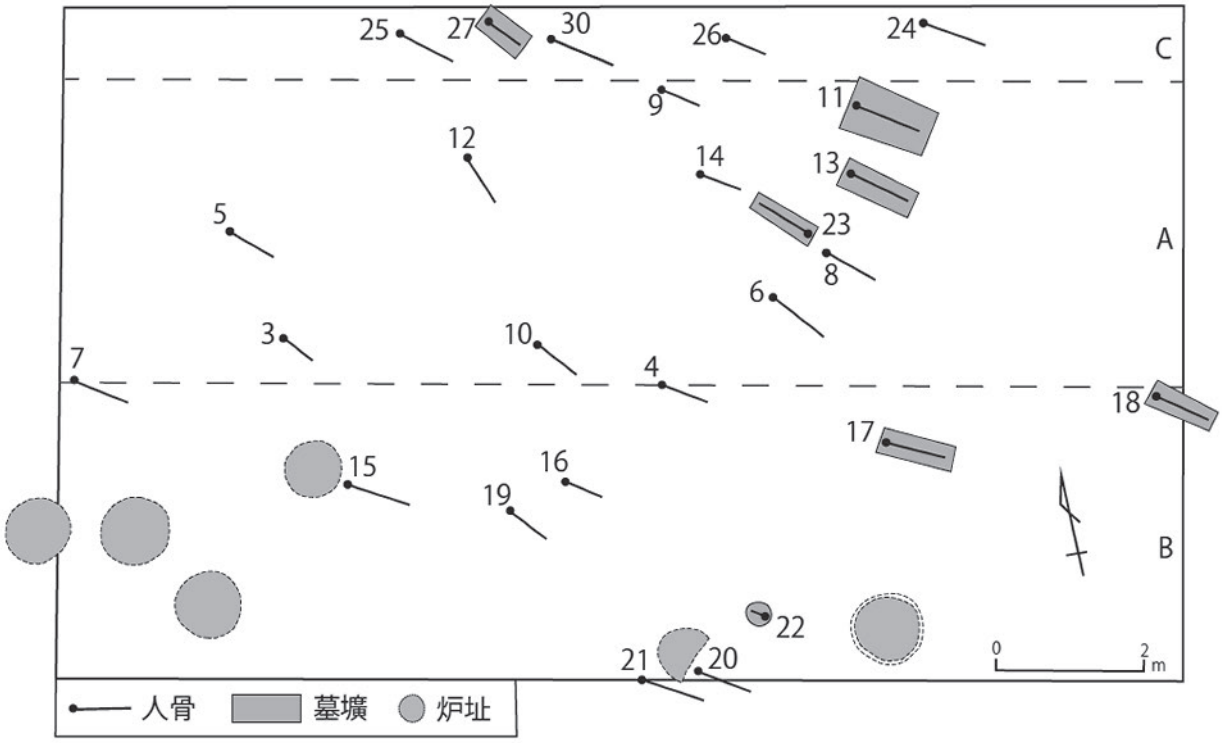


図６　第二貝塚墓壙配置図

表２　埋葬人骨ごとにみた埋葬状態や副葬品などの特徴（1947 年調査）

		層序			埋葬状態		墓形式			副葬品				
発掘年	発掘番号	貝層の厚さ(cm)	層位	貝層との関係	頭位	体位	被甕	木槨	葺石	土器	石器	骨角器	金属器	装身具
1947	1	-	-	貝層より上の表土層	?	仰臥伸葬	?	?	?	-	-	-	-	-
1947	2	-	-	貝層より上の表土層	?	仰臥伸葬	?	?	?	-	-	-	-	-
1947	3	20	貝層下縁	貝層下縁部	N44°W	仰臥屈葬	1			土器 1(刻文)				
1947	4	20	貝層下縁	貝層より下 10cm	N60°W	仰臥屈葬	2（土器 1 ヶ頭上，1 ヶ胸上）			土器 2(刻文)				
1947	5	20	貝層下縁	貝層下縁部	N50°W	仰臥屈葬	1（土器頭上）			土器 1(貼付文)			刀子 1	
1947	6	50	貝層下縁	貝層下縁部	N40°W	仰臥屈葬	2（土器 1 ヶ頭上，1 ヶ胸上）			土器 2(刻文)			刀子 1	
1947	7	40	貝層（貝層上面から掘り込み）	貝層より下 9cm	N56°W	仰臥屈葬	1（土器頭上）		✓	土器 1(貼付文)			刀子 1	髪容具？ 1
1947	8	45	貝層	貝層内	N50°W	仰臥屈葬	1			土器 1(貼付文)				円形垂飾 1
1947	9	15	貝層	貝層下縁部	N55°W	仰臥屈葬	1			土器 1(貼付文)				
1947	10	35	砂層	貝層下縁部	N40°W	仰臥屈葬	1（土器頭上）			土器 1(貼付文)		骨篦 1	大刀 1，刀子 1，鏃 1	
1947	11	15	砂層	貝層より下 85cm	N54°W	仰臥屈葬	1	✓	✓	土器 2(刻文)				
1947	12	20	貝層下縁	貝層より下 10cm	N20°W	仰臥屈葬	1			土器 1	石鏃 6			
1947	13	20	砂層	貝層より下 80cm	N49°W	仰臥屈葬	1（土器頭上）	✓		土器 1(刻文)				
1947	14	20	砂層	貝層より下 20cm	N58°W	仰臥屈葬	1			土器破片 1			刀子 1	硝子玉 2

表２（続き） 1948 年調査

		層序			埋葬状態		墓形式			副葬品				
発掘年	発掘番号	貝層の厚さ(cm)	層位	貝層との関係	頭位	体位	被甕	木槨	葺石	土器	石器	骨角器	金属器	装身具
1948	15	50	貝層下縁	貝層下縁部	N60° W	仰臥屈葬	1（土器頭上）			土器 1（刻文）	石鏃 1	骨鏃 32，骨錐 1	鉾 1	
1948	16	35	貝層	貝層内	N55° W	仰臥屈葬	1		✓	土器 1（刻文＋貼付文）			刀子 1	
1948	17	25	砂層	貝層より下 100cm	N65° W	仰臥屈葬	0	✓		-			刀子 1	
1948	18	15	砂層	貝層より下 200cm	N50° W	仰臥屈葬	0	✓		-			刀子 1	
1948	19	45	貝層	貝層内	N40° W	仰臥屈葬	0		✓	土器 1（刻文）			刀子 1	
1948	20	40	貝層	貝層下縁部	N55° W	仰臥屈葬	1			土器 1（刻文＋貼付文）		骨篦 1	刀子 1	髪容具？2，円形垂飾 1
1948	21	20	砂層	貝層より下 88cm	N60° W	仰臥屈葬	1			土器破片 1（無文）				
1948	22	30	砂層	貝層より下 124cm	S50° E	仰臥屈葬	甕棺容器に入れたもの			-				
1948	23	10	砂層	貝層より下 120cm	S45° E	仰臥屈葬	0	✓		-				
1948	24	10	砂層	貝層より下 40cm	N55° W	仰臥屈葬	1		✓	土器破片 1		骨銛 1，骨鏃 10		
1948	25	20	砂層	貝層より下 30cm	N50° W	仰臥屈葬	1		✓	土器 1（刻文）	石鏃 1		刀子 1	
1948	26	15	砂層	貝層より下 60cm	N55° W	仰臥屈葬	1（土器頭上）		✓	土器 1（刻文＋貼付文）				
1948	27	15	砂層	貝層より下 58cm	N40° W	仰臥屈葬	0	✓		✓				
1948	28	40	-	第 10 号竪穴西貝塚内	W20° S	仰臥屈葬	1			✓				
1948	29	40	-	第 10 号竪穴西貝塚内	W25° S	仰臥屈葬	1			✓			刀子	
1948	30	15	-	貝層より下 55cm	N55° W	仰臥屈葬	1			✓				

※性別、貝層の厚さ、貝層との関係、頭位、体位、頭尾長、墓形式（木槨、葺石）は伊藤（1964）より。

※「貝層の厚さ」（伊藤前掲）は、定義が不明である。墓壙が包含される貝層や墓壙の上にある貝層の厚さを示している可能性がある。

※墓形式（被甕）は伊藤（前掲）と名取・大場（1964）より。

※人骨番号 2 ～ 27 の層序と副葬品の内訳（土器、石器、骨角器、金属器、装身具）は名取・大場（前掲）より。人骨番号 28 ～ 30 については、名取・大場（前掲）に記載なし。

表３　モヨロ貝塚出土人骨と副葬品の内容

出土地区	人骨	名取・大場（1962：49-51）の「副葬品」の記載内容	整理備考
七号竪穴	七号竪穴一号人骨	記載なし	
七号竪穴	七号竪穴二号人骨	記載なし	
第二貝塚	昭和 22 年 1 号	記載なし	動物遺存体のみ
第二貝塚	昭和 22 年 2 号	記載なし	オホーツク式土器（胴部片）
第二貝塚	昭和 22 年 3 号	第２類土器破片（文様・刻文）１ヶ	オホーツク式土器（胴部片）
第二貝塚	昭和 22 年 4 号	第２類土器破片（文様・刻文）２ヶ。土器１例は甕形、高さ 25cm、底径 5.5cm。他の１例は甕形、高さ 11cm、口径 10cm、底径４cm。１例は頭部、他の１例は胸部に倒立静置している	オホーツク式土器（胴部片）、炭化物あり
第二貝塚	昭和 22 年 5 号	第２類土器（文様・隆起式浮文）１ヶ、鉄製刀子１ヶ。土器は甕形、高さ 18cm、口径 15cm、底径 7.5cm。刀子は左眼窩の附近から出土している	オホーツク式土器（胴部片）、石器（剥片）
第二貝塚	昭和 22 年 6 号	第２類土器（文様・刻文）２ヶ、鉄製刀子１ヶ。土器１例は甕形、高さ 33cm、口径 ,29cm、底径 9cm。他の１例は甕形、高さ 15cm、口径 12cm、底径 6cm。１例は頭部、他の１例は胸部に倒立して置かれている。刀子は腐食している	名取・大場（1961）に副葬品の記載あるが、現物は未確認
第二貝塚	昭和 22 年 7 号	第２類土器（文様・貼付式浮文）１ヶ、鉄製刀子１ヶ。髪容具？１ヶ。土器は頭部に倒立している。髪容具と思われる骨製小刀形のものは、長さ 24cm、幅 1.4cm、厚さ 0.3cm で、一端が尖り一端は基部をなしている。基部には装飾が見られる	名取・大場（1961）の骨角器以外の文化遺物は未確認
第二貝塚	昭和 22 年 8 号	第２類土器（文様・貼付式浮文）１ヶ、骨製円形垂飾１ヶ	名取・大場（1961）の骨角器は未確認
第二貝塚	昭和 22 年 9 号	第２類土器（文様・貼付式浮文）１ヶ	炭化物あり
第二貝塚	昭和 22 年 10 号	第２類土器（文様・貼付式浮文）１ヶ、鉄刀１振、鉄製刀子１ヶ、鉄鏃１ヶ	名取・大場（1961）に副葬品の記載にある土器、鉄製品は未確認
第二貝塚	昭和 22 年 11 号	第２類土器（文様・刻文）１ヶ、骨篦１ヶ	名取・大場（1961）に副葬品の記載あるが、現物は未確認。炭化物あり
第二貝塚	昭和 22 年 12 号	第２類土器１ヶ、石鏃６ヶ	名取・大場（1961）に副葬品の記載にある石鏃は未確認。土壌サンプルあり
第二貝塚	昭和 22 年 13 号	第２類土器（文様・刻文）１ヶ。土器は頭部に倒立して置かれている	土壌サンプルあり
第二貝塚	昭和 22 年 14 号	第２類土器１ヶ、鉄製刀子１ヶ、硝子製小玉２ヶ。硝子製小玉は直径 0.5cm、厚さ 0.4cm で中央に一孔が見られる。色調は青色	名取・大場（1961）のガラス製小玉（１点）以外の文化遺物は未確認
第二貝塚	昭和 23 年 15 号	第２類土器（文様・刻文）１ヶ、石鏃１ヶ、骨鏃 32 ヶ、骨錐１ヶ、鉄鉾１本	名取・大場（1960）に副葬品の記載あり。土器は未確認
第二貝塚	昭和 23 年 16 号	第２類土器(文様・刻文＋貼付式浮文)1 ヶ。鉄製刀子１ヶ	名取・大場（1960）に副葬品の記載あり。土器は未確認
第二貝塚	昭和 23 年 17 号	鉄製刀子１ヶ。なお附近より第２類土器破片(文様・刻文)２ヶと第３類土器破片１ヶが出土	名取・大場（1961）に副葬品の記載あり。現物は未確認
第二貝塚	昭和 23 年 18 号？	鉄製刀子１ヶ。なお附近より第２類土器破片(文様・刻文)２ヶと第３類土器破片１ヶが出土	名取・大場（1961）に副葬品の記載あり。現物は未確認
第二貝塚	昭和 23 年 19 号	第２類土器（文様・刻文）１ヶ、鉄製刀子１ヶ	名取・大場（1961）に副葬品の記載あり。現物は未確認
第二貝塚	昭和 23 年 20 号	第２類土器（文様・刻文＋貼付式浮文）１ヶ、骨篦１ヶ、鉄製刀子１ヶ、骨製髪容具？２ヶ、骨製円盤垂飾１ヶ	
第二貝塚	昭和 23 年 21 号	第２類土器破片（文様・無文）１ヶ	名取・大場（1961）に副葬品の記載あり。現物は未確認
第二貝塚	昭和 23 年 22 号	副葬品らしいものは貝殻のみである	名取・大場 (1962) の「貝殻」は未確認
第二貝塚	昭和 23 年 23 号	記載なし	
第二貝塚	昭和 23 年 24 号	第２類土器破片１ヶ、骨銛１ヶ、骨鏃 10 ヶ	名取・大場（1960）に副葬品の記載あり。土器は未確認
第二貝塚	昭和 23 年 25 号	第２類土器（文様・刻文）１ヶ、石鏃１ヶ、鉄製刀子１ヶ	名取・大場（1960）に副葬品の記載あり。土器は未確認
第二貝塚	昭和 23 年 26 号	第２類土器（文様・刻文＋隆起式浮文）１ヶ	名取・大場（1961）に副葬品の記載あり。現物は未確認
第二貝塚	昭和 23 年 27 号	軟玉製耳環１ヶ	名取・大場（1961）に副葬品の記載あり。現物は未確認
10 号竪穴西貝塚	昭和 23 年 28 号	記載なし	10 号竪穴西貝塚より出土
10 号竪穴西貝塚	昭和 23 年 29 号	名取・大場（1962）には記載なし。伊藤（1962:第１表）には刀子の記載あり	10 号竪穴西貝塚より出土
第二貝塚	昭和 23 年 30 号	記載なし	

第２章　遺物

第１節　本書に掲載したモヨロ貝塚出土遺物の概要

モヨロ貝塚から出土した文化遺物は土器、石器、骨角器、鉄製品、礫など多種類の遺物から成る。とくに主体となるオホーツク文化期は、鉄や青銅の金属器をもちながらも石器を用いた金石併用時代の特徴を有しており（菊池 1987、名取 1948）、石器、土器、金属器が豊富である。加えて、獣骨、角、牙を素材する多様な骨角器がある。一方の自然遺物は、動物遺存体から成る。これらは、海獣と陸獣、魚介類（魚骨、貝殻）である。

戦中（1941・1942 年）の調査によって出土した文化遺物については、北海道大学医学部解剖学教室の調査者の一人でもあった大場利夫が、1950 年から 1962 年にかけて、遺物種別ごとに『北方文化研究報告』などの雑誌へ論文を発表した。発表年代順にみると、骨角器（大場 1950、1955）、土器（大場 1956、1961）、石器（大場 1957）、金属器（大場 1962）の報告である。これらの文献中ですでに詳細な記載がなされた遺物も多い。本書では、上記の報文ですでに実測図が掲載されている遺物のうち、第一に、資料体の中にその実物が確認できたものを、『北方文化研究』の実測図と対比するかたちで写真図版に掲載した。報文に図はないが、表や文中に記載があるものについては、一部のみを掲載した。その他、報文には言及されていない未報告資料も少なくない。特に重要と考えられる資料については、写真を掲載した。

戦後（1947・1948 年）の調査で得られた文化遺物は、『オホーツク海沿岸・知床半島の遺跡下巻　常呂・宇登呂・羅臼の遺跡』の別篇の「網走モヨロ貝塚」に所収された、名取武光と大場利夫の共著である「モヨロ貝塚出土の文化遺物」（名取・大場 1964）で報告されている。戦中の文化遺物と同様、本書ではこの名取・大場（1964）で報告された遺物のうち、実物を確認できた資料を図版に提示している。なお、既出論文中の実測図の配置は発表当時の方式に準じたが、磨製石斧など一部については今日の実測図の展開法にならい、天地を入れ換えた図もある。

第２節　遺物 ID について

先行して報告された図の有無に関わらず、全ての遺物に固有の ID を与えた。遺物のＩＤとは、その遺物を示す固有の番号である。６種類の記号と数値の連番からなる。配置順に、①調査時期、②地区地点、③コンテクスト、④古人骨の共伴、⑤通し箱番号、⑥遺物番号である。以下、それぞれの内容を説明する。

①　調査時期

戦中と戦後の２時期である。戦中は 1941 年（昭和 16 年）・1942 年（昭和 17 年）の調査であり、戦後は 1947 年（昭和 22 年）・1948 年（昭和 23 年）の調査を示す。戦中の調査時に回収された遺物には M1、戦後の調査時に回収された遺物には M2 を付している。

②　地区地点

戦中の調査は大きな区画を一括しており、地区や地点についての区分はない。そのため、戦中に回収された遺物の由来（貝塚や墓などの遺構との関連）は不明である。一方、戦後の調査では調査区が複数あることから、区別した。戦後は、10 号竪穴発掘区西貝塚、第二貝塚（A・B・C 地区）が区別できる。また、「７号竪穴一号人骨」に伴うと考えられる遺物が少量ある。10 号竪穴から出土した遺物は残されていない。数値の内訳は以下である。

1　第二貝塚 /A 地区
2　第二貝塚 /B 地区
3　第二貝塚 /C 地区
4　第二貝塚 /AB 地区
5　第二貝塚 / 地区不明
6　7 号竪穴
7　10 号竪穴西貝塚
8　住居附近貝塚
99　地区地点不明

「8：住居附近貝塚」は、前述したように、10 号竪穴西貝塚の可能性があるものの、何らかの意図で区別した可能性も否定できないため、そのままとした。「地区地点不明」（99）は、本整理作業では精査できていない。今後、例えば、荷札の記録を吟味することで地区地点が推測できる余地がある。

③　コンテクスト

その遺物がどのような調査によって収集されたかを示す。数値の内訳は以下である。

1　発掘
2　表面採集
3　寄贈
4　購入
99　不明

このうち、本資料体には 2（表面採集）に該当する遺物は存在しない。

④　古人骨の共伴

荷札などの記録類から特定のオホーツク人骨に伴う可能性がある遺物に対して、番号を付与した（付表 1）。例えば、第 20 号墓から出土した遺物へは “105” を付与している。ただし、戦中の資料は同じ箱に収納されていた古人骨との対応付けであり、発掘記録を根拠としてない。また、共伴関係の有無が明らかではない遺物（“999” を付与）が全体の約 7 割（3325 件）を占める。

⑤　通し箱番号

医学部解剖学教室が用いた遺物収納箱の単位である。箱には固有の記録（ラベル類）が付随することがあるため、箱の単位を維持する必要があると判断し、箱に対して通し番号を付与した。

⑥　遺物番号

個別の箱に複数の遺物が含まれることから、遺物番号は箱番号ごとに 1 番から始まる。

本整理作業を経て、ID を与えた遺物は 4840 点となる。内訳は、文化遺物が 3982 点、自然遺物（自然遺物）が 792 点、「その他」が 66 点である。表 4 に示すように、文化遺物の種別は、土器、石器、骨角器、金属器、礫である。「その他」には、木片、土壌サンプル、化石などを含む。遺物の分類項目、大きさ、観察所見などの詳細は、巻末に掲載した遺物の種別ごとの属性表を参照されたい。

表４　モヨロ貝塚出土遺物の種類

	遺物種別	点数
文化遺物	土器	1946
	石器	673
	骨角器	1074
	金属器	101
	礫	188
自然遺物	動物遺存体	792
	その他の文化遺物	66
合計		4840

第３節　土器

文化遺物の中でも主体となる遺物は土器である。中でも、戦中・戦後の調査を通じて、オホーツク土器が多量に出土している。オホーツク土器以外には、縄文土器、続縄文土器、擦文土器が少量確認されている。器形が判別できた場合は、文様の分類枠ごとに確認できた器形の数を示した（表５）。器体は、甕（甕形土器を含む）、壺（壺形土器を含む）、ミニチュア土器、深鉢（深鉢形土器を含む）、注口土器、高坏、坏である。

大多数が破片であり、遺物 ID は土器片ごとに付与している。接合した土器片は、接合関係にある複数破片について単一の ID を付与したものもある。中には大場（1956、1961）で図（拓本と断面）が報告された段階から、本整理作業において接合関係が確認されたことにより、大きくなった個体もある。こうした新規に接合した個体の写真上には、大場（前掲）で図化されている土器片の部分を▼で示した。反対に、拓本や実測図が示された個体の一部が確認できなかったケースもある（M1-99-1-999-42-2 など）。新たな実測図の作成は行わず、正面を基本とする写真を掲載した。

以下、時期別に概要を記載する。

（１）オホーツク土器

本資料体には、1634 点のオホーツク土器がある。本書の図録は、大場（1956）に報告され図版となっている土器を中心として掲載した。大多数が破片であり、完形土器はほとんどが小型の個体などに限られる。口縁部～頸部の破片が一定量出土している。口縁部肥厚帯が顕著な破片が少なくない。この点を考慮し、部位の確認、および文様や器面調整の種類などの観察と記載を行った。オホーツク土器の器形分類は、大場・大井（1976）によって甕形土器、壺形土器、深鉢形土器、ミニチュア土器などの区別がなされており、本書もそれにしたがう。ただし本資料体の大部分が破片であることから、器形の推定はごく一部の破片について記載した。文様要素の記載も行い、熊木（2018）のオホーツク土器の分類にしたがい、刻文系、貼細系、貼太系、沈線文系、無文に区分した（表５）。不明は器面が二次焼成によって剥落している資料などを含む。刻文系が 526 点（32％）、貼細系が 207 点（13％）、貼太系が 82 点（5％）、沈線文系が 54 点（3％）、無文が 739 点（45％）、不明が 26 点（2％）である。無文と不明を除くと刻文系が卓越する。

そのほか特筆すべきは、舟の線刻をもつ土器片（M2-3-1-999-28-1）である。本資料は、戦後の第二貝塚・C 地区の発掘調査によって回収された資料である。墓壙との対応は不明であることから、副葬品である証拠はない。本資料は近年催された特別展示の図録（北海道立北方民族博物館 2016、横浜ユーラシア文化館・東京大学大学院人文社会系研究科附属北海文化研究常呂実習施設 2021）に掲載され、着目されている（種石 2016、塚本 2021）。それらの記述内容との重複もあるが、改めて概要を記載する。

表５　モヨロ貝塚出土土器群の構成

	分類	文様要素・型式	点数	器形						
				甕	壷	ミニチュア	深鉢	注口	高坏	坏
1	オホーツク土器	刻文系	526	4	4	0	0	0	0	0
		貼細系	207	2	1	0	0	0	0	0
		貼太系	82	0	4	0	0	0	0	0
		沈線文系	54	0	2	0	0	0	0	0
		無文	739	0	1	2	0	0	0	0
		不明	26	0	0	0	0	0	0	0
		総数	1,634	6	12	2	0	0	0	0
2	縄文土器	縄文	7	0	0	0	0	0	0	0
		縄文・刺突文	1	0	0	0	1	0	0	0
		幣舞式	3	0	0	0	0	0	0	0
		総数	11	0	0	0	1	0	0	0
3	続縄文土器	元町２式	6	0	0	0	4	0	0	0
		宇津内Ⅱａ式または元町２式	3	0	0	0	3	0	0	0
		宇津内Ⅱｂ式	7	0	0	0	5	0	0	0
		後北C1	1	0	0	0	0	0	0	0
		後北C2.D	193	0	0	0	22	8	0	0
		北大Ⅱ式	3	0	0	0	0	0	0	0
		宇津内式または元町２式	10	0	0	0	0	0	0	0
		宇津内Ⅱａ式または元町２式	1	0	0	0	0	0	0	0
		不明	8	0	0	0	0	0	0	0
		総数	232	0	0	0	34	8	0	0
4	擦文土器	前期	2	2	0	0	0	0	0	0
		中期	8	8	0	0	0	0	0	0
		後期	20	11	0	0	0	0	9	0
		晩期	1	1	0	0	0	0	0	0
		前～中期	1	1	0	0	0	0	0	0
		後～晩期	2	2	0	0	0	0	0	0
		前期？	2	2	0	0	0	0	0	0
		前半期？	1	0	0	0	0	0	0	0
		晩期？	4	4	0	0	0	0	0	0
		無文	1	1	0	0	0	0	0	0
		不明	15	13	0	0	0	0	0	2
			57	45	0	0	0	0	9	2
5	不明	不明	12	0	0	0	0	0	0	0
			12	0	0	0	0	0	0	0
		総数	1,946							

器体中央には先が二股に分かれる縦線があり、その下部に横方向のやや下に膨らんだ線刻が２本あり、その上には細かな刻みが連続する。横方向の線刻の左下には斜め方向の２本の平行する線刻があり、土器の破損によって欠失する。オホーツク文化期の長管骨を素材とした針入れに描かれた舟の図像的研究（大井 1976、名取 1974）を参照すると、縦の線刻は舟の舳先、横の線刻は船体、刻みは舟に乗った漕ぎ手、斜め方向の線刻は櫓を表すとみられる。なお、刺突については船体と推測できる部分に沿って連続するだけではなく、器体右においてＳ字を寝かせたような線刻があり、その下に沿うように同様の刺突が連続する。これらの船体に連続する刺突が15点、

右方向のＳ字線刻と沿った刺突が６点である。刺突と線刻が１槽の舟を表しており、刺突の数が漕ぎ手を示す（名取前掲）と仮定するならば、15 ～ 21 名の漕ぎ手が乗った舟となる。加えて、本資料の器体左端欠損部に接して縦方向の線刻がみられる。線刻の描き方が似ることから舳先と解釈できる。器体が失われた左側には少なくともう１槽の舟が描かれていたことがうかがえる（種石前掲）。

モヨロ貝塚出土のオホーツク土器の全体像については、第４節（種石悠「オホーツク式土器とモヨロ貝塚」）を参照されたい。

（２）縄文土器・続縄文土器

本資料体には、11 点の縄文土器がある。大場（1961）は、「縄文式土器並びに同系統の土器（いわゆる前北式土器並びに後北式土器）」として区別し、このうち「前北式土器」（河野 1933）を縄文文化晩期に位置づけた経緯がある。前北式・後北式を設定した段階では、縄文時代後期以降の土器群を広く含んでいたが、その後の資料の増加と研究の進展に伴い、前北・後北式土器が示す範囲は縄文時代後・晩期を除いた続縄文文化期へと限定された（金盛 1982、藤本 1979）。そして、前北式の土器群は、宇津内式などの続縄文土器へと区分されることにより、前北式は土器型式名に用いられなくなった（金盛前掲、熊木 2018）。本資料体には、232 点の続縄文土器がある。宇津内 IIa 式や元町２式が含まれる。

（３）擦文土器

本資料体には、57 点の擦文土器がある。

戦中の調査に由来する擦文土器は、大場（1961）に土器部位、文様、胎土などの記載がある。いずれも破片である。36 点が確認され、内 26 点の拓本が提示されている。破片から推定される器形は、甕、高坏、坏がある。出土状況に関する記載はない。

戦後の調査によって出土した擦文土器は、佐藤（1964）に３点が提示されている。また、「多分新しい型式に属する擦文土器１片が，10 号住居址の床面下から見出され」（佐藤前掲：92）、戦後の調査において 10 号住居の床面下から出土したことが報告されている。「新しい型式」は「擦文土器第３」（駒井編 1964a）である。この「擦文土器１片」は「原資料が公表されていない」（大井 1970：35）ことから、図化されている擦文土器とは別と判断できる。本資料体においても、第 10 号住居出土の（オホーツク土器は、19 点確認しているが）擦文土器は確認できていない。なお、本土器とオホーツク土器の層序的関係は、「10 号竪穴で捉えられた２枚の床面の間，つまり上位の床面の下，下位の床面より上」（大井前掲：35）であることが、調査者である佐藤達夫の証言として記録されている。

第４節　オホーツク式土器とモヨロ貝塚（種石　悠）

オホーツク式土器は、鈴谷式土器（3・4 世紀代）、十和田式土器（5・6 世紀代）、刻文土器（7 世紀代）、沈線文土器・前期貼付文土器（8 世紀代前半）、後期貼付文土器（8 世紀代後半～ 9 世紀代）、元地式土器（8 世紀代後半～ 10 世紀代）、前期・後期トビニタイ式土器（10 ～ 13 世紀代）と変遷する（種石 2023）。

刻文土器以降のオホーツク式土器は、道北部と道東部で異なる地域色を帯びてゆき、道北部では沈線文土器が、道東部では貼付文土器が主体を占める。そしてオホーツク文化終末期になると、道北部と道東部を中心に、それぞれ元地式土器とトビニタイ式土器が分布し、そのはじまりとおわりに時期的なずれが生じる。

鈴谷式土器は、サハリン島南部の鈴谷貝塚出土土器を標式として、伊東信雄によって設定された。高さ 15 ～ 20cm ぐらいの平縁の深鉢がほとんどで、尖底・丸底が多いが平底もある。文様には「撚糸圧痕文」と「櫛目文」をもつものが共存する。口縁部の撚糸圧痕文の上に、突瘤文を施すものがあり、それらは外側から突いたものが多い。サハリン島中央部の例は櫛目文が多く、南部は撚糸圧痕文が多い。体部以下は無文である。一方、北海道域の例は、体部に「縄文」を施す例が多い。

このようにオホーツク文化初期の段階でサハリン島と北海道域で土器の施文と器形、つまり製作技術が異なっており、当初、鈴谷式とされた土器群には「サハリン型」と「北海道型」の２つの異なるタイプが含まれていたことがわかる。この宗谷海峡を境界とする型式差は、先行する続縄文土器の差異に由来し、オホーツク文化期を通じて継承される。

北海道型鈴谷式土器は、主に当該時期の集落遺跡が分布する利尻島・礼文島・北海道本島北端部から多く出土する。ただし、道東部の北見市常呂川河口遺跡・斜里町ピラガ丘遺跡・カモイベツ遺跡・ウトロ遺跡、日本海側の焼尻島焼尻３遺跡、余市町フゴッペ洞窟遺跡、そして、主要な鈴谷式期文化圏から遠く離れた道央部の江別市坊主山遺跡・札幌市Ｋ 135 遺跡・千歳市末広遺跡や道南部の奥尻島青苗砂丘遺跡など、上記以外の北海道域からも飛び地的に出土する。

モヨロ貝塚からは、いまのところ鈴谷式土器の出土は確認されていない。しかし、道東部オホーツク海沿岸の数箇所から出土が確認されていることから、当時、後北 C_2・D 式期続縄文文化が営まれていたモヨロ貝塚においても、鈴谷式期オホーツク文化人との交流はあった可能性が高い。この時点ではオホーツク文化が受容されることはなかったのだろう。

鈴谷式土器に後続するのは十和田式土器である。サハリン島の南端、ネベリスク地区にある旧樺太領時代に十和田遺跡で発見された土器を標式として、鈴谷式とともに伊東によって型式設定された。口縁部の直下に、径 3mm ぐらいの円孔の文様「円孔文」（円形刺突文）をめぐらせるのが特徴である。円孔には外側または内側から突いたものがあるが、外側から突いたものが多い。円孔の反対側は突瘤になることが多い。円孔文列の下は、斜めや山形の刻み目をもつ１・２本の隆線をめぐらしたもの、あるいはその部分に櫛目文をならべたもの、沈線文を３～５本横に引いたもの、斜格子文を施したものもある。器形は深鉢形が多く、平底または平底に近い丸底である。

十和田式期の集落遺跡は、利尻島、礼文島、そして北海道本島北端部を中心に分布する。利尻島の利尻富士町役場遺跡、礼文島の香深井 1 遺跡と香深井 5 遺跡、稚内市富磯貝塚・泊内遺跡・抜海岩陰遺跡、枝幸町ウバトマナイチャシ・川尻北チャシ、天塩町川口基線遺跡、そして奥尻島

の青苗砂丘遺跡から竪穴住居跡が発見されている。焼尻島焼尻１・２・３遺跡や天売島和浦地区、石狩市岡島洞窟遺跡、泊村堀株神社遺跡、余市町フゴッペ洞窟、松前町小島館浜、枝幸町音標ゴメ島遺跡、斜里町ウトロ遺跡・チャシコツ岬下Ａ遺跡、羅臼町船見町高台遺跡、標津町三本木遺跡、根室市弁天島西貝塚、択捉島などからも土器が少量発見されている。

モヨロ貝塚では、いまのところ十和田式土器の出土は知られていない。しかし上記の分布状況からみて、当時、北大Ⅰ・Ⅱ式期続縄文文化が営まれていたモヨロ貝塚において、十和田式期オホーツク文化人との交流があった可能性は高い。この段階でも、オホーツク文化が受容されることはなかった。

モヨロ貝塚ほか、利尻島の種屯内遺跡・利尻富士町役場遺跡、礼文島の香深井１・５・６遺跡、焼尻島の焼尻３遺跡、余市町フゴッペ洞窟遺跡、能取岬西岸遺跡、ウトロ遺跡、そして奥尻島青苗砂丘遺跡から出土した刻文土器のなかに、先行する十和田式土器がもつ円孔文列を残す例が発見されていることから、十和田式土器から刻文土器への移り変わりに断絶がなかったことがわかる。

刻文土器はその名の通り、指先や施文具で刻みを付けた文様「刻文」が主に施文された土器である。この刻文のほかに、指先で粘土をつまんでひねって付ける爪形文（指圧式浮文）や櫛目文、刺突文もみられる。捺型文（型押文）が施されることもある。これらの文様のなかには、十和田式土器から引き継がれたものもみられる。十和田式期の土器のセットで主体を占めていた深鉢形は、刻文土器の時期に口縁と体部の間にくびれが生じる甕形に姿を変え、ほかに壺形や鉢形、ミニチュアの土器もみられるようになる。

刻文土器の時期の代表的な集落遺跡として、モヨロ貝塚をはじめ、亦稚貝塚・香深井１遺跡・青苗砂丘遺跡・目梨泊遺跡・ホロベツ砂丘遺跡・斜里町カモイベツ遺跡・ウトロ遺跡・羅臼町相泊遺跡・船見町高台遺跡・根室市トーサムポロ遺跡などが知られる。北海道型鈴谷式・十和田式期の集落遺跡は、利尻島・礼文島、北海道本島北端部に限られていたが、刻文期の集落遺跡は、道南部の奥尻島から北海道本島オホーツク海沿岸、南千島、根室半島までの広い地域に拡大する。

道東部の斜里地域から大規模な刻文期の集落跡が発見されることも、重要な事実である。建て替えなどで重複する住居跡の軒数も含めると、カモイベツ遺跡で 16 軒、ウトロ遺跡で 12 軒が検出されている。そのほかの地域では、同じ道東部のモヨロ貝塚の７軒が目立つほかは、１・２軒の検出にとどまる。前段階の十和田式期における拠点集落の分布の中心は、道北部の利尻島・礼文島・北海道本島北端部にあったが、刻文期になるとそれが道東部の網走・斜里地域へ移ってゆく。

刻文期になると、道北部以外の地域でも以前より集落の痕跡が明瞭になり、定住性も増した。この時期に後続するのが沈線文期および貼付文期である。この時期になると定住性はさらに増したと推測され、道北部および日本海沿岸地域と、道東部および太平洋沿岸地域の土器文化に、２つの異なる地域色が現れるようになる。

道北部･日本海沿岸地域では､「沈線文」と呼ばれる､主に工具で器面に線を描いて付ける文様に、刺突や刻みなどが加わる土器がみられる。この土器の古い段階には刻文を残す例もみられ、刻文土器の伝統に連なることがわかる。ほかに、器面を部分的になでて帯状に浮き上がらせる「摩擦式浮文」をもつ土器や、文様のない「無文」土器もみられる。沈線文土器の器種は甕形が主体を占め、ほかに壺形・小型・ミニチュア土器がわずかに加わる。器種のセットをみると、壺形の割

合が大きく減少するなど、刻文期に比べて多様性が乏しくなる。

沈線文土器は、利尻島・礼文島・北海道本島北端部に主に分布し、礼文島の香深井 1・6 遺跡や浜中 2 遺跡などから良好な資料が出土している。日本海側では、焼尻島の焼尻 3 遺跡と天売島の天売 3 遺跡、また道南部奥尻島の青苗砂丘遺跡から出土している。

道東部において、モヨロ貝塚をはじめ、紋別市栄遺跡や斜里町オタモイ 1 遺跡・トーツル沼 1 遺跡・ウトロ遺跡から、主体となる前期貼付文土器（後述）に混じって、沈線文土器が少量出土している。これら道東部の遺跡にみられる沈線文土器の多くは、器形や胎土が在地の土器と異なっており、雄武町域以北の地域からの搬入品と考えられる。この時期に、道北部と道東部に土器文化の地域色が現れたとはいえ、両地域の集団間ではそれまでと同様の交流が続いていたことがわかる。

道東部の太平洋沿岸地域では、粘土紐や粘土瘤などを貼り付けて造形する文様をもつ、「貼付文」土器がみられるようになる。貼付文土器の古い段階のものは、「擬縄貼付文」と呼ばれる縄に擬したような刻みを付けた粘土紐をめぐらし、円形や楕円形などの突起が貼り付けられる。この突起に水鳥やカエルなどの動物意匠が表現されることもある。擬縄貼付文をもつ土器のうち、古い段階の土器に刻文を残す例があることから、沈線文土器と同じく、こちらも刻文土器の伝統に連なる土器であることがわかる。貼付文土器の新しい段階になると、素麺のように細い粘土紐を直線状と波状にして組み合わせるソーメン状の貼付文、学界で「ソーメン文」と呼ばれる文様をもつ土器に変化してゆく。さらに時期が下ると、モヨロ貝塚でもそのような土器の出土例が知られているが、このソーメン文が数段にわたって貼り付けられることもある。ここでは便宜的に、古い段階のものを「前期貼付文土器」、新しい段階のものを「後期貼付文土器」と呼ぶ。貼付文土器の器種のセットは、基本的に刻文土器のセットを継承する。ただし後期貼付文期になると、吊り耳や取っ手、注口が付いた独特の器種がセットのなかにわずかながら現れる。

前期貼付文土器は、モヨロ貝塚をはじめ、枝幸町目梨泊遺跡、紋別市栄遺跡・オムサロ台地竪穴群 C 遺跡、湧別町川西オホーツク遺跡、北見市栄浦第二遺跡、斜里町カモイベツ遺跡・ウトロ遺跡、羅臼町相泊遺跡、根室市オンネモト遺跡などから、良好な資料が出土している。

後期貼付文土器は、モヨロ貝塚をはじめ、枝幸町目梨泊遺跡、常呂川河口遺跡、トコロチャシ跡遺跡オホーツク地点、二ツ岩遺跡、チャシコツ岬上遺跡、羅臼町松法川北岸遺跡、根室市弁天島遺跡・トーサムポロ遺跡・オンネモト遺跡などから良好な資料が出土している。

沈線文期の道北部・日本海沿岸地域の遺跡から、道東部に分布の中心をもつ貼付文土器が少量出土している。礼文島元地遺跡魚骨層から前期貼付文土器が出土しており、器形や胎土からみて明らかに道東部で作られた土器とわかる。また利尻島沼浦海水浴場遺跡から前期および後期貼付文土器が出土しているほか、亦稚貝塚の儀礼跡からクジラ類とアシカ科海獣合計 10 頭が沈線によって描かれた小型の「海獣文土器」と並んで、「ソーメン文」によって重厚に装飾された小型の後期貼付文土器が出土している。稚内市声問貝塚でも、前期・後期貼付文土器が採集されている。道南部奥尻島でも、青苗砂丘遺跡の刻文期とされる竪穴住居跡から、擬縄貼付文や波状貼付文に似た貼付文をもつ奥尻島特有の前期貼付文土器が出土している。

先に、道東部において道北部に分布の中心をもつ沈線文土器が出土する事例をみてきたが、道北部や道南部日本海側においてもモヨロ貝塚をはじめとする道東部の貼付文土器が出土するのである。当該時期における、道東部、道北部、そして道南部日本海側のオホーツク文化人たちの交

流を物語っている。

オホーツク文化終末期の土器である元地式土器とトビニタイ式土器は発見当初、「接触様式」や「融合型式」と呼ばれた。胴の長い器形に変化した点に、擦文土器製作技術からの影響を読み取り、オホーツク式土器が擦文土器と接触し、融合してできた土器様式（型式）と考えられた。

元地式土器は、1949・1950 年の礼文島上泊遺跡発掘調査で存在が明らかとなった。少量の擦文土器を伴っており、元地式土器が全体のおよそ 9 割を占めていた。同時期に併行して存在した擦文土器の成形・施文技術に似ていることから、擦文土器と関連をもつ土器と考えられた。1970 年に同島西海岸の元地遺跡の発掘調査で擦文土器とともに出土した土器群の内容が元地式土器の特徴を示すよい基準となっている。ただし、元地遺跡の発掘調査報告書は未刊であり、元地式の型式設定は正式にはなされていない。

ここで便宜的に元地式とする土器群は、古い段階の擦文土器に器形が似る。また、胎土に砂粒が混じって粗く、器壁が厚手である。焼成も良くない。前段階の沈線文土器にみられる沈線文はほとんどないが、摩擦式浮文はみられる。型押文（捺型文）が施されることもある。礼文島の浜中 2 遺跡・香深井 5 遺跡・上泊遺跡、そして浜頓別町豊牛遺跡から元地式土器が出土している。利尻島・礼文島・北海道本島北端に主な分布がみられる。土器の器種内容は、沈線文土器の傾向を引き継いでいるためか、多様性に乏しい。甕形土器を主体とし、ほかに浅鉢形の小型土器やミニチュア土器がわずかにみられる。

道東部の斜里町ポンシュマトカリペツ 1 遺跡から、無文で粗く調整された厚い器壁をもつ、元地式土器の製作技術の影響を受けた可能性が高い土器が出土している。土器は焼土遺構から台石を伴って出土し、そのなかに紀元後 1000 年前後に降下した摩周 b5 軽石が堆積していた。この軽石直下の出土であることから、元地式土器と併行する年代であることがわかる。この土器は元地式土器そのものではないが、この時期に道北部と道東部のオホーツク文化集団の交流が完全に途絶えてはいなかったことを示す重要な資料である。モヨロ貝塚では元地式土器の出土はないが、このような交流が当時あったことを念頭に置く必要がある。

トビニタイ式土器は、後期貼付文土器の終わり頃から擦文土器の終わり頃まで、つまり 9 世紀代終わり頃から 13 世紀代初め頃まで、およそ 300 年余りの年代幅がある。そのため、古い段階の前期トビニタイ式土器と新しい段階の後期トビニタイ式土器とに大きく分けて説明する。標津川河口部を中心に、後期貼付文土器に後続し、前期トビニタイ式土器に一部併行するとされる、両者の中間的な「カリカリウス遺跡出土土器群」もみられるが、ここでは説明を省略する。

前期トビニタイ式土器は口縁部が厚く、胴部上半が直線的に立ち上がる器形をもつ。口縁部・胴部に、後期貼付文土器のソーメン文から継承した直線と波線を組み合わせた紐状貼付文を施す。擬縄貼付文をめぐらすこともある。紐状貼付文の断面形は、円形であったソーメン文と異なり方形となる。胴部にはこれが複段にわたって施されることがあり、瘤状貼付文が付けられることもある。後期トビニタイ式土器は、口縁部が厚くならずに外反しながら開く。口縁部に 2・3 条の擬縄貼付文や小波線状貼付文をめぐらせ、その間に線で幾何学的な文様を描くこともある。胴部には数条の平行する線でジグザグ文や斜めの格子文を描く。これに擬縄貼付文が組み合うこともある。

このように、後期貼付文土器から継承した、細い粘土紐の貼付文（ソーメン文）が変容した文様を付ける段階から、擦文土器にみられる線を描く文様を取り入れる段階へと移り変わってゆく。

器形は、擦文土器のように胴の長い例もみられるが、従来言われてきたように、擦文土器の形状を忠実に模倣しているようにはみえない。この問題については拙著（種石 2023）での議論を参照願いたい。トビニタイ式土器の器種構成は、基本的に甕形のみである。

トビニタイ式土器を出土する主な遺跡として、オホーツク海側では、北見市常呂川河口遺跡、斜里町須藤遺跡・ピラガ丘遺跡、チャシコツ岬上・岬下 B 遺跡、羅臼町トビニタイ遺跡・オタフク岩遺跡、標津町伊茶仁カリカリウス遺跡・古道 6 遺跡、根室市温根沼 2 遺跡が挙げられる。内陸の弟子屈町鐺別遺跡や津別町双葉 2 遺跡、また太平洋側の釧路市幣舞遺跡からも土器が出土している。

このほか、オホーツク海側の北限となる湧別町川西地区・シブノツナイ竪穴住居跡（林勇介氏教示）や、日本海側の留萌市高台市街地と蘭越町尻別川口右岸砂丘でもトビニタイ式土器片が 1 点ずつ採集されている。太平洋側では上記幣舞遺跡のほか、釧路・十勝地方の厚岸町・釧路市域の遺跡群・白糠町和天別川河口竪穴住居址群（和天別河口）遺跡・坂ノ岡（坂の丘 1）遺跡・浦幌町十勝太若月遺跡・十勝太古川遺跡・大樹町晩成遺跡などで採集例がある。太平洋側の南限を豊頃町長節遺跡とする意見もある。道央部の恵庭市柏木川 4 遺跡や国後島・択捉島・色丹島からも出土している。

モヨロ貝塚において、トビニタイ式土器の出土はいまのところ知られていないが、遺跡はトビニタイ式土器分布圏内に所在している。オホーツク文化終末期は擦文文化の受容期に相当するため、当時の文化・社会は混乱状態にあったと推測される（種石 2023）。そのなかで、モヨロ貝塚におけるオホーツク式土器製作は終焉を迎えることになる。

第５節　石器

本資料体における石器の総数は、673 点である。戦中（1941・1942 年）の調査によって出土した石器は大場（1957）に、戦後（1947・1948 年）によって得られた石器は名取・大場（1964）に掲載されている。ただし、いずれの調査でも、図が掲載されているのは一部の代表的な定型石器であり、石槍やスクレイパーなどについても未掲載遺物を確認している。また、これまで報告されていないが、剥片及び石核も多数出土している（属性表を参照）。一方で、大場（前掲）に図が掲載されている戦中の調査で出土した石器のうち現物が確認できたものは、磨製石斧や石錘に偏り、大部分の剥片石器は確認できなかった。

本書の分類は、モヨロ貝塚出土の石器について体系的な分類・記載を行った大場（1957）に概ね対応する。表６に本書の分類と大場（前掲）の分類の対応を示す。「利器」、「利器以外の石器」、「装身具及び装飾品」の３種類の枠を設定した。利器には、刺突器類（石槍、槍鏃、石鏃、石錐など）、斬截器類（石匙を含む石小刀類、包丁形石器、石刃形石器など）、打割器類（石斧、石鑿、石刃など）、打砕器類（石棒など）がある。「利器以外の石器」とは「利器とは異なった種類の加工具と生業具を一括」（大場前掲：203）したものであり、石皿、敲石（石槌）、砥石などが「加工具」、石錘が「生産具」とされた。大場（前掲）で提示した資料は本書の戦前の資料体である。戦後の資料体については、一部が名取・大場（1964）に掲載されており、大場（1964）では用いられなかった分類名があるため、表６で対応付けている。

本書で用いる石槍と石鏃の定義は大場（前掲）に準ずる。石槍は、先鋭な先端部、肥厚する器体中央、薄い基部をもつ両面加工の石器である。石鏃は、石槍と同様に両面調整によって整形された先端の先鋭な石器であるが、石槍よりも小さい。本資料体は 109 点確認され、最も多い器種である。オホーツク文化期の石鏃の形態的多様性（村本 2018）に相応するような細分の余地がある。石槍の長さが 7 ー 14cm であるのに対し、石鏃の長さが約 1.5 ー 6cm となる。大場（前掲：171）では石槍と石鏃の中間に相当する長さ 3.5 ー 7cm の「槍鏃」を設定している。本書では、この「槍鏃」に相当する石器は石槍へ統合した。先端が錐のように加工されて尖る石器である「石錐」（大場前掲：179）は２点が認定されているが、本資料体には確認できていない。

大場（前掲）で石小刀（石匙）類と分類された石器は、石匙へ一括した。「包丁形石器」（大場前掲：187）は、周縁が加工された半月形もしくは矩形の薄手の石器である。本資料体では確認できていない。「石刃形石器」は「いわゆる石刃といわれるものと同様」（大場前掲：188）とされるように、石刃とみなすこともできる。本資料体では２点を確認している。

石斧は石鏃に次いで多い。大場（前掲）では、磨製石斧を加工状態と刃部や全体形状から細分しているが、本書では一部の分類枠を踏襲しつつ、磨製石斧として一括している。その中に、刃部だけ入念に研磨して整形した「局部磨製」（大場前掲：189）や、扁平な礫の一端を剥離して刃部を作出した「局部打製」（大場前掲：188）といった特徴的な刃部をもつ磨製石斧を認めることができる。両者は、加工部位と加工法の関係から対極の関係にある。「箆具」（大場前掲：189）という機能が推定された薄手の資料 (M1-99-1-999-434-3) もある。刃の作り方から片刃（19 点）と両刃（54 点）があり、両刃の方が多い。正面から見ると片側縁へ刃部が偏る「偏刃」（佐原 1994：117）と呼ばれる特徴をもつ石斧もある。大場（前掲：187、201）にある「石鑿」は細身の磨製石斧であるが、本資料体には確認できない。

「石刀（刀形打砕器）」（大場前掲：202）は、自然面を残す長大な円礫の一端に研磨面をもち、

表６　モヨロ貝塚出土の石器分類

本書の分類	大場 (1957) の分類		大場 (1957) の細分	名取・大場（1964）の分類
石槍	利器	石槍・槍鏃	Ⅰ 無柄	
			Ⅱ 柳葉形	
			Ⅲ 有柄（石槍）	
			Ⅲ 将棋駒形（槍鏃）	
			Ⅳ 有柄（槍鏃）	
石鏃		石鏃	Ⅰ 無柄	石鏃、石銛先、石篦
			Ⅱ 柳葉形	石鏃
			Ⅲ 有柄	石鏃
			Ⅳ 特殊形（1: 将棋駒形、2: 鋸歯邊式、3: 類アメリカ型、4: 有角）	
両面調整石器		＜未認定＞	-	
＜遺物未確認＞		石錐	-	
石匙		石小刀（石匙）類	Ⅰ 小刀形（1: 縦形、2: 槍・小刀移行形）	
			Ⅱ 木芽形	
			Ⅲ 匙形（1: 普遍形、2: 類匙形、3: 鎌形）	
			Ⅳ 篦形（1: 普遍形、2: 類匙形、3: 円形）	
		＜未認定＞	-	ノッチ
スクレイパー（削器・掻器）		＜未認定＞	-	縦型削器、円形削器、端削器
＜遺物未確認＞		庖丁形石器	-	
楔形石器		＜未認定＞	-	
磨製石斧		石斧	Ⅰ 局部打製	
			Ⅱ 局部磨製	
			Ⅲ 半打・半磨製	
			Ⅳ -1 磨製（一類・両刃）	
			Ⅳ -1 磨製（一類・片刃）	
			Ⅳ -2 磨製（二類・両刃）	
			Ⅳ -2 磨製（二類・片刃）	
			Ⅳ -3 磨製（擦切式）	
			Ⅳ -4 磨製（三類・普遍形）	
			Ⅳ -4 磨製（三類・抉入）	
			Ⅳ -4 磨製（三類・有角）	
			Ⅳ -5 磨製（不明）	
			Ⅴ 磨製石斧未成品	
			Ⅵ 石斧原材・素材	
		敲石（石槌）	斧形、乳棒形、楕円形・円形、角棒形、刀形	
＜遺物未確認＞		石鑿	-	

表6（続き）

本書の分類	大場 (1957) の分類		大場 (1957) の細分	名取・大場（1964）の分類
二次加工剥片	-	＜未認定＞	＊二次加工剥片 / 石核含む	
石核		-	-	
剥片		石刃形石器	-	
		剥片	-	
砕片（堆積物より回収）		＜未認定＞	-	
被熱（発泡）した黒曜石		＜未認定＞	-	
＜遺物未確認＞	利器以外の石器	石皿	-	
敲石		敲石（石槌）	斧形、乳棒形、楕円形・円形、角棒形、刀形	
円石		円石	-	
砥石		砥石	-	
石錘		石錘	Ⅰ 穿孔を有するもの	
			Ⅱ 抉溝を有するもの	
			Ⅲ 未成品	
擦痕のある礫		＜未認定＞	-	
軽石製品		＜未認定＞	-	
装身具・装飾品	装身具・装飾品	垂飾	円形垂飾（円盤形、円形）、錘形垂飾、短冊形垂飾、角棒形垂飾	

全面に擦痕を残す石器である。本資料体に含まれる。「石棒」は前面を研磨によって整形した円柱状の遺物である。一端に両面より研磨した両刃があることから、鑿的な機能を想定している（大場前掲：203）。本資料体には確認できない。

「利器以外の石器」に分類された器種のうち、「石皿」は本資料体に確認できていない。敲石（石槌）は、全体の形状から「斧形」（精製品と自然石を含む）、「乳棒形」、「楕円形・円形」、「角棒形」、「刀形」に分類された（大場前掲：203-205）。本資料体で確認できた敲石のうち斧形は記載も一致する（大場前掲：204）。「円石」は、自然石に研磨を加え球状とした直径 3-4cm の遺物であり、大場（前掲）は敲打もしくは投弾としての用途を想定している。本資料体に含まれるが、研磨などの加工痕跡はみられない。加工されたかどうかについては更なる検討の余地があるものの、大きさに斉一性がある。「砥石」は平坦な研磨面を残す礫であり、砂岩が多く用いられている。「石錘」は、３つの形態に分類され、「穿孔を有するもの」、「抉溝を有するもの」、「小型のもの」となる。「小型のもの」以外は本資料体に認められる。

本書では、大場（前掲）や名取・大場（前掲）には記載されていないものの、その特徴から新たな分類枠を示すのが適切な分類単位を認定している。これらは両面調整石器、二次加工剥片、砕片、被熱（発泡）した黒曜石、擦痕のある礫、軽石製品である。また、石核と剥片（「石刃形石器」以外）は一定量あることから、収集時から判明していたのは明らかだが、大場（前掲）や名取・大場（前掲）にはとくに記載がない。

両面調整石器は剥離が両面に及ぶが石鏃や石槍のように一端が尖らないか、端部が欠損する資料である。一部は、石鏃や石槍への加工途次で欠損し放棄された未成品とみられる。二次加工剥

片は、剥片の端部や縁辺に、深さ 1 ～ 3mm 程の微細な剥離痕を残す特徴をもつ。剥離形状が鋸歯縁状となる剥片を含む。石核は、寸詰まりの剥片を剥離した剥片石核が一定量ある。黒曜石の円礫・転礫を分割して剥片を製作している例が多い。剥片は、打面や背面に円磨された礫面を残す資料が多い。形状は一定せず、多くは横長・寸詰まりである。完形品は少なく、剥離の際のアクシデントによって剥離軸に平行するように割れた縦割れの剥片などの欠損品が多い。砕片は剥片のように剥離方向や打面が明瞭ではない長さ 1cm 未満の破片を一括した。被熱（発泡）した黒曜石は、白色部や容積増大などの通常の黒曜石には見られない特徴をもつ資料であり、発泡もしくはその直前の状態にある被熱によって変質した剥片である。被熱前の形状を留めていないため、器種や素材の認定が困難であるため剥片としている。擦痕のある礫 (M1-99-1-999-433-44) は、短軸方向に平行する細かな擦痕のある円礫である。軽石製品 (M2-99-99-999-242-18) は、表裏両面と側面の 4 面に平坦な研磨面をもつ軽石である。本資料体には、装身具・装飾品として垂飾 (M9-99-3-999-429-1) が 1 点認められている。全体が研磨され、中央に穿孔がなされている。

石材名称は肉眼観察に基づき記載した。磨製石斧など遺物によっては、調査当時のラベルに石材名が記載されている。これらの石材名は岩石学的な名称であることから、調査者らが石器石材の鑑定を岩石学に精通した人物へ依頼したことがうかがえる。実際、大場（前掲：219）には、「石器の石質については理学部地質学教室原田教授並びに藤原理学士をはじめ教室院の方々の御鑑定を仰いだ」とされるように、鑑定者の存在が明らかである。ラベルに記載された石材名は、肉眼観察と齟齬のない範囲で利用し、属性表にも転記した。

第６節　骨角器（高橋　健）

モヨロ貝塚から出土する骨角器の多様性は戦中の調査時より注目されていた（大場 1950）。この時の出土遺物については『北方文化研究報告』に大場利夫による一連の報告が掲載されるが、1955 年にまず骨角器が報告されたことも、骨角器に対する関心の高さを示している。この大場による 1955 年の報告では（大場 1955）、骨角器を骨銛や骨製釣鈎といった器種に分類した上で、一方では漁・狩猟具、日常具、作業具、装身具及び装飾品といったグループにまとめ、他方では A 型・B 型のように細分していた。1964 年に刊行された名取武光・大場利夫による戦後の発掘調査の報告（名取・大場 1964）では、基本的な分類は 1955 年のものを踏襲していたが、一部名称が変更されていた（以下、本節ではそれぞれ大場 1955 年報告、名取・大場 1964 年報告とする）。本報告では基本的な分類項目・基準についてはより網羅的な大場 1955 年報告に従ったが、名称や個々の資料の分類は適宜変更した。

今回報告する資料は 1074 点である（接合が判明した場合も、別の ID を与えられた資料はそのままカウントしている）。このうち戦中の緊急調査（昭和 16・17 年）で出土したものが 531 点、戦後のモヨロ貝塚調査団による発掘調査（昭和 22・23・26 年）で出土したものが 543 点であった。戦中の出土資料のうち K で始まる旧資料番号を確認できたものは 419 点と 8 割近くに達するが、戦後の出土資料のうち K 番号を確認できたものは 111 点と 2 割程度に留まっている。ただし、ラベルの逸失などによって確認できなかった可能性もある。戦後の三回にわたる調査のうち昭和 26 年の第三次調査ではオホーツク文化の竪穴住居や貝塚を掘っていないため、ほとんどの資料は昭和 22 年・23 年のいずれかの年に出土したものと思われる。

（１）狩猟漁労具

狩猟漁労具（漁・狩猟具）としては、銛頭、骨鏃、釣針軸、釣針先など 305 点がある。大場 1955 年報告にある骨槍は確認できなかった。このうち戦後の調査で出土したものが 4 分の 3 近くを占め、戦中の出土品は 4 分の 1 弱である。ただしこれも器種によって大きな違いがある。銛頭と釣針先は戦中の出土資料は全くなく、骨鏃も 1.4% に過ぎないのに対して、釣針軸は 8 割近くが戦中の出土品であった。

a 銛頭

銛頭は 51 点ある（接合例 1 組を含む）。K 番号をもつものが 14 点あるが、全て戦後の発掘調査で出土したものである。このうち名取・大場 1964 年報告に掲載された貝層出土資料が 12 点ある。大場 1955 年報告では銛頭を「逆鈎式」と「廻転式」に分類し、さらに後者を A 型～ D 型に分類していた。この分類はおおむね妥当であるが、ここでは回転式の字を採用し、細分については現在一般的な前田（1974）による A 群～ F 群の分類に従って記述する（前田は 2002 年に新 F 群を設定したが、ここでは旧分類に従う）。銛頭の部分名称などの用語は高橋（2008）に従った。

逆鈎式は器体の両側に設けた逆鈎で獲物を引っかける銛頭で、ソケットを持たない雄形である。回転式は、器体の中央付近に銛縄を繋ぎ留めるための索溝ないし索孔を有し、獲物の体内で器体全体が方向を変えて引っかかる。柄の先端部を差し込むソケットをもつ雌形銛頭である。A 群は、大場 C 型とされたもので、開窩兼用式である。B 群は器体が柳葉状の開窩分離式である。モヨロ貝塚昭和 23 年調査の 10 号竪穴表層から出土したが（高橋 2003）、戦中の調査では出土せず、

今回報告する資料の中にも含まれていない。C 群は大場 A 型、D 群は大場 B 型とされたタイプで、いずれも横方向（回転面に直交）の索孔をもつ閉窩式である。C 群は単尾で幅が狭く、D 群は双尾で幅が広い。E 群は大場 A 型 B 型の中間形態とされたもので、縦方向（回転面と平行）に 2 つの索孔をもつ閉窩式である。F 群は大場 D 型とされたもので、双尾の開窩分離式である。

逆鈎式銛頭は 7 点ある（PLATE102・107）。いずれも扁平で華奢な作りであり、しばしば装飾を施している。左右に 1 ～ 3 段の逆鈎をもち、頭部には刃溝を設ける。索孔は縦長の楕円形もしくはスリット状に細い例が多い。M2-99-1-441-1 は 1 点だけ索孔が横方向に設けられている。基部はやや幅広になるが、明瞭に肩が張りだす例もある。

回転式銛頭は 44 点ある。このうち A 群銛頭は 31 点を占め、大場が「普遍型」としたように最も多い。先端は、単純に尖るものが 20 点、刃溝をもつものが 2 点、逆鈎をもつものが 1 点、刃溝と逆鈎をもつものが 2 点ある。先端が単純に尖るものは細身で尾部も分岐しないのに対し、刃溝や逆鈎をもつものは幅広で尾部も分岐することが多い。刃溝は幅が広く石鏃を嵌めたと考えられるが、M2-4-1-999-377-12 は破損しているが目釘孔をもち、金製の鏃を装着したと思われる（PLATE102）。M2-4-1-999-361-21 は器体中央と尾部寄りに 2 本の索溝をもち、M2-4-1-999-372-13 は頭部を折り取った痕跡がある（PLATE102）。これらはいずれも再加工の結果だと考えられる。

第二貝塚 C 地区から出土した M2-3-1-999-394-1（PLATE98）は、尾部を欠損する尖頭の A 群銛頭で、索溝の部分に幅 0.2cm、厚さ 0.1mm 程度の薄い帯状の材が巻き付けられた状態で出土した。おそらく植物質と思われ、少なくとも 3 重に巻かれていることを確認できる。この材が巻き付けられていた索溝は銛縄（柄の結縛縄を兼ねる）が結び付けられると想定されてきた部分であるが、この材の薄さからは、海獣狩猟用の銛縄として十分な強度があったのかは疑わしい。ただし、オホーツク文化の A 群銛頭の索溝は浅いものが多く、その点では巻くのにふさわしい素材だともいえる。また、この資料の頭部側には斜めに平行する赤色の変色帯が残っている。幅 0.4cm、間隔 0.3cm で、背面側で 9 列、腹面側で 8 列を確認でき、8 回以上巻き付けられていたようである。尾部は欠損しているが、残存部分にはこの痕跡は確認できない。刺突に関わる先端近くまで何かを巻き付けていた理由は不明である。索溝部の帯状材、頭部の巻付痕ともに、A 群銛頭の用法に関わる重要な問題を提起する資料である。

C 群銛頭は 3 点ある。器体の幅が狭く、背腹方向に長い形状である。完成品 2 点は刃溝を持つ。M2-99-1-420-68（PLATE107）は、長さ 10.7cm と比較的大型で線刻による装飾をもつ。

D 群銛頭は M2-99-1-999-441-11（PLATE107）の 1 点のみである。器体の幅が広く、左右方向に広い形状である。やはり頭部には幅の広い刃溝をもつ。長さ 6.1cm と道北部の同タイプの資料と比べてやや小型である。背面に刻線・浮線による装飾をもつ。

E 群銛頭は 3 点ある。一般的に E 群は大型で双尾になる例が多いが、長さ 5cm 程度と小型の海獣肋骨製で単尾である点が特徴である。頭部には幅の広い刃溝をもつ。ほぼ完形の M 2-99-1-999-441-4（PLATE107）は、戦後の調査で出土した銛頭の中で唯一大場 1955 年報告に図示されていた資料である（K1527）。このタイプの出土が珍しかったためだろう。また、M 2-99-1-999-430-76 は索孔が未作出の未成品である。

F 群銛頭は 6 点（接合例含む）ある。先端は尖るものが 3 点、鉄鏃用の刃溝をもつもの（M2-4-1-999-361-22、PLATE102）が 1 点である。2 つの索孔の位置関係は縦位から斜位、横位まで様々

である。ソケットの側壁は内傾するものが多く、柄結縛用の溝や段を持つ例もある。大場はこのタイプを「オホーツク文化の終末期」のものだと考えていたが、現在ではアイヌ文化期に位置づけられている。おおむね 17 ～ 18 世紀頃のものだろう。

貝塚からの出土資料については、層位が明らかなものがある。逆鉤式は上層（黒土層）と中層（貝層）から 1 点ずつ、A 群は上層から 2 点、中層から 3 点、下層（砂層）から 1 点、F 群は上層から 2 点、中層から 1 点出土した。大半が出土層位不明ということもあり、何らかの傾向を読み取ることは難しい。中層（貝層）出土の F 群は、おそらく混入であろう。また、24 号墓から出土した M2-3-1-253-415-1（PLATE98）は A 群銛頭の未成品だと考えた。海獣肋骨製で素材を半截せずに柄溝を作りかけている段階である。

一般にオホーツク文化では銛頭の副葬例はそれほど多くない。特に回転式銛頭については、斜里町ウトロ遺跡神社山地点 7 号墓（成人女性）で小型の前田 C 群銛頭の副葬例があるが（石田他 1994）、多数の墓が調査され回転式銛頭も多数出土したモヨロ貝塚では、上記の 24 号墓からの A 群未成品の出土例を除き、ほとんど確認されていない。一方、逆鉤式銛頭については、米村喜男衛が発見した 4 例はいずれも副葬品だったという（米村 1969）。このような副葬の有無をめぐる回転式と逆鉤式の取り扱いの違いは、両者の用途や性格の違いを反映していた可能性もある。

大場 1955 年報告では「魚骨製の銛」としてエイの尾棘製のヤスが 14 点出土したとされていたが、今回報告した資料中には確認できなかった。また、回転式に伴う銛柄が 16 点出土したとされているが、これも確認できなかった。

b 骨鏃

先端が尖り、何らかの着柄用の加工をもつものを骨鏃とした。138 点を骨鏃として分類したが、特に先端部の破片の場合、骨製刺器や骨錐との区別が難しい場合もある。大場 1955 年報告では骨鏃を A 型～ E 型の五型に分類していた。基本的にはこの分類に従ったが、中間的な資料の扱いなど一部変更している。器種名称は「骨鏃」としたが、金属製品や木製品との区別を意識したもので、骨・角・牙の区別はしていない（以下同様）。

A 型は、先端の断面が円形に尖るもので、8 点ある。基部に斜めの接合面を持つ例が多いが、柄に対して斜めに装着されたとすれば、骨鏃ではなかった可能性もある。B 型は、先端が扁平に作られ、断面がひし形やアーモンド形、弓形になるもののうち、明瞭な頭部や茎部を作り出さないものである。24 点ある。全体が柳葉形を呈するものや、基部がクサビ状に薄くなるものがある。C 型は、やはり先端が扁平に作られるもののうち、頭部と体部が区別されるもの、あるいは一段細く茎部を作り出すものである。17 点ある。D 型は、鳥類の管状骨の一端を斜め、もう一端をまっすぐ切断したものである。33 点あり、副葬品を除くと最も多い。尾部に小突起をもつものが 1 点のみある（M2-99-1-999-420-102）。この D 型については、単独の鏃ではなく石鏃の中柄として用いられた可能性も指摘されているが（大塚 1998）、一括して骨鏃とした。E 型は、基部にソケットをもつタイプである。頭部は側縁に稜をもち（断面紡錘形）、茎部と区別されることが多いが、全体が砲弾型で無茎の例もある。基部のソケットは円形で、回転穿孔によるものと思われる。41 点と最も多く出土している。

今回報告した資料で特筆されるのは、墓からまとまって出土した骨鏃のセットが含まれている点である。15 号墓に伴う 33 点（A 型 1 点、B 型 3 点、E 型 29 点）（PLATE96）と、24 号墓に伴う 8 点（A 型 1 点、B 型 3 点、C 型 4 点）（PLATE99）である。前述したようにモヨロ貝塚で

は回転式銛頭や釣針が墓からほとんど出土しないのに対して、骨鏃が墓からまとまって出土する点は興味深い。副葬された骨鏃は、狩猟漁労具というよりも武器として認識されていたのかもしれない。

最も多い 41 点が出土した E 型だが、うち 29 点は 15 号墓から出土したものであった。15 号墓からは刻文土器が出土したとされており、刻文期に属するものだろう。E 型はオホーツク文化の他の遺跡からは出土例が少ないが、モヨロ貝塚からは比較的多く出土することが知られている。ソケットをもつ構造は、日本列島の骨鏃としては類例が少なく、金属製の鏃の影響を受けた可能性も考えられる。

c 釣針軸

大場 1955 年報告の骨製釣鈎で、結合式釣針の軸部である。大場の分類にしたがって A 型と B 型に分ける。A 型は U 字形の軸と釣針先を組み合わせるもの、B 型は J 字形の軸（2 つ）と釣針先を組み合わせるものである。単式釣針は、今回報告する資料中には確認できなかった。大場は、釣針軸 B 型が出現した理由として、屈曲部の破損を防ぐ点と素材の制約から解放される点を挙げていたが、妥当な見解だといえる。

釣針の部位は、頭部、軸部、屈曲部／結合部と呼ぶことにする。頭部は、釣糸や釣針先を装着するための加工を持つ部分である。強く曲がるフトコロの部分は、A 型（U 字形）については屈曲部、B 型（J 字形）については結合部とする。軸部は頭部と屈曲部／結合部の中間部分で、まっすぐないしゆるやかに湾曲する。B 型の場合、糸かけの加工（溝・抉り・孔）をもつ側を主軸、釣針先を嵌めるための溝（嵌溝と呼ぶことにしたい）をもつ側を副軸と呼んでいる。A 型については、糸かけの加工をもつ側をチモト側頭部、嵌溝をもつ側をアグ側頭部と呼ぶ。A 型か B 型か不明な軸頭部の破片についても、同様とする。

チモト側頭部の加工としては、周囲を一周する糸かけ溝をめぐらすもの、溝を両側からの抉りで代用するもの、糸通し孔を設けるものがある。頭部上端は山形に切り出すことが多い。糸通し孔を設ける場合、孔はいずれも内外方向にあけられ、頭部が太くなることが多い。アグ側頭部の加工としては、浅く幅広な嵌溝を片側側面に設けている。嵌溝の反対側面の端部に突起を持つ場合もある。

U 字形をなす A 型は 34 点ある。未成品が 11 点と比較的多い。チモト側頭部とアグ側頭部を両方残すものが 10 点（うち未成品 8 点）、チモト側を欠損するものが 4 点、アグ側を欠損するものが 7 点、両側の軸を欠損する屈曲部の破片が 11 点である。チモト側頭部は、溝が 7 点、抉りと孔が 1 点ずつある。アグ側頭部は 5 点が溝を残す。素材としては、大型板状の海獣骨（鯨骨？）のほか、海獣の寛骨や下顎骨、尺骨などが用いられている。

J 字形をなす B 型は 54 点あり、主軸が 32 点、副軸が 14 点である。主軸と副軸の結合方法としては交差式が 34 点と多く、それ以外に接合式が 3 点みられた。主軸（チモト側）頭部の加工としては、溝が 19 点、抉りが 7 点、孔が 6 点であった。溝をめぐらす例が多い点は A 型と共通するが、抉りや孔の例がより多い。素材は海獣肋骨製が多い。

釣針軸に装飾を施す例もある。動物意匠としては、主軸頭部の上端に刻みを入れて海獣の頭部を表現したもの（M2-99-1-999-441-22、PLATE108）や、軸部に沿わせるように波状の浮彫（ヘビ？）を表現したものがある。このほかに、糸かけ溝と平行に沈線や浮線による装飾を施すもの、軸部に線刻による文様を施すもの、軸部に連続するケズリを入れて波状にするものなどがある。

d 釣針先

結合式釣針の針部である。板状で全体にやや湾曲して先端が尖り、基部は扁平である（PLATE103）。鹿角製や歯牙製の例もあるが、海獣骨製が多い。釣針軸のアグ側頭部の嵌溝に装着したと考えられるもので、大場 1955 年報告における「骨製魚鈎」に相当するが、今回報告する資料は全て戦後の調査の出土である。頭部内側に小さな段を有する例が多い。この段はアグと呼ばれることもあるが、鈍角の例が多く、獲物を引っかける機能を有したとは考えられない。

なお、大場 1955 年報告では、釣針軸 B 型は直接大型の釣針先と組み合わせて使ったものと考えられていた。B 型軸と組み合わさると推測された資料は今回報告する中には含まれていないが、図を見る限りでは釣針先ではなかった可能性が高い。

釣針先 MM2-99-1-999-343-1（PLATE108）は、昭和 23 年の調査で釣針軸 M2-99-1-999-23 と組み合わさった状態で出土したと報告されたものである（大場 1955、p.200）。さらに、釣針先を外向きにつけた実測図が示された（同前、第 13 図）。一方、近年の復元では、内向きにつけられることも多く（天野 2001）、オホーツク文化の結合式釣針では釣針先は全て内向きに装着されたという意見もある（福井 2005）。本報告では外向きに置いているが、これは次の三つの理由によるものである。

第一に、同資料についての調査者の報告を尊重したものである。大場は戦中の調査には参加しなかったが出土した骨角器の整理を担当しており、戦後の発掘調査にあたって「遺物の出土状態を詳しく見たい」ということを目的として掲げていた（大場 1950）。出土状況写真などは残されていないが、出土状態には十分な注意を払っていたと思われる。第二に、釣針軸の嵌溝と釣針先の基部の形状である。この釣針軸の嵌溝は外側がやや広く内側が狭くなっており、釣針先の基部（装着部）は根本に向かって細くなっている。このため嵌溝へのはまり方を考えると、外向きの方が収まりがよい。第三に、軸と針先の作る角度である。軸と針先の角度が鋭角であれば、針先はアグないしカエシとしての機能を発揮しやすい。釣針自体が湾曲しているので、このように外側が下がる角度で嵌溝が切られている場合、外向きだと軸に対して鋭角に装着できる。逆に内向きだと直角に近い角度になる。以上の理由から、この資料については外向きの復元案を採用した。

（2）日常具

大場 1955 年報告では、狩猟漁撈具と作業具、装身具を除いた雑多な実用品が日常具として分類されていた。今回の報告で日常具として分類したものは 132 点で、骨小刀、骨錐、骨製刺突具、骨鑿、骨製針入がある。大場報告にある骨製縫針や骨匙は確認できなかった。未詳日常具とされたものは未詳骨器として一括し、鹿角製の柄は鹿角製品に含めた。戦前に出土したものが 4 割、戦後に出土したものが 6 割であり、器種ごとに大きな違いはみられなかった。

e 骨小刀

オホーツク文化の骨角器の中には、扁平で非常に薄いペーパーナイフ状の刃部をもつ刺突具がある。大場 1955 年報告ではこうした資料を骨小刀と骨匕（骨製刺器に含まれる）に分けていた（大場 1955）。名取・大場 1964 年報告では、同じ資料に対して「髪容具？」と呼称を変えている。だが後述するように、すべての骨小刀の用途を髪を整えるための道具だと限定することができるかには疑問が残る。一方、骨匕という呼称は管状骨の一端を斜めに削って尖らせた資料に対して使われるが、必ずしもペーパーナイフ状の刃部をもつわけではない。本稿では、オホーツク文化に特徴的なペーパーナイフ状の刃部をもつ資料を全て骨小刀とし、さらに精製品と粗製品

に細分する。精製品は全体に丁寧に磨かれており、基部には装飾を施すことが多い。大場 1955 年報告における骨小刀である。粗製品は磨きが刃部だけに留まり、自然の骨の形状を残すものが多い。大場 1955 年報告における骨匕のうち先端を薄く仕上げたものに相当する。このように精製品と粗製品を区別するが、破片資料については分類が困難な資料もある。

骨小刀の粗製品として分類したものは 30 点ある。鳥の管状骨を素材としているものが多いが（M1-99-1-999-442-14、PLATE69）、陸獣骨製のものもある（M1-99-1-999-442-17、同）。ペーパーナイフ状の刃部は、突き刺すという機能だけが目的であれば不要なほどに薄く磨かれている。

骨小刀の精製品として分類したものは 7 点あり、このうち 3 点が墓からの出土品である（PLATE97）。M2-1-251-412-1 は、7 号墓（老年女性）の右頭部近くから出土したものである（伊藤 1964、名取・大場 1964）。長さ 24㎝近くあり、基部の両側縁には連続する波状の抉りを入れて装飾としている。M2-1-105-222-1・2 の 2 点は、20 号墓（成年女性）から出土したものだが、出土位置は不明である。

骨小刀精製品について、米村（1943）は壮年女性への副葬例や装飾が骨櫛のものと類似する点に注目し、「頭髪の調整に用ひる毛筋立て」ではないかと推測した。名取・大場 1964 年報告の「髪容具？」もこの見解を継承したものである。戦後の発掘調査では、7 号墓で女性の頭部近くから出土し、20 号墓でも女性の墓に伴った。他遺跡での骨小刀の精製品の副葬例としては、礼文町船泊砂丘第二遺跡（浜中 2 遺跡）10 号墓で成人女性の墓から出土した例と、斜里町ウトロ遺跡神社山地点 7 号墓で成人女性の頭部付近から出土した例がある。これらの副葬例からみて、骨小刀精製品が女性の使用する道具であったことは間違いなさそうである。

ただし、骨小刀精製品が髪を整える道具だったという推測については、必ずしも根拠は十分ではない。たとえば南西アラスカエスキモーのストーリーナイフ（story knife）のような用途も考えられるからである。柄に優美な装飾が施されるナイフで、牙・骨・鯨ひげ、木などの材料で作られ、女の子が雪や泥に絵や記号を描きながら物語を語る時に使われる。もちろん骨小刀精製品との時空的隔たりは大きく、見た目の類似だけを根拠に同様の使われ方をしたと結論することはできない。だが、さまざまな使われ方をした可能性を考慮に入れて、骨小刀精製品の用途を断定するのは避けておきたい。

f 骨錐

先端が断面円形で細くなっている資料を骨錐とする。27 点を骨錐としたが、先端部の形状のみで分類したため、やや雑多な資料が含まれている。M2-99-1-999-420-41 は、シカの左尺骨の関節部をそのまま残して持ち手とし、もう一端を錐状に尖らせたものである（PLATE109）。

g 骨製刺突具

先端が尖る資料で、上記のいずれにも含められないもの 62 点を骨製刺突具とした。他の器種の破片や未成品も含まれているものと思われる。

なお M2-4-1-999-377-35 は、中空の植物質素材の一端を斜めに切断して尖らせた木製刺突具である（PLATE105、径 1.7cm、残存長 10㎝弱である。管状の素材を斜めに切断する点で、骨鏃 E 類や骨製刺突具の一部と共通する。焼失住居以外では残存することは少ないが、オホーツク文化の道具のセットには木製品も多く含まれていただろう。

h 骨鑿

先端に幅の狭いのみ状の刃部を設けたものである。3 点を骨鑿として分類したが、大場 1955

年報告でも指摘されているように、骨篦類の破損品を再加工したものが含まれている。M2-3-1-999-396-28 は小型で厚さ 0.4cm と薄いが、丁寧に両刃の刃部をつけている（PLATE99）。

i 骨製針入

鳥類の管状骨の両端を真っ直ぐに切断したもので、3 点が出土している。表面には格子文や横・斜め方向の線刻が施されている。

（3）作業具

狩猟漁撈具以外の実用品のうち、大型の鯨骨製品を作業具として分類した。器種としては骨斧、骨篦、骨鍬、骨楔状残片、骨製打突器、骨刀がある。このうち骨斧・骨篦・骨鍬は機能としては掘り具だと考えられている。骨刀は実用品ではない可能性が高いが、素材や加工方法に共通性がみられることから、ここに含めた。大場 1955 年報告で再生篦とされた資料は、独立した器種とはせずに骨鍬や骨篦の再加工品として扱った。骨臼、骨台は確認できなかった。

作業具としたものは 394 点あり、全体の 4 割近くを占めている。特に骨篦が 316 点と非常に多い。オホーツク文化を特徴づける骨角器といえば、銛頭や大型の釣針軸、あるいは牙製の彫像などを思い浮かべることが多いが、実は骨篦こそがオホーツク文化の代表的な骨角器なのである。戦中に出土した資料が 9 割近くに達しており、この比率には器種間に大きな違いはない。

j 骨篦

板状で刃部と着柄用の肩や突起をもつ資料のうち、骨斧・骨鍬を除いたものを骨篦とした（PLATE71 ～ 74）。蛤刃の刃部をもたず、窓（着柄用の孔）をもたない資料である。最も多く、316 点が出土している。完形品ないしそれに準じる資料でみると、長さの平均は 20.2cm だが、長さ 10cm 前後の小型品から 40cm 近い大型品まで、バリエーションが非常に大きい。大場 1955 年報告では、長さ 15cm を境に大型・小型に区分し、さらに長さに対して幅が狭い長型に分けている。ただしどの資料がどのタイプに当たるかが記載されているわけではないため、今回はまとめて扱うことにしたい。

基部（着柄部）が刃部に比べて一段細くなる資料について、この段の部分を肩と呼ぶことにする。側面や基部上端に台形ないし三角形の突起をもつ場合がある。大場 1955 年報告では基部上端の突起を「肩」と呼んでいたため（大場 1955）、呼称が異なっている。

最も多くみられるのは、基部端の突起と肩をもつ資料である。両側面に幅の広い抉りを入れて柄部を作り出したような形状である。このタイプは、ありふれているためか大場 1955 年報告ではあまり図示されていなかったが、名取・大場 1964 年報告では多く出土していることを確認できる（PLATE105）。このうち肩が強く張り出して洋ナシ形になる例は、数は多くないが特徴的な形態である（M1-99-1-999-96-9）。大場（1955）は骨鍬としていたが、今回は骨篦に分類した。

多様な形態の骨篦は、上記の基本タイプのバリエーションとして理解できるものが多い。まず肩の張り出しをもつ資料の中では、基部端の突起をもたないしゃもじ形の例（M1-99-1-999-73-2）、側縁に突起を 1 対（M1-99-1-999-96-2）ないし 2 対（M1-99-1-999-448-5）加える例がある。肩の張り出しをもたない資料の中では、基部端の突起のみの例（M1-99-1-999-447-15）、基部端に加えて側縁にも 1 対（M1-99-1-999-96-2・8・9）ないし 2 対（M1-99-1-999-75-5）の突起を加える例、基部端の突起が無く両側縁に 1 対ないし 2 対の突起を設ける例（M1-99-1-999-75-2）などがある。なお、大場 1955 年報告における「長型」の多くは、この肩の張り出しのない資料に相当すると思われるが、肩をもたず幅広の例もある。例外的であるが、両端に刃部を形

成する資料も存在する（M1-99-1-999-447-1、M1-99-1-999-448-3）。また、M1-99-1-999-447-10 は、両側縁に大きな粗い抉りを 2 か所ずつ入れた大型品で、他の資料とはやや様相が異なる。

M2-2-1-105-222-1 は、成人女性が埋葬された 20 号墓から出土したものである。被甕土器の中腹ほどの位置で水平に置かれていたという（伊藤 1964）。基部端の突起と張り出しがやや強い肩をもつ骨篦である（PLATE97）。墓やその上位から骨篦が出土した例としては、米村喜男衛による第二発掘や第五発掘の例がある（米村 1950）。埋葬行為に使われたスコップを、埋葬終了後に安置したものだろうか。

k 骨斧

厚みのある蛤刃の資料を骨斧とする。骨篦との区分にはややあいまいな部分もあるが、基本的には大場報告の分類に従った。骨斧とした資料は 24 点ある。完形品ないしそれに準じる資料でみると、長さの平均は 17.4㎝、最大 22㎝、最小 13㎝であり、骨篦や骨鍬と比べるとサイズがまとまっている。器体の厚さが 2.5cm を超えるような資料もある。

着柄部と刃部の幅がほぼ同じで、明瞭な肩をもたない資料が多いが、浅い肩をもつ例もある（PLATE70）。基部端と側縁に突起を 1 対ずつもつ資料（M1-99-1-999-449-7）が比較的多い。両端に刃部をもつ例もある（M1-1-99-1-999-449-9）。骨斧は戦後の発掘調査でも 2 点出土しているが（M2-4-1-999-368-4・M2-4-1-999-382-3、PLATE104）、いずれも中間部で折れている。

l 骨鍬

柄を装着するための窓（孔）をもつ資料を骨鍬とする（PLATE75）。大場 1955 年報告では刃部の幅が広く肩が強く張り出す資料（M1-99-1-999-96-9 など）もここに含めていたが、今回は窓をもたない資料については骨篦として分類した。骨鍬に分類した資料は 23 点ある。完形品ないしそれに準じる資料でみると、長さの平均は 23.2㎝、最大 35㎝、最小 18㎝である。平均は骨篦よりやや大きいが、これは 18㎝未満の小さな資料を欠くためだろう。

全体の形状は、幅広の刃部に向かって広がる。基部と刃部の間は強くくびれており、つまみ状の基部がつくような形である。窓は楕円形で、器体の上方に 2 つ並んで設けられる。中型の資料では器体の中央部に設けられているが、これは再加工の結果として刃部が短くなったためかもしれない。

M2-99-1-999-340-1 は、左右両側縁が破損しているが、着柄の痕跡をよく残す資料である。全体にやや黒ずんだ色調だが、基部のくびれ部分と 2 つの窓の間の部分が、帯状にやや白っぽくなっている。これはくびれ部分と窓の間の部分を、帯状のものを巻いて固定していたことによるものだろう。先が屈曲する膝柄に装着され、鍬のように用いられたものと考えられる。

m 骨楔状残片

大場 1955 年報告で骨楔とされた資料の多くは、骨篦類からＡ型（Ｕ字形）釣針軸を再加工した際に生じた残片である（米村・梅田編 2009）。これらを骨楔状残片として分類した。縦長の二等辺三角形を呈する板状加工品である（PLATE76）。長い二辺には表裏両面から削られた痕跡を残し、短辺は切断面か刃部を残す。切断面を残す例は骨篦類の基部側から、刃部を残す例は骨篦類の先端側から、抉りを入れたものである。厳密にいえば、前者は板状素材から切り出された可能性もあるが、表裏面が丁寧に加工されている例が多いことから、骨篦類の完成品から切り出された可能性が高い。こうした骨楔状残片が 21 点も出土していることは、骨篦類を素材として釣

針軸を作る再加工プロセスが、モヨロ貝塚で頻繁に行われていたことを示している。

n 骨製打突器

棒状で先端を使用したと思われるもので、8 点ある。丁寧に加工され骨篦類同様の着柄用の突起をもつ例もあるが、粗く削られた棒状製品の一端を使用している例が多い。

o 骨刀

刀ないし庖丁のような形で、側縁に長い刃部をもち、柄を作り出した資料を骨刀とした。鯨骨製の大型品 2 点出土している（PLATE76）。M1-99-1-999-449-10 は基部端にノブ状のふくらみをもち、片側側縁に刃部を設けている。M1-99-1-999-449-11 は、包丁のような形態であるが、縦に割れた大型の骨篦の再加工品かもしれない。

（4）装身具

装身具・装飾品は、骨角製垂飾、バックル、未詳装身具が計 23 点ある。戦前の出土資料は未詳装身具 1 点（線刻のあるイヌ上腕骨）のみで、その他はすべて戦後の出土品である。

p 円盤形垂飾

円盤形垂飾は 4 点ある。直径 5cm 前後の円盤形で、中央に直径 0.5 〜 1cm 程度の貫通孔をもつ。表面はよく磨かれ、同心円を基調とする文様が描かれることが多い。骨製の例が 1 点あるが（M2-99-1-999-441-32、PLATE109）、3 点は歯牙製である。大きさからみてマッコウクジラの歯だろう。いわゆるクックルケシ状製品であり、千島アイヌのクックルケシ（帯留め）との共通性が指摘されてきたものである。

M2-2-1-105-222-3 は、成人女性が埋葬された 20 号墓から出土した（PLATE97）。被り甕の口縁近くから鉄製刀子とともに出土したものである。人骨よりも約 40㎝上なので着装状態で埋葬されたものではない。表面に二重の同心円状の文様を施している。両端にハの字状に素材の変わり目がある。内側の赤みを帯びている部分が変色した象牙質、外側の灰色がかっている部分がセメント質である。象牙質部分の幅はやや異なるが、同様の素材の変わり目は他の個体でも観察できる（M2-99-1-999-441-31、PLATE109）。これらの円盤形垂飾はマッコウクジラの歯を横方向に輪切りにするのではなく、縦方向に切断した板状素材から作られていることがわかる。歯髄腔を避けつつなるべく大きな円盤を切り出すための素材取りの工夫だろう。

q 骨角製垂飾

孔をもち、ひもを通して垂下したと考えられるものが 12 点ある。形状と素材によって、椎骨製、牙製、環状、楕円形、管状に細分した。椎骨製垂飾と牙製垂飾は素材による区分であり、椎骨製垂飾が 8 点、牙製垂飾が 1 点出土している。椎骨製垂飾は 7 点がサメ類椎骨で径 2.5 〜 3cm 程度、1 点がイルカ類椎骨で径 4.4cm である（M2-99-1-999-358-9、PLATE109）。他は形態による区分である。環状垂飾はドーナツ形を呈するもの、楕円形垂飾は楕円形の板の中央に径 0.3cm の小さな孔をあけたもので、定型的な円盤形垂飾とは区別した。管状垂飾は、細い管状骨に溝を 10 本巡らせている（M2-99-1-999—346-1）。

r バックル

バックルとしたものは 3 点ある。まず完成品である M2-99-1-999-345-1 をみてみよう（PLATE109）。図の上側がやや広がる撥状の板状製品で、上側に V 字形の透かしが設けられている。また、下端には 2 つの貫通孔をもつ。下端の貫通孔で帯の一端に固定し、透かし部分の舌状突起を帯のもう一端の穴に通すバックルだと考えられている。V 字形透かしと下端の孔以外にも、

抉って中央にジグザグの浮線を残す鋸歯文などで装飾している。

M2-99-1-999-344-1 は、V 字形の透かしとその上にある 2 つの貫通孔をもつ点で上記例と共通する。それ以外に破損しているものを含めて 7 カ所の貫通孔をもつ。これらの貫通孔はそれ自体が装飾だった可能性もあるが、表面に線刻などがみられないことから、貫通孔を起点にしてさらに透かしの加工を施そうとしていた未成品の段階である可能性が高い。

M2-4-1-999-3661-42（PLATE105）について、名取・大場 1964 年報告では「おそらく帯止めに使用されたもの」として、正しくバックルの破損品であることを指摘していた。たしかに舌状突起は形成されている。だが透かし部分の幅があまりに狭く、このままバックルとして機能したとは考え難い。おそらくこれも未成品の段階なのだろう。複数の貫通孔をつないで貫通する溝を形成し、ここからさらにそれをつないで透かし部分を広げようとしていたのだと考えられる。このようにオホーツク文化のバックルの製作にあたっては、穿孔を多用する技法が用いられているのが特徴である。

s 未詳装身具

M2-5-1-999-401-5（PLATE106）は、細長い楕円柱の側縁を長方形にくりぬいたような形状である。周囲の全面に装飾を施していたと思われる（片面は欠損・摩耗している）。対向する三角形を交互に刻んでジグザク状ないし波状の浮文を施している。類似した資料は戦中の調査でも出土している（大場 1955 第 34 図 K825）。ベルト通しなどに用いられたものかもしれない。

M2-99-1-999-441-35（PLATE110）は、大場 1955 年報告で「口唇装具類似品」とされたものうち 1 点である。この資料をエスキモーの口唇装具（ラブレット）と結びつける見解は、1948 年には確認できるので（児玉 1948、名取 1948）、戦後のモヨロ貝塚調査団における共通見解となっていたと思われる。1958 年には児玉・大場の連名でラブレットについての論考が発表される（児玉・大場 1958）。ただし、モヨロ貝塚出土例が本当にラブレット（口唇装具）であるかどうかについては常に留保がつけられていたし、ラブレットではないとする批判もある。高山（1969）は、耳栓（耳飾り）だと考え、北構（1988）は「革帯の尾錠」、すなわちベルトの部品だと考えている。

M2-99-1-999-441-34（PLATE110）は、大場 1955 年報告で「祭器？」とされたものである。「22 年度調査デ竪穴床上より発見」とあるので、第 7 号竪穴から出土したものである。全体に湾曲しており、一端を欠損するが、対称に復元されるとすれば長さ 15cm 程度になる。全体に 3 か所の孔が残る。図の下半部に残る 2 つの孔は、縦長の紡錘形である。図の上端の孔は横長の長方形で端部から幅広の溝が設けられている。ここに紐などを結んで装着したものと思われるが、用途は不明である。

M1-99-1-193-1 は、イヌの左上腕骨に線刻を施している（PLATE77）。線刻されたイヌ上腕骨は、サハリンではノーバヤブローチノエ 2 遺跡、北海道では香深井 1 遺跡や種屯内遺跡からの出土例が知られている（内山 2014）。この資料は部分的に斜め方向の平行沈線文が確認されるだけであるが、道東部の出土例として貴重である。

（5）その他

大場 1955 年報告では用途不明な骨角器のうち、大型のものを未詳未完作業具、小型のものを未詳日常具として分類していた。今回の報告では、鹿角・貝を素材とするものを鹿角製品・貝器として別に扱い、それ以外の資料については加工の程度によって未詳骨器、骨器未成品、カット

マークのある骨に区分した。

この項目には 220 点の資料が含まれている。全体でみると、戦中の調査で出土したのはおよそ 4 分の 1 に留まり、4 分の 3 は戦後の出土品である。内訳をみると、未詳骨器は半分程度、骨器未成品と鹿角製品は 3 割程度が戦前の出土資料である一方、カットマークのある骨は全て戦後の出土資料だった。

t 鹿角製品

鹿角製品が 37 点確認できた。なお、このほかにも銛頭や釣針先などの定型的な器種にも鹿角製のものが含まれている。

鹿角製品のうち 11 点が戦中の調査、残りの 26 点が戦後の調査によって出土したものである。後者のうち 17 点（M2-99-1-999-450-1 ～ 17）には「十月三日 貝塚東トレンチ第一層出土」の荷札が伴う。「貝塚東トレンチ」は第二貝塚トレンチを指すと考えられるので、鹿角製品の大部分は貝塚の地表から 30-40cm の深さに堆積する「表土層」（伊藤 1964：21）あるいは「黒土層」「上層」（名取・大場 1964：42）から出土した可能性がある。層位的にはオホーツク文化よりも下る可能性も否定できないが、同じ層からもオホーツク文化の遺物は多数出土していることから、新しいとも言い切れない。荷札に記載された日付である 10 月 3 日は 1947 年と 1948 年のいずれの調査期間にも含まれることから、調査年や調査区を特定することは難しい。それ以外の資料については出土地点や帰属時期についての手掛かりはない。

鹿角製品には、鹿角そのものの自然の形状を生かして作られる場合と、幹部や分岐部からカマボコ状ないし板状のブランクを切り出してから作られる場合がある。今回報告した 37 点の鹿角製品のうち、道具として使用されたと考えられる資料は 5 点ある。M2-99-1-999-428-1 は、大型の鹿角の角座骨～第 1 枝の部分だが、角座骨と幹の部分が摩耗し、使い込まれている。ハンマーとして使用された可能性がある。M1-99-1-999-443-10・12 は骨製釣鈎軸とされた資料である。幹部と鹿角第 1 枝を含み鈎状を呈するが、釣鈎だとは考えにくい。端部に突起が作られていることから、ただの残片や原材でもない。いずれも幹の背面側を縦に切り落として平坦面を作り出している点から、柄に沿わせて固定して使用した可能性が高い。手鈎の鈎部とでもいうべき鈎状製品だろう。M2-4-1-999-364-5 と M1-99-1-999-445-2 はいずれも鹿角枝の先端を切り落としたものだが、切断面に断面紡錘形ないし円形の貫通しない穴をあけているため、柄の可能性があると考えた。

それ以外の 32 点の鹿角製品には明確な機能部や彫刻などが認められないことから、骨角器の素材を供給した原材や残片だったと考えられる。内訳をみると、原材・未成品が 6 点、残片が 24 点、加工が確認できないものが 2 点であった。このうち分岐部を 1 つ含むものが 12 点、2 つ含むものが 3 点、幹部のみが 5 点、角座・角座骨のみが 2 点であった。分岐部 1 つは、第 1 分岐部が 10 点、第 2 分岐部が 2 点、第 3 分岐部が 1 点で、根元側の方が多く残されていた。分岐部 2 つは、第 1・2 分岐部が 1 点、第 2・3 分岐部が 2 点であった。なおハンマー・鈎状製品を含めて落角 9 点、骨付角 3 点で落角の利用の方が多かった。M2-99-1-999-445-3 は右角第 2 枝を切り落とした残片（PLATE69）、M2-99-1-999-450-6 は落角の角座から第 1 枝を残す残片、M2-99-1-999-450-13 は幹部を切断した原材である（PLATE111）。なお M2-99-1-999-427-2 は、大型の鹿角の根元の部分であるが、第 1 枝から約 5cm 上から第 2 枝が生えている。奇形角の一種だと考えておく。

加工痕には、横方向に切断した痕跡や縦方向に平滑な面を残すように削った痕跡、擦り切り痕

などがある。切断の痕跡は明瞭であり、鋭利な刃によってなされたとみられる。中にはＶ字状の切れ目が深さ 5mm まで達する例もある。M2-99-1-999-427-4 は、Ｖ字状の切れ目を入れてから長軸に沿って半割して長方形のブランクを作り出している。

u 未詳骨器

未詳骨器としたものは 16 点あるが、多様な資料を含む。しゃもじ状をなす大型品や、棒状で一端が摩耗したものなどがある。M2-4-1-999-377-34 は、下端が使用されて摩耗した棒状製品である（PLATE103）。

v 骨器未成品

骨器未成品としたものは 117 点あるが、多様な資料を含む。M2-1-1-096-341-9（PLATE94）は大場 1955 年報告で「鳥の翼」とされたものであるが、ヒゲクジラのひげだと考えられる（鳥の羽軸も鯨のひげもケラチン質である点は共通する）。今回報告する中に破片を含めて 3 点が含まれている。鯨ひげは弾力のある素材として様々な用途に用いられたことが知られており、何らかの素材として持ち込まれた可能性がある。これまでも鯨をモチーフとした彫像の形態的特徴からヒゲクジラを利用していただろうと考えられてきたが、出土資料からもヒゲクジラの利用を裏付けることができる。

w カットマークのある骨

48 点ある。全て戦後の出土品で、未報告である。

x 貝器

2 点ある。大場 1955 年報告の附で言及されている貝匙と貝鏃だと思われる。ただし名取・大場 1964 年報告では扱われなかった。

第７節　金属器

鉄製品は鉄製品のみが確認できた。ID は 101 件あり、一つの ID に複数の鉄製品を含む場合がある。整理作業当初につけた単一の鉄製品としてとらえていたが、その後の精査によって複数の器種を含むものがあるためである。また、別の ID を付与したが、同一個体の可能性がある鉄製品もある（M1-99-1-999-497-1 と M1-99-1-999-498-1 の大刀）。151 件のうち、戦中の調査によって発掘されていたものが 140 件、戦後の調査が 10 件、調査時期不明が 1 件となる。戦中の調査によって出土した鉄製品の内容は大場（1962）に報告されており、図表に示された鉄製品も一部確認している。戦後に発掘された 10 件の鉄製品については、その一部は名取・大場（1964）に掲載された鉄製品と対応可能である。本書では、大場（前掲）の分類を踏襲している。

大場（前掲）によれば、鉄製品の内訳は、刀類（大刀、刀子、マキリ形刀子）、鉾、斧、鉈様利器、鉤形利器、鍋の６種類からなる。報告された第１表（大場 1964：166) によれば、戦中の調査によって出土した鉄製品の合計は 64 件である。しかし、上述したように戦中の調査に由来すると考えられる鉄製品は 140 件であることから、報告された以上の鉄製品が残されていることになる。なお、鉄製品以外で報告された６件の青銅製品（鈴、垂飾用金具、耳環）は、本資料体の中には確認できなかった。以下、主要な器種ごとにその概要を記載する。

（１）刀類（大刀、刀子、マキリ形刀子）

大場（1962）は長さ 30㎝以上のものを大刀、長さ 30cm 以下のものを刀子としている。本資料体では、大刀と刀子の境界を長さ 30cm とし、30cm かそれより長い刀を大刀、長さが 30cm に満たない刀を刀子とする。

大刀は、大場（1962）の図表（第１～３図、第２表）に記載がある。大刀には、蕨手刀、直刀、曲手刀の３種類がみられる。蕨手刀は１件のみである。「網走市阿部清治史が発掘したもので、後児玉博士が購入したもの」（大場 1962：169）であり、児玉自身もそれを所有していることを明記しており（児玉 1950：113)、戦中のモヨロ貝塚の発掘調査によって出土した資料ではない。また、本整理作業でも該当資料の存在を確認することができていない。本資料体には 20 件の大刀（直刀、曲手刀）を確認した。大刀の内訳は、直刀もしくは直刀の可能性があるものが 16 件、曲手刀が４件である。曲がり手刀は、刀の柄の先が刃の方向へ曲がる特徴的な形態をもつ部類であり、蕨手刀とは柄頭に早蕨の巻き形をもつ特徴がないことをもって区別される（児玉 1950)。大場（1962）で報告された大刀（直刀、曲手刀）と対応づけられたのは 17 件である。

刀子のうち、茎頭が直線なものを「刀子」とし、茎頭が下方に湾曲するものを「曲手刀子」と分類している（大場 1962)。本資料体では、刀子（可能性のある資料を含む）は 26 件、曲手刀子は 19 件確認されている。

マキリ形刀子はアイヌのマキリに似た形を有する刀子であり、上記の「刀子」と「曲手刀子」とは区別される（大場前掲)。身と茎の区別が明瞭であり、身が外側へと湾曲する特徴をもつ。本資料体では、５件が確認されている。

（２）　鉾

鉾は先端から、刃先である「身」、その下にある幅狭の部位「関（ムネ)」、木などの柄を挿入する中空の「袋」の３つの部位を区別できる。本資料体の鉾は大多数が戦中の発掘調査によって出土している。貝塚や遺構との関連は不明であるが、1933 年（昭和８年）に米村らが発掘したオホーツク文化期の墓壙（「第一発掘」）には鉾を副葬品として埋葬していた例がある（米村 193

5：48)。また、本資料体には含まれないが、1948 年（昭和 23 年）に第二貝塚から発掘された 15 号人骨（成人男性）には鉄鉾が伴う（名取・大場 1964：50)。これらの例から、本資料体の鉾もオホーツク文化期の副葬品を含んでいると推測できる。

本資料体では、鉾は 9 件確認されている。大場 (1962) には 7 件が報告されており、それらに該当する番号の記された木札（「鉾 1 」～「鉾 7 」）が伴う鉄製品が 8 件ある。このうち 5 件（「鉾 1 」～「鉾 5 」）に関しては、大場（1962:182）の第 7 図に図化された 5 点の形状との対比によって、それぞれの木札の番号にある鉾が第 7 図の 5 点であることが明らかである。ただし、「鉾 1」と書かれた木札とともに収納されていた鉄製品は 2 点ある。内 1 点は形状から鉾の「身」と判断されるものの、図化された「1 番」（大場前掲）と合致しないため、別個体ととらえた。図化されていないが、大場（前掲:183）の第 5 表には「 6 番」と「 7 番」の鉾の記載がある。いずれも「破片」であり、大きさが示されている。このうち「全長」の数値と、表と同じ番号が書かれた木札が付属する鉄製品の長さが近いことから、「鉾 6 」と「鉾 7」に該当する可能性のある鉾を認めた。「鉾 7」については、当初 2 件以上の鉄製品があると判断したが、保存処理による接合作業を経たのち、破断している破片と、保存修復された鉾の関の破断面の形状が似ていることから、同一個体の可能性がある（ただし接合しないため、ID は当初通り分離)。よって、鉾は最大で 9 件（最小で 8 件）となる。

（3）鉄斧

鉄斧には、袋柄と平柄の 2 種類がある。本資料体では、図化された袋柄の鉄斧のうち 3 点（大場前掲第 8 図）が確認されている。同じく図化された平柄の鉄斧（大場前掲第 9 図 5）は確認できていない。

（4）鉈様利器

鉈と思われる形態をした鉄製品である。刃と柄に相当する部位の存在から、この名称が付けられた。 1 件のみであり、「人骨三六」の副葬品と記録されている（大場前掲：186)。

（5）鉤形利器

器体中央部が鉤形に屈曲した鉄製品であり、その特徴から鉤形利器と呼称された。柄と装着して利用されたことが想定されている。 1 点のみであり、「人骨番外 71」の副葬品と記録された（大場前掲：186)。「人骨番外 71」（人骨 No189）は、戦中の調査で出土した人骨のため、出土した地区地点は不明である。形質人類学的な所見では若年・性別不明である。

（6）鉄鍋

本資料体には、 2 点報告されている内の 1 点（大場前掲第 10 図 1）のみが確認できる。縁の内側に縦長の環が付く内耳鉄鍋であり、底部に脚が付く。「モヨロ貝塚人に連関するかどうかは明らかでない」（大場前掲：188）とされるように、オホーツク文化期の遺物ではないという認識であった。内耳で脚のある鉄鍋は、越田（2004）の AIIa 類に相当し、本資料体とは別となるモヨロ貝塚の遺物からも同様な形態の鉄鍋が確認されている。全道の遺跡にみる鉄鍋と共伴する遺物の時代から、この鉄鍋が普及した年代は、15 世紀後半～ 17 世紀前半の中世末～近世初期に相当する（越田前掲)。

（7）鉄製品の保存処理について

モヨロ貝塚より出土した鉄製品は「すでに木部は朽ちており、かろうじて原型を留める程度のもの」（大場 1962：166）とあるように、発掘時からすでに腐食が確認されている。鉄製品の保

存処理は、本資料体が北海道大学総合博物館へ2003年末に移されて整理されていた際に、脱水と脱酸素剤を封入した梱包作業がなされた。その後、学内事情によって2012年度の終わりに本資料体は総合博物館から医学部へ戻され、北海道大学医学研究院人類進化学教室が当該資料を管理することになった。2022年度(令和4年度)よりモヨロ貝塚出土資料の整理作業を始めた際に、鉄製品に塩化物の析出が認められたため、一部の鉄製品についてサビの除去や脱塩、含侵を含めた保存処理を実施した。保存処理は、北海道大学内に保存処理を行える設備がないこともあり、㈱イビソク仙台支店に外注して実施した。現在までのところ保存処理を実施した鉄製品は12件であり、全体の8％である。まだ脱塩・含侵処理に至っていない鉄製品を含む全ての鉄製品は、脱酸素剤を入れて密封したシーラー容器に梱包して保管している。ただし、この処理は一時的であり、将来的には脱塩・含侵を施していない鉄製品についても保存処理を実施していく必要がある。

第8節　礫

本資料体には、礫が200点弱含まれている。棒状礫や板状礫もあるが、大部分は円礫である。石材は多種類に及び、チャート、泥岩、頁岩、瑪瑙（メノウ）、安山岩などである。一部には熱破砕の痕跡があるため、ボイリングストーンなどの調理用具として利用された可能性がある。
なお、大場（1957）に石器として報告された中に、愛玩石と分類された加工痕をもたない小礫のグループがある。これらは､「装飾品とほぼ同様に愛玩されたものと考えられる種類の自然石類」（大場前掲：217-218）である。採集した児玉作左衛門は、モヨロ貝塚を残した人々が装飾品として愛玩した可能性を考慮している（大場前掲)。戦後の調査では、第7号竪穴住居の床面からの出土が報告されている（名取1948)。多彩な色調の平滑な石である特徴からは、少なくとも人間が何らかの意図をもって遺跡へ搬入した礫であると考えられる。

第9節　その他

文化遺物とみなせるもののその性質が明確でない遺物、および炭化物や土壌サンプルなどの自然遺物を「その他」へ一括している。文化遺物には、一銭銅貨、土製品、土玉、陶器、青小玉（ガラス玉)、赤色顔料、土製品、粘土塊、ガラス片、木製品などである。土製品には擦文文化期と考えられる紡錘車（M2-5-1-999-396-1）が含まれる。土玉は、直径3～4cmの球状の土製品である。敲石や投弾としての利用が推定された「円石」（大場1957：205）に酷似する。実際、円石へ分類された遺物の一部は土製品であることから、本書ではそれらは土玉へ分類している。土玉と同様な形状と大きさをもつ土製品は、川西オホーツク遺跡などのオホーツク文化期の遺物に類例があり、投弾のほかに玩具や儀礼具として用いられた可能性が指摘されている（種石2022)。粘土塊は、数センチ程の粘土が固まった褐色の塊で、焼成によって固化したのかは不明である。

第３章　まとめ

学史を振り返れば、モヨロ貝塚は 1936 年（昭和 11 年）に史跡指定されたように、文化財保護法が制定される以前から保護されるべき重要な遺跡として認められていた。しかし、戦時中に海軍の軍事施設工事による削平を受けることになった。転じて、戦後すぐに結成された東京大学と北海道大学の研究者を中心とした調査団が主体的な発掘調査を実施した。北海道大学医学部解剖学教室は、戦中・戦後を通じてモヨロ貝塚の調査の主体者だった。

本書に掲載したモヨロ貝塚出土の遺物は、戦中・戦後に行われた発掘調査からもたらされた資料である。戦中と戦後では調査の動因（緊急と学術）が異なることもあり、とくに戦中に回収された遺物には付随すべき空間的な情報（出土した地区や層位）が欠落することがほとんどである。一方、戦後の調査で発掘された遺物は地区と層位が概ね記録されているものの、貝塚の層位を記録した図面や調査写真などの一次記録が伴わない。そのため、今日の埋蔵文化財調査では通常となる出土層位や住居内の出土状況に関する詳細な情報を再現することは難しい。こうした問題はあるが、モヨロ貝塚に比肩しうる程の多種多様で豊富な遺物をもたらすオホーツク文化の遺跡はほとんどみられない。研究者らが指摘するように、多数の住居と墓域が重層的かつ連続的に広がる点も特殊であり（天野・小野 2006）、骨塚にみられる祭祀活動や交易によって入手した刀剣類が集積する点でも特異な集落である（熊木 2023、高畠 2005）。

オホーツク文化の系統やそれを担った人々の民族的な出自に関する議論も、戦後のモヨロ貝塚の調査が嚆矢である（菊池 1987）。モヨロ貝塚が「オホーツク文化期の標準遺跡とされるべき貴重な遺跡」（藤本 1965：15）であるという認識は変わらないし、21 世紀現在にあってもオホーツク文化の中でも最も有名な遺跡である（菊池 2009）。

本書は、多彩な遺物群を特徴づける基礎資料の提示を目的とした。不十分な点も少なくないが、本書掲載の資料からモヨロ貝塚の再評価やオホーツク文化に関する更なる理解が深まれば望外である。

引用・参考文献

天野哲也　2003「オホーツク文化とはなにか」、野村崇・宇田川洋（編）『新北海道の古代２　続縄文・オホーツク文化』、pp. 110-133、北海道新聞社、札幌 .

天野哲也・小野裕子　2006「オホーツク文化研究におけるモヨロ貝塚の意義」、天野哲也（編）『骨から探るオホーツク人の生活とルーツ　シンポジウム』、pp.8-16、北海道大学総合博物館、札幌 .

伊藤昌一　1964「モヨロ貝塚における埋葬状態及び人骨（頭蓋）」、駒井和愛（編）『オホーツク海沿岸・知床半島の遺跡　下巻　常呂・宇登呂・羅臼の遺跡　[別篇] 網走モヨロ貝塚』、pp.20-41、東京大学文学部、東京 .

臼杵　勲　1985「古墳出土鉾の分類と編年」『日本古代文化研究』2、1-7.

内山幸子　2014『イヌの考古学』、同成社、東京 .

江田真毅・天野哲也・小野裕子（編）　2024『オホーツク文化の研究５　目梨泊遺跡（２）』（北海道大学総合博物館研究報告大９号）、札幌 .

大井晴男　1970「擦文文化とオホーツク文化の関係について」『北方文化研究』４、21-70.

大井晴男　1976「オホーツク文化の船」『北方文化研究』10、1-30.

大塚和義　1998「オホーツク文化における矢の一括セット資料について」『北方の考古学』、pp.395-404、野村崇先生還暦記念論集刊行委員会

大場利夫　1950「モヨロ貝塚出土の骨角器雑考」『考古学雑誌』36-4、25-29.

大場利夫　1955「モヨロ貝塚出土の骨角器」『北方文化研究報告』10、173-249.

大場利夫　1956「モヨロ貝塚出土のオホーツク式土器」『北方文化研究報告』11、187-256.

大場利夫　1957「モヨロ貝塚出土の石器」『北方文化研究報告』12、167-221.

大場利夫　1961「モヨロ貝塚出土の土器　二　―所謂前北式・後北式・擦文式土器―」『北方文化研究報告』16、143-178.

大場利夫　1962「モヨロ貝塚出土の金属器」『北方文化研究報告』17、165-196.

大場利夫・大井晴男（編）1976『香深井遺跡　上』東京大学出版会、東京 .

金盛典夫　1982「北見地方の土器」、加藤晋平・小林達雄・藤本　強（編）『縄文文化の研究６　続縄文・南東文化』、pp.103-114.

菊池徹夫　1987「北方文化論―オホーツク人の系譜を求めて―」、桜井清彦・坂詰秀一（編）『論争・学説　日本の考古学　第１巻総論』、pp. 251-285.

菊池俊彦　2009『オホーツクの古代史』平凡社、東京 .

北構保男　1988「名取武光先生とラブレット」『北海道考古学』24、16-19.

熊木俊朗　2018『オホーツク海南岸地域古代土器の研究』北海道出版企画センター、札幌 .

熊木俊朗　2023「オホーツク文化の集落と社会」『季刊考古学・別冊 42　北海道考古学の最前線』、90-93.

河野広道　1933「北海道式薄手縄文土器群」『北海道原始文化聚英』、pp.16-21、犀川会編、札幌市 .

河野広道　1958「先史時代編」『網走市史上巻』、pp.1-280、網走市史編纂委員会、網走市 .

越田賢一郎　2004「鉄鍋再考」『アイヌ文化の成立』、pp.457-492、宇田川洋先生華甲記念論文集刊行実行委員会、北海道出版企画センター .

児玉作左衛門　1948『モヨロ貝塚』北海道原始文化研究会出版部、札幌市 .

児玉作左衛門　1950「モヨロ貝塚の埋葬に就て」『考古学雑誌』36-4、22-24.

駒井和愛（編）1964a『オホーツク海沿岸・知床半島の遺跡　下巻　常呂・宇登呂・羅臼の遺跡　[別篇] 網走モヨロ貝塚』東京大学文学部、東京 .

駒井和愛　1964b「モヨロ貝塚の発掘」、駒井和愛（編）『オホーツク海沿岸・知床半島の遺跡　下巻　常呂・宇登呂・羅臼の遺跡　[別篇] 網走モヨロ貝塚』、pp.7-19、東京大学文学部、東京 .

斎藤　忠　1964「最寄（モヨロ）貝塚の調査の沿革」、駒井和愛（編）『オホーツク海沿岸・知床半島の遺跡　下巻　常呂・宇登呂・羅臼の遺跡　[別篇] 網走モヨロ貝塚』、pp.1-6、東京大学文学部、東京 .

佐藤達夫　1964「附・モヨロ貝塚の縄文，続縄文及び擦文土器について」、駒井和愛（編）『オホーツク海沿岸・知床半島の遺跡　下巻　常呂・宇登呂・羅臼の遺跡　[別篇] 網走モヨロ貝塚』、pp.89-96、東京大学文学部、東京 .

佐原　真　1994『斧の文化史』東京大学出版会、東京 .
高橋　健　2003「モヨロ貝塚出土の銛頭」『東京大学考古学研究室研究紀要』18、1-34.
高橋　健　2008『日本列島における銛猟の考古学的研究』北海道出版企画センター
高橋　健　2021「モヨロ貝塚出土の牙製婦人像」『東京大学考古学研究室研究紀要』34、131-138.
高橋　健　2023「オホーツク文化の動物意匠遺物集成（1）」『横浜ユーラシア文化館紀要』10、11-40.
高畠孝宗　2005「オホーツク文化における威信財の分布について」、海交史研究会考古学論集刊行会（編）『海と考古学』、pp.23-44.
高山　純　1969「古アジア族のレイブレット (口唇装飾具) とモヨロ貝塚出土の類似品の再検討」『物質文化』13、22-40
種石　悠　2016「オホーツク文化の造形と絵画―展示資料を中心に―」北海道立北方民族博物館（編）『北海道立北方民族博物館　第 31 回特別展図録　北からの文化の波―北海道の旧石器からオホーツク文化まで―』、pp.33-38.
種石　悠　2022「コリャークのペッゲクンとオホーツク文化の球状石製品」『北海道考古学会だより』132、9.
種石　悠　2023『オホーツク文化の考古学　辺境から眺める古代日本』銀河書籍、大阪 .
塚本浩司　2021「オホーツク人の船」横浜ユーラシア文化館・東京大学大学院人文社会系研究科附属北海文化研究常呂実習施設（編）『オホーツク文化―あなたの知らない古代―』、p.33.
野村　崇　1997『日本の古代遺跡 41　北海道 II』保育社、大阪 .
東京大学大学院人文社会系研究科・文学部 『史跡モヨロ貝塚ガラス乾板写真デジタルアーカイブ 』http://www.l.u-tokyo.ac.jp/moyoro/index.html （2024 年 9 月アクセス）
名取武光　1948『モヨロ遺跡と考古学』講談社支社、札幌 .
名取武光　1974「絵画に現れたオホーツク式土器の舟漁」『アイヌと考古学（二）名取武光著作集 II』北海道出版企画センター、札幌 .
名取武光・大場利夫　1964「モヨロ貝塚出土の文化遺物」、駒井和愛（編）『オホーツク海沿岸・知床半島の遺跡　下巻　常呂・宇登呂・羅臼の遺跡　[別篇] 網走モヨロ貝塚』、pp.42-63、東京大学文学部、東京 .
福井淳一　2005「オホーツク文化の釣針」『北方島文化研究』3、1-16.
藤本　強　1965「オホーツク文化の葬制について」『物質文化』6、15-30.
藤本　強　1966「オホーツク土器について」『考古学雑誌』51-4、15-30.
藤本　強　1979『北辺の遺跡』教育社、東京 .
北海道立北方民族博物館（編） 2016『北海道立北方民族博物館　第 31 回特別展図録　北からの文化の波―北海道の旧石器からオホーツク文化まで―』一般財団法人北方文化振興協会、北海道 .
前田　潮　1974「オホーツク文化とそれ以降の回転式銛頭の型式とその変遷」『史学研究』96、1-35.
村本周三　2018「オホーツク海南岸から太平洋岸におけるオホーツク文化貼付文期の石器組成」『北海道考古学』54、121-130.
横浜ユーラシア文化館・東京大学大学院人文社会系研究科附属北海文化研究常呂実習施設（編） 2021『オホーツク文化―あなたの知らない古代―』、横浜ユーラシア文化館、横浜 .
米村喜男衛　1935「北海道網走町モヨリ貝塚中の人骨埋葬に就いて」『人類学雑誌』50-2、1-10.
米村喜男衛　1943「北方日本の古代文化（五・完）」『考古学』14-4、136-144.
米村喜男衛　1950『モヨロ貝塚資料集』、網走郷土博物館、網走 .
米村喜男衛　1969『モヨロ貝塚』講談社、東京 .
米村　衛　2004『北辺の海の民・モヨロ貝塚』新泉社、東京 .
米村　衛・梅田広大（編） 2009『史跡モヨロ貝塚―平成 15 ～ 20 年度　史跡最寄貝塚史跡等・登録記念物保存修理事業発掘調査報告書―』網走市教育委員会、網走市 .
和田英昭　2006「モヨロ貝塚の再調査から」、天野哲也（編）『骨から探るオホーツク人の生活とルーツ　シンポジウム』、pp.17-25、北海道大学総合博物館、札幌 .

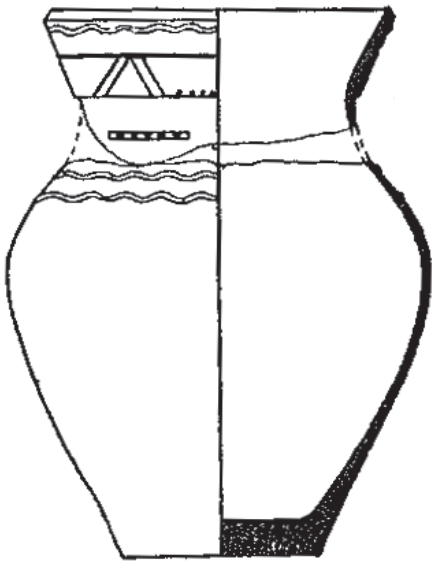
図版

PLATE

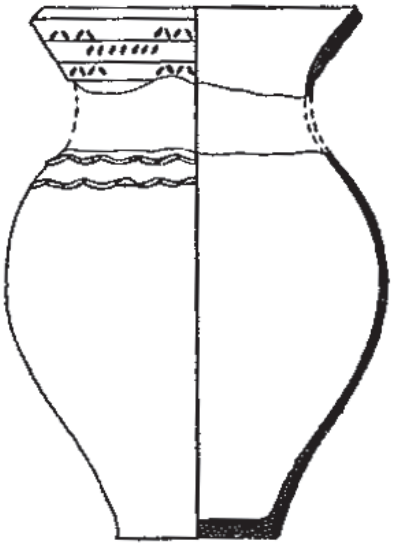
PLATE 1　土器

オホーツク土器

大場（1956）第9図より



b.12



b.13

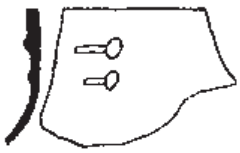
大場（1956）第10図より



b.294



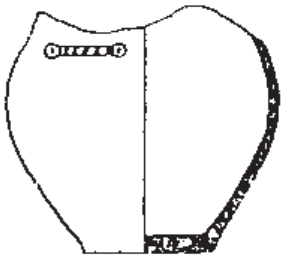
b.295



b.293



b.290



b.23

0　10cm

PLATE 2　土器

オホーツク土器

大場（1956）第9図より



b.12

M1-99-1-999-34-1＆M1-99-1-999-36-1＆
M1-99-1-999-37-1＆M1-99-1-999-68-2



b.13

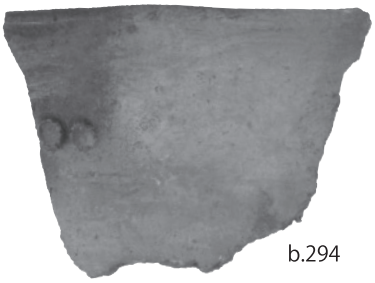
M1-99-1-999-49-1



b.13

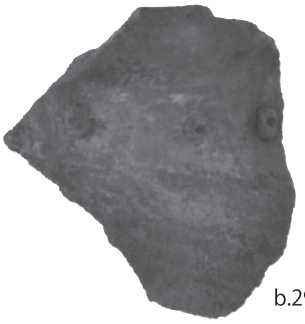
M1-99-1-999-47-1＆
M1-99-1-999-49-2＆
M1-99-1-999-50-1

大場（1956）第10図より



b.294

M1-99-1-999-65-6



b.295

M1-99-1-999-61-29



b.293

M1-99-1-999-64-6



b.290

M1-99-1-999-61-28



b.23

M1-99-1-999-70-3

0　5cm

PLATE 3　土器

オホーツク土器　（大場 1956　第16図より）

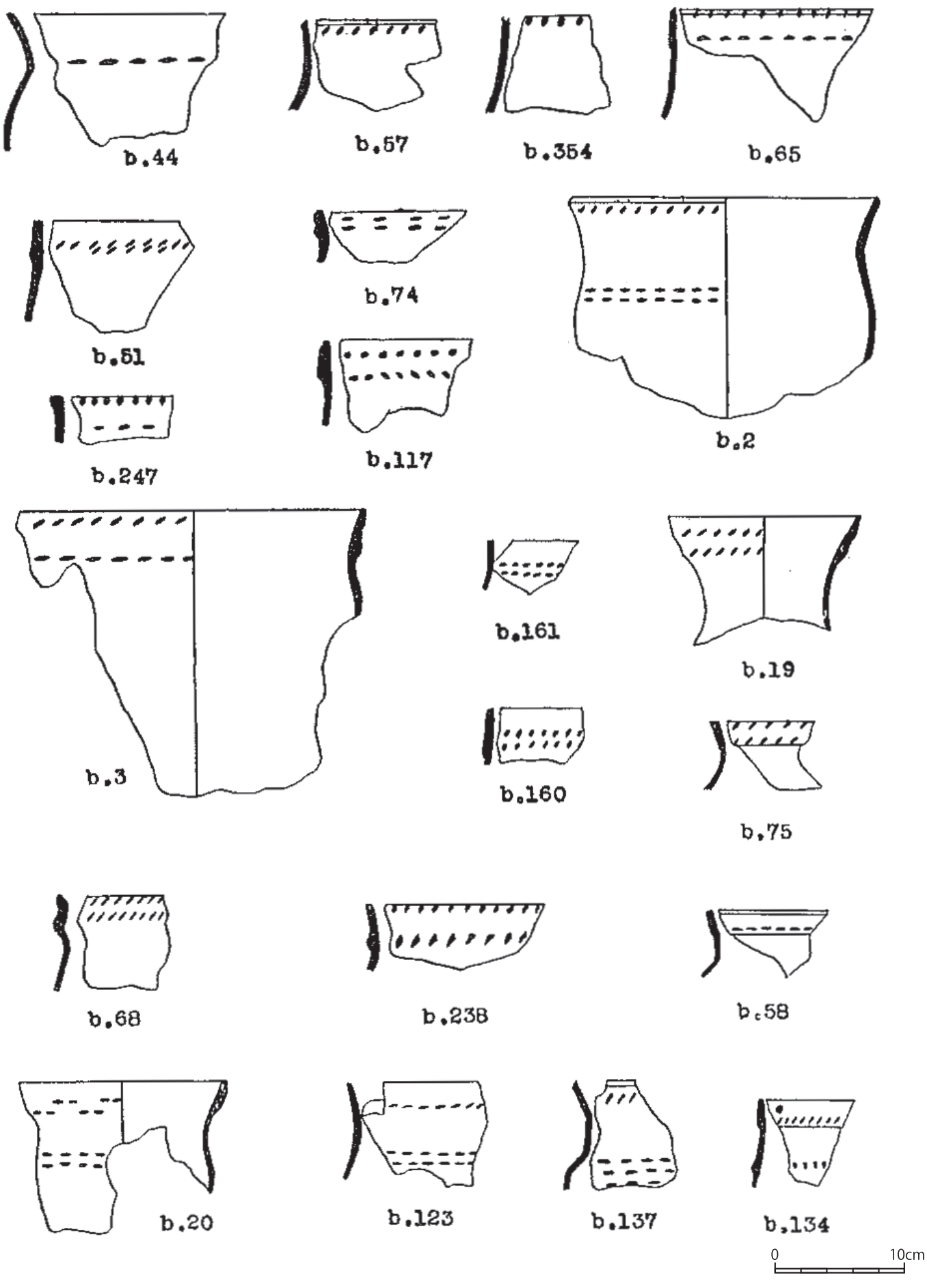


PLATE 4　土器

オホーツク土器

大場（1956）第16図より



b.44

M1-99-1-999-54-11



b.51

M1-99-1-999-54-12



b.74

M1-99-1-999-58-2



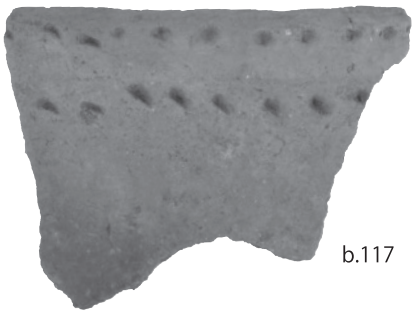
b.2

M1-99-1-999-33-2



b.247

M1-99-1-999-58-4



b.117

M1-99-1-999-61-15



b.3

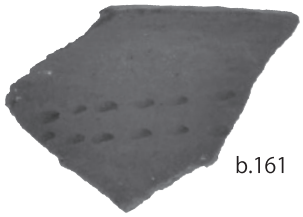
M1-99-1-999-42-2

0　5cm

PLATE 5　土器

オホーツク土器

大場（1956）第16図より



b.161

M1-99-1-999-61-6



b.19

M1-99-1-999-68-1



b.160

M1-99-1-999-61-5



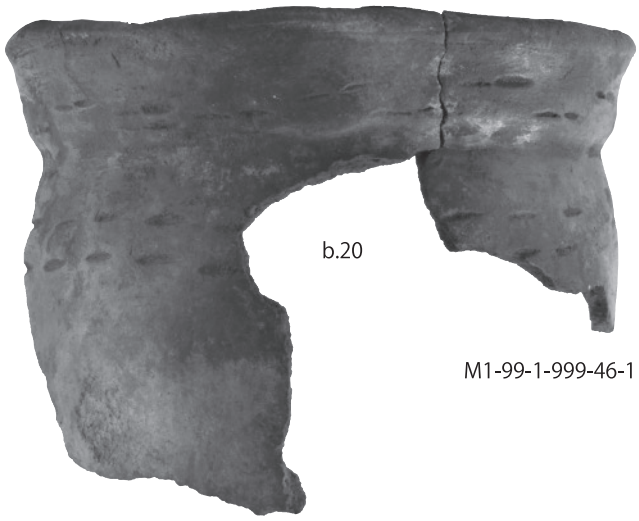
b.75

M1-99-1-999-54-9



b.238

M1-99-1-999-54-5



b.20

M1-99-1-999-46-1



b.58

M1-99-1-999-54-8

M1-99-1-999-35-1



b.123

M1-99-1-999-58-19



b.137

M1-99-1-999-61-16



b.134

M1-99-1-999-61-3

0　5cm

PLATE 6　土器

オホーツク土器 （大場 1956　第17図より）

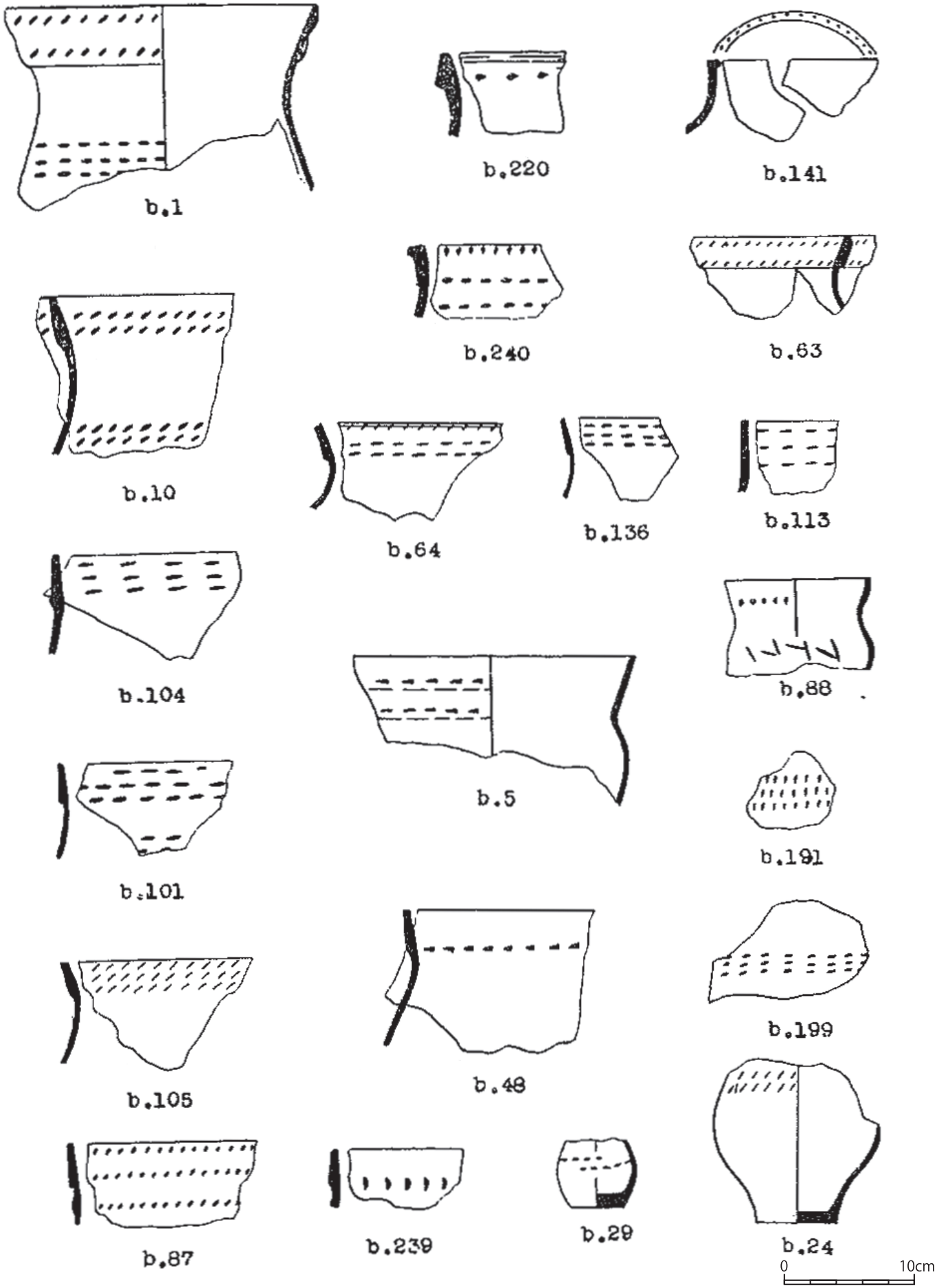


PLATE 7　土器

オホーツク土器

大場（1956）第17図より



b.1

M1-99-1-999-33-1

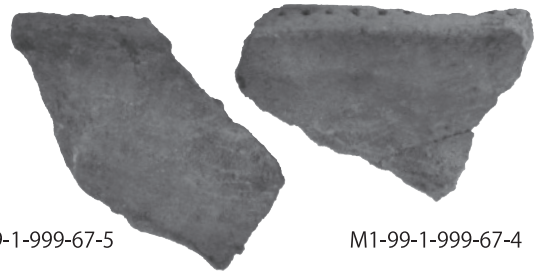


b.220

M1-99-1-999-58-9



b.141



M1-99-1-999-67-5

M1-99-1-999-67-4



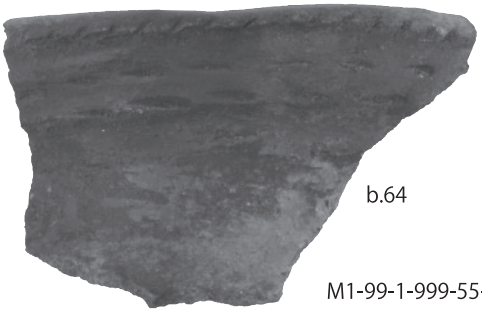
b.10

M1-99-1-999-39-1



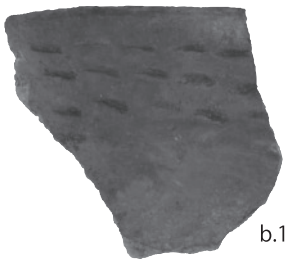
b.63

M1-99-1-999-58-10



b.64

M1-99-1-999-55-8



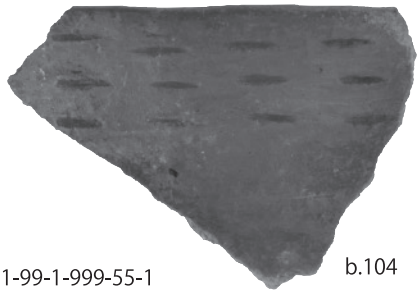
b.136

M1-99-1-999-58-20



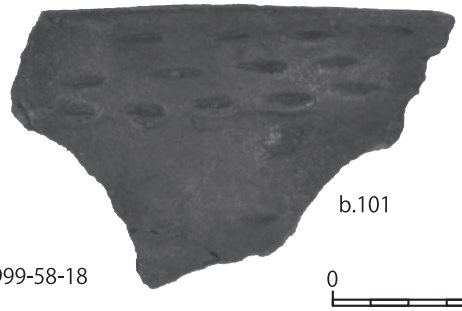
b.113

M1-99-1-999-54-3



M1-99-1-999-55-1

b.104



b.101

M1-99-1-999-58-18

0　5cm

PLATE 8　土器

オホーツク土器

大場（1956）第17図より



M1-99-1-999-68-4

b.5



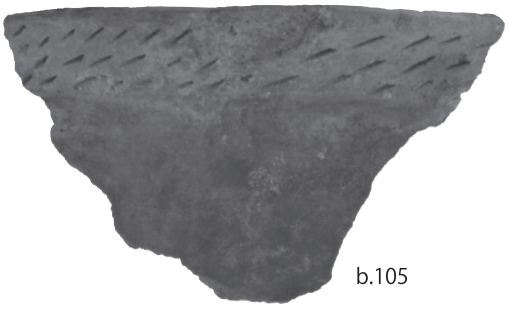
b.88

M1-99-1-999-61-25



b.191

M1-99-1-999-63-9



b.105

M1-99-1-999-57-11



M1-99-1-999-57-10

b.48



b.199

M1-99-1-999-63-11



b.87

M1-99-1-999-58-7



b.24

M1-99-1-999-70-1



b.239

M1-99-1-999-58-6



b.29

M1-99-1-999-52-4

0　5cm

PLATE 9　土器

オホーツク土器　（大場 1956　第18図より）

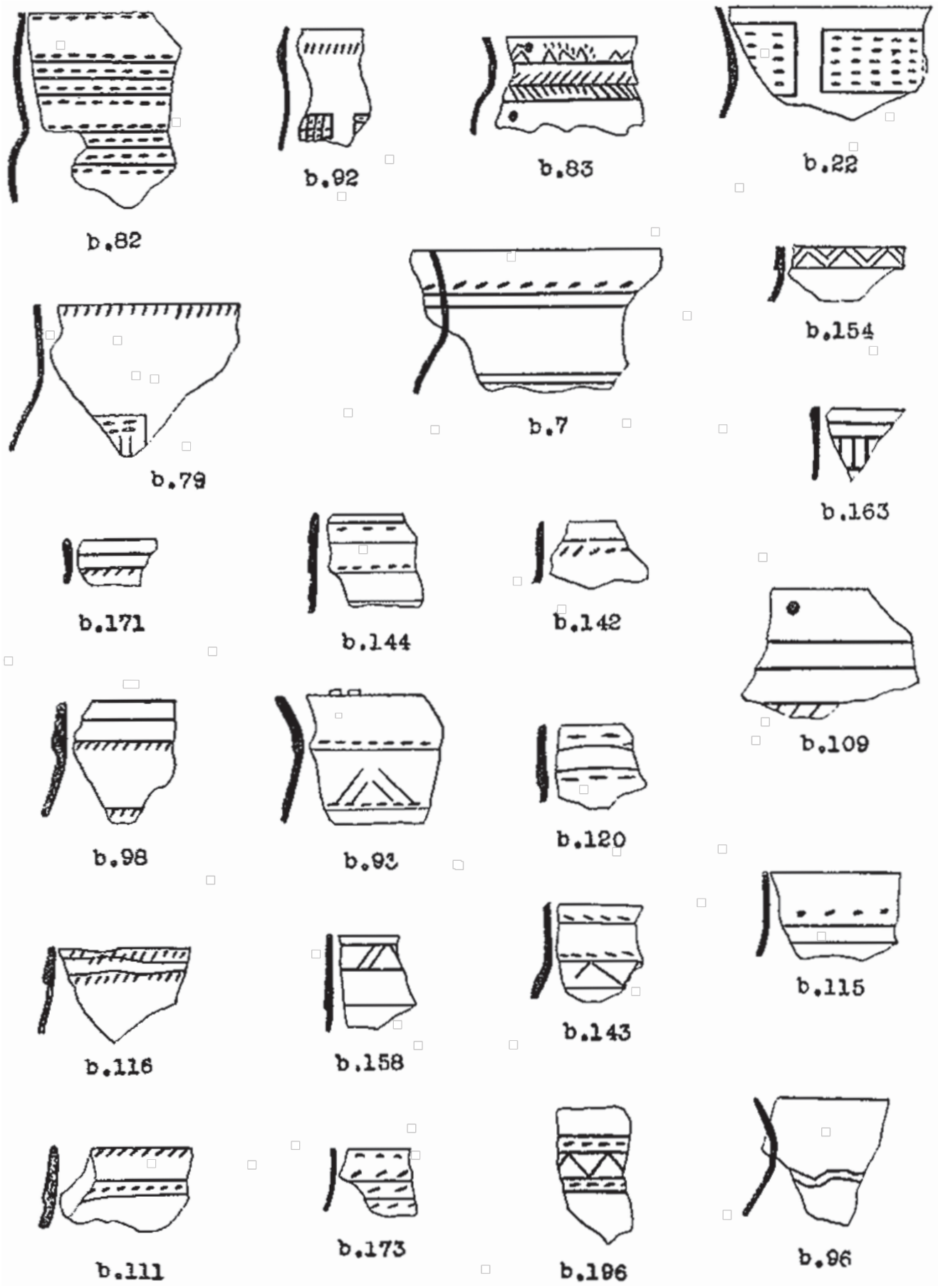


PLATE 10　土器

オホーツク土器

大場（1956）第18図より



b.92

M1-99-1-999-64-5



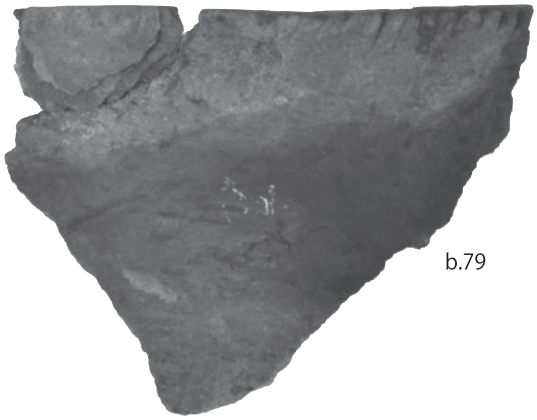
b.83

M1-99-1-999-58-15



b.22

M1-99-1-999-45-1



b.79

M1-99-1-999-64-2



b.7

M1-99-1-999-40-1



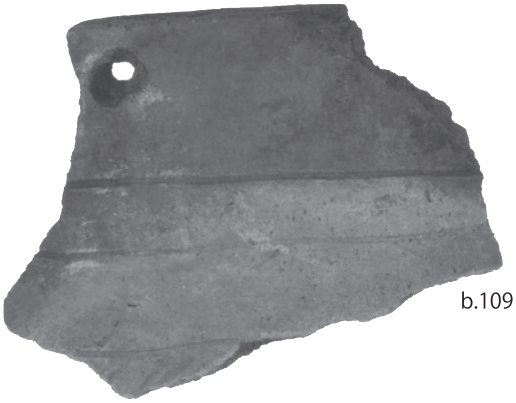
b.163

M1-99-1-999-67-3



b.171

M1-99-1-999-62-23



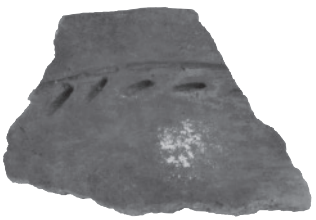
b.109

M1-99-1-999-62-14



b.144

M1-99-1-999-62-19



b.142

M1-99-1-999-62-18

0　5cm

PLATE 11　土器

オホーツク土器

大場（1956）第18図より

▼

b.98

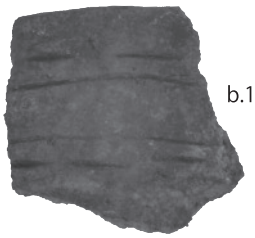


M1-99-1-999-64-7



b.93

M1-99-1-999-61-19



b.120

M1-99-1-999-62-17



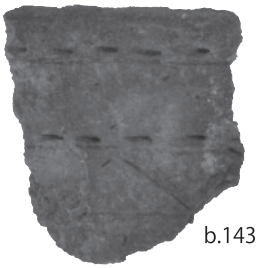
b.116

M1-99-1-999-61-2



b.158

M1-99-1-999-65-1



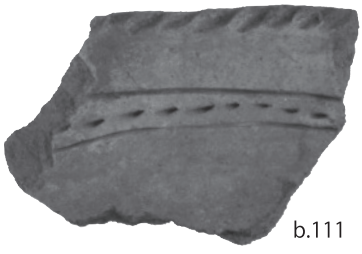
b.143

M1-99-1-999-66-7



b.115

M1-99-1-999-62-16



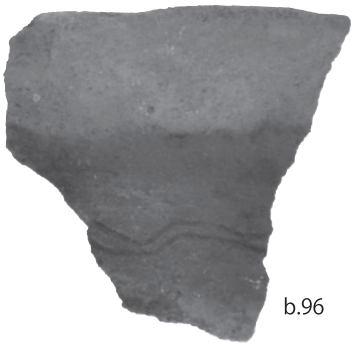
b.111

M1-99-1-999-58-3



b.196

M1-99-1-999-67-18



b.96

M1-99-1-999-62-13

▼ 実測図対応遺物

0　5cm

PLATE 12　土器

オホーツク土器　（大場 1956　第19図より）

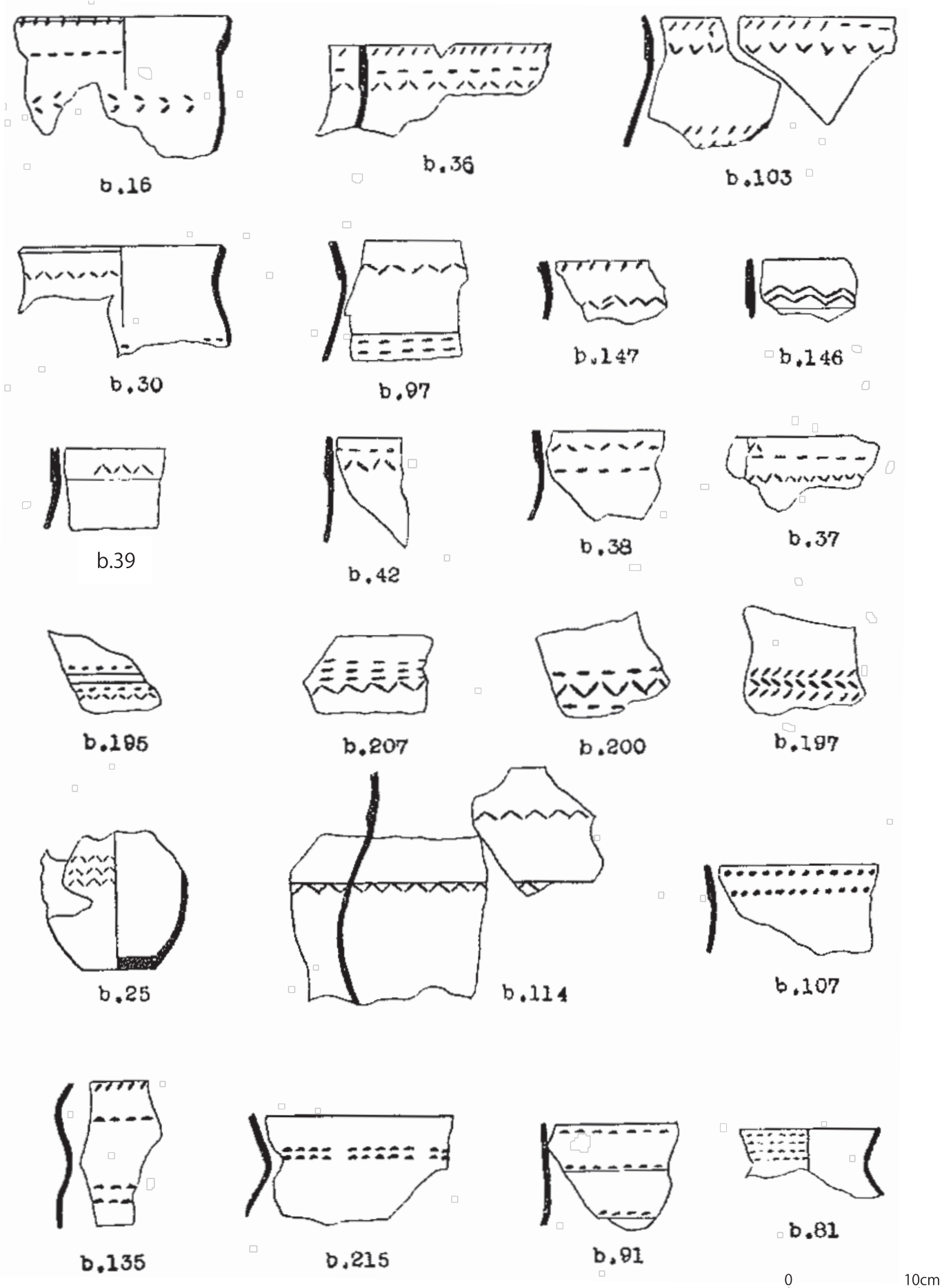


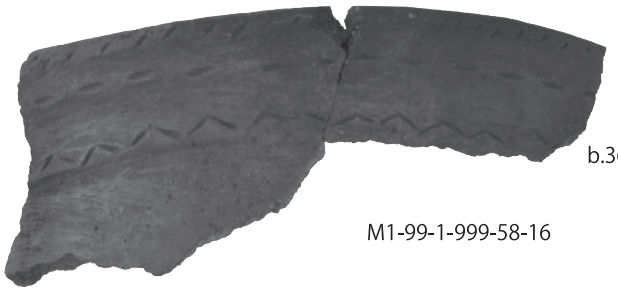
PLATE 13　土器

オホーツク土器

大場（1956）第19図より

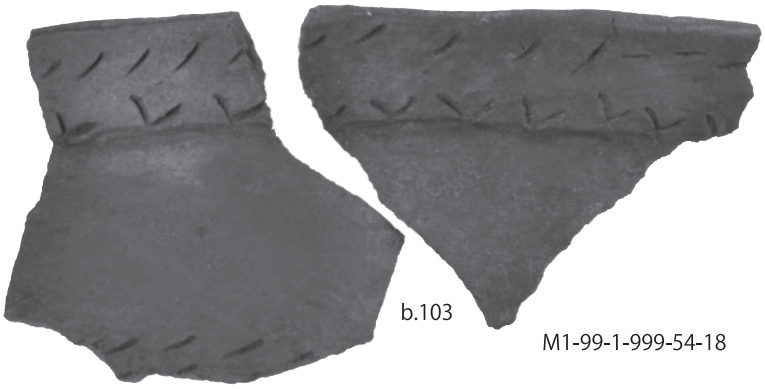


M1-99-1-999-33-3　b.16



b.36

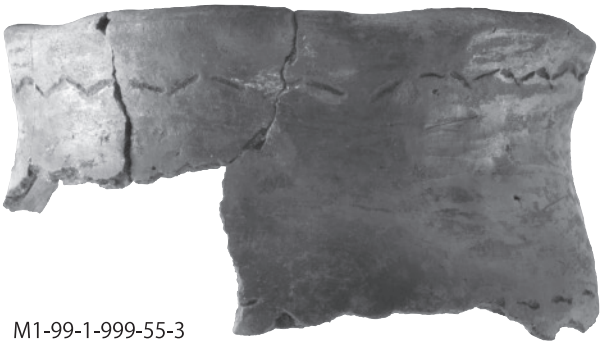
M1-99-1-999-58-16



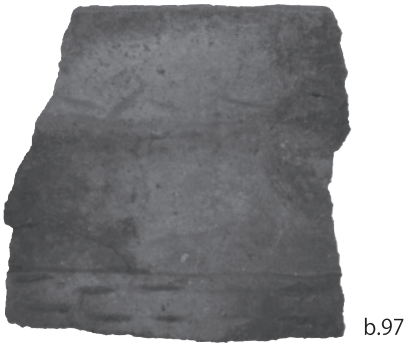
b.103

M1-99-1-999-54-18

M1-99-1-999-54-17



M1-99-1-999-55-3　b.30



b.97

M1-99-1-999-58-23



b.147

M1-99-1-999-66-4



b.146

M1-99-1-999-62-20



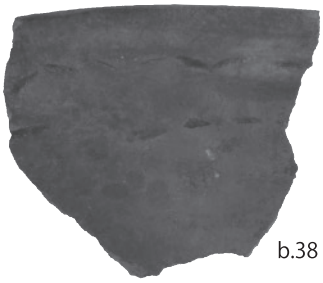
b.39

M1-99-1-999-67-6



b.42

M1-99-1-999-58-17



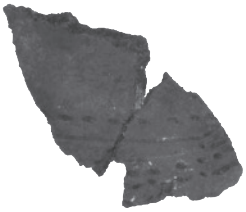
b.38

M1-99-1-999-58-1



b.37

M1-99-1-999-58-8



b.195

M1-99-1-999-63-22



PLATE 14　土器

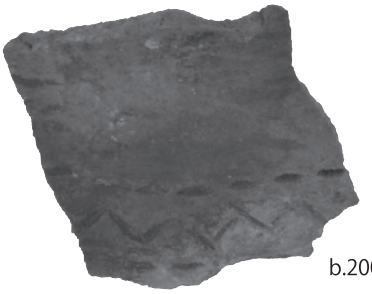
オホーツク土器

大場（1956）第19図より



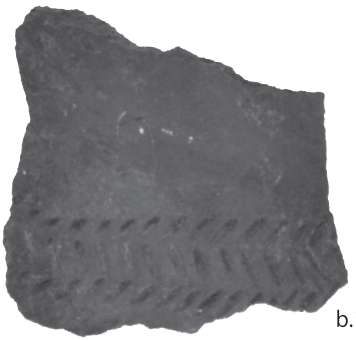
b.207

M1-99-1-999-63-14



b.200

M1-99-1-999-17-19



b.197

M1-99-1-999-17-18



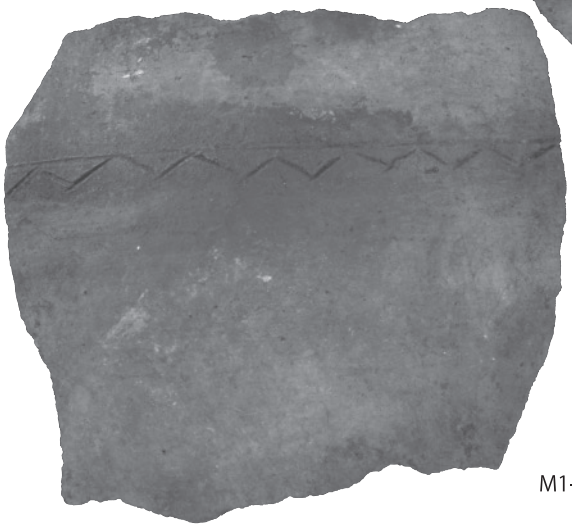
b.25

M1-99-1-999-70-2

b.114



M1-99-1-999-62-15



M1-99-1-999-62-41



M1-99-1-999-64-4

b.107



b.215

M1-99-1-999-55-10



b.91

M1-99-1-999-61-1

0　5cm

PLATE 15　土器

オホーツク土器 （大場 1956　第20図より）

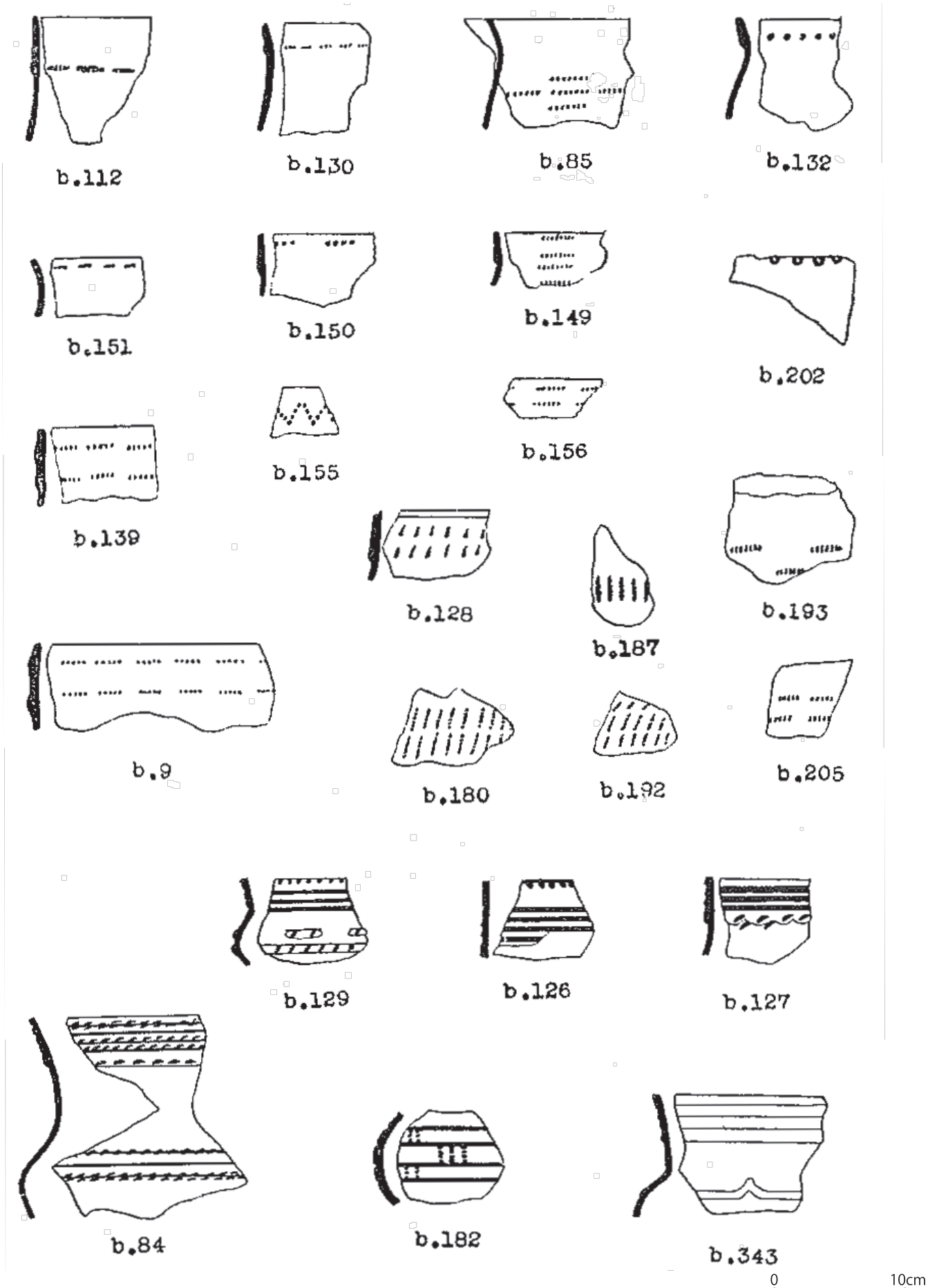


PLATE 16　土器

オホーツク土器

大場（1956）第20図より

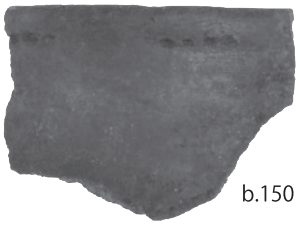

b.112
M1-99-1-999-67-11


b.130
M1-99-1-999-62-4


b.85
M1-99-1-999-66-6


b.132
M1-99-1-999-61-26

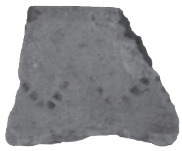

b.151
M1-99-1-999-61-4


b.150
M1-99-1-999-67-2


b.149
M1-99-1-999-62-5

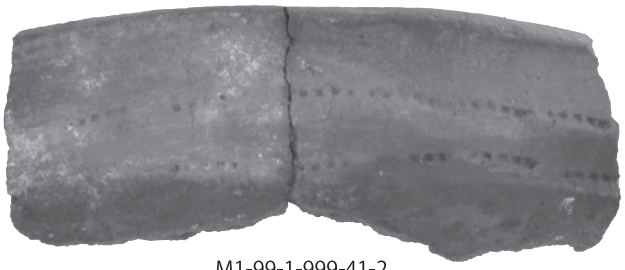

b.202
M1-99-1-999-63-23


b.139
M1-99-1-999-66-3

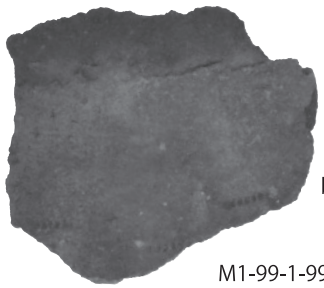

b.155
M1-99-1-999-62-6


b.156
M1-99-1-999-54-2

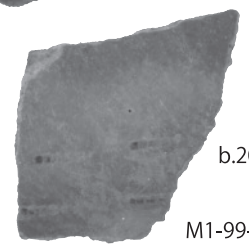

b.128
M1-99-1-999-62-3

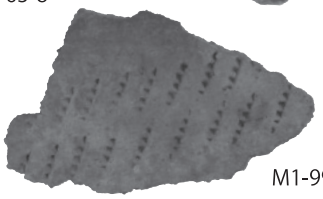

b.9
M1-99-1-999-41-2


b.187
M1-99-1-999-63-8

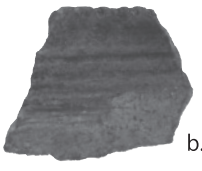

b.193
M1-99-1-999-63-10

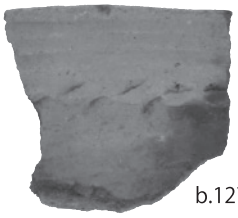

b.192
M1-99-1-999-67-13


b.205
M1-99-1-999-63-13


b.180
M1-99-1-999-63-7


b.129
M1-99-1-999-61-12


b.126
M1-99-1-999-17-1


b.127
M1-99-1-999-16-1


b.343
M1-99-1-999-67-12

0　5cm

PLATE 17　土器

オホーツク土器　（大場 1956　第21図より）

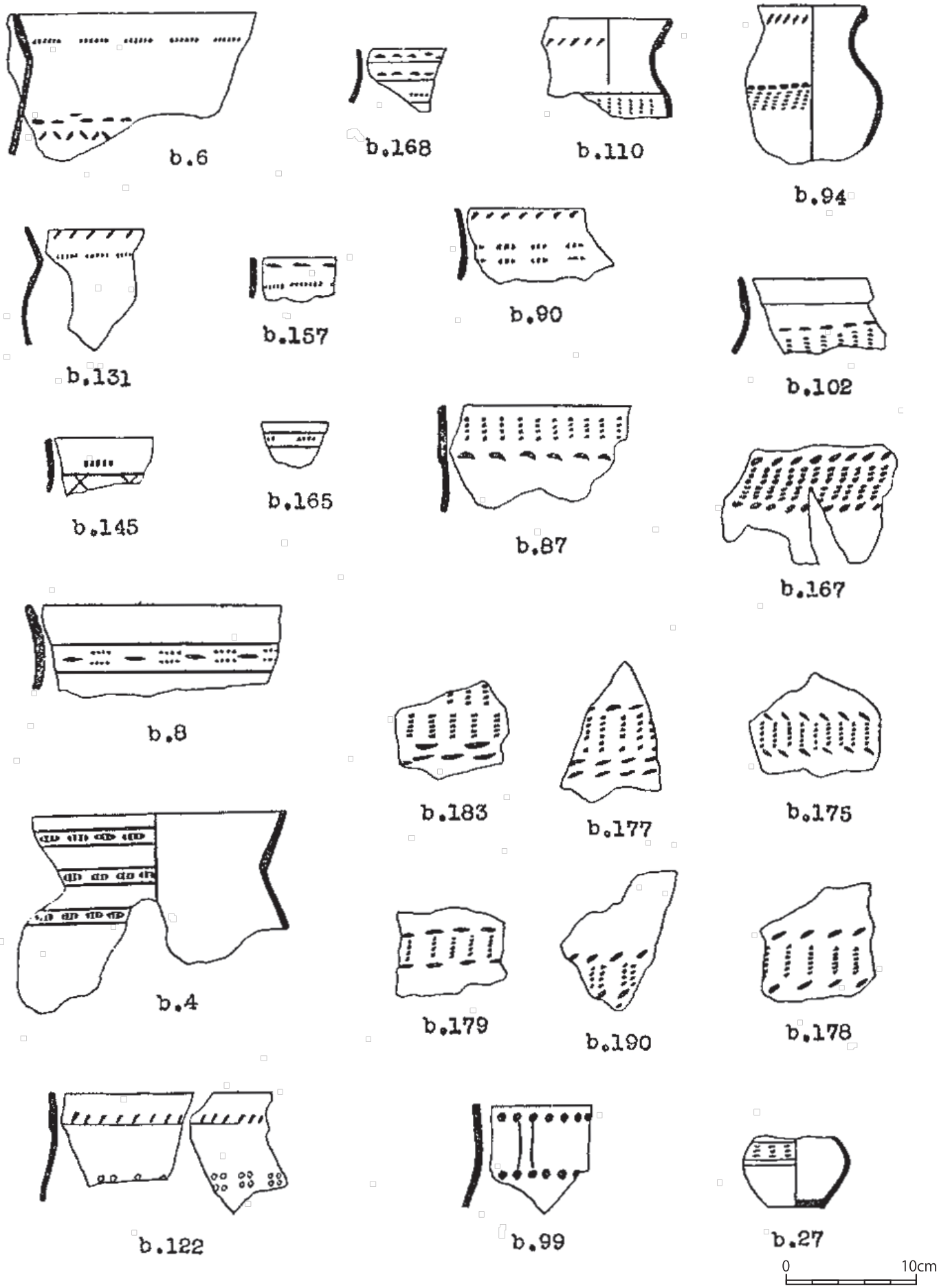
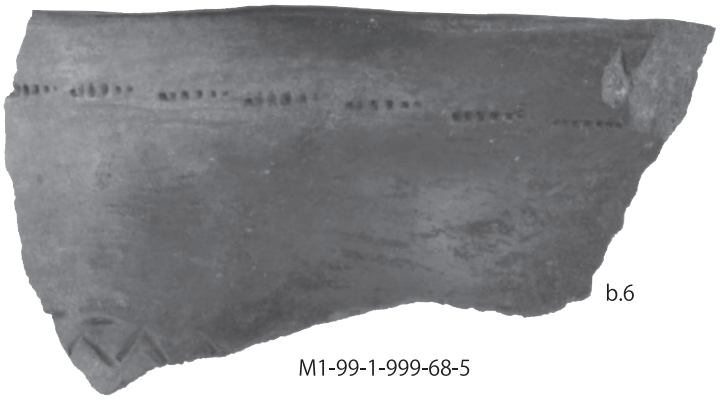


PLATE 18　土器

オホーツク土器

大場（1956）第21図より



b.6

M1-99-1-999-68-5



b.168

M1-99-1-999-62-22



b.110

M1-99-1-999-67-7



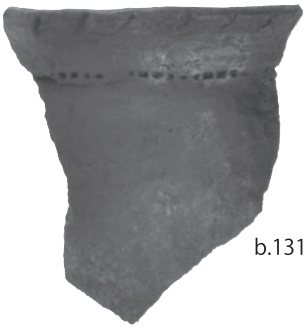
b.90

M1-99-1-999-62-2



b.94

M1-99-1-999-18-7



b.131

M1-99-1-999-67-8



b.102

M1-99-1-999-61-18



b.145

M1-99-1-999-66-1



b.165

M1-99-1-999-62-21



b.87

M1-99-1-999-62-1



b.167

M1-99-1-999-17-17



b.8

M1-99-1-999-38-1

0　5cm

PLATE 19　土器

オホーツク土器

大場（1956）第21図より



b.183

M1-99-1-999-66-9



b.177

M1-99-1-999-63-5



b.175

M1-99-1-999-63-4



b.4

M1-99-1-999-68-3



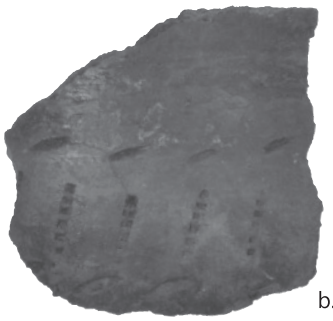
b.179

M1-99-1-999-63-21



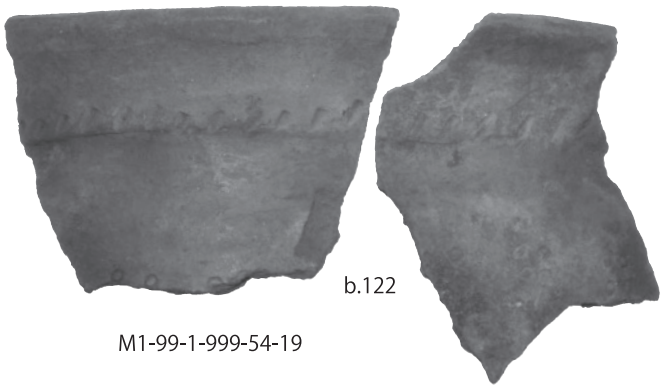
b.190

M1-99-1-999-62-28



b.178

M1-99-1-999-63-6



b.122

M1-99-1-999-54-19

M1-99-1-999-54-20



b.99

M1-99-1-999-54-16



b.27

M1-99-1-999-52-3

0　5cm

PLATE 20　土器

オホーツク土器　（大場 1956　第22図より）

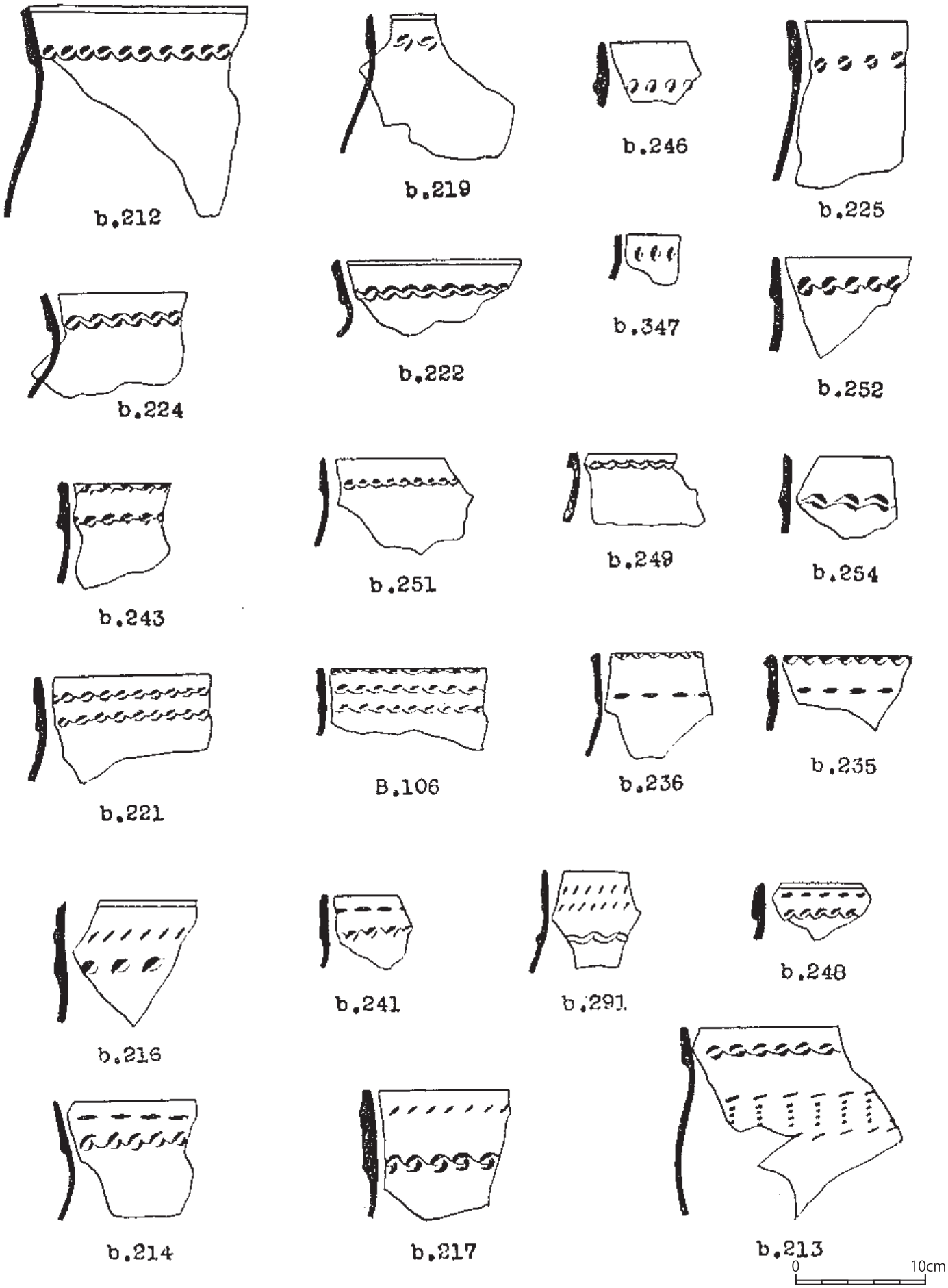
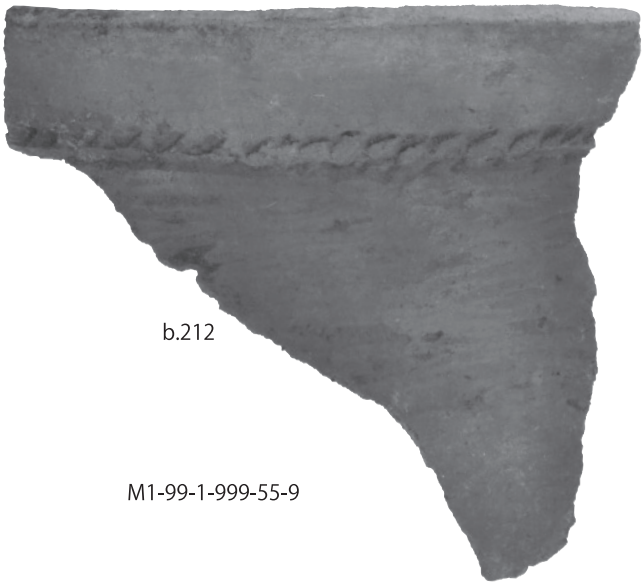


PLATE 21　土器

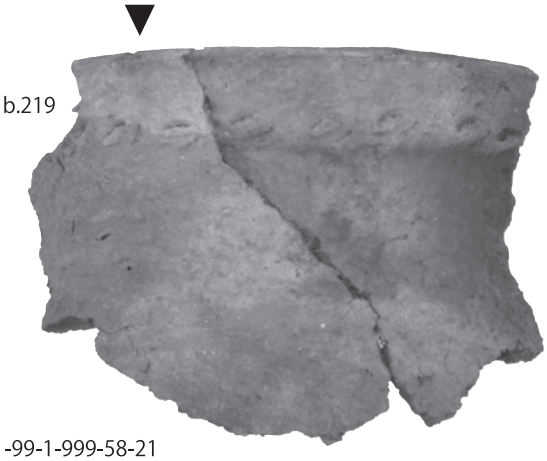
オホーツク土器

大場（1956）第22図より



b.212

M1-99-1-999-55-9



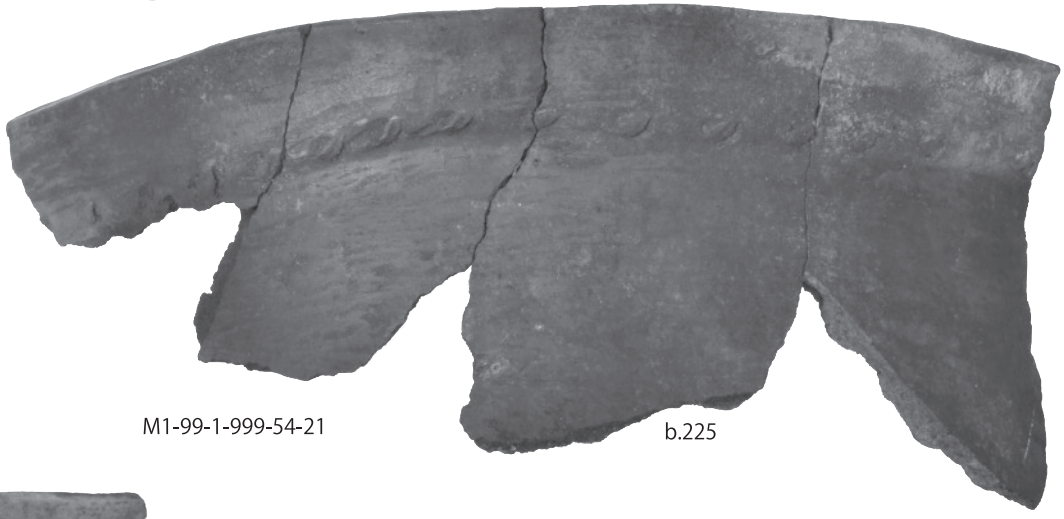
b.219

M1-99-1-999-58-21



b.246

M1-99-1-999-17-4



M1-99-1-999-54-21

b.225



b.224

M1-99-1-999-17-10



b.222

M1-99-1-999-17-2



b.347

M1-99-1-999-58-5



b.252

M1-99-1-999-56-7



b.251

M1-99-1-999-54-22

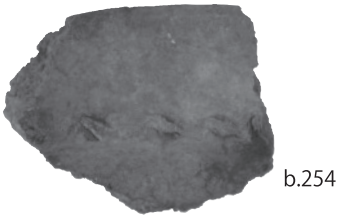
▼ 実測図対応遺物

0　5cm

PLATE 22　土器

オホーツク土器

大場（1956）第22図より



b.254

M1-99-1-999-17-5



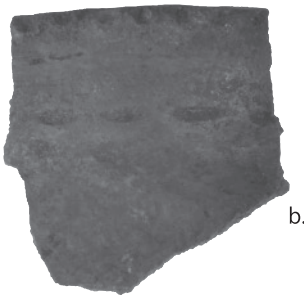
b.221

M1-99-1-999-58-12



B.106

M1-99-1-999-58-14



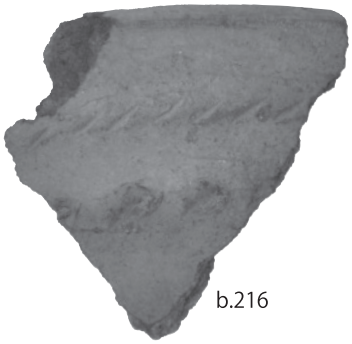
b.236

M1-99-1-999-56-5



b.235

M1-99-1-999-56-1



b.216

M1-99-1-999-54-10



b.241

M1-99-1-999-58-13



b.291

M1-99-1-999-65-2



b.248

M1-99-1-999-57-2



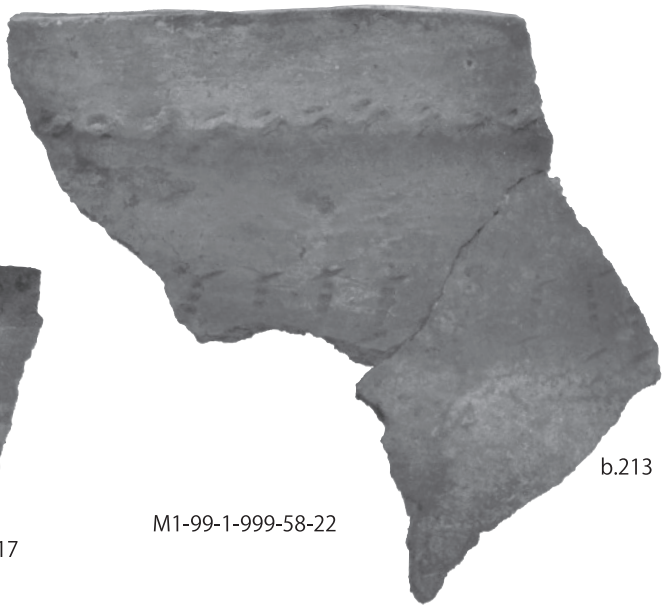
b.214

M1-99-1-999-56-4



b.217

M1-99-1-999-58-11



b.213

M1-99-1-999-58-22

0　5cm

PLATE 23　土器

オホーツク土器 （大場 1956　第23図より）

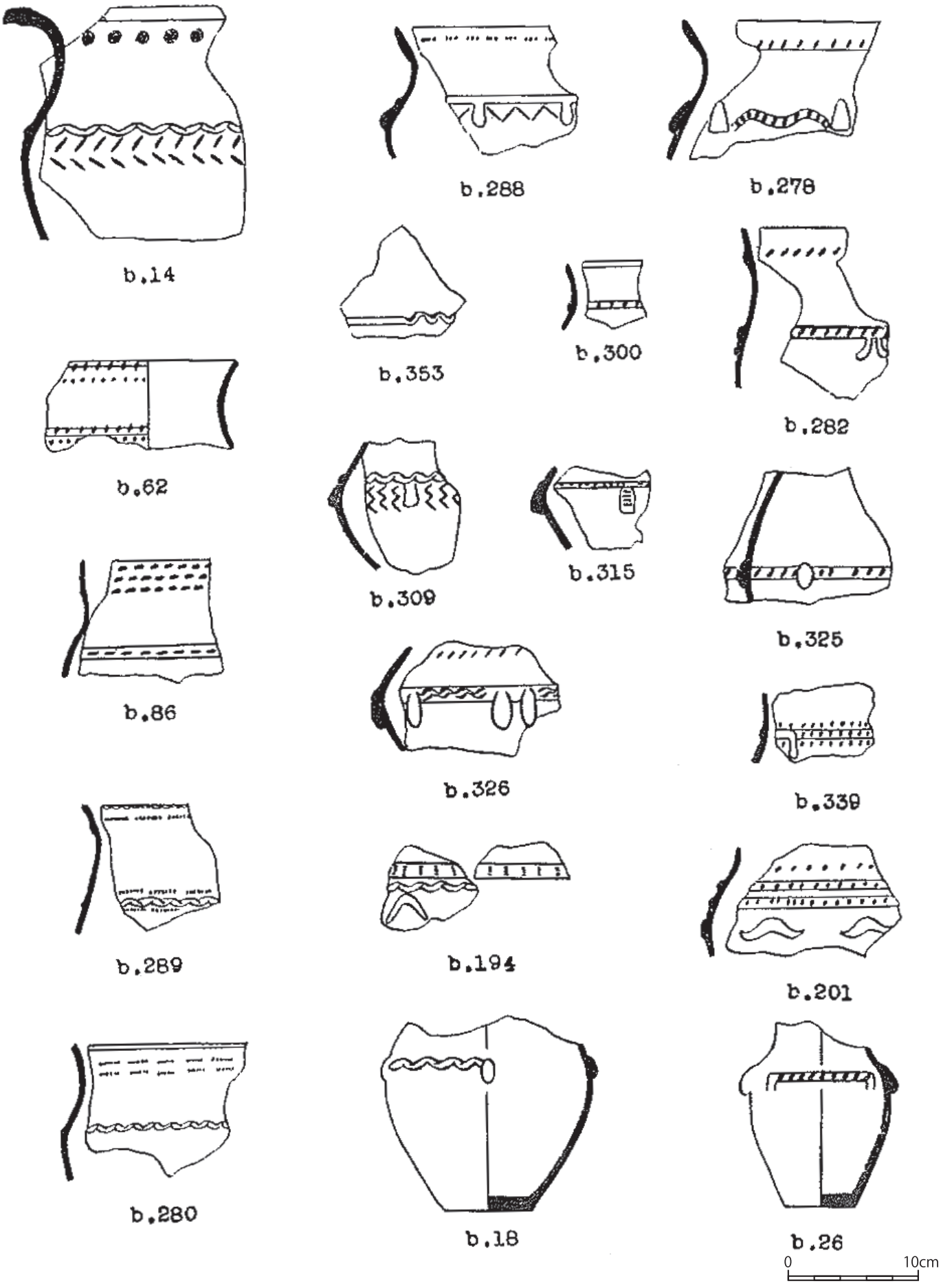
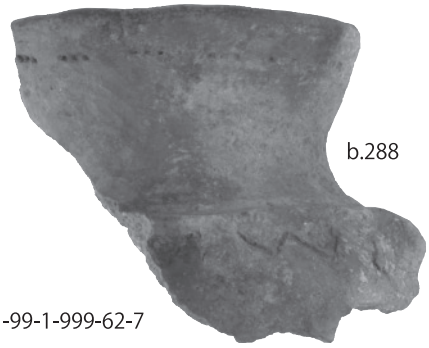


PLATE 24　土器

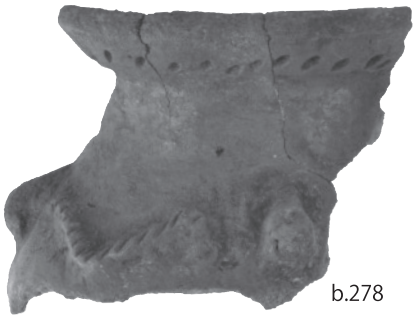
オホーツク土器

大場（1956）第23図より



b.288

M1-99-1-999-62-7



M1-99-1-999-65-4

b.278

▼

M1-99-1-999-66-11

b.353



M1-99-1-999-65-7



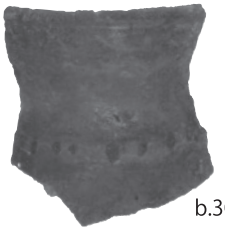
b.62

M1-99-1-999-61-9

▼



b.282



b.300

M1-99-1-999-66-8

M1-99-1-999-67-9&M1-99-1-999-67-10



b.86

M1-99-1-999-64-3



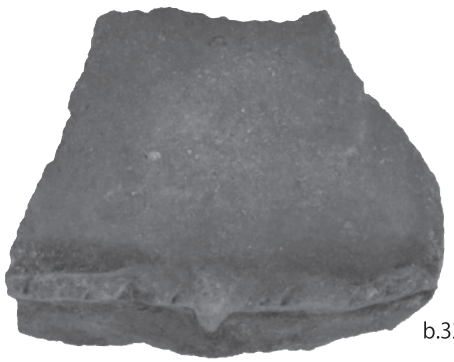
b.309

M1-99-1-999-63-25



b.315

M1-99-1-999-62-33



b.325

M1-99-1-999-63-28

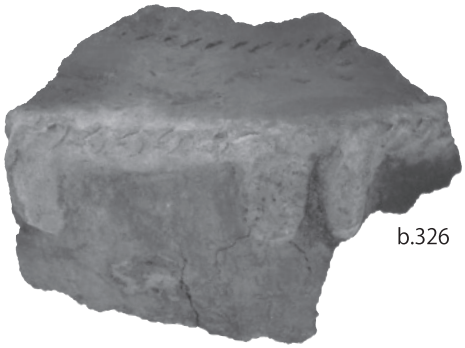
▼ 実測図対応遺物

0　5cm

PLATE 25　土器

オホーツク土器

大場（1956）第23図より



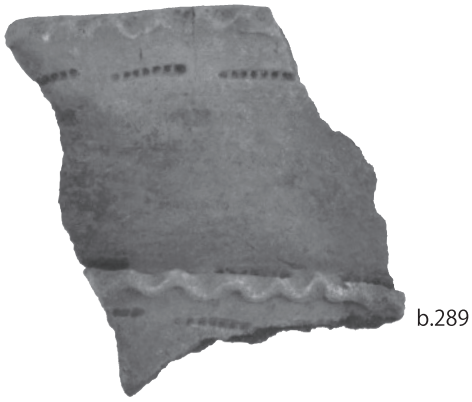
b.326

M1-99-1-999-63-3



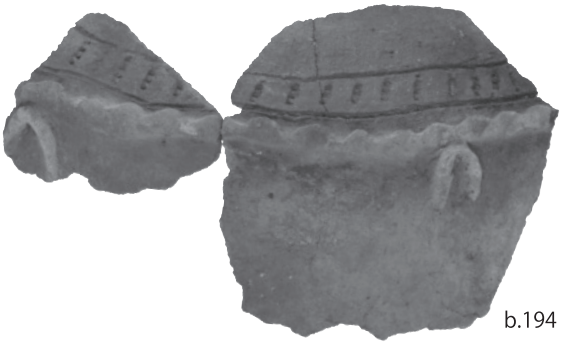
b.339

M1-99-1-999-62-34



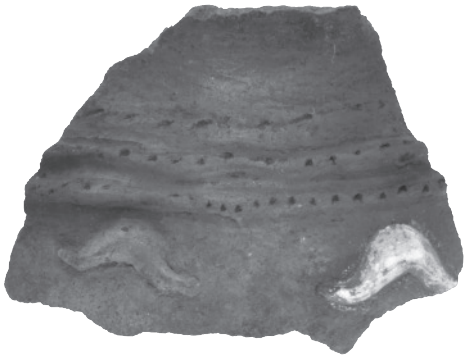
b.289

M1-99-1-999-65-3



b.194

M1-99-1-999-64-8



b.201

M1-99-1-999-63-12



b.18

M1-99-1-999-52-2



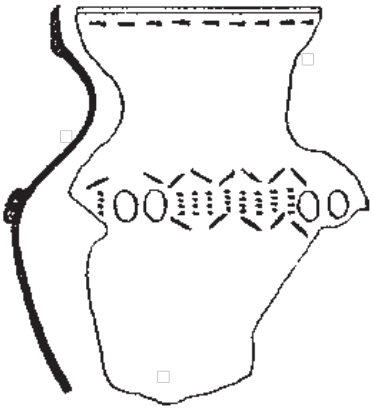
b.26

M1-99-1-999-51-1

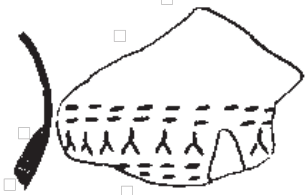
0　5cm

PLATE 26　土器

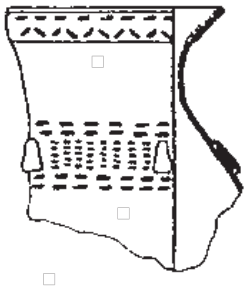
オホーツク土器　（大場 1956　第24図より）



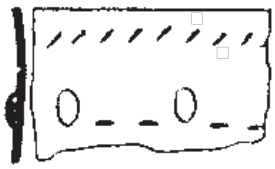
b.17



b.308



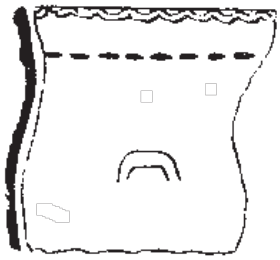
b.21



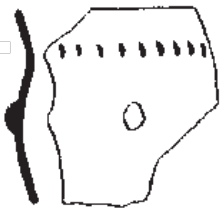
b.276



b.286



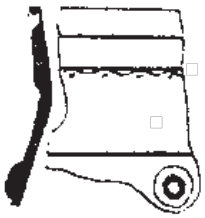
b.284



b.279



b.125



b.292



b.303



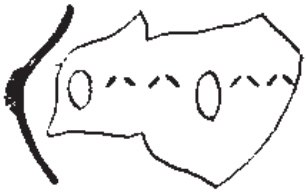
b.281



b.314



b.316



b.311



b.313



b.28



PLATE 27　土器

オホーツク土器

大場（1956）第24図より

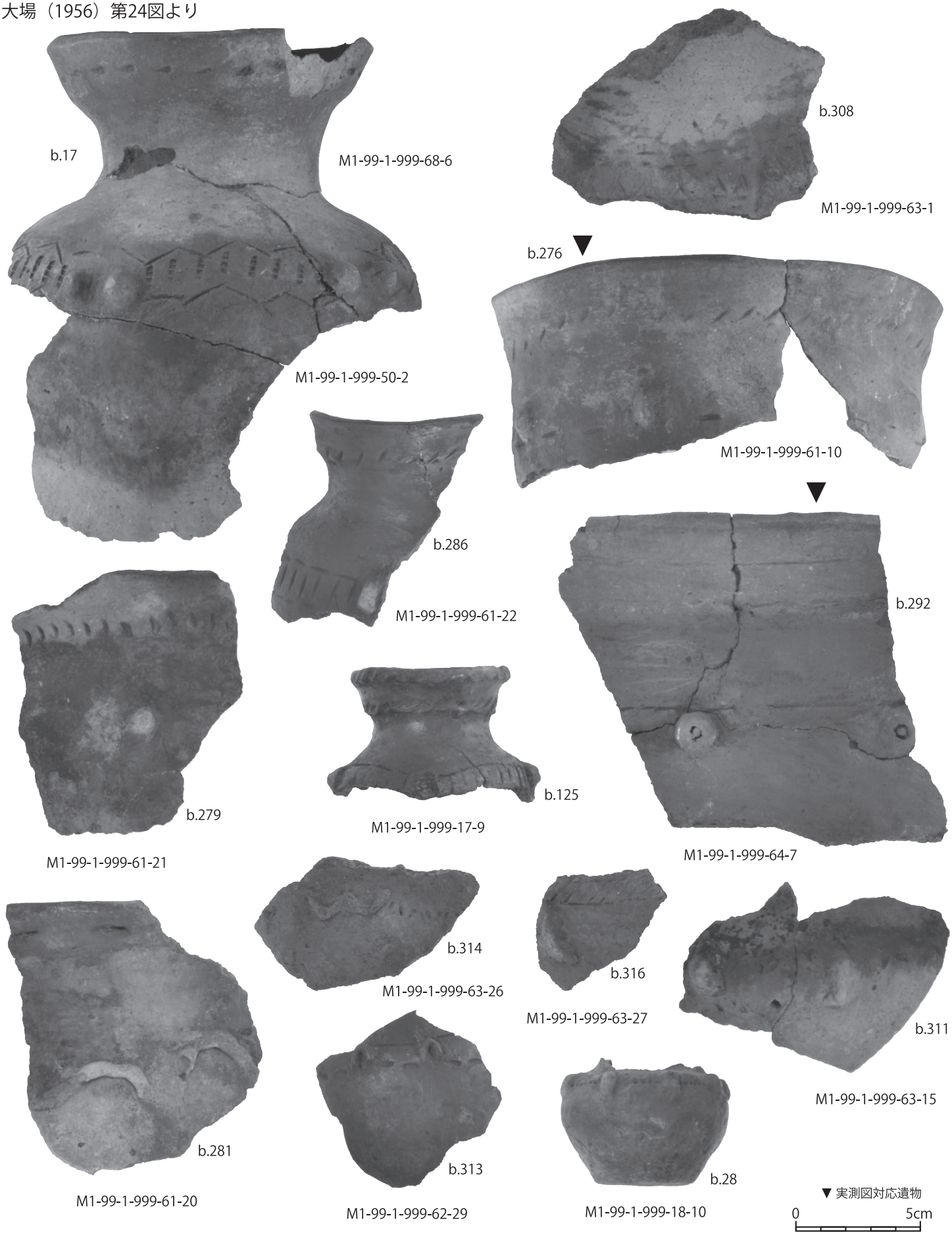


PLATE 28　土器

オホーツク土器 （大場 1956　第25図より）

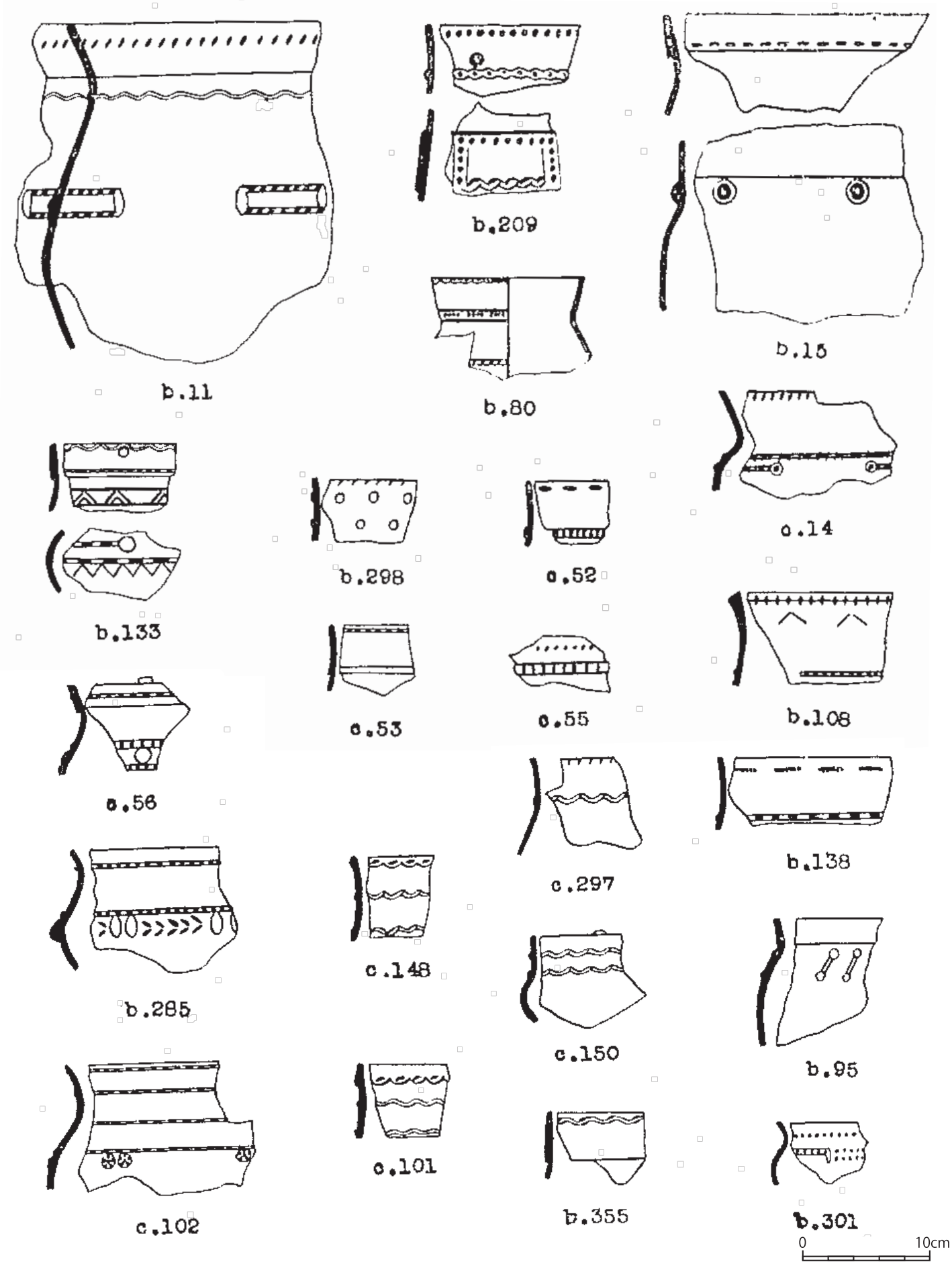


PLATE 29　土器

オホーツク土器

大場（1956）第26図より



b.304

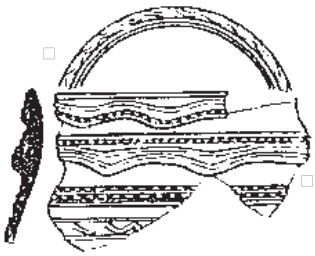


b.307



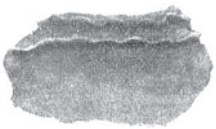
b.305

大場（1956）第29図より



o.46

大場（1956）第30図より



(b.356)

0　10cm

PLATE 30　土器

オホーツク土器

大場（1956）第25図より



M1-99-1-999-44-1

b.11

M1-99-1-999-42-1



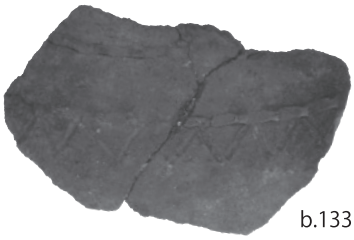
b.209

M1-99-1-999-61-27



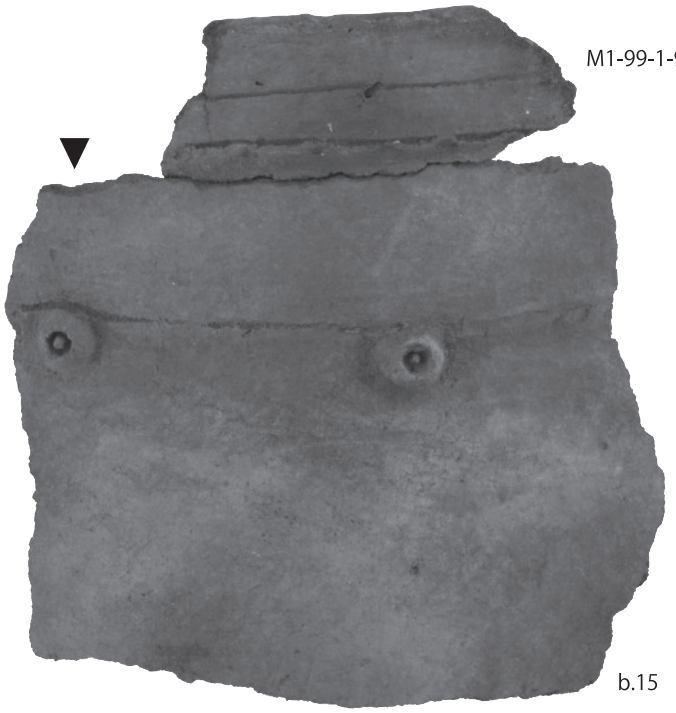
b.133

M1-99-1-999-61-32



b.133

M1-99-1-999-18-11



M1-99-1-999-64-1

b.15

M1-99-1-999-69-1



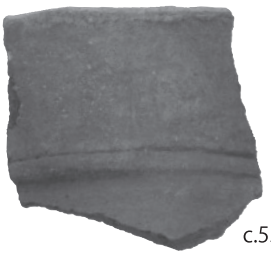
b.298

M1-99-1-999-61-13



c.52

M1-99-1-999-61-23



c.53

M1-99-1-999-62-12



c.148

M1-99-1-999-17-8

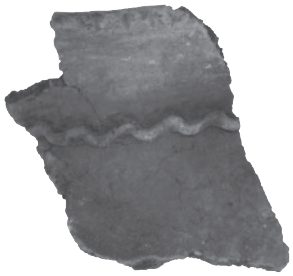
▼ 実測図対応遺物

0　5cm

PLATE 31　土器

オホーツク土器

大場（1956）第25図より



c.297

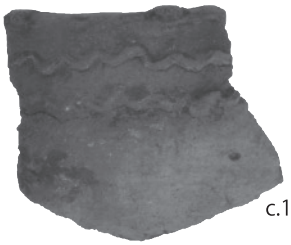
M1-99-1-999-17-16

※大場（1956）第30図(写真)ではb.297



b.138

M1-99-1-999-66-2



c.150

M1-99-1-999-17-15



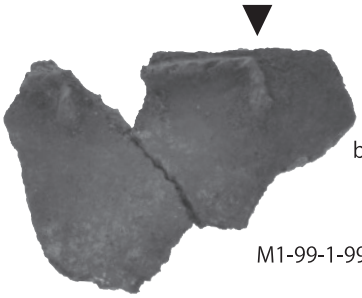
c.101

M1-99-1-999-17-7



b.355

M1-99-1-999-17-6



b.301

M1-99-1-999-63-24

M1-99-1-999-67-15

大場（1956）第26図より



b.304

M1-99-1-999-63-2



b.307

M1-99-1-999-62-38



b.305

M1-99-1-999-62-37

大場（1956）第29図より

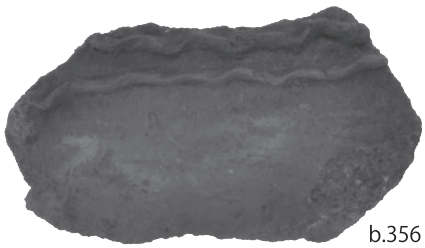


M2-99-99-999-6-36

c.46

M1-99-1-999-17-14

大場（1956）第30図より



b.356

M1-99-1-999-17-21

▼ 実測図対応遺物

0　5cm

PLATE 32　土器

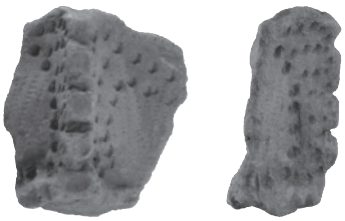
縄文土器



M1-99-3-999-22-4



M1-99-1-999-12-8



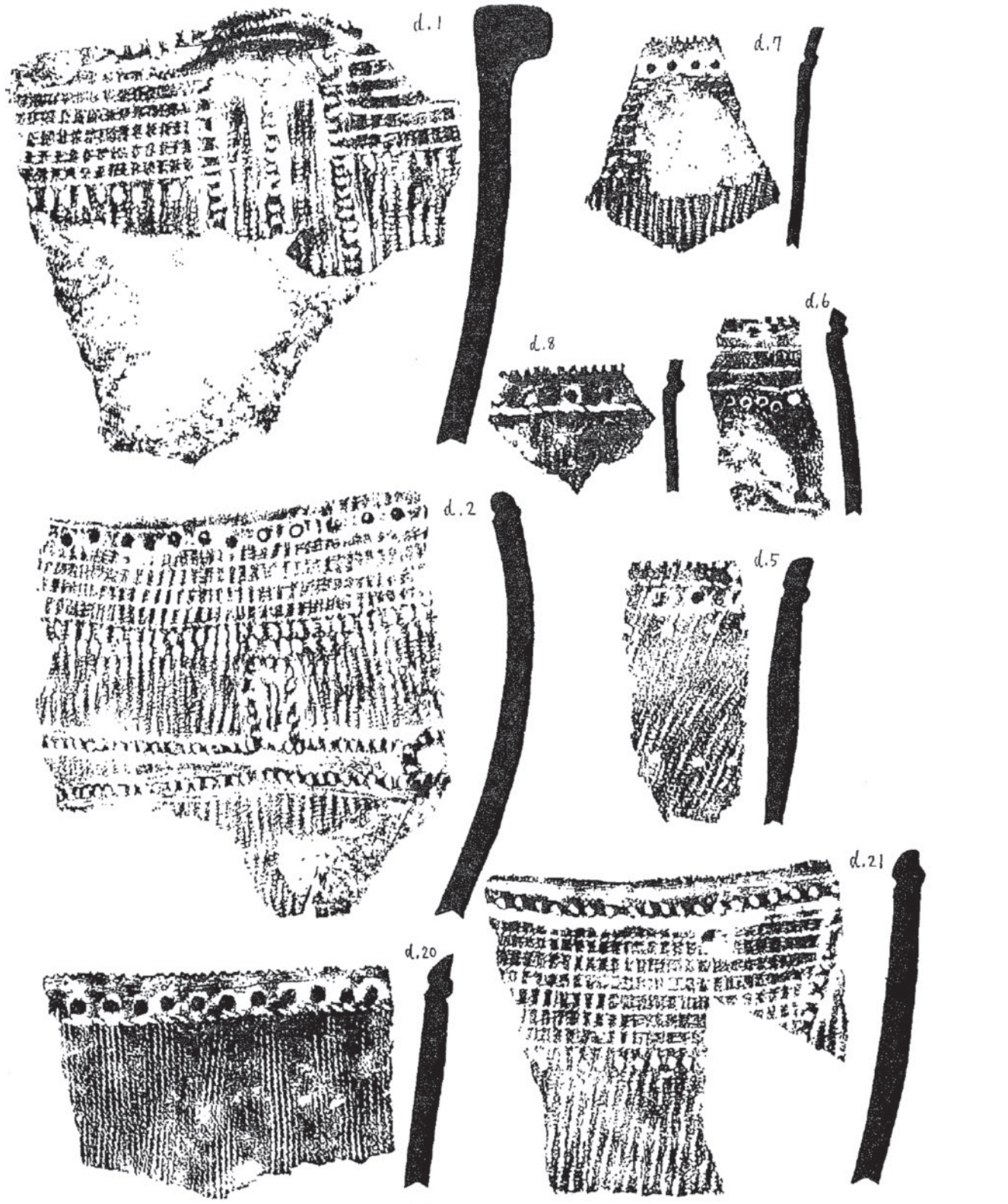
M1-99-1-999-12-23

0　5cm

PLATE 33　土器

続縄文土器

大場（1961）第3図より



0　5cm

PLATE 34　土器

続縄文土器

大場（1961）第3図より



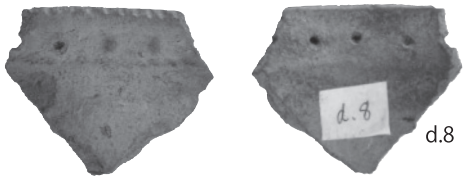
d.1

M1-99-1-999-19-8



d.7

M1-99-1-999-19-6



d.8

M1-99-1-999-19-4



d.6

M1-99-1-999-19-7



M1-99-1-999-19-5

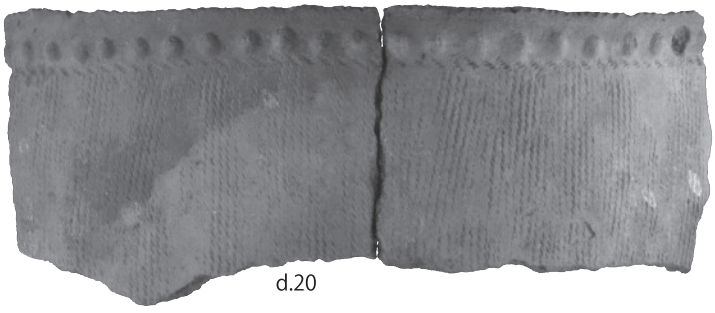
d.2



d.5

M1-99-1-999-19-3

▼



d.20

M1-99-1-999-19-1

M1-99-1-999-19-2

▼



d.21

M1-99-1-999-19-9

M1-99-1-999-19-10

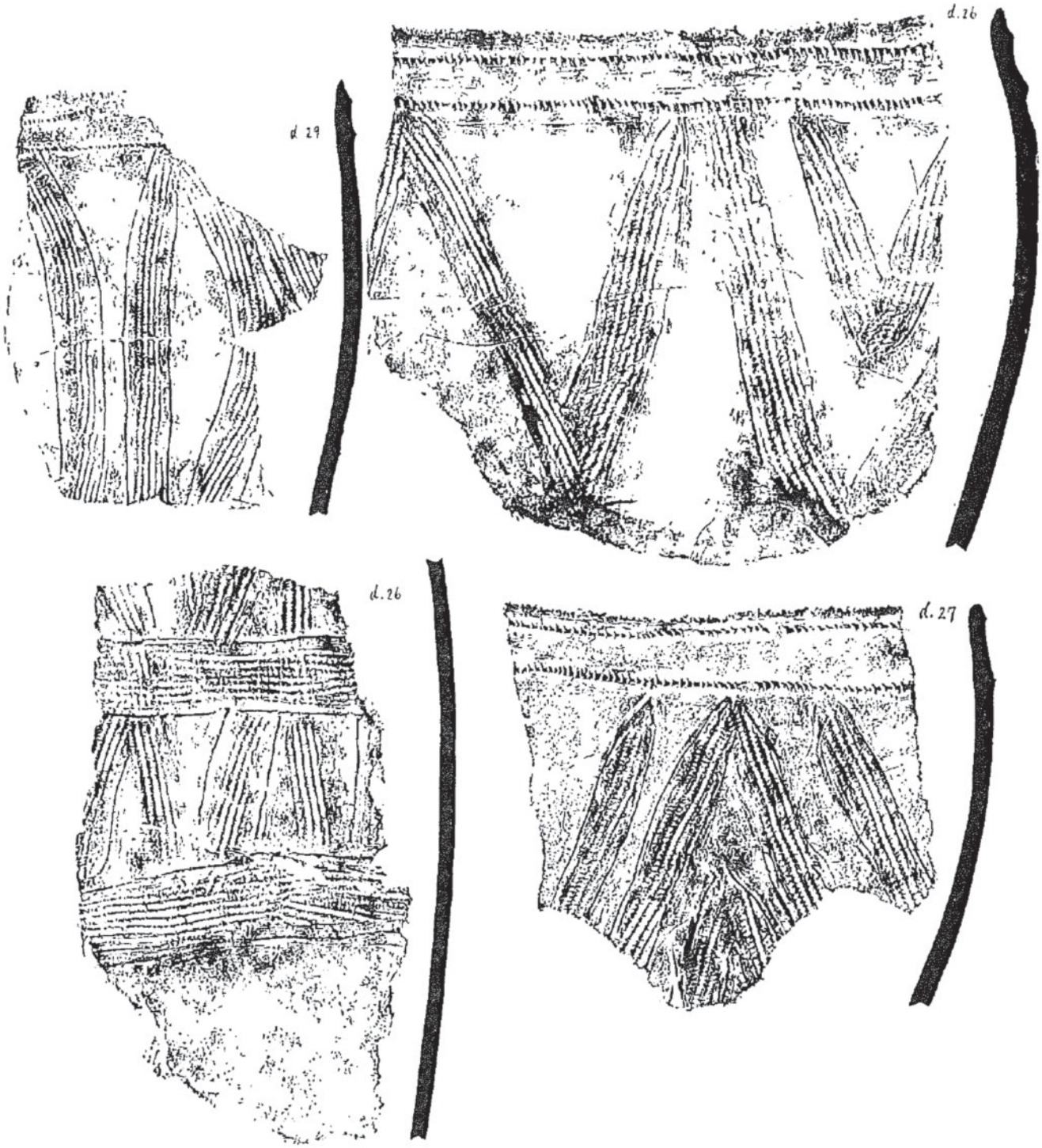
▼ 実測図対応遺物

0　5cm

PLATE 35　土器

続縄文土器

大場（1961）第7図より



0　10cm

PLATE 36　土器

続縄文土器

大場（1961）第7図より



M1-99-1-999-19-19

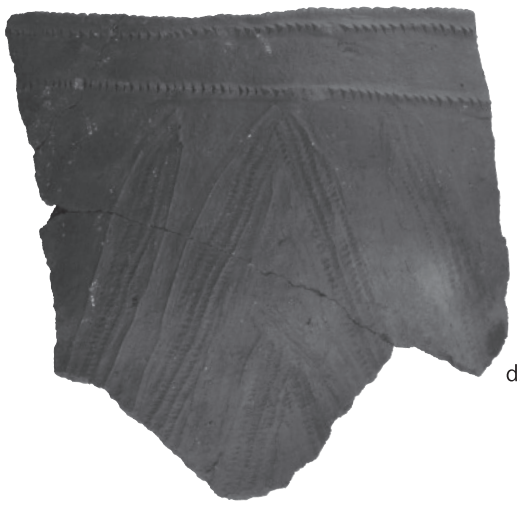
M1-99-1-999-19-20

d.29



d.26

M1-99-1-999-19-13



d.27

M1-99-1-999-19-14

▼ 実測図対応遺物

0　10cm

PLATE 37　土器

続縄文土器

大場（1961）第8図より

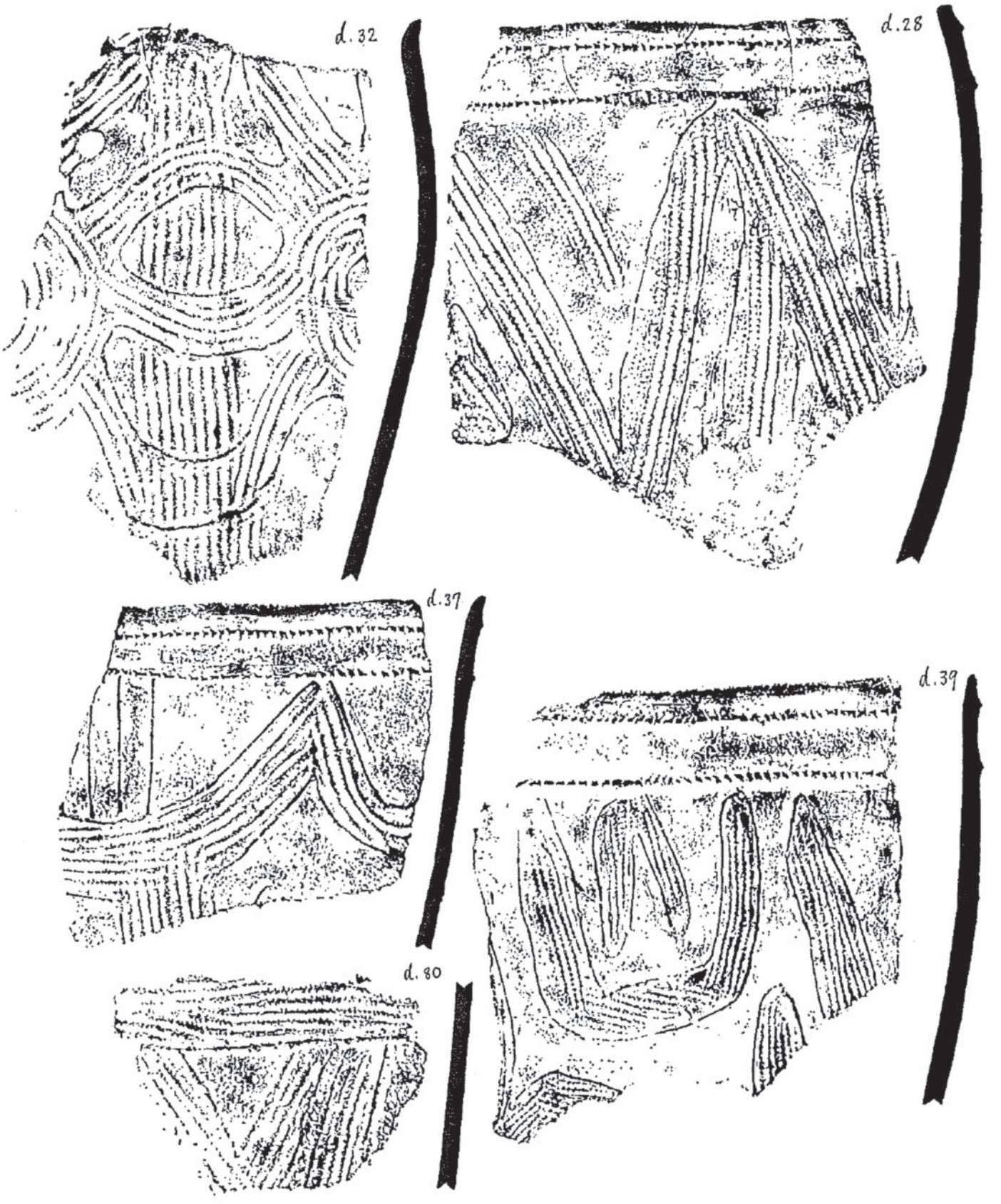


PLATE 38　土器

続縄文土器

大場（1961）第8図より



d.32

M1-99-1-999-19-23



d.28

M1-99-1-999-19-15



d.37

M1-99-1-999-19-25

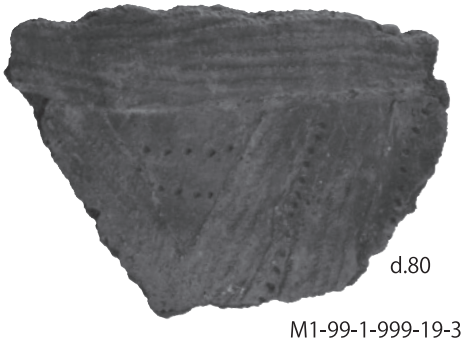
▼



d.39

M1-99-1-999-19-16

M1-99-1-999-19-17



d.80

M1-99-1-999-19-31

▼ 実測図対応遺物

0　5cm

PLATE 39　土器

続縄文土器

大場（1961）第9図より

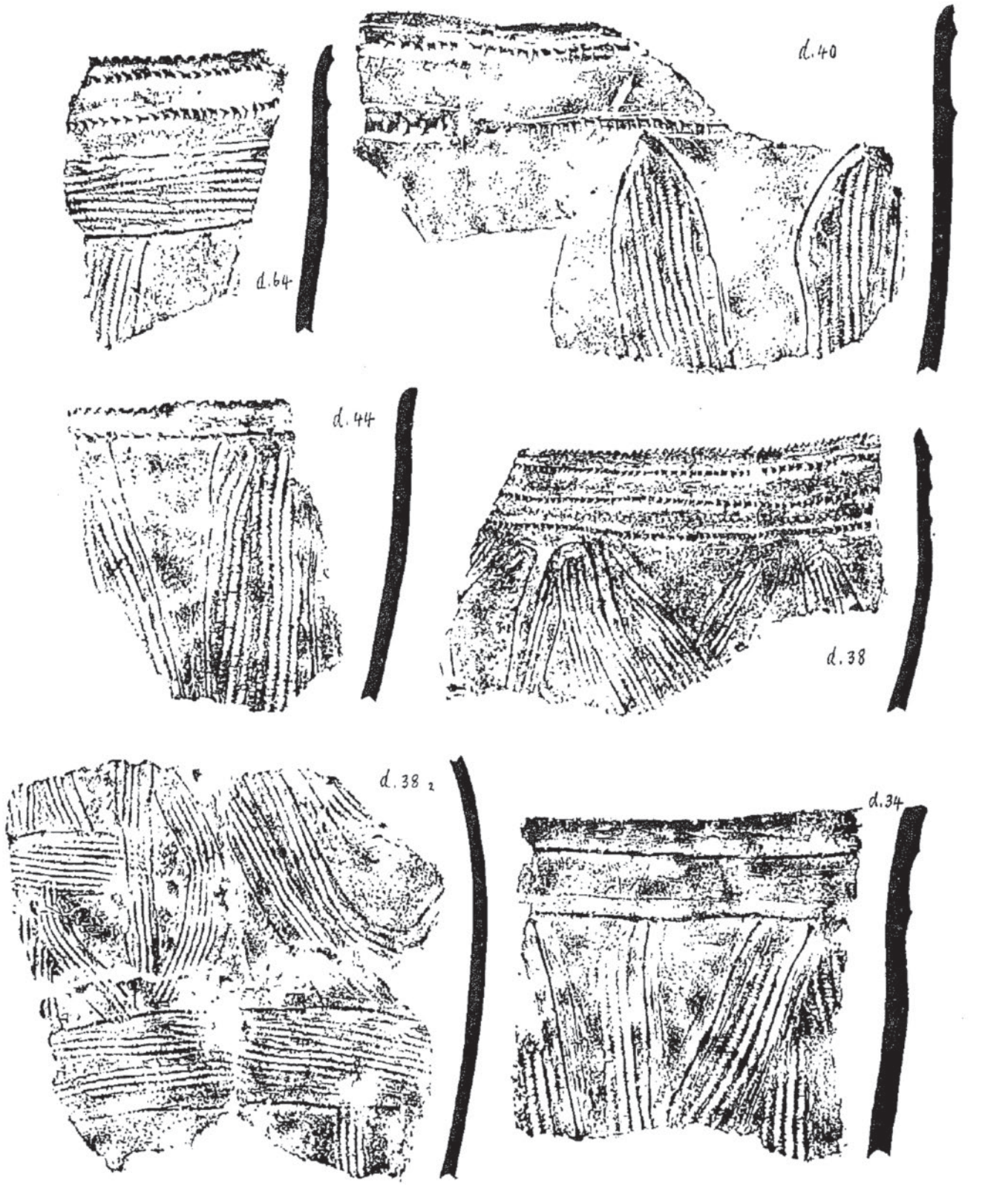


PLATE 40　土器

続縄文土器

大場（1961）第9図より

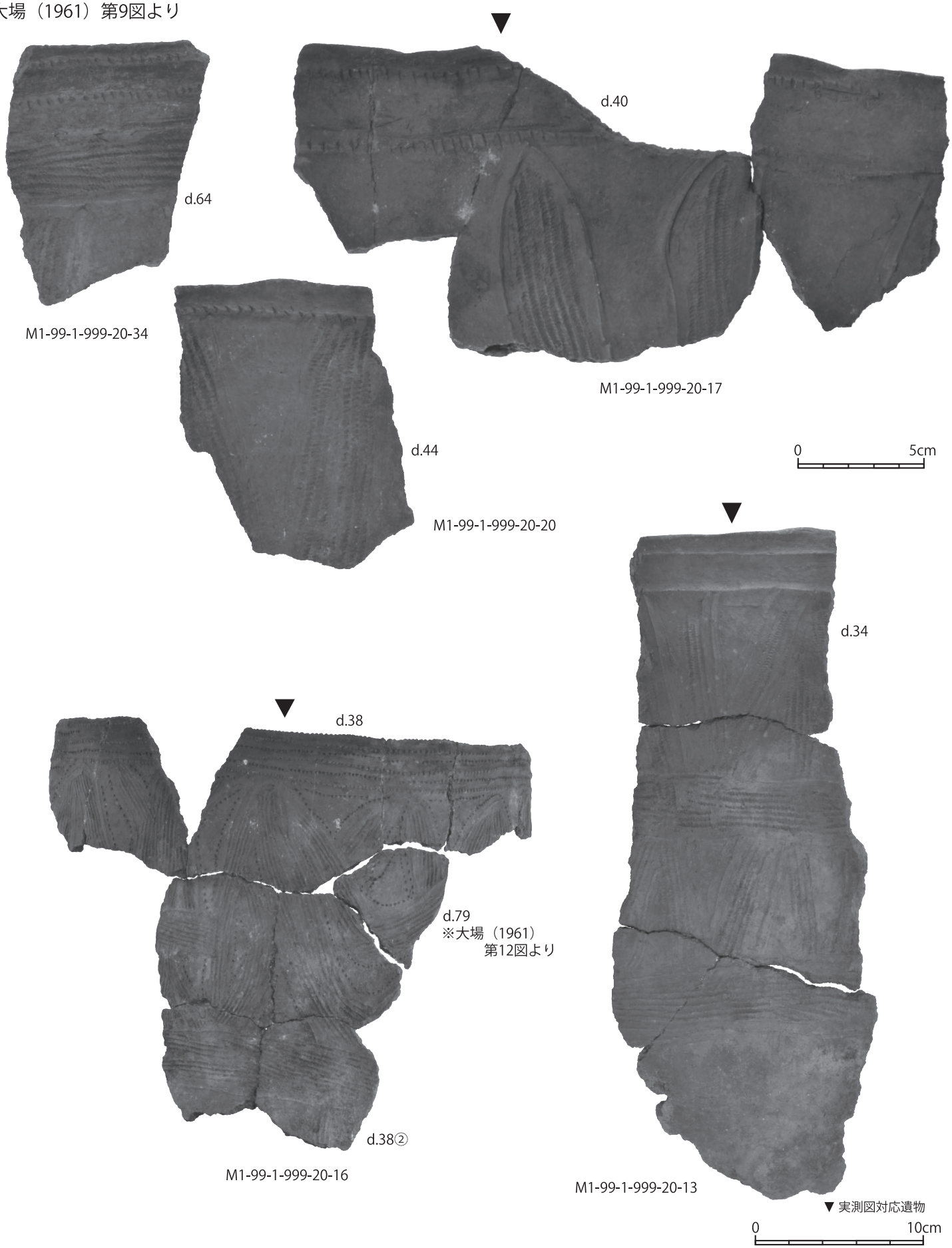
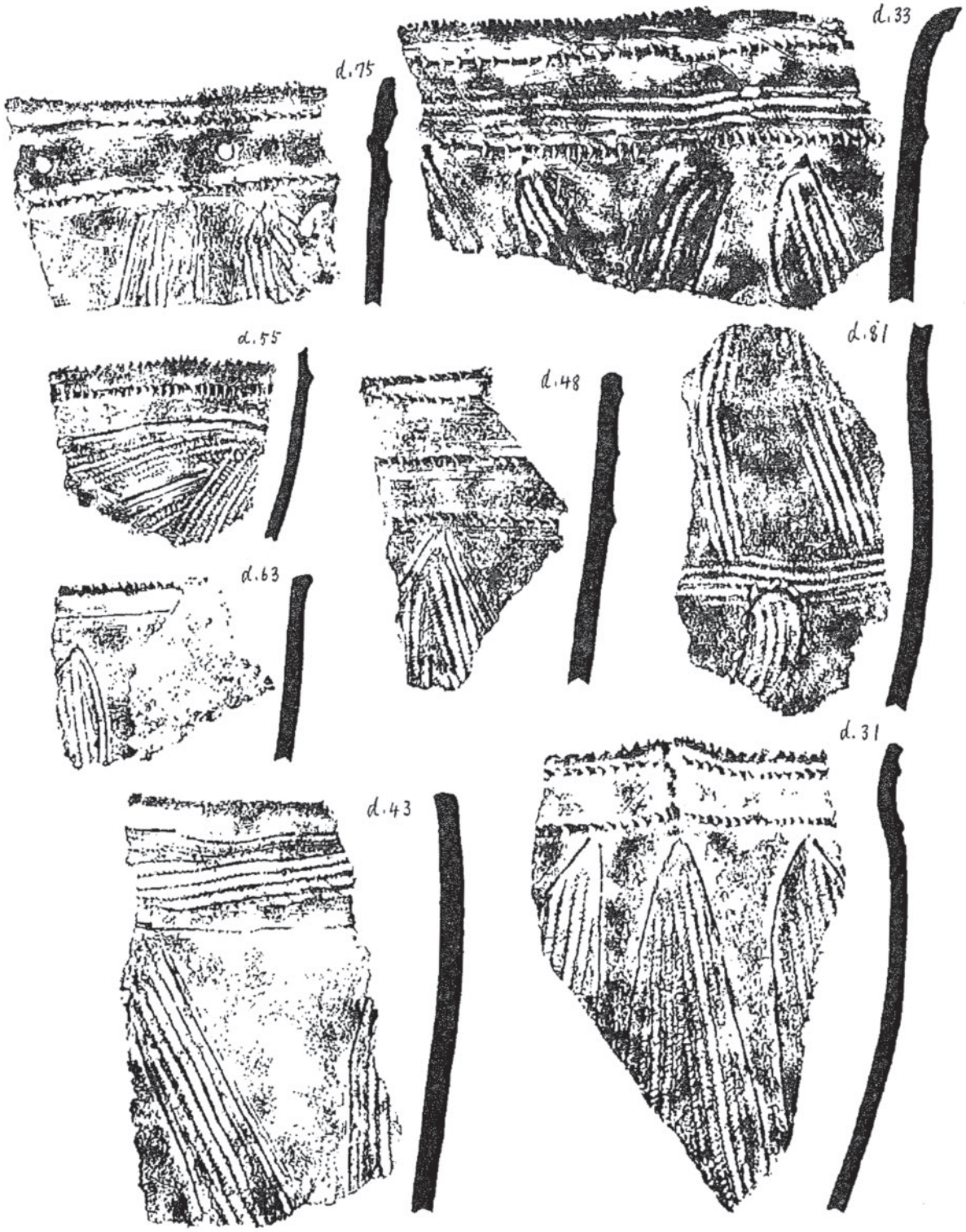


PLATE 41　土器

続縄文土器

大場（1961）第10図より



0　5cm

PLATE 42　土器

続縄文土器

大場（1961）第10図より



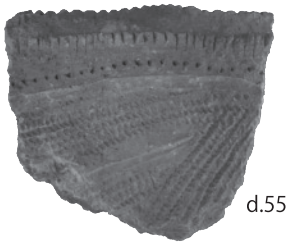
d.75

M1-99-1-999-19-30



d.33

M1-99-1-999-19-24



d.55

M1-99-1-999-19-28



d.48

M1-99-1-999-19-27



d.81

M1-99-1-999-19-32



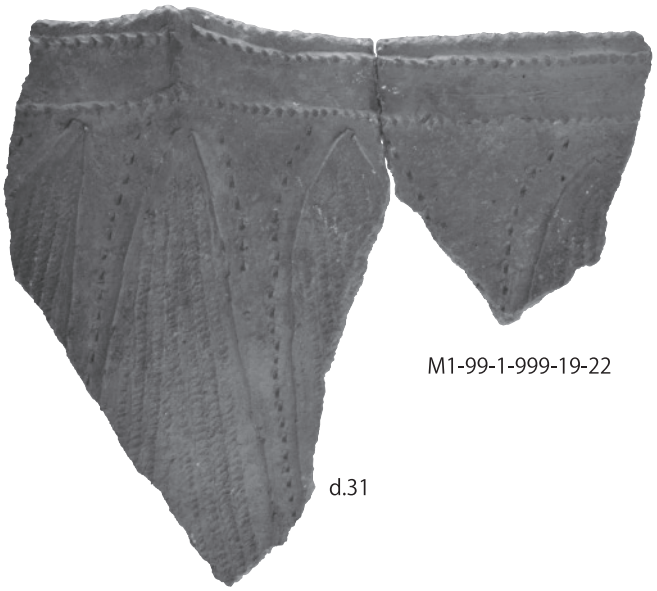
d.63

M1-99-1-999-19-29



d.43

M1-99-1-999-19-26



d.31

M1-99-1-999-19-22

M1-99-1-999-19-21

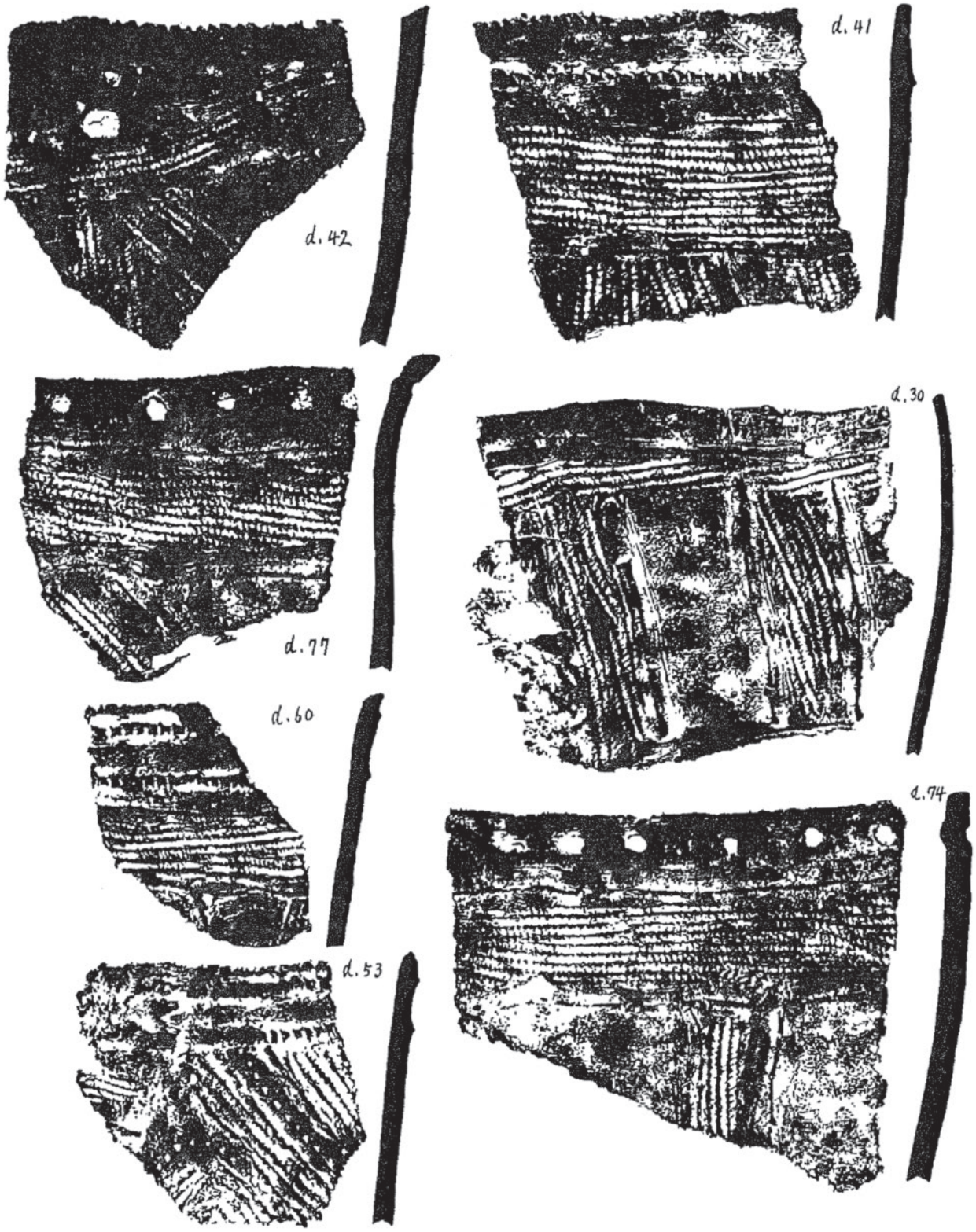
▼ 実測図対応遺物

0　5cm

PLATE 43　土器

続縄文土器

大場（1961）第11図より



0　5cm

PLATE 44　土器

続縄文土器

大場（1961）第11図より



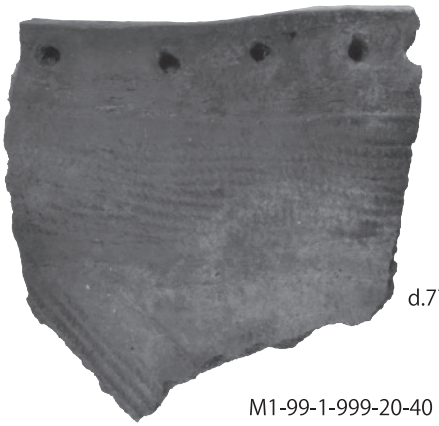
d.42

M1-99-1-999-20-19



d.41

M1-99-1-999-20-18



d.77

M1-99-1-999-20-40



d.30

M1-99-1-999-20-12



d.60

M1-99-1-999-20-32



d.74

M1-99-1-999-20-39



d.53

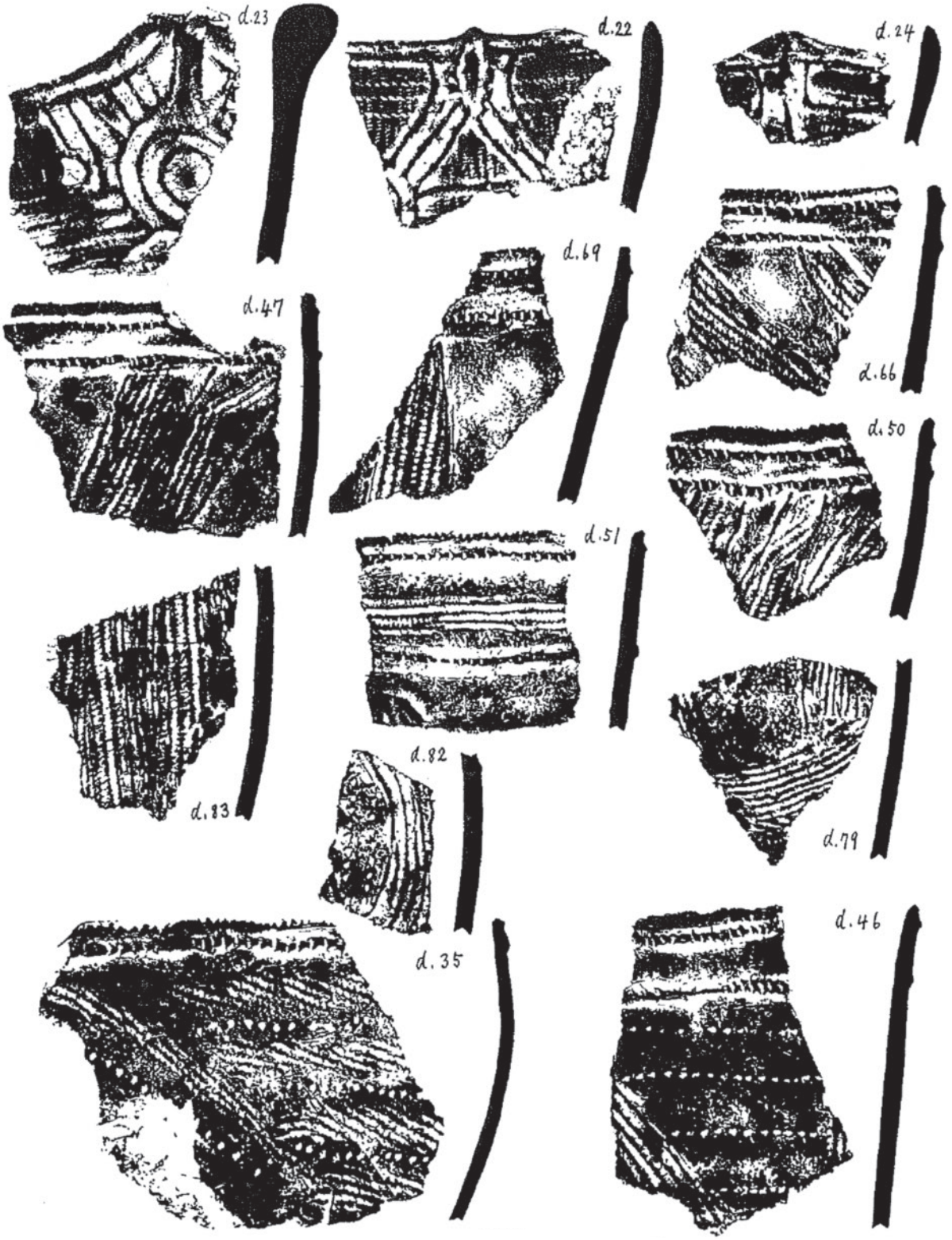
M1-99-1-999-20-26

0　5cm

PLATE 45　土器

続縄文土器

大場（1961）第12図より



0　5cm

PLATE 46　土器

続縄文土器

大場（1961）第12図より



d.23

M1-99-1-999-20-2



d.22

M1-99-1-999-20-1



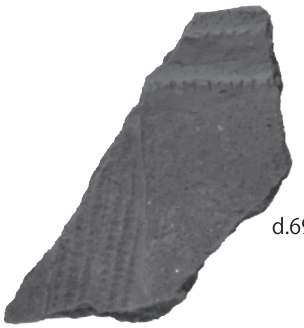
d.24

M1-99-1-999-20-3



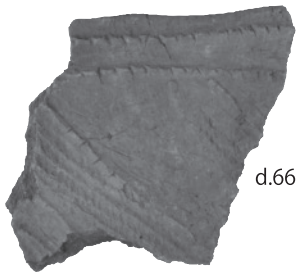
d.47

M1-99-1-999-20-23



d.69

M1-99-1-999-20-37



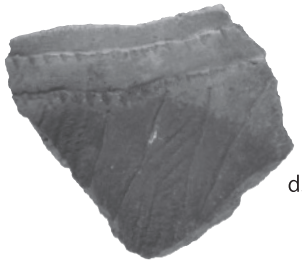
d.66

M1-99-1-999-20-35



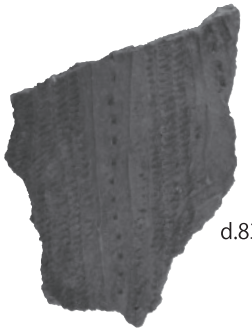
d.51

M1-99-1-999-20-4



d.50

M1-99-1-999-20-25



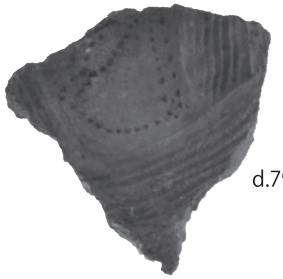
d.83

M1-99-1-999-20-49



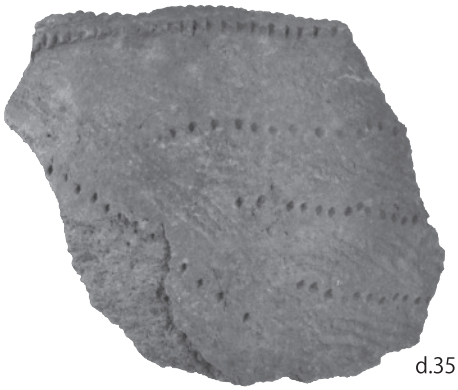
d.82

M1-99-1-999-20-48



d.79

M1-99-1-999-20-16



d.35

M1-99-1-999-20-14



d.46

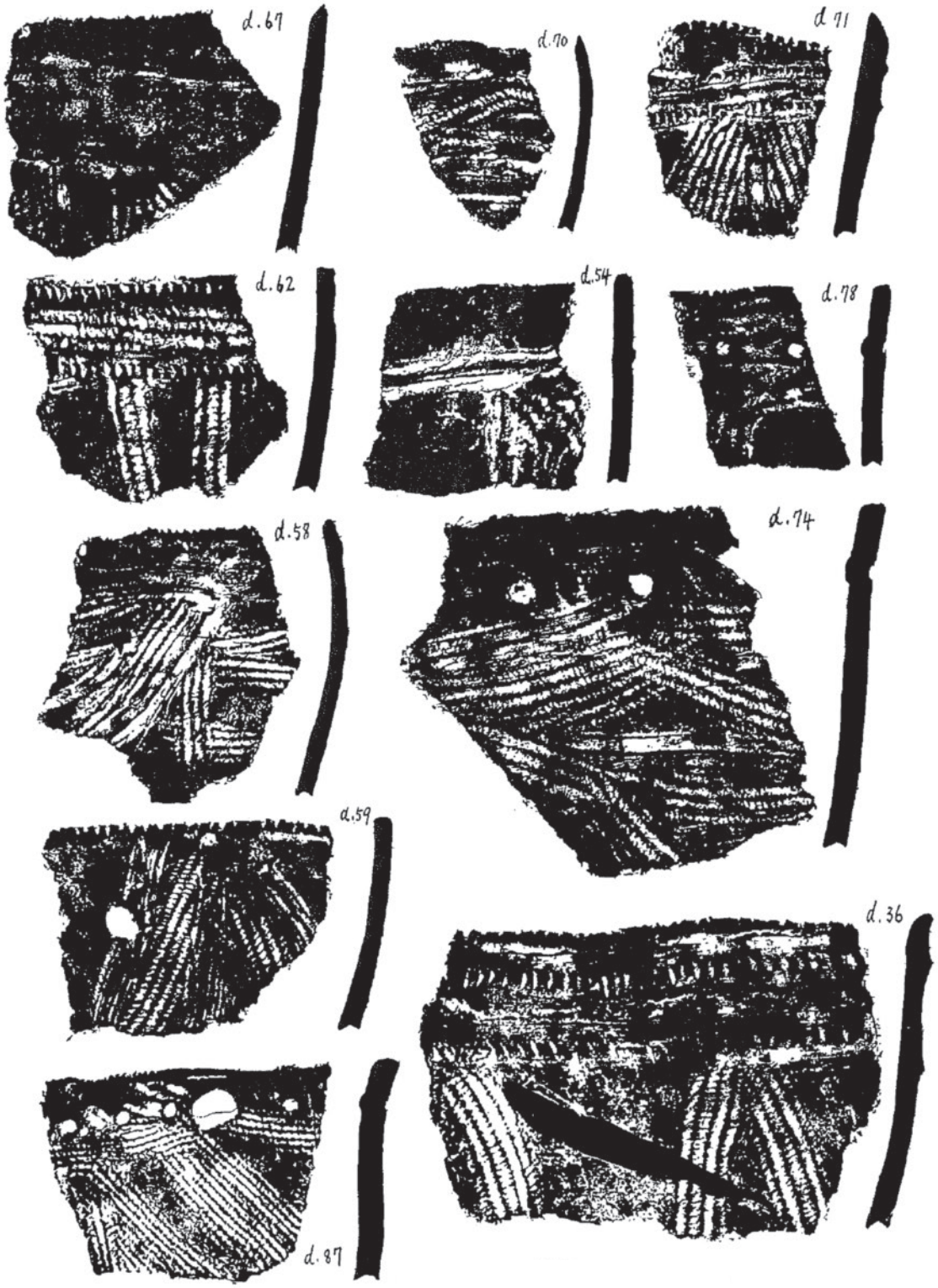
M1-99-1-999-20-22

0　5cm

PLATE 47　土器

続縄文土器

大場（1961）第13図より

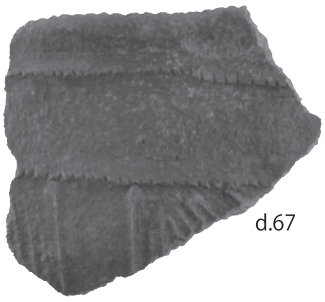


0　5cm

PLATE 48　土器

続縄文土器

大場（1961）第13図より



d.67

M1-99-1-999-20-36



d.70

M1-99-1-999-20-9



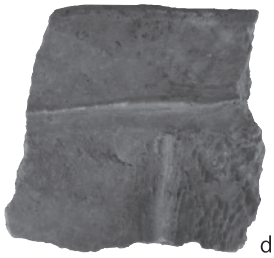
d.71

M1-99-1-999-20-38



d.62

M1-99-1-999-20-33



d.54

M1-99-1-999-20-27



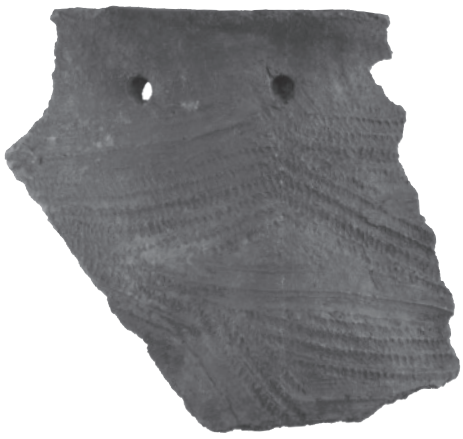
d.78

M1-99-1-999-20-43



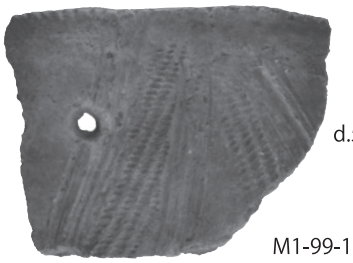
d.58

M1-99-1-999-20-30



d.74

M1-99-1-999-20-42



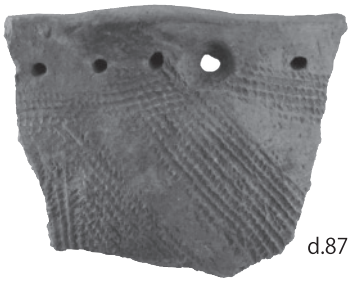
d.59

M1-99-1-999-20-31



d.36

M1-99-1-999-20-15



d.87

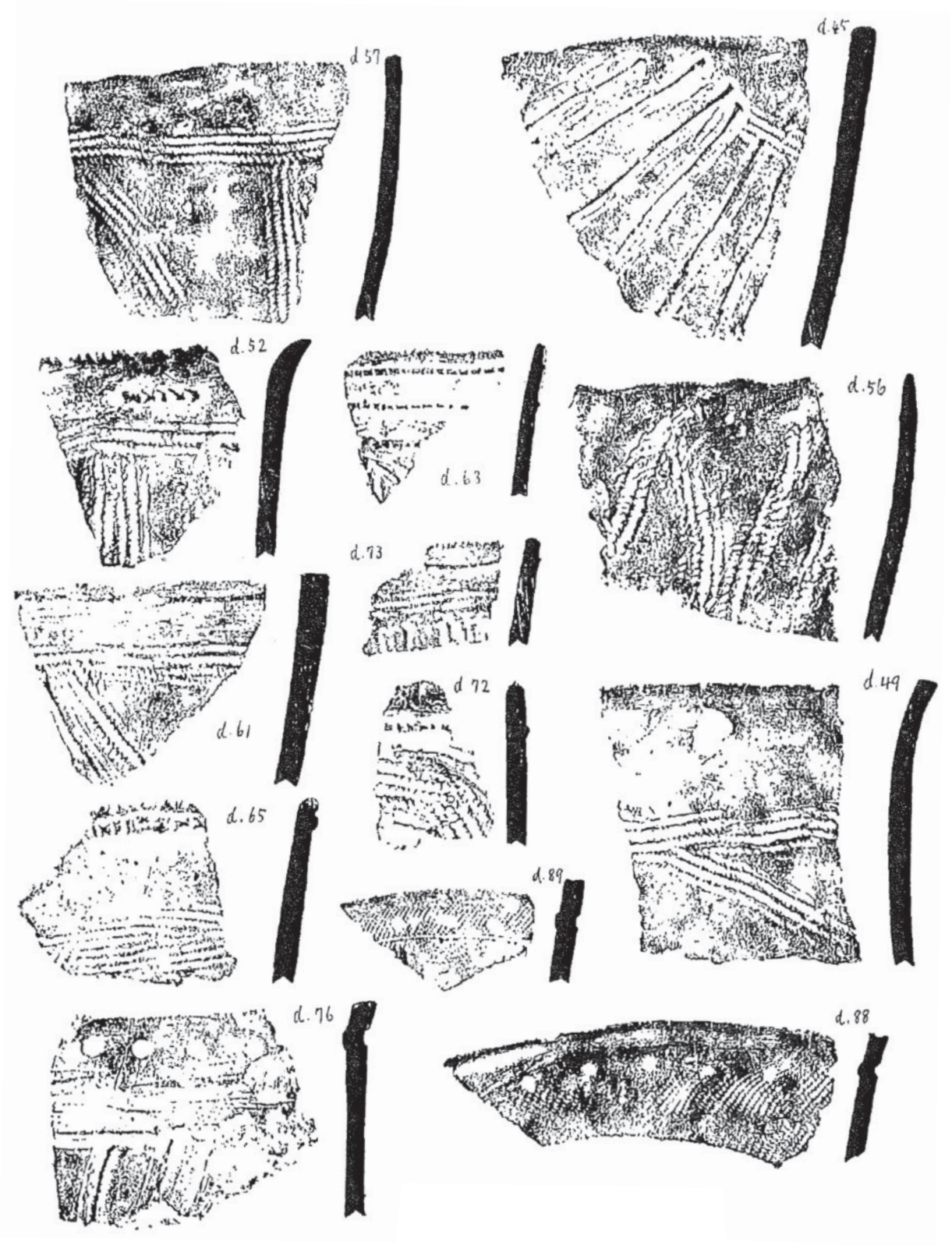
M1-99-1-999-20-46

0　5cm

PLATE 49　土器

続縄文土器

大場（1961）第14図より

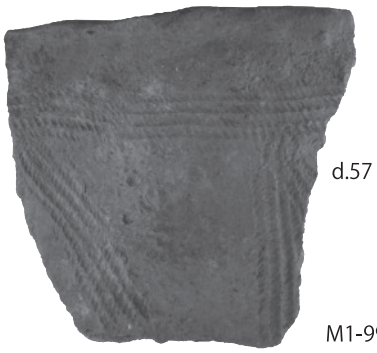


0　5cm

PLATE 50　土器

続縄文土器

大場（1961）第14図より


d.57

M1-99-1-999-20-29


d.45

M1-99-1-999-20-21


d.52

M1-99-1-999-20-5


d.63

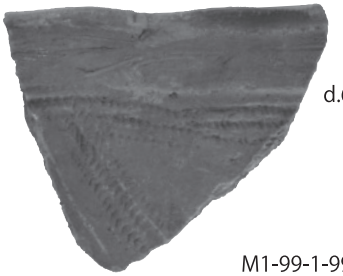
M1-99-1-999-20-7


d.56

M1-99-1-999-20-28


d.73

M1-99-1-999-20-10


d.61

M1-99-1-999-20-6


d.72

M1-99-1-999-20-47


d.49

M1-99-1-999-20-24


d.65

M1-99-1-999-20-8


d.89

M1-99-1-999-20-11


d.76

M1-99-1-999-20-41


d.88

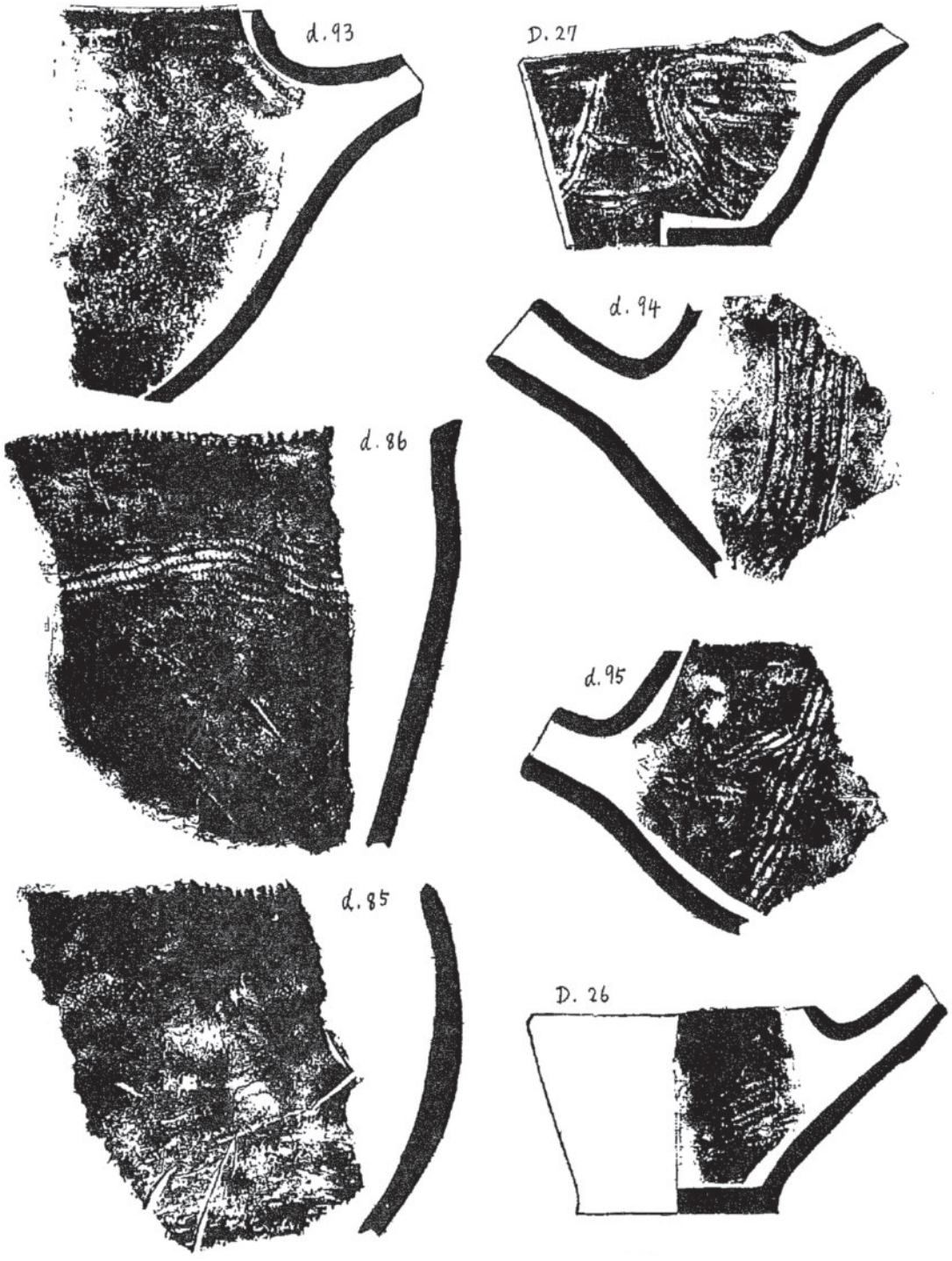
M1-99-1-999-20-54



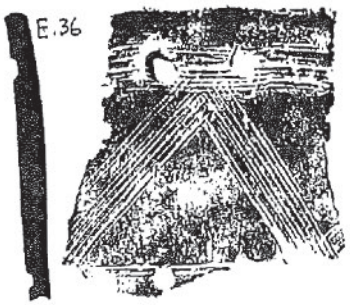
PLATE 51　土器

続縄文土器

大場（1961）第15図より



大場（1961）第17図より



0　5cm

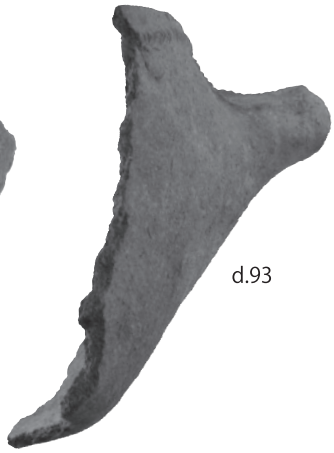
PLATE 52　土器

続縄文土器

大場（1961）第15図より



M1-99-1-999-20-51



d.93



d.86

M1-99-1-999-20-44





d.94

M1-99-1-999-20-52



d.85

M1-99-1-999-20-45





d.95

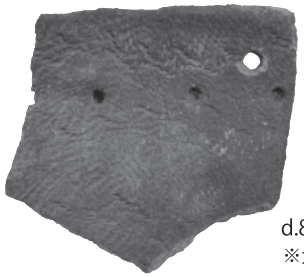
M1-99-1-999-20-53

大場（1961）第17図より



E.36

M1-99-1-999-21-9



d.86

※大場（1961）第15図
d.86とは別個体

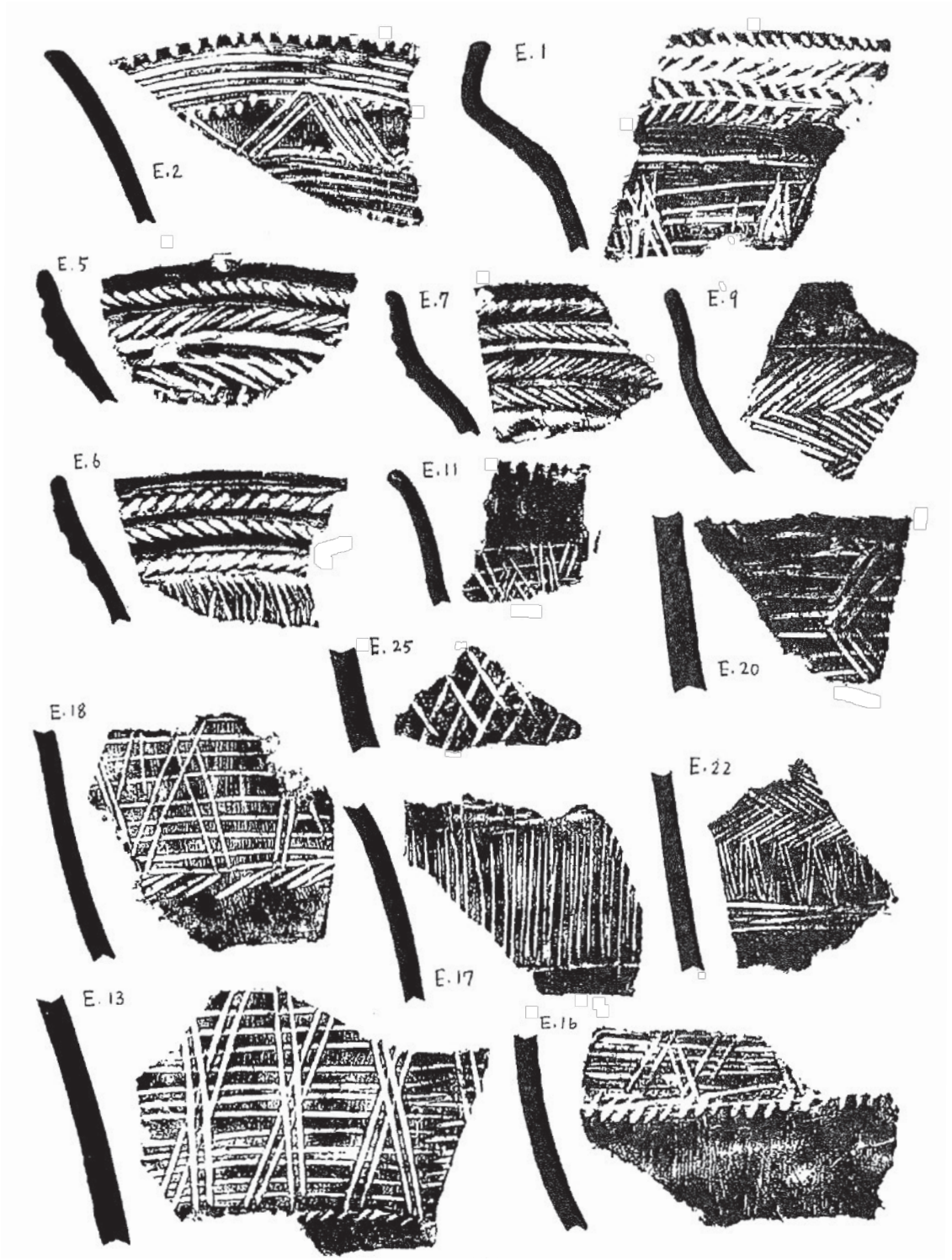
M1-99-1-999-12-2

0　5cm

PLATE 53　土器

擦文土器

大場（1961）第16図より



0　5cm

PLATE 54　土器

擦文土器

大場（1961）第16図より



E.2

M1-99-1-999-21-2



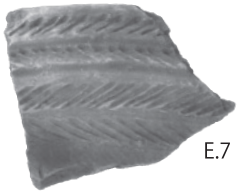
E.1

M1-99-1-999-21-1



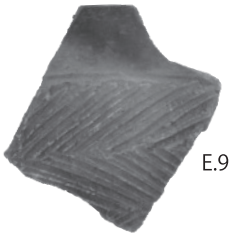
E.5

M1-99-1-999-21-33



E.7

M1-99-1-999-21-34



E.9

M1-99-1-999-21-6



E.6

M1-99-1-999-21-4



E.11

M1-99-1-999-21-7



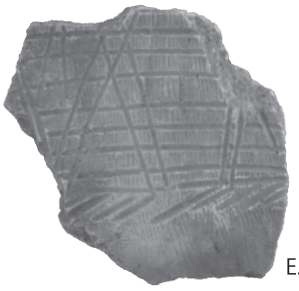
E.20

M1-99-1-999-21-18



E.25

M1-99-1-999-21-23



E.18

M1-99-1-999-21-16



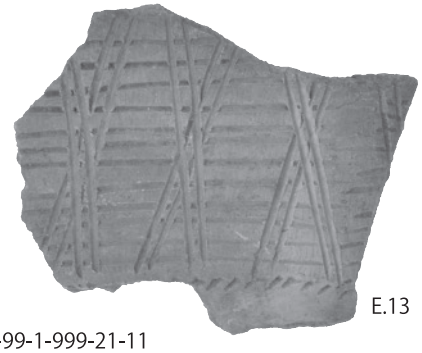
E.17

M1-99-1-999-21-15



E.22

M1-99-1-999-21-20



E.13

M1-99-1-999-21-11



E.16

M1-99-1-999-21-14

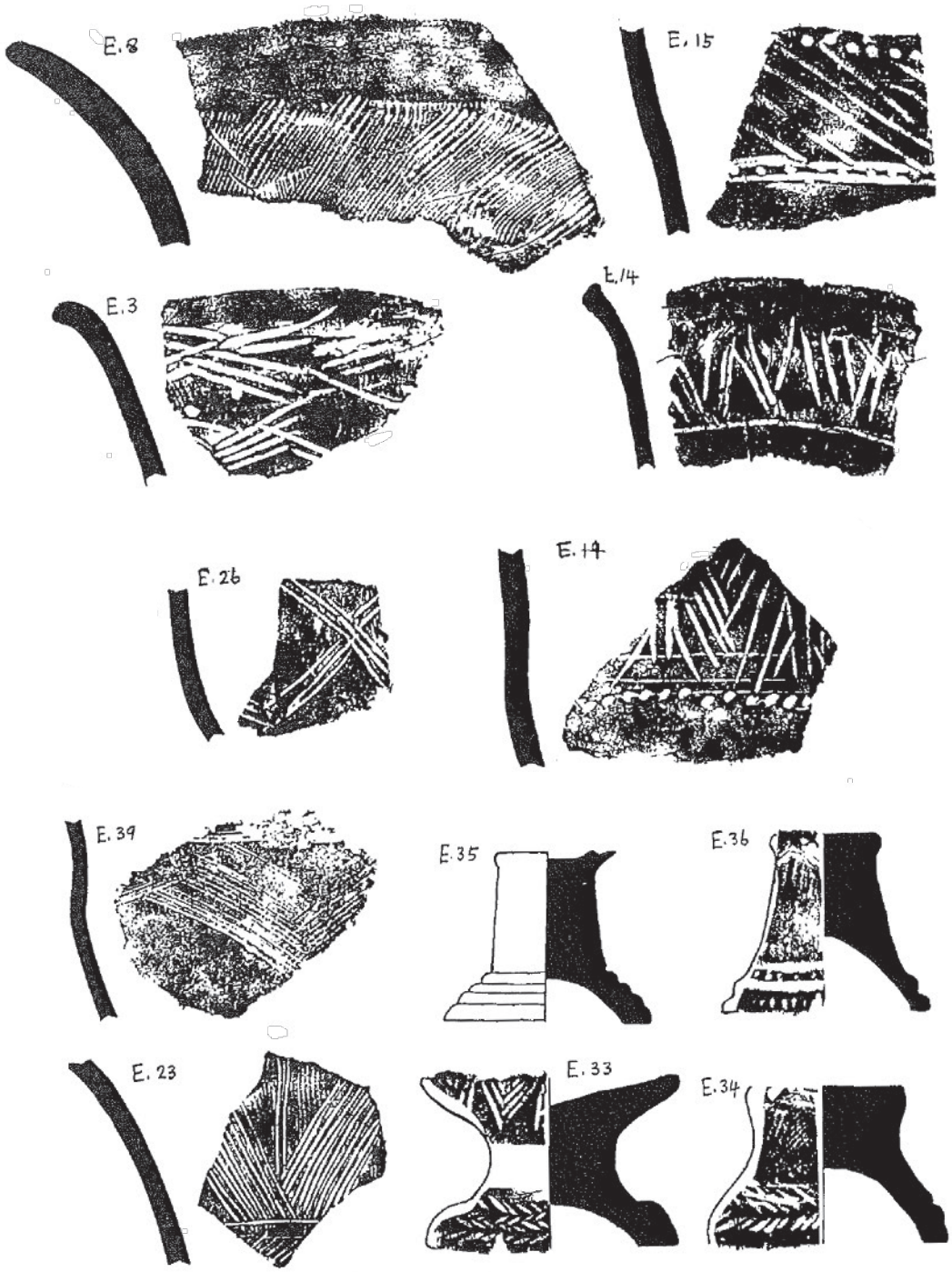
▼ 実測図対応遺物

0　5cm

PLATE 55　土器

擦文土器

大場（1961）第17図より



0　5cm

PLATE 56　土器

擦文土器

大場（1961）第17図より


E.8
M1-99-1-999-21-5

▼ E.15

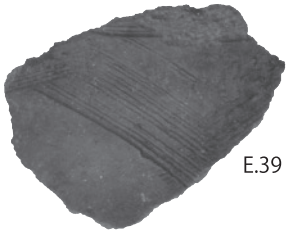
M1-99-1-999-21-13


E.3
M1-99-1-999-21-3

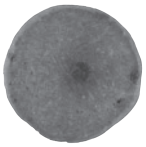

E.14
M1-99-1-999-21-8


E.26
M1-99-1-999-21-24

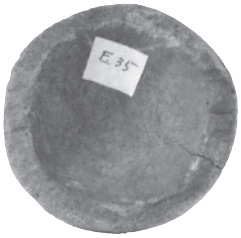

E.19
M1-99-1-999-21-17


E.39
M1-99-1-999-21-30


E.35

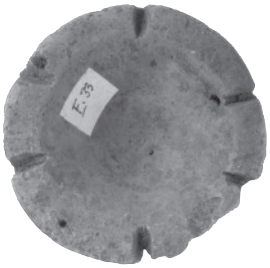



E.33


M1-99-1-999-21-38


E.36


M1-99-1-999-21-39


M1-99-1-999-21-36


E.23
M1-99-1-999-21-21


E.34
M1-99-1-999-21-37

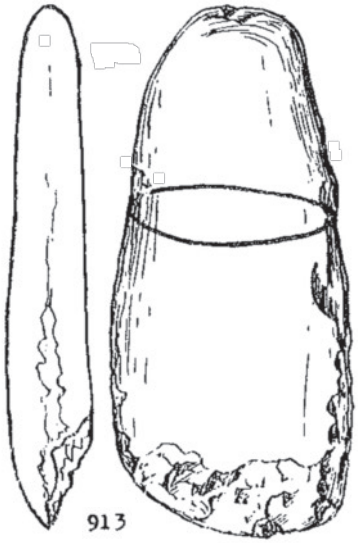
▼ 実測図対応遺物

0　5cm

PLATE 57　石器

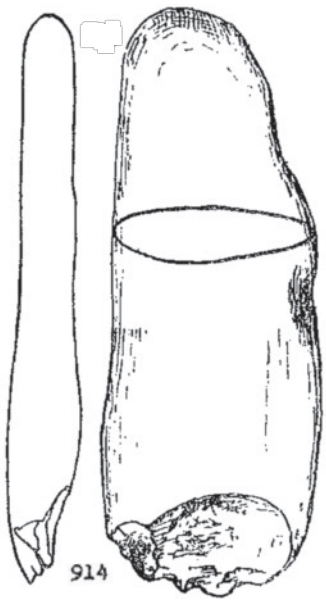
石斧

大場（1957）第13図より



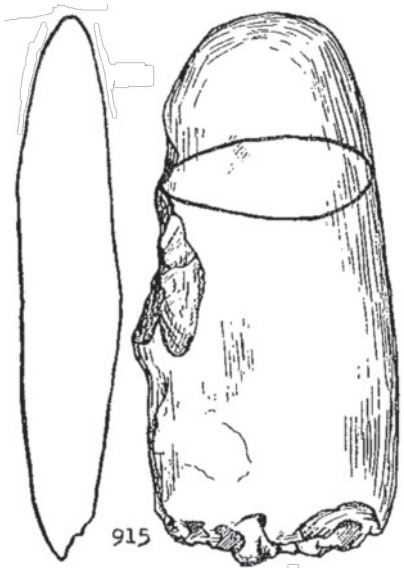


M1-99-1-999-434-1



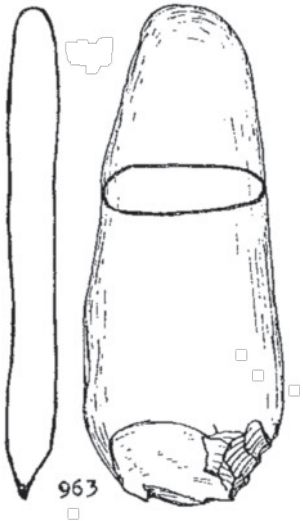


M1-99-1-999-434-2





M1-99-1-999-436-1





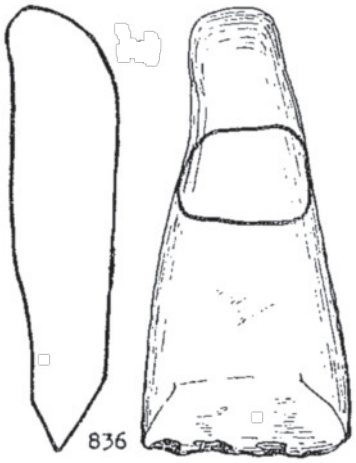
M1-99-1-999-434-3

0　5cm

PLATE 58　石器

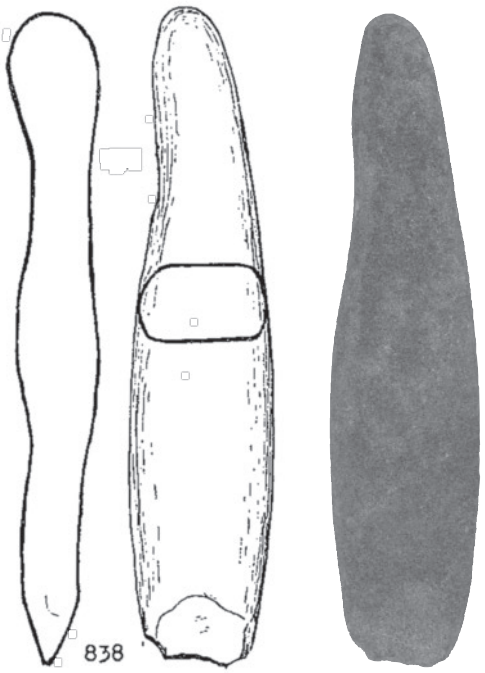
石斧

大場（1957）第14図より

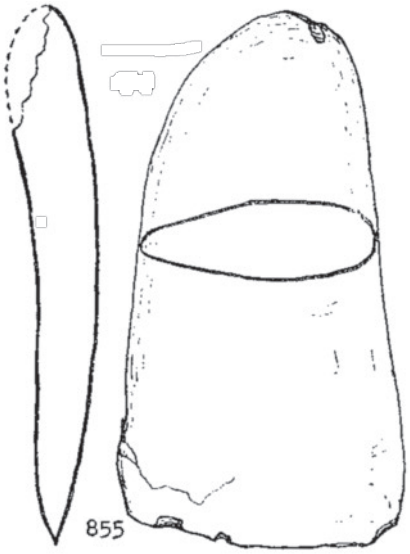




M1-99-1-999-434-4



M1-99-1-999-434-5





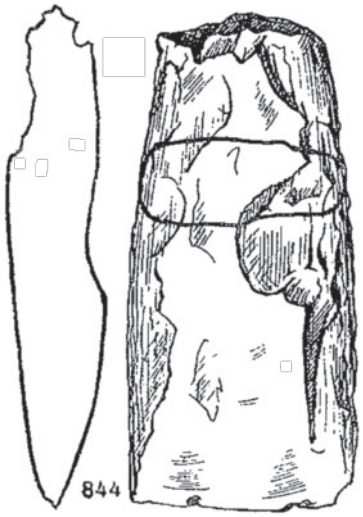
M1-99-1-999-436-4

0　5cm

PLATE 59　石器

石斧

大場（1957）第15図より



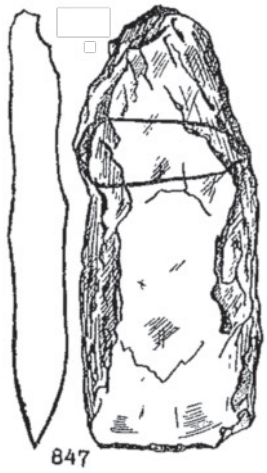


M1-99-1-999-434-9



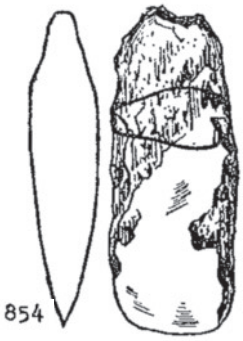


M1-99-1-999-434-10



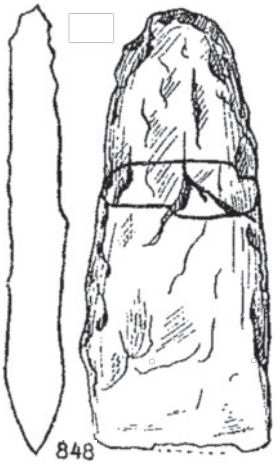


M1-99-1-999-434-11





M1-99-1-999-434-18





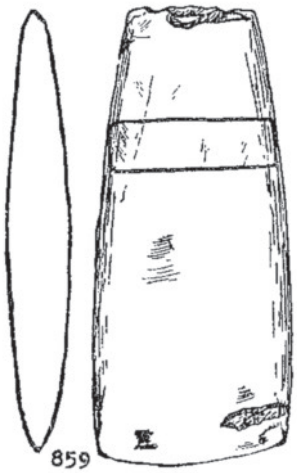
M1-99-1-999-434-12

0　5cm

PLATE 60　石器

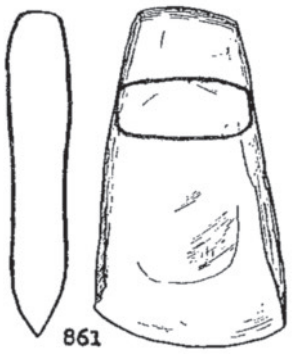
石斧

大場（1957）第16図より



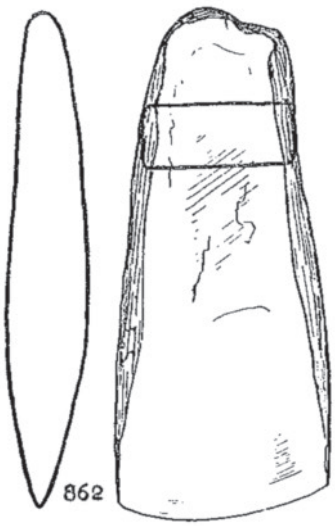


M1-99-1-999-435-3





M1-99-1-999-435-5





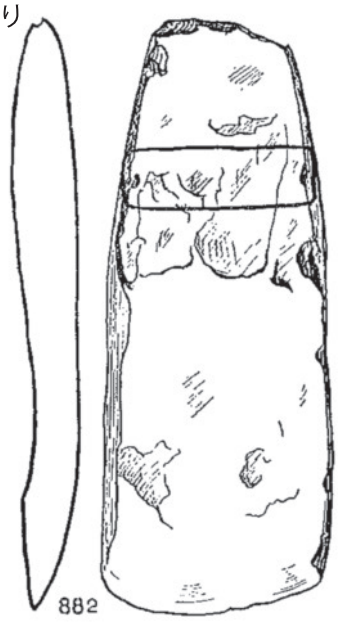
M1-99-1-999-435-6

0　5cm

PLATE 61　石器

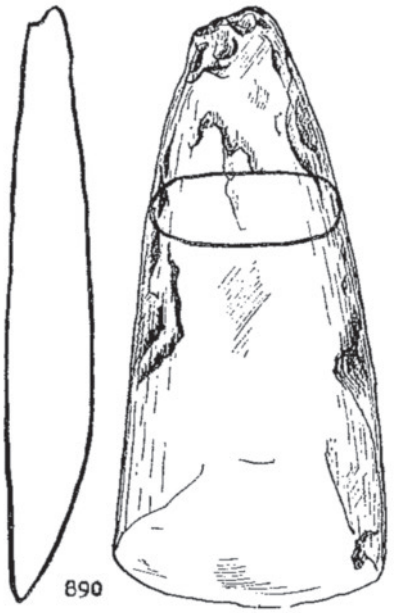
石斧

大場（1957）第17図より



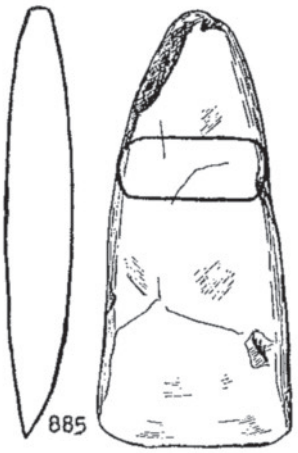


M1-99-1-999-435-11



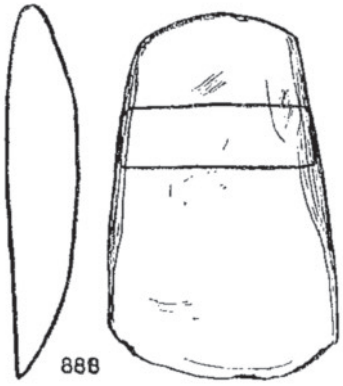


M1-99-1-999-435-19





M1-99-1-999-435-14





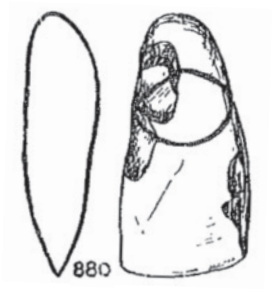
M1-99-1-999-435-17

0　5cm

PLATE 62　石器

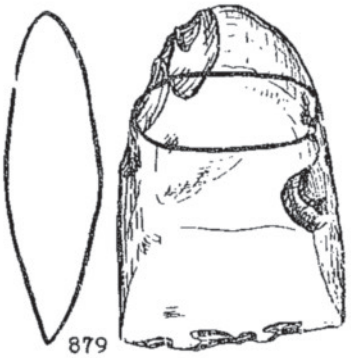
石斧

大場（1957）第18図より



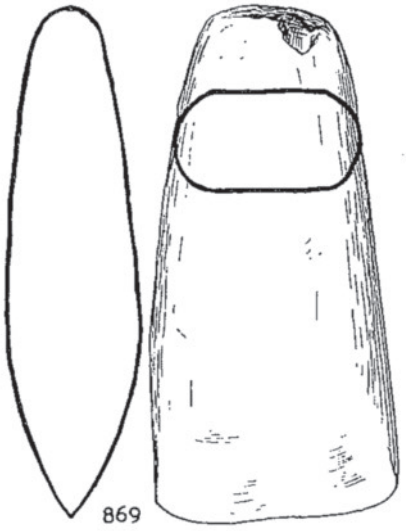


M1-99-1-999-436-17



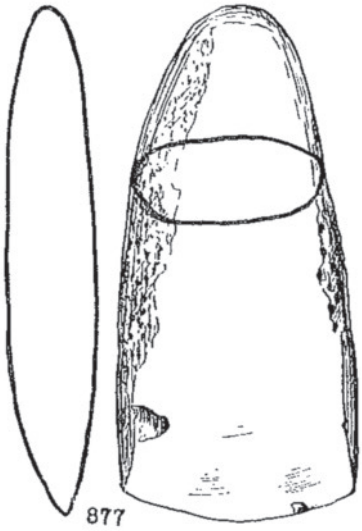


M1-99-1-999-436-16





M1-99-1-999-436-10





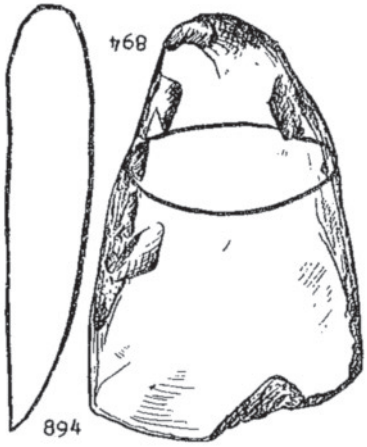
M1-99-1-999-436-15

0　5cm

PLATE 63　石器

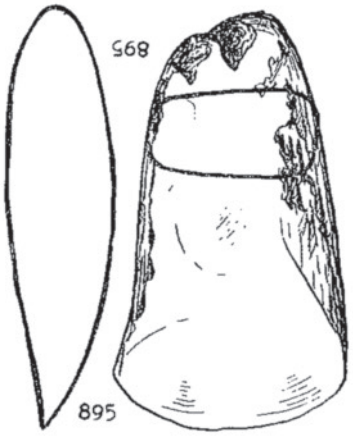
石斧

大場（1957）第19図より



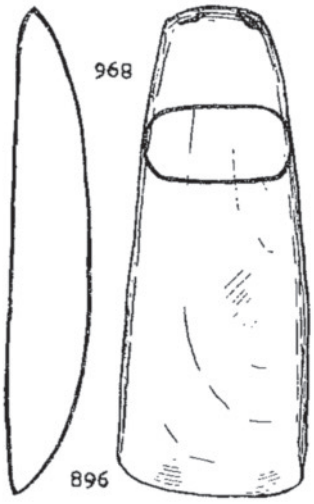


M1-99-1-999-434-24





M1-99-1-999-436-18





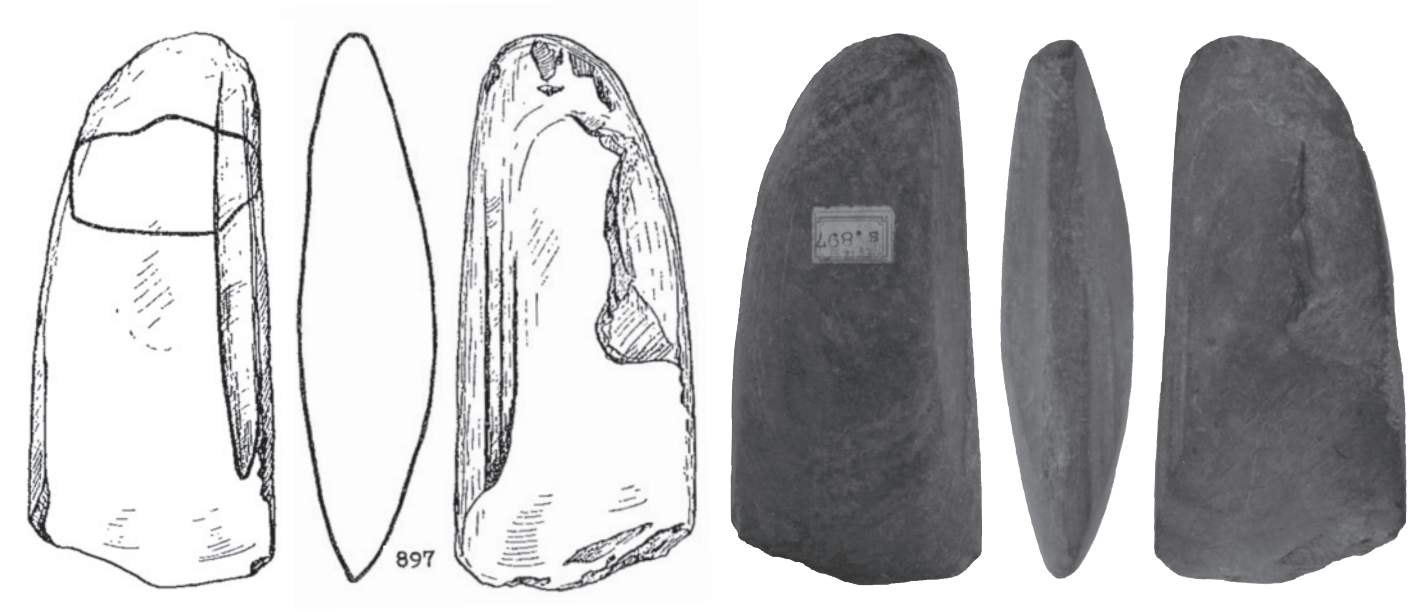
M1-99-1-999-436-19

0　5cm

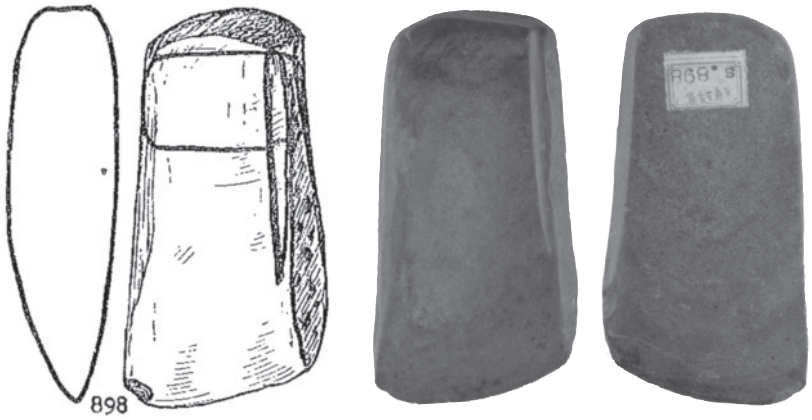
PLATE 64　石器

石斧

大場（1957）第20図より

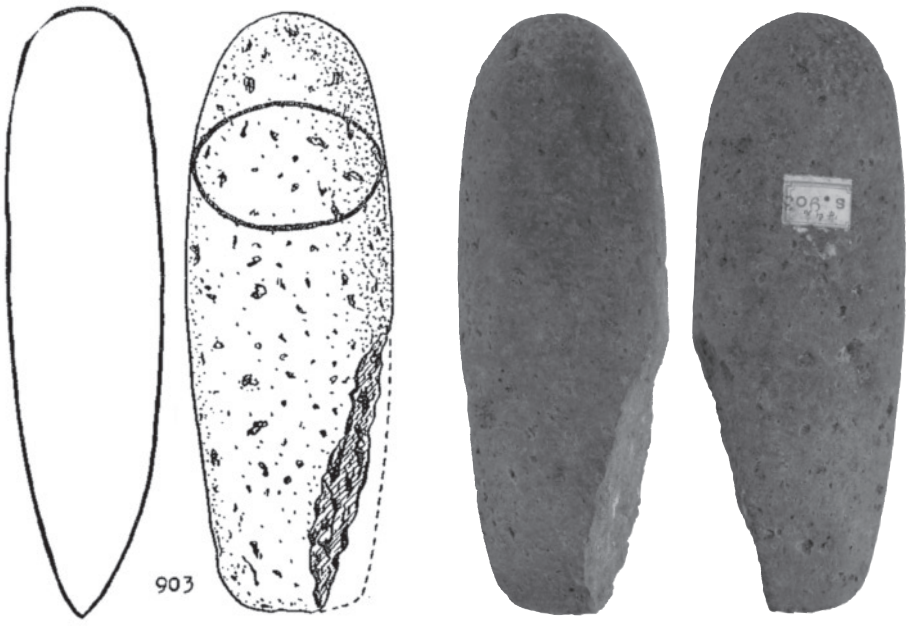


M1-99-1-999-434-25



M1-99-1-999-436-20

大場（1957）第21図より



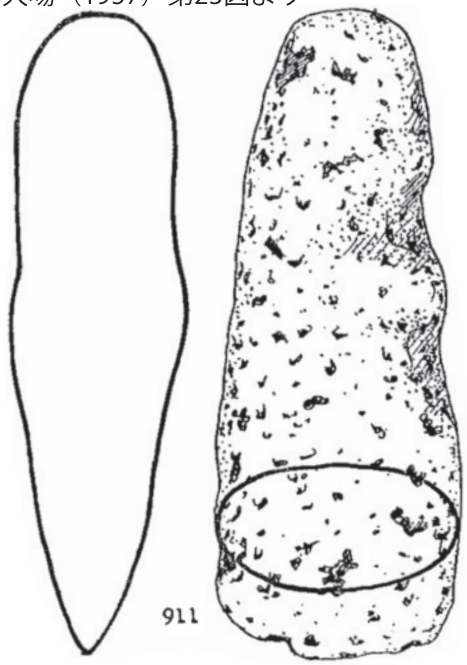
M1-99-1-999-437-3

0　5cm

PLATE 65　石器

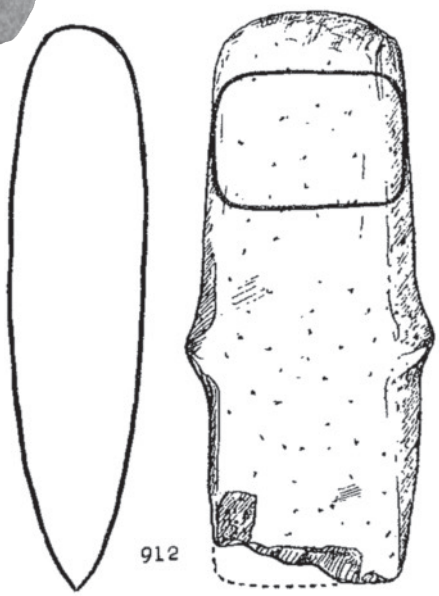
石斧

大場（1957）第23図より





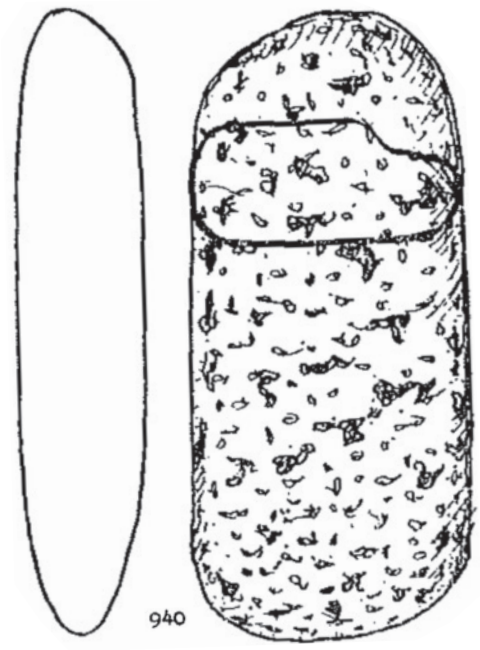
M1-99-1-999-437-9





M1-99-1-999-436-21

大場（1957）第25図より





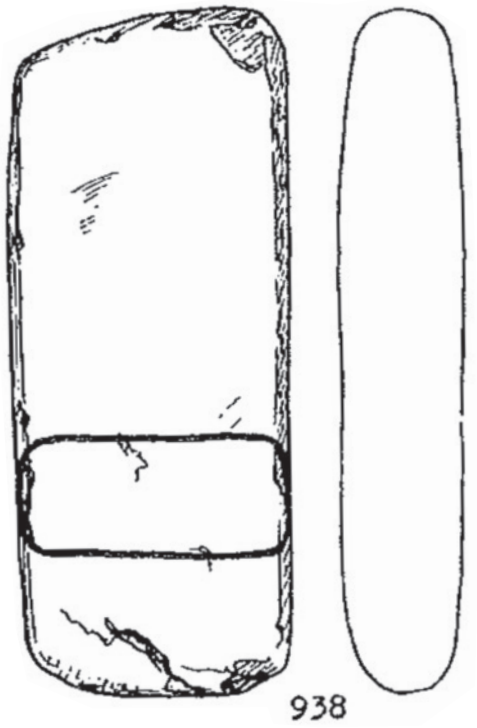
M1-99-99-999-462-3

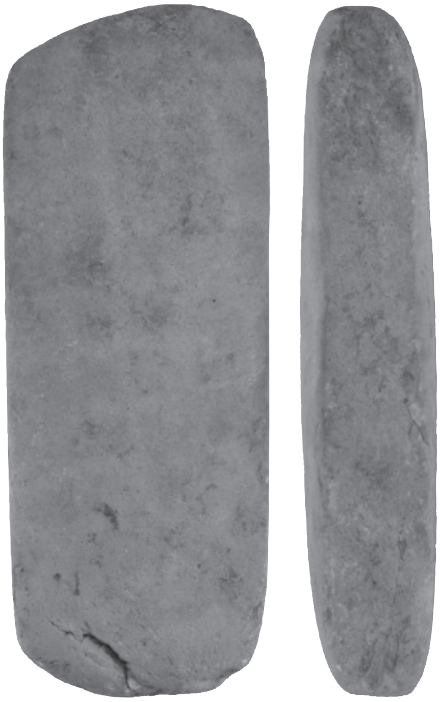
0　5cm

PLATE 66　石器

敲石

大場（1957）第25図より





M1-99-99-999-462-1



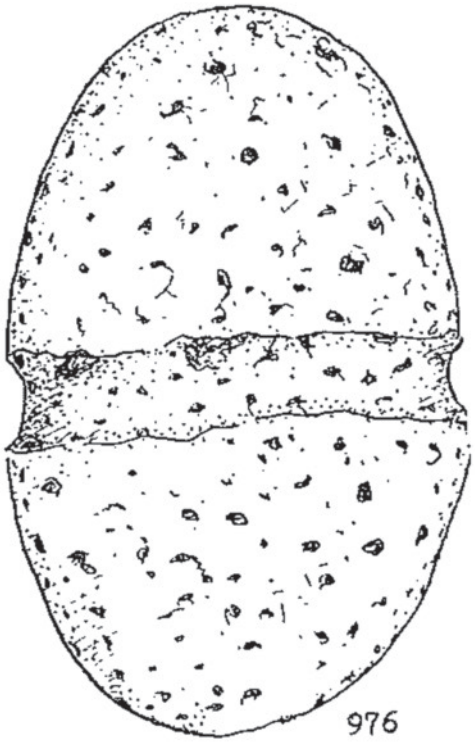
M1-99-99-999-462-2
（大場1957に記載あり）

0　5cm

PLATE 67　石器

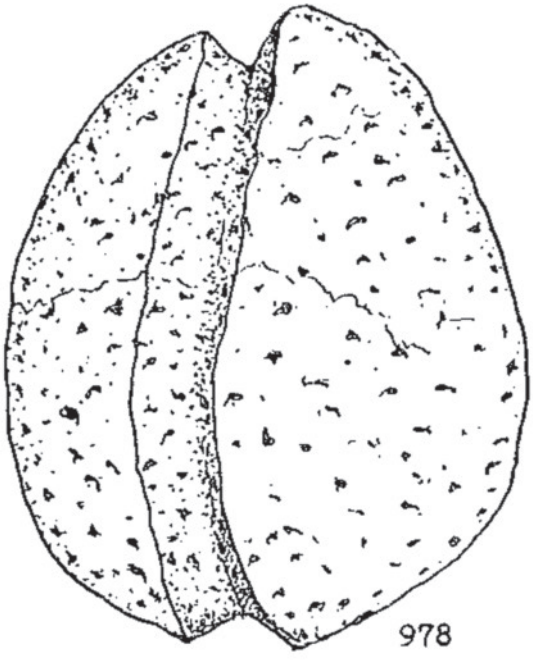
石錘

大場（1957）第26図より





M1-99-1-999-458-1





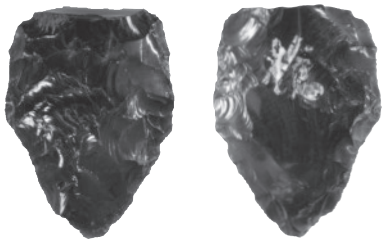
M1-99-1-999-455-1

0　5cm

PLATE 68　石器

石槍・砥石

石槍



M1-99-1-999-433-8



M1-99-1-999-433-11

0　5cm

砥石



M1-99-1-999-463-2
（大場1957に記載あり）



M1-99-1-999-463-3
（大場1957に記載あり）

0　5cm

PLATE 69　骨角器

骨製釣鈎軸・骨製針入・骨小刀・骨製刺突具・鹿角製品・骨鑿・未詳日常具

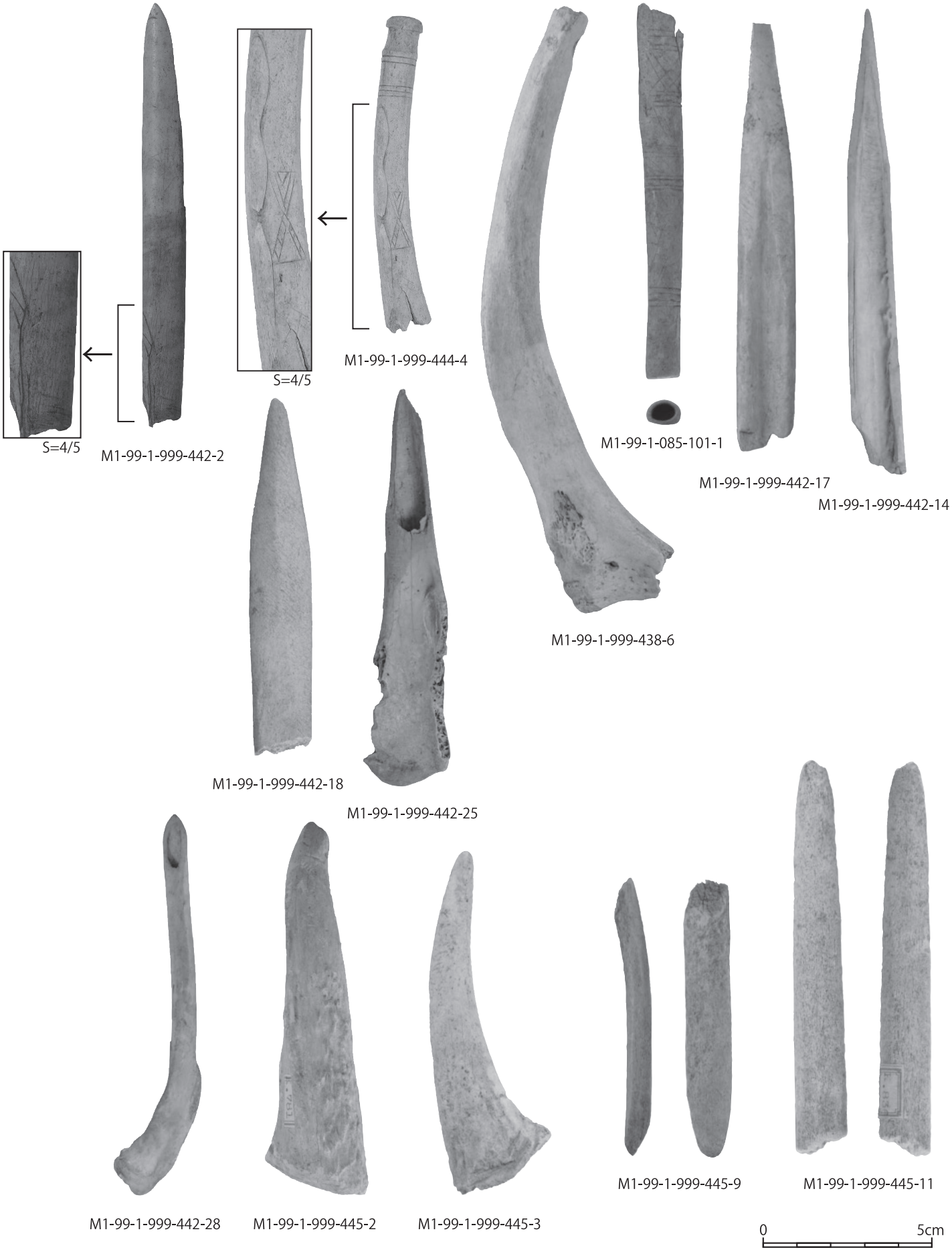
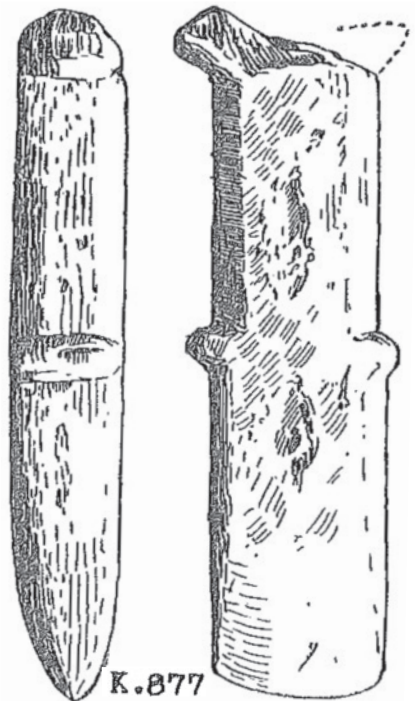
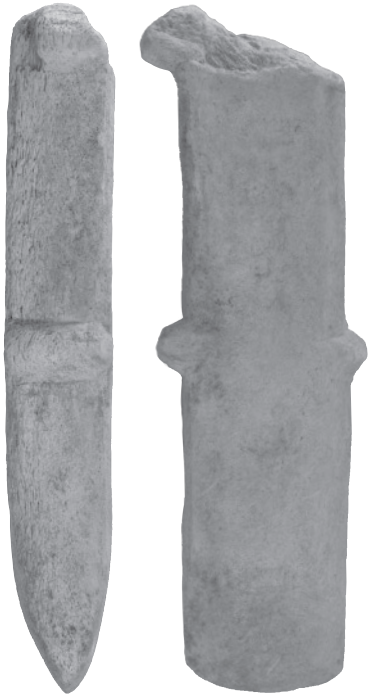


PLATE 70　骨角器

骨斧



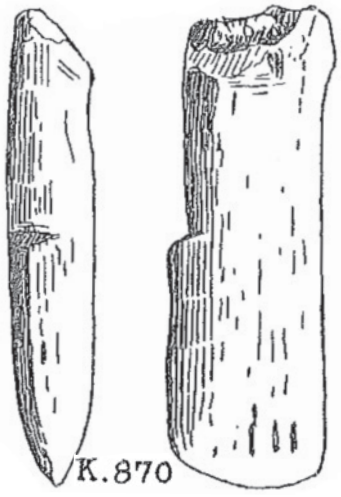
大場（1955）第22図より



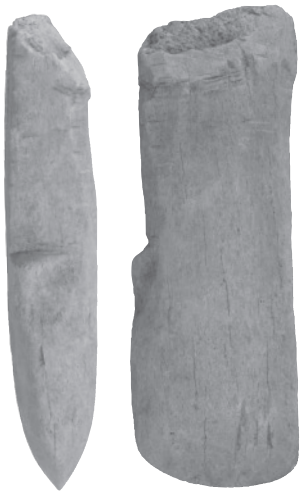
M1-99-1-999-449-7



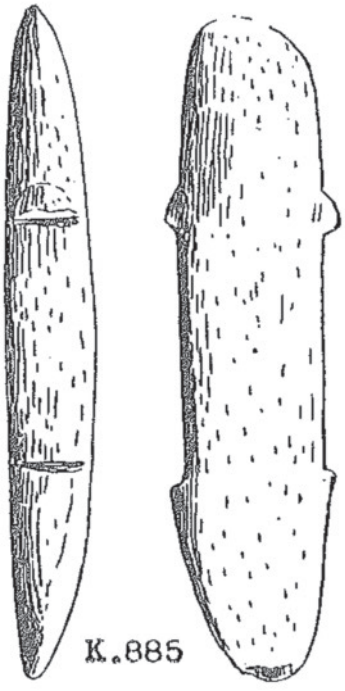
M1-99-1-999-88-1



大場（1955）第22図より



M1-99-1-999-449-6



大場（1955）第22図より

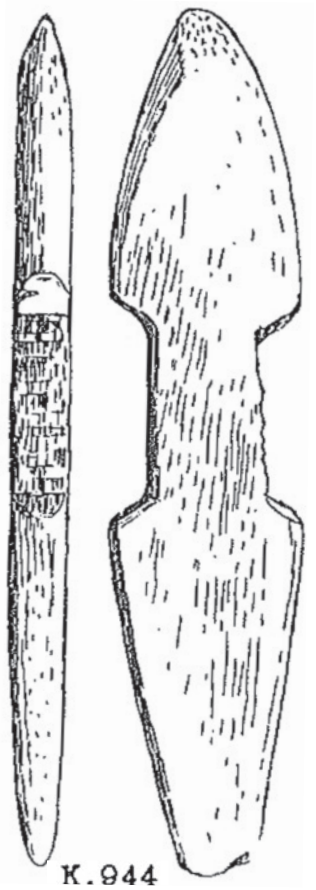


M1-99-1-999-449-9

0　5cm

PLATE 71　骨角器

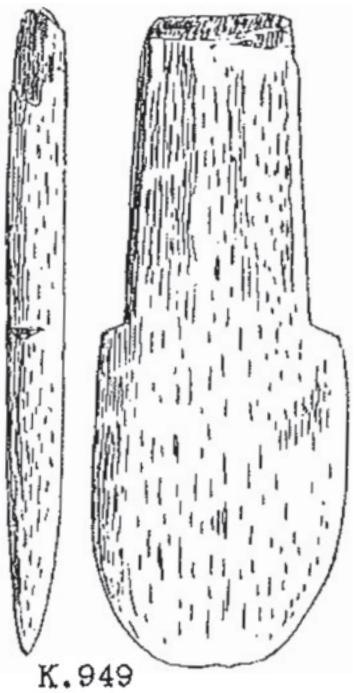
骨篦



大場（1955）第23図より



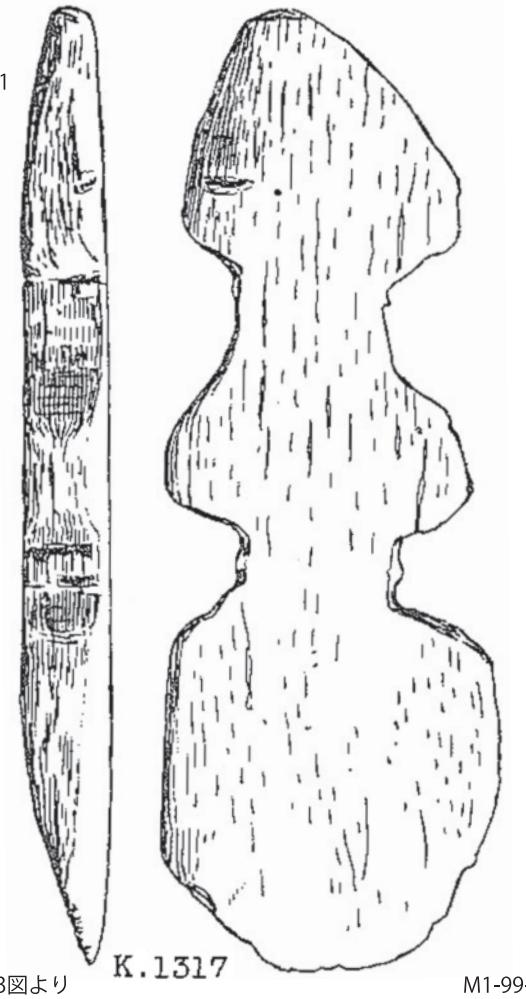
M1-99-1-999-447-1



大場（1955）第23図より



M1-99-1-999-73-2



大場（1955）第23図より

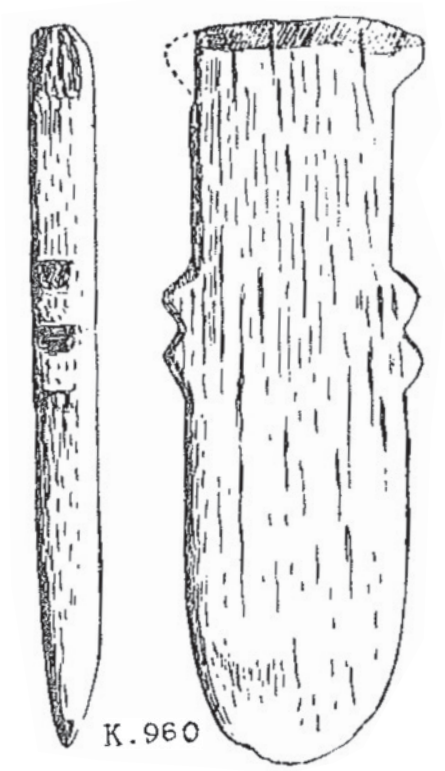


M1-99-1-999-447-10

0　5cm

PLATE 72　骨角器

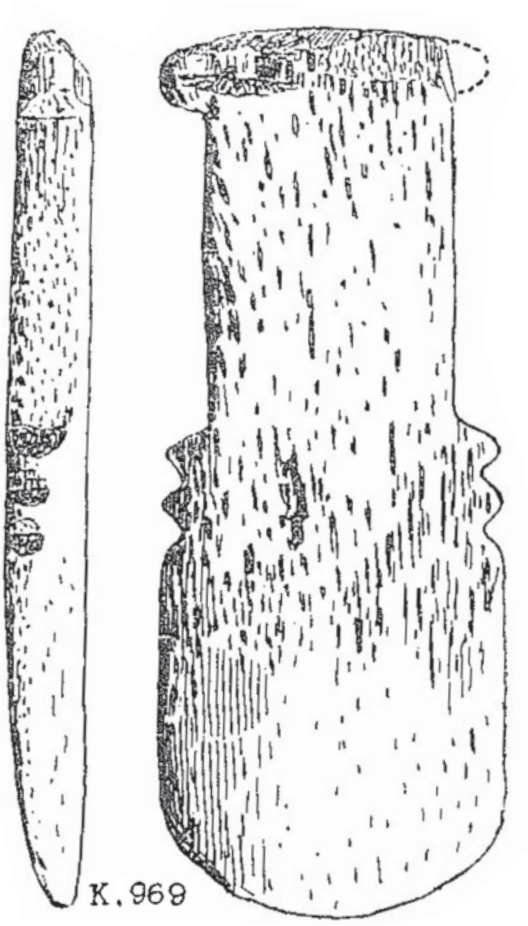
骨篦



大場（1955）第24図より



M1-99-1-999-83-9



大場（1955）第24図より

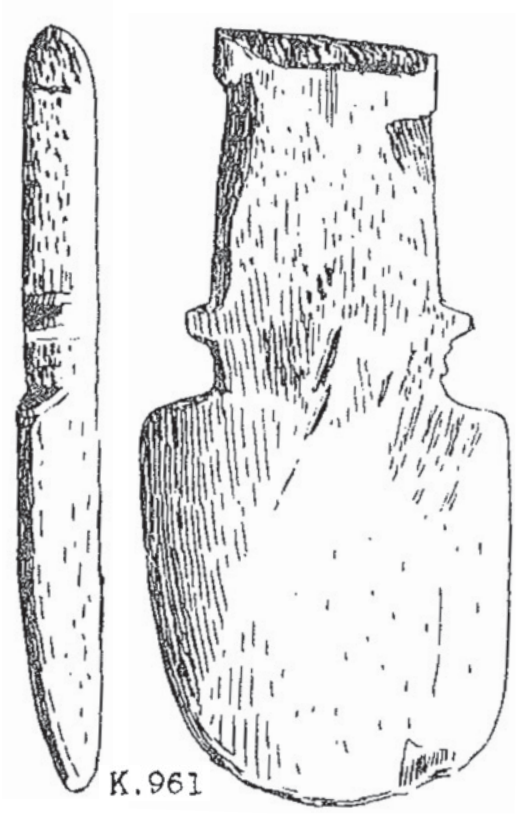


M1-99-1-999-448-5

0　5cm

PLATE 73　骨角器

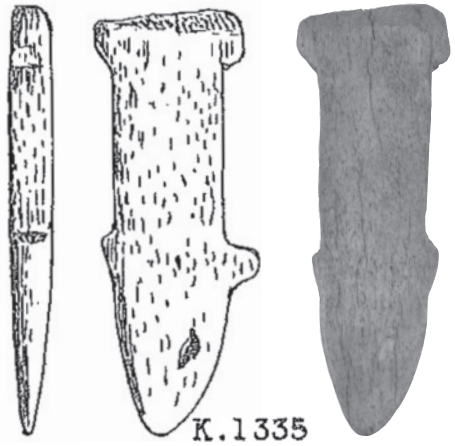
骨篦



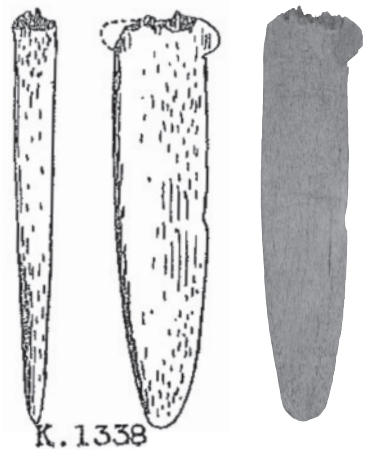
大場（1955）第24図より



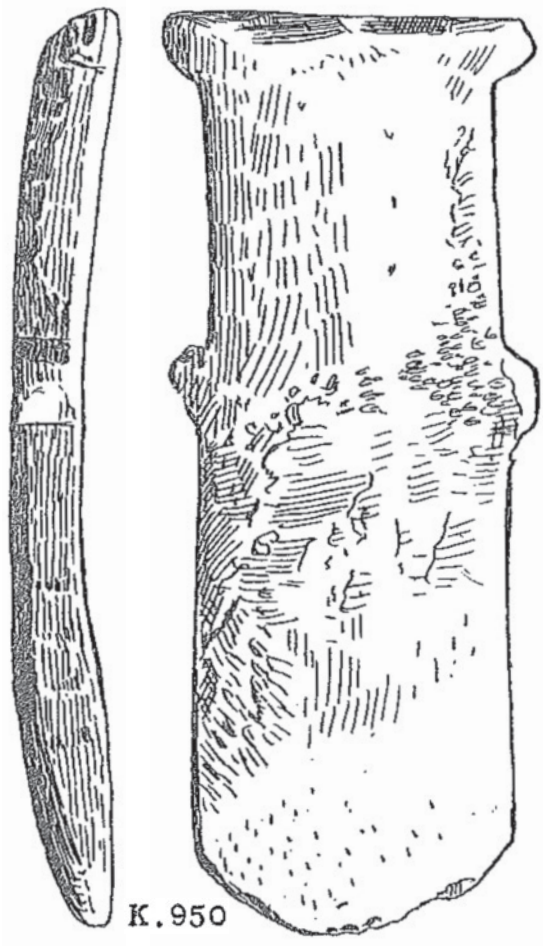
M1-99-1-999-447-2



大場（1955）第25図より　M1-99-1-999-448-9



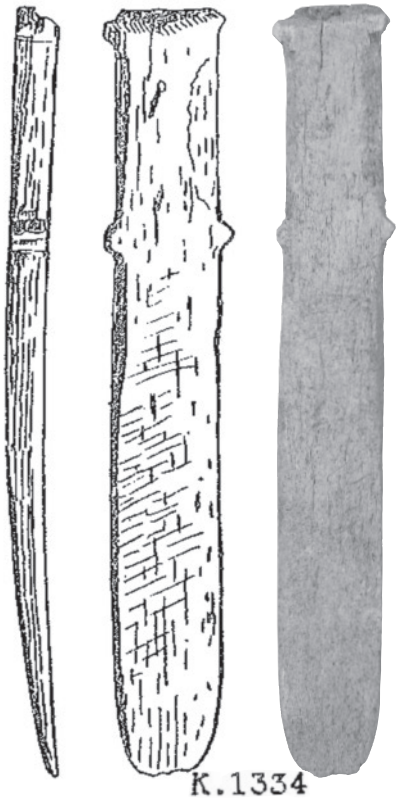
大場（1955）第25図より　M1-99-1-999-447-15



大場（1955）第25図より



M1-99-1-999-96-2

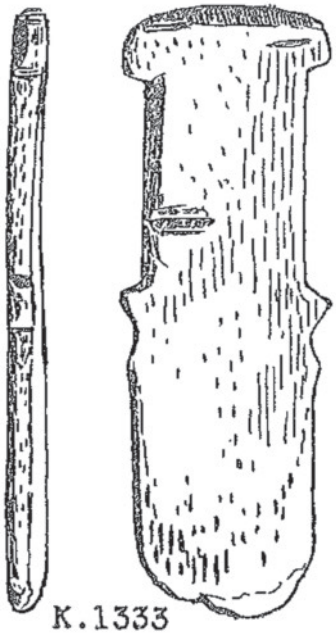


大場（1955）第25図より　M1-99-1-999-448-8

0　5cm

PLATE 74　骨角器

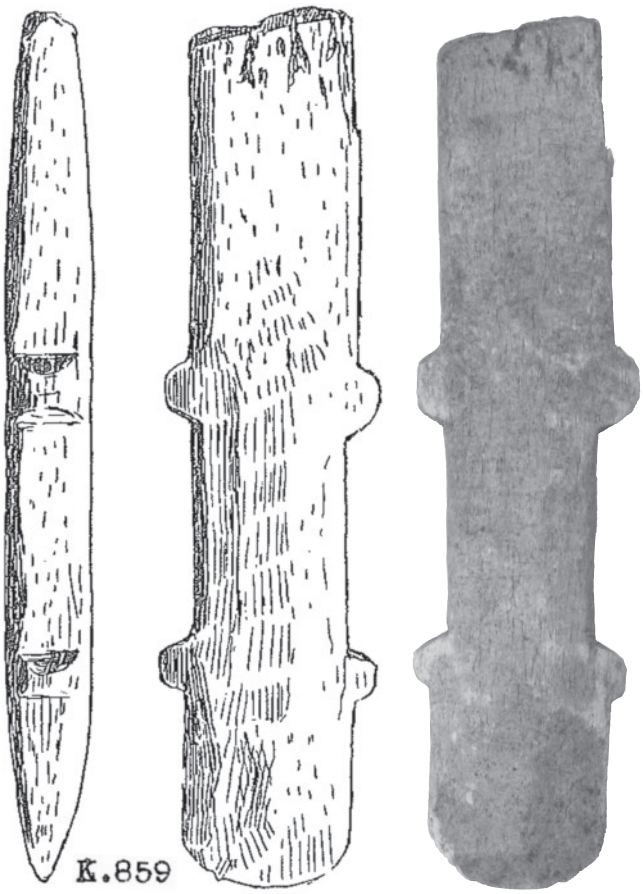
骨篦



大場（1955）第25図より

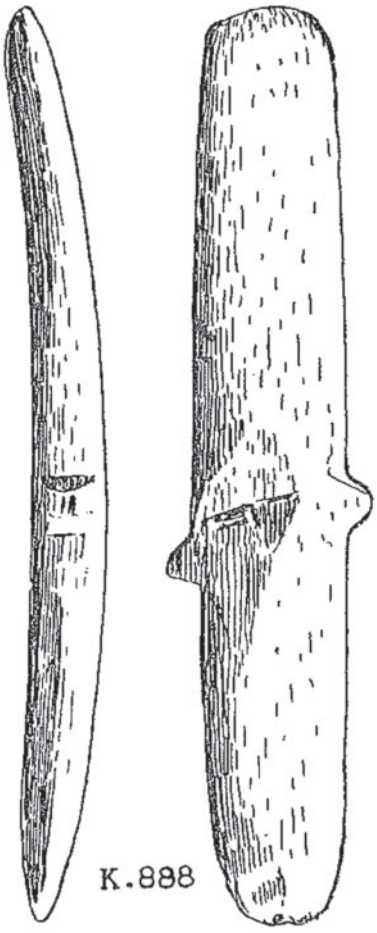


M1-99-1-999-75-5



大場（1955）第26図より

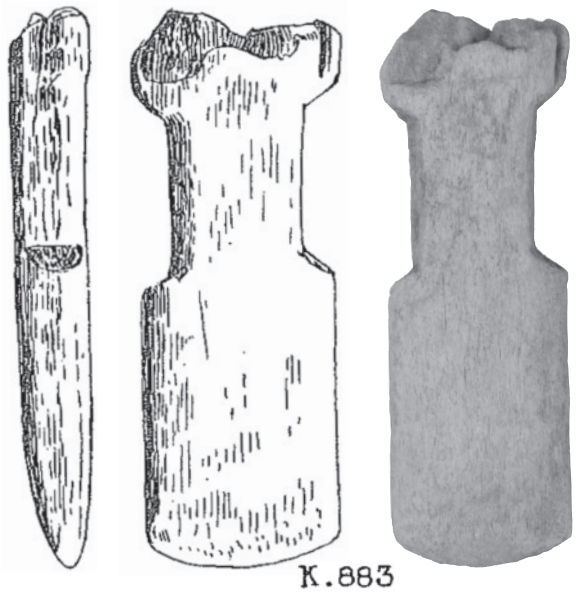
M1-99-1-999-75-2



大場（1955）第26図より



M1-99-1-999-448-3



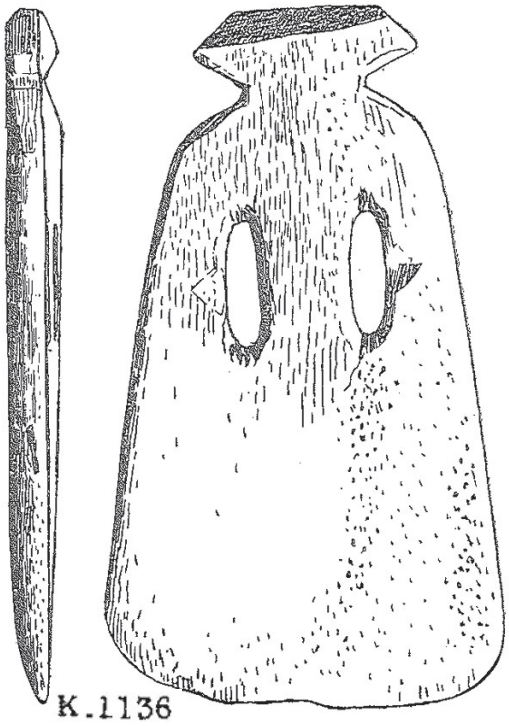
大場（1955）第26図より

M1-99-1-999-83-5

0　5cm

PLATE 75　骨角器

骨篦・骨鍬



大場（1955）第27図より



M1-99-1-999-96-12



M1-99-1-999-446-4



M1-99-1-999-96-9

0　10cm

PLATE 76　骨角器

骨楔状残片・骨製打突器・骨刀



M1-99-1-999-88-15



M1-99-1-999-448-11



M1-99-1-999-449-11



M1-99-1-999-449-10



M1-99-1-999-445-19



M1-99-1-999-85-9



M1-99-1-999-448-10

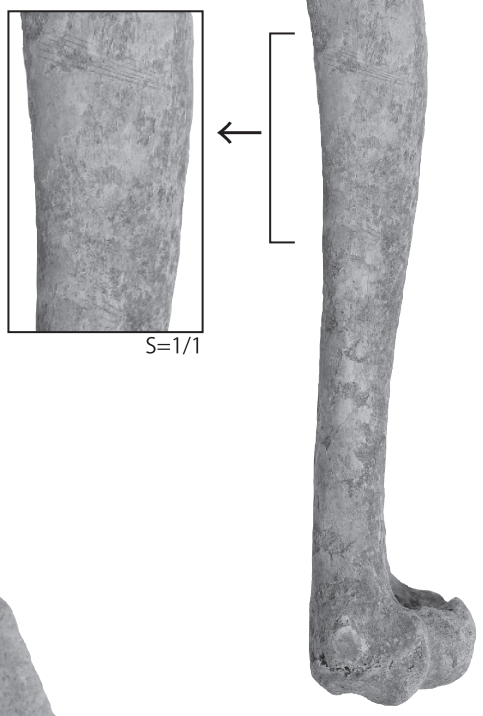
0　5cm

PLATE 77　骨角器

骨製釣針軸・骨篦・骨角器未成品



M1-99-1-999-92-4



S=1/1

M1-99-1-038-193-1



M1-99-1-999-445-20

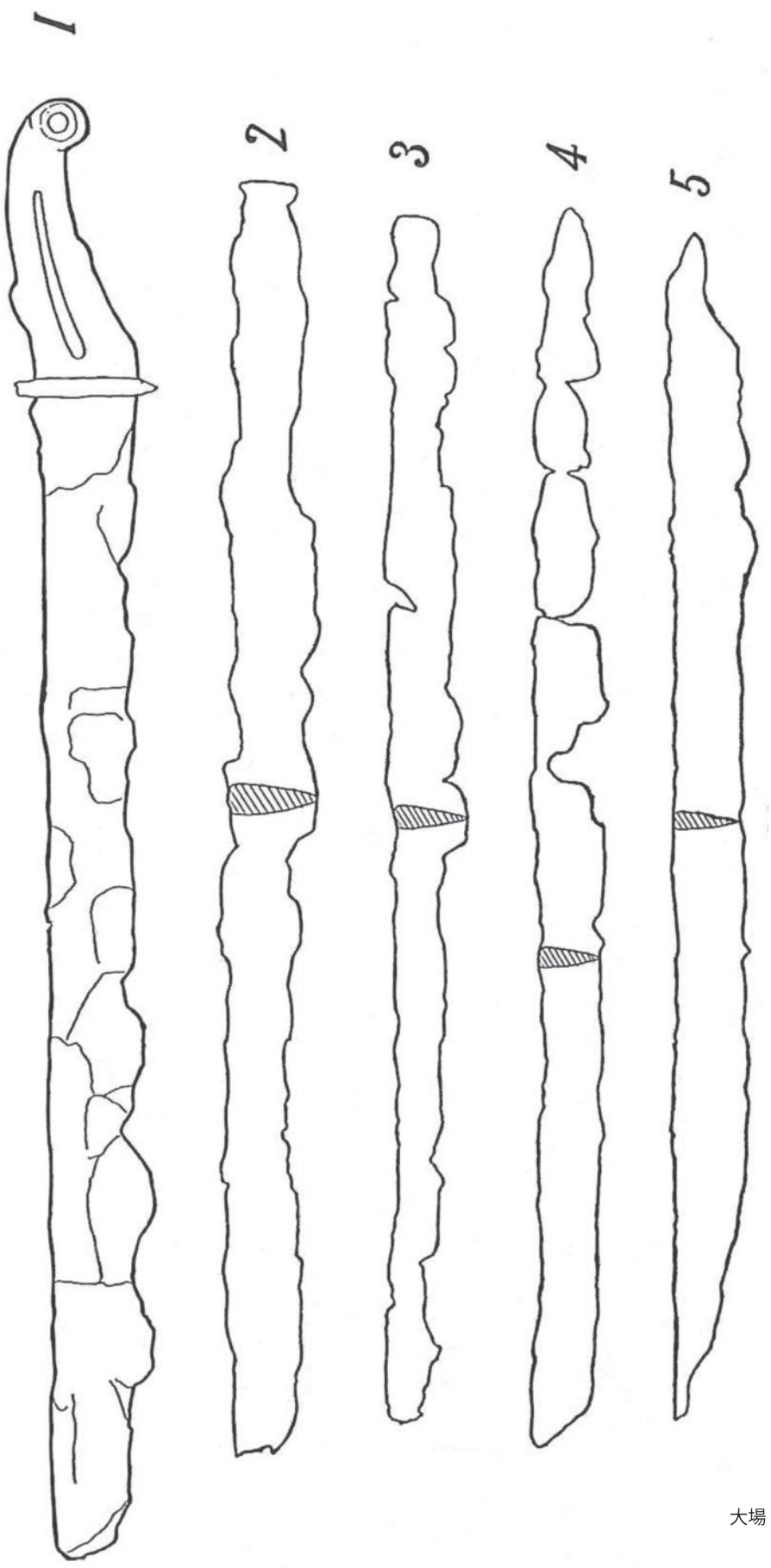


M1-99-1-999-92-6

0　5cm

PLATE 78　金属器

大刀



大場（1962）第1図より

0　10cm

PLATE 79　金属器

大刀



M1-99-1-999-512-1
（大場1962 第1図2に対応）



M1-99-1-999-500-1
（大場1962 第1図3に対応）



M1-99-1-999-511-1
（大場1962 第1図4に対応）

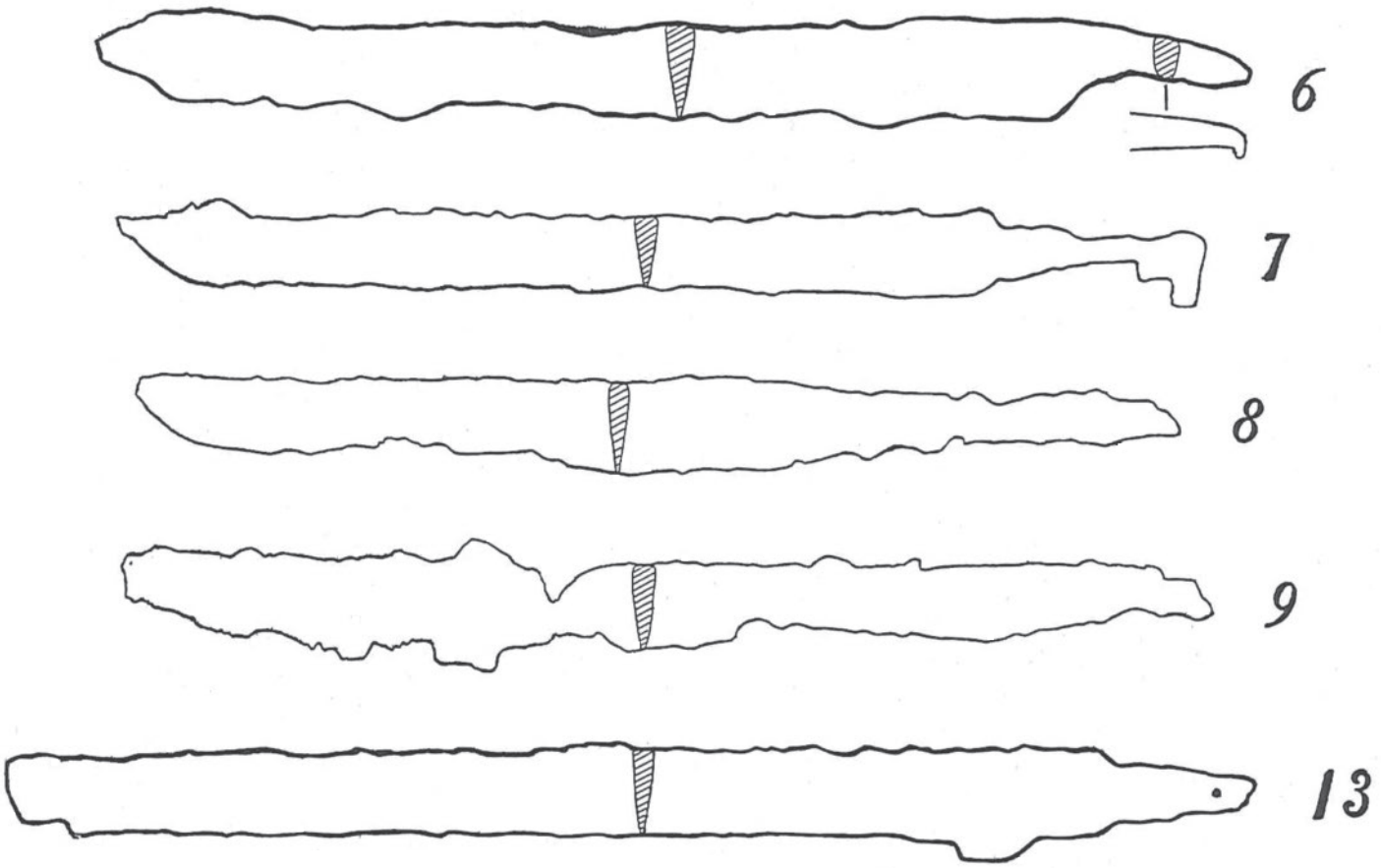


M1-99-1-046-172-1
（大場1962 第1図5に対応）

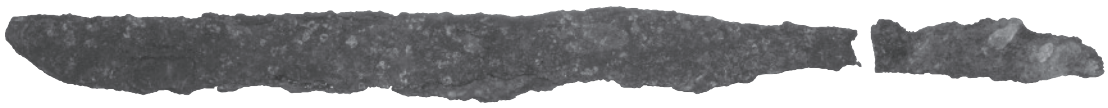
0　10cm

PLATE 80　金属器

大刀



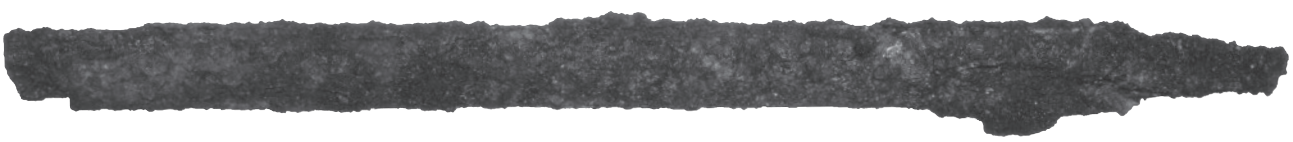
大場（1962）第2図より



M1-99-1-999-502-1（大場1962 第2図8に対応）



M1-99-1-999-494-1（大場1962 第2図9に対応）

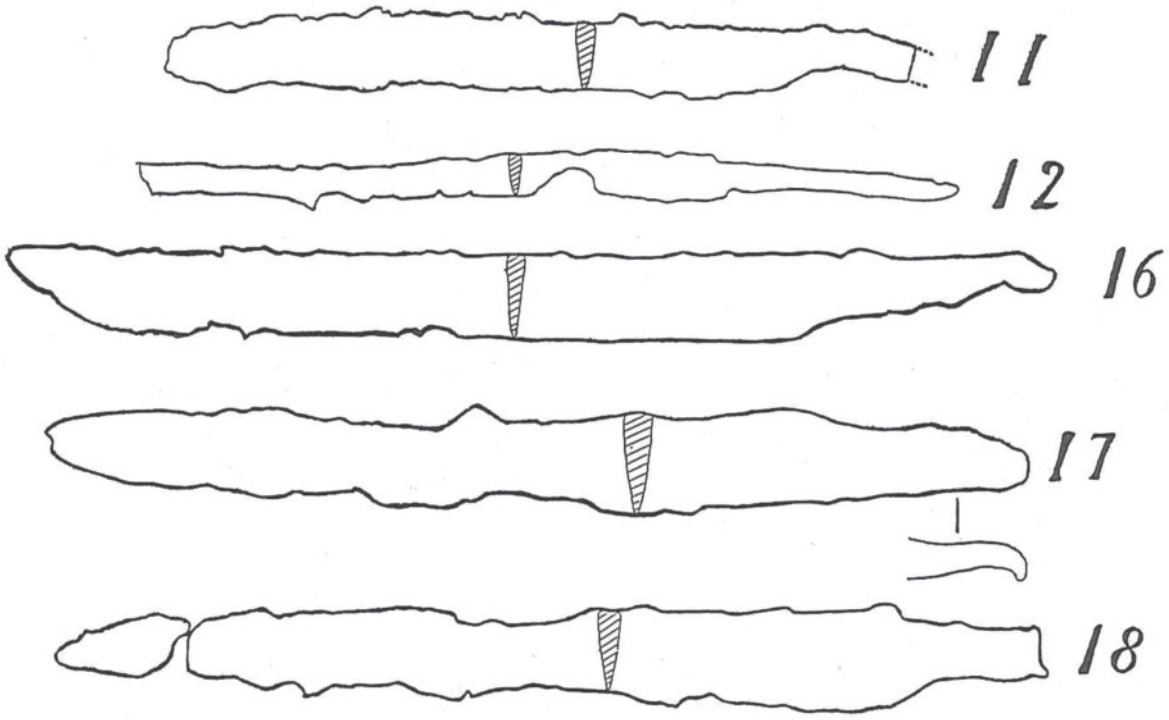


M1-99-1-046-173-1（大場1962 第2図13に対応）

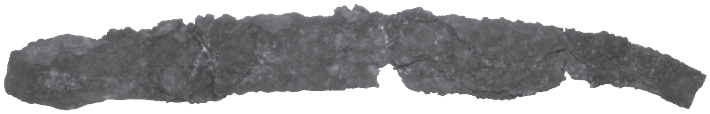
0　10cm

PLATE 81　金属器

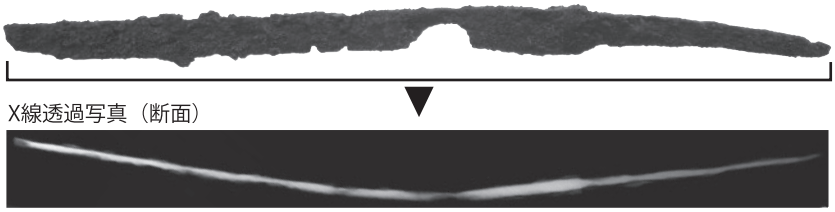
大刀



大場（1962）第3図より



M1-99-1-999-496-1（大場1962 第3図11に対応）



M1-99-1-999-495-1（大場1962 第3図12に対応）



M1-99-1-004-508-1（大場1962 第3図16に対応）



M1-99-1-999-513-1（大場1962 第3図17に対応）

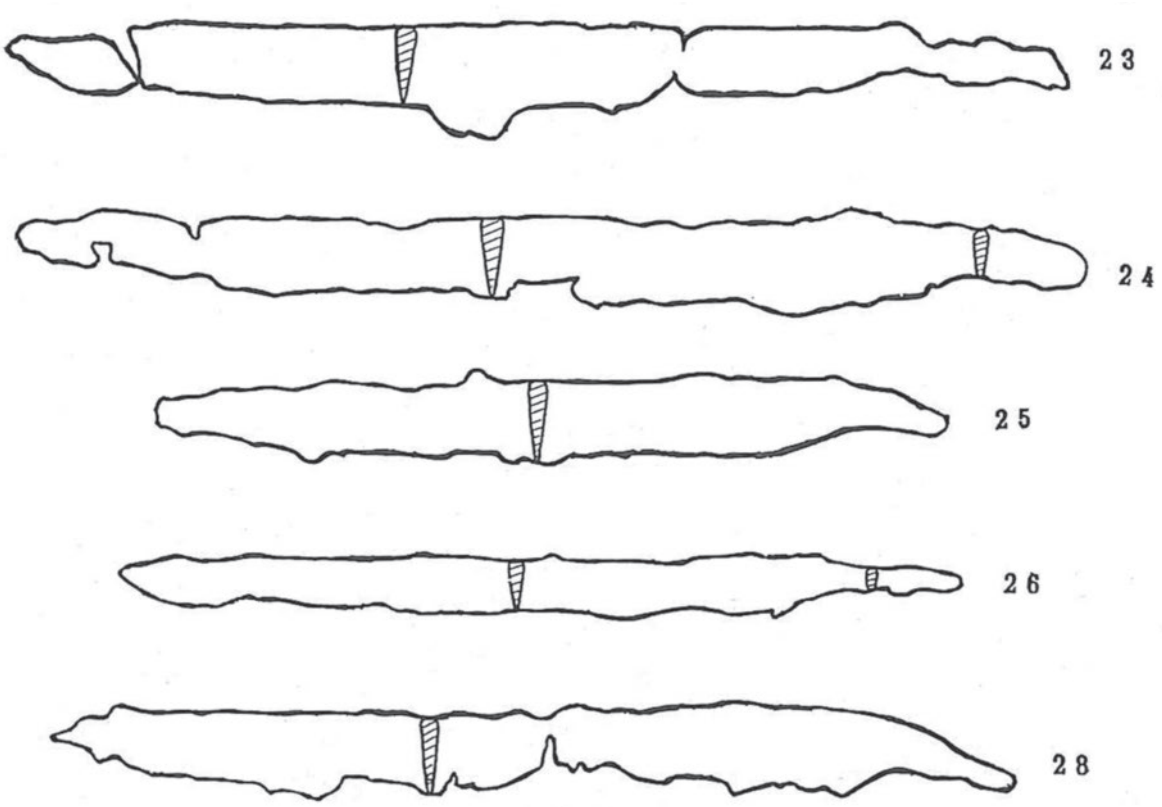


M1-99-1-999-492-1（大場1962 第3図18に対応）

※　X線透過写真：㈱イビソク提供　0　10cm

PLATE 82　金属器

刀子



大場（1962）第4図より



M1-99-1-999-479-1（大場1962 第4図23に対応）



M1-99-1-999-478-1（大場1962 第4図24に対応）

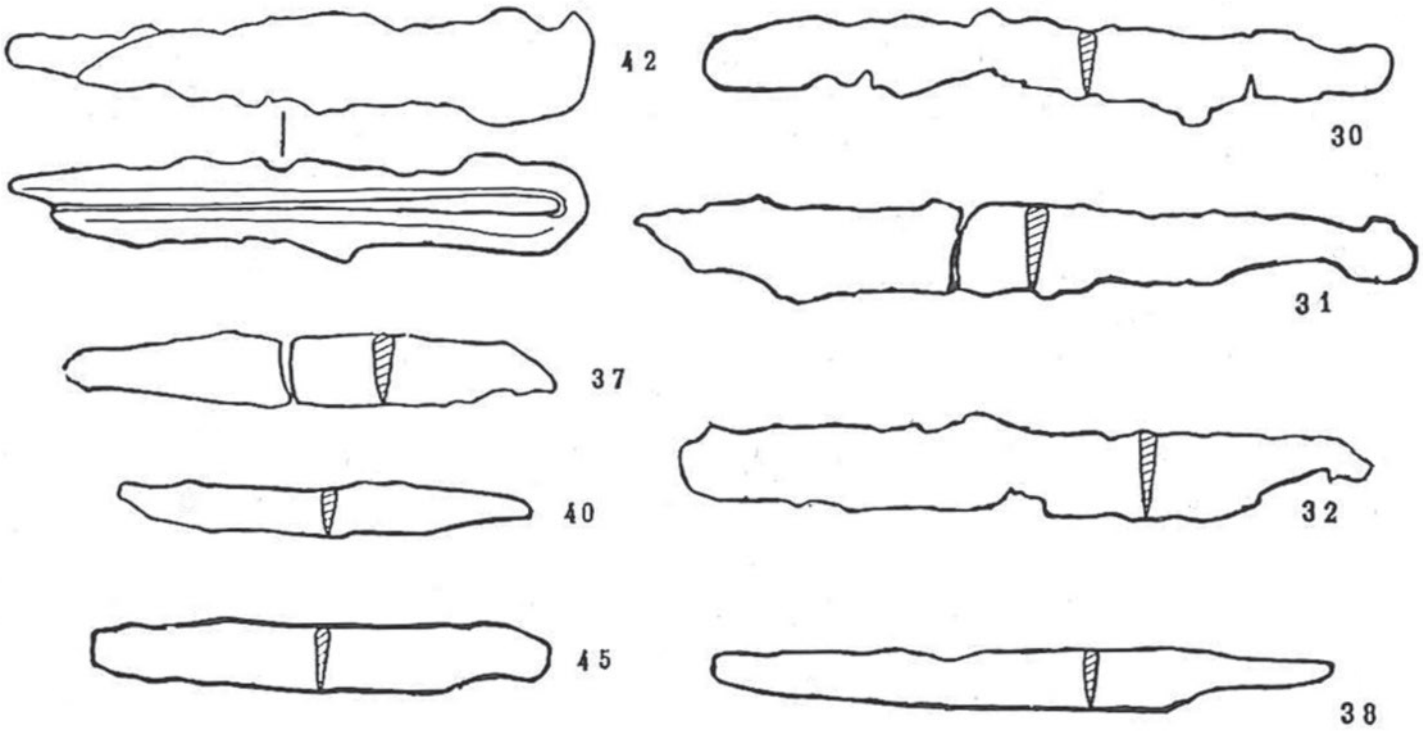


M1-99-1-999-474-1（大場1962 第4図26に対応）

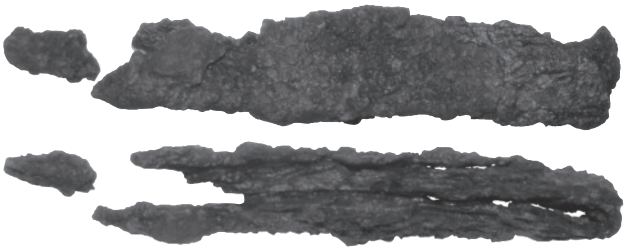
0　5cm

PLATE 83　金属器

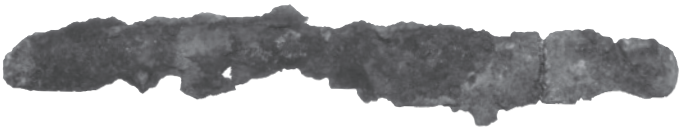
刀子



大場（1962）第5図より



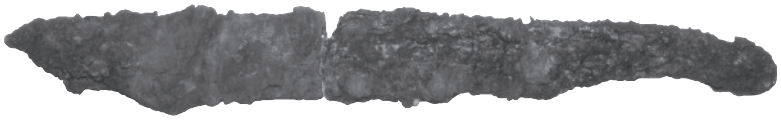
M1-99-1-999-484-1（大場1962 第5図42に対応）



M1-99-1-999-469-1（大場1962 第5図30に対応）



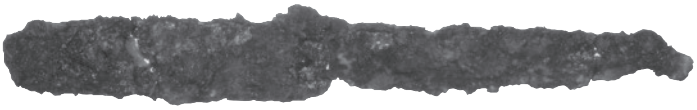
M1-99-99-194-490-1（大場1962 第5図37に対応）



M1-99-1-035-128-1（大場1962 第5図31に対応）



M1-99-1-189-480-1（大場1962 第5図40に対応）



M1-99-1-999-470-1（大場1962 第5図32に対応）



M1-99-1-999-464-1（大場1962 第5図45に対応）

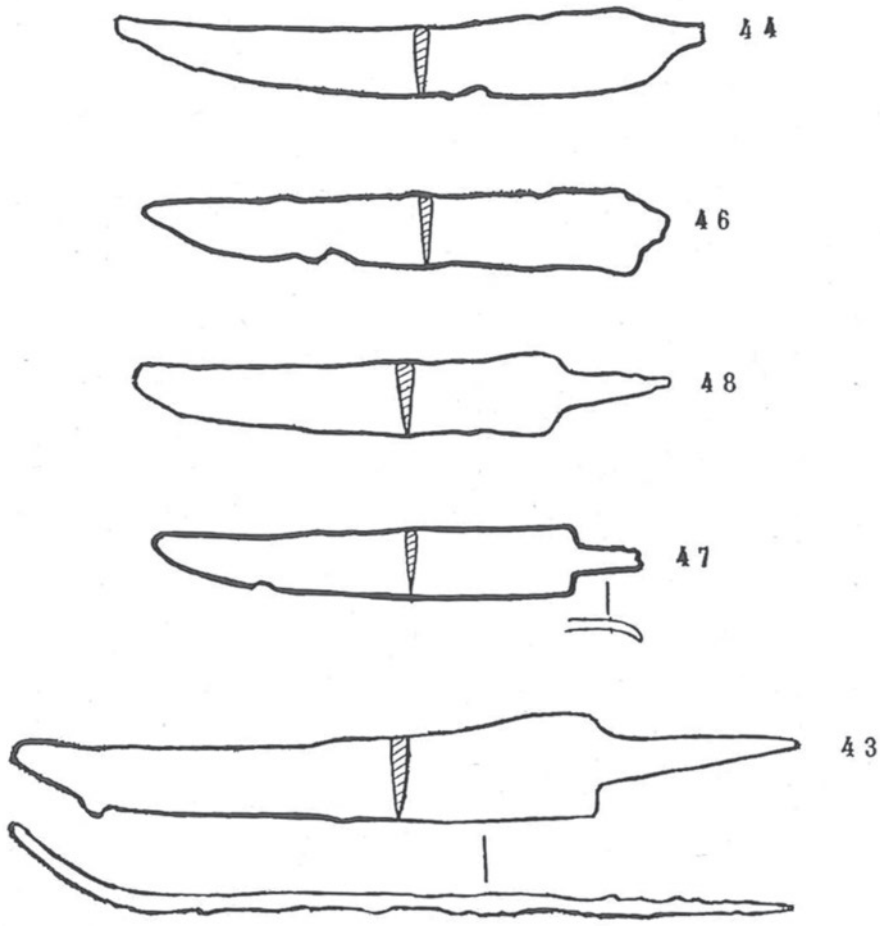


M1-99-1-165-259-1（大場1962 第5図38に対応）



PLATE 84　金属器

マキリ形刀子



大場（1962）第6図より



M1-99-1-999-486-1（大場1962 第6図44に対応）



M1-99-1-999-465-1（大場1962 第6図46に対応）



M1-99-1-999-467-1（大場1962 第6図48に対応）



M1-99-1-999-466-1（大場1962 第6図47に対応）

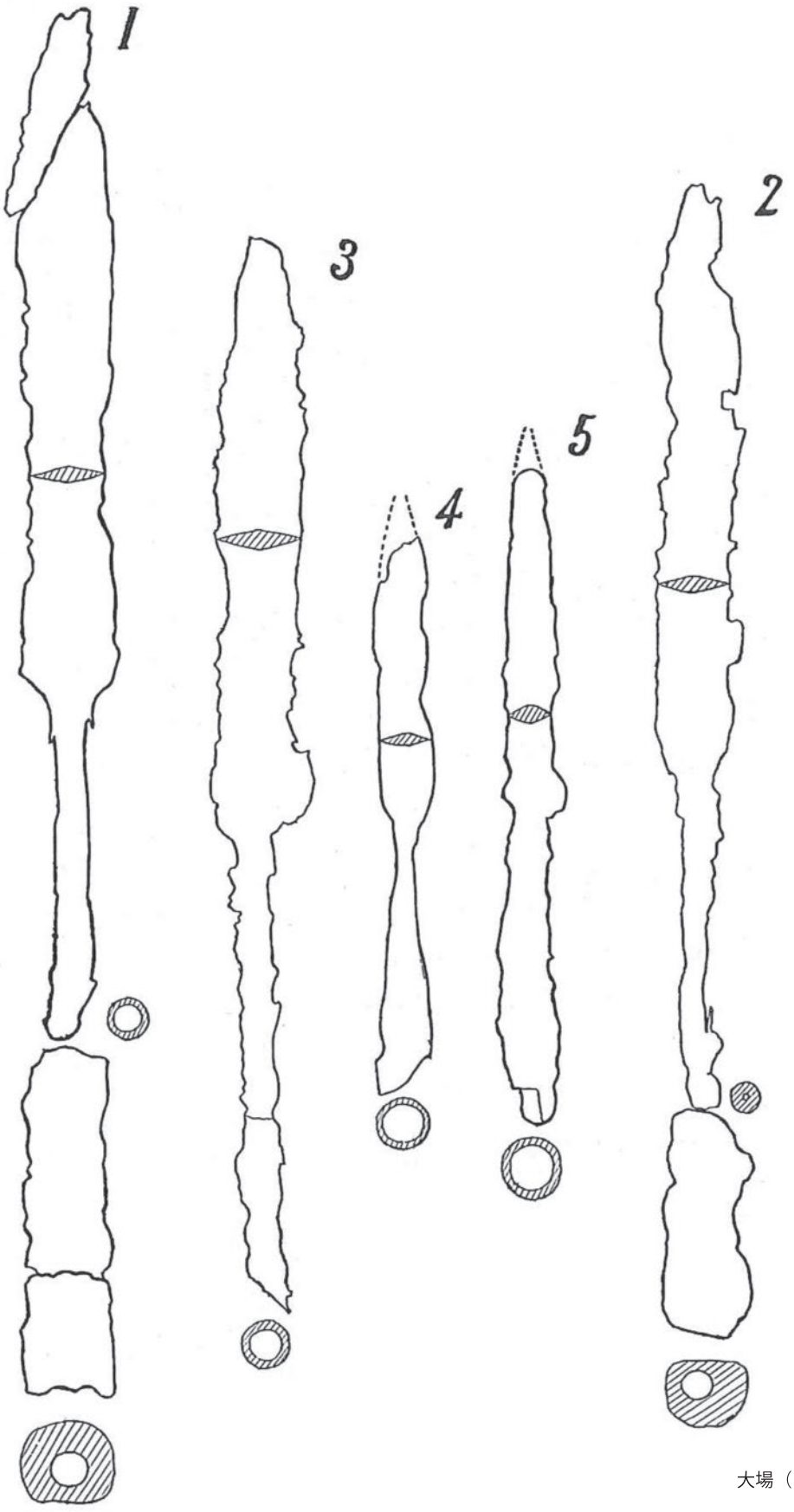


M1-99-99-999-507-1

0　5cm

PLATE 85　金属器

鉄製鉾



大場（1962）第7図より

0　10cm

PLATE 86　金属器

鉄製鉾



M1-99-99-999-525-1
（大場1962 第7図1に対応）



M1-99-99-999-524-1
（大場1962 第7図3に対応）

X線透過写真

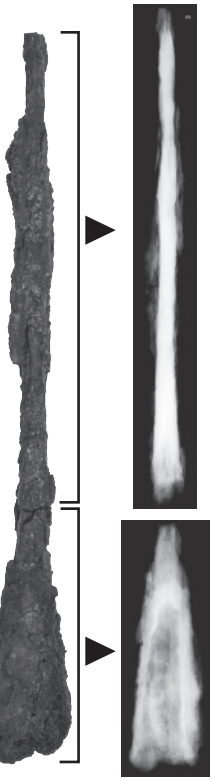


M1-99-99-999-527-1
（大場1962 第7図4に対応）



M1-99-99-999-523-1
（大場1962 第7図2に対応）

X線透過写真

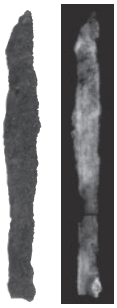


M1-99-99-999-529-1
（大場1962 第5表6の可能性）



M1-99-99-999-526-1

X線透過写真

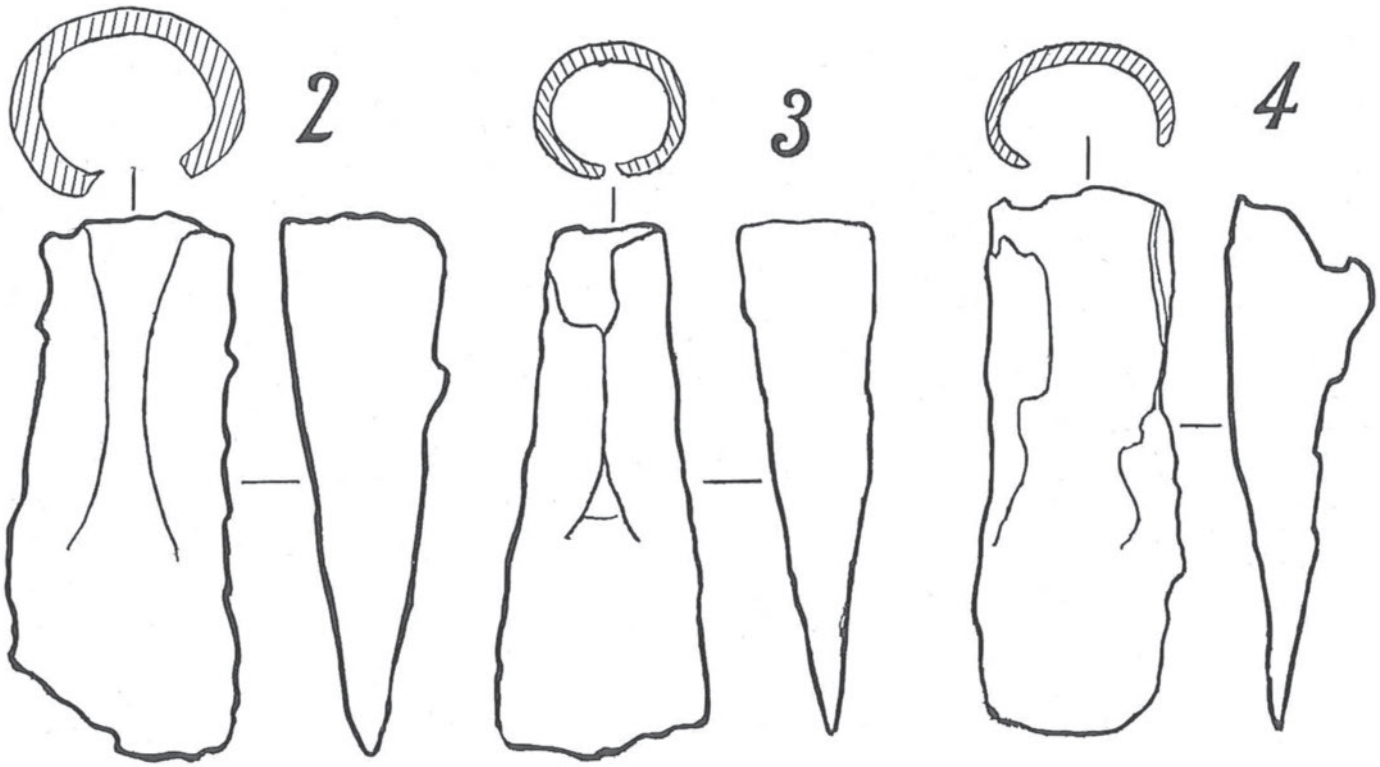


M1-99-99-999-530-1
（大場1962 第5表7
の可能性）

※　X線透過写真：㈱イビソク提供　0　10cm

PLATE 87　金属器

鉄製斧



大場（1962）第8図より



M1-99-1-999-517-1
（大場1962 第8図2に対応）



M1-99-1-999-518-1
（大場1962 第8図3に対応）

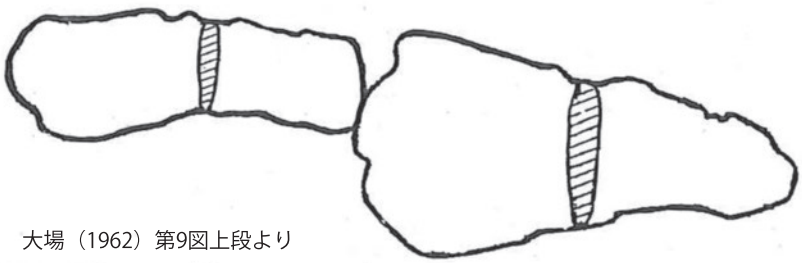


M1-99-1-999-519-1
（大場1962 第8図4に対応）

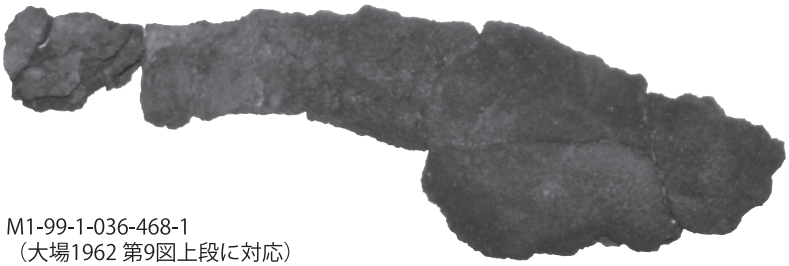
0　5cm

PLATE 88　金属器

鉄製鉈・鉄製鉤形利器・鉄鍋

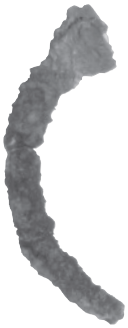


大場（1962）第9図上段より



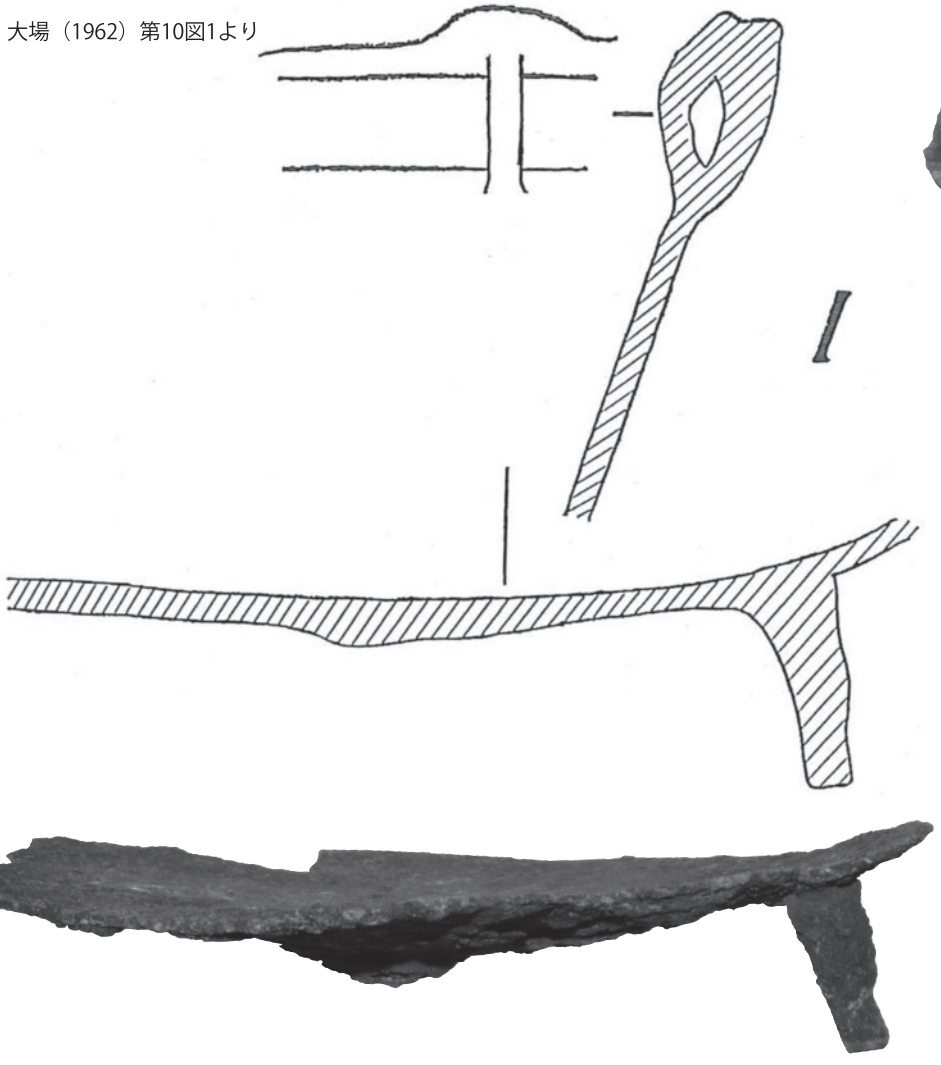
M1-99-1-036-468-1
（大場1962 第9図上段に対応）

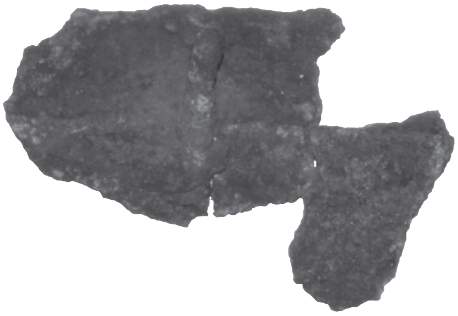




大場（1962）　M1-99-1-189-481-1
第9図下段右より　（大場1962 第9図下段右に対応）

大場（1962）第10図1より





M1-99-1-999-536-1
（大場1962 第10図1上部に対応）

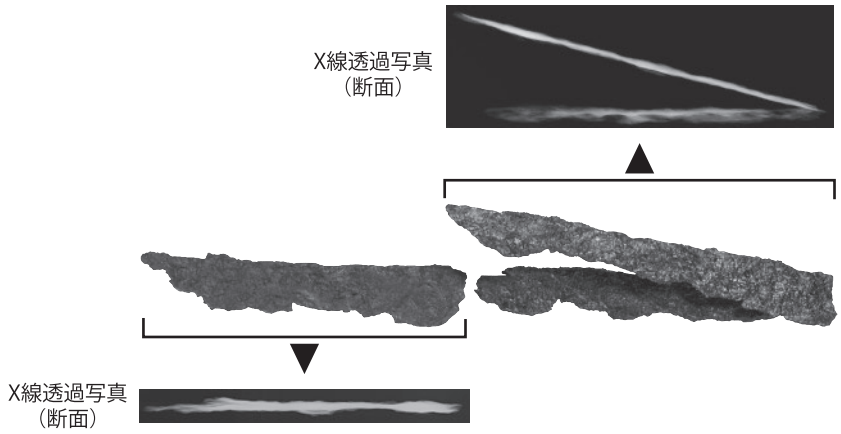
0　5cm

PLATE 89　金属器

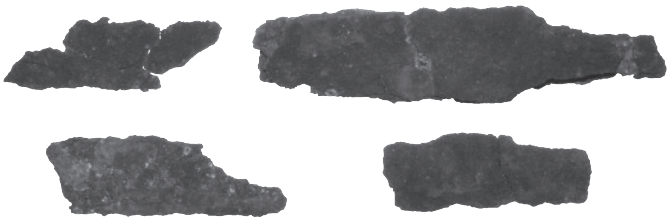
大刀



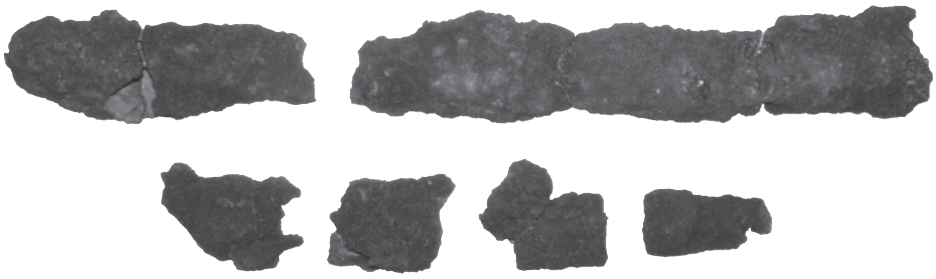
M1-99-1-999-506-1
（大場1962 第2表10の可能性）



M1-99-99-999-499-1



M1-99-1-999-505-1（大場1962 第2表21の可能性）



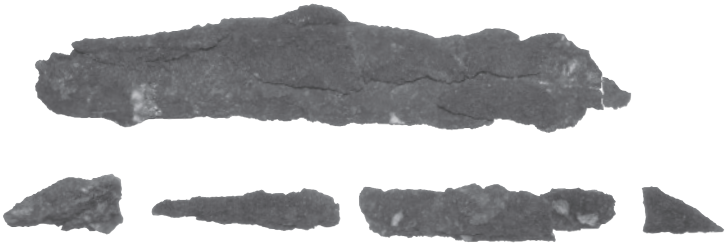
M1-99-1-999-498-1（大場1962 第2表15の可能性）

※　X線透過写真：㈱イビソク提供　0　10cm

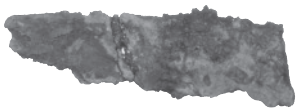
PLATE 90　金属器

大刀・鉄製品（鞘金具）

大刀



M1-99-99-999-493-1



M1-99-1-195-534-1



M1-99-1-999-509-1（大場1962 第2表14の可能性）



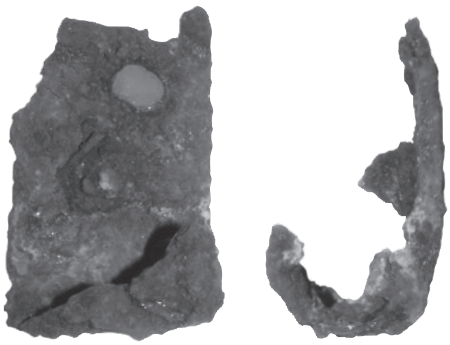
M1-99-1-086-176-1（大場1962 第2表22の可能性）



M1-99-99-999-521-1

0　10cm

鞘金具



M1-99-1-072-268-1

0　2.5cm

PLATE 91　金属器

刀子



M1-99-1-074-262-1（大場1962 第3表39の可能性）



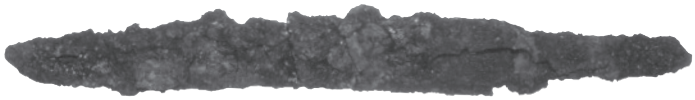
M1-99-1-999-472-1（大場1962 第3表34の可能性）



M1-99-1-200-296-1（大場1962 第3表29の可能性）



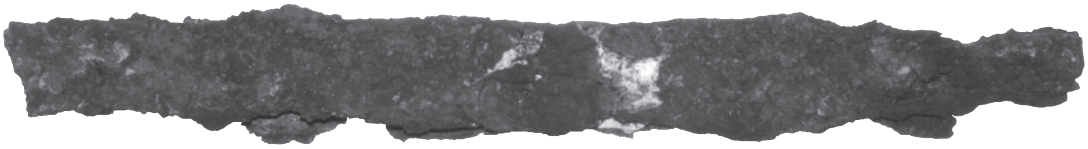
M1-99-1-191-483-1（大場1962 第3表41の可能性）



M1-99-1-999-471-1（大場1962 第3表33の可能性）



M1-99-1-139-535-1



M1-99-1-999-514-1（大場1962 第3表19の可能性）



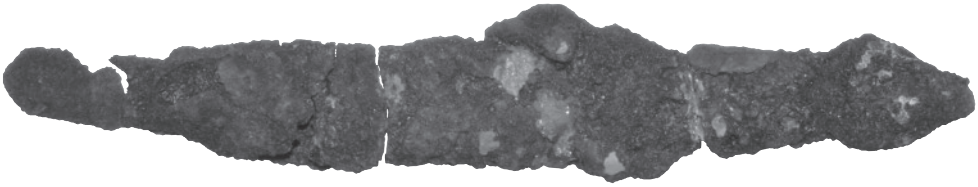
M1-99-1-114-108-1



M1-99-1-187-488-1（大場1962 第3表36の可能性）



M1-99-1-999-487-1（大場1962 第3表35の可能性）



M1-99-1-999-475-1（大場1962 第3表27の可能性）

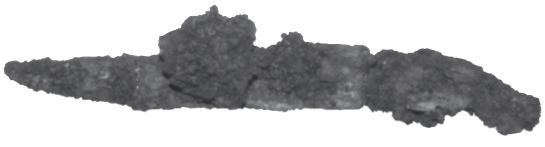


M1-99-1-158-160-1





M1-99-1-999-510-1（大場1962 第3表20の可能性）



M1-99-1-024/054-135-2

0　5cm

PLATE 92　礫

愛玩石



M1-99-1-999-459-34

0　5cm

PLATE 93　その他の遺物

土製品・化石

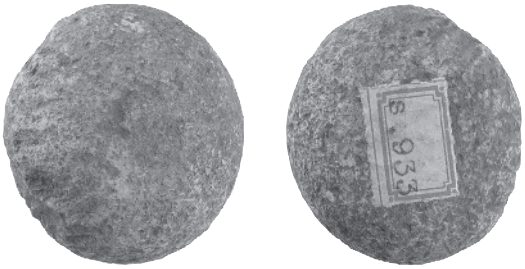
土製品（土玉）



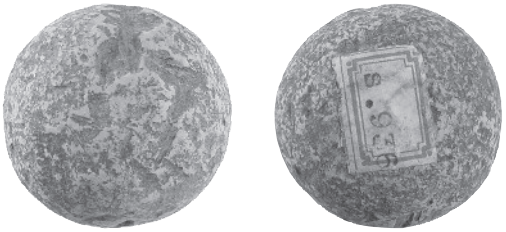
M1-99-1-999-460-6(S929)
※大場(1957)では「円石」



M1-99-1-999-460-7(S930)
※大場(1957)では「円石」



M1-99-1-999-460-10(S933)
※大場(1957)では「円石」



M1-99-1-999-460-13(S936)

0　2.5cm

化石



M1-99-1-999-433-49



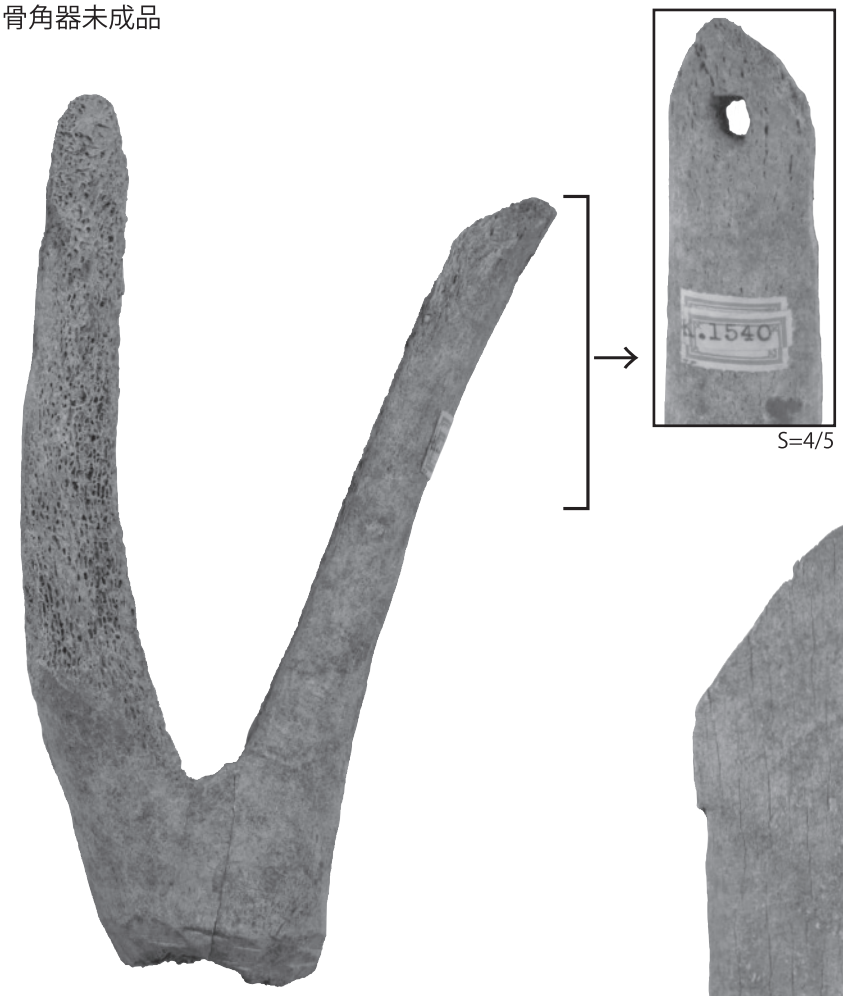
M1-99-1-999-433-50

0　5cm

PLATE 94

第二貝塚A地区

骨角器未成品

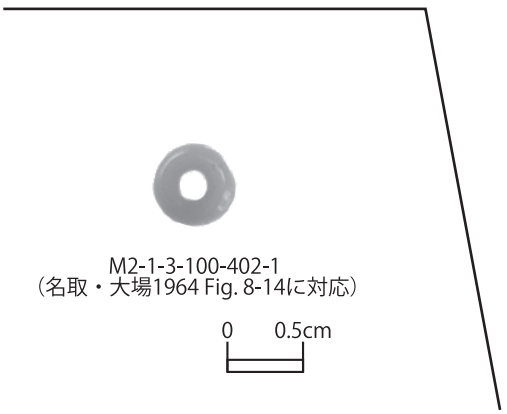


S=4/5

M2-1-1-096-341-1

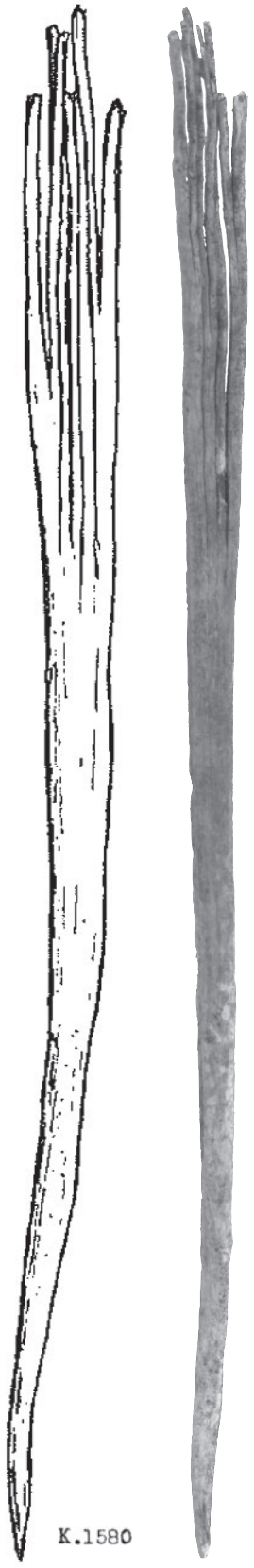


M2-1-1-096-341-3



M2-1-3-100-402-1
（名取・大場1964 Fig. 8-14に対応）

0 0.5cm



大場（1955）第34図より　M2-1-1-096-341-9

0 5cm

PLATE 95

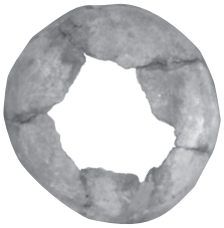
第二貝塚B地点

M2-2-1-105-537-1





口縁部



底部





0 10cm

PLATE 96

第二貝塚B地区


M2-2-1-999-409-1


M2-2-1-101-308-1


M2-2-1-101 -308-2


M2-2-1-101 -308-3


M2-2-1-101 -308-4


M2-2-1-101 -308-5


M2-2-1-101 -308-6


M2-2-1-101 -308-7


M2-2-1-101 -308-8


M2-2-1-101 -308-9


M2-2-1-101 -308-10


M2-2-1-101 -308-11


M2-2-1-101 -308-12


M2-2-1-101 -308-13


M2-2-1-101 -308-23


M2-2-1-101 -308-15


M2-2-1-101 -308-16


M2-2-1-101 -308-17


M2-2-1-101 -308-18


M2-2-1-101 -308-19


M2-2-1-101 -308-20


M2-2-1-101 -308-27


M2-2-1-101 -308-22


M2-2-1-101 -308-14


M2-2-1-101 -308-24


M2-2-1-101 -308-25


M2-2-1-101 -308-26


M2-2-1-101 -308-29


M2-2-1-101 -308-28


M2-2-1-101 -308-21


M2-2-1-101 -308-30


M2-2-1-101 -308-31


M2-2-1-101 -308-32


M2-2-1-101 -308-33


M2-2-1-101 -308-34


M2-2-1-999-409-2

※M2-2-1-101-308-1～34：
名取・大場（1964）Fig. 8-15に対応



PLATE 97

第二貝塚B地点



M2-2-1-105-223-1
（名取・大場1964 Fig. 8-20に対応）



M2-2-1-105-222-1
（名取・大場1964 Fig. 8-20に対応）



M2-2-1-105-222-2
（名取・大場1964 Fig. 8-20に対応）



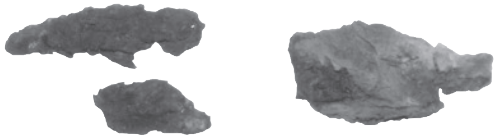
M2-2-1-251-412-1
（名取・大場1964 Fig. 8-7に対応）



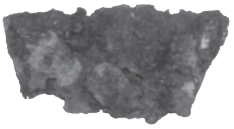
M2-2-1-105-222-3
（名取・大場1964 Fig. 8-20に対応）



M2-2-1-105-221-1
（名取・大場1964 Fig. 8-20に対応）



M2-2-1-102-312-1



M2-2-1-101-310-1
（名取・大場1964 Fig. 7-13の可能性）

0 5cm

PLATE 98

第二貝塚C地区



S=1/1



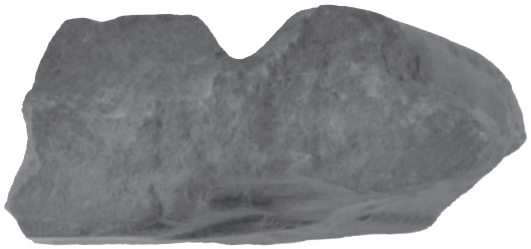
M2-3-1-999-28-1

0 5cm



M2-3-1-999-395-13

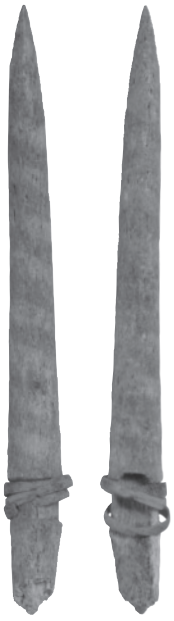




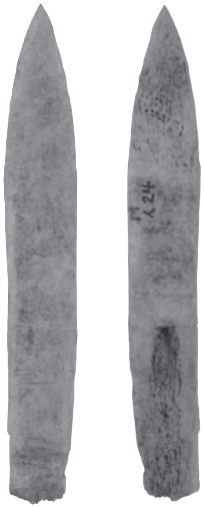
M2-3-1-999-395-14



M2-3-1-999-388-4



M2-3-1-999-394-1



M2-3-1-253-415-1
（名取・大場1964 Fig. 8-24に対応）

0 5cm

PLATE 99

第二貝塚C地区



M2-3-1-253-415-10



M2-3-1-253-415-8



M2-3-1-253-415-6



M2-3-1-253-415-5



M2-3-1-253-415-9



M2-3-1-999-388-10



M2-3-1-253-415-4



M2-3-1-253-415-3



M2-3-1-253-415-2



M2-3-1-253-415-7



M2-3-1-999-395-19



M2-3-1-999-395-28



M2-3-1-254-405-1
（名取・大場1964 Fig. 8-25に対応）

※M2-3-1-253-415-2～10：
名取・大場（1964）Fig. 8-24に対応

0 5cm

PLATE 100

第二貝塚A/B地区



M2-4-1-999-361-1
（名取・大場1964 Fig. 6-2に対応）



M2-4-1-999-377-2
（名取・大場1964 Fig. 6-5に対応）



M2-4-1-999-377-1
（名取・大場1964 Fig. 6-6に対応）



M2-4-1-999-377-3
（名取・大場1964 Fig. 6-7に対応）



M2-4-1-999-361-2
（名取・大場1964 Fig. 6-3に対応）



M2-4-1-999-382-1
（名取・大場1964 Fig. 6-12に対応）



M2-4-1-999-361-3
（名取・大場1964 Fig. 1-12に対応）



M2-4-1-999-361-4
（名取・大場1964 Fig. 1-13に対応）



M2-4-1-999-372-10
（名取・大場1964
Fig. 5-15に対応）



M2-4-1-999-372-8
（名取・大場1964
Fig. 5-13に対応）



M2-4-1-999-361-11
（名取・大場1964
Fig. 1-11に対応）



M2-4-1-999-361-12
（名取・大場1964
Fig. 1-10に対応）



M2-4-1-999-361-5
（名取・大場1964
Fig. 1-4に対応）



M2-4-1-999-361-6
（名取・大場1964
Fig. 1-5に対応）



M2-4-1-999-361-7
（名取・大場1964
Fig. 1-6に対応）



M2-4-1-999-361-8
（名取・大場1964
Fig. 1-7に対応）



M2-4-1-999-361-9
（名取・大場1964
Fig. 1-8に対応）



M2-4-1-999-361-10
（名取・大場1964
Fig. 1-9に対応）



M2-4-1-999-377-6
（名取・大場1964
Fig. 3-6に対応）



M2-4-1-999-377-5
（名取・大場1964
Fig. 3-5に対応）



M2-4-1-999-372-4
（名取・大場1964
Fig. 5-9に対応）



M2-4-1-999-372-7
（名取・大場1964
Fig. 5-12に対応）



M2-4-1-999-372-5
（名取・大場1964
Fig. 5-10に対応）



M2-4-1-999-372-2
（名取・大場1964
Fig. 5-7に対応）



M2-4-1-999-372-6
（名取・大場1964
Fig. 5-11に対応）



M2-4-1-999-372-3
（名取・大場1964
Fig. 5-6に対応）



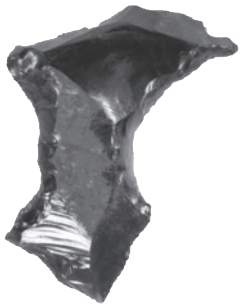
M2-4-1-999-372-9
（名取・大場1964
Fig. 5-14に対応）

土器 0 5cm

石器 0 5cm

PLATE 101

第二貝塚A/B地区



M2-4-1-999-361-14
（名取・大場1964
Fig. 1-17に対応）



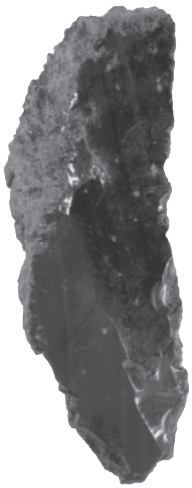
M2-4-1-999-361-13
（名取・大場1964
Fig. 1-14に対応）



M2-4-1-999-361-16
（名取・大場1964
Fig. 1-16に対応）



M2-4-1-999-361-15
（名取・大場1964
Fig. 1-15に対応）



M2-4-1-999-372-12
（名取・大場1964
Fig. 5-17に対応）



M2-4-1-999-377-7
（名取・大場1964
Fig. 3-7に対応）



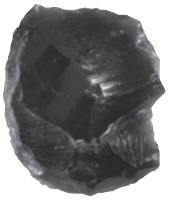
M2-4-1-999-377-8
（名取・大場1964
Fig. 3-8に対応）



M2-4-1-999-377-9
（名取・大場1964
Fig. 3-9に対応）



M2-4-1-999-372-11
（名取・大場1964
Fig. 5-16に対応）



M2-4-1-999-361-17
（名取・大場1964
Fig. 1-18に対応）



M2-4-1-999-377-10
（名取・大場1964
Fig. 3-11に対応）



M2-4-1-999-377-4
（名取・大場1964
Fig. 3-10に対応）



M2-4-1-999-386-2
（名取・大場1964 Fig. 4-13に対応）



M2-4-1-999-386-3
（名取・大場1964 Fig. 4-14に対応）



M2-4-1-999-386-4
（名取・大場1964 Fig. 4-15に対応）



M2-4-1-999-386-1
（名取・大場1964
Fig. 4-12に対応）



M2-4-1-999-361-18
（名取・大場1964
Fig. 1-19に対応）

剥片石器 0 5cm

石斧 0 5cm

PLATE 102

第二貝塚A/B地区



M2-4-1-999-361-19
（名取・大場1964
Fig. 1-20に対応）



M2-4-1-999-377-11
（名取・大場1964
Fig. 3-16に対応）



M2-4-1-999-361-20
（名取・大場1964
Fig. 1-21に対応）



M2-4-1-999-361-21
（名取・大場1964
Fig. 1-22に対応）



M2-4-1-999-361-22
（名取・大場1964
Fig. 1-23に対応）



上:M2-4-1-999-360-12
下:M2-4-1-999-361-23
（名取・大場1964
Fig. 1-24に対応）



M2-4-1-999-377-12
（名取・大場1964
Fig. 3-17に対応）



M2-4-1-999-377-13
（名取・大場1964
Fig. 3-18に対応）



M2-4-1-999-377-14
（名取・大場1964
Fig. 3-19に対応）



M2-4-1-999-377-15
（名取・大場1964
Fig. 3-20に対応）



M2-4-1-999-372-13
（名取・大場1964
Fig. 5-18に対応）



M2-4-1-999-361-25
（名取・大場1964
Fig. 1-25に対応）



M2-4-1-999-361-24
（名取・大場1964
Fig. 1-26に対応）



M2-4-1-999-361-26
（名取・大場1964
Fig. 1-27に対応）



M2-4-1-999-361-27
（名取・大場1964
Fig. 1-28に対応）



M2-4-1-999-361-28
（名取・大場1964
Fig. 1-29に対応）



M2-4-1-999-377-16
（名取・大場1964
Fig. 3-21に対応）



M2-4-1-999-377-17
（名取・大場1964
Fig. 3-22に対応）



M2-4-1-999-377-18
（名取・大場1964
Fig. 3-23に対応）



M2-4-1-999-377-19
（名取・大場1964
Fig. 3-24に対応）



M2-4-1-999-377-20
（名取・大場1964
Fig. 3-25に対応）



M2-4-1-999-377-21
（名取・大場1964
Fig. 3-26に対応）



M2-4-1-999-377-22
（名取・大場1964
Fig. 3-27に対応）



M2-4-1-999-372-14
（名取・大場1964
Fig. 5-19に対応）



M2-4-1-999-377-23
（名取・大場1964
Fig. 3-28に対応）

0 5cm

PLATE 103

第二貝塚A/B地区



M2-4-1-999-361-29
（名取・大場1964
Fig. 1-34に対応）

M2-4-1-999-377-24
（名取・大場1964
Fig. 3-30に対応）

M2-4-1-999-377-25
（名取・大場1964
Fig. 3-31に対応）

M2-4-1-999-377-26
（名取・大場1964
Fig. 3-32に対応）

M2-4-1-999-372-16
（名取・大場1964
Fig. 5-24に対応）

M2-4-1-999-361-34
（名取・大場1964
Fig. 2-33に対応）

M2-4-1-999-372-19
（名取・大場1964
Fig. 5-23に対応）

M2-4-1-999-361-32
（名取・大場1964
Fig. 2-30に対応）

M2-4-1-999-361-33
（名取・大場1964
Fig. 2-31に対応）

M2-4-1-999-372-17
（名取・大場1964
Fig. 5-20に対応）

M2-4-1-999-372-18
（名取・大場1964
Fig. 5-22に対応）

M2-4-1-999-361-31
（名取・大場1964
Fig. 2-32に対応）

M2-4-1-999-377-27
（名取・大場1964 Fig. 4-29に対応）

0 5cm

PLATE 104

第二貝塚A/B地区



M2-4-1-999-372-20
（名取・大場1964
Fig. 5-25に対応）



M2-4-1-999-361-36
（名取・大場1964
Fig. 2-36に対応）



M2-4-1-999-361-35
（名取・大場1964
Fig. 2-37に対応）



M2-4-1-999-377-29
（名取・大場1964
Fig. 3-37に対応）



M2-4-1-999-377-28
（名取・大場1964
Fig. 3-36に対応）



M2-4-1-999-377-30
（名取・大場1964
Fig. 3-38に対応）



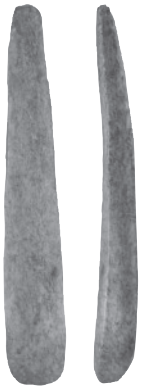
M2-4-1-999-361-37
（名取・大場1964
Fig. 2-35に対応）



M2-4-1-999-377-33
（名取・大場1964
Fig. 3-35に対応）



M2-4-1-999-382-2
（名取・大場1964
Fig. 5-27に対応）



M2-4-1-999-377-34



M2-4-1-999-377-32
（名取・大場1964
Fig. 3-34に対応）



M2-4-1-999-377-31
（名取・大場1964
Fig. 3-33に対応）



M2-4-1-999-382-3
（名取・大場1964 Fig. 5-28に対応）



M2-4-1-999-368-4
（名取・大場1964 Fig. 2-41に対応）

0 5cm

PLATE 105

第二貝塚A/B地区



M2-4-1-999-368-1
（名取・大場1964 Fig. 2-38に対応）



M2-4-1-999-368-2
（名取・大場1964 Fig. 2-39に対応）



M2-4-1-999-382-4
（名取・大場1964 Fig. 5-26に対応）



M2-4-1-999-386-5
（名取・大場1964 Fig. 4-39に対応）



M2-4-1-999-368-3
（名取・大場1964
Fig. 2-40に対応）



M2-4-1-999-386-6
（名取・大場1964
Fig. 4-40に対応）



M2-4-1-999-361-38
（名取・大場1964
Fig. 1-42に対応）



M2-4-1-999-372-15
（名取・大場1964
Fig. 5-29に対応）



M2-4-1-999-361-39
（名取・大場1964
Fig. 1-43に対応）



M2-4-1-999-377-35
（名取・大場1964
Fig. 4-41に対応）



M2-4-1-999-376-2



M2-4-1-999-374-17



M2-4-1-999-361-41
（名取・大場1964
Fig. 1-45に対応）



M2-4-1-999-361-42
（名取・大場1964
Fig. 1-44に対応）



M2-4-1-999-365-8

0 5cm

PLATE 106

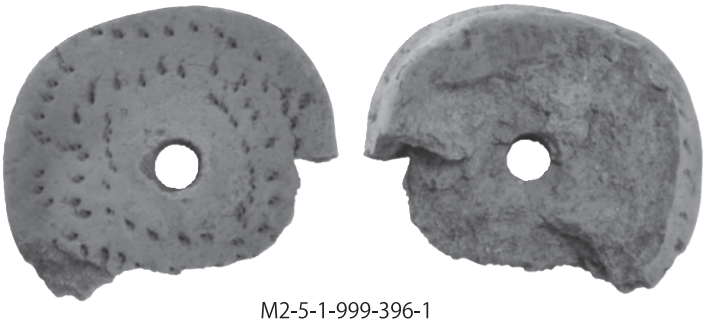
第二貝塚地区不明/第10号竪穴西貝塚

第二貝塚地区不明



M2-5-1-999-401-5

0 2.5cm



M2-5-1-999-396-1

0 5cm

第10号竪穴西貝塚



M2-7-1-110-318-1

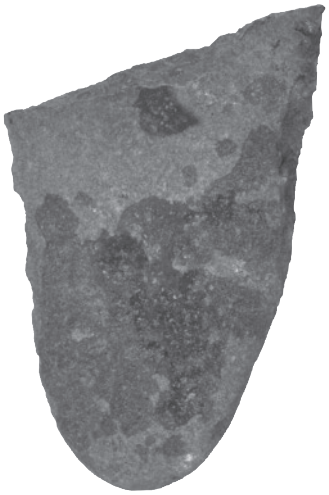
0 5cm

PLATE 107

地区地点不明



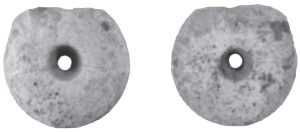
M2-99-1-999-420-4



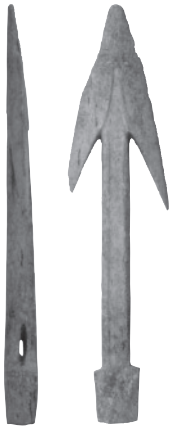
M2-99-99-999-242-17



M2-99-99-999-242-18



M9-99-3-999-429-1



M2-99-1-999-441-1



M2-99-1-999-441-3



M2-99-1-999-441-5



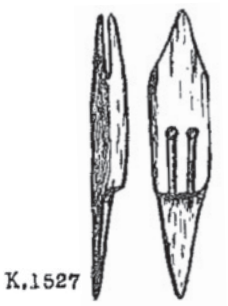
M2-99-1-999-420-72



M2-99-1-999-420-68



M2-99-1-999-441-11



大場（1955）第2図より



M2-99-1-999-441-4



M2-99-1-999-420-76



M2-99-1-999-420-75

0 5cm

PLATE 108

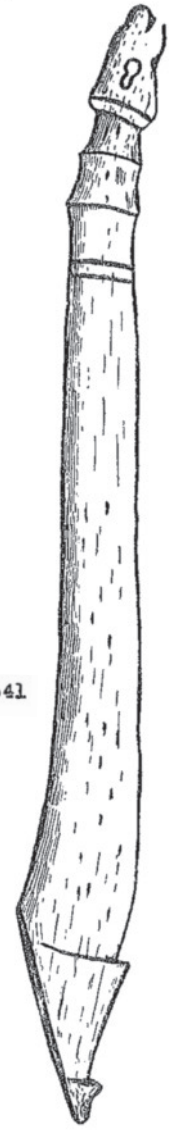
地区地点不明



M2-99-1-999-444-1
（名取・大場1964
Fig. 5-21に対応）

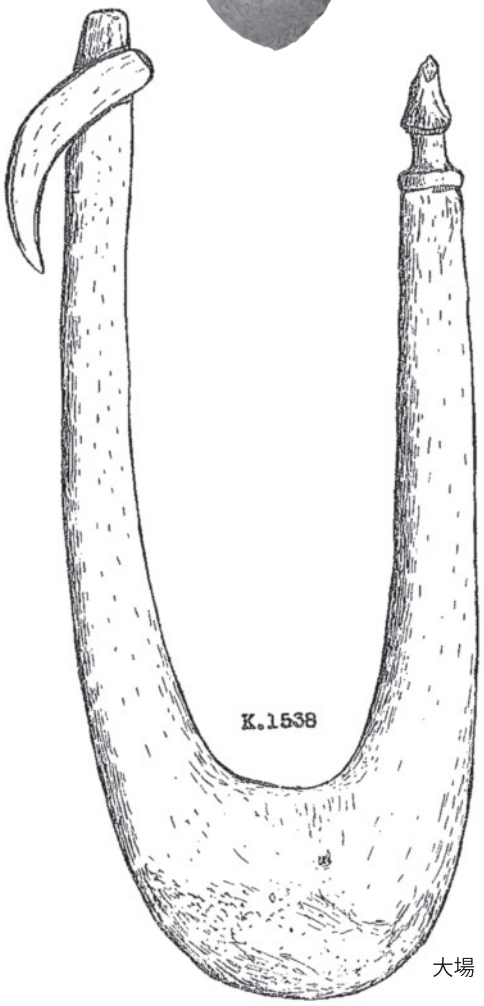


M2-99-1-999-358-2





大場（1955）　M2-99-1-999-441-22
第13図より



大場（1955）第13図より



鉤先:M2-99-1-999-343-1
軸:M2-99-1-999-441-23

0　5cm

PLATE 109

地区地点不明



M2-99-1-999-441-26



M2-99-1-999-420-121



M2-99-1-999-351-10



M2-99-1-999-358-8

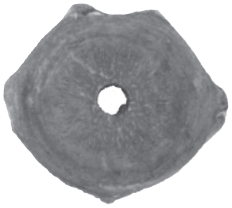


M2-99-1-999-441-24



M2-99-1-999-441-30





M2-99-1-999-358-9



M2-99-1-999-441-31

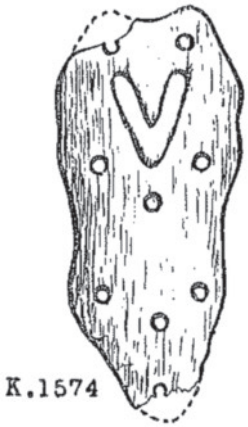


M2-99-1-999-441-32



PLATE 110

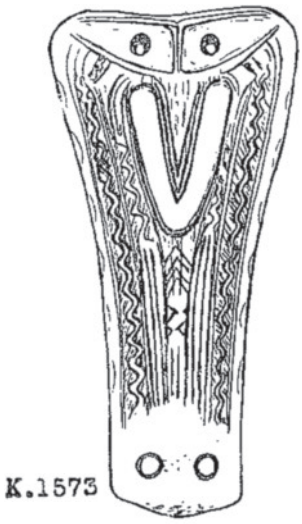
地区地点不明



大場（1955）第33図より



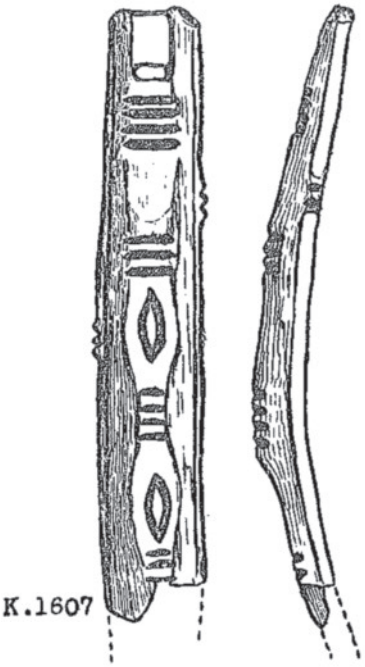
M2-99-1-999-344-1



大場（1955）第33図より



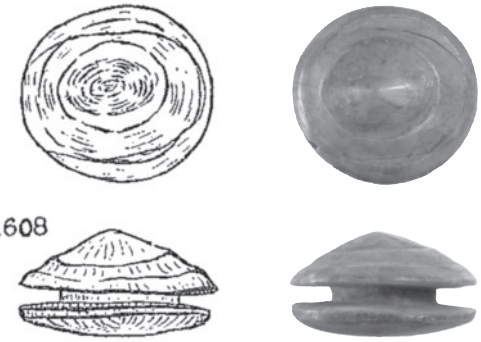
M2-99-1-999-345-1



大場（1955）第33図より



M2-99-1-999-441-34



大場（1955）第35図より

M2-99-1-999-441-35



M2-99-1-999-348-1



大場（1955）第33図より



M2-99-1-999-347-1



M2-99-1-999-346-1

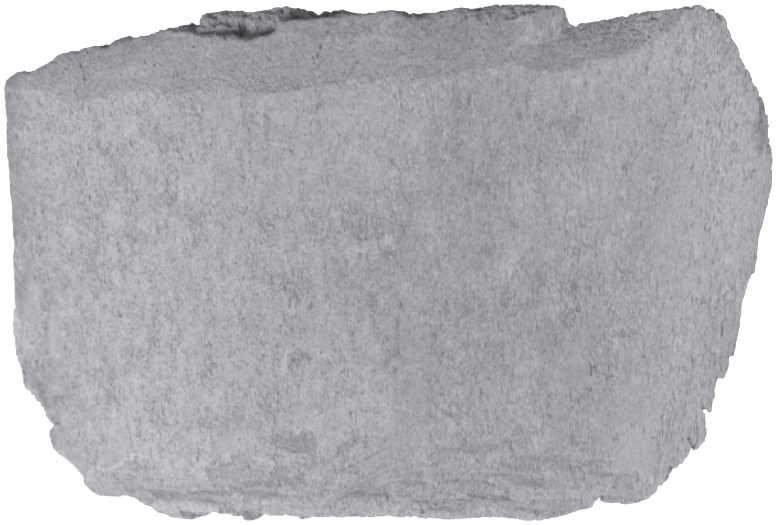
0 5cm

PLATE 111

地区地点不明



M2-99-1-999-426-3



M2-99-1-999-451-3



M2-99-1-999-426-5



M2-99-1-999-451-13



M2-99-1-999-450-6

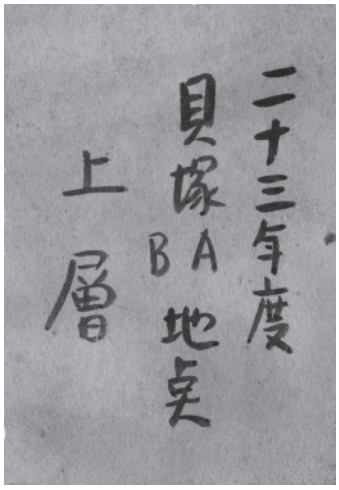


M2-99-1-999-450-13

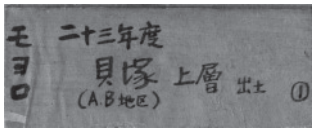
0 5cm

PLATE 112

ラベル類（labels and notes）



1

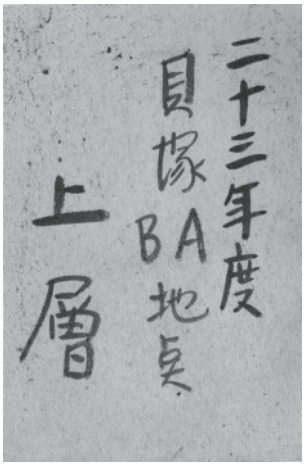


2

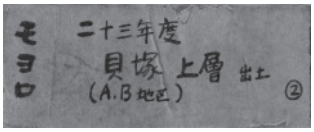


3

M2-4-1-999-359-0



1

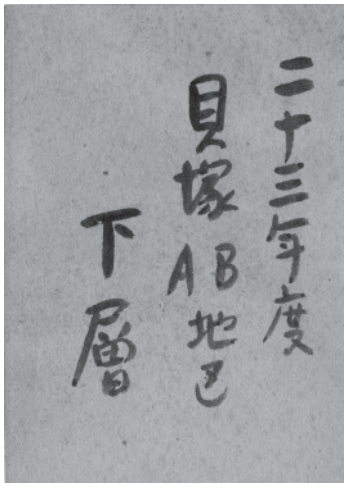


2

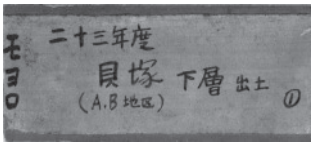


3

M2-4-1-999-362-0



1

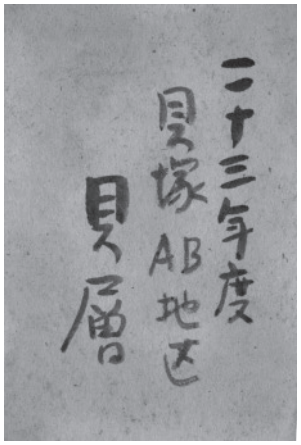


2

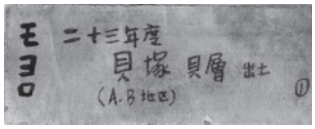


3

M2-4-1-999-369-0



1

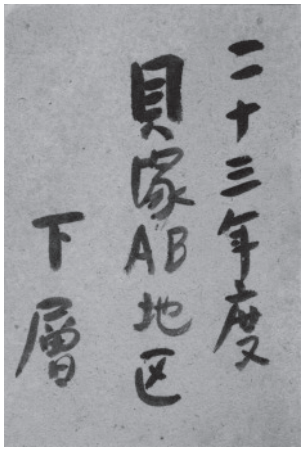


2

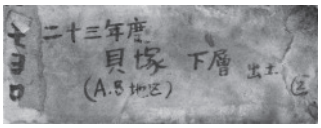


3

M2-4-1-999-373-0



1

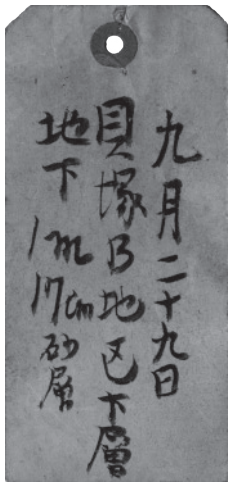


2

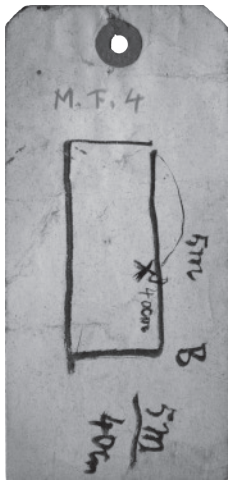


3

M2-2-1-999-378-0



4（表）

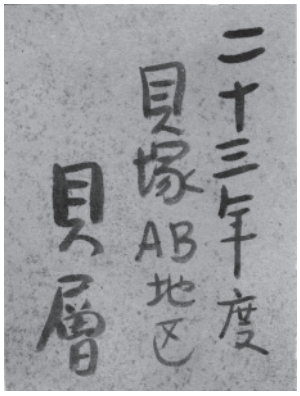


4（裏）

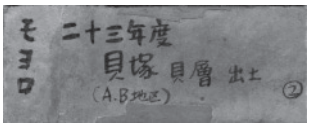
0 5cm

PLATE 113

ラベル類（labels and notes）



1

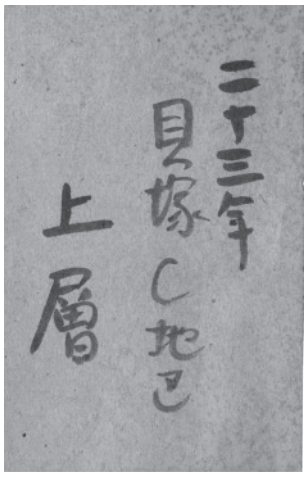


2

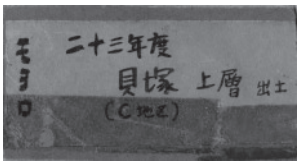


3

M2-4-1-999-383-0



1

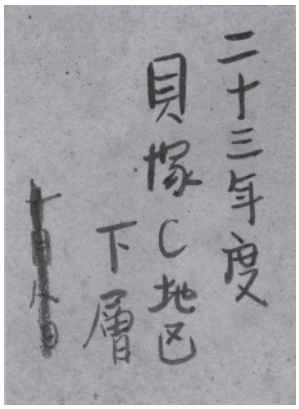


2

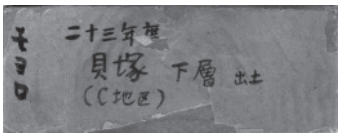


3

M2-3-1-999-387-0



1

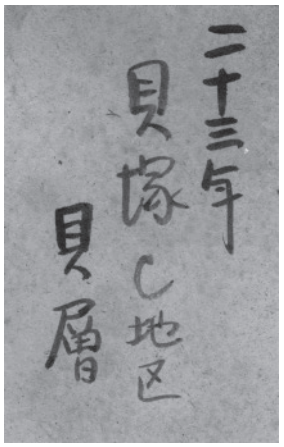


2

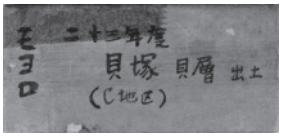


3

M2-3-1-999-390-0



1

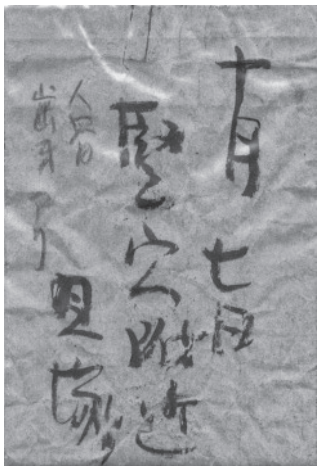


2

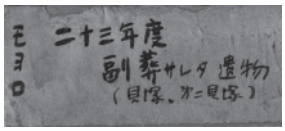


3

M2-3-1-999-393-0



M2-7-1-111-398-0

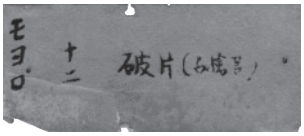


1



2

M2-5-1-999-419-0



1



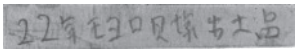
2

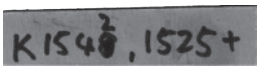
M1-99-1-999-431-0

0 5cm

PLATE 114

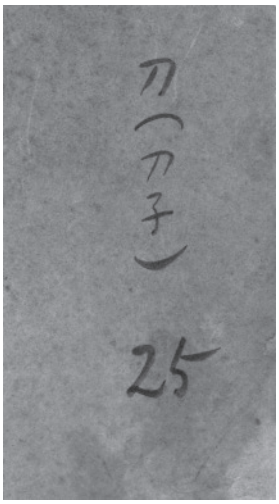
ラベル類（labels and notes）


1

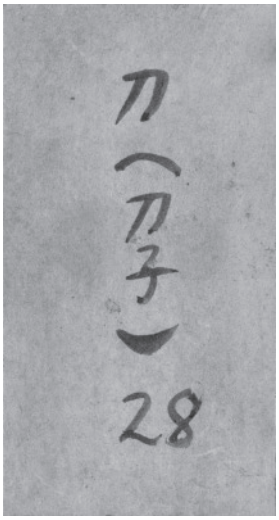


2

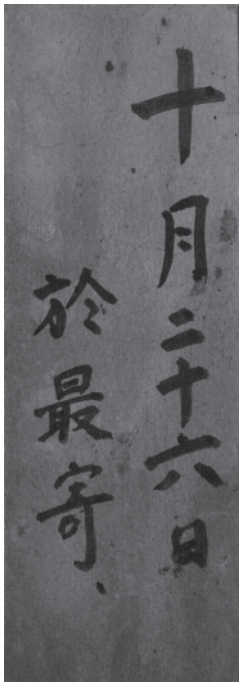
M2-99-1-999-440-0



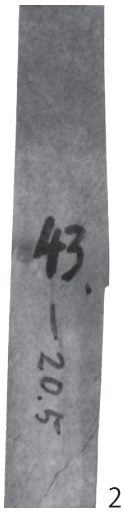
M1-99-1-999-473-0



M1-99-1-999-476-0

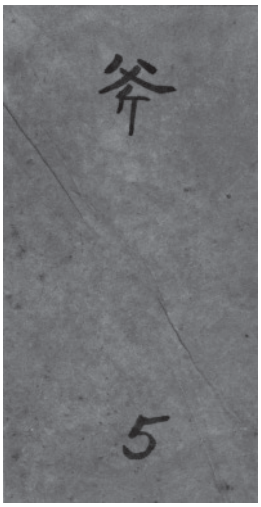


1

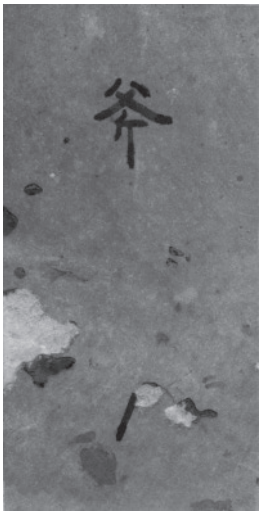


2

M1-99-1-999-485-0



M1-99-1-999-515-0



M1-99-1-999-516-0

0 5cm

表1　土器属性表

PLATE	ID	旧所蔵NO	種類	部位	型式/系統	器面装飾・調整（外面）	器面装飾・調整（内面）	備考	遺物ラベル番号	原典図版
	M2-99-99-999-1-1	40	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯。刻文（斜め）。横のミガキ	横のミガキ			
	M2-99-99-999-1-2	40	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯。刻文（斜め）。横のナデ・ミガキ	ミガキ			
	M2-99-99-999-1-3	40	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯。刻文（斜め）。横のナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-4	40	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯。刻文（斜め）。横のナデ	横のナデ			
	M2-99-99-999-1-5	40	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯。刻文（斜め）。横のナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-6	40	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯。刻文（斜め）。横・斜めのミガキ	横のナデ			
	M2-99-99-999-1-7	40	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯。隆帯上に刻文（斜め）。断面が稜状となる1段の肥厚帯。横のミガキ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-8	40	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口唇部に刻み。ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-9	40	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯。刻文（斜め）。横のナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-10	40	オホーツク土器	口縁部	刻文系	刻文（斜め）。横のナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-11	40	オホーツク土器	口縁部	刻文系	断面が稜状となる一段の肥厚帯。横のナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-12	40	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口唇部上面に刻み。横・縦のナデ	横のナデ			
	M2-99-99-999-1-13	40	オホーツク土器	口縁部	刻文系	刻文（横）。ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-14	40	オホーツク土器	口縁部～頸部	刻文系	口縁部肥厚帯。刻文。横のナデ	横のナデ			
	M2-99-99-999-1-15	40	オホーツク土器	口縁部～頸部	刻文系	口唇部・口縁部下部に型押文。横のナデ	横のナデ			
	M2-99-99-999-1-16	40	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯。刻文（斜め）2列。口縁部：横のナデ、胴部：横のミガキ	口縁部：横のナデ、胴部：ナデ			
	M2-99-99-999-1-17	40	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯。刻文（横）。横のミガキ	口縁部：横のミガキ、胴部：ナデ			
	M2-99-99-999-1-18	40	オホーツク土器	口縁部	貼細系	擬縄貼付文。ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-19	40	オホーツク土器	口縁部	貼細系	口唇部・口縁部下部に波状の貼付文。横のナデ	横のミガキ			
	M2-99-99-999-1-20	40	オホーツク土器	口縁部	貼細系	口唇部に貼付文。口縁部下縁に擬縄貼付文・貼瘤文。ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-21	40	オホーツク土器	口縁部	無文	横のナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-22	40	オホーツク土器	口縁部	無文	断面が稜状となる一段の肥厚帯。横のナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-23	40	オホーツク土器	口縁部～胴部	無文	横・斜めのナデ	横のナデ			
	M2-99-99-999-1-24	40	オホーツク土器	口縁部～胴部	無文	横のナデ	横のナデ			
	M2-99-99-999-1-25	40	オホーツク土器	頸部	刻文系	口縁部肥厚帯下部に型押文。口唇部は欠損。横のナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-26	40	オホーツク土器	頸部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-27	40	オホーツク土器	胴部	刻文系	刻文（横）。ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-28	40	オホーツク土器	胴部	刻文系	型押文。ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-29	40	オホーツク土器	胴部	貼細系	刻みのある紐状の貼付文。ミガキ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-30	40	オホーツク土器	胴部	貼細系	貼付文（2列）は大部分が剥落。横のミガキ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-31	40	オホーツク土器	胴部	貼細系	貼付文。ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-32	40	オホーツク土器	胴部	貼細系	刻みのある貼細（2列）。貼瘤文。横のミガキ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-33	40	オホーツク土器	胴部	貼細系	貼細（波形2列・直線1列）。横のナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-34	40	オホーツク土器	胴部	貼細系	貼付文（輪形）。横のナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-35	40	オホーツク土器	胴部	貼細系	貼付文（波形）。ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-36	40	オホーツク土器	胴部	沈線文系	沈線文。横のミガキ	横のナデ			
	M2-99-99-999-1-37	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-38	40	オホーツク土器	胴部	無文	横のナデ	横のナデ			
	M2-99-99-999-1-39	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-40	40	オホーツク土器	胴部	無文	縦・横のナデ	横のミガキ			

PLATE	ID	旧所蔵NO	種類	部位	型式/系統	器面装飾・調整（外面）	器面装飾・調整（内面）	備考	遺物ラベル番号	原典図版
	M2-99-99-999-1-41	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ（多方向）	ナデ			
	M2-99-99-999-1-42	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ（凸凹が著しい）	ナデ			
	M2-99-99-999-1-43	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ（多方向）	ナデ（斜め）			
	M2-99-99-999-1-44	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	横のナデ			
	M2-99-99-999-1-45	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-46	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-47	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ（多方向）	剥落			
	M2-99-99-999-1-48	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-49	40	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-50	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-51	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ（多方向）	ナデ			
	M2-99-99-999-1-52	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-53	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-54	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-55	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	横のナデ			
	M2-99-99-999-1-56	40	オホーツク土器	胴部	無文	横のナデ	ナデ（多方向）			
	M2-99-99-999-1-57	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ（多方向）	横のナデ			
	M2-99-99-999-1-58	40	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-59	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ミガキ			
	M2-99-99-999-1-60	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ミガキ			
	M2-99-99-999-1-61	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-62	40	オホーツク土器	胴部	無文	横のミガキ	横のナデ			
	M2-99-99-999-1-63	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-64	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-65	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-66	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	横のナデ			
	M2-99-99-999-1-67	40	オホーツク土器	胴部	無文	横のミガキ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-68	40	オホーツク土器	胴部	無文	横のミガキ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-69	40	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-70	40	オホーツク土器	胴部	無文	横のミガキ	横のミガキ			
	M2-99-99-999-1-71	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-72	40	オホーツク土器	胴部	無文	横のナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-73	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-74	40	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-75	40	オホーツク土器	胴部	無文	横のミガキ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-76	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ（ハケメ明瞭）	ナデ			
	M2-99-99-999-1-77	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-78	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-79	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-80	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-81	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-82	40	オホーツク土器	胴部	無文	一部剥落	ナデ			
	M2-99-99-999-1-83	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-84	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-85	40	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-86	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-87	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-88	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ（ハケメ明瞭）			
	M2-99-99-999-1-89	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ（多方向）	ナデ			
	M2-99-99-999-1-90	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-91	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-92	40	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-93	40	オホーツク土器	胴部	無文	横のミガキ	横のミガキ			
	M2-99-99-999-1-94	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-95	40	オホーツク土器	胴部	無文	横のナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-96	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ミガキ			

PLATE	ID	旧所蔵NO	種類	部位	型式/系統	器面装飾・調整（外面）	器面装飾・調整（内面）	備考	遺物ラベル番号	原典図版
	M2-99-99-999-1-97	40	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-98	40	オホーツク土器	胴部	無文	横のミガキ	横のミガキ			
	M2-99-99-999-1-99	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-100	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-101	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-102	40	オホーツク土器	胴部	無文	横のナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-103	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-104	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-105	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-106	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-107	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-108	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-109	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-110	40	オホーツク土器	胴部	無文	一部剥落	ナデ			
	M2-99-99-999-1-111	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-112	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-113	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-114	40	オホーツク土器	胴部～底部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-115	40	オホーツク土器	胴部～底部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-116	40	オホーツク土器	胴部～底部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-1-117	40	オホーツク土器	胴部～底部	不明	剥落	ナデ			
	M2-99-99-999-1-118	40	擦文土器	口縁部	－	横のミガキ	横のミガキ	坏		
	M2-99-99-999-2-1	40	オホーツク土器	頸部	貼細系	貼付文（大部分剥落）。横のミガキ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-2	40	オホーツク土器	胴部	刻文系	刻文（八の字形）。ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-3	40	オホーツク土器	胴部	刻文系	刻文（斜め）。横のミガキ	ミガキ			
	M2-99-99-999-2-4	40	オホーツク土器	胴部	刻文系	刻文（横）2列。ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-5	40	オホーツク土器	胴部	刻文系	刻文（横）2列。ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-6	40	オホーツク土器	胴部	刻文系	刻文（斜め）。ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-7	40	オホーツク土器	胴部	刻文系	刻文（横）。横のナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-8	40	オホーツク土器	胴部	貼細系	貼付文（一部剥落・波形・円形：径5mm）。ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-9	40	オホーツク土器	胴部	貼細系	貼付文（波形）。横のミガキ	横のナデ			
	M2-99-99-999-2-10	40	オホーツク土器	胴部	貼細系	擬縄貼付文（2列）。ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-11	40	オホーツク土器	胴部	貼細系	貼細（刻みあり）。貼瘤文（剥落痕あり）。ナデ	横のナデ			
	M2-99-99-999-2-12	40	オホーツク土器	胴部	貼細系	貼短。横のミガキ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-13	40	オホーツク土器	胴部	貼細系	貼付文（直線4列・輪形）。ミガキ、ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-14	40	オホーツク土器	胴部	貼細系	貼付文（波形）。横のミガキ、ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-15	40	オホーツク土器	胴部	貼細系	細い紐状の貼付文に圧痕。貼付文に平行する刻文（横長）。ミガキ	横のミガキ			
	M2-99-99-999-2-16	40	オホーツク土器	胴部	貼細系	貼付文（波形）3列。ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-17	40	オホーツク土器	胴部	貼細系	貼付文（波形）2列。ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-18	40	オホーツク土器	胴部	貼細系	貼付文。ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-19	40	オホーツク土器	胴部	貼細系	擬縄貼付文。ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-20	40	オホーツク土器	胴部	貼太系	縦の刻みのある太い貼付文。横のミガキ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-21	40	オホーツク土器	胴部	沈線文系	沈線文。横のミガキ、ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-22	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-23	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-24	40	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-25	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-26	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-27	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-28	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-29	40	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-30	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-31	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-32	40	オホーツク土器	胴部	無文	横のナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-33	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-34	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			

PLATE	ID	旧所蔵NO	種類	部位	型式/系統	器面装飾・調整（外面）	器面装飾・調整（内面）	備考	遺物ラベル番号	原典図版
	M2-99-99-999-2-35	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-36	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-37	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-38	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-39	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-40	40	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-41	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-42	40	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-43	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ（多方向）	ナデ（多方向）			
	M2-99-99-999-2-44	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-45	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-46	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-47	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-48	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-49	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-50	40	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-51	40	オホーツク土器	胴部	無文	横のミガキ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-52	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-53	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-54	40	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-55	40	オホーツク土器	胴部	無文	横のミガキ	剥落			
	M2-99-99-999-2-56	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-57	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-58	40	オホーツク土器	胴部	無文	横のナデ	横のナデ			
	M2-99-99-999-2-59	40	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-60	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-61	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-62	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-63	40	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-64	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	横のナデ			
	M2-99-99-999-2-65	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-66	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-67	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-68	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-69	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-70	40	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-71	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-72	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-73	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-74	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-75	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ（多方向）			
	M2-99-99-999-2-76	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-77	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-78	40	オホーツク土器	胴部	無文	横のミガキ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-79	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-80	40	オホーツク土器	胴部	無文	横のミガキ	横のミガキ			
	M2-99-99-999-2-81	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-82	40	オホーツク土器	胴部	無文	横のミガキ	横のナデ			
	M2-99-99-999-2-83	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-84	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-85	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-86	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-87	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-88	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-89	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-90	40	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	ミガキ			
	M2-99-99-999-2-91	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			

PLATE	ID	旧所蔵NO	種類	部位	型式/系統	器面装飾・調整(外面)	器面装飾・調整(内面)	備考	遺物ラベル番号	原典図版
	M2-99-99-999-2-92	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-93	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-94	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-95	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-96	40	オホーツク土器	胴部	不明	剥落	ナデ			
	M2-99-99-999-2-97	40	オホーツク土器	胴部～底部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-98	40	オホーツク土器	胴部～底部	無文	ミガキ	横のミガキ			
	M2-99-99-999-2-99	40	オホーツク土器	胴部～底部	無文	縦のミガキ	ナデ(多方向)			
	M2-99-99-999-2-100	40	オホーツク土器	胴部～底部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-101	40	オホーツク土器	胴部～底部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-2-102	40	オホーツク土器	胴部～底部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-3-1	40	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に刻文(八の字形)。横のナデ	横のナデ			
	M2-99-99-999-3-2	40	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に刻文(八の字形)。横のミガキ	横のナデ			
	M2-99-99-999-3-3	40	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯に刻文(斜め)2列。横のナデ	横のナデ			
	M2-99-99-999-3-4	40	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に刻文(斜め)。横・斜めのミガキ	横のミガキ			
	M2-99-99-999-3-5	40	オホーツク土器	口縁部	刻文系	刻文(斜め)。横のナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-3-6	40	オホーツク土器	口縁部～胴部	貼細系	口縁部肥厚帯下部に擬縄貼付文。横のミガキ	ミガキ	M2-99-99-999-6-32と接合		
	M2-99-99-999-3-7	40	オホーツク土器	口縁部	貼細系	口縁部下縁に擬縄貼付文。横のナデ	横のナデ			
	M2-99-99-999-3-8	40	オホーツク土器	口縁部	無文	1段の稜をもつ肥厚帯。横のナデ	横のナデ			
	M2-99-99-999-3-9	40	オホーツク土器	口縁部	無文	ナデ	剥落			
	M2-99-99-999-3-10	40	オホーツク土器	口縁部～頸部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に刻文(横長)。口縁部:横のミガキ、胴部:横のナデ	ナデ(多方向)			
	M2-99-99-999-3-11	40	オホーツク土器	口縁部～頸部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に刻文(横)。横のナデ	横のナデ			
	M2-99-99-999-3-12	40	オホーツク土器	口縁部～頸部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に刻文(横長)。横のナデ	横のナデ			
	M2-99-99-999-3-13	40	オホーツク土器	口縁部～頸部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に刻文(斜め)。横のミガキ	横のナデ			
	M2-99-99-999-3-14	40	オホーツク土器	口縁部～頸部	貼細系	頸部下半に擬縄貼付文。ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-3-15	40	オホーツク土器	口縁部～頸部	無文	横・斜めのナデ、ミガキ	横のナデ			
	M2-99-99-999-3-16	40	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に刻文(斜め)。横のナデ、ミガキ	横のナデ			
	M2-99-99-999-3-17	40	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に刻文(斜め)。横のナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-3-18	40	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯に刻文(横長)2列。横のナデ	横のナデ			
	M2-99-99-999-3-19	40	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に刻文(八の字形)。ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-3-20	40	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に刻文(斜め)。横のナデ	横のナデ			
	M2-99-99-999-3-21	40	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯と胴部の境界に刻文(斜め)。横のミガキ	横のナデ			
	M2-99-99-999-3-22	40	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に刻文(斜め)。横のミガキ	ナデ			
	M2-99-99-999-3-23	40	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に刻文(斜め)。横のナデ	横のナデ			
	M2-99-99-999-3-24	40	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に刻文(斜め)。横のナデ	横のナデ			
	M2-99-99-999-3-25	40	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯に刻文(斜め)2列。横のナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-3-26	40	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯と胴部の境界に刻文(斜め)。口縁部:横のミガキ、胴部:ミガキ(多方向)	横のミガキ			
	M2-99-99-999-3-27	40	オホーツク土器	口縁部～胴部	無文	口縁部肥厚帯。横のナデ	横のナデ			
	M2-99-99-999-3-28	40	オホーツク土器	口縁部～胴部	無文	口縁部肥厚帯。口縁部:横のナデ、胴部:斜めのナデ	横のナデ			
	M2-99-99-999-3-29	40	オホーツク土器	口縁部～胴部	無文	口縁部肥厚帯。横・斜めのナデ	横のナデ			
	M2-99-99-999-3-30	40	オホーツク土器	口縁部～胴部	無文	口縁部肥厚帯。口縁部:横のナデ、胴部:横・斜めのミガキ	横・斜めのナデ			
	M2-99-99-999-3-31	40	オホーツク土器	口縁部～胴部	無文	口縁部肥厚帯。口縁部:斜めのナデ、胴部:横のナデ	ナデ(多方向)			
	M2-99-99-999-3-32	40	オホーツク土器	口縁部～胴部	無文	口縁部肥厚帯。口縁部:横のナデ、胴部:横・斜めのナデ	ナデ(多方向)			
	M2-99-99-999-3-33	40	オホーツク土器	口縁部～胴部	無文	口縁部肥厚帯。横のナデ・ミガキ	横のナデ・ミガキ			
	M2-99-99-999-3-34	40	オホーツク土器	胴部	貼細系	貼付文(直線に挟まれた波形)。ナデ	横のミガキ	藤本1966e群		
	M2-99-99-999-4-1	40	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯に刻文(斜め)2列。ナデ(多方向)	横のナデ			
	M2-99-99-999-4-2	40	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯に刻文(斜め)のある二段の稜あり。横のナデ	剥落			
	M2-99-99-999-4-3	40	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯に刻文(横長)2列。口縁部:横のナデ、胴部:横のミガキ	横のナデ			
	M2-99-99-999-4-4	40	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯の下部に刻文(横長)。口縁部:横のナデ、胴部:横のミガキ	横のナデ			
	M2-99-99-999-4-5	40	オホーツク土器	口縁部	刻文系	刻文(横長)2列。ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-4-6	40	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯の下部に刻文(斜め)。横のナデ	横のナデ			

PLATE	ID	旧所蔵NO	種類	部位	型式/系統	器面装飾・調整(外面)	器面装飾・調整(内面)	備考	遺物ラベル番号	原典図版
	M2-99-99-999-4-7	40	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部上部に刻文(横長)。口縁部下部に爪形文(2指)。ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-4-8	40	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯の下部に刻文(斜め)。ナデ	横のナデ			
	M2-99-99-999-4-9	40	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯の下部の稜上に刻文(横)。横のナデ	横のナデ			
	M2-99-99-999-4-10	40	オホーツク土器	口縁部	刻文系	刻文(斜め)。横のナデ	横のナデ			
	M2-99-99-999-4-11	40	オホーツク土器	口縁部	貼細系	貼付文(3列の直線に接する円形)。ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-4-12	40	オホーツク土器	口縁部	貼細系	口縁部肥厚帯に貼付文3列(上2列:擬縄貼付文、下1列:波状の貼付文)	ナデ			
	M2-99-99-999-4-13	40	オホーツク土器	口縁部	無文	横のナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-4-14	40	オホーツク土器	口縁部	無文	口唇部が厚く張り出す。横のナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-4-15	40	オホーツク土器	口縁部～頸部	刻文系	口縁部肥厚帯下部に刻文(横長)。ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-4-16	40	オホーツク土器	口縁部～頸部	無文	横のミガキ	ナデ			
	M2-99-99-999-4-17	40	オホーツク土器	口縁部～頸部	無文	横のナデ、ミガキ	横のナデ			
	M2-99-99-999-4-18	40	オホーツク土器	口縁部～頸部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-4-19	40	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯の下部に刻文(横長)。横のナデ	横のナデ			
	M2-99-99-999-4-20	40	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯に刻文(2列)。口縁部:ナデ、胴部:横のミガキ	横のミガキ			
	M2-99-99-999-4-21	40	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯に刻文(横長)。横のナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-4-22	40	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯下部に刻文(八の字形)。横のナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-4-23	40	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯に刻文(横長)2列。口縁部:横のナデ、胴部:横のミガキ	横のミガキ			
	M2-99-99-999-4-24	40	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯下部に刻文(斜め)。横のナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-4-25	40	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯に刻文(斜め)。口縁部:横のナデ、胴部:横のミガキ	ナデ			
	M2-99-99-999-4-26	40	オホーツク土器	口縁部～胴部	貼細系	口縁部肥厚帯と胴部に貼付文(波形)。横のナデ	横のナデ			
	M2-99-99-999-4-27	40	オホーツク土器	口縁部～胴部	無文	横のナデ	横のナデ			
	M2-99-99-999-5-1	40	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯下部に刻文(斜め)。横のナデ	横のナデ			
	M2-99-99-999-5-2	40	オホーツク土器	口縁部	刻文系	刻文(斜め)。横のナデ	横のナデ			
	M2-99-99-999-5-3	40	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯下部に刻文(横長)。横のナデ	横のナデ			
	M2-99-99-999-5-4	40	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯に刻文(斜め)2列。横のミガキ	横のミガキ			
	M2-99-99-999-5-5	40	オホーツク土器	口縁部	刻文系	刻文(横長)。横のナデ	横のナデ			
	M2-99-99-999-5-6	40	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口唇部に刻文(斜め)。口縁部下部に刻文(八の字形)。ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-5-7	40	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口唇部に刻文(斜め)。口縁部下部に刻文(縦)。横のナデ	横のナデ			
	M2-99-99-999-5-8	40	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口唇部に刻文(斜め)。口縁部下部に刻文(横)。ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-5-9	40	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部に刻文(横)2列。横のナデ	ナデ(多方向)			
	M2-99-99-999-5-10	40	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯下部に刻文(横長)。横のナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-5-11	40	オホーツク土器	口縁部	刻文系	刻文(横長)2列。横のナデ	横のナデ			
	M2-99-99-999-5-12	40	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口唇部に刻文(斜め)。口縁部肥厚帯に刻文(斜め)。横のナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-5-13	40	オホーツク土器	口縁部	刻文系	刻文(横長)。横のナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-5-14	40	オホーツク土器	口縁部	刻文系	刻文(斜め)。横のナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-5-15	40	オホーツク土器	口縁部	刻文系	刻文(斜め・八の字形)。ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-5-16	40	オホーツク土器	口縁部	刻文系	刻文(斜め)。横のナデ	横のナデ			
	M2-99-99-999-5-17	40	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯に爪形文(2指)。ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-5-18	40	オホーツク土器	口縁部	貼細系	口縁部の上下部に貼付文(波形)。横のナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-5-19	40	オホーツク土器	口縁部	貼細系	口唇部直下と口縁部下部に擬縄貼付文。横のナデ	横のナデ			
	M2-99-99-999-5-20	40	オホーツク土器	口縁部	貼太系	口縁部肥厚帯が発達。横のミガキ	横のナデ			
	M2-99-99-999-5-21	40	オホーツク土器	口縁部	貼細系	口縁部肥厚帯に貼付文(直線・波形)。横のナデ	ナデ	藤本1966e群		
	M2-99-99-999-5-22	40	オホーツク土器	口縁部	貼細系	擬縄貼付文(2列)。横のナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-5-23	40	オホーツク土器	口縁部	貼細系	擬縄貼付文。横のナデ	横のミガキ			
	M2-99-99-999-5-24	40	オホーツク土器	口縁部	貼細系	貼付文(波形)。横のミガキ	横のナデ			
	M2-99-99-999-5-25	40	オホーツク土器	口縁部	無文	ナデ(横・斜め)	ナデ(横・斜め)			
	M2-99-99-999-5-26	40	オホーツク土器	口縁部	無文	口縁部肥厚帯。横のナデ	斜めのナデ			
	M2-99-99-999-5-27	40	オホーツク土器	口縁部	無文	ナデ	横のナデ			
	M2-99-99-999-5-28	40	オホーツク土器	口縁部	無文	横のナデ	横のナデ			
	M2-99-99-999-5-29	40	オホーツク土器	口縁部～頸部	刻文系	口縁部肥厚帯に刻文(斜め)。横のナデ	横のナデ			
	M2-99-99-999-5-30	40	オホーツク土器	口縁部～頸部	刻文系	口縁部肥厚帯下部に刻文(斜め)。横のナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-5-31	40	オホーツク土器	口縁部～頸部	刻文系	口縁部肥厚帯下部に刻文(横長)。ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-5-32	40	オホーツク土器	口縁部～頸部	刻文系	口縁部肥厚帯下部に刻文(斜め)。横のナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-5-33	40	オホーツク土器	口縁部～頸部	刻文系	口縁部に刺突文(円形)。ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-5-34	40	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部下部に刻文(斜め)。横のミガキ	横のミガキ			

PLATE	ID	旧所蔵NO	種類	部位	型式/系統	器面装飾・調整（外面）	器面装飾・調整（内面）	備考	遺物ラベル番号	原典図版
	M2-99-99-999-5-35	40	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯下部に刻文（斜め）。横のミガキ	横のミガキ			
	M2-99-99-999-5-36	40	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部下部に刻文（斜め）。横のミガキ	ナデ			
	M2-99-99-999-5-37	40	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯に刻文（横長）2列。横のナデ	横のナデ			
	M2-99-99-999-5-38	40	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯に刻文（横長）2列。横のミガキ	ナデ			
	M2-99-99-999-5-39	40	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部下部に刻文（斜め）。ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-5-40	40	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口唇部に刻み。口縁部肥厚帯下部に刻文（横長）。横のミガキ	横のナデ			
	M2-99-99-999-5-41	40	オホーツク土器	口縁部～胴部	貼細系	口縁部肥厚帯及び胴部に擬縄貼付文。横のミガキ	ナデ			
	M2-99-99-999-5-42	40	オホーツク土器	口縁部～胴部	貼細系	口縁部肥厚帯に貼付文（波形：3列。円形：半球8mm）。胴部に擬縄貼付文。横のナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-5-43	40	オホーツク土器	口縁部～胴部	貼細系	口縁部肥厚帯に貼付文（波形）3列。胴部に貼付文（波形）1列。ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-5-44	40	オホーツク土器	口縁部～胴部	無文	口縁部肥厚帯。横のナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-5-45	40	オホーツク土器	口縁部～胴部	無文	口縁部肥厚帯。横のナデ	横のナデ			
	M2-99-99-999-5-46	40	オホーツク土器	頸部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-5-47	40	オホーツク土器	頸部～胴部	刻文系	刻文。横のナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-5-48	40	オホーツク土器	頸部～胴部	貼細系	口縁部肥厚帯に貼付文（円形）。口縁部：ナデ、胴部：ミガキ	横のミガキ			
	M2-99-99-999-5-49	40	オホーツク土器	胴部	刻文系	刻文（横長）。ナデ（多方向）	横のナデ			
	M2-99-99-999-5-50	40	オホーツク土器	胴部	刻文系	刻文。ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-5-51	40	オホーツク土器	胴部	刻文系	刻文（横長）。沈線文。横のナデ	ナデ	M2-99-99-999-5-52と接合		
	M2-99-99-999-5-52	40	オホーツク土器	胴部	刻文系	刻文（横長）。沈線文。横のナデ	ナデ	M2-99-99-999-5-51と接合		
	M2-99-99-999-5-53	40	オホーツク土器	胴部	刻文系	刻文。ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-5-54	40	オホーツク土器	胴部	刻文系	刻文（斜め）。横のナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-5-55	40	オホーツク土器	胴部	貼細系	貼付文（波形）。横のナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-5-56	40	オホーツク土器	頸部～胴部	貼細系	貼付文（波形）4列。ナデ	横のナデ			
	M2-99-99-999-5-57	40	オホーツク土器	胴部	貼細系	貼付文（直線2列に挟まれた連続した山型）。横のナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-5-58	40	オホーツク土器	胴部	貼細系	貼付文（波形）3列。ナデ	ナデ。指頭痕あり			
	M2-99-99-999-5-59	40	オホーツク土器	胴部	貼細系	擬縄貼付文（2列）。縦のナデ、横のミガキ	ナデ			
	M2-99-99-999-5-60	40	オホーツク土器	胴部	貼細系	貼付文（直線）4列。横のナデ	横のナデ			
	M2-99-99-999-5-61	40	オホーツク土器	胴部	貼太系	太い貼付文（幅7mm。斜めの刻みあり）。横のミガキ	横のナデ			
	M2-99-99-999-5-62	40	オホーツク土器	胴部	貼細系	縦に刻みのある紐状（幅6mm）の貼付文。横のミガキ	横のナデ			
	M2-99-99-999-5-63	40	オホーツク土器	胴部	貼細系	貼付文（密接した2列の波形）。横のナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-5-64	40	オホーツク土器	胴部	貼細系	擬縄貼付文（2列）。ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-5-65	40	オホーツク土器	胴部	貼細系	貼付文（波形）。ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-5-66	40	オホーツク土器	胴部	貼細系	擬縄貼付文（2列）。ナデ	横のミガキ			
	M2-99-99-999-5-67	40	オホーツク土器	胴部	貼細系	貼付文（稜状）。ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-5-68	40	オホーツク土器	口縁部	貼細系	口縁部肥厚帯に貼付文（不整円形）。ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-5-69	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-5-70	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-5-71	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-6-1	40	オホーツク土器	口縁部	刻文系	刻文（斜め）。ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-6-2	40	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯下部に刻文（八の字形）。横のナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-6-3	40	オホーツク土器	口縁部	刻文系	折返し口縁。口縁部肥厚帯に刻文（横長）。横のナデ	ナデ（多方向）			
	M2-99-99-999-6-4	40	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯下部に刻文（斜め）。ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-6-5	40	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部下部に刻文（斜め）のある幅10mmの隆帯が巡る。横のナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-6-6	40	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口唇部に擬縄貼付文。口縁部肥厚帯下部に刻文（斜め）。ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-6-7	40	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口唇部に刻文（斜め）。口唇部直下に幅5mm程の深いナデによる2列の隆起線あり。横のナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-6-8	40	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯に刻文（斜め）2列。横のナデ	斜めのナデ			
	M2-99-99-999-6-9	40	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯の平行する2稜の間に刻文。横のナデ	横のナデ			
	M2-99-99-999-6-10	40	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口唇部と口縁部肥厚帯下部に刻文（斜め）。横のナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-6-11	40	オホーツク土器	口縁部	刻文系	肥厚する口唇部に刻文（斜め）。横のナデ	横のナデ			
	M2-99-99-999-6-12	40	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口唇部は剥落。刻文。横のナデ	横のナデ			
	M2-99-99-999-6-13	40	オホーツク土器	口縁部	刻文系	刻文（横長）2列。横のナデ	横のナデ			

PLATE	ID	旧所蔵NO	種類	部位	型式/系統	器面装飾・調整（外面）	器面装飾・調整（内面）	備考	遺物ラベル番号	原典図版
	M2-99-99-999-6-14	40	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯に刻文（横長）2列。横のナデ	横のナデ			
	M2-99-99-999-6-15	40	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯下部に刻文（斜め）。ミガキ	ナデ			
	M2-99-99-999-6-16	40	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯下部に刻文（横長）。横のナデ	横のナデ			
	M2-99-99-999-6-17	40	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部下部に刻文。ミガキ	ミガキ			
	M2-99-99-999-6-18	40	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口唇部に刻文（斜め）。横のナデ	剥落			
	M2-99-99-999-6-19	40	オホーツク土器	口縁部	刻文系	刻文（斜め）。横のナデ	剥落			
	M2-99-99-999-6-20	40	オホーツク土器	口縁部	刻文系	刻文（斜め）。横のナデ	横のナデ			
	M2-99-99-999-6-21	40	オホーツク土器	口縁部	刻文系	刻文。ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-6-22	40	オホーツク土器	口縁部	刻文系	爪形文（2指）。ナデ	横のナデ			
	M2-99-99-999-6-23	40	オホーツク土器	口縁部	貼細系	口縁部肥厚帯下部に擬縄貼付文。その端点に貼瘤文（径8mm）。横のナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-6-24	40	オホーツク土器	口縁部	貼細系	貼付文（波形）3列。横のナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-6-25	40	オホーツク土器	口縁部	貼細系	口唇部直下と口縁部下部に貼付文（波形）。横のナデ	横のナデ			
	M2-99-99-999-6-26	40	オホーツク土器	口縁部	貼細系	貼付文（直線）2列の間に擬縄貼付文。横のナデ	横のミガキ			
	M2-99-99-999-6-27	40	オホーツク土器	口縁部	貼細系	口唇部直下と口縁部肥厚帯下部に貼付文（波形）2列。横のナデ	横のナデ			
	M2-99-99-999-6-28	40	オホーツク土器	口縁部	貼細系	擬縄貼付文。横のナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-6-29	40	オホーツク土器	口縁部	貼細系	口唇部直下に擬縄貼付文。横のナデ	横のナデ			
	M2-99-99-999-6-30	40	オホーツク土器	口縁部	貼細系	貼付文（直線と波形が接している）2列。横のナデ	横のナデ	藤本（1966）e群		
	M2-99-99-999-6-31	40	オホーツク土器	口縁部	貼細系	口唇部直下と口縁部下部に貼付文（波形）。横のミガキ	横のナデ			
	M2-99-99-999-6-32	40	オホーツク土器	口縁部	貼細系	口縁部肥厚帯。貼付文（一部剥落）。ナデ	ナデ	M2-99-99-999-3-6と接合		
	M2-99-99-999-6-33	40	オホーツク土器	口縁部	貼細系	擬縄貼付文。横のナデ	横のナデ			
	M2-99-99-999-6-34	40	オホーツク土器	口縁部	貼細系	擬縄貼付文。ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-6-35	40	オホーツク土器	口縁部	貼細系	貼付文（直線）2列。ナデ	横のナデ			
31	M2-99-99-999-6-36	40	オホーツク土器	口縁部	貼細系	口唇部に貼付文（直線と波形が接している）。口縁部肥厚帯上に貼付文・擬縄貼付文。下部に貼瘤状の突出部あり。横のミガキ	横のミガキ	M1-99-1-999-17-14と接合	c.46	
	M2-99-99-999-6-37	40	オホーツク土器	口縁部	無文	横のナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-6-38	40	オホーツク土器	口縁部～頸部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に刻文（横）。横のナデ	横のナデ			
	M2-99-99-999-6-39	40	オホーツク土器	口縁部～頸部	刻文系	口縁部肥厚帯下部に刻文（斜め）。横・斜めのナデ	横・斜めのナデ			
	M2-99-99-999-6-40	40	オホーツク土器	口縁部～頸部	刻文系	口縁部肥厚帯下部に刻文（縦）。横のナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-6-41	40	オホーツク土器	口縁部～頸部	刻文系	口縁部肥厚帯下部に刻文（斜め）。横のナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-6-42	40	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯下部～胴部にかけて刻文（斜め）。横のナデ	ナデ（多方向）			
	M2-99-99-999-6-43	40	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯の1段の稜上に刻文（斜め）。横のナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-6-44	40	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯下部に刻文（斜め）。横のナデ	横のナデ			
	M2-99-99-999-6-45	40	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯に刻文（横長）2列。ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-6-46	40	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯下部に刻文（横）。横のミガキ	横のミガキ			
	M2-99-99-999-6-47	40	オホーツク土器	頸部～胴部	貼細系	頸部上部に貼付文（波形）。胴部上部に貼付文（波形と直線が接する）。横のナデ・ミガキ	横のミガキ	藤本（1966）e群		
	M2-99-99-999-6-48	40	オホーツク土器	頸部～胴部	貼細系	細い紐状の貼付文を押圧（3列）。ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-6-49	40	オホーツク土器	胴部	刻文系	刻文。横のナデ	横のナデ			
	M2-99-99-999-6-50	40	オホーツク土器	胴部	刻文系	刻文（横長）。横のミガキ	ナデ			
	M2-99-99-999-6-51	40	オホーツク土器	胴部	刻文系	刻文（横長）。沈線。横のナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-6-52	40	オホーツク土器	胴部	刻文系	刻文。ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-6-53	40	オホーツク土器	胴部	刻文系	刻文（横長）2列。ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-6-54	40	オホーツク土器	胴部	刻文系	刻文（横長）。横のナデ	横のナデ			
	M2-99-99-999-6-55	40	オホーツク土器	胴部	貼太系	ひねりのある太い貼付文。ミガキ（多方向）	ナデ			
	M2-99-99-999-6-56	40	オホーツク土器	胴部	貼太系	ひねりのある太い貼付文。横のミガキ	横のナデ			
	M2-99-99-999-6-57	40	オホーツク土器	胴部	貼太系	ひねりのある太い貼付文。ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-6-58	40	オホーツク土器	胴部	貼太系	ひねりのある太い貼付文。横のミガキ	ナデ			
	M2-99-99-999-6-59	40	オホーツク土器	胴部	貼太系	ひねりのある太い貼付文。横のミガキ	ナデ			
	M2-99-99-999-6-60	40	オホーツク土器	胴部	貼太系	ひねりのある太い貼付文。ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-6-61	40	オホーツク土器	胴部	貼細系	擬縄貼付文。ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-6-62	40	オホーツク土器	胴部	貼細系	貼付文（波形）。ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-6-63	40	オホーツク土器	胴部	貼細系	貼付文（波形）。横のミガキ	ナデ			
	M2-99-99-999-6-64	40	オホーツク土器	胴部	貼細系	貼付文（波形：2列。円形（径8mm）：2点）。密着した2列の擬縄貼付文。横のナデ	横のナデ			
	M2-99-99-999-6-65	40	オホーツク土器	胴部	貼細系	貼付文（直線・波形）。横のナデ	ナデ	藤本（1966）e群		

PLATE	ID	旧所蔵NO	種類	部位	型式/系統	器面装飾・調整（外面）	器面装飾・調整（内面）	備考	遺物ラベル番号	原典図版
	M2-99-99-999-6-66	40	オホーツク土器	胴部	貼細系	貼付文（2列）。横のミガキ	横のナデ			
	M2-99-99-999-6-67	40	オホーツク土器	胴部	貼細系	貼付文（密接した2列の波形）。横のミガキ	ミガキ			
	M2-99-99-999-6-68	40	オホーツク土器	胴部	貼細系	貼付文（波形）2列。擬縄貼付文（縦）2列。横のミガキ	ナデ			
	M2-99-99-999-6-69	40	オホーツク土器	胴部	貼細系	貼付文（波形）2列。横のナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-6-70	40	オホーツク土器	胴部	貼細系	擬縄貼付文。横のナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-6-71	40	オホーツク土器	胴部	貼細系	貼付文（直線：3列・波形：1列）。ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-6-72	40	オホーツク土器	胴部	貼細系	貼付文（直線：4列・波形：1列）。横のナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-6-73	40	オホーツク土器	胴部	貼細系	貼付文（波形）。横のナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-6-74	40	オホーツク土器	胴部	貼細系	貼付文（直線）。横のナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-6-75	40	オホーツク土器	胴部	貼細系	擬縄貼付文。ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-6-76	40	オホーツク土器	胴部	貼細系	擬縄貼付文？。ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-6-77	40	オホーツク土器	胴部	沈線文系	横の沈線。ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-6-78	40	オホーツク土器	胴部	沈線文系	沈線（横）2列。横のナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-6-79	40	オホーツク土器	胴部	刻文系	型押文。ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-6-80	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-6-81	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-6-82	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-6-83	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-6-84	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-6-85	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-6-86	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-6-87	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	横のナデ			
	M2-99-99-999-6-88	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-6-89	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-6-90	40	オホーツク土器	胴部	無文	横のナデ	横のナデ			
	M2-99-99-999-6-91	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-6-92	40	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	横のナデ			
	M2-99-99-999-7-1	41	オホーツク土器	底部	無文	縦のミガキ	ナデ			
	M2-99-99-999-7-2	41	オホーツク土器	底部	無文	横のナデ（縦の調整痕あり）	横のナデ			
	M2-99-99-999-7-3	41	オホーツク土器	底部	無文	横と斜めのナデ	ナデ（多方向）			
	M2-99-99-999-7-4	41	オホーツク土器	底部	無文	縦のナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-7-5	41	オホーツク土器	底部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-7-6	41	オホーツク土器	底部	無文	縦のミガキ	ナデ			
	M2-99-99-999-7-7	41	オホーツク土器	底部	無文	縦のナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-7-8	41	オホーツク土器	底部	無文	横のナデ	斜めのナデ			
	M2-99-99-999-7-9	41	オホーツク土器	底部	無文	縦のミガキ	縦のナデ			
	M2-99-99-999-7-10	41	オホーツク土器	底部	無文	縦のナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-7-11	41	オホーツク土器	底部	無文	縦のナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-7-12	41	オホーツク土器	底部	無文	横のナデ	横のナデ			
	M2-99-99-999-7-13	41	オホーツク土器	底部	無文	横と斜めのナデ	横のナデ			
	M2-99-99-999-7-14	41	オホーツク土器	底部	無文	縦のナデ	斜めのナデ			
	M2-99-99-999-7-15	41	オホーツク土器	底部	無文	縦のミガキ	不明			
	M2-99-99-999-7-16	41	オホーツク土器	底部	無文	ナデ	横のナデ			
	M2-99-99-999-8-1	42	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-8-2	42	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-8-3	42	オホーツク土器	胴部	無文	横のミガキ	ナデ			
	M2-99-99-999-8-4	42	オホーツク土器	胴部～底部	無文	縦のナデ	横のナデ			
	M2-99-99-999-8-5	42	オホーツク土器	胴部～底部	無文	縦のナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-8-6	42	オホーツク土器	胴部～底部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-8-7	42	オホーツク土器	胴部～底部	無文	縦のミガキ	ナデ			
	M2-99-99-999-8-8	42	オホーツク土器	胴部～底部	無文	縦のミガキ	ナデ			
	M2-99-99-999-8-9	42	オホーツク土器	胴部～底部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-8-10	42	オホーツク土器	胴部～底部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-8-11	42	オホーツク土器	胴部～底部	無文	縦のナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-8-12	42	オホーツク土器	胴部～底部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-8-13	42	オホーツク土器	胴部～底部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-8-14	42	オホーツク土器	胴部～底部	無文	縦のミガキ	ナデ			

PLATE	ID	旧所蔵NO	種類	部位	型式/系統	器面装飾・調整（外面）	器面装飾・調整（内面）	備考	遺物ラベル番号	原典図版
	M2-99-99-999-8-15	42	オホーツク土器	胴部～底部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-8-16	42	オホーツク土器	胴部～底部	無文	ナデ	ナデ	M2-99-99-999-8-17と接合		
	M2-99-99-999-8-17	42	オホーツク土器	胴部～底部	無文	ナデ	ナデ	M2-99-99-999-8-16と接合		
	M2-99-99-999-8-18	42	オホーツク土器	胴部～底部	無文	ナデ	横のナデ			
	M2-99-99-999-8-19	42	オホーツク土器	胴部～底部	無文	縦のナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-8-20	42	オホーツク土器	胴部～底部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-8-21	42	オホーツク土器	胴部～底部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-8-22	42	オホーツク土器	胴部～底部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-9-1	42	オホーツク土器	胴部	刻文系	ミガキ	ナデ			
	M2-99-99-999-9-2	42	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-9-3	42	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ	表面は二次焼成により剥落		
	M2-99-99-999-9-4	42	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	不明			
	M2-99-99-999-9-5	42	オホーツク土器	底部	無文	ナデ	ナデ	底面に圧痕。底部の下端（内・外面）に指頭痕あり		
	M2-99-99-999-9-6	42	オホーツク土器	底部	無文	縦のナデ	横のナデ。調整痕あり			
	M2-99-99-999-9-7	42	オホーツク土器	底部	無文	縦のナデ	横のナデ。調整痕あり			
	M2-99-99-999-9-8	42	オホーツク土器	底部	無文	横のミガキ	縦のミガキ			
	M2-99-99-999-9-9	42	オホーツク土器	底部	無文	縦のミガキ	横のナデ			
	M2-99-99-999-9-10	42	オホーツク土器	底部	無文	横のナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-9-11	42	オホーツク土器	底部	無文	横のナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-9-12	42	オホーツク土器	底部	無文	縦のナデ	横のナデ			
	M2-99-99-999-9-13	42	オホーツク土器	底部	無文	斜めのナデ	横のミガキ			
	M2-99-99-999-9-14	42	オホーツク土器	底部	無文	ナデ	ナデ（底面に調整痕あり）			
	M2-99-99-999-9-15	42	オホーツク土器	底部	無文	横ナデ。調整痕あり	横ナデ。調整痕あり			
	M2-99-99-999-9-16	42	オホーツク土器	底部	無文	縦のミガキ	縦のナデ			
	M2-99-99-999-9-17	42	オホーツク土器	底部	無文	横のナデ	斜めのナデ			
	M2-99-99-999-9-18	42	オホーツク土器	底部	無文	縦のミガキ	不明			
	M2-99-99-999-9-19	42	オホーツク土器	底部	無文	横のナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-9-20	42	オホーツク土器	底部	無文	縦のミガキ	ナデ			
	M2-99-99-999-9-21	42	オホーツク土器	底部	無文	横のナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-9-22	42	オホーツク土器	底部	無文	縦のミガキ	ナデ	底部に圧痕あり		
	M2-99-99-999-9-23	42	オホーツク土器	底部	無文	ナデ	縦のナデ			
	M2-99-99-999-9-24	42	オホーツク土器	底部	無文	縦のナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-9-25	42	オホーツク土器	底部	無文	縦のナデ	横のナデ			
	M2-99-99-999-9-26	42	オホーツク土器	底部	無文	斜めのナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-9-27	42	オホーツク土器	底部	無文	横・斜めのナデ	横のナデ			
	M2-99-99-999-9-28	42	オホーツク土器	底部	無文	斜めのナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-9-29	42	オホーツク土器	底部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-9-30	42	オホーツク土器	底部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-9-31	42	オホーツク土器	底部	無文	横のミガキ	横のナデ			
	M2-99-99-999-9-32	42	オホーツク土器	底部	無文	縦のナデ	横のナデ			
	M2-99-99-999-9-33	42	オホーツク土器	底部	無文	横のナデ	不明			
	M2-99-99-999-9-34	42	オホーツク土器	底部	無文	不明	ナデ			
	M2-99-99-999-9-35	42	擦文土器	底部	無文	ハケメ	横のミガキ	甕。底面ササの葉痕か。底面に粒上のくぼみ有り		
	M2-99-99-999-10-1	42	オホーツク土器	口縁部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-10-2	42	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ（多方向）	ナデ			

PLATE	ID	旧所蔵NO	種類	部位	型式/系統	器面装飾・調整（外面）	器面装飾・調整（内面）	備考	遺物ラベル番号	原典図版
	M2-99-99-999-10-3	42	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-10-4	42	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ（多方向）	ナデ			
	M2-99-99-999-10-5	42	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-10-6	42	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-10-7	42	オホーツク土器	胴部～底部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-10-8	42	オホーツク土器	胴部～底部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-10-9	42	オホーツク土器	胴部～底部	無文	縦のミガキ	ナデ			
	M2-99-99-999-10-10	42	オホーツク土器	胴部～底部	無文	縦のミガキ	横のナデ			
	M2-99-99-999-10-11	42	オホーツク土器	胴部～底部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-10-12	42	オホーツク土器	胴部～底部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-10-13	42	オホーツク土器	胴部～底部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-10-14	42	オホーツク土器	胴部～底部	無文	縦のミガキ	横のナデ			
	M2-99-99-999-10-15	42	オホーツク土器	胴部～底部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-10-16	42	オホーツク土器	胴部～底部	無文	ナデ（多方向）	ナデ	底部からの立ち上がり胴部に調整痕あり		
	M2-99-99-999-10-17	42	オホーツク土器	胴部～底部	無文	縦のミガキ	ナデ			
	M2-99-99-999-10-18	42	オホーツク土器	胴部～底部	無文	縦のミガキ	ナデ			
	M2-99-99-999-10-19	42	オホーツク土器	胴部～底部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-10-20	42	オホーツク土器	胴部～底部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-10-21	42	オホーツク土器	胴部～底部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-10-22	42	オホーツク土器	胴部～底部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-10-23	42	オホーツク土器	胴部～底部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-10-24	42	オホーツク土器	胴部～底部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-10-25	42	オホーツク土器	胴部～底部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-10-26	42	オホーツク土器	胴部～底部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-10-27	42	オホーツク土器	胴部～底部	無文	ミガキ	ナデ			
	M2-99-99-999-10-28	42	オホーツク土器	胴部～底部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-10-29	42	オホーツク土器	胴部～底部	無文	横のミガキ	ナデ			
	M2-99-99-999-10-30	42	オホーツク土器	胴部～底部	無文	器面は粗く、明確な器面調整はなく、指頭圧痕（指紋あり）が目立つ	–	ミニチュア土器		
	M2-99-99-999-10-31	42	オホーツク土器	胴部～底部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-10-32	42	オホーツク土器	胴部～底部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-10-33	42	オホーツク土器	胴部～底部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-10-34	42	オホーツク土器	底部	無文	縦のミガキ	ナデ	ミニチュア土器		
	M1-99-1-999-11-1	43	続縄文土器	胴部	宇津内Ⅱb式	縄文（縦走）。微隆起線文。ナデ	ナデ	M1-99-1-999-11-2と接合	d.25	
	M1-99-1-999-11-2	43	続縄文土器	胴部	宇津内Ⅱb式	縄文（縦走）。微隆起線文。ナデ	ナデ	M1-99-1-999-11-1と接合		
	M1-99-1-999-11-3	43	続縄文土器	胴部	後北C_1	帯縄文。微隆起線文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-11-4	43	続縄文土器	口縁部～胴部	後北C_2・D	口縁部直下に刻みのある貼付文。帯縄文。ナデ	ナデ		d.41②	
	M1-99-1-999-11-5	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	帯縄文。微隆起線文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-11-6	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	帯縄文。微隆起線文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-11-7	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	帯縄文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-11-8	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	帯縄文。微隆起線文。ナデ	ナデ	補修孔あり		
	M1-99-1-999-11-9	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	帯縄文。微隆起線文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-11-10	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	帯縄文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-11-11	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	帯縄文。微隆起線文。列点文。ナデ	ナデ（多方向）			
	M1-99-1-999-11-12	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	帯縄文。微隆起線文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-11-13	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	帯縄文。微隆起線文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-11-14	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	帯縄文。微隆起線文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-11-15	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	帯縄文。微隆起線文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-11-16	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	帯縄文。微隆起線文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-11-17	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	帯縄文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-11-18	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	帯縄文。微隆起線文。ナデ	ナデ			

PLATE	ID	旧所蔵NO	種類	部位	型式/系統	器面装飾・調整(外面)	器面装飾・調整(内面)	備考	遺物ラベル番号	原典図版
	M1-99-1-999-11-19	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	帯縄文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-11-20	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	帯縄文。微隆起線文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-11-21	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	帯縄文。微隆起線文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-11-22	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	帯縄文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-11-23	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	帯縄文。微隆起線文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-11-24	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	微隆起線文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-11-25	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	帯縄文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-11-26	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	帯縄文。微隆起線文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-11-27	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	帯縄文。微隆起線文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-11-28	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	帯縄文。微隆起線文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-11-29	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	帯縄文。微隆起線文。ナデ	ナデ(多方向)			
	M1-99-1-999-11-30	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	帯縄文。微隆起線文。ナデ	ナデ	補修孔(未成)あり		
	M1-99-1-999-11-31	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	帯縄文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-11-32	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	帯縄文。微隆起線文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-11-33	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	帯縄文。微隆起線文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-11-34	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	帯縄文。微隆起線文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-11-35	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	帯縄文。微隆起線文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-11-36	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	帯縄文。微隆起線文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-11-37	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	帯縄文。微隆起線文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-11-38	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	帯縄文。微隆起線文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-11-39	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	帯縄文。微隆起線文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-11-40	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	帯縄文。微隆起線文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-11-41	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	帯縄文。微隆起線文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-11-42	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	帯縄文。微隆起線文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-11-43	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	微隆起線文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-11-44	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	帯縄文。微隆起線文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-11-45	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	微隆起線文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-11-46	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	帯縄文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-11-47	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	帯縄文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-11-48	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	帯縄文。微隆起線文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-11-49	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	帯縄文。微隆起線文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-11-50	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	帯縄文。微隆起線文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-11-51	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	帯縄文。刻みのある貼付文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-11-52	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	帯縄文。微隆起線文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-11-53	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	帯縄文。微隆起線文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-11-54	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	帯縄文。微隆起線文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-11-55	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	帯縄文。微隆起線文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-11-56	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	帯縄文。微隆起線文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-11-57	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	帯縄文。微隆起線文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-11-58	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	帯縄文。微隆起線文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-11-59	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	帯縄文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-11-60	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	帯縄文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-11-61	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	帯縄文。微隆起線文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-11-62	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	帯縄文。微隆起線文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-11-63	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	帯縄文。微隆起線文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-11-64	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	帯縄文。微隆起線文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-11-65	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	帯縄文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-11-66	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	微隆起線文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-11-67	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	帯縄文。微隆起線文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-11-68	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	帯縄文。微隆起線文。ナデ	ナデ			

PLATE	ID	旧所蔵NO	種類	部位	型式/系統	器面装飾・調整（外面）	器面装飾・調整（内面）	備考	遺物ラベル番号	原典図版
	M1-99-1-999-11-69	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	帯縄文。微隆起線文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-11-70	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	帯縄文。列点文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-11-71	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	帯縄文。微隆起線文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-11-72	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	帯縄文。微隆起線文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-11-73	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	帯縄文。微隆起線文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-11-74	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	帯縄文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-11-75	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	帯縄文。微隆起線文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-11-76	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	帯縄文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-11-77	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	帯縄文。微隆起線文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-11-78	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	帯縄文。微隆起線文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-11-79	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	帯縄文。微隆起線文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-11-80	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	帯縄文。微隆起線文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-11-81	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	刻みのある貼付文。微隆起線文。ナデ	ナデ（剥落）			
	M1-99-1-999-11-82	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	微隆起線文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-11-83	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	ナデ	ナデ（多方向）			
	M1-99-1-999-11-84	43	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-11-85	43	続縄文土器	口縁部～胴部～注口	後北C_2・D	刻みのある貼付文	ナデ	注口土器	d96	
	M1-99-1-999-11-86	43	続縄文土器	注口	後北C_2・D	帯縄文。微隆起線文。列点文。刻みのある貼付文。ナデ	ナデ	注口土器	d97	
	M1-99-1-999-11-87	43	続縄文土器	注口	後北C_2・D	微隆起線文。刻みのある貼付文。ナデ	ナデ	注口土器	d98	
	M1-99-1-999-11-88	43	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-12-1	43	擦文土器	底部	－	底部は指？工具？で作り出し明瞭な屈曲を作る。胴部はやや湾曲して立ち上がる	ミガキ。調整具？の当たった痕跡が残る	甕		
52	M1-99-1-999-12-2	43	続縄文土器	口縁部～胴部	北大Ⅱ式	口縁部～胴部:縄文。口縁部に円形刺突文	ナデ	補修孔あり。大場1961第15図「d.86」とは別個体	d.86	
	M1-99-1-999-12-3	43	続縄文土器	口縁部	後北C_2・D	刻みのある貼付文（2列）。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-12-4	43	続縄文土器	口縁部～胴部	後北C_2・D	縄文。列点文。沈線文	横のナデ			
	M1-99-1-999-12-5	43	続縄文土器	口縁部～胴部	後北C_2・D	微隆起線文（2列）。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-12-6	43	続縄文土器	口縁部～胴部	元町2式	口唇部上面に縄文。縄文を地紋とする	ナデ		d.90	
	M1-99-1-999-12-7	43	続縄文土器	口縁部～胴部	元町2式	口縁部に突瘤文。縄文を地紋とする	ナデ		d.91	
32	M1-99-1-999-12-8	43	縄文土器	口縁部～底部	幣舞式	縄文。口唇部に刻み	ナデ		d.92	
	M1-99-1-999-12-9	43	続縄文土器	胴部	不明	縄文	ナデ		d.19	
	M1-99-1-999-12-10	43	縄文土器	口縁部～胴部	幣舞式	縄文。刺突文	ナデ			
	M1-99-1-999-12-11	43	続縄文土器	口縁部～胴部	宇津内Ⅱa式　又は元町2式	口唇部に刻み。口縁部に縄線文、胴部に縄文	ナデ			
	M1-99-1-999-12-12	43	擦文土器	胴部	前半期？	擦痕	ミガキ		d.4	
	M1-99-1-999-12-13	43	続縄文土器	胴部	宇津内式又は元町2式	縄文	横のナデ		d.9	
	M1-99-1-999-12-14	43	続縄文土器	胴部	宇津内式又は元町2式	縄文	横のナデ		d.10	
	M1-99-1-999-12-15	43	続縄文土器	胴部	宇津内式又は元町2式	縄文	横のナデ		d.11	
	M1-99-1-999-12-16	43	続縄文土器	胴部	宇津内式又は元町2式	縄文	ナデ		d.12	
	M1-99-1-999-12-17	43	続縄文土器	胴部	宇津内式又は元町2式	縄文	ナデ		d.13	

PLATE	ID	旧所蔵NO	種類	部位	型式/系統	器面装飾・調整（外面）	器面装飾・調整（内面）	備考	遺物ラベル番号	原典図版
	M1-99-1-999-12-18	43	続縄文土器	胴部	宇津内式又は元町2式	縄文	ナデ		d.14	
	M1-99-1-999-12-19	43	続縄文土器	胴部	宇津内式又は元町2式	縄文	ナデ		d.16	
	M1-99-1-999-12-20	43	続縄文土器	胴部	宇津内式又は元町2式	縄文	ナデ		d.17	
	M1-99-1-999-12-21	43	続縄文土器	胴部	宇津内式又は元町2式	縄文。貼付文（円形）	ナデ（多方向）		d.18	
	M1-99-1-999-12-22	43	続縄文土器	胴部	宇津内式又は元町2式	縄文	ナデ			
32	M1-99-1-999-12-23	43	縄文土器	口縁～胴部～底部	幣舞式	縄端部の刺突	ナデ	舟形土器の可能性		
	M1-99-1-999-12-24	43	続縄文土器	胴部～底部	不明	縄文（底部にも縄文）	ナデ		d.3	
	M1-99-1-999-13-1	43	擦文土器	胴部	後期	ハケメ調整の後、ミガキを施す。その上に3条程度の横走沈線文を2段作り、この間に羽状沈線文を巡らせ、下位の横走沈線文の下に2条の斜行並行沈線で連続山型文を作る	ミガキ。煤付着	甕		
	M1-99-1-999-13-2	43	擦文土器	胴部	後期	斜位の短い沈線を巡らせ、その上方に縦方向の沈線で文様帯を区画し、それぞれの区画内に沈線による連続山型文、また縦位の多条沈線の文様を施す	縦ミガキ。煤付着	甕。M1-99-1-999-14-5と同一個体か		
	M1-99-1-999-13-3	43	擦文土器	胴部	－	胴部破片の上端に斜位の単刻線文が一部見られる	ミガキ。煤付着	甕		
	M1-99-1-999-13-4	43	擦文土器	胴部	－	胴部破片。ハケメ調整	ミガキ。煤付着	甕。M1-99-1-999-14-3と接合		
	M1-99-1-999-13-5	43	擦文土器	胴部	－	表面が剥離しており、不明	ミガキ？	甕		
	M1-99-1-999-13-6	43	擦文土器	胴部	－	胴部破片。ハケメ調整	ミガキ。煤付着	甕		
	M1-99-1-999-13-7	43	擦文土器	胴部	－	胴部破片。ハケメ調整	ミガキ。煤付着	甕		
	M1-99-1-999-13-8	43	擦文土器	胴部	－	表面が剥離しており、不明	横ミガキ	甕		
	M1-99-1-999-14-1	43	擦文土器	口縁部	後期	屈曲した口縁部に3列の斜行単刻線文が巡る。胴部上半は斜位・縦位の多条沈線が施される	横ミガキ	甕		
	M1-99-1-999-14-2	43	擦文土器	口縁部	前期	緩やかに外反する口縁部の上下に斜位の単刻線文が巡る。胴部上半には2条の並行沈線を間隔を置いて3段、雑に横走させる。その上に2条の並行沈線を斜めの格子目状に施す	斜めミガキ	甕		
	M1-99-1-999-14-3	43	擦文土器	胴部	？	縦位のハケメ調整。破片上端に雑な横走沈線文	縦ミガキ	甕。M1-99-1-999-13-4と接合		
	M1-99-1-999-14-4	43	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-14-5	43	擦文土器	胴部	後期	縦方向の沈線で文様帯を区画し、それぞれの区画内に沈線による連続山型文、また縦位の多条沈線の文様を施す	縦ミガキ。煤付着	甕。M1-99-1-999-13-2と同一個体か		
	M1-99-1-999-14-6	43	擦文土器	底部～高台	後期	本体下部にやや密な斜行沈線が全周する。裾部から高台部に4カ所の刻み目が入る。底部は上げ底	内黒	高坏		
	M1-99-1-999-15-1	43	オホーツク土器	口縁部	貼細系	断面が山型となる隆起線上に刻み（擬縄貼付文？）。横のナデ	横のナデ			
15・16	M1-99-1-999-16-1	43	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部に沈線（3列平行）。沈線の下に刻文。横のミガキ	横のミガキ		b.127	大場1956 第20図
	M1-99-1-999-16-2	43	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部に刻文（横）2列。横のミガキ	横のナデ。剥落			
	M1-99-1-999-16-3	43	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口唇部と口縁部の下部に刻文。横のナデ	横のミガキ			
	M1-99-1-999-16-4	43	オホーツク土器	口縁部～胴部	貼細系	口縁部と胴部上半に擬縄貼付文（2列ずつ）。横のミガキ	横のミガキ	ラベル記載「北海道大學医學部 解剖學教室」	c.17①	
15・16	M1-99-1-999-17-1	43	オホーツク土器	口縁部	沈線文系	口唇部上面に刻文。口縁部に沈線（4列）。横のナデ	ナデ		b.126	大場1956 第20図。第30図（写真）
20・21	M1-99-1-999-17-2	43	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯下部に爪形文（2指）。横のナデ	横のナデ		b.222	大場1956 第22図
	M1-99-1-999-17-3	43	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯下部に刻文（波形）。横のミガキ	横のミガキ		b.232	
20・21	M1-99-1-999-17-4	43	オホーツク土器	口縁部	刻文系	刻文（斜め）。横のナデ	ナデ		b.246	大場1956 第22図。第30図（写真）

PLATE	ID	旧所蔵NO	種類	部位	型式/系統	器面装飾・調整(外面)	器面装飾・調整(内面)	備考	遺物ラベル番号	原典図版
20・22	M1-99-1-999-17-5	43	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯の下部に爪形文(2指)。横のナデ	横のナデ		b.254	大場1956 第22図。第30図(写真)
28・31	M1-99-1-999-17-6	43	オホーツク土器	口縁部	貼細系	口縁部肥厚帯上部に貼付文(波形)。横のナデ	横のミガキ		b.355	大場1956 第25図。第30図(写真)
28・31	M1-99-1-999-17-7	43	オホーツク土器	口縁部	貼細系	口縁部肥厚帯に貼付文(波形)。胴部に貼付文(波形)2列。横のナデ	横のミガキ		c.101	大場1956 第25図。第30図(写真)
28・30	M1-99-1-999-17-8	43	オホーツク土器	口縁部	貼細系	貼付文(波形)3列。ナデ	ナデ		c.148	大場1956 第25図。第30図(写真)
26・27	M1-99-1-999-17-9	43	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口唇部・口縁部肥厚帯の下部に刻文。胴部上半に沈線文・貼瘤文。横のミガキ	口縁部:円面は横のミガキ、胴部:円面はナデ	壷形土器	b.125	大場1956 第24図
20・21	M1-99-1-999-17-10	43	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯下部に爪形文(2指)。横のナデ	横のナデ		b.224	大場1956 第22図。第30図(写真)
	M1-99-1-999-17-11	43	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯下部に刻文(斜め)。口縁部:横斜めナデ、胴部:横のナデ	横のナデ			
	M1-99-1-999-17-12	43	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	刻文(横長)2列。口縁部:横のナデ、胴部:横のミガキ	横のナデ	ラベル記載「北海道大學医學部 解剖學教室」		
	M1-99-1-999-17-13	43	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯。胴部上半に型押文。ナデ	横のナデ			
29・31	M1-99-1-999-17-14	43	オホーツク土器	口縁部～胴部	貼細系	口唇部に貼付文(直線と波形が接する)。口縁部肥厚帯(2段)。肥厚帯上に貼付文と擬縄貼付文、肥厚帯下部に貼瘤状の突出部あり。頸部に擬縄貼付文(2列)と密接する貼付文(直線)。胴部上部に貼付文(直線?大部分剥落)。横のミガキ	横のミガキ	M2-99-99-999-6-36と接合	c.46	大場1956 第29図
28・31	M1-99-1-999-17-15	43	オホーツク土器	口縁部～胴部	貼細系	口唇部上面に貼付文(円形:径5mm)。口縁部に貼付文(波形)2列。ナデ	ナデ		c.150	大場1956 第25図。第30図(写真)
28・31	M1-99-1-999-17-16	43	オホーツク土器	口縁部～胴部	貼細系	口唇部に擬縄貼付文。頸部に貼付文(波形)。横のミガキ	ナデ	第30図(写真)では「b.297」と記載	c.297	大場1956 第25図。第30図(写真)
17・18	M1-99-1-999-17-17	43	オホーツク土器	胴部	刻文系	刻文(斜め)。型押文。ミガキ	横のナデ		b.167	大場1956 第21図
12・14	M1-99-1-999-17-18	43	オホーツク土器	胴部	刻文系	刻文(斜め)3列。横のナデ	ナデ		b.197	大場1956 第19図
12・14	M1-99-1-999-17-19	43	オホーツク土器	胴部	刻文系	刻文(横・山型)。横のミガキ	横のミガキ		b.200	大場1956 第19図
	M1-99-1-999-17-20	43	オホーツク土器	胴部	刻文系	刻文(横長)。型押文(斜め)。ナデ	ナデ			
29・31	M1-99-1-999-17-21	43	オホーツク土器	胴部	貼細系	貼付文(波形)2列。横のミガキ	ナデ		b.356	大場1956 第30図
	M1-99-1-999-17-22	43	オホーツク土器	胴部	無文	横のナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-17-23	43	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-17-24	43	オホーツク土器	胴部	無文	横のナデ	横のナデ			
	M1-99-1-999-17-25	43	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-17-26	43	オホーツク土器	胴部	無文	横のナデ	横のナデ			
	M1-99-1-999-17-27	43	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	横のナデ			
	M1-99-1-999-17-28	43	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-17-29	43	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-17-30	43	オホーツク土器	胴部	無文	横のナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-17-31	43	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-17-32	43	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-17-33	43	オホーツク土器	胴部	不明	剥落	ナデ			
	M1-99-1-999-17-34	43	オホーツク土器	胴部	不明	剥落	ナデ			
	M1-99-1-999-17-35	43	オホーツク土器	底部	無文	ナデ	横のナデ			
	M1-99-1-999-17-36	43	縄文土器	胴部	縄文	縄文	ナデ	裏面に文字?「間」?		
	M1-99-1-999-17-37	43	不明	胴部	不明	剥落	ナデ			
	M1-99-1-999-17-38	43	不明	胴部	不明	ミガキ	剥落			
	M1-99-1-999-18-1	43	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯に刻文。横のミガキ	横のミガキ			
	M1-99-1-999-18-2	43	オホーツク土器	口縁部	刻文系	爪形文(1指)3列。横のミガキ	ナデ			
	M1-99-1-999-18-3	43	オホーツク土器	口縁部	貼細系	貼付文(直線に挟まれた波形)。横のナデ	ナデ	ラベル記載「北海道大學医學部 解剖學教室」		
	M1-99-1-999-18-4	43	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部に刻文(八の字形)。横のミガキ	横のミガキ	補修孔あり	b.34	

PLATE	ID	旧所蔵NO	種類	部位	型式/系統	器面装飾・調整（外面）	器面装飾・調整（内面）	備考	遺物ラベル番号	原典図版
	M1-99-1-999-18-5	43	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯に爪形文（2指）。横のナデ、ミガキ	横のナデ	ラベル記載「北海道大學 医學部 解剖學教室」	b.259	
	M1-99-1-999-18-6	43	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部に刻文（横長）。ミガキ	口縁部：ミガキ 胴部：横のナデ	ラベル記載「北海道大學 医學部 解剖學教室」		
17・18	M1-99-1-999-18-7	43	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯に刻文（斜め）。胴部に型押文。横のミガキ	口縁部：横のミガキ、胴部：ナデ	壷形土器	b.94	大場1956 第21図
	M1-99-1-999-18-8	43	オホーツク土器	口縁部～胴部	貼細系	2段の口縁部肥厚帯（1段目：貼付文（波形。円形：長径6mm）。2段目：貼付文（直線に挟まれた波形））。胴部上部に貼付文（波形・直線・円形（長径7mm）が密接。横のナデ	横のミガキ		c.34	
	M1-99-1-999-18-9	43	オホーツク土器	口縁部～胴部	貼細系	口縁部肥厚帯に貼付文（波形）3列。横のナデ	ナデ	補修孔あり。ラベル記載「北海道大學 医學部 解剖學教室」		
26・27	M1-99-1-999-18-10	43	オホーツク土器	胴部～底部	貼太系	胴部上部に貼瘤文を繋ぐように型押文が施される。ミガキ	ナデ		b.28	大場1956 第24図
28・30	M1-99-1-999-18-11	43	オホーツク土器	胴部	貼細系	1列目：圧痕のある細い貼付文の端に貼付文（半球：径10mm）。2列目：圧痕のある細い貼付文に接する沈線文（山型）。ナデ	ナデ	ラベル記載「北海道大學 医學●●學教室」。遺物は「b.133」下部か？ ID：M1-99-1-999-61-32と同一個体と思われる	b.133②	大場1956 第25図「b133」（下）
	M1-99-1-999-18-12	43	オホーツク土器	胴部	貼細系	貼付文（波形）。横のミガキ	ナデ			
	M1-99-1-999-18-13	43	オホーツク土器	底部	無文	ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-18-14	43	オホーツク土器	底部	無文	縦のナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-18-15	43	オホーツク土器	底部	無文	ミガキ	ナデ			
33・34	M1-99-1-999-19-1	44	続縄文土器	口縁部～胴部	元町2式	口唇部に刻み。口縁部に横のナデと突瘤文（内→外）。口縁～胴部上面に縄線文（複段）。胴部に撚糸文	ナデ	深鉢。M1-99-1-999-19-2と接合。大場1961では「前北式」	d.2①	大場1961 第3図「d20」
34	M1-99-1-999-19-2	44	続縄文土器	口縁部～胴部	元町2式	口唇部に刻み。口縁部に突瘤文（内→外）。口縁部直下に縄線文。胴部に撚糸文	ナデ	深鉢。M1-99-1-999-19-1と接合。補修孔あり	d.2②	—
33・34	M1-99-1-999-19-3	44	続縄文土器	口縁部～胴部	元町2式	口唇部に刻み。口縁部に突瘤文（内→外）。縄線文。胴部に縄文。刺突文	ナデ	深鉢。大場1961では「前北式」	d.5	大場1961 第3図
33・34	M1-99-1-999-19-4	44	続縄文土器	口縁部	元町2式	口唇部に刻み。突瘤文（内→外）。口縁部直下に縄線文。横のナデ	ナデ	深鉢。大場1961では「前北式」	d.8	大場1961 第3図
33・34	M1-99-1-999-19-5	44	続縄文土器	口縁部～胴部	宇津内Ⅱa式	口縁部に突瘤文（内→外）。縄線文。口縁～胴部に縄文。胴部に縄端を刺突した貼付文	ナデ	深鉢。大場1961では「前北式」	d.20	大場1961 第3図「d.2」
33・34	M1-99-1-999-19-6	44	続縄文土器	口縁部～胴部	宇津内Ⅱa式	口唇部に刻み。突瘤文（内→外）。縄線文。縄文	ナデ	深鉢。大場1961では「前北式」	d.7	大場1961 第3図
33・34	M1-99-1-999-19-7	44	続縄文土器	口縁部～胴部	宇津内Ⅱa式	口唇部に刻み。突瘤文（内→外）。縄線文。竹管状のスタンプ	ナデ	深鉢。大場1961では「前北式」	d.6	大場1961 第3図
33・34	M1-99-1-999-19-8	44	続縄文土器	口縁部～胴部	宇津内Ⅱb式	口唇部に縄端の刺突のある貼付文。突起。口縁部に縄線文	ナデ	深鉢。大場1961では「前北式」	d.1①	大場1961 第3図「d.1」
33・34	M1-99-1-999-19-9	44	続縄文土器	口縁部～胴部	宇津内Ⅱb式	縄文。縄端の刺突のある貼付文。ナデ	口唇部に縄文。ナデ	深鉢。M1-99-1-999-19-10と接合。大場1961では「前北式」	d.21	大場1961 第3図
34	M1-99-1-999-19-10	44	続縄文土器	胴部	宇津内Ⅱb式	縄文。縄端の刺突のある貼付文	ナデ	深鉢。M1-99-1-999-19-9と接合	d.1④	—
	M1-99-1-999-19-11	44	続縄文土器	胴部	宇津内Ⅱb式	縄文。縄端の刺突のある貼付文	ナデ	深鉢	d.1③	
	M1-99-1-999-19-12	44	続縄文土器	口縁部～胴部	宇津内Ⅱb式	口唇部に縄端の刺突のある貼付文。口縁～胴部に縄線文。縄文	ナデ	深鉢	d.1②	
35・36	M1-99-1-999-19-13	44	続縄文土器	口縁部～胴部上半	後北C_2・D	口唇部上面に刻み。口縁部に刻みのある貼付文（2列）。胴部に帯縄文。微隆起線	ナデ	深鉢	d.26①	大場1961 第7図「d.26」

PLATE	ID	旧所蔵NO	種類	部位	型式/系統	器面装飾・調整(外面)	器面装飾・調整(内面)	備考	遺物ラベル番号	原典図版
35・36	M1-99-1-999-19-14	44	続縄文土器	口縁部～胴部	後北C_2・D	口唇部上面に刻み。口縁部に刻みのある貼付文。胴部に帯縄文・隆起線文。ナデ	ナデ	深鉢	d.27	大場1961 第7図
37・38	M1-99-1-999-19-15	44	続縄文土器	口縁部～胴部	後北C_2・D	口縁部に刻みのある貼付文。胴部に帯縄文・微隆起線文。ナデ	ナデ	深鉢	d.28①	大場1961 第8図「d.28」
38	M1-99-1-999-19-16	44	続縄文土器	口縁部～胴部	後北C_2・D	口唇部上面に刻み。口縁部に刻みのある貼付文(2列)。帯縄文。微隆起線文。ナデ	ナデ	深鉢。M1-99-1-999-19-17と接合済	d.28②	
37・38	M1-99-1-999-19-17	44	続縄文土器	口縁部～胴部	後北C_2・D	口唇部上面に刻み。口縁部に刻みのある貼付文(3列)。帯縄文。微隆起線文。ナデ	ナデ	深鉢。M1-99-1-999-19-16と接合済	d.39	大場1961 第8図
	M1-99-1-999-19-18	44	続縄文土器	口縁部～胴部	後北C_2・D	口縁部に刻みのある貼付文(2列)。胴部に帯縄文・微隆起線文。ナデ	横のナデ	深鉢	d.28③	
35・36	M1-99-1-999-19-19	44	続縄文土器	口縁部～胴部上半	後北C_2・D	口唇部に刻み。口縁部に平行する刻みのある貼付文(2列)。胴部に帯縄文。ナデ	斜めのナデ	深鉢。M1-99-1-999-19-20と接合	d.29①	大場1961 第7図「d.29」
36	M1-99-1-999-19-20	44	続縄文土器	口縁部～胴部上半	後北C_2・D	口唇部に刻み。口縁部に平行する刻みのある貼付文(2列)。胴部に帯縄文。ナデ	斜めのナデ	深鉢。M1-99-1-999-19-19と接合	d.29②	
41・42	M1-99-1-999-19-21	44	続縄文土器	口縁部～胴部	後北C_2・D	口唇部に刻み。口縁部に刻みのある貼付文(2列)。微隆起線文。帯縄文。列点文。ナデ	ナデ	深鉢。M1-99-1-999-19-22と接合。	d.31	大場1961 第10図
42	M1-99-1-999-19-22	44	続縄文土器	口縁部～胴部	後北C_2・D	口唇部に刻み。口唇部直下に刻みのある貼付文(2列)。微隆起線文。帯縄文。列点文。ナデ	ナデ	深鉢。M1-99-1-999-19-21と接合。	d.31②	—
37・38	M1-99-1-999-19-23	44	続縄文土器	口縁部～胴部	後北C_2・D	口唇部上面に刻み。帯縄文。微隆起線文	横のｹｽﾞﾘ	深鉢	d.32	大場1961 第8図
41・42	M1-99-1-999-19-24	44	続縄文土器	口縁部～胴部	後北C_2・D	口唇部に刻み。口縁部に刻みのある貼付文(2列)。帯縄文。微隆起線文。ナデ	横のナデ	深鉢	d.33	大場1961 第10図
37・38	M1-99-1-999-19-25	44	続縄文土器	口縁部～胴部	後北C_2・D	口縁部に刻みのある貼付文(2列)。微隆起線文。帯縄文。ナデ	ナデ	深鉢	d.37	大場1961 第8図
41・42	M1-99-1-999-19-26	44	続縄文土器	口縁部～胴部	後北C_2・D	微隆起線文。帯縄文。ナデ	口縁部:斜めのナデ、胴部:ナデ	深鉢	d.43	大場1961 第10図
41・42	M1-99-1-999-19-27	44	続縄文土器	口縁部～胴部	後北C_2・D	口唇部に刻み。口縁部に刻みのある貼付文(3列)。微隆起線文。帯縄文。ナデ	ナデ	深鉢	d.48	大場1961 第10図
41・42	M1-99-1-999-19-28	44	続縄文土器	口縁部	後北C_2・D	口唇部に刻み。口唇部直下に刻みのある貼付文。微隆起線文。帯縄文。列点文。ナデ	ナデ	深鉢	d.55	大場1961 第10図
41・42	M1-99-1-999-19-29	44	続縄文土器	口縁部	後北C_2・D	口唇部に刻み。口唇部直下に微隆起線文。帯縄文。ナデ	横のナデ	深鉢	d.63	大場1961 第10図
41・42	M1-99-1-999-19-30	44	続縄文土器	口縁部	後北C_2・D	口唇部に刻み。口唇部直下に刻みのある貼付文。微隆起線文。帯縄文。ナデ	ナデ	深鉢	d.75	大場1961 第10図
37・38	M1-99-1-999-19-31	44	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	帯縄文。微隆起線文。列点文。ナデ	ナデ	深鉢	d.80	大場1961 第8図
41・42	M1-99-1-999-19-32	44	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	帯縄文。刺突文。ナデ	ナデ	深鉢	d.81	大場1961 第10図
	M1-99-1-999-19-33	44	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	帯縄文。微隆起線文。ナデ	ナデ	深鉢。d.28①～③と同袋に入っていたが同一個体か不明		
45・46	M1-99-1-999-20-1	44	続縄文土器	口縁部	後北C_2・D	口縁部に突起。微隆起線文。縄文	口唇部に縄文。ナデ		d.22	大場1961 第12図
45・46	M1-99-1-999-20-2	44	続縄文土器	口縁部	後北C_1	微隆起線文(刻みあり)。ナデ	口唇部に縄文。ナデ	補修孔あり	d.23	大場1961 第12図
45・46	M1-99-1-999-20-3	44	続縄文土器	口縁部	後北C_1	口唇部に突起。隆帯	横のナデ		d.24	大場1961 第12図
45・46	M1-99-1-999-20-4	44	続縄文土器	口縁部	後北C_2・D	口唇部上面に刻み。口唇部直下に刻みのある貼付文(2列)。帯縄文。微隆起線文。ナデ	横のナデ		d.51	大場1961 第12図
49・50	M1-99-1-999-20-5	44	続縄文土器	口縁部	後北C_2・D	口唇部に刻み。口唇部直下に刻みのある貼付文。帯縄文。ナデ	横のナデ		d.52	大場1961 第14図
49・50	M1-99-1-999-20-6	44	続縄文土器	口縁部	後北C_2・D	口縁部に稜(2列)。帯縄文。微隆起線。ナデ	ナデ		d.61	大場1961 第14図
49・50	M1-99-1-999-20-7	44	続縄文土器	口縁部	後北C_2・D	口縁部に刻みのある貼付文(3列)。微隆起線文。ナデ	ナデ		d.63	大場1961 第14図
49・50	M1-99-1-999-20-8	44	続縄文土器	口縁部	後北C_2・D	口唇部に刻み。口唇部直下に刻みのある貼付文。帯縄文。ナデ	ナデ		d.65	大場1961 第14図
47・48	M1-99-1-999-20-9	44	続縄文土器	口縁部	後北C_2・D	口縁部に5列の微隆起線文。帯縄文。ナデ	横のナデ		d.70	大場1961 第13図
49・50	M1-99-1-999-20-10	44	続縄文土器	口縁部	後北C_2・D	口唇部に刻み。口縁部に微隆起線文(2列)。胴部に縦の微隆起線文。帯縄文。ナデ	ナデ		d.73	大場1961 第14図
49・50	M1-99-1-999-20-11	44	続縄文土器	口縁部	後北C_2・D	口縁部に突瘤文。縄文。沈線(横)。ナデ	ナデ		d.89	大場1961 第14図
43・44	M1-99-1-999-20-12	44	続縄文土器	口縁部～胴部	後北C_2・D	口縁部に貼付文。胴部に微隆起線文と帯縄文。ナデ	ナデ		d.30	大場1961 第11図
39・40	M1-99-1-999-20-13	44	続縄文土器	口縁部～胴部	後北C_2・D	微隆起線文。帯縄文。口縁部に貼付文(2列)。ナデ	横・斜めのナデ	深鉢	d.34	大場1961 第9図

PLATE	ID	旧所蔵NO	種類	部位	型式/系統	器面装飾・調整（外面）	器面装飾・調整（内面）	備考	遺物ラベル番号	原典図版
45・46	M1-99-1-999-20-14	44	縄文土器	口縁部～胴部	後北C_2・D	口唇部に刻み。口唇部直下に刻みのある貼付文。帯縄文。列点文。ナデ	斜めのナデ	M1-99-1-999-20-55と同一個体と思われる	d.35①	大場1961 第12図「d.35」
47・48	M1-99-1-999-20-15	44	縄文土器	口縁部～胴部	後北C_2・D	口縁部に刻みのある貼付文。帯縄文。ナデ	横のナデ		d.36	大場1961 第13図
39・40（d.38、d.38②）40・45・46（d.79）	M1-99-1-999-20-16	44	縄文土器	口縁部～胴部	後北C_2・D	口縁部に刻みのある貼付文（3列）。微隆起線文。帯縄文。列点文。ナデ	ナデ	５点あり	d.38①～④。d.79	大場1961 第9図「d.38、d.38②」第12図「d.79」図版無し「d.38③、d.38④」
39・40	M1-99-1-999-20-17	44	縄文土器	口縁部～胴部	後北C_2・D	口縁部に刻みのある貼付文。帯縄文。ナデ	ナデ	２点あり	d.40①②	大場1961 第9図「d.40」（d.40①のみ）
43・44	M1-99-1-999-20-18	44	縄文土器	口縁部～胴部	後北C_2・D	口唇部に刻み。口縁部に刻みのある貼付文。微隆起線文。帯縄文。ナデ	横のナデ		d.41①	大場1961 第11図「d.41」
43・44	M1-99-1-999-20-19	44	縄文土器	口縁部～胴部	後北C_2・D	口唇部に刻み。微隆起線文。帯縄文。ナデ	ナデ	補修孔あり	d.42	大場1961 第11図
39・40	M1-99-1-999-20-20	44	縄文土器	口縁部～胴部	後北C_2・D	口唇部に刻み。口縁部に刻みのある貼付文。微隆起線文。帯縄文。ナデ	ナデ		d.44	大場1961 第9図
49・50	M1-99-1-999-20-21	44	縄文土器	口縁部～胴部	後北C_2・D	斜めに多条の貼付文。帯縄文。ナデ	横のナデ		d.45	大場1961 第14図
45・46	M1-99-1-999-20-22	44	縄文土器	口縁部～胴部	後北C_2・D	口縁部に刻みのある貼付文。列点文。微隆起線文。帯縄文。ナデ	ナデ		d.46	大場1961 第12図
45・46	M1-99-1-999-20-23	44	縄文土器	口縁部～胴部	後北C_2・D	口唇部上面に列点文。口唇部直下に刻みのある貼付文（2列）。微隆起線文。帯縄文。ナデ	ナデ		d.47	大場1961 第12図
49・50	M1-99-1-999-20-24	44	縄文土器	口縁部～胴部	後北C_2・D	帯縄文。ナデ	横のナデ	補修孔あり	d.49	大場1961 第14図
45・46	M1-99-1-999-20-25	44	縄文土器	口縁部～胴部	後北C_2・D	口唇部上面に列点文。口唇部直下に刻みのある貼付文（2列）。微隆起線文。帯縄文。ナデ	ナデ		d.50	大場1961 第12図
43・44	M1-99-1-999-20-26	44	縄文土器	口縁部～胴部	後北C_2・D	口縁部に刻みのある貼付文（2列）。微隆起線文。帯縄文。列点文。ナデ	ナデ		d.53	大場1961 第11図
47・48	M1-99-1-999-20-27	44	縄文土器	口縁部～胴部	後北C_2・D	口縁部に貼付文。胴部に微隆起線文。帯縄文。ナデ	ナデ		d.54	大場1961 第13図
49・50	M1-99-1-999-20-28	44	縄文土器	口縁部～胴部	後北C_2・D	帯縄文。ナデ	横のナデ		d.56	大場1961 第14図
49・50	M1-99-1-999-20-29	44	縄文土器	口縁部～胴部	後北C_2・D	帯縄文。ナデ	ナデ		d.57	大場1961 第14図
47・48	M1-99-1-999-20-30	44	縄文土器	口縁部～胴部	後北C_2・D	口唇部に刻み。口縁部に刻みのある貼付文。微隆起線文。帯縄文。ナデ	ナデ		d.58	大場1961 第13図
47・48	M1-99-1-999-20-31	44	縄文土器	口縁部～胴部	後北C_2・D	口唇部に刻み。微隆起線文。帯縄文。ナデ	ナデ	補修孔あり	d.59	大場1961 第13図
43・44	M1-99-1-999-20-32	44	縄文土器	口縁部～胴部	後北C_2・D	口唇部に刻み。口縁部に刻みのある貼付文（2列）。微隆起線文。帯縄文。ナデ	ナデ		d.60	大場1961 第11図
47・48	M1-99-1-999-20-33	44	縄文土器	口縁部～胴部	後北C_2・D	口唇部に刻み。口縁部に帯縄文と刻みのある貼付文。微隆起線文。帯縄文。ナデ	横のナデ		d.62	大場1961 第13図
39・40	M1-99-1-999-20-34	44	縄文土器	口縁部～胴部	後北C_2・D	口縁部に刻みのある貼付文（2列）。微隆起線文。帯縄文。ナデ	ナデ		d.64	大場1961 第9図
45・46	M1-99-1-999-20-35	44	縄文土器	口縁部～胴部	後北C_2・D	口唇部上面に列点文。口唇部直下に刻みのある貼付文（2列）。微隆起線文。帯縄文。ナデ	ナデ		d.66	大場1961 第12図
47・48	M1-99-1-999-20-36	44	縄文土器	口縁部～胴部	後北C_2・D	口唇部に刻み。口縁部に刻みのある貼付文（2列）。微隆起線文。帯縄文。指紋。ナデ	ナデ		d.67	大場1961 第13図
45・46	M1-99-1-999-20-37	44	縄文土器	口縁部～胴部	後北C_2・D	口唇部に刻み。口唇部直下に刻みのある貼付文（2列）。微隆起線文。帯縄文。ナデ	ナデ		d.69	大場1961 第12図
47・48	M1-99-1-999-20-38	44	縄文土器	口縁部～胴部	後北C_2・D	口唇部に刻み。口縁部に刻みのある貼付文（2列）。微隆起線文。帯縄文。ナデ	ナデ		d.71	大場1961 第13図
43・44	M1-99-1-999-20-39	44	縄文土器	口縁部～胴部	後北C_2・D	口縁部に突瘤文。微隆起線文。帯縄文。ナデ	ナデ		d.74①	大場1961 第11図「d.74」
43・44	M1-99-1-999-20-40	44	縄文土器	口縁部～胴部	後北C_2・D	口縁部に突瘤文。微隆起線文。帯縄文。ナデ	ナデ	図版には「d.77」と記載されている	d.74②	大場1961 第11図「d.77」
49・50	M1-99-1-999-20-41	44	縄文土器	口縁部～胴部	後北C_2・D	口縁部に突瘤文。口縁部～胴部に微隆起線文。横のナデ	ナデ		d.76	大場1961 第14図
47・48	M1-99-1-999-20-42	44	縄文土器	口縁部～胴部	後北C_2・D	口縁部に突瘤文。微隆起線文。帯縄文。ナデ	横・斜めのナデ	図版には「d.74」と記載されている	d.77	大場1961 第13図「d.74」
47・48	M1-99-1-999-20-43	44	縄文土器	口縁部～胴部	後北C_2・D	口唇部に刻み。口縁部に貼付文（3列）。突瘤文。胴部に微隆起線文。帯縄文。ナデ	ナデ		d.78	大場1961 第13図

PLATE	ID	旧所蔵NO	種類	部位	型式/系統	器面装飾・調整（外面）	器面装飾・調整（内面）	備考	遺物ラベル番号	原典図版
51・52	M1-99-1-999-20-44	44	続縄文土器	口縁部～胴部	後北C_2・D	口唇部に刻み。口縁部に絡条体圧痕。斜めのナデ	横のナデ	図版には「d.86」と記載されている	d.84	大場1961 第15図「d.86」
51・52	M1-99-1-999-20-45	44	続縄文土器	口縁部～胴部	後北C_2・D	口唇部に刻み	ナデ。ヘラによる削り（横）		d.85	大場1961 第15図
47・48	M1-99-1-999-20-46	44	続縄文土器	口縁部～胴部	後北C_2・D	口縁部に突瘤文。縄文。横・斜めのナデ	横・斜めのナデ	補修孔あり	d.87	大場1961 第13図
49・50	M1-99-1-999-20-47	44	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	微隆起線文。帯縄文	ナデ		d.72	大場1961 第14図
45・46	M1-99-1-999-20-48	44	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	列点文。微隆起線文。ナデ	ナデ		d.82	大場1961 第12図
45・46	M1-99-1-999-20-49	44	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	列点文。微隆起線文。帯縄文。ナデ	ナデ		d.83	大場1961 第12図
	M1-99-1-999-20-50	44	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	列点文。帯縄文（横・斜め）。ナデ	ナデ			
51・52	M1-99-1-999-20-51	44	続縄文土器	注口（口縁部～胴部）	後北C_2・D	口唇部直下に刻みのある貼付文。注口上面に刻みのある貼付文（4列）。ナデ	ナデ	注口土器	d.93	大場1961 第15図
51・52	M1-99-1-999-20-52	44	続縄文土器	注口	後北C_2・D	微隆起線文。帯縄文。ナデ	ナデ	注口土器	d.94	大場1961 第15図
51・52	M1-99-1-999-20-53	44	続縄文土器	注口	後北C_2・D	注口上面に刻みのある貼付文（3列）。帯縄文。ナデ	ナデ	注口土器	d.95	大場1961 第15図
49・50	M1-99-1-999-20-54	44	続縄文土器	口縁部	北大Ⅱ式	口縁部に突瘤文。縄文。ナデ	ナデ		d.88	大場1961 第14図
	M1-99-1-999-20-55	44	続縄文土器	口縁部	後北C_2・D	口唇部に刻み。口唇部直下に刻みのある貼付文。帯縄文。列点文。ナデ	斜めのナデ	M1-99-1-999-20-14と同一個体と思われる	d.35②	
53・54	M1-99-1-999-21-1	44	擦文土器	口縁部	中期	口縁部は強く屈曲してほぼ垂直に立ち上がる。ハケメ調整の後、口縁部は単刻線文を羽状に巡らせる。胴部は1mm～数mm間隔で横走沈線を巡らせ、その上に斜位の複数の沈線で山型文を作る	横ミガキ	甕	E.1	大場1961 第16図
53・54	M1-99-1-999-21-2	44	擦文土器	口縁部	後期	口縁部は緩やかに外反する。口唇部上端に1条の沈線を施し、その外側に短い刻文を密に巡らせる。口縁直下には3条の並行沈線を巡らせる。その下は3条の平行沈線からなる連続山型文が施され下位は5条の横走沈線で区画される	横ミガキ	甕	E.2	大場1961 第16図
55・56	M1-99-1-999-21-3	44	擦文土器	口縁部	？	ハケメ調整の後、乱雑な3条の斜行沈線で口縁直下から胴部まで斜めの格子目を作る	横ミガキ	甕	E.3	大場1961 第17図
53・54	M1-99-1-999-21-4	44	擦文土器	口縁部	後期	口縁部は内湾しながら立ち上がる。細い横走沈線で幅の狭い文様帯を区画し斜行単刻線をジグザグに3段巡らせる。その下位の胴部は細い斜行および縦位の沈線を多条巡らせる	横ミガキ	甕	E.6	大場1961 第16図
55・56	M1-99-1-999-21-5	44	擦文土器?	口縁部	？	口縁部は緩やかに外反し、丁寧に磨いている。胴部は明瞭な斜位のハケメ調整が施される	横ミガキ	甕	E.8	大場1961 第17図
53・54	M1-99-1-999-21-6	44	擦文土器	坏（高坏?）	後期	胴部に羽状沈線文	内黒	甕	E.9	大場1961 第16図
53・54	M1-99-1-999-21-7	44	擦文土器	口縁部	前期	胴部に横走沈線を施し、その上に2条1単位の斜行沈線文を重ね描き。口唇部外側に縦位の単刻線文を巡らせる		甕	E.11	大場1961 第16図
55・56	M1-99-1-999-21-8	44	擦文土器	口縁部	前期？	口唇部は薄く屈曲する。胴部は上位に横位に1条の沈線を巡らし、その上から口縁直下まで縦位の沈線を1～3条1単位で不規則に施す	横ミガキ	甕。図版には「E.14」と記載されている	E.4	大場1961 第17図「E.14」
51・52	M1-99-1-999-21-9	44	続縄文土器	口縁部	北大Ⅱ式	突瘤文（外→内）。櫛描文（集合沈線文）。ナデ（口縁部：横、胴部：縦）	ナデ	図版には「E.36」と記載されている	E.38	大場1961 第17図「E.36」
	M1-99-1-999-21-10	44	擦文土器	胴部～頸部	後期	ハケメ調整の後、胴部には3条1単位の斜位の沈線文、頸部には斜位の単刻線文が密に連続して施される	横ミガキ	甕	E.12	
53・54	M1-99-1-999-21-11	44	擦文土器	胴部	前～中期	縦ハケメ調整の後、多条の横走沈線を巡らせ下端は木製施文具の先端で施したと思われる楔形の単刻線文を一列巡らせる。多条横走沈線の上に2条1単位の並行沈線文をX字状に連続して施文する	横ミガキ	甕	E.13	大場1961 第16図
	M1-99-1-999-21-12	44	擦文土器	胴部	晩期？	横走沈線を施し、それに重ねて斜方向の単刻線を施す。横走沈線の上方向に浅い横走沈線を不規則に施し、その上に斜位の沈線文を不規則に重ね描きする	横ミガキ。斜め位に1条の沈線あり	甕。M1-99-1-999-21-22と接合	E.14	
55・56	M1-99-1-999-21-13	44	擦文土器	胴部	晩期	浅い横位の2条の並行沈線に列点文（植物の茎か）を施す。その上方にも同様の列点文を巡らす。列点文の間に斜め位の浅い沈線文を多条に施す	横ミガキ	甕	E.15	大場1961 第17図
53・54	M1-99-1-999-21-14	44	擦文土器	胴部	中期	縦ハケメ。多条の横走沈線文を施し、最下列に斜位の単刻線文を巡らす。多条の横走沈線文の上に2条の斜行沈線文を重ね描きする	ミガキ	甕	E.16	大場1961 第16図
53・54	M1-99-1-999-21-15	44	擦文土器	胴部上半	後～晩期	縦ハケメ。横方向の2本の沈線の内側を縦位の多条沈線で充填	横ミガキ	甕	E.17	大場1961 第16図

PLATE	ID	旧所蔵NO	種類	部位	型式/系統	器面装飾・調整（外面）	器面装飾・調整（内面）	備考	遺物ラベル番号	原典図版
53・54	M1-99-1-999-21-16	44	擦文土器	胴部上半	中期	縦ハケメ。多条横走沈線の上に2条1単位の並行沈線を斜位に施す	横ハケメの上に縦ミガキ	甕	E.18	大場1961 第16図
55・56	M1-99-1-999-21-17	44	擦文土器	胴部上半	後期	浅い横走沈線を3条施した後に沈線の下位に列点文。横走沈線の上方に斜位・縦位の沈線をやや規則的に施す	横ミガキ	甕	E.19	大場1961 第17図
53・54	M1-99-1-999-21-18	44	擦文土器	胴部	中期	縦ハケメ調整の後、多条の横走沈線を巡らせ、その上に2条1単位の斜め行並行沈線文を縦方向にジグザグ状に施文する	横ミガキ	甕	E.20	大場1961 第16図
	M1-99-1-999-21-19	44	擦文土器	胴部	中期	縦ハケメ調整の後、多条の横走沈線を施し、最下列に斜位の単刻線文を巡らす。多条の横走沈線文の上に2条の斜行沈線文を重ね描きする	縦ミガキ	甕。M1-99-1-999-21-25・M1-99-1-999-21-26と接合。M1-99-1-999-21-14と同一個体か	E.21	
53・54	M1-99-1-999-21-20	44	擦文土器	胴部	後期	縦ハケメ調整の後、胴部上半に横方向の羽状沈線文、その直下に2条一単位の沈線による連続山型文を付し。その下にやや粗雑な4条からなる横走沈線文で文様帯を区画する	縦ミガキ	甕。2点接合済	E.22、E.31	大場1961 第16図「E.22」
55・56	M1-99-1-999-21-21	44	擦文土器?	胴部	?	縦ハケメ調整の後、10条以上からなる浅い斜行沈線文を施す	横ミガキ	甕	E.23	大場1961 第17図
	M1-99-1-999-21-22	44	擦文土器	胴部	晩期？	不規則な沈線文を横位斜位に施し、その下位に横走する単刻線文によって文様帯を区画する	横ミガキ	甕。M1-99-1-999-21-12と接合	E.24	
53・54	M1-99-1-999-21-23	44	擦文土器	胴部	晩期？	沈線による斜位の格子文を施す	ミガキ	甕	E.25	大場1961 第16図
55・56	M1-99-1-999-21-24	44	擦文土器	胴部	晩期？	2条の並行沈線によりV字文様を作り、その頂点から3条の並行沈線により八字の文様を作り出しX字をなす。おそらく連続菱型文と推定される	ミガキ	甕	E.26	大場1961 第17図
	M1-99-1-999-21-25	44	擦文土器	胴部	中期	縦ハケメ調整の後、多条の横走沈線を施し、その上に2条の斜行沈線文を重ね描きしX字形の文様を形成する	ミガキ	甕。M1-99-1-999-21-19・M1-99-1-999-21-26と接合。M1-99-1-999-21-14と同一個体か	E.27	
	M1-99-1-999-21-26	44	擦文土器	胴部	中期	縦ハケメ調整の後、多条の横走沈線を施し、最下列に斜位の単刻線文を巡らす。多条の横走沈線文の上に2条の斜行沈線文を重ね描きする	縦ミガキ	甕。M1-99-1-999-21-19・M1-99-1-999-21-25と接合。M1-99-1-999-21-14と同一個体か	E.28	
	M1-99-1-999-21-27	44	擦文土器	胴部	?	縦ハケメ調整の後、先端が鋭利な施文具で横位・斜位に引っ掻くように施文。暗灰色	ミガキ	甕	E.29	
	M1-99-1-999-21-28	44	擦文土器	胴部	中期	縦ハケメ調整の後、多条の横走沈線を施し、その上に2条一単位の斜行並行沈線を施す	ミガキ	甕	E.30	
	M1-99-1-999-21-29	44	擦文土器	胴部	後期	縦ハケメ調整の後、横位の多条の横走沈線のブロックと縦位の多条沈線文のブロックをモザイク状に配置	ミガキ	甕	E.32	
55・56	M1-99-1-999-21-30	44	擦文土器?	胴部	?	先端が鋭利な施文具で横位・斜位に引っ掻くように密な多条沈線文を施文。胎土に雲母？	ミガキ	甕	E.39	大場1961 第17図
	M1-99-1-999-21-31	44	擦文土器	胴？	?	特段の文様は無く手指による整形のみか	木製工具による叩き目？	甕？ほぼ平板で土器か疑わしい。		
	M1-99-1-999-21-32	44	擦文土器	口縁部	?	横ミガキ	横ミガキ	坏		
53・54	M1-99-1-999-21-33	44	擦文土器	口縁部	後期	口縁部。先端が丸い施文具で凹凸を作り出し、その一帯に単刻線文を複段巡らせる	ミガキ	高坏	E.5	大場1961 第16図
53・54	M1-99-1-999-21-34	44	擦文土器	口縁部	後期	ハケメ調整の後、先端が丸い施文具で凹凸を作り出し、その一帯に単刻線文を複段巡らせる	ミガキ	高坏	E.7	大場1961 第16図
	M1-99-1-999-21-35	44	擦文土器	口縁部	後期	先端のまるい施文具で3本の溝を巡らし、その凹凸にかかるように単刻線文を巡らせる	ミガキ。内黒	高坏	E.10	
55・56	M1-99-1-999-21-36	44	擦文土器	脚部	後期	底部から体部の下部のみ残存。脚部の下位および体部の下位に単刻線による綾杉文が全周する	底面は丸く上げ底。	高坏	E.33	大場1961 第17図
55・56	M1-99-1-999-21-37	44	擦文土器	脚部	後期	底部から脚部のみ残存。ハケメ調整の後、脚部の下位に1条の沈線を巡らせ。その下方に単刻線による綾杉文を全周させる	底面は丸く上げ底。	高坏	E.34	大場1961 第17図
55・56	M1-99-1-999-21-38	44	擦文土器	脚部	後期	底部に4条の沈線が巡る	底面は丸く上げ底。	高坏	E.35	大場1961 第17図

PLATE	ID	旧所蔵NO	種類	部位	型式/系統	器面装飾・調整（外面）	器面装飾・調整（内面）	備考	遺物ラベル番号	原典図版
55・56	M1-99-1-999-21-39	44	擦文土器	脚部	後期	底部に1条の沈線を巡らせ上下に段を作る。段に列点文を全周させる。体部は失われ、脚部の上端および体部の底面を磨いている	底面は丸く上げ底。	高坏	E.36	大場1961 第17図
	M1-99-1-999-21-40	44	擦文土器	脚部	後期	底部のみ残存。残存部には4条の沈線を全周させる	底面は丸く上げ底。	高坏	E.37	
	M1-99-3-999-22-1	44	オホーツク土器	底部	無文	縦のミガキ	横のナデ			
	M1-99-3-999-22-2	44	続縄文土器	頸部	不明	絡条体圧痕	横のナデ			
	M1-99-3-999-22-3	44	縄文土器	口縁部	縄文	縄文。口唇部に縄文	横のナデ			
32	M1-99-3-999-22-4	44	縄文土器	口縁部～胴部	縄文・刺突文	縄文。口縁部に円形刺突文。口唇部に突起あり	縄文（口縁部～胴部上半）。ナデ（胴部下半）	深鉢。胎土に繊維多い		
	M1-99-3-999-22-5	44	縄文土器	胴部	縄文	縄文。繊維	横のナデ。繊維			
	M1-99-3-999-22-6	44	縄文土器	底部	縄文	縄文	斜めのナデ			
	M2-99-1-999-23-1	45	オホーツク土器	口縁部	刻文系	刻文（横）。横のナデ	ナデ			
	M2-99-1-999-23-2	45	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に刻文（斜め）。横のナデ	上縁：横のミガキ、下縁：横のナデ			
	M2-99-1-999-23-3	45	オホーツク土器	口縁部	貼細系	口縁部下部に擬縄貼付文。ナデ	ナデ			
	M2-99-1-999-23-4	45	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯に刻文（八の字形）2列。ナデ	横のミガキ			
	M2-99-1-999-23-5	45	オホーツク土器	胴部	貼太系	貼太（幅5mm以上の貼付文）。ミガキ	ナデ			
	M2-99-1-999-23-6	45	オホーツク土器	胴部	貼細系	貼短（幅4mmの刻文のある貼付文）。ナデ	ナデ			
	M2-99-1-999-23-7	45	オホーツク土器	胴部	貼細系	貼短（幅5mmの刻文のある短い貼付文）。ナデ	ナデ			
	M2-99-1-999-23-8	45	オホーツク土器	胴部	貼細系	貼短（幅5mmの短い貼付文）。ナデ	ナデ			
	M2-99-1-999-23-9	45	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	横のナデ			
	M2-99-1-999-23-10	45	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ（剥落あり）	ナデ			
	M2-99-1-999-23-11	45	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	横のナデ			
	M2-99-1-999-23-12	45	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-1-999-23-13	45	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	ナデ			
	M2-99-1-999-23-14	45	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-1-999-23-15	45	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-1-999-23-16	45	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ（大部分剥落）	ナデ			
	M2-99-1-999-23-17	45	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-1-999-23-18	45	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-1-999-23-19	45	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-1-999-23-20	45	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-1-999-23-21	45	オホーツク土器	胴部～底部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-7-1-999-24-1	45	オホーツク土器	口縁部	刻文系	爪形文（1指）2列。ナデ	ナデ			
	M2-7-1-999-24-2	45	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯上縁に刻文（斜め）、下縁に刻文（八の字形）。横のナデ。黒色付着物	横のナデ			
	M2-7-1-999-24-3	45	オホーツク土器	口縁部～胴部	貼細系	口縁部肥厚帯。胴部上部に擬縄貼付文。横のナデ	ナデ。黒色付着物			
	M2-7-1-999-24-4	45	オホーツク土器	頸部～胴部	無文	横のナデ	横のナデ			
	M2-7-1-999-24-5	45	オホーツク土器	胴部	刻文系	型押文。横のナデ	ナデ			
	M2-7-1-999-24-6	45	オホーツク土器	胴部	刻文系	ナデ	ナデ			
	M2-7-1-999-24-7	45	オホーツク土器	胴部	貼太系	ひねりのある太い貼付文（幅5mm以上）。横のナデ	横のナデ	壷形土器？		
	M2-7-1-999-24-8	45	オホーツク土器	胴部	貼細系	擬縄貼付文に接する貼付文（半球形：長径10mm）2点。ナデ	ナデ			
	M2-7-1-999-24-9	45	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-7-1-999-24-10	45	オホーツク土器	胴部	無文	横のミガキ	ナデ			
	M2-7-1-999-24-11	45	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ（多方向）	ナデ（多方向）			
	M2-7-1-999-24-12	45	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	剥落			
	M2-7-1-999-24-13	45	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ（下半部剥落）	ナデ			
	M2-7-1-999-24-14	45	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-7-1-999-24-15	45	オホーツク土器	胴部	無文	横のナデ	ナデ			
	M2-7-1-999-24-16	45	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	横のナデ			
	M2-7-1-999-24-17	45	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-7-1-999-24-18	45	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-7-1-999-24-19	45	オホーツク土器	不明	不明	不明	不明	剥落した破片		

PLATE	ID	旧所蔵NO	種類	部位	型式/系統	器面装飾・調整（外面）	器面装飾・調整（内面）	備考	遺物ラベル番号	原典図版
	M2-2-1-999-25-1	45	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に爪形文（2指）。横のナデ	ナデ			
	M2-2-1-999-25-2	45	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口唇部に刻文（斜め）。口縁部下縁に爪形文（1指）。横のナデ	横のナデ			
	M2-2-1-999-25-3	45	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	横のナデ			
	M2-2-1-999-25-4	45	オホーツク土器	胴部～底部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-2-1-999-25-5	45	オホーツク土器	胴部～底部	無文	横のナデ	ナデ			
	M2-2-1-999-25-6	45	オホーツク土器	底部	無文	ナデ	横のナデ			
	M2-2-1-999-25-7	45	オホーツク土器	底部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-1-1-999-26-1	45	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯に爪形文（1指）2列。ナデ	ナデ			
	M2-1-1-999-26-2	45	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に刻文（八の字形）。横のミガキ	横のナデ			
	M2-1-1-999-26-3	45	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯に刻文（横）3列。横のナデ	ナデ			
	M2-1-1-999-26-4	45	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部下部に刻文（横）。横のミガキ	横のミガキ			
	M2-1-1-999-26-5	45	オホーツク土器	口縁部	刻文系	型押文。ミガキ	ミガキ			
	M2-1-1-999-26-6	45	オホーツク土器	口縁部～頸部	刻文系	口縁部肥厚帯に爪形文（2指）2列。横のミガキ	横のミガキ			
	M2-1-1-999-26-7	45	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯に刻文（斜め）3列。口縁部：横のナデ。胴部：ミガキ	横のナデ			
	M2-1-1-999-26-8	45	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口唇部に刻文（斜め）。胴部上半部に型押文。頸部：横のナデ	横のナデ			
	M2-1-1-999-26-9	45	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯に刻文（横）2列。沈線文。刻文（斜め）。ナデ	横のナデ			
	M2-1-1-999-26-10	45	オホーツク土器	胴部～底部	無文	縦のミガキ	横のナデ			
	M2-2-1-999-27-1	45	オホーツク土器	口縁部～底部（半完形）	刻文系	口縁部～胴部上半は横のナデ。口縁部に爪形文（2指）。胴部中央～下部は縦のミガキ。胴部中央に2列の平行する刺突があり、それに挟まれた縦の沈線と貼瘤文がめぐる	横のナデ			
	M2-2-1-999-27-2	45	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯上下縁に型押文（2列）。横のナデ	横のナデ			
	M2-2-1-999-27-3	45	オホーツク土器	胴部	無文	横のミガキ	ナデ			
	M2-2-1-999-27-4	45	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
98	M2-3-1-999-28-1	45	オホーツク土器	口縁部～胴部	沈線文系	口縁部肥厚帯。口縁部：横のナデ、胴部：多方向のナデ	ナデ	胴部に舟の線刻あり		
	M2-3-1-999-28-2	45	オホーツク土器	口縁部	刻文系	爪形文（2指）。横のナデ	ナデ			
	M2-3-1-999-28-3	45	オホーツク土器	口縁部	刻文系	爪形文（2指）。ナデ	ナデ			
	M2-3-1-999-28-4	45	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に刻文（斜め）。口縁部：横のナデ、胴部：横のミガキ	ナデ	甕型土器		
	M2-3-1-999-28-5	45	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に爪形文（2指）。胴部に型押文。横のナデ	横のナデ			
	M2-3-1-999-28-6	45	オホーツク土器	頸部	刻文系	刻文。ナデ。黒色付着物	ナデ			
	M2-3-1-999-28-7	45	オホーツク土器	胴部	刻文系	刻文。型押文。ナデ	ナデ			
	M2-3-1-999-28-8	45	オホーツク土器	胴部	刻文系	刻文。型押文。ナデ	ナデ			
	M2-3-1-999-28-9	45	オホーツク土器	胴部	刻文系	型押文。ミガキ	横のナデ			
	M2-3-1-999-28-10	45	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ（多方向）	ナデ			
	M2-3-1-999-28-11	45	オホーツク土器	胴部	無文	横のミガキ	ナデ			
	M2-3-1-999-28-12	45	オホーツク土器	胴部	無文	縦と横のナデ。横のミガキ	ナデ			
	M2-3-1-999-28-13	45	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ。黒色付着物			
	M2-3-1-999-28-14	45	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	縄文。ナデ	ナデ			
	M2-1-1-999-29-1	45	オホーツク土器	口縁部	貼細系	貼付文（波形）2列。ナデ	ナデ			
	M2-1-1-999-29-2	45	オホーツク土器	口縁部	無文	横のナデ	横のナデ			
	M2-1-1-999-29-3	45	オホーツク土器	口縁部～頸部	無文	横のナデ	横のミガキ			
	M2-1-1-999-29-4	45	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯に刻文（斜め・八の字形）。横のナデ	横のナデ			
	M2-1-1-999-29-5	45	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	爪形文（2指）。ナデ	ナデ			
	M2-1-1-999-29-6	45	オホーツク土器	口縁部下部～胴部	刻文系	型押文。横のナデ	不明			
	M2-1-1-999-29-7	45	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ（多方向）	ナデ（多方向）			
	M2-1-1-999-29-8	45	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ（多方向）	横のナデ			
	M2-1-1-999-29-9	45	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	縄文。ナデ	剥落			
	M2-2-1-999-30-1	45	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	縄文。微隆起線文。帯縄文	ナデ			
	M2-2-1-999-30-2	45	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	縄文。微隆起線文	ナデ	外面に赤色顔料付着		
	M2-2-1-999-30-3	45	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	縄文。沈線文。ナデ	剥落			
	M2-2-1-999-30-4	45	続縄文土器	胴部	不明	剥落	ナデ			
	M2-2-1-999-30-5	45	続縄文土器	胴部	不明	剥落	ナデ			
	M2-2-1-999-30-6	45	続縄文土器	胴部	不明	剥落	ナデ			

PLATE	ID	旧所蔵NO	種類	部位	型式/系統	器面装飾・調整(外面)	器面装飾・調整(内面)	備考	遺物ラベル番号	原典図版
	M2-2-1-999-30-7	45	続縄文土器	胴部	不明	剥落	ナデ			
	M2-2-1-999-30-8	45	続縄文土器	不明	不明	不明	不明	続縄文土器の一部が剥落		
	M2-2-1-999-30-9	45	不明	胴部	不明	上部(絡条体圧痕)。下部(ナデ)	斜めのナデ			
6・7	M1-99-1-999-33-1	46	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯に刻文(斜め)2列。胴部上半に刻文(横)3列。口縁部～頸部:横のミガキ、胴部上半:縦のナデ	横のナデ		b.1	大場1956 第17図
3・4	M1-99-1-999-33-2	46	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口唇部に刻文(斜め)。胴部上半に刻文(横)2列。横のミガキ	口縁部:横のナデ、胴部:縦のナデ		b.2	大場1956 第16図
12・13	M1-99-1-999-33-3	46	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口唇部に刻文(斜め)。口縁部に刻文(横)。隆起線文。胴部上半に刻文(八の字形)。横のミガキ	横のナデ		b.16	大場1956 第19図
	M1-99-1-999-33-4	46	オホーツク土器	口縁部～胴部上半	刻文系	口縁部肥厚帯に刻文(横)。横のミガキ	横のナデ			
	M1-99-1-999-33-5	46	オホーツク土器	胴部	貼細系	貼付文(直線の間に波形)。横のナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-33-6	46	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
1・2	M1-99-1-999-34-1	46	オホーツク土器	口縁部～胴部上半	貼細系	口縁部肥厚帯に貼付文(波形)・沈線文・(直線・八の字形)・刺突文。頸部に擬縄貼付文。胴部上半に貼付文(波形)2列。横のミガキ	口縁部:横のミガキ 胴部:ナデ	M1-99-1-999-36-1・M1-99-1-999-37-1・M1-99-1-999-68-2と接合	b.12	大場1956 第9図
3・5	M1-99-1-999-35-1	46	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯に刻文(横)2列。胴部に刻文(横)2列。横のミガキ・ナデ	ナデ	M1-99-1-999-46-1と接合	b.20	大場1956 第16図
1・2	M1-99-1-999-36-1	46	オホーツク土器	頸部～胴部	貼細系	頸部に擬縄貼付文。胴部に貼付文(波形)。横のミガキ	ナデ	M1-99-1-999-34-1・M1-99-1-999-37-1・M1-99-1-999-68-2と接合	b.12	大場1956 第9図
1・2	M1-99-1-999-37-1	46	オホーツク土器	胴部	貼細系	貼付文(波形)2列。横のミガキ	ナデ	M1-99-1-999-34-1・M1-99-1-999-36-1・M1-99-1-999-68-2と接合	b.12	大場1956 第9図
17・18	M1-99-1-999-38-1	46	オホーツク土器	口縁部	刻文系	沈線(2列)の間に刻文(横長)・型押文(2列)。横のナデ	横のナデ		b.8	大場1956 第21図
6・7	M1-99-1-999-39-1	46	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯に刻文(斜め)2列。胴部に刻文(斜め)。横のミガキ	ナデ		b.10	大場1956 第17図
	M1-99-1-999-39-2	46	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ	b.12の一部？		
	M1-99-1-999-39-3	46	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ミガキ			
	M1-99-1-999-39-4	46	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ミガキ			
9・10	M1-99-1-999-40-1	46	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部に刻文(斜め)・沈線(2列)。胴部に沈線(2列)。横のナデ	横のナデ		b.7	大場1956 第18図
	M1-99-1-999-41-1	46	オホーツク土器	胴部	刻文系	型押文。沈線文(2列)。横のナデ	ナデ	M1-99-1-999-68-3と同一個体と思われる	b.4	
15・16	M1-99-1-999-41-2	46	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯に型押文(2列)。横のミガキ。横のナデ	横のナデ		b.9	大場1956 第20図
28・30	M1-99-1-999-42-1	46	オホーツク土器	口縁部～胴部	貼細系	口縁部に刻文(斜め)。胴部上半に貼付文(波形)。胴部中央には擬縄貼付文が上下2列あり、その端部に接する貼瘤文とともに囲いを作る。横のミガキ	横のミガキ	甕形土器。M1-99-1-999-44-1と接合済	b.11③	大場1956 第25図「b.11」
3・4	M1-99-1-999-42-2	46	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯に刻文(横長)2列。横のナデ	横のミガキ		b.3	大場1956 第16図
28・30	M1-99-1-999-44-1	46	オホーツク土器	口縁部～胴部	貼細系	口縁部に刻文(斜め)。胴部上半に貼付文(波形)。胴部中央には擬縄貼付文が上下2列あり、その端部に接する貼瘤文とともに囲いを作る。横のミガキ	横のミガキ	甕形土器。M1-99-1-999-42-1と接合済	b.11	大場1956 第25図
9・10	M1-99-1-999-45-1	46	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部全面に刻文(横)5列。5列の刻文を四角く囲む沈線。横のナデ	横のナデ		b.22	大場1956 第18図
3・5	M1-99-1-999-46-1	46	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯に刻文(横)2列。胴部にも刻文(横)2列。横のミガキ。ナデ	ナデ	M1-99-1-999-35-1と接合	b.20②	大場1956 第16図「b.20」
1・2	M1-99-1-999-47-1	46	オホーツク土器	胴部(下半)	無文	縦のナデ	ナデ	M1-99-1-999-49-1・M1-99-1-999-49-2・M1-99-1-999-50-1と接合	b.13	大場1956 第9図

PLATE	ID	旧所蔵NO	種類	部位	型式/系統	器面装飾・調整(外面)	器面装飾・調整(内面)	備考	遺物ラベル番号	原典図版
1・2	M1-99-1-999-49-1	46	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯(断面稜状)。稜上に刻文(斜め)。横のミガキ	ナデ	M1-99-1-999-47-1・M1-99-1-999-49-2・M1-99-1-999-50-1と接合	b.13	大場1956 第9図
1・2	M1-99-1-999-49-2	46	オホーツク土器	胴部(下半)	無文	縦のナデ	ナデ	M1-99-1-999-47-1・M1-99-1-999-49-1・M1-99-1-999-50-1と同一個体と思われる	b.13	大場1956 第9図
	M1-99-1-999-49-3	46	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ	b.12の一部?		
1・2	M1-99-1-999-50-1	46	オホーツク土器	胴部	貼細系	胴部上半に貼付文(波形)2列。ナデ	ナデ	M1-99-1-999-47-1・M1-99-1-999-49-1・M1-99-1-999-49-2と接合	b.13	大場1956 第9図
26・27	M1-99-1-999-50-2	46	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	横のナデ	M1-99-1-999-68-6と接合	b.17②	大場1956 第24図「b.17」
23・25	M1-99-1-999-51-1	46	オホーツク土器	頸部～底部	貼太系	胴部貼付文上に刻み。貼瘤文。胴部上半は横のミガキ、胴部下半は縦のナデ	横のナデ(上半)	壷形土器(口縁部欠損)	b.26	大場1956 第23図
	M1-99-1-999-52-1	46	オホーツク土器	口縁部	刻文系	刻文(横)。横のミガキ	横のナデ		b.4●?	
23・25	M1-99-1-999-52-2	46	オホーツク土器	胴部～底部	貼太系	上下に刻文(斜め)のある胴部貼付文。貼瘤(2か所)。胴部:横のミガキ、胴部下半:斜め～縦のナデ	横のナデ	壷形土器(口縁部～頸部欠損)	b.18	大場1956 第23図
17・19	M1-99-1-999-52-3	46	オホーツク土器	胴部～底部	沈線文系	刻文(3列)。沈線文(2列)。ナデ(縦。斜め)	ナデ(横。斜め)		b.27	大場1956 第21図
6・8	M1-99-1-999-52-4	46	オホーツク土器	胴部～底部	沈線文系	点線を模した沈線文が螺旋状に巡る。ナデ	ナデ		b.29	大場1956 第17図
	M1-99-1-999-54-1	47	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部の2段の稜上に刻文(斜め)。横のナデ	横のナデ		b.76	
15・16	M1-99-1-999-54-2	47	オホーツク土器	口縁部	刻文系	型押文。横のナデ	横のナデ		b.156	大場1956 第20図
6・7	M1-99-1-999-54-3	47	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部に刻文(横長)3列。横のナデ	横のナデ	ラベルは「b.216」だが第22図「b.216」とは別個体	b.216	大場1956 第17図「b.113」
	M1-99-1-999-54-4	47	オホーツク土器	口縁部	刻文系	爪形文(1指)。横のミガキ	横のミガキ		b.233	
3・5	M1-99-1-999-54-5	47	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口唇部に刻文(縦)。口縁部の稜上に刻文(斜め)。横のナデ	横のナデ		b.238	大場1956 第16図
	M1-99-1-999-54-6	47	オホーツク土器	口縁部	刻文系	爪形文(1指)。横のナデ	ナデ		b.346	
	M1-99-1-999-54-7	47	オホーツク土器	口縁部～頸部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に刻文(山型)。口縁部:横のナデ・ミガキ、頸部:横のミガキ	横のミガキ		b.40	
3・5	M1-99-1-999-54-8	47	オホーツク土器	口縁部～頸部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に刻文(横長)。横のミガキ	横のミガキ		b.58	大場1956 第16図
3・5	M1-99-1-999-54-9	47	オホーツク土器	口縁部～頸部	刻文系	口唇部と口縁部肥厚帯下縁に刻文(斜め)。横のミガキ	ナデ		b.75	大場1956 第16図
20・22	M1-99-1-999-54-10	47	オホーツク土器	口縁部～頸部	刻文系	口縁部肥厚帯の稜上に刻文(斜め)・下縁に爪形文(1指)。横のナデ	横のミガキ		b.216	大場1956 第22図
3・4	M1-99-1-999-54-11	47	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部下縁に刻文(横)。口縁部:横のナデ、胴部:横のミガキ	横のナデ		b.44	大場1956 第16図
3・4	M1-99-1-999-54-12	47	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に刻文(斜め)。横のナデ	横のナデ		b.51	大場1956 第16図
	M1-99-1-999-54-13	47	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部の稜上に刻文(斜め)。横のミガキ	横のミガキ	補修孔(未成)あり	b.52	
	M1-99-1-999-54-14	47	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯に2段の稜あり。刻文(横長)は稜と平行・重複する。横のナデ	横のナデ		b.60	
	M1-99-1-999-54-15	47	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯の口唇部と下縁に刻文(斜め)。横のミガキ	ミガキ		b.67	
17・19	M1-99-1-999-54-16	47	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部に刺突文(円形)が1列。並行して胴部にも同様の刺突文が1列並ぶ。上下の刺突文の間には縦の2列の平行する沈線が施される。横のナデ	ナデ		b.99	大場1956 第21図
12・13	M1-99-1-999-54-17	47	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯に刻文(斜め)2列。胴部に刻文(斜め)。横のナデ	横のナデ	M1-99-1-999-54-18と同一個体と思われる	b.103①	大場1956 第19図「b.103」(左側)
12・13	M1-99-1-999-54-18	47	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯に刻文(横・斜め・V字形)。横のナデ	横のナデ	M1-99-1-999-54-17と同一個体と思われる	b.103②	大場1956 第19図「b.103」(右側)
17・19	M1-99-1-999-54-19	47	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に刻文(斜め)。胴部に型押文(円形)。横のナデ	横のナデ	M1-99-1-999-54-20と同一個体と思われる	b.122	大場1956 第21図「b.122」(左側)
17・19	M1-99-1-999-54-20	47	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に刻文(斜め)。胴部に型押文(円形)。横のナデ	ナデ	M1-99-1-999-54-19と同一個体と思われる	b.122②	大場1956 第21図「b.122」(右側)
20・21	M1-99-1-999-54-21	47	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に爪形文(2指)。横のミガキ	口縁部～頸部:横のミガキ、胴部:斜め・横のナデ		b.225	大場1956 第22図

PLATE	ID	旧所蔵NO	種類	部位	型式/系統	器面装飾・調整(外面)	器面装飾・調整(内面)	備考	遺物ラベル番号	原典図版
20・21	M1-99-1-999-54-22	47	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	爪形文(2指)。横のナデ	横のナデ		b.251	大場1956 第22図
	M1-99-1-999-54-23	47	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に爪形文(2指)。横のミガキ、ナデ	口縁部:横のナデ、胴部:ナデ		b.256？	
6・7	M1-99-1-999-55-1	47	オホーツク土器	口縁部～頸部	刻文系	口縁部肥厚帯に刻文(横長)3列。横のナデ	ナデ		b.104	大場1956 第17図
	M1-99-1-999-55-2	47	オホーツク土器	口縁部～頸部	刻文系	口縁部に刻文(斜め)3列。3列目の刻文は稜上の肥厚帯の上に施される。横のミガキ	横のナデ		b.118	
12・13	M1-99-1-999-55-3	47	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部の中央に刻文(八の字形)。胴部に刻文(横長)。横のミガキ	口縁部:横のミガキ、胴部:斜めのナデ		b.30	大場1956 第19図
	M1-99-1-999-55-4	47	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部下縁に刻文(斜め)。口縁部:横のミガキ、胴部:横のナデ	横のナデ		b.43	
	M1-99-1-999-55-5	47	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に刻文(横長)。口縁部:上縁はミガキ、下縁～胴部:ナデ	ナデ		b.46	
	M1-99-1-999-55-6	47	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯の稜上に刻文(横10mm・縦5mmの不整形の刻み)。横のナデ	横のナデ		b.49	
	M1-99-1-999-55-7	47	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に爪形文(1指)。横のミガキ	横のミガキ		b.50	
6・7	M1-99-1-999-55-8	47	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯に刻文(横長)。口唇部に刻文(斜め)。横のミガキ	横・斜めのナデ		b.64	大場1956 第17図
20・21	M1-99-1-999-55-9	47	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に爪形文(1指)。横のミガキ	横のミガキ		b.212	大場1956 第22図
12・14	M1-99-1-999-55-10	47	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に刻文(横長)2列。横のナデ	横のナデ		b.215	大場1956 第19図
20・22	M1-99-1-999-56-1	47	オホーツク土器	口縁部	刻文系	断面稜状の肥厚帯の上に刻文(横長)。口唇部に刻文。横のミガキ・ナデ	横のナデ		b.235	大場1956 第22図
	M1-99-1-999-56-2	47	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に刻文(八の字形)。横のナデ	横のナデ		b.31	
	M1-99-1-999-56-3	47	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に刻文(斜め)。横のナデ	横のナデ	甕形土器	b.45	
20・22	M1-99-1-999-56-4	47	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯の2段の稜上に刻文(横長)。下縁に爪形文(2指)。横のミガキ	横のナデ		b.214	大場1956 第22図
20・22	M1-99-1-999-56-5	47	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口唇部に刻文。口縁部肥厚帯下縁に刻文(横長)。口縁部:横のナデ、胴部:斜めのナデ	ナデ		b.236②	大場1956 第22図「b.236」
	M1-99-1-999-56-6	47	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に爪形文(2指)。横のナデ	ナデ		b.267	
20・21	M1-99-1-999-56-7	47	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	爪形文(2指)。横のナデ	横のナデ		b.252	大場1956 第22図
	M1-99-1-999-57-1	47	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口唇部～口縁部下縁に刻文(斜め)3列。横のミガキ	横のミガキ		b.119	
20・22	M1-99-1-999-57-2	47	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯上縁に刻文(横)。下縁に爪形文(2指)。横のミガキ	ミガキ		b.248	大場1956 第22図
	M1-99-1-999-57-3	47	オホーツク土器	口縁部	刻文系	爪形文(2指)。横のミガキ	横のミガキ		b.352	
	M1-99-1-999-57-4	47	オホーツク土器	口縁部～頸部	刻文系	口縁部の稜上に刻文(斜め)。横のミガキ	ナデ。指頭痕		b.53	
	M1-99-1-999-57-5	47	オホーツク土器	口縁部～頸部	刻文系	口縁部肥厚帯上下縁に刻文(斜め)。横のミガキ	横のナデ		b.59	
	M1-99-1-999-57-6	47	オホーツク土器	口縁部～頸部	刻文系	口縁部肥厚帯状の段が2段。それぞれの段の下縁に刻文(横長)。横のナデ	横のナデ		b.140	
	M1-99-1-999-57-7	47	オホーツク土器	口縁部～頸部	刻文系	口縁部の稜上に爪形文(2指)。横のミガキ	横のナデ		b.273	
	M1-99-1-999-57-8	47	オホーツク土器	口縁部～頸部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に爪形文(2指)。横のミガキ	ナデ		b.348	
	M1-99-1-999-57-9	47	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に刻文(八の字形)。横のナデ	横のナデ		b.33	
6・8	M1-99-1-999-57-10	47	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部下縁に刻文(横長)。横のナデ	横のミガキ		b.48	大場1956 第17図
6・8	M1-99-1-999-57-11	47	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯に刻文(斜め)3列。横のナデ	ナデ		b.105	大場1956 第17図
	M1-99-1-999-57-12	47	オホーツク土器	胴部	貼太系	貼瘤文。ミガキ	ナデ		b.321	
12・13	M1-99-1-999-58-1	47	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯下部に刻文(八の字形)。頸部の屈曲部に刻文(横長)。横のミガキ、横のナデ	横のミガキ		b.38	大場1956 第19図
3・4	M1-99-1-999-58-2	47	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯に刻文(横長)2列。横のミガキ	ナデ		b.74	大場1956 第16図
9・11	M1-99-1-999-58-3	47	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口唇部に刻文(斜め)。口縁部肥厚帯下縁に沈線に挟まれた刺突文。横のナデ	横のナデ		b.111	大場1956 第18図
3・4	M1-99-1-999-58-4	47	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口唇部に刻文。横のミガキ	横のミガキ		b.247	大場1956 第16図
20・21	M1-99-1-999-58-5	47	オホーツク土器	口縁部	刻文系	爪形文(1指)。横のナデ	横のナデ		b.347	大場1956 第22図
6・8	M1-99-1-999-58-6	47	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯下部に爪形文(1指)。横のミガキ	横のミガキ		b.239	大場1956 第17図
6・8	M1-99-1-999-58-7	47	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部に2段の肥厚帯あり(一段目に2列の刺突文。二段目に1列の刺突文)。横のナデ	横のナデ		b.87	大場1956 第17図
12・13	M1-99-1-999-58-8	47	オホーツク土器	口縁部	沈線文系	口縁部肥厚帯の稜上に沈線文(横長)。下縁に沈線文(山型)。横のミガキ	横のナデ		b.37	大場1956 第19図
6・7	M1-99-1-999-58-9	47	オホーツク土器	口縁部	沈線文系	口縁部肥厚帯に沈線文(2列)。下縁に刻み。横のミガキ	横のミガキ	全面が赤褐色	b.220	大場1956 第17図
6・7	M1-99-1-999-58-10	47	オホーツク土器	口縁部～頸部	刻文系	口縁部肥厚帯に刻文(斜め)2列。横のミガキ	横のナデ		b.63	大場1956 第17図

PLATE	ID	旧所蔵NO	種類	部位	型式/系統	器面装飾・調整(外面)	器面装飾・調整(内面)	備考	遺物ラベル番号	原典図版
20・22	M1-99-1-999-58-11	47	オホーツク土器	口縁部～頸部	刻文系	口縁部肥厚帯の二つの稜上に刻文(斜め)と爪形文(2指)。横のナデ	横のナデ		b.217	大場1956 第22図
20・22	M1-99-1-999-58-12	47	オホーツク土器	口縁部～頸部	刻文系	口縁部肥厚帯の二つの稜上に爪形文(2指)。口唇部～上段の稜までは横のナデ、以下は横のミガキ	横のナデ		b.221	大場1956 第22図
20・22	M1-99-1-999-58-13	47	オホーツク土器	口縁部～頸部	刻文系	口縁部肥厚帯の稜上に刻文(横長)と爪形文(2指)。横のナデ	横のナデ		b.241	大場1956 第22図
20・22	M1-99-1-999-58-14	47	オホーツク土器	口縁部～頸部	刻文系	口唇部に刻文(斜め)。口縁部に爪形文(斜め)2列。横のミガキ	横のナデ		B.106	大場1956 第22図
9・10	M1-99-1-999-58-15	47	オホーツク土器	口縁部～頸部	沈線文系	沈線文(山型・斜め)。口縁部:横のナデ。胴部:横のミガキ	横のミガキ	口縁部と胴部に補修孔あり	b.83	大場1956 第18図
12・13	M1-99-1-999-58-16	47	オホーツク土器	口縁部～頸部	刻文系	口唇部に刻文(斜め)。口縁部肥厚帯の2つの稜上に刻文(横長・ハの字状)。横・斜めのミガキ	横のナデ		b.36	大場1956 第19図
12・13	M1-99-1-999-58-17	47	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯に刻文(横長・山型)。横のミガキ	横のミガキ		b.42	大場1956 第19図
6・7	M1-99-1-999-58-18	47	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯に刻文(横長)3列。胴部に刻文(横長)2列。横のナデ	横のナデ		b.101	大場1956 第17図
3・5	M1-99-1-999-58-19	47	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯下部に刻文(斜め)。胴部上半に刻文(斜め)2列。横のナデ	横のナデ		b.123	大場1956 第16図
6・7	M1-99-1-999-58-20	47	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯に刻文(横長)3列。横のナデ	ミガキ		b.136	大場1956 第17図
20・21	M1-99-1-999-58-21	47	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に爪形文(2指)。横のナデ	横のナデ		b.219	大場1956 第22図
20・22	M1-99-1-999-58-22	47	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に爪形文(2指)。胴部に刻文(斜め)と型押文。横のミガキ、胴部はナデ	横のナデ		b.213	大場1956 第22図
12・13	M1-99-1-999-58-23	47	オホーツク土器	口縁部～胴部	沈線文系	口縁部肥厚帯下縁に沈線文(山型)。胴部に沈線文・刻文(横長)。横のナデ	横のナデ		b.97	大場1956 第19図
	M1-99-1-999-59-1	47	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯に刻文(斜め)。横のナデ、ミガキ	横のナデ、ミガキ		b.275	
	M1-99-1-999-59-2	47	オホーツク土器	口縁部	刻文系	刻文(横長)。横のナデ	横のナデ		b.77？	
	M1-99-1-999-59-3	47	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯に刻文(横長)2列。横のナデ	横のナデ			
	M1-99-1-999-59-4	47	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯の2段の稜上に刻文(斜め)。横のミガキ、ナデ	横のナデ			
	M1-99-1-999-59-5	47	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯に刻文(横・斜め)。横のナデ	横のナデ			
	M1-99-1-999-59-6	47	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に爪形文(2指)。横のナデ	横のナデ			
	M1-99-1-999-59-7	47	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に爪形文(2指)。横のナデ	横のナデ			
	M1-99-1-999-59-8	47	オホーツク土器	口縁部	刻文系	刻文(山型)。横のナデ	横のナデ			
	M1-99-1-999-59-9	47	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に爪形文(2指)。横のナデ	横のナデ	表面は茶褐色		
	M1-99-1-999-59-10	47	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に爪形文(2指)。横のミガキ	横のナデ		●42	
	M1-99-1-999-59-11	47	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に爪形文(2指)。横のナデ	横のナデ		b.2●？	
	M1-99-1-999-59-12	47	オホーツク土器	口縁部	刻文系	稜上となる口縁部肥厚帯下縁に爪形文(2指)。横のナデ	横のナデ			
	M1-99-1-999-59-13	47	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に爪形文(1指)。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-59-14	47	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部下縁に爪形文(2指)。横のミガキ、ナデ	横のナデ			
	M1-99-1-999-59-15	47	オホーツク土器	口縁部～頸部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に爪形文(2指)。ミガキ	口縁部:ミガキ 胴部:ナデ		b.2●？	
	M1-99-1-999-59-16	47	オホーツク土器	口縁部～頸部	刻文系	口縁部下縁～頸部に刻文(横長)2列。横のミガキ、ナデ	横のナデ		b.61？ b.69？	
	M1-99-1-999-59-17	47	オホーツク土器	口縁部～頸部	刻文系	口縁部肥厚帯に2列の爪形文(上列は2指。下列は1指)。横のナデ	ナデ		b.242？	
	M1-99-1-999-59-18	47	オホーツク土器	口縁部～頸部	刻文系	口縁部肥厚帯中央に稜あり。下縁に爪形文(2指)。横のナデ	横のナデ			
	M1-99-1-999-59-19	47	オホーツク土器	口縁部～頸部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に爪形文(2指)。横のナデ	横のナデ			
	M1-99-1-999-59-20	47	オホーツク土器	口縁部～頸部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に爪形文(2指)。横のミガキ	ナデ			
	M1-99-1-999-59-21	47	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に爪形文(1指)。ナデ	ナデ		b.26？ b.126？	
	M1-99-1-999-59-22	47	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯に刻文(横長)2列。口唇部の断面は外側へ突出する。横のナデ	横のナデ		b.8●？	
	M1-99-1-999-59-23	47	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部に刻文(横)と沈線文が交互に施される(計4列)。横のナデ	ナデ		●●4？	
	M1-99-1-999-59-24	47	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に刻文(山型)。胴部に貼瘤文(円形・中央に刺突。円周に放射状の刻み)。横のミガキ	横のミガキ	甕形土器		
	M1-99-1-999-59-25	47	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に爪形文(2指)。横のナデ	横のナデ			
	M1-99-1-999-59-26	47	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に刻文(山型)。口縁部:横のミガキ、胴部:横のナデ	横のナデ			

PLATE	ID	旧所蔵NO	種類	部位	型式/系統	器面装飾・調整（外面）	器面装飾・調整（内面）	備考	遺物ラベル番号	原典図版
	M1-99-1-999-59-27	47	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に爪形文（2指）。口縁部：横のナデ、胴部：横・斜めのナデ	横・斜めのナデ			
	M1-99-1-999-59-28	47	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に刻文（八の字形）。横のミガキ	横のナデ			
	M1-99-1-999-59-29	47	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯の2段の稜上に刻文（斜め）。横のミガキ	横のミガキ			
	M1-99-1-999-59-30	47	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯上縁に刻文（斜め）。下縁に刻文（横長）。横のナデ	横のナデ			
	M1-99-1-999-59-31	47	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯に爪形文（2指）2列。横のミガキ	横のミガキ			
	M1-99-1-999-59-32	47	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に爪形文（2指）。横のナデ	横のナデ			
	M1-99-1-999-59-33	47	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に爪形文（2指）。横のナデ	横のナデ			
	M1-99-1-999-59-34	47	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯の口唇部と稜上に刻文（斜め）。横のナデ	横のナデ			
	M1-99-1-999-59-35	47	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯は断面が稜状となる。稜の上に刻文（斜め）。横のミガキ	口縁部：横のミガキ、胴部：斜めのナデ			
	M1-99-1-999-59-36	47	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に刻文（斜め）。横のミガキ	横のナデ			
	M1-99-1-999-59-37	47	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に爪形文（2指）。横のミガキ	横のミガキ			
	M1-99-1-999-59-38	47	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に爪形文（2指）。横のミガキ	横のミガキ		b.64？ b.164？	
	M1-99-1-999-59-39	47	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に爪形文（1指）。横のミガキ	横のミガキ	M1-99-1-999-55-9と同一個体か？		
	M1-99-1-999-59-40	47	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	爪形文（2指）。横のミガキ	横のミガキ			
	M1-99-1-999-59-41	47	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯の口唇部に刻文（斜め）。下縁に爪形文（1指）。横のナデ	横のミガキ			
	M1-99-1-999-59-42	47	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に爪形文（2指）。横のナデ	横のナデ			
	M1-99-1-999-59-43	47	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	爪形文（2指）。口縁部：横のミガキ、胴部：横のナデ	横のナデ			
	M1-99-1-999-59-44	47	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に爪形文（2指）。横のナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-59-45	47	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に爪形文（2指）。横のミガキ、横のナデ	横のナデ			
	M1-99-1-999-59-46	47	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に爪形文（2指）。横のミガキ	横のミガキ			
	M1-99-1-999-59-47	47	オホーツク土器	胴部	刻文系	刻文（横）。型押文。横・斜めのナデ	剥落		b.18？	
	M1-99-1-999-59-48	47	オホーツク土器	胴部	刻文系	刻文（横長）。ナデ	ナデ		b.7●？	
	M1-99-1-999-59-49	47	オホーツク土器	胴部	刻文系	爪形文（1指）。横のナデ	ナデ		●51？	
	M1-99-1-999-59-50	47	オホーツク土器	胴部	刻文系	刻文（斜め）2列。横のナデ	横・斜めのナデ			
	M1-99-1-999-59-51	47	オホーツク土器	胴部	刻文系	爪形文（2指）。横のナデ	横のナデ			
	M1-99-1-999-59-52	47	オホーツク土器	胴部	刻文系	型押文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-59-53	47	オホーツク土器	胴部	刻文系	刻文（斜め）。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-59-54	47	オホーツク土器	胴部	刻文系	型押文。横のナデ	横・斜めのナデ。指紋			
	M1-99-1-999-59-55	47	オホーツク土器	胴部	貼太系	貼瘤文（三角形）。胴部貼付文。横のミガキ	ナデ		b.336	
	M1-99-1-999-59-56	47	オホーツク土器	胴部	貼太系	胴部貼付文。横のミガキ、ナデ	横のナデ			
	M1-99-1-999-59-57	47	オホーツク土器	胴部	貼太系	貼瘤文。ミガキ	横のナデ			
	M1-99-1-999-59-58	47	オホーツク土器	胴部	貼太系	貼瘤文。ミガキ	ナデ			
	M1-99-1-999-59-59	47	オホーツク土器	胴部	貼太系	胴部貼付文。貼瘤文。横のナデ	横のナデ			
	M1-99-1-999-59-60	47	オホーツク土器	胴部	貼太系	胴部貼付文。横のミガキ	ナデ			
	M1-99-1-999-59-61	47	オホーツク土器	胴部	貼太系	貼瘤文。横のナデ、縦・横のミガキ	ナデ			
	M1-99-1-999-59-62	47	オホーツク土器	胴部	貼太系	刻文のある太い貼付文。貼瘤文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-59-63	47	オホーツク土器	胴部	貼太系	刻文のある太い貼付文。貼瘤文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-59-64	47	オホーツク土器	胴部	貼太系	貼瘤文。ナデ	横のナデ			
	M1-99-1-999-59-65	47	オホーツク土器	胴部	貼太系	胴部貼付文。貼瘤の剥落痕あり。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-59-66	47	オホーツク土器	胴部	貼太系	貼瘤文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-59-67	47	オホーツク土器	胴部	無文	横のミガキ	横・斜めのナデ			
	M1-99-1-999-59-68	47	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-59-69	47	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ミガキ			
	M1-99-1-999-59-70	47	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-59-71	47	オホーツク土器	胴部	無文	横・斜めのナデ	剥落			
	M1-99-1-999-59-72	47	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	不明。黒色付着物			
	M1-99-1-999-59-73	47	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	ナデ			
	M1-99-1-999-59-74	47	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-59-75	47	オホーツク土器	胴部	不明	剥落	ナデ			

PLATE	ID	旧所蔵NO	種類	部位	型式/系統	器面装飾・調整（外面）	器面装飾・調整（内面）	備考	遺物ラベル番号	原典図版
12・14	M1-99-1-999-61-1	48	オホーツク土器	口縁部	刻文系	刻文（横）3列。横のナデ	横のナデ		b.91	大場1956 第19図
9・11	M1-99-1-999-61-2	48	オホーツク土器	口縁部	刻文系	沈線文（2列）それぞれに接する刻文（斜め）。横のナデ	横のナデ		b.116	大場1956 第18図
3・5	M1-99-1-999-61-3	48	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯下部に刻文（横）。横のミガキ	横のナデ		b.134	大場1956 第16図
15・16	M1-99-1-999-61-4	48	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口唇部直下に刻文（横長）。横のナデ	横のナデ		b.151	大場1956 第20図
3・5	M1-99-1-999-61-5	48	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯に刻文（斜め）2列。横のナデ	横のナデ		b.160	大場1956 第16図
3・5	M1-99-1-999-61-6	48	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部下部に刻文（横）2列。横のナデ	横のナデ		b.161	大場1956 第16図
	M1-99-1-999-61-7	48	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に刻文（横長）。胴部上部に刻文（横長）。横のナデ	横のナデ		b.1●7？	
	M1-99-1-999-61-8	48	オホーツク土器	口縁部～頸部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に刻文（斜め）。横のミガキ	横のミガキ			
23・24	M1-99-1-999-61-9	48	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口唇部に刻文（斜め）。口縁部に型押文。下半部に隆帯（隆帯上に刻み）。口縁部上部：横のナデ、下部：横のミガキ	横のミガキ		b.62	大場1956 第23図
26・27	M1-99-1-999-61-10	48	オホーツク土器	口縁部～胴部	貼太系	口縁部下部に刻文（斜め）。貼瘤文。貼瘤文を繋ぐような刻文（横）。横のナデ	横のナデ		b.276	大場1956 第24図
	M1-99-1-999-61-11	48	オホーツク土器	口縁部～胴部	貼太系	口縁部下部に刻文（横長）。胴部に刻みのある貼付文と接する貼瘤文。ナデ	ナデ			
15・16	M1-99-1-999-61-12	48	オホーツク土器	口縁部～胴部	貼細系	口唇部に擬縄貼付文。口縁部に極浅い沈線（幅3mm）3列。胴部にやや太く短い刻みのある貼付文。その下に沈線と接する擬縄貼付文。横のナデ	横のナデ		b.129	大場1956 第20図
28・30	M1-99-1-999-61-13	48	オホーツク土器	口縁部	貼細系	口唇部直下に刻文（斜め）。口縁部の貼付文（円形5mm）2点が2列なしている。ナデ	ナデ		b.298	大場1956 第25図
	M1-99-1-999-61-14	48	オホーツク土器	口縁部	無文	口縁部肥厚帯。横のナデ	ナデ			
3・4	M1-99-1-999-61-15	48	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯に刻文（2列）。横のナデ	横のナデ		b.117	大場1956 第16図
3・5	M1-99-1-999-61-16	48	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部に刻文（斜め）。胴部に刻文（横長）。横のナデ	横のナデ		b.137	大場1956 第16図
	M1-99-1-999-61-17	48	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	刻文。横のナデ	横のナデ			
17・18	M1-99-1-999-61-18	48	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯。胴部は刻文（横長）・型押文。横のミガキ	ミガキ		b.102	大場1956 第21図
9・11	M1-99-1-999-61-19	48	オホーツク土器	口縁部～胴部	貼細系	口唇部上面に貼付文（円形8mm）2点。口縁部下部に刻文（横長）。胴部上部に沈線（八の字形）と刻文（横長）。横のミガキ	横のナデ		b.93	大場1956 第18図
26・27	M1-99-1-999-61-20	48	オホーツク土器	口縁部～胴部	貼太系	口縁部肥厚帯に刻文（横長）。胴部に刻文・太く短い貼付文。口縁部は横のミガキ、胴部は横のナデ	ナデ		b.281	大場1956 第24図
26・27	M1-99-1-999-61-21	48	オホーツク土器	口縁部～胴部	貼太系	口縁部下部に刻文（縦）。胴部に貼瘤文。横のナデ	横のミガキ		b.279	大場1956 第24図
26・27	M1-99-1-999-61-22	48	オホーツク土器	口縁部～胴部	貼太系	口縁部下部に刻文（斜め）。胴部に刻文（横長2列の間に縦）。貼瘤文。横のミガキ	横のナデ		b.286	大場1956 第24図
28・30	M1-99-1-999-61-23	48	オホーツク土器	口縁部～胴部	貼細系	口縁部に刻文（横長）。擬縄貼付文。横のナデ	横のナデ		c.52	大場1956 第25図
	M1-99-1-999-61-24	48	オホーツク土器	口縁部～胴部	貼太系	口縁部に隆帯あり。その上に刻文（斜め）。胴部に貼瘤文。横のミガキ	横のナデ、口縁部付近のみミガキ			
6・8	M1-99-1-999-61-25	48	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部に刺突文（円形）。胴部上半に刻文。横のナデ	横のナデ		b.88	大場1956 第17図
15・16	M1-99-1-999-61-26	48	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯に刺突文（円形）。横のナデ	ナデ。付着物多い		b.132	大場1956 第20図
28・30	M1-99-1-999-61-27	48	オホーツク土器	口縁部～胴部	貼細系	口唇部に刺突文（円形）。頸部に貼付文（円形の刺突あり）。横のミガキ	ミガキ？。付着物多い	補修孔あり	b.209	大場1956 第25図「b.209」（上）
1・2	M1-99-1-999-61-28	48	オホーツク土器	口縁部～胴部	貼細系	口唇部に貼付文（波形）の剥落痕。口縁部～頸部に貼付文（円形・径7mm・刺突あり）。胴部に貼付文（波形）。ナデ	ナデ		b.290	大場1956 第10図
1・2	M1-99-1-999-61-29	48	オホーツク土器	口縁部～胴部	貼太系	頸部に貼付文（楕円形・長径8mm・刺突あり）。横のミガキ	ナデ		b.295	大場1956 第10図
	M1-99-1-999-61-30	48	オホーツク土器	口縁部～胴部	貼太系	胴部上半に貼付文（円形・径5mm）2点密接？。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-61-31	48	オホーツク土器	口縁部～胴部	貼細系	口唇部直下に刻文（斜め）。胴部に貼付文（波形）。横のミガキ	横のナデ。指頭痕			
28・30	M1-99-1-999-61-32	48	オホーツク土器	口縁部～胴部	貼細系	口縁部肥厚帯の上部に貼付文（波形）。下部に擬縄貼付文。胴部上半に沈線文（直線に接する二重の山型）。横のナデ	横のナデ	M1-99-1-999-18-11と同一個体と思われる	b.133①	大場1956 第25図「b.133」（上）
	M1-99-1-999-61-33	48	オホーツク土器	口縁部～胴部	貼太系	胴部に貼瘤文。横のミガキ	ナデ			
	M1-99-1-999-61-34	48	オホーツク土器	口縁部～胴部	貼太系	口縁部に隆起線。胴部に貼瘤文。横のナデ	横のナデ			
17・18	M1-99-1-999-62-1	48	オホーツク土器	口縁部	刻文系	型押文。刻文。横のナデ	横のナデ。黒色付着物		b.87	大場1956 第21図
17・18	M1-99-1-999-62-2	48	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口唇部に刻文。口縁部に型押文。横のミガキ	ミガキ		b.90	大場1956 第21図
15・16	M1-99-1-999-62-3	48	オホーツク土器	口縁部	刻文系	刻文。横のナデ	横のナデ		b.128	大場1956 第20図

PLATE	ID	旧所蔵NO	種類	部位	型式/系統	器面装飾・調整(外面)	器面装飾・調整(内面)	備考	遺物ラベル番号	原典図版
15・16	M1-99-1-999-62-4	48	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	型押文。口縁部:横のミガキ、胴部:横のナデ	口縁部:横のミガキ		b.130	大場1956 第20図
15・16	M1-99-1-999-62-5	48	オホーツク土器	口縁部～頸部	刻文系	型押文。横のミガキ	横のミガキ		b.149	大場1956 第20図
15・16	M1-99-1-999-62-6	48	オホーツク土器	口縁部	刻文系	型押文。横のナデ	摩耗		b.155	大場1956 第20図
23・24	M1-99-1-999-62-7	48	オホーツク土器	口縁部～胴部	貼太系	口縁部に型押文。胴部貼付文に接する貼瘤文。ジグザグの沈線文	ミガキ		b.288	大場1956 第23図
	M1-99-1-999-62-8	48	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に型押文。横のミガキ	ミガキ		b●●●	
	M1-99-1-999-62-9	48	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に型押文。横のミガキ	横のミガキ			
	M1-99-1-999-62-10	48	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に型押文。横のミガキ	横のミガキ			
	M1-99-1-999-62-11	48	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯中央に型押文。横のナデ	剥落			
28・30	M1-99-1-999-62-12	48	オホーツク土器	口縁部	貼細系	口唇部直下に擬縄貼付文。沈線文(2列)。横のミガキ	ミガキ		c.53	大場1956 第25図
9・11	M1-99-1-999-62-13	48	オホーツク土器	口縁部～胴部	沈線文系	胴部上部に沈線文(二重の波形)。ナデ	ナデ		b.96	大場1956 第18図
9・10	M1-99-1-999-62-14	48	オホーツク土器	口縁部	沈線文系	沈線文。横のナデ	横のナデ	補修孔あり	b.109	大場1956 18図
12・14	M1-99-1-999-62-15	48	オホーツク土器	口縁部	沈線文系	口縁部下部に山型の沈線文。横のミガキ、ナデ	ミガキ	M1-99-1-999-62-41と同一個体と思われる	b.114	大場1956 第19図(右側)
9・11	M1-99-1-999-62-16	48	オホーツク土器	口縁部	沈線文系	口縁部下部に刻文(横)・沈線文(2列)。横のナデ	黒色付着物		b.115	大場1956 第18図
9・11	M1-99-1-999-62-17	48	オホーツク土器	口縁部	沈線文系	口縁部肥厚帯に沈線文(2列)。刻文(横長)2列。横のナデ	横のナデ		b.120	大場1956 第18図
9・10	M1-99-1-999-62-18	48	オホーツク土器	口縁部	沈線文系	沈線文。刻文。横のミガキ	横のナデ		b.142	大場1956 第18図
9・10	M1-99-1-999-62-19	48	オホーツク土器	口縁部	沈線文系	沈線文。刻文(横)2列。横のナデ	横のナデ		b.144	大場1956 第18図
12・13	M1-99-1-999-62-20	48	オホーツク土器	口縁部	沈線文系	口縁部肥厚帯下縁に沈線文(山型)2列。横のミガキ、ナデ	ミガキ。黒色付着物		b.146	大場1956 第19図
17・18	M1-99-1-999-62-21	48	オホーツク土器	口縁部	沈線文系	二本の横走する沈線の中に型押文。横のミガキ	横のナデ		b.165	大場1956 第21図
17・18	M1-99-1-999-62-22	48	オホーツク土器	口縁部～頸部	沈線文系	上から刻文(横)・沈線文・刻文(横)・沈線文・型押文・沈線文の順に文様が施される。横のナデ	横のナデ		b.168	大場1956 第21図
9・10	M1-99-1-999-62-23	48	オホーツク土器	口縁部	沈線文系	沈線文(2列)。刻文(斜め)。横のミガキ	横のミガキ		b.171	大場1956 第18図
	M1-99-1-999-62-24	48	オホーツク土器	口縁部	沈線文系	沈線文。横のミガキ、ナデ	ナデ		b.172	
	M1-99-1-999-62-25	48	オホーツク土器	口縁部	沈線文系	刻文(横)3列の間に沈線文が1列ずつ施される(計5列)	横のナデ		b.173？	
	M1-99-1-999-62-26	48	オホーツク土器	口縁部	沈線文系	沈線文(2列)。横のミガキ	ナデ。黒色付着物		●17●？	
	M1-99-1-999-62-27	48	オホーツク土器	口縁部	沈線文系	沈線文(2列)。横のナデ	横のナデ			
17・19	M1-99-1-999-62-28	48	オホーツク土器	胴部	刻文系	刻文(斜め)2列の間に型押文。横のミガキ、ナデ	横のナデ		b.190	大場1956 第21図
26・27	M1-99-1-999-62-29	48	オホーツク土器	胴部	刻文系	刻文(横・横長)の間に逆U字形の貼瘤文。ミガキ	ナデ		b.313	大場1956 第24図
	M1-99-1-999-62-30	48	オホーツク土器	胴部	刻文系	胴部貼付文(波形)。刻文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-62-31	48	オホーツク土器	胴部	貼太系	波形の太い貼付文に密接した貼瘤文(楕円・長径18mm)。刻文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-62-32	48	オホーツク土器	胴部	刻文系	刻文(横長)。貼瘤文。ナデ	ナデ			
23・24	M1-99-1-999-62-33	48	オホーツク土器	胴部	刻文系	稜上に型押文。横の刻みのある貼瘤文。横のミガキ	横のミガキ		b.315	大場1956 第23図
23・25	M1-99-1-999-62-34	48	オホーツク土器	胴部	刻文系	胴部貼付文。型押文(3列)。横のミガキ	ナデ		b.339	大場1956 第23図
	M1-99-1-999-62-35	48	オホーツク土器	胴部	刻文系	型押文(一部剥落)	横のナデ			
	M1-99-1-999-62-36	48	オホーツク土器	胴部	刻文系	刺突文。胴部貼付文	ナデ		b.32●？	
29・31	M1-99-1-999-62-37	48	オホーツク土器	胴部	貼太系	貼付文(円形・径15mm・窪みあり)。横のミガキ	横のミガキ		b.305	大場1956 第26図
29・31	M1-99-1-999-62-38	48	オホーツク土器	胴部	貼細系	貼付文(円形・径6mm・刺突あり)。ミガキ	ミガキ		b.307	大場1956 第26図
	M1-99-1-999-62-39	48	オホーツク土器	胴部	貼細系	口縁部肥厚帯の上に貼付文(大部分剥落)	ナデ			
	M1-99-1-999-62-40	48	オホーツク土器	胴部	貼細系	貼付文(大部分剥落)。黒色付着物	黒色付着物			
12・14	M1-99-1-999-62-41	48	オホーツク土器	胴部	沈線文系	胴部上半:横のナデ。中央:横走沈線文とそれに接する沈線文(山型)。横のミガキ、下半:縦のナデ	横のナデ	M1-99-1-999-62-15と同一個体と思われる	b.114	大場1956 第19図(左側)
	M1-99-1-999-62-42	48	オホーツク土器	胴部	沈線文系	沈線文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-62-43	48	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	ナデ			
26・27	M1-99-1-999-63-1	48	オホーツク土器	頸部	刻文系	刻文(横・Y字形)。貼瘤文。横のナデ	ナデ		b.308	大場1956 第24図
29・31	M1-99-1-999-63-2	48	オホーツク土器	頸部	貼太系	貼瘤文(刺突あり)。ナデ	横のナデ		b.304	大場1956 第26図
23・25	M1-99-1-999-63-3	48	オホーツク土器	頸部～胴部	貼太系	頸部に刻文(斜め)。胴部上半に爪形文(2指)。貼瘤文。多方向ミガキ	ナデ	壷形土器。頸部／胴部の境界が屈曲	b.326	大場1956 第23図
17・19	M1-99-1-999-63-4	48	オホーツク土器	胴部	刻文系	刻文(斜め)。型押文。斜めの横のナデ	斜めのナデ		b.175	大場1956 第21図
17・19	M1-99-1-999-63-5	48	オホーツク土器	胴部	刻文系	刻文(斜め)。型押文	ナデ		b.177	大場1956 第21図
17・19	M1-99-1-999-63-6	48	オホーツク土器	胴部	刻文系	刻文(斜め)。型押文。横のミガキ、ナデ	横のナデ		b.178	大場1956 第21図
15・16	M1-99-1-999-63-7	48	オホーツク土器	胴部	刻文系	型押文。横のナデ	ナデ		b.180	大場1956 第20図

PLATE	ID	旧所蔵NO	種類	部位	型式/系統	器面装飾・調整（外面）	器面装飾・調整（内面）	備考	遺物ラベル番号	原典図版
15・16	M1-99-1-999-63-8	48	オホーツク土器	胴部	刻文系	型押文。横のナデ	ナデ		b.187	大場1956 第20図
6・8	M1-99-1-999-63-9	48	オホーツク土器	胴部	刻文系	刻文（縦）。斜めのナデ、ミガキ	横のナデ		b.191	大場1956 第17図
15・16	M1-99-1-999-63-10	48	オホーツク土器	胴部	刻文系	型押文。横のナデ	ナデ		b.193	大場1956 第20図
6・8	M1-99-1-999-63-11	48	オホーツク土器	胴部	刻文系	刻文（横）。横のナデ	ナデ		b.199	大場1956 第17図
23・25	M1-99-1-999-63-12	48	オホーツク土器	胴部	貼太系	刺突文。刺突文のある太い貼付文（2列）。短い湾曲した貼付文（2点の内1点は石膏で復元）。ミガキ、ナデ	ナデ		b.201	大場1956 第23図
15・16	M1-99-1-999-63-13	48	オホーツク土器	胴部	刻文系	型押文。ミガキ	ナデ		b.205	大場1956 第20図
12・14	M1-99-1-999-63-14	48	オホーツク土器	胴部	刻文系	刻文（横長。八の字形）。横のミガキ、ナデ	ナデ		b.207	大場1956 第19図
26・27	M1-99-1-999-63-15	48	オホーツク土器	胴部	刻文系	刻文（八の字形）。貼瘤文。ナデ	ナデ	壷形土器	b.311	大場1956・第24図
	M1-99-1-999-63-16	48	オホーツク土器	胴部	刻文系	刻文（横）。横のナデ	横のナデ			
	M1-99-1-999-63-17	48	オホーツク土器	胴部	刻文系	刻文（横。八の字形）。横のミガキ	横のナデ			
	M1-99-1-999-63-18	48	オホーツク土器	胴部	刻文系	型押文。沈線文。横のナデ	ナデ			
	M1-99-1-999-63-19	48	オホーツク土器	胴部	刻文系	刻文（横）。型押文。横のミガキ、ナデ	ナデ		b.176	
	M1-99-1-999-63-20	48	オホーツク土器	胴部	刻文系	刻文（斜め）。型押文。横のミガキ、ナデ	ナデ			
17・19	M1-99-1-999-63-21	48	オホーツク土器	胴部	刻文系	刻文（横）2列。型押文（縦方向）。ナデ（縦・斜め）	横のナデ		b.179	大場1956 第21図
12・13	M1-99-1-999-63-22	48	オホーツク土器	胴部	刻文系	沈線文（2列）。刻文（横長）3列。横のナデ	ナデ		b.195	大場1956 第19図
15・16	M1-99-1-999-63-23	48	オホーツク土器	胴部	刻文系	円形の竹管状工具による刺突文。ナデ	横のナデ		b.202	大場1956 第20図
28・31	M1-99-1-999-63-24	48	オホーツク土器	胴部	貼太系	刻みのある太い貼付文。ナデ	ナデ	M1-99-1-999-67-15と接合	b.301	大場1956 第25図
23・24	M1-99-1-999-63-25	48	オホーツク土器	胴部	貼太系	ひねりのある太い貼付文。貼瘤文。刻文（平仮名の『く』を縦に並べたような文様）。胴部上半は横のミガキ、下半はナデ	ナデ		b.309	大場1956 第23図
26・27	M1-99-1-999-63-26	48	オホーツク土器	胴部	貼太系	太く短い貼付文。刻文（斜め）。ナデ	ナデ		b.314	大場1956 第24図
26・27	M1-99-1-999-63-27	48	オホーツク土器	胴部	貼太系	太く短い貼付文。沈線文（横2列の間に斜め）。ナデ	ナデ		b.316	大場1956 第24図
23・24	M1-99-1-999-63-28	48	オホーツク土器	胴部	貼太系	刻みのある太い貼付文。貼瘤文。横のミガキ	横のミガキ		b.325	大場1956 第23図
	M1-99-1-999-63-29	48	オホーツク土器	胴部	貼太系	圧痕のある太い貼付文に接する貼付文（円形・長径18mm・圧痕あり）。横のミガキ	ナデ		b●●0	
	M1-99-1-999-63-30	48	オホーツク土器	胴部	沈線文系	沈線文（2列）。ナデ（縦。横）	横のナデ			
	M1-99-1-999-63-31	48	オホーツク土器	胴部～底部	無文	縦のミガキ	ナデ			
30	M1-99-1-999-64-1	48	オホーツク土器	口縁部	沈線文系	沈線文（2列）。横のミガキ	横のミガキ	M1-99-1-999-69-1と接合。大場1956第25図「b.15」上部と図が違う	b.292③	
9・10	M1-99-1-999-64-2	48	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口唇部に刻文（斜め）。胴部に刻文（横長）2列を囲む沈線文。横のミガキ	横のナデ		b.79	大場1956 第18図
23・24	M1-99-1-999-64-3	48	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯。爪形文（1指）3列。沈線文の間に刻文（横長）。横のナデ	ナデ		b.86	大場1956 第23図
12・14	M1-99-1-999-64-4	48	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯上下縁に爪形文（1指）。横のミガキ	ナデ		b.107	大場1956 第19図
9・10	M1-99-1-999-64-5	48	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯に刻文（斜め）。胴部に縦の型押文。横のナデ	ナデ		b.92	大場1956 第18図
1・2	M1-99-1-999-64-6	48	オホーツク土器	口縁部～胴部	貼細系	紐状の貼付文の端点に貼付文（楕円・長径9mm）2列。横のナデ	横のナデ		b.293	大場1956 第10図
27	M1-99-1-999-64-7	48	オホーツク土器	口縁部～胴部	沈線文系	沈線文。刻文（斜め）。貼瘤文。横のミガキ	横のミガキ	2点接合済	b.98、b.292	大場1956 第18図（b.98）。大場1956 第24図（b.292）
23・25	M1-99-1-999-64-8	48	オホーツク土器	胴部	貼太系	沈線文の間に縦の型押文。ひねりのある太い貼付文に接する逆U字形の貼付文。縦のナデ	横のナデ		b.194	大場1956 第23図
9・11	M1-99-1-999-65-1	48	オホーツク土器	口縁部	沈線文系	口縁部肥厚帯の上半部に沈線文（2列）に挟まれた沈線文（斜め）。横のナデ	横のナデ		b.158	大場1956 第18図
20・22	M1-99-1-999-65-2	48	オホーツク土器	口縁部～胴部	貼太系	口縁部肥厚帯の2つの稜上に刻文（斜め）。胴部にひねりのある太い貼付文。横のナデ	横のナデ		b.291	大場1956 第22図
23・25	M1-99-1-999-65-3	48	オホーツク土器	口縁部～胴部	貼細系	口唇部に刻文。口縁部下部に型押文。胴部に型押文に挟まれたひねりのある貼付文（波形）。型押文。横のナデ	横のナデ		b.289	大場1956 第23図
23・24	M1-99-1-999-65-4	48	オホーツク土器	口縁部～胴部	貼太系	口縁部肥厚帯下縁に刻文（斜め）。胴部に刻みのある太い貼付文。貼瘤文。横のナデ	横のナデ		b.278	大場1956 第23図
	M1-99-1-999-65-5	48	オホーツク土器	口縁部～胴部	貼太系	口縁部肥厚帯下縁に刻文（斜め）。胴部に刻みのある太い貼付文。貼瘤文。横のナデ	横のナデ	M1-99-1-999-65-4と同一個体と思われる		
1・2	M1-99-1-999-65-6	48	オホーツク土器	口縁部～胴部	貼細系	頸部に貼付文（円形・径6mm）。口縁部：横のナデ。胴部：横のミガキ	横のナデ		b.294	大場1956 第10図

PLATE	ID	旧所蔵NO	種類	部位	型式/系統	器面装飾・調整(外面)	器面装飾・調整(内面)	備考	遺物ラベル番号	原典図版
24	M1-99-1-999-65-7	48	オホーツク土器	胴部	貼太系	胴部中央に稜状の貼付文(一部ひねりあり)。横のミガキ	ナデ	M1-99-1-999-66-11に接合済	b.340	
17・18	M1-99-1-999-66-1	48	オホーツク土器	口縁部	刻文系	型押文。沈線文(横長。斜め)。横のナデ	横のナデ		b.145	大場1956 第21図
28・31	M1-99-1-999-66-2	48	オホーツク土器	口縁部	刻文系	型押文。横のナデ	横のミガキ		b.138	大場1956 第25図
15・16	M1-99-1-999-66-3	48	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯の2つの稜上に型押文。横のミガキ、ナデ	横のナデ		b.139	大場1956 第20図
12・13	M1-99-1-999-66-4	48	オホーツク土器	口縁部	刻文系	厚い口唇部に刻文(縦)。口縁部下縁に刻文(山型)。横のナデ	横のミガキ		b147	大場1956 第19図
	M1-99-1-999-66-5	48	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯に刻文(斜め)2列。口縁部:横のミガキ、胴部:縦のミガキ	口縁部:横のミガキ、胴部:ナデ		b.121	
15・16	M1-99-1-999-66-6	48	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	胴部に型押文(3列)。横のミガキ	ミガキ		b.85	大場1956 第20図
9・11	M1-99-1-999-66-7	48	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	刻文(横長)と沈線文(横、斜め)。横と縦のナデ	横のナデ。指紋		b.143	大場1956 第18図
23・24	M1-99-1-999-66-8	48	オホーツク土器	口縁部～胴部	貼太系	胴部上部に縦刻みのある太い貼付文。横のナデ	横のナデ		b.300	大場1956 第23図
17・19	M1-99-1-999-66-9	48	オホーツク土器	胴部	刻文系	型押文。刻文(横長)。ナデ	ナデ。指頭痕		b.183	大場1956 第21図
	M1-99-1-999-66-10	48	オホーツク土器	胴部	刻文系	沈線文と刻文(横長)が交互に施される。横のナデ	ナデ		b.204	
23・24	M1-99-1-999-66-11	48	オホーツク土器	胴部	貼太系	胴部中央に稜状の貼付文(一部ひねりあり)。横のミガキ	ナデ	M1-99-1-999-65-7と接合済	b.353	大場1956 第23図
	M1-99-1-999-66-12	48	オホーツク土器	胴部	貼太系	刻みのある太い貼付文。ナデ	ナデ		b.332	
	M1-99-1-999-67-1	48	オホーツク土器	口縁部	刻文系	横のナデ	横のナデ。口唇部上面・内面に型押文	M1-99-1-999-67-4・M1-99-1-999-67-5と同一個体と思われる	b.141③	
15・16	M1-99-1-999-67-2	48	オホーツク土器	口縁部	刻文系	型押文。横のナデ	横のナデ		b.150	大場1956 第20図
9・10	M1-99-1-999-67-3	48	オホーツク土器	口縁部	沈線文系	沈線文(縦・横)。横のナデ	横のナデ		b.163	大場1956 第18図
6・7	M1-99-1-999-67-4	48	オホーツク土器	口縁部～頸部	刻文系	横のナデ	口唇部と接する内面に隆帯。口唇部上面内側に型押文。横のナデ	M1-99-1-999-67-5と同一個体と思われる	b.141①？	大場1956 第17図「b.141」(右側)
6・7	M1-99-1-999-67-5	48	オホーツク土器	口縁部～頸部	刻文系	横のナデ	口唇部と接する内面に隆帯。口唇部上面内側に型押文。横のナデ	M1-99-1-999-67-4と同一個体と思われる	b.141②？	大場1956 第17図「b.141」(左側)
12・13	M1-99-1-999-67-6	48	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口唇部上面に溝あり。口縁部肥厚帯に刻文(八の字形)。横のナデ	横のナデ		b.39	大場1956 第19図
17・18	M1-99-1-999-67-7	48	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯に刻文(斜め)。胴部に沈線文・型押文。横のナデ	ナデ		b.110	大場1956 第21図
17・18	M1-99-1-999-67-8	48	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口唇部に刻文(斜め)。口縁部下部に型押文。ミガキ	ナデ		b.131	大場1956 第21図
23・24	M1-99-1-999-67-9	48	オホーツク土器	口縁部～胴部	貼太系	口縁部肥厚帯下縁に刻文(斜め)。胴部に刻みのある太い貼付文とそこに接する細く短い貼付文(八の字形)。横のミガキ、ナデ	横のナデ	M1-99-1-999-67-10と接合済	b.282	大場1956 第23図
24	M1-99-1-999-67-10	48	オホーツク土器	口縁部～胴部	貼太系	口縁部肥厚帯下縁に刻文(斜め)。胴部に刻みのある太い貼付文とそこに接する細く短い貼付文(八の字形)。横のミガキ、ナデ	横のナデ	M1-99-1-999-67-9と接合済	b.328	
15・16	M1-99-1-999-67-11	48	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯に型押文。横のナデ	ナデ		b.112	大場1956 第20図
15・16	M1-99-1-999-67-12	48	オホーツク土器	口縁部～胴部	沈線文系	摩擦式浮文。横のミガキ。ナデ	横のナデ		b.343	大場1956 第20図
15・16	M1-99-1-999-67-13	48	オホーツク土器	胴部	刻文系	型押文(斜め)。横のミガキ、ナデ	ナデ		b.192	大場1956 第20図
	M1-99-1-999-67-14	48	オホーツク土器	胴部	貼細系	貼付文(紐状・刺突文あり)。横のナデ	ナデ		b.341	
31	M1-99-1-999-67-15	48	オホーツク土器	胴部	貼太系	刻みのある太い貼付文。ナデ	ナデ	M1-99-1-999-63-24と接合	b.278④	
	M1-99-1-999-67-16	48	オホーツク土器	胴部	貼太系	刻みのある隆帯。刻みのある太い貼付文。ミガキ	ナデ		b.329	
	M1-99-1-999-67-17	48	オホーツク土器	胴部	貼太系	ひねりのある太い貼付文(波形)に接する貼瘤文。横のミガキ	ナデ		b.331	
9・11	M1-99-1-999-67-18	48	オホーツク土器	胴部	沈線文系	沈線文。刻文(横長)。横のナデ	横のナデ		b.196	大場1956 第18図
3・5	M1-99-1-999-68-1	49	オホーツク土器	口縁部～頸部	刻文系	口縁部肥厚帯に刻文(斜め)2列。口縁部:横のナデ、胴部:横のミガキ	横のナデ	壷形土器	b.19	大場1956 第16図
1・2	M1-99-1-999-68-2	49	オホーツク土器	口縁部～頸部	貼細系	口縁部肥厚帯に沈線文(直線・八の字形)。貼付文(波形)。刺突文。頸部に擬縄貼付文。横のミガキ	横のミガキ	M1-99-1-999-34-1・M1-99-1-999-36-1・M1-99-1-999-37-1と接合	b.12	大場1956 第9図
17・19	M1-99-1-999-68-3	49	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	沈線文。刻文(横長)。横のナデ	横・斜めのナデ	甕形土器	b.4	大場1956 第21図

PLATE	ID	旧所蔵NO	種類	部位	型式/系統	器面装飾・調整（外面）	器面装飾・調整（内面）	備考	遺物ラベル番号	原典図版
6・8	M1-99-1-999-68-4	49	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	刻文（横長）。沈線文。横のナデ	横のナデ、ミガキ		b.5	大場1956 第17図
17・18	M1-99-1-999-68-5	49	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯下部に型押文。胴部に刻文（横長・斜め）。沈線文（山型）。横のミガキ、ナデ	横のミガキ		b.6	大場1956 第21図
26・27	M1-99-1-999-68-6	49	オホーツク土器	口縁部～胴部	沈線文系	口縁部肥厚帯に刻文（横長）。胴部に沈線文（山型）。型押文。貼瘤文。横のナデ	横のナデ	壷形土器。M1-99-1-999-50-2と接合	b.17	大場1956 第24図
	M1-99-1-999-68-7	49	オホーツク土器	口縁部～胴部	貼細系	口縁部に擬縄貼付文（2列）。ナデ	ナデ	器面調整が雑		
28・30	M1-99-1-999-69-1	49	オホーツク土器	胴部	貼太系	貼瘤文（中央に輪形の刺突）。横のミガキ	ナデ	M1-99-1-999-64-1と接合	b.15	大場1956 第25図「b.15」（下）
	M1-99-1-999-69-2	49	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
6・8	M1-99-1-999-70-1	49	オホーツク土器	胴部～底部	刻文系	胴部：刻文（斜め）2列・横のナデ、底部：ナデ	胴部：ナデ、底部：ナデ		b.24	大場1956 第17図
12・14	M1-99-1-999-70-2	49	オホーツク土器	胴部～底部	沈線文系	胴部上半に沈線文（山型）3列。横のナデ、下半は斜めのナデ	ナデ	壷形土器	b.25	大場1956 第19図
1・2	M1-99-1-999-70-3	49	オホーツク土器	胴部～底部	貼細系	胴部上半に貼付文（約20mmの擬縄貼付文の両端に刺突のある円形貼付文）。ミガキ	ミガキ		b.23	大場1956 第10図
	M1-99-1-999-70-4	49	オホーツク土器	胴部～底部	無文	ナデ	ナデ		b.13	
	M1-99-1-999-70-5	49	オホーツク土器	胴部～底部	無文	縦のミガキ	横のナデ	底部穿孔土器（底部中央に穿孔あり）	b.344	
	M1-99-1-999-70-6	49	オホーツク土器	胴部～底部	無文	横のナデ。胴部下半（底部付近）にヘラケズリ	横のナデ	底部穿孔土器（底部中央に穿孔あり）	b.345	
	M1-99-1-999-70-7	49	オホーツク土器	胴部～底部	無文	ナデ	ミガキ			
	M1-99-1-243-99-1	57	不明	不明	不明	摩耗	摩耗			
	M1-99-1-017-133-1	57	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M1-99-1-017-133-2	57	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M1-99-1-215/216-143-1	57	縄文土器	胴部	縄文	縄文	ナデ			
	M1-99-1-012-148-1	57	縄文土器	胴部	縄文	縄文	ナデ			
	M1-99-1-012-148-2	57	縄文土器	胴部	縄文	縄文。黒色付着物	ナデ			
	M1-99-1-060-157-1	58	オホーツク土器	胴部	無文	横のナデ	横・斜めのナデ			
	M1-99-1-141-179-1	58	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M1-99-1-141-179-2	58	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M1-99-1-141-179-3	58	オホーツク土器	底部	無文	ナデ	ナデ			
	M1-99-1-169-183-1	58	不明	不明	不明	ナデ	剥落			
	M1-99-1-169-183-2	58	不明	胴部	不明	剥落	ナデ			
	M1-99-1-038-194-1	58	オホーツク土器	底部	無文	ナデ	ナデ			
	M1-99-1-038-194-2	58	不明	不明	不明	不明	不明	剥片につき、時期・部位等不明		
	M1-99-1-006-205-1	58	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	ナデ			
	M1-99-1-008-207-1	58	オホーツク土器	胴部	不明	剥落	ナデ			
	M1-99-1-052-211-1	58	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	ナデ			
	M1-99-1-051-212-1	58	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M1-99-1-051-213-1	58	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-2-1-105-219-1	58	オホーツク土器	胴部～底部	無文	ナデ	ナデ			
96	M2-2-1-105-537-1	–	オホーツク土器	完形	刻文系	口縁部肥厚帯の上下に浅い爪形文（2指）を施す。胴部上半に横幅15cm程の隆帯（貼付文）が5cm間隔で4単位めぐる。隆帯は粘土紐を折り返して上下を合わせて二重とした状態。隆帯の上には刻文が施文。口縁部は横のナデ。胴部は縦と横のナデ。器形は壺形土器（大場・大井1976のIIa型）に相当	ナデ	底部に孔あり。1cm未満の土器破片あり。ラベル「二十号　土器　破片」、木札「借1013」。器高：37.3cm、口径：26.9cm、底径10.5cm		伊藤（1964：36）のFig.13-Aの「第20号成人女性」出土状況写真に本資料（被甕）あり
	M2-1-1-098-228-1	58	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に刻文（斜め）。付着物多量	ナデ			
	M2-1-1-098-228-2	58	オホーツク土器	胴部	不明	ナデ	ナデ			
	M2-1-1-098-229-1	58	不明	不明	不明	不明	不明	剥片につき、時期・部位等不明		
	M2-2-1-091-232-1	58	オホーツク土器	胴部	無文	横のミガキ	横のナデ			
	M2-2-1-091-232-2	58	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	剥落			
	M2-1-1-092-234-1	58	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-1-1-092-234-2	58	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			

PLATE	ID	旧所蔵NO	種類	部位	型式/系統	器面装飾・調整（外面）	器面装飾・調整（内面）	備考	遺物ラベル番号	原典図版
	M2-1-1-092-234-3	58	オホーツク土器	胴部	不明	剥落	ナデ			
	M2-1-1-094-236-1	58	オホーツク土器	底部	無文	不明	ナデ			
	M2-3-1-999-239-1	59	オホーツク土器	口縁部	刻文系	折返し口縁の口唇部直下と口縁部下部に刻文。横のナデ	横のナデ			
	M2-3-1-999-239-2	59	オホーツク土器	口縁部	無文	折り返し口縁。横のミガキ（口縁部下半は横のナデ）	横のナデ			
	M2-3-1-999-239-3	59	オホーツク土器	口縁部～頸部	刻文系	口唇部に刻文。口縁部肥厚帯下縁に刺突文。横のミガキ	横のミガキ			
	M2-3-1-999-239-4	59	オホーツク土器	口縁部～頸部	貼細系	口唇部に貼付文（波形）・貼瘤文。口縁部肥厚帯に刻文（二重の山型）。横のナデ	横のナデ			
	M2-3-1-999-239-5	59	オホーツク土器	口縁部～頸部	貼細系	口唇部が外湾。口縁部に貼付文（輪形）・稜あり。頸部に貼付文（M字状貼付の端点に輪形あり）。横のナデ	横のナデ			
	M2-3-1-999-239-6	59	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯下部に刻文（斜め）。口縁部：横のナデ、胴部：横のミガキ	横のナデ			
	M2-3-1-999-239-7	59	オホーツク土器	口縁部～胴部	貼太系	口縁部肥厚帯下部に刻文（横長）。胴部に太く短いひねりのある貼付文。横のミガキ	口縁部：横のミガキ、胴部：ナデ			
	M2-3-1-999-239-8	59	オホーツク土器	胴部	刻文系	刻文（横長）2列。ナデ	ナデ。指頭痕			
	M2-3-1-999-239-9	59	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	横のナデ			
	M2-3-1-999-239-10	59	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-2-1-999-240-1	59	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	折返し口縁部肥厚帯下縁に刻文。横のナデ	横のナデ			
	M2-2-1-999-240-2	59	オホーツク土器	口縁部～胴部	貼細系	口唇部に貼付文（波形）・刻文。横のナデ	横のナデ	M2-2-1-999-240-3と同一個体と思われる		
	M2-2-1-999-240-3	59	オホーツク土器	口縁部～頸部	貼細系	口唇部に貼付文（波形）・刻文。横のナデ	横のナデ	M2-2-1-999-240-2と同一個体と思われる		
	M2-2-1-999-240-4	59	オホーツク土器	口縁部～頸部	無文	横のナデ	横のナデ			
	M2-2-1-999-240-5	59	オホーツク土器	胴部	貼細系	2列の沈線文の間に刻文（横）。貼付文（円形・径10mm）。ナデ。黒色付着物	ナデ			
	M2-2-1-999-240-6	59	オホーツク土器	底部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-2-1-999-241-1	59	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口唇部及び口縁部下部に刻文（縦）。口唇部は肥厚。横のミガキ	横のミガキ。大部分剥落			
	M2-2-1-999-241-2	59	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部下部に刺突文。横のミガキ	横のナデ			
	M2-2-1-999-241-3	59	オホーツク土器	口縁部	無文	横のミガキ	横のミガキ			
	M2-2-1-999-241-4	59	オホーツク土器	口縁部	無文	隆起線（2列）。横のミガキ	横のナデ			
	M2-2-1-999-241-5	59	オホーツク土器	口縁部	無文	横のミガキ	剥落			
	M2-2-1-999-241-6	59	オホーツク土器	口縁部～頸部	刻文系	口縁部下縁に型押文。横のミガキ	横のナデ			
	M2-2-1-999-241-7	59	オホーツク土器	口縁部～頸部	刻文系	口縁部下部に刻文（横長）。横のミガキ	横のナデ			
	M2-2-1-999-241-8	59	オホーツク土器	口縁部～頸部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に刺突文。ミガキ	ミガキ			
	M2-2-1-999-241-9	59	オホーツク土器	胴部	刻文系	刻文。横のミガキ	ナデ			
	M2-2-1-999-241-10	59	オホーツク土器	胴部	沈線文系	型押文。沈線文（大部分剥落）	ナデ			
	M2-2-1-999-241-11	59	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-2-1-999-241-12	59	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	ミガキ			
	M2-2-1-999-241-13	59	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-2-1-999-241-14	59	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ミガキ			
	M2-2-1-999-241-15	59	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	ミガキ			
	M2-2-1-999-241-16	59	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ミガキ			
	M2-2-1-999-241-17	59	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ミガキ			
	M2-2-1-999-241-18	59	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	ナデ			
	M2-2-1-999-241-19	59	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-2-1-999-241-20	59	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-2-1-999-241-21	59	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-2-1-999-241-22	59	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	ナデ			
	M2-2-1-999-241-23	59	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	ナデ			
	M2-2-1-999-241-24	59	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-2-1-999-241-25	59	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	横のナデ			
	M2-2-1-999-241-26	59	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-2-1-999-241-27	59	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	ミガキ			
	M2-2-1-999-241-28	59	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	ミガキ			
	M2-2-1-999-241-29	59	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	ミガキ			

PLATE	ID	旧所蔵NO	種類	部位	型式/系統	器面装飾・調整（外面）	器面装飾・調整（内面）	備考	遺物ラベル番号	原典図版
	M2-2-1-999-241-30	59	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ミガキ			
	M2-2-1-999-241-31	59	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-2-1-999-241-32	59	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	ナデ			
	M2-2-1-999-241-33	59	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-2-1-999-241-34	59	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	ナデ			
	M2-2-1-999-241-35	59	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ（大部分剥落）	ナデ			
	M2-2-1-999-241-36	59	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ（大部分剥落）	ナデ			
	M2-2-1-999-241-37	59	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	ミガキ			
	M2-2-1-999-241-38	59	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-2-1-999-241-39	59	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	ミガキ			
	M2-2-1-999-241-40	59	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-2-1-999-241-41	59	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-2-1-999-241-42	59	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-2-1-999-241-43	59	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-2-1-999-241-44	59	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	剥落			
	M2-2-1-999-241-45	59	オホーツク土器	胴部	不明	剥落	ナデ			
	M2-2-1-999-241-46	59	オホーツク土器	胴部	不明	剥落	ナデ			
	M2-2-1-999-241-47	59	オホーツク土器	底部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-2-1-999-241-48	59	オホーツク土器	底部	無文	ナデ	ナデ	底面に文様あり		
	M2-99-99-999-242-1	59	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部下部に刻文（横）。横のナデ	ナデ。黒色付着物			
	M2-99-99-999-242-2	59	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口唇部に刻文。横のナデ	横のナデ（大部分剥落）			
	M2-99-99-999-242-3	59	オホーツク土器	口縁部～胴部	貼細系	口縁部肥厚帯に貼付文（直線の間に2本の密着した波形）。頸部に貼付文（直線）。胴部に隆帯（隆帯上に細い貼付文）。横のナデ	横のナデ			
	M2-99-99-999-242-4	59	オホーツク土器	口縁部	貼細系	口縁部肥厚帯に貼付文（大部分剥落）	ナデ			
	M2-99-99-999-242-5	59	オホーツク土器	口縁部	貼細系	貼付文（波形）。ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-242-6	59	オホーツク土器	口縁部	無文	横のナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-242-7	59	オホーツク土器	胴部	貼細系	擬縄貼付文（2列）。斜めのナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-242-8	59	オホーツク土器	胴部	貼細系	刻文（横長）が施された細い紐状の貼付文。ナデ。黒色付着物	ナデ	M2-99-99-999-242-9と接合		
	M2-99-99-999-242-9	59	オホーツク土器	胴部	貼細系	刻文（横長）が施された細い紐状の貼付文。ナデ。黒色付着物	ナデ	M2-99-99-999-242-8と接合		
	M2-99-99-999-242-10	59	オホーツク土器	胴部	貼細系	貼付文。ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-242-11	59	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-999-242-12	59	オホーツク土器	底部	無文	ナデ	ナデ			
	M1-99-1-069-251-1	60	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部下部の稜上に刻文（横）。横のナデ	横のミガキ			
	M1-99-1-069-251-2	60	オホーツク土器	胴部	刻文系	刻文（横）。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-130-255-1	60	オホーツク土器	口縁部	刻文系	爪形文（2指）。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-074-261-1	60	不明	胴部	不明	ナデ	ナデ			
	M1-99-1-072-267-1	60	不明	不明	不明	不明	不明	剥片につき、時期・部位等不明		
	M1-99-1-083-269-1	60	オホーツク土器	口縁部	無文	不明	不明	黒色付着物が全面に付着		
	M1-99-1-188-276-1	60	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M1-99-1-188-276-2	60	オホーツク土器	胴部	不明	不明	不明	黒色付着物が全面に付着		
	M1-99-1-188-276-3	60	不明	不明	不明	ナデ	剥落	土器破片（表面より剥落）		
	M1-99-1-137-279-1	60	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	黒色付着物			
	M1-99-1-076-282-1	60	オホーツク土器	不明	不明	ナデ	ナデ			
	M1-99-1-164-286-1	60	オホーツク土器	胴部	刻文系	刻文。ナデ	ナデ			
	M1-99-1-197-290-1	60	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口唇部に刻文（縦）。横のナデ	剥落			
	M1-99-1-197-290-2	60	オホーツク土器	胴部	不明	剥落	横のナデ			
	M2-1-1-095-299-1	60	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口唇部に刻文。横のナデ	ナデ			
	M2-1-1-095-299-2	60	オホーツク土器	頸部	無文	ナデ	横のナデ			

PLATE	ID	旧所蔵NO	種類	部位	型式/系統	器面装飾・調整（外面）	器面装飾・調整（内面）	備考	遺物ラベル番号	原典図版
	M2-1-1-095-299-3	60	オホーツク土器	頸部	無文	不明	横のミガキ			
	M2-1-1-095-299-4	60	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	ナデ			
	M2-6-1-224-300-1	60	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	ナデ			
	M2-1-1-099-302-1	60	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ。黒色付着物	ナデ			
	M2-5-1-089-304-1	60	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-1-1-090-305-1	60	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	黒色付着物	胎土に石英粒多く含む		
	M2-1-1-090-305-2	60	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ	内外面に煤付着		
	M2-1-1-090-305-3	60	不明	胴部	不明	ナデ	剥落	土器破片		
	M2-5-1-248-322-1	61	オホーツク土器	胴部	刻文系	刻文（横）。ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-322-2	61	オホーツク土器	胴部	刻文系	刻文（斜め）。ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-322-3	61	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-322-4	61	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-322-5	61	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-322-6	61	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-322-7	61	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-322-8	61	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-322-9	61	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-322-10	61	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-322-11	61	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-322-12	61	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-322-13	61	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-322-14	61	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-322-15	61	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-322-16	61	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-322-17	61	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	ナデ			
	M2-5-1-248-322-18	61	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-322-19	61	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-322-20	61	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-322-21	61	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-322-22	61	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	ミガキ			
	M2-5-1-248-322-23	61	オホーツク土器	胴部	無文	横のミガキ。剥落	横のミガキ			
	M2-5-1-248-322-24	61	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-322-25	61	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-322-26	61	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	ナデ			
	M2-5-1-248-322-27	61	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-322-28	61	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	剥落			
	M2-5-1-248-322-29	61	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-322-30	61	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-322-31	61	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-322-32	61	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-322-33	61	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-322-34	61	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	ナデ			
	M2-5-1-248-322-35	61	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-322-36	61	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-322-37	61	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-322-38	61	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-322-39	61	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-322-40	61	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-322-41	61	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	剥落			
	M2-5-1-248-322-42	61	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-322-43	61	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-322-44	61	オホーツク土器	胴部	不明	ナデ。剥落	横のナデ			
	M2-5-1-248-322-45	61	オホーツク土器	胴部	不明	剥落	ナデ			
	M2-5-1-248-322-46	61	オホーツク土器	胴部	不明	剥落	ナデ			
	M2-5-1-248-323-1	61	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯に刻文（横長）。横のナデ	横のナデ			
	M2-5-1-248-323-2	61	オホーツク土器	口縁部	刻文系	刻文（斜め）。横のナデ	横のナデ			
	M2-5-1-248-323-3	61	オホーツク土器	口縁部	刻文系	刻文（斜め）2列。ナデ	ナデ			

PLATE	ID	旧所蔵NO	種類	部位	型式/系統	器面装飾・調整(外面)	器面装飾・調整(内面)	備考	遺物ラベル番号	原典図版
	M2-5-1-248-323-4	61	オホーツク土器	口縁部	刻文系	隆帯上に刻文(横長)。横のナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-323-5	61	オホーツク土器	口縁部	刻文系	刻文(横長)3列。横のナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-323-6	61	オホーツク土器	口縁部	刻文系	刻文(横長)。横のナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-323-7	61	オホーツク土器	口縁部	刻文系	爪形文(1指)。ミガキ	ナデ			
	M2-5-1-248-323-8	61	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯下部に刻文(斜め)。横のミガキ	横のミガキ			
	M2-5-1-248-323-9	61	オホーツク土器	口縁部	刻文系	刻文(八の字形)。横のナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-323-10	61	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口唇部に刻文(斜め)。ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-323-11	61	オホーツク土器	口縁部	刻文系	刻文(横長)。爪形文(2指)。横のミガキ	横のナデ			
	M2-5-1-248-323-12	61	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯に爪形文(2指)。横のナデ	横のナデ			
	M2-5-1-248-323-13	61	オホーツク土器	口縁部	刻文系	爪形文(1指)2列。横のナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-323-14	61	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口唇部と口縁部に爪形文(1指)。横のナデ	横のナデ			
	M2-5-1-248-323-15	61	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯に刻文(斜め)2列。横のナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-323-16	61	オホーツク土器	口縁部	刻文系	刻文(横長)。横のミガキ	横のミガキ			
	M2-5-1-248-323-17	61	オホーツク土器	口縁部～頸部	沈線文系	口縁部肥厚帯下部に刻文(八の字形)・沈線文。横のナデ	横のミガキ			
	M2-5-1-248-323-18	61	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に刻文(斜め)。胴部に刻文(斜め)2列。ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-323-19	61	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に刻文(斜め)。ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-323-20	61	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に刻文(楔形)。胴部に刺突文(円形)。横のナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-323-21	61	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯に刻文(斜め)。付着物多い	ナデ			
	M2-5-1-248-323-22	61	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に刻文(横長)。横のナデ	ナデ。指頭痕			
	M2-5-1-248-323-23	61	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	稜上に刻文(斜め)。ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-323-24	61	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯に刻文。ミガキ	ナデ。黒色付着物			
	M2-5-1-248-323-25	61	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口唇部に刻文。横のナデ	口縁部:ミガキ 胴部:ナデ			
	M2-5-1-248-323-26	61	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口唇部に爪形文(1指)。ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-323-27	61	オホーツク土器	口縁部～胴部	貼細系	口縁部肥厚帯。胴部に貼付文(大部分剥落)。貼付文(円形・径5mm)。ナデ	付着物多い			
	M2-5-1-248-323-28	61	オホーツク土器	口縁部～胴部	沈線文系	口縁部肥厚帯下縁に沈線文(山型)。横のミガキ	横のミガキ			
	M2-5-1-248-324-1	61	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯に2段の稜あり。横のミガキ。ナデ	横のナデ			
	M2-5-1-248-324-3	61	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口唇部に刻文。横のナデ	横のナデ			
	M2-5-1-248-324-2	61	オホーツク土器	口縁部	刻文系	型押文。口唇部:横のナデ。口唇部より下:横のミガキ	横のミガキ			
	M2-5-1-248-324-4	61	オホーツク土器	口縁部	貼細系	折返し口縁部上下縁に貼付文(波形)。横のナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-324-5	61	オホーツク土器	口縁部	貼細系	口縁部肥厚帯。口唇部直下に貼付文(波形)。横のナデ	横のナデ			
	M2-5-1-248-324-6	61	オホーツク土器	口縁部	貼細系	貼付文(波形)4列。貼付文(円形・径5mm)。ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-324-7	61	オホーツク土器	口縁部	貼細系	貼付文(波形)3列。横のナデ	横のミガキ			
	M2-5-1-248-324-8	61	オホーツク土器	口縁部	貼細系	口唇部と口縁部下半に擬縄貼付文。横のミガキ	ナデ			
	M2-5-1-248-324-9	61	オホーツク土器	口縁部	貼細系	口縁部肥厚帯上下縁に貼付文(波形)2列。横のナデ	横のナデ			
	M2-5-1-248-324-10	61	オホーツク土器	口縁部	貼細系	口縁部上下部に貼付文(波形)2列。横のナデ	横のナデ			
	M2-5-1-248-324-11	61	オホーツク土器	口縁部	貼細系	口縁部上部に貼付文(細い紐状)3列。ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-324-12	61	オホーツク土器	口縁部	貼細系	口唇部直下と口縁部下部の貼付文(波形)の間に擬縄貼付文(斜め・横)。ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-324-13	61	オホーツク土器	口縁部	貼細系	擬縄貼付文(3列)。ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-324-14	61	オホーツク土器	口縁部	貼細系	貼付文(円形・径5mm)。横のナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-324-15	61	オホーツク土器	口縁部	貼細系	口縁部上下部に貼付文(直線)2列ずつ。ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-324-16	61	オホーツク土器	口縁部	貼細系	口縁部上下部に貼付文(直線に挟まれた波形)。貼付文(輪形)。横のナデ	ナデ。黒色付着物	藤本1966e群？		
	M2-5-1-248-324-17	61	オホーツク土器	口縁部	貼細系	口縁部上下部に貼付文(波形)2列。ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-324-18	61	オホーツク土器	口縁部	貼細系	貼付文(楕円形・径8mm)。横のナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-324-19	61	オホーツク土器	口縁部	無文	横のナデ	横のミガキ			
	M2-5-1-248-324-20	61	オホーツク土器	口縁部	無文	隆帯あり。横のミガキ	横のミガキ			
	M2-5-1-248-324-21	61	オホーツク土器	口縁部	無文	横のミガキ	ナデ			
	M2-5-1-248-324-22	61	オホーツク土器	口縁部	無文	横のナデ	剥落			
	M2-5-1-248-324-23	61	オホーツク土器	口縁部～頸部	無文	口縁部中央に微隆起線文。横のナデ	横のナデ			
	M2-5-1-248-324-24	61	オホーツク土器	口縁部～頸部	無文	横のナデ	ミガキ			
	M2-5-1-248-324-25	61	オホーツク土器	口縁部～頸部	無文	縦のナデ	横のナデ			

PLATE	ID	旧所蔵NO	種類	部位	型式/系統	器面装飾・調整（外面）	器面装飾・調整（内面）	備考	遺物ラベル番号	原典図版
	M2-5-1-248-324-26	61	オホーツク土器	口縁部～胴部	沈線文系	口縁部に型押文。胴部上部に沈線文（2列）。ナデ	口縁部：横のナデ、胴部：斜めのナデ			
	M2-5-1-248-324-27	61	オホーツク土器	口縁部～胴部	貼細系	口縁部肥厚帯に貼付文（大部分剥落・3列）。胴部に円形貼付文剥落痕あり。ナデ	横のナデ			
	M2-5-1-248-324-28	61	オホーツク土器	口縁部～胴部	無文	口縁部～胴上半：横のナデ	口縁部：横のミガキ、胴部：ナデ			
	M2-5-1-248-324-29	61	オホーツク土器	頸部～胴部	貼細系	貼付文（刻みのある太く短いU字形）。刻文。横のミガキ	横のミガキ			
	M2-5-1-248-324-30	61	オホーツク土器	胴部	刻文系	刻文（横長）2列。上半部：ナデ、下半部：ミガキ	ナデ			
	M2-5-1-248-324-31	61	オホーツク土器	胴部	刻文系	刻文（斜め）2列。ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-324-32	61	オホーツク土器	胴部	刻文系	刻文。ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-324-33	61	オホーツク土器	胴部	貼細系	密接した2列の擬縄貼付文の端点に貼付文（半球状・径7mm）1点。ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-324-34	61	オホーツク土器	胴部	貼細系	擬縄貼付文。ナデ	横のナデ			
	M2-5-1-248-324-35	61	オホーツク土器	胴部	貼細系	貼付文（波形）。ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-324-36	61	オホーツク土器	胴部	貼細系	細い紐状の貼付文に刺突あり。貼付文（波形）。横のナデ。黒色付着物	沈線あり。ナデ			
	M2-5-1-248-324-37	61	オホーツク土器	胴部	貼細系	貼付文（円形・波形）。横のナデ	横のナデ			
	M2-5-1-248-324-38	61	オホーツク土器	胴部	貼細系	貼付文（波形）。横のナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-324-39	61	オホーツク土器	胴部	貼細系	貼付文（波形）。ミガキ	横のナデ			
	M2-5-1-248-324-40	61	オホーツク土器	胴部	貼細系	擬縄貼付文。ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-324-41	61	オホーツク土器	胴部	貼細系	貼付文（直線と接する波形）。横のミガキ	ナデ			
	M2-5-1-248-324-42	61	オホーツク土器	胴部	貼細系	擬縄貼付文。横のミガキ	横のナデ			
	M2-5-1-248-324-43	61	オホーツク土器	胴部	貼細系	擬縄貼付文。横のミガキ	ナデ			
	M2-5-1-248-324-44	61	オホーツク土器	胴部	貼細系	擬縄貼付文に接する貼付文（円形・径3mm）2点。ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-324-45	61	オホーツク土器	胴部	貼細系	沈線文（3列）の端点に貼付文（半球形・径6mm）1点。ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-324-46	61	オホーツク土器	胴部	貼細系	横方向の擬縄貼付文と貼付文（輪形）を繋ぐ縦や斜めの擬縄貼付文（3本）あり。ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-324-47	61	オホーツク土器	胴部	貼細系	貼付文（波形）。ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-324-48	61	オホーツク土器	胴部	貼太系	刻みのある太い貼付文。ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-324-49	61	オホーツク土器	胴部	沈線文系	沈線文。横のナデ	横のナデ			
	M2-5-1-248-324-50	61	オホーツク土器	胴部	沈線文系	沈線文（連続した山型）。緩やかな弧を描いた二重の沈線文の外側に縦に短い沈線文が多数施される。ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-324-51	61	オホーツク土器	胴部	刻文系	刻文（横長）。型押文。斜めのミガキ	横のナデ			
	M2-5-1-248-324-52	61	オホーツク土器	胴部	刻文系	刻文（横長）。型押文。ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-324-53	61	オホーツク土器	胴部	沈線文系	刻文（横長）。沈線文。横のナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-324-54	61	オホーツク土器	胴部	貼太系	沈線文（2本）の間に刻文（横長）・貼付文（円形・径10mm）1点。横のナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-324-55	61	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-324-56	61	オホーツク土器	胴部～底部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-324-57	61	オホーツク土器	底部	無文	ミガキ	ナデ			
	M2-5-1-248-324-58	61	オホーツク土器	底部	無文	横のミガキ	横のナデ			
	M2-5-1-248-324-59	61	オホーツク土器	底部	無文	縦のナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-324-60	61	オホーツク土器	底部	無文	縦のミガキ	横のナデ			
	M2-5-1-248-324-61	61	オホーツク土器	底部	無文	横のナデ	横のミガキ			
	M2-5-1-248-324-62	61	オホーツク土器	底部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-324-63	61	オホーツク土器	底部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-324-64	61	オホーツク土器	底部	無文	縦のミガキ	ナデ			
	M2-5-1-248-324-65	61	オホーツク土器	底部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-324-66	61	オホーツク土器	底部	無文	指頭痕	ナデ。剥落			
	M2-5-1-248-324-67	61	オホーツク土器	底部	無文	ナデ	剥落			
	M2-5-1-248-324-68	61	オホーツク土器	底部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-324-69	61	オホーツク土器	底部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-324-70	61	オホーツク土器	底部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-324-71	61	オホーツク土器	底部	無文	ナデ	ナデ			

PLATE	ID	旧所蔵NO	種類	部位	型式/系統	器面装飾・調整(外面)	器面装飾・調整(内面)	備考	遺物ラベル番号	原典図版
	M2-5-1-248-324-72	61	オホーツク土器	底部	不明	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-324-73	61	続縄文土器	口縁部	後北C_2・D	口縁部肥厚帯に2段の稜。円孔文(2穴)。横のナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-324-74	61	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	微隆起線文。帯縄文	横のナデ			
	M2-5-1-248-324-75	61	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	隆起線文。帯縄文	ナデ			
	M2-99-99-248-330-1	63	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口唇部及び口縁部に刻文。横のミガキ	横のミガキ			
	M2-99-99-248-330-2	63	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯に刻文。横のナデ	横のナデ			
	M2-99-99-248-330-3	63	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部の隆帯上に刻文(斜め)。横のナデ	横のナデ			
	M2-99-99-248-330-4	63	オホーツク土器	口縁部	無文	横のミガキ	横のミガキ			
	M2-99-99-248-330-5	63	オホーツク土器	口縁部	無文	横のミガキ	縦のナデ			
	M2-99-99-248-330-6	63	オホーツク土器	口縁部	無文	横のミガキ	横のミガキ			
	M2-99-99-248-330-7	63	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯に刻文。横のナデ	ナデ	M2-5-1-248-333-1と接合		
	M2-99-99-248-330-8	63	オホーツク土器	胴部	刻文系	刻文。ナデ	ナデ			
	M2-99-99-248-330-9	63	オホーツク土器	胴部	刻文系	刻文(横長)。横のナデ	横のナデ			
	M2-99-99-248-330-10	63	オホーツク土器	胴部	刻文系	刻文。ナデ	ナデ			
	M2-99-99-248-330-11	63	オホーツク土器	胴部	刻文系	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-248-330-12	63	オホーツク土器	胴部	貼太系	刻文(縦)。貼瘤文。ナデ	ナデ			
	M2-99-99-248-330-13	63	オホーツク土器	胴部	刻文系	刺突文。ナデ	ナデ			
	M2-99-99-248-330-14	63	オホーツク土器	胴部	刻文系	刺突文(円形で一部欠損)。横のナデ	ナデ			
	M2-99-99-248-330-15	63	オホーツク土器	胴部	貼細系	貼付文(横2列の波形の間に斜め波形)。ナデ	ナデ			
	M2-99-99-248-330-16	63	オホーツク土器	胴部	貼細系	貼付文。横のミガキ	横のナデ			
	M2-99-99-248-330-17	63	オホーツク土器	胴部	貼太系	ひねりのある太い貼付文。横のミガキ	ナデ			
	M2-99-99-248-330-18	63	オホーツク土器	胴部	貼太系	貼瘤文(輪形)に接する放射状の刻文。横のミガキ	ナデ			
	M2-99-99-248-330-19	63	オホーツク土器	胴部	沈線文系	沈線文(八の字形)。ナデ	ナデ			
	M2-99-99-248-330-20	63	オホーツク土器	胴部	沈線文系	沈線文(八の字形)。縦のナデ	横のナデ			
	M2-99-99-248-330-21	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-248-330-22	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-248-330-23	63	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	ナデ			
	M2-99-99-248-330-24	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-248-330-25	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-248-330-26	63	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	ナデ			
	M2-99-99-248-330-27	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-248-330-28	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-248-330-29	63	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	ナデ			
	M2-99-99-248-330-30	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-248-330-31	63	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	ナデ			
	M2-99-99-248-330-32	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-248-330-33	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-248-330-34	63	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	ナデ			
	M2-99-99-248-330-35	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-248-330-36	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-248-330-37	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-248-330-38	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-248-330-39	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-248-330-40	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-248-330-41	63	オホーツク土器	胴部	無文	横のミガキ	横のミガキ			
	M2-99-99-248-330-42	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-248-330-43	63	オホーツク土器	胴部	無文	横のミガキ	ナデ			
	M2-99-99-248-330-44	63	オホーツク土器	胴部	無文	横のミガキ	ナデ			
	M2-99-99-248-330-45	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-248-330-46	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ。剥落	ナデ。剥落			
	M2-99-99-248-330-47	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-248-330-48	63	オホーツク土器	胴部	無文	横のナデ	ナデ			
	M2-99-99-248-330-49	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-248-330-50	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-248-330-51	63	オホーツク土器	胴部～底部	無文	ミガキ	ナデ			

PLATE	ID	旧所蔵NO	種類	部位	型式/系統	器面装飾・調整（外面）	器面装飾・調整（内面）	備考	遺物ラベル番号	原典図版
	M2-99-99-248-330-52	63	オホーツク土器	底部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-248-330-53	63	オホーツク土器	底部	無文	ナデ	剥落			
	M2-99-99-248-330-54	63	オホーツク土器	底部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-99-99-248-330-55	63	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	微隆起線文。帯縄文。ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-331-1	63	オホーツク土器	口縁部～胴部	貼太系	口唇部上面に刻文。胴部貼付文に横長の刻み。ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-331-2	63	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部下部に刻文（横）。横のミガキ	横のミガキ			
	M2-5-1-248-331-3	63	オホーツク土器	口縁部	刻文系	刻文（2列）。口唇部上面に刻文。横のミガキ	ミガキ			
	M2-5-1-248-331-4	63	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に刻文（横長）。横のナデ	横のナデ			
	M2-5-1-248-331-5	63	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口唇部に刻文。横のナデ	横のナデ			
	M2-5-1-248-331-6	63	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口唇部に刻文（斜め）。ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-331-7	63	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯に型押文。横のミガキ	横のミガキ			
	M2-5-1-248-331-8	63	オホーツク土器	口縁部	刻文系	型押文。ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-331-9	63	オホーツク土器	口縁部～胴部	貼細系	貼付文（直線）7列。最下列の貼付文に円形（径2mm）の貼付文が接する。ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-331-10	63	オホーツク土器	口縁部	貼細系	口唇部に擬縄貼付文（2列）。口縁部の剥落した貼付文の上位に水鳥様の貼付文あり。ミガキ	ミガキ			
	M2-5-1-248-331-11	63	オホーツク土器	口縁部	貼細系	口縁部上下部に貼付文（波形）2列。横のミガキ	ミガキ			
	M2-5-1-248-331-12	63	オホーツク土器	口縁部～頸部	貼細系	口縁部上部と頸部に擬縄貼付文。その2列を繋ぐような斜めの擬縄貼付文あり。上列の擬縄貼付文に接する円形（径4mm）の貼付文。ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-331-13	63	オホーツク土器	口縁部	貼細系	口縁部肥厚帯に貼付文（波形）2列。1列目は大部分剥落。ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-331-14	63	オホーツク土器	口縁部	貼細系	口唇部直下と口縁部下部に貼付文（波形）。口縁部中間に密接した2列の擬縄貼付文。横のミガキ	横のミガキ			
	M2-5-1-248-331-15	63	オホーツク土器	口縁部	貼細系	刻文のある細い貼付文（3列）。横のミガキ	ナデ	輪積み痕あり		
	M2-5-1-248-331-16	63	オホーツク土器	口縁部	貼細系	貼付文（直線・波形）2列。ナデ	ナデ	熊木（2018）のⅣ群b類		
	M2-5-1-248-331-17	63	オホーツク土器	口縁部	沈線文系	沈線文（八の字形）。横のミガキ	横のミガキ			
	M2-5-1-248-331-18	63	オホーツク土器	口縁部	沈線文系	口縁部肥厚帯に沈線文（八の字形）2列。横のミガキ	横のミガキ			
	M2-5-1-248-331-19	63	オホーツク土器	口縁部	沈線文系	沈線文（八の字形）。横のミガキ	横のミガキ			
	M2-5-1-248-331-20	63	オホーツク土器	口縁部	無文	口縁部肥厚帯。横のナデ	横のナデ			
	M2-5-1-248-331-21	63	オホーツク土器	口縁部	無文	横のミガキ	横のナデ。黒色付着物			
	M2-5-1-248-331-22	63	オホーツク土器	口縁部	無文	横のナデ	横のナデ			
	M2-5-1-248-331-23	63	オホーツク土器	口縁部	無文	横のナデ	ナデ。黒色付着物			
	M2-5-1-248-331-24	63	オホーツク土器	口縁部	無文	ナデ	横のミガキ			
	M2-5-1-248-331-25	63	オホーツク土器	口縁部	無文	横のナデ	横のナデ			
	M2-5-1-248-331-26	63	オホーツク土器	口縁部	無文	横のミガキ	横のミガキ			
	M2-5-1-248-331-27	63	オホーツク土器	口縁部～胴部	無文	横のナデ	ミガキ			
	M2-5-1-248-331-28	63	オホーツク土器	口縁部～胴部	無文	横のミガキ	横のナデ			
	M2-5-1-248-331-29	63	オホーツク土器	胴部	刻文系	刻文（横長）。横のミガキ	ナデ			
	M2-5-1-248-331-30	63	オホーツク土器	胴部	貼太系	刻文（斜め）。ひねりのある太い貼付文。横のミガキ、ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-331-31	63	オホーツク土器	胴部	刻文系	刻文（横長）2列。ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-331-32	63	オホーツク土器	胴部	刻文系	刻文（横長）。横のナデ	横のナデ			
	M2-5-1-248-331-33	63	オホーツク土器	胴部	刻文系	型押文。横のナデ	剥落			
	M2-5-1-248-331-34	63	オホーツク土器	胴部	貼細系	沈線文（2本）の間に刻文（横長）・貼付文（円形・径10mm）1点。横のナデ	横のナデ			
	M2-5-1-248-331-35	63	オホーツク土器	胴部	貼太系	擬縄貼付文の端点に貼付文（円形・径9mm）。横のナデ	横のナデ			
	M2-5-1-248-331-36	63	オホーツク土器	胴部	貼太系	ひねりのある太い貼付文。横のミガキ	ナデ			
	M2-5-1-248-331-37	63	オホーツク土器	胴部	貼太系	ひねりのある太い貼付文。横のミガキ	ナデ			
	M2-5-1-248-331-38	63	オホーツク土器	胴部	貼細系	擬縄貼付文（2列）。ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-331-39	63	オホーツク土器	胴部	貼細系	水鳥の貼付文。横のナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-331-40	63	オホーツク土器	胴部	貼細系	貼付文（波形）。ナデ	剥落			
	M2-5-1-248-331-41	63	オホーツク土器	胴部	無文	横のミガキ	ナデ			
	M2-5-1-248-331-42	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-331-43	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ。剥落	ナデ			
	M2-5-1-248-331-44	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			

PLATE	ID	旧所蔵NO	種類	部位	型式/系統	器面装飾・調整(外面)	器面装飾・調整(内面)	備考	遺物ラベル番号	原典図版
	M2-5-1-248-331-45	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-331-46	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-331-47	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-331-48	63	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ。剥落	ミガキ			
	M2-5-1-248-331-49	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ミガキ			
	M2-5-1-248-331-50	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-331-51	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-331-52	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-331-53	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ。黒色付着物			
	M2-5-1-248-331-54	63	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	ナデ			
	M2-5-1-248-331-55	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-331-56	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-331-57	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-331-58	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-331-59	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-331-60	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-331-61	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	黒色付着物			
	M2-5-1-248-331-62	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	黒色付着物			
	M2-5-1-248-331-63	63	オホーツク土器	胴部	無文	横のナデ	ナデ。黒色付着物			
	M2-5-1-248-331-64	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-331-65	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-331-66	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-331-67	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-331-68	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-331-69	63	オホーツク土器	底部	無文	横のミガキ	ナデ			
	M2-5-1-248-331-70	63	オホーツク土器	底部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-331-71	63	続縄文土器	口縁部	後北C_2・D	口縁部に刻みのある貼付文。帯縄文	ナデ			
	M2-5-1-248-331-72	63	続縄文土器	口縁部～胴部	後北C_2・D	口唇部に刻み。刻みのある貼付文。帯縄文	ナデ			
	M2-5-1-248-331-73	63	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	微隆起線文。帯縄文	ナデ(多方向)			
	M2-5-1-248-331-74	63	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	微隆起線文。帯縄文	ナデ			
	M2-5-1-248-331-75	63	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	縄文	ナデ			
	M2-5-1-248-333-1	63	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部下部に刻文(横長)。横のミガキ	横のミガキ	補修孔あり。M2-99-99-248-330-7と接合		
	M2-5-1-248-333-2	63	オホーツク土器	口縁部	貼細系	口唇部に刻文。胴部上半に刻みのある細い貼付文	ナデ	壷形土器		
	M2-5-1-248-333-3	63	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に刻文(斜め)。横のミガキ	横のナデ			
	M2-5-1-248-333-4	63	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に刻文。横のミガキ	横のミガキ			
	M2-5-1-248-333-5	63	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口唇部に刻文。口縁部に刺突文。横のナデ	横のミガキ			
	M2-5-1-248-333-6	63	オホーツク土器	口縁部	無文	口縁部肥厚帯。ミガキ。黒色付着物	ナデ	壷形土器		
	M2-5-1-248-333-7	63	オホーツク土器	口縁部	刻文系	刻文(横)。横のナデ	横のナデ			
	M2-5-1-248-333-8	63	オホーツク土器	口縁部	刻文系	刻文(横長)。横のミガキ	横のミガキ			
	M2-5-1-248-333-9	63	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に刻文(斜め)。横のミガキ	横のミガキ			
	M2-5-1-248-333-10	63	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に爪形文(2指)。横のミガキ	横のミガキ			
	M2-5-1-248-333-11	63	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に刻文(斜め)。横のミガキ	横のミガキ			
	M2-5-1-248-333-12	63	オホーツク土器	口縁部	刻文系	刻文(横)。横のミガキ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-13	63	オホーツク土器	口縁部	刻文系	刻文。横のナデ	横のナデ			
	M2-5-1-248-333-14	63	オホーツク土器	口縁部	刻文系	刻文。横のミガキ	横のミガキ			
	M2-5-1-248-333-15	63	オホーツク土器	口縁部	刻文系	刻文(斜め)2列。横のナデ	横のミガキ			
	M2-5-1-248-333-16	63	オホーツク土器	口縁部	刻文系	刻文。横のミガキ	横のミガキ			
	M2-5-1-248-333-17	63	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯下縁に刻文。横のミガキ	横のミガキ			
	M2-5-1-248-333-18	63	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口唇部に刻み。横のナデ	黒色付着物			
	M2-5-1-248-333-19	63	オホーツク土器	口縁部	刻文系	刻文。横のナデ	横のナデ			
	M2-5-1-248-333-20	63	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口唇部に刻み	ナデ	補修孔あり		
	M2-5-1-248-333-21	63	オホーツク土器	口縁部	刻文系	刻文(斜め)。横のナデ	横のミガキ			
	M2-5-1-248-333-22	63	オホーツク土器	口縁部	刻文系	刻文。横のナデ	横のミガキ			

PLATE	ID	旧所蔵NO	種類	部位	型式/系統	器面装飾・調整（外面）	器面装飾・調整（内面）	備考	遺物ラベル番号	原典図版
	M2-5-1-248-333-23	63	オホーツク土器	口縁部	刻文系	刻文（斜め）2列。黒色付着物	横のミガキ			
	M2-5-1-248-333-24	63	オホーツク土器	口縁部	刻文系	刺突文（2列）。横のナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-25	63	オホーツク土器	口縁部～頸部	貼細系	擬縄貼付文（大部分剥落）。口唇部に刻み。横のナデ	横のミガキ			
	M2-5-1-248-333-26	63	オホーツク土器	口縁部	貼細系	口縁部肥厚帯上下部に貼付文（直線に接する波形）2列。横のナデ	横のナデ	藤本1966e群		
	M2-5-1-248-333-27	63	オホーツク土器	口縁部	貼細系	口唇部に擬縄貼付文。横のナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-28	63	オホーツク土器	口縁部	貼細系	口唇部直下に圧痕のある細い貼付文。横のナデ	横のミガキ			
	M2-5-1-248-333-29	63	オホーツク土器	口縁部	貼細系	貼付文（大部分剥落）。ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-30	63	オホーツク土器	口縁部～胴部	沈線文系	口唇部に刻文。沈線文（口縁部に2列・胴部に1列）。ミガキ	ミガキ			
	M2-5-1-248-333-31	63	オホーツク土器	口縁部	沈線文系	口唇部に刻文。その直下に沈線文。横のミガキ	横のミガキ			
	M2-5-1-248-333-32	63	オホーツク土器	口縁部	無文	横のナデ	横のナデ			
	M2-5-1-248-333-33	63	オホーツク土器	口縁部	無文	横のナデ	横のナデ。黒色付着物			
	M2-5-1-248-333-34	63	オホーツク土器	口縁部	無文	横のミガキ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-35	63	オホーツク土器	口縁部	無文	横のナデ	横のナデ			
	M2-5-1-248-333-36	63	オホーツク土器	口縁部	無文	横のミガキ	剥落			
	M2-5-1-248-333-37	63	オホーツク土器	口縁部	無文	横のナデ	横のナデ			
	M2-5-1-248-333-38	63	オホーツク土器	口縁部	無文	横のナデ	黒色付着物	補修孔あり		
	M2-5-1-248-333-39	63	オホーツク土器	口縁部	無文	横のミガキ	横のミガキ			
	M2-5-1-248-333-40	63	オホーツク土器	口縁部	無文	剥落	横のナデ			
	M2-5-1-248-333-41	63	オホーツク土器	口縁部	無文	横のナデ	剥落			
	M2-5-1-248-333-42	63	オホーツク土器	口縁部	無文	横のナデ	剥落			
	M2-5-1-248-333-43	63	オホーツク土器	口縁部	無文	ナデ	横のナデ			
	M2-5-1-248-333-44	63	オホーツク土器	口縁部	無文	横のミガキ	横のミガキ			
	M2-5-1-248-333-45	63	オホーツク土器	口縁部	無文	横のミガキ	横のミガキ			
	M2-5-1-248-333-46	63	オホーツク土器	胴部	刻文系	刻文（斜め）2列。横のナデ	横のナデ			
	M2-5-1-248-333-47	63	オホーツク土器	胴部	刻文系	刻文（斜め）3列。横のナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-48	63	オホーツク土器	胴部	刻文系	沈線文（2列）の間に刻文（くの字形）。横のミガキ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-49	63	オホーツク土器	胴部	刻文系	刻文（横）3列。横のナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-50	63	オホーツク土器	胴部	刻文系	刻文（横長）。ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-51	63	オホーツク土器	胴部	刻文系	刻文（横）。横のナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-52	63	オホーツク土器	胴部	刻文系	稜上（2列）に刻文。横のナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-53	63	オホーツク土器	胴部	刻文系	刻文（横長）。横のナデ	横のナデ			
	M2-5-1-248-333-54	63	オホーツク土器	口縁部	刻文系	刻文（斜め）。横のナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-55	63	オホーツク土器	胴部	貼太系	円形刺突文＋貼付文。横のナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-56	63	オホーツク土器	胴部	刻文系	櫛目文。横のナデ	横のナデ			
	M2-5-1-248-333-57	63	オホーツク土器	胴部	貼太系	やや太い刻みのある貼付文の両端点に貼付文（半球形・径7mm。片方剥落痕）。横のミガキ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-58	63	オホーツク土器	胴部	貼細系	貼付文（波形）。ミガキ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-59	63	オホーツク土器	胴部	貼太系	ひねりのある太い貼付文。横のミガキ	横のナデ			
	M2-5-1-248-333-60	63	オホーツク土器	口縁部～頸部	貼細系	口縁部肥厚帯下部に貼付文（波形）。横のミガキ	ミガキ			
	M2-5-1-248-333-61	63	オホーツク土器	胴部	貼太系	太い貼付文（幅10mm・表面剥落）。ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-62	63	オホーツク土器	胴部	貼太系	ひねりのある太い貼付文。横のミガキ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-63	63	オホーツク土器	胴部	貼細系	擬縄貼付文。ミガキ	ミガキ			
	M2-5-1-248-333-64	63	オホーツク土器	胴部	貼細系	貼付文（波形）。横のミガキ	横のミガキ			
	M2-5-1-248-333-65	63	オホーツク土器	胴部	貼細系	やや太く短い刻みのある貼付文に接する沈線（2列）。沈線の間に刻文。ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-66	63	オホーツク土器	胴部	貼細系	貼付文（波形）。ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-67	63	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-68	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-69	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ミガキ			
	M2-5-1-248-333-70	63	オホーツク土器	胴部	無文	横のナデ	横のナデ			
	M2-5-1-248-333-71	63	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-72	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-73	63	オホーツク土器	胴部	無文	横のミガキ	横のナデ			
	M2-5-1-248-333-74	63	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	ミガキ			
	M2-5-1-248-333-75	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			

PLATE	ID	旧所蔵NO	種類	部位	型式/系統	器面装飾・調整（外面）	器面装飾・調整（内面）	備考	遺物ラベル番号	原典図版
	M2-5-1-248-333-76	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-77	63	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-78	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-79	63	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-80	63	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-81	63	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	ミガキ			
	M2-5-1-248-333-82	63	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	ミガキ			
	M2-5-1-248-333-83	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-84	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-85	63	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-86	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-87	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-88	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-89	63	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	ミガキ			
	M2-5-1-248-333-90	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-91	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-92	63	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-93	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ミガキ			
	M2-5-1-248-333-94	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-95	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-96	63	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-97	63	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	ミガキ			
	M2-5-1-248-333-98	63	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-99	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-100	63	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	ミガキ			
	M2-5-1-248-333-101	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-102	63	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	ミガキ			
	M2-5-1-248-333-103	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-104	63	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	ミガキ			
	M2-5-1-248-333-105	63	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	ミガキ			
	M2-5-1-248-333-106	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-107	63	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	ミガキ			
	M2-5-1-248-333-108	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-109	63	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-110	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-111	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-112	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-113	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ミガキ			
	M2-5-1-248-333-114	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-115	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-116	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-117	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-118	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-119	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-120	63	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	ミガキ			
	M2-5-1-248-333-121	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-122	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-123	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-124	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-125	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-126	63	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-127	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-128	63	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	剥落			
	M2-5-1-248-333-129	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-130	63	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-131	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-132	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			

PLATE	ID	旧所蔵NO	種類	部位	型式/系統	器面装飾・調整（外面）	器面装飾・調整（内面）	備考	遺物ラベル番号	原典図版
	M2-5-1-248-333-133	63	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	ミガキ			
	M2-5-1-248-333-134	63	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-135	63	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-136	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-137	63	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-138	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-139	63	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-140	63	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	ミガキ			
	M2-5-1-248-333-141	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-142	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-143	63	オホーツク土器	胴部	無文	ミガキ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-144	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-145	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-146	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-147	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-148	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-149	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-150	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-151	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-152	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ミガキ			
	M2-5-1-248-333-153	63	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-154	63	オホーツク土器	胴部	不明	剥落	ミガキ			
	M2-5-1-248-333-155	63	オホーツク土器	胴部	不明	剥落	ナデ			
	M2-5-1-248-333-156	63	オホーツク土器	胴部	不明	剥落	ナデ			
	M2-5-1-248-333-157	63	オホーツク土器	胴部	不明	剥落	ナデ			
	M2-5-1-248-333-158	63	オホーツク土器	胴部	不明	剥落	ナデ			
	M2-5-1-248-333-159	63	オホーツク土器	胴部	不明	剥落	ナデ			
	M2-5-1-248-333-160	63	オホーツク土器	胴部	不明	剥落	ナデ			
	M2-5-1-248-333-161	63	オホーツク土器	胴部～底部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-162	63	オホーツク土器	底部	無文	縦のミガキ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-163	63	オホーツク土器	底部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-164	63	オホーツク土器	底部	無文	ナデ	剥落			
	M2-5-1-248-333-165	63	オホーツク土器	底部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-166	63	オホーツク土器	底部	無文	横のナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-167	63	オホーツク土器	底部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-168	63	オホーツク土器	底部	無文	縦のミガキ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-169	63	オホーツク土器	底部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-170	63	オホーツク土器	底部	無文	ミガキ	横のナデ			
	M2-5-1-248-333-171	63	オホーツク土器	底部	無文	ナデ。指頭痕	ナデ			
	M2-5-1-248-333-172	63	オホーツク土器	底部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-173	63	オホーツク土器	底部	無文	縦のミガキ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-174	63	オホーツク土器	底部	無文	縦のミガキ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-175	63	オホーツク土器	底部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-176	63	オホーツク土器	底部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-5-1-248-333-177	63	続縄文土器	口縁部～胴部	後北C_2・D	条線文。微隆起線文	横のナデ			
	M2-5-1-248-333-178	63	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	条線文	ナデ			
	M2-5-1-248-333-179	63	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	条線文	ナデ			
	M2-5-1-248-333-180	63	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	条線文	ナデ			
	M2-5-1-248-333-181	63	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	条線文	ナデ			
	M2-5-1-248-333-182	63	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	条線文	ナデ			
	M2-5-1-248-333-183	63	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	条線文	ナデ			
	M2-5-1-248-333-184	63	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	条線文	ナデ			
	M2-5-1-248-333-185	63	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	条線文	ナデ			
	M2-5-1-248-333-186	63	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	条線文	ナデ			
	M2-5-1-248-333-187	63	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	条線文	剥落			

PLATE	ID	旧所蔵NO	種類	部位	型式/系統	器面装飾・調整(外面)	器面装飾・調整(内面)	備考	遺物ラベル番号	原典図版
	M2-5-1-248-333-188	63	続縄文土器	底部	後北C_2・D	縄文。ナデ	ナデ			
100	M2-4-1-999-361-1	99	オホーツク土器	口縁部～胴部	貼細系	口縁部肥厚帯上部に貼付文(2列の直線の間に密着した波形)。下部に2列の密着した擬縄貼付文。胴部上部に密着した2列のひねりのある貼付文。横のナデ	ナデ		M.上.2	名取・大場1964 Fig.6-2
100	M2-4-1-999-361-2	99	擦文土器	口縁部	-	沈線文。横のナデ	横のナデ	甕	M.上.3	名取・大場1964 Fig.6-3
	M2-4-1-999-365-1	100	オホーツク土器	口縁部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-4-1-999-366-1	100	オホーツク土器	口縁部	沈線文系	口唇部に刻み。沈線文。刺突文。ナデ	ナデ			
100	M2-4-1-999-377-1	102	オホーツク土器	口縁部	刻文系	刻文(半月形)。横のナデ	ナデ		M.貝.4	名取・大場1964 Fig.6-6
100	M2-4-1-999-377-2	102	オホーツク土器	口縁部	貼細系	口唇部に刻み。擬縄貼付文(2列)。横のナデ	口唇部に刻み。横のナデ	補修孔あり	M.貝.2	名取・大場1964 Fig.6-5
100	M2-4-1-999-377-3	102	オホーツク土器	口縁部	沈線文系	沈線文。刻文。横のナデ	ナデ		M.貝.3	名取・大場1964 Fig.6-7
	M2-2-1-999-380-1	103	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-2-1-999-380-2	103	続縄文土器	胴部	後北C_2・D	縄文。隆起線文。ナデ	ナデ			
100	M2-4-1-999-382-1	103	続縄文土器	口縁部～胴部	後北C_2・D	刻みのある隆起線文。帯縄文。ナデ	ナデ		M.下.5/C.下	名取・大場1964 Fig.6-12
	M2-3-1-999-388-1	105	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯に爪形文(2指)。横のナデ	ナデ			
	M2-3-1-999-388-2	105	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-3-1-999-392-1	106	オホーツク土器	口縁部	刻文系	型押文。横のナデ	横のナデ(大部分は剥落)			
	M2-3-1-999-392-2	106	オホーツク土器	口縁部	無文	横のナデ	横のナデ			
	M2-3-1-999-392-3	106	オホーツク土器	頸部～胴部	貼太系	緩やかに弧を描く太い貼付文の端点に貼瘤文。ナデ	ナデ			
	M2-3-1-999-392-4	106	オホーツク土器	胴部	不明	剥落	ナデ			
	M2-3-1-999-395-1	107	オホーツク土器	口縁部	無文	口唇部直下に稜あり。ナデ	ナデ			
	M2-3-1-999-395-2	107	オホーツク土器	胴部	貼太系	太い貼付文。ナデ	ナデ			
	M2-3-1-999-395-3	107	オホーツク土器	胴部	貼太系	太い貼付文。ナデ	ナデ			
	M2-3-1-999-395-4	107	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M2-3-1-999-395-5	107	オホーツク土器	底部	無文	胴部:横のナデ。底部:圧痕あり	ナデ			
	M2-2-1-999-407-1	109	オホーツク土器	口縁部	刻文系	口縁部肥厚帯下部に刻文(山型)。横のミガキ	横のナデ			
	M2-2-1-999-407-2	109	オホーツク土器	口縁部～胴部	刻文系	口縁部肥厚帯下部に型押文。横のナデ	横のナデ			
	M2-3-1-999-410-1	109	オホーツク土器	口縁部	貼細系	擬縄貼付文。ナデ	ナデ			
	M2-3-1-999-410-2	109	オホーツク土器	胴部	刻文系	型押文。ナデ	ナデ			
	M2-99-1-999-420-1	110	オホーツク土器	口縁部～胴部	貼細系	口縁部肥厚帯上下部に貼付文(直線)。中間部に擬縄貼付文。頸部に貼付文(直線)。ナデ	ナデ			
	M2-99-1-999-420-2	110	オホーツク土器	胴部	刻文系	刻文(横長)。ナデ	ナデ			
	M2-99-1-999-420-3	110	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M9-99-3-999-430-1	113	続縄文土器	口縁部～胴部	後北C_2・D	口唇部に刻み。口縁部に2列の刻みのある貼付文。帯縄文。微隆起線文	ナデ			
	M9-99-3-999-430-2	113	続縄文土器	口縁部～胴部	後北C_2・D	口唇部に刻み。口縁部～注口部にかけて刻みのある貼付文。微隆起線文。帯縄文	ナデ	注口土器		
	M9-99-3-999-430-3	113	続縄文土器	注口部	後北C_2・D	縄文。ナデ	-	注口土器		
	M1-99-1-176-454-1	547	オホーツク土器	口縁部～胴部	無文	ナデ(多方向)	ナデ(多方向)			
	M1-99-1-176-454-2	547	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			
	M1-99-1-176-454-3	547	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ(多方向)	ナデ			
	M1-99-1-176-454-4	547	オホーツク土器	胴部	無文	ナデ	ナデ			

表2 石器属性表

PLATE	ID	旧所蔵NO	発掘時期	器種	器種細分類／形態／工程	大場(1957)、名取・大場(1964)の分類	部位	最大長(mm)	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石材	備考	遺物ラベル番号／その他	原典図版
	M1-99-1-017-133-3	57	戦中	石核	－	－	完形	56.11	56.11	32.47	10.95	25.76	黒曜石	剥片素材	－	－
	M1-99-1-023-114-1	57	戦中	剥片	－	－	完形	36.03	26.12	20.79	3.81	3.81	黒曜石	背面全体が原礫面となる	－	－
	M1-99-1-035-127-1	57	戦中	スクレイパー	掻器	－	末端	40.59	40.59	37.98	9.70	18.22	黒曜石	表面摩耗	－	－
	M1-99-1-035-127-10	57	戦中	剥片	－	－	末端	38.50	36.89	19.11	3.14	2.50	黒曜石		－	－
	M1-99-1-035-127-11	57	戦中	剥片	－	－	末端欠損	33.07	33.07	21.10	4.35	3.77	黒曜石		－	－
	M1-99-1-035-127-12	57	戦中	剥片	－	－	末端	30.97	30.97	16.66	7.83	3.86	黒曜石	原礫面からの打撃により分割された剥片	－	－
	M1-99-1-035-127-13	57	戦中	剥片	－	－	完形	32.19	19.36	14.43	4.04	2.40	黒曜石	梨肌の黒曜石	－	－
	M1-99-1-035-127-14	57	戦中	剥片	－	－	中間部	26.68	26.68	16.94	2.50	1.56	黒曜石	上下左右が折れによって欠損	－	－
	M1-99-1-035-127-15	57	戦中	石鏃	未成品	－	先端のみ	21.52	21.52	15.93	3.07	1.11	黒曜石	石鏃の未成品。表裏で非対称の縁辺に二次加工あり	－	－
	M1-99-1-035-127-16	57	戦中	剥片	－	－	頭部	20.61	18.96	10.89	2.28	0.80	黒曜石	原礫面あり	－	－
	M1-99-1-035-127-17	57	戦中	剥片	－	－	完形	28.32	16.32	11.02	2.06	0.63	黒曜石		－	－
	M1-99-1-035-127-18	57	戦中	剥片	－	－	頭部	26.55	18.90	11.81	2.90	0.98	黒曜石	スクレイパーの刃部を取り込んだ剥片	－	－
	M1-99-1-035-127-2	57	戦中	剥片	－	－	完形	38.37	26.13	16.22	27.04	15.54	黒曜石		－	－
	M1-99-1-035-127-3	57	戦中	石核	－	－	完形	45.63	45.63	13.27	9.58	10.66	黒曜石	礫面を残す、両設石核	－	－
	M1-99-1-035-127-4	57	戦中	石核	－	－	完形	44.71	44.71	21.91	8.21	8.12	黒曜石	剥片石核	－	－
	M1-99-1-035-127-5	57	戦中	二次加工剥片	－	－	完形	43.50	43.50	22.52	5.85	5.76	黒曜石		－	－
	M1-99-1-035-127-6	57	戦中	剥片	－	－	縦半部欠損	34.29	32.84	19.90	5.43	6.16	黒曜石	転礫面あり	－	－
	M1-99-1-035-127-7	57	戦中	剥片	－	－	完形	35.55	32.04	27.91	3.66	4.00	黒曜石	礫打面	－	－
	M1-99-1-035-127-8	57	戦中	剥片	－	－	完形	38.35	26.14	15.78	3.90	3.63	黒曜石		－	－
	M1-99-1-035-127-9	57	戦中	スクレイパー	－	－	末端	42.68	42.68	14.56	3.70	3.07	黒曜石	折れによって器体の大部分を欠損	－	－
	M1-99-1-038-194-3	58	戦中	剥片	－	－	完形	30.28	28.66	16.33	2.54	1.63	黒曜石		－	－
	M1-99-1-051-212-2	58	戦中	剥片	－	－	縦半部欠損	27.13	25.83	16.94	3.80	2.38	黒曜石	背面が全面原礫面となる	－	－
	M1-99-1-053-257-1	60	戦中	剥片	－	－	完形	25.26	25.29	16.81	8.07	3.38	黒曜石	腹面中央部より打点が発する剥片。背面の剥離痕の境界が鈍角となる。熱によって弾けた剥片の可能性あり	－	－
	M1-99-1-069-251-3	60	戦中	剥片	－	－	完形	28.18	23.10	17.38	4.73	1.73	黒曜石		－	－
	M1-99-1-084-156-1	58	戦中	スクレイパー	削器	－	完形	68.59	68.59	18.86	5.68	8.10	黒曜石	推定機能部の背面に原礫面が残る	－	－
	M1-99-1-153-287-1	60	戦中	二次加工剥片	－	－	完形	37.13	18.97	23.01	3.94	2.62	黒曜石	末端がヒンジ・ターミネーションとなる末広がりの剥片	－	－
	M1-99-1-176-454-5	547	戦中	スクレイパー	削器	－	頭部	23.65	16.93	17.87	4.86	2.50	頁岩	主剥離面の打面と接する左側縁に深さ2－3mmの急角度な二次加工が施される。対向する右側縁は背面からの1枚の直角な剥離によって立ち切られる	－	－
	M1-99-1-176-454-6	547	戦中	石核	－	－	完形	42.64	42.64	8.69	9.59	5.50	メノウ	側面を断ち切るように剥離がなされた断面が四角形となる長い石核	－	－
	M1-99-1-176-454-7	547	戦中	剥片	－	－	完形	38.12	38.12	31.62	14.74	15.20	メノウ	打面の大きな寸詰まりの剥片	－	－
	M1-99-1-176-454-8	547	戦中	石核	－	－	完形	41.61	41.61	24.55	5.66	8.40	メノウ	剥片の背面側に数枚の剥離痕が残される剥片石核	－	－
	M1-99-1-176-454-9	547	戦中	剥片	－	－	完形	112.95	112.95	38.88	5.08	55.20	安山岩	背面に転礫面を残す大型の剥片。粗粒の安山岩を利用	－	－
	M1-99-1-185-265-1	60	戦中	剥片	－	－	完形	41.91	32.25	21.91	4.84	8.17	黒曜石	末端がウートラパッセとなり、転礫面を大きく取り込む。そのため最大長が剥片の長さよりも長くなる	－	－
	M1-99-1-999-432-1	114	戦中	スクレイパー	削器	－	完形	82.55	82.55	35.44	4.23	22.60	安山岩	横長の素材剥片の縁辺に二次加工が施され円弧状の刃部となる。背面の凸部がやや摩耗する	－	－
	M1-99-1-999-432-2	114	戦中	剥片	－	－	完形	40.61	39.61	35.75	7.16	10.70	安山岩	背面が転礫面となる円形の剥片	－	－
	M1-99-1-999-432-3	114	戦中	二次加工剥片	－	－	完形	59.02	58.46	39.06	6.46	21.00	頁岩	背面に円礫面を残す縦長剥片。末端部の背面側に深さ1－5mmの剥離痕が残され、剥離痕の反対の端部に数か所二次加工が認められる。腹面末端はヒンジ・ターミネーションとなり、その最も高まる部分は摩耗している。剥片末端部が機能部だった可能性がある	－	－
	M1-99-1-999-432-4	114	戦中	剥片	－	－	完形	69.36	57.80	58.78	12.15	50.20	安山岩	背面が転礫面となる横長剥片	－	－
	M1-99-1-999-432-5	114	戦中	剥片	－	－	末端	40.95	40.95	26.34	11.65	12.80	頁岩	背面が転礫面となる。打面側は大きく欠損し、欠損面の背面と接する部分は凹凸となる。被熱の可能性あり	－	－
	M1-99-1-999-432-6	114	戦中	剥片	－	－	完形	35.88	35.51	15.93	2.76	2.00	チャート	背面に礫面・節理面を残す縦長剥片。青灰色のチャート	－	－

PLATE	ID	旧所蔵NO	発掘時期	器種	器種細分類／形態／工程	大場(1957)、名取・大場(1964)の分類	部位	最大長(mm)	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石材	備考	遺物ラベル番号／その他	原典図版
	M1-99-1-999-433-1	114	戦中	石槍	不明	−	端部・縦半部欠損	117.88	113.95	38.83	13.06	93.00	黒曜石	端部と縦半部を大きく欠損し、先端もわずかに欠損する尖頭器。縁辺からの両面調整は一部でステップ・ターミネーションをなす。半分が折れによって欠損した後、側面方向にも大きく欠損。その後、折れ面から片方の面に先行する両面調整を切る数枚の剥離が施されている。整形途上で破損した尖頭器を新たに整形した途上と考えられる。梨肌の黒曜石を利用	−	−
	M1-99-1-999-433-10	114	戦中	石槍	柳葉形	−	先端欠損	65.25	51.87	43.63	8.57	25.00	黒曜石	端部が平基となる長方形の基部。先端を含む器体を大きく欠損する	−	−
68	M1-99-1-999-433-11	114	戦中	石槍	柳葉形	−	上半欠損	73.01	70.60	37.77	10.18	34.00	黒曜石	両面調整によって左右対称、断面凸レンズ状に整形。基部に平坦な礫面を残す。茶の入る黒色の黒曜石を利用	「槍」の注記	−
	M1-99-1-999-433-12	114	戦中	石槍	有茎	−	先端欠損	66.30	60.88	48.26	10.94	41.50	黒曜石	上半部を大きく欠損し、器体下半の肩部から基部までが残る。断面D字形。表面に茶褐色の堆積物？が付着	−	−
	M1-99-1-999-433-13	114	戦中	石槍	柳葉形	−	上半欠損	56.38	51.09	35.28	9.52	21.80	黒曜石	端部が平基となる長方形の基部。先端を含む器体を大きく欠損する。凸側の面から平坦な面へなされた調整が密に重複する	「槍」の注記	−
	M1-99-1-999-433-14	114	戦中	石槍	不明	−	基部のみ	39.15	32.51	37.92	6.20	10.50	黒曜石	入念な調整が施された石槍の基部。形状は楕円形。縁辺に微細な剥離あり	注記あるが判読不能	−
	M1-99-1-999-433-15	114	戦中	石槍	不明	−	基部のみ	40.60	37.29	29.58	8.83	10.60	黒曜石	末端へ向けてすぼまる基部。断面は凸レンズ状。梨肌の黒曜石を利用	「槍」の注記	−
	M1-99-1-999-433-16	114	戦中	石槍	不明	−	基部のみ	39.22	36.74	26.94	10.43	8.90	黒曜石	末端へ向けてすぼまる基部。断面は凸レンズ状。灰色の黒曜石を利用	「槍」の注記	−
	M1-99-1-999-433-17	114	戦中	石槍	不明	−	上下端欠損	47.18	47.18	30.39	6.99	8.40	黒曜石	上下端を大きく欠損する石槍の中間部。縁辺は微細な剥離痕が連続する。平坦な折れ面から片面に対して再調整が施されている	−	−
	M1-99-1-999-433-18	114	戦中	石槍	不明	−	上下端欠損	34.05	30.03	25.40	4.28	4.90	黒曜石	上下両端を大きく欠損する石槍。残存する基部中央の縁辺が内湾する。大場(1957)の「無茎」の石槍に近い。先端の欠損した折れ面から片面に対してステップ・ターミネーションを呈する剥離が施される	−	−
	M1-99-1-999-433-19	114	戦中	石槍	柳葉形／未成品	−	先端欠損	31.38	28.15	26.69	7.23	5.20	黒曜石	片面中央に大きく岩屑面を残す。対する面は周縁に微細な調整が施されるが、素材剝離面を残す。横断面は非対称	−	−
	M1-99-1-999-433-2	114	戦中	石槍	不明	−	先端欠損	68.28	64.40	42.57	9.58	37.10	黒曜石	器体の半分を欠損する。入念な両面調整によって左右対称に仕上げており、柳葉形か木葉形だったと推測される。端部から平行な両側縁をつなぐ縁辺には両面調整よりも急角度(60° 前後)な調整が連続する	注記あるが判読不能	−
	M1-99-1-999-433-20	114	戦中	石槍	不明	−	先端のみ	29.19	29.19	24.12	9.25	4.50	黒曜石	器体中央と基部を大きく欠損。先端はわずかに欠損する。灰色の黒曜石を利用	−	−
	M1-99-1-999-433-21	114	戦中	石核／スクレイパー	石核／削器	石槍／柳葉形	末端欠損	79.37	79.37	45.42	14.30	61.10	チャート	大型の縦長剥片の両側縁に深さ5－10mmの剥離痕が連続して施される。下半部は折れによって欠損し、折れ面から背面に寸詰まりの剥片が剥離されている。欠損後に石核に転用されたと推測される。赤褐色チャートを用いる	「13」のラベル	−
	M1-99-1-999-433-22	114	戦中	石槍	木葉形	−	先端欠損	57.80	57.90	49.11	8.50	30.80	安山岩	半両面調整の石槍。片半部と端部を欠損する	−	−
	M1-99-1-999-433-23	114	戦中	両面調整石器	未成品	−	完形	85.42	85.42	73.31	9.73	85.30	黒曜石	両面に縦長～寸詰まりの剥片が重複する。全体的に薄手で円形。石核の可能性もあり	−	−
	M1-99-1-999-433-24	114	戦中	両面調整石器	未成品	−	完形	61.58	61.58	43.47	12.14	34.50	黒曜石	粗雑な剥離による周縁加工の両面調整石器。素材面を大きく残す。基端にわずかに抉りあり。石槍の未成品の可能性あり	−	−
	M1-99-1-999-433-25	114	戦中	両面調整石器	未成品	−	完形	54.69	54.69	34.26	9.80	22.10	黒曜石	転礫面を残す剥片素材に粗雑な周縁加工を施した両面調整石器。石槍の未成品の可能性あり	−	−
	M1-99-1-999-433-26	114	戦中	両面調整石器	未成品	−	端部欠損	65.88	65.88	42.30	8.84	25.70	黒曜石	粗雑な剥離によって端部がすぼまる両面調整石器。石槍の整形過程の可能性あり	−	−
	M1-99-1-999-433-27	114	戦中	両面調整石器	未成品	−	端部欠損	35.89	35.90	23.15	4.97	5.20	黒曜石	素材剥片の平行する縁辺に剥離が施される。打面側を欠損。残存する末端部はヒンジ・ターミネーション。石鏃の未成品の可能性	−	−

PLATE	ID	旧所蔵NO	発掘時期	器種	器種細分類／形態／工程	大場(1957)、名取・大場(1964)の分類	部位	最大長(mm)	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石材	備考	遺物ラベル番号／その他	原典図版
	M1-99-1-999-433-28	114	戦中	両面調整石器	不明	-	端部欠損	40.25	40.25	21.06	8.41	7.40	黒曜石	素材剥片の打面部および側縁から両面に調整がなされる。折れ面以外は摩耗によって光沢を消失。石鏃やスクレイパーの未成品の可能性あり	-	-
	M1-99-1-999-433-29	114	戦中	両面調整石器	-	-	完形	46.52	46.52	27.30	11.35	11.61	黒曜石	粗雑な剥離によって不整形となる両面調整石器。被熱により光沢消失	-	-
	M1-99-1-999-433-3	114	戦中	石槍	不明	-	半分欠損	48.90	43.23	43.70	9.94	21.40	黒曜石	両面調整によって左右対称とする。欠損した平坦な折面から両面をえぐるようなステップ・ターミネーションのある剥離が多数みられる。石槍の製作途上に欠損したと考えられる	「槍」の注記	-
	M1-99-1-999-433-30	114	戦中	両面調整石器	-	-	完形	50.97	50.97	25.46	9.45	16.40	チャート	横長剥片を素材とし、末端と打面に両面調整を施す。側面の一部に礫面を残す。赤色の樹脂光沢をもつチャートを用いる。黒い付着物あり	ラベルあるが判読不能	-
	M1-99-1-999-433-31	114	戦中	スクレイパー	削器	-	中間部	116.34	116.34	58.85	14.34	116.10	黒曜石	幅広の分厚い石刃である。両側縁に二次加工が不連続に残される。一部はノッチ状に抉られ、剥離痕の深さや角度は様々である。旧石器の再利用の可能性あり	-	-
	M1-99-1-999-433-32	114	戦中	石核／スクレイパー	石核／削器	-	頭部	66.51	66.51	34.64	11.13	32.10	黒曜石	分厚い剥片の打面および左右両側縁にかけて二次加工が施され、円弧状の刃部となる。この刃部を切って背面に縦長の剥片が数本剥離されている。左側縁から下半部は背面からの折れによって斜めに欠損する。腹面は中央に素材剥片の剥離面が残されるが、それを切る浅い剥離痕と、折れ面を打面として剥がされた数枚の横長剥片剥離痕がみられる。削器を石核へ転用した石器	-	-
	M1-99-1-999-433-33	114	戦中	スクレイパー	削器	-	頭部	67.01	67.01	46.99	8.11	29.00	黒曜石	左側縁の両面に深さ1－5mmの剥離痕が連続し、外湾する刃部となる。器体の右半部よおび下半部を欠損する。半分を欠損する打面は調整打面	-	-
	M1-99-1-999-433-34	114	戦中	スクレイパー	掻削器	-	完形	64.46	60.79	29.98	6.45	19.00	黒曜石	打面および右側縁に連続する二次加工が施される。打面部の調整は深く、円弧状の掻器刃部。右側縁の二次加工は深さ1－2mmで急角度となる。稜や縁辺が摩滅している	-	-
	M1-99-1-999-433-35	114	戦中	スクレイパー	削器	-	頭部	47.89	45.52	25.63	5.30	8.40	黒曜石	左側縁に連続する二次加工が施され、ゆるやかに外湾する。二次加工痕は深さ1－5mmで、重複する。右側縁はーか所がノッチ状に抉れる。下半部は平面からの折れによって欠損	-	-
	M1-99-1-999-433-36	114	戦中	スクレイパー	削器	-	完形	83.70	83.70	25.10	13.36	30.30	黒曜石	稜線や縁辺が丸く変形するほど器体全面が極度に円磨されている。縦長の素材および両側縁の二次加工痕が判断できるため、削器とした	-	-
	M1-99-1-999-433-37	114	戦中	スクレイパー	削器	-	頭部	49.61	45.48	28.30	7.32	18.60	頁岩	縦長剥片の右側縁に深さ1－3mmの剥離痕が連続する。背面は円摩された礫面。打面中央に打点がみられるが、バルブは発達しない。灰色の頁岩	-	-
	M1-99-1-999-433-38	114	戦中	磨製石斧	局部打製	局部打製	完形	131.74	131.78	48.25	17.62	220.50	頁岩	直方体となる偏平な自然礫を素材とし、両端から剥離を施すことで刃部を作出している。片側の刃部は円弧状である。反対側の刃部は端部が平滑な剥離面でありそこから両面への剥離がなさた状態であり、刃部整形が完了していない	「未完」のラベル	-
	M1-99-1-999-433-39	114	戦中	磨製石斧	局部打製	-	完形	215.36	215.36	72.26	42.17	719.10	砂岩	大型の棒状偏平礫を用いる。両端から両面にかけて急角度な剥離痕がみられる。より幅狭な端部には敲打によると思われるつぶれも認められる。幅広の方の端部は、側面がV字で尖る。剥片が1点接合する	「未完」のラベル	-
	M1-99-1-999-433-4	114	戦中	石槍	柳葉形	-	端部・縦半部欠損	57.16	49.14	37.74	5.62	14.20	黒曜石	器体奥まで入る調整剥離によって薄く仕上げられている。欠損面からも片面に再加工が一部施されている	-	-
	M1-99-1-999-433-40	114	戦中	磨製石斧	局部打製	-	完形	144.29	144.29	59.52	23.65	348.30	頁岩	撥型となる偏平な円礫の一端に階段状の剥離痕が施され、円弧状となる。反対のより狭い端部にも階段状の剥離痕が残される。偏平な礫の平滑な表面や方側縁には細かな擦痕が認められる	「未完」のラベル	-

PLATE	ID	旧所蔵NO	発掘時期	器種	器種細分類／形態／工程	大場(1957)、名取・大場(1964)の分類	部位	最大長(mm)	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石材	備考	遺物ラベル番号／その他	原典図版
	M1-99-1-999-433-41	114	戦中	磨製石斧	再加工	-	完形	104.82	104.83	49.05	21.72	185.80	頁岩	磨製石斧の刃部および側面側から両面に剥離が施されている。再整形の途上で放棄されたと推測される	「未完」のラベル	-
	M1-99-1-999-433-42	114	戦中	磨製石斧	再加工	-	完形	80.53	80.53	42.06	13.51	79.60	珪岩	研磨された両面に刃部からの剥離がなされている。刃部と対する基部側にも階段状の剥離痕あり。再整形途次で放棄された可能性あり	「未完」のラベル	-
	M1-99-1-999-433-43	114	戦中	磨製石斧	磨製石斧	-	中間部	60.48	60.66	47.99	10.29	25.80	頁岩	両面が研磨され凸レンズ状となる磨製石斧。片側縁は平坦に研磨されている。両端を大きく欠損する	-	-
	M1-99-1-999-433-44	114	戦中	擦痕のある礫	-	-	完形	111.34	111.34	30.95	12.62	76.80	頁岩	短軸方向に平行する細かな擦痕のある扁平な円礫。擦痕が残される前に磨製石斧の原材の可能性あり	ラベルあるが判読不能	-
	M1-99-1-999-433-45	114	戦中	二次加工剥片	-	-	完形	49.87	38.47	35.23	6.90	16.60	頁岩	背面に転礫面を残す横長剥片。主剥離面の右側縁に鋸歯縁状の剥離、末端部背面側に急角度の二次加工が施され、端部から右側縁にかけて立ち切られる	-	-
	M1-99-1-999-433-46	114	戦中	石核	-	-	完形	82.00	80.50	14.90	12.66	28.50	黒曜石	風化して光沢を消失した直方体の原石の一端に階段状の剥離痕を残す。風化した面には先行する剥離痕と考えられる剥離が上下から施されている	-	-
	M1-99-1-999-433-47	114	戦中	剥片	-	-	完形	63.16	46.12	28.68	4.71	12.90	黒曜石	転礫面打面	-	-
	M1-99-1-999-433-48	114	戦中	剥片	-	-	完形	55.79	55.31	27.84	6.34	13.40	黒曜石		-	-
	M1-99-1-999-433-5	114	戦中	石槍	不明	-	上半欠損	47.02	44.13	41.47	10.34	19.20	黒曜石	器体の半分以上を欠損。片面に素材の剥離面を残す。断面D字形。梨肌の黒曜石を利用。残存する端部の両端やや内湾するため、基部の作出を意図した可能性あり	-	-
	M1-99-1-999-433-6	114	戦中	石槍	柳葉形	-	先端欠損	76.94	76.95	39.39	9.44	28.80	黒曜石	先端部を大きく欠損する石槍。基部の末端は折れによって分離しているが、折れ面では完全に接合しない	「槍」の注記	-
	M1-99-1-999-433-7	114	戦中	石槍	柳葉形	-	半分欠損	69.60	66.52	41.97	14.85	37.90	黒曜石	両面調整の剥離痕は粗雑で、側縁からみた縁辺はジグザグとなり、横断面も凸レンズ状とならない。欠損した平坦な折面から片面へステップ・ターミネーションを呈する剥離あり。石槍の製作途上に欠損したと考えられる	「槍」の注記	-
68	M1-99-1-999-433-8	114	戦中	石槍	有茎	-	先端欠損	47.08	45.95	33.37	10.81	20.10	黒曜石	先端を含む上半部を大きく欠損する。基部は三角形にすぼまり、両側縁は平行する	「槍」の注記	-
	M1-99-1-999-433-9	114	戦中	石槍	不明	-	下半欠損	47.83	43.35	32.68	10.77	15.40	黒曜石	端部が先鋭となるため先端部と判断され、器体の下半部は大きく欠損。片面は平坦で断面D字形をなす	-	-
57	M1-99-1-999-434-1	115	戦中	磨製石斧	局部打製	局部打製	完形	104.25	104.25	48.55	16.35	127.30	安山岩	偏平な円礫の側面に敲打痕と階段状の剥離痕がみれら、幅広の端部にも剥離痕が残る。これらの剥離痕の稜線には摩耗した痕跡が見られる。端部の剥離は片側のみであり、石斧状の弧状の刃部が形成される。主面中央の灰色の転礫面の一部に赤色の斑が認められる	S913 安山岩	大場(1957)第13図
59	M1-99-1-999-434-10	115	戦中	磨製石斧	磨製／両刃	半打・半磨製	完形	97.48	97.48	48.24	11.31	108.30	片岩	器体の一部に剥離痕を残す両刃の磨製石斧。刃先は円弧状に外湾し、一部欠損する	S845 結晶片岩	大場(1957)第15図
59	M1-99-1-999-434-11	115	戦中	磨製石斧	磨製／両刃	半打・半磨製	完形	87.83	87.83	36.22	14.64	76.30	片岩	器体の一部に剥離痕を残す両刃の磨製石斧。側面からの剥離は階段状となる。刃先は直線で、一部欠損する	S847 結晶片岩	大場(1957)第15図
59	M1-99-1-999-434-12	115	戦中	磨製石斧	磨製／両刃	半打・半磨製	完形	87.76	87.76	35.35	12.91	73.40	ホルンフェルス	器体に剥離痕を残す両刃の磨製石斧。側面は階段状の剥離痕で構成され、高い部分に研磨痕がわずかに残る。刃先は直線で、一部欠損する	S848 ホルンフェルス	大場(1957)第15図
	M1-99-1-999-434-13	115	戦中	磨製石斧	磨製／両刃	半打・半磨製	完形	84.77	84.78	40.21	15.70	84.50	ホルンフェルス	器体の一部に剥離痕を残す両刃の磨製石斧。片側縁には器体に直交する平坦な研磨面を残すが、対する側縁の研磨面は階段状の剥離によって大部分が失われている。刃先は円弧状に外湾する	S849 ホルンフェルス	-
	M1-99-1-999-434-14	115	戦中	磨製石斧	磨製／両刃	半打・半磨製	完形	68.39	68.40	45.01	10.99	61.00	片岩	器体に剥離痕を残す両刃の磨製石斧。基端には敲打痕が残される	S850 藍閃石片岩	-

PLATE	ID	旧所蔵NO	発掘時期	器種	器種細分類／形態／工程	大場(1957)、名取・大場(1964)の分類	部位	最大長(mm)	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石材	備考	遺物ラベル番号／その他	原典図版
	M1-99-1-999-434-15	115	戦中	磨製石斧	磨製／両刃	半打・半磨製	欠損	75.63	75.63	40.53	11.56	58.00	粘板岩	器体に剥離痕を残す両刃の磨製石斧。刃先は円弧状に外湾するが、剥離によって欠損する。基端は破断面によって欠損する	S851 粘板岩	-
	M1-99-1-999-434-16	115	戦中	磨製石斧	磨製／両刃	半打・半磨製	完形	76.31	76.31	27.62	8.71	32.40	片岩	器体に剥離痕を残す両刃の磨製石斧。刃先は円弧状に外湾する	S852 結晶片岩	-
	M1-99-1-999-434-17	115	戦中	磨製石斧	磨製／両刃	半打・半磨製	完形	64.82	64.83	34.03	11.82	36.50	片岩	器体に剥離痕を残す両刃の磨製石斧。片側縁に平坦な研磨面あり。刃先は円弧状に外湾する	S853 輝緑片岩	-
59	M1-99-1-999-434-18	115	戦中	磨製石斧	磨製／両刃	半打・半磨製	完形	65.23	65.24	26.26	13.98	32.60	輝緑岩	器体に剥離痕を残す両刃の磨製石斧。小型品。刃先は円弧状に外湾する	S854 輝緑岩	大場(1957)第15図
	M1-99-1-999-434-19	115	戦中	磨製石斧	磨製／両刃	磨製(二類・両刃)	完形	77.30	77.30	37.38	24.89	114.40	泥岩	器体の一部に剥離痕を残す両刃の磨製石斧。側縁の平坦な研磨面は両面の研磨面に連続する。刃先は円弧状に外湾する。上半部を大きく欠損	S872 泥岩	-
57	M1-99-1-999-434-2	115	戦中	磨製石斧	局部打製	局部打製	完形	116.36	116.36	41.85	13.18	115.10	粘板岩	偏平な円礫の幅広な端部の片面に剥離が施され、石斧状の弧状の刃部が形成される	S914 粘板岩	大場(1957)第13図
	M1-99-1-999-434-20	115	戦中	磨製石斧	磨製／両刃	磨製(二類・両刃)	欠損	98.11	98.11	36.53	12.44	77.50	粘板岩	片面と方側縁を大きく欠損する磨製石斧。研磨は刃部を含め全面に及び、上半部では滑らかに丸みを帯びる	S875 粘板岩	-
	M1-99-1-999-434-21	115	戦中	磨製石斧	磨製／両刃	磨製(二類・両刃)	欠損	64.71	64.71	41.03	17.72	63.90	ホルンフェルス	器体に剥離痕を残す両刃の磨製石斧。片側縁は角がない程に円磨され、刃先は円弧状に外湾する。上半部を大きく欠損	S876 ホルンフェルス	-
	M1-99-1-999-434-22	115	戦中	磨製石斧	磨製／両刃	磨製(二類・両刃)	欠損	64.47	64.48	48.58	14.46	72.80	粘板岩	器体の一部に剥離痕・敲打痕を残す磨製石斧。刃先は円弧状に外湾する。上半部の欠損面は敲打による凹凸が顕著	S878 粘板岩	-
	M1-99-1-999-434-23	115	戦中	磨製石斧	磨製／両刃	磨製(二類・片刃)	欠損	76.37	76.37	48.85	21.80	131.90	片岩	器体の一部に剥離痕・敲打痕を残す磨製石斧。刃先は円弧状に外湾する。上半部を大きく欠損	S893 結晶片岩	-
63	M1-99-1-999-434-24	115	戦中	磨製石斧	磨製／両刃	磨製(二類・片刃)	完形	84.21	84.21	48.31	19.79	125.40	輝緑岩	器体の一部に剥離痕・敲打痕を残す磨製石斧。片側縁は平坦な研磨面、もう片側縁は敲打痕を残す。刃先は円弧状に外湾し、一部欠損	S894 輝緑岩	大場(1957)第19図
64	M1-99-1-999-434-25	115	戦中	磨製石斧	磨製／片刃	磨製(擦切式)	完形	109.75	109.75	45.32	26.40	227.00	輝緑岩	片刃の磨製石斧。片側面には擦切痕が残り、対する側面には敲打痕が残る。刃先は円弧状に外湾し、一部欠損	S897 輝緑岩	大場(1957)第20図
57	M1-99-1-999-434-3	115	戦中	磨製石斧	局部打製	局部打製	完形	98.44	98.44	35.61	10.31	68.50	粘板岩	偏平な円礫の全面に細かな研磨痕が残される。幅の広い端部から両面に剥離が施される。灰色と白が層状に折り重なる石材を使用	S963 珪質粘板岩	大場(1957)第13図
58	M1-99-1-999-434-4	115	戦中	磨製石斧	局部磨製	局部磨製	完形	89.76	89.76	33.20	32.67	90.10	粘板岩	偏平な円礫の幅広な端部が両面研磨され、直線の刃部が形成される。刃部の一部には深さ5mm未満の剥離痕が認められる	S836 粘板岩	大場(1957)第14図
58	M1-99-1-999-434-5	115	戦中	磨製石斧	局部磨製	局部磨製	完形	129.96	129.96	28.34	15.38	73.10	砂岩	長く偏平な礫の端部の両面に長軸方向に1.5cm程の研磨面を残す。ラベルは貼付されていないが、大場(1957)の実測図からS838であると判断した	S838	大場(1957)第14図
	M1-99-1-999-434-6	115	戦中	磨製石斧	-	局部磨製	完形	77.07	77.06	34.89	13.54	63.30	粘板岩	全面が円磨された偏平な撥型の石斧。幅広の端部が円弧状となる点や側面観がノミ状である点から磨製石斧であると判断した。大場(1957)では局部磨製に分類されている。	S839 粘板岩	-
	M1-99-1-999-434-7	115	戦中	磨製石斧	磨製／両刃	半打・半磨製	完形	226.45	226.45	58.84	18.88	519.10	輝緑岩	器体の大部分に剥離痕を残す両刃の磨製石斧。両側面に平坦な研磨面を残す。大型品。刃先は円弧状に外湾する	S840 輝緑岩	-
	M1-99-1-999-434-8	115	戦中	磨製石斧	磨製／両刃	半打・半磨製	完形	117.11	117.11	45.69	15.44	152.70	ホルンフェルス	素材整形時の剥離面を残すものの全面が研磨された両刃の磨製石斧	S842 ホルンフェルス	-
59	M1-99-1-999-434-9	115	戦中	磨製石斧	磨製／両刃	半打・半磨製	完形	99.41	99.41	46.54	20.35	149.80	橄欖岩	側面に敲打痕、器体の一部に剥離痕を残す両刃の磨製石斧。刃先は直線となる	S844 橄欖岩	大場(1957)第15図
	M1-99-1-999-435-1	116	戦中	磨製石斧	磨製／両刃	磨製(一類・両刃)	完形	98.60	98.60	44.02	17.06	136.50	片岩	器体の一部に剥離痕を残す両刃の磨製石斧。刃部は直線であるが、方側縁へと偏る「偏刃」(佐原1994: 117)	S857 結晶片岩	-
	M1-99-1-999-435-10	116	戦中	磨製石斧	磨製／片刃	磨製(一類・片刃)	完形	143.50	143.50	41.39	18.12	185.50	粘板岩	器体の一部に剥離痕を残す片刃の磨製石斧。刃先は円弧状に外湾する	S881 粘板岩	-
61	M1-99-1-999-435-11	116	戦中	磨製石斧	磨製／片刃	磨製(一類・片刃)	完形	118.20	118.20	45.23	12.26	138.20	粘板岩	器体の一部に剥離痕を残す片刃の磨製石斧。刃先は円弧状に外湾する。側面からみると刃部側にやや外湾する	S882 粘板岩	大場(1957)第17図
	M1-99-1-999-435-12	116	戦中	磨製石斧	磨製／片刃	磨製(一類・片刃)	完形	98.32	98.32	41.25	12.53	111.20	粘板岩	器体の一部に剥離痕を残す片刃の磨製石斧。刃先は円弧状に外湾し、偏刃となる	S883 粘板岩	-

PLATE	ID	旧所蔵NO	発掘時期	器種	器種細分類／形態／工程	大場(1957)、名取・大場(1964)の分類	部位	最大長(mm)	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石材	備考	遺物ラベル番号／その他	原典図版
	M1-99-1-999-435-13	116	戦中	磨製石斧	磨製／片刃	磨製(一類・片刃)	完形	88.94	88.94	39.15	14.55	96.20	泥岩	器体の一部に剥離痕を残す片刃の磨製石斧。刃先の形状は円弧状で外湾していたと推測されるが、片面に階段状の剥離痕が残され、直線となる	S884 チャート	-
61	M1-99-1-999-435-14	116	戦中	磨製石斧	磨製／片刃	磨製(一類・片刃)	完形	86.38	86.39	35.05	14.64	82.30	泥岩	全面が研磨された片刃の磨製石斧。刃部は直線	S885 チャート質粘板岩	大場(1957)第17図
	M1-99-1-999-435-15	116	戦中	磨製石斧	磨製／片刃	磨製(一類・片刃)	完形	66.18	66.18	32.43	10.44	39.50	凝灰質砂岩	全面が研磨された片刃の磨製石斧。刃部は直線だが、偏刃となる	S886 凝灰質砂岩	-
	M1-99-1-999-435-16	116	戦中	磨製石斧	磨製／片刃	磨製(一類・片刃)	完形	92.53	92.53	36.73	14.87	80.10	砂岩	全面が研磨された片刃の磨製石斧。刃部は円弧状に外湾する	S887 砂岩	-
61	M1-99-1-999-435-17	116	戦中	磨製石斧	磨製／片刃	磨製(一類・片刃)	完形	73.27	73.27	43.39	14.38	86.60	粘板岩	全面が研磨された片刃の磨製石斧。刃部は円弧状に外湾するが、偏刃となる	S888 粘板岩	大場(1957)第17図
	M1-99-1-999-435-18	116	戦中	磨製石斧	磨製／片刃	磨製(一類・片刃)	完形	61.82	61.87	33.80	13.91	53.50	泥岩	全面が研磨された片刃の磨製石斧。刃部は円弧状に外湾する	S889 チャート	-
61	M1-99-1-999-435-19	116	戦中	磨製石斧	磨製／片刃	磨製(一類・片刃)	完形	118.71	118.71	44.39	16.01	165.90	片岩	全面が研磨された片刃の磨製石斧。刃部は円弧状に外湾する	S890 藍閃石片岩	大場(1957)第17図
	M1-99-1-999-435-2	116	戦中	磨製石斧	磨製／両刃	磨製(一類・両刃)	完形	111.02	111.02	35.27	16.01	109.60	輝緑岩	器体の一部に剥離痕を残す両刃の磨製石斧。刃先は円弧状に外湾する	S858 輝緑岩	-
	M1-99-1-999-435-20	116	戦中	磨製石斧	磨製／片刃	磨製(一類・片刃)	完形	67.37	67.36	31.97	8.13	37.80	粘板岩	全面が研磨された片刃の磨製石斧。刃部は円弧状に外湾する	S891 粘板岩	-
60	M1-99-1-999-435-3	116	戦中	磨製石斧	磨製／両刃	磨製(一類・両刃)	完形	92.45	92.45	39.59	12.88	97.10	片岩	全面が研磨された両刃の磨製石斧。側面となり、横断面は長方形に近い。刃先は円弧状	S859 結晶片岩	大場(1957)第16図
	M1-99-1-999-435-4	116	戦中	磨製石斧	磨製／両刃	磨製(一類・両刃)	完形	91.74	91.74	35.49	18.34	115.80	珪質粘板岩	全面が研磨された両刃の磨製石斧。側面となり、横断面は長方形に近い。刃先は直線状	S860 珪質粘板岩	-
60	M1-99-1-999-435-5	116	戦中	磨製石斧	磨製／両刃	磨製(一類・両刃)	完形	69.32	69.32	36.14	12.84	65.70	粘板岩	全面が研磨された両刃の磨製石斧。側面となり、横断面は長方形に近い。刃先は円弧状	S861 珪質粘板岩	大場(1957)第16図
60	M1-99-1-999-435-6	116	戦中	磨製石斧	磨製／両刃	磨製(一類・両刃)	完形	102.24	102.24	39.38	17.82	139.50	粘板岩	全面が研磨された両刃の磨製石斧。側面となる横断面は長方形に近い。刃先は円弧状	S862	大場(1957)第16図
	M1-99-1-999-435-7	116	戦中	磨製石斧	磨製／両刃	磨製(一類・両刃)	完形	81.15	81.15	41.05	14.22	77.80	輝緑岩	全面が研磨された両刃の磨製石斧。刃部は直線であるが、片側縁へと偏る「偏刃」。片面に「十二百前アイヌ使用」の黒字注記あり	S864 輝緑岩	-
	M1-99-1-999-435-8	116	戦中	磨製石斧	磨製／両刃	磨製(一類・両刃)	完形	77.94	77.94	38.85	13.31	74.70	粘板岩	全面が研磨された両刃の磨製石斧。刃部は直線であるが、片側縁へと偏る偏刃	S865 千枚岩	-
	M1-99-1-999-435-9	116	戦中	磨製石斧	磨製／片刃	磨製(一類・片刃)	欠損	91.50	91.50	44.06	13.20	103.80	輝緑岩	全面が研磨された片刃の磨製石斧。刃部は直線	S866 輝緑岩	-
57	M1-99-1-999-436-1	117	戦中	磨製石斧	局部打製	局部打製	完形	106.92	106.92	46.34	21.40	181.10	粘板岩	偏平な円礫の側面に敲打痕と剥離痕がみれら、幅広の端部にも剥離痕が残り、円弧状に外湾する	S915 粘板岩	大場(1957)第13図
62	M1-99-1-999-436-10	117	戦中	磨製石斧	磨製／両刃	磨製(二類・両刃)	完形	104.31	104.31	47.60	26.81	254.30	片岩	器体の全面が研磨された両刃の石斧。刃部は直線	S869 藍閃石片岩	大場(1957)第18図
	M1-99-1-999-436-11	117	戦中	磨製石斧	磨製／両刃	磨製(二類・両刃)	完形	103.83	103.83	39.57	24.26	188.30	粘板岩	器体の全面が研磨された両刃の石斧。刃部は外湾し、中央部がやや先鋭となる	S870 粘板岩	-
	M1-99-1-999-436-12	117	戦中	磨製石斧	磨製／両刃	磨製(二類・両刃)	完形	115.46	115.46	39.45	22.34	173.70	砂岩	器体の全面が研磨された両刃の石斧。刃部は外湾し、偏刃となる。局部的に敲打痕が残される	S871 砂岩	-
	M1-99-1-999-436-13	117	戦中	磨製石斧	磨製／両刃	磨製(二類・両刃)	完形	81.48	81.48	32.88	16.79	77.50	凝灰質砂岩	器体の全面が研磨された両刃の石斧。刃部は円弧状に外湾する	S873 凝灰質砂岩	-
	M1-99-1-999-436-14	117	戦中	磨製石斧	磨製／両刃	磨製(二類・両刃)	欠損	117.19	117.19	53.15	26.64	305.90	片岩	自然面を多く残す円礫の全面に無数の擦痕が残される。刃部に相当すると思われる幅広の端部は階段状の剥離と敲打によって厚く直線的に立ち切られる	S874	-
62	M1-99-1-999-436-15	117	戦中	磨製石斧	磨製／両刃	磨製(二類・両刃)	完形	101.64	101.64	43.62	19.60	169.20	凝灰岩	側面と器体の一部に敲打痕を残す全面が研磨された磨製石斧。刃部は円弧状に外湾する	S877 ●●(輝緑)凝灰岩	大場(1957)第18図
62	M1-99-1-999-436-16	117	戦中	磨製石斧	磨製／両刃	磨製(二類・両刃)	完形	68.84	68.84	43.95	18.10	91.20	粘板岩	器体の全面が研磨された両刃の石斧。刃部は円弧状にやや外湾し、深さ5mm未満の剥離痕を残す	S879 「25」のラベル	大場(1957)第18図
62	M1-99-1-999-436-17	117	戦中	磨製石斧	磨製／両刃	磨製(二類・両刃)	完形	52.26	52.26	24.36	15.59	31.10	粘板岩	側面に敲打痕を残す両刃の磨製石斧。刃先は外湾する偏刃。小型品	S880 粘板岩	大場(1957)第18図
63	M1-99-1-999-436-18	117	戦中	磨製石斧	磨製／片刃	磨製(二類・片刃)	完形	83.96	83.96	39.18	19.78	116.30	粘板岩	側面に敲打痕を残す両刃の磨製石斧。刃先は外湾する偏刃	「S895 粘板岩」「15」	大場(1957)第19図
63	M1-99-1-999-436-19	117	戦中	磨製石斧	磨製／片刃	磨製(二類・片刃)	完形	98.49	98.49	37.27	17.64	123.30	砂岩	側面と背面の一部に敲打痕を残す片刃の磨製石斧。刃部は円弧状に外湾する	S896 砂岩	大場(1957)第19図

PLATE	ID	旧所蔵NO	発掘時期	器種	器種細分類／形態／工程	大場(1957)、名取・大場(1964)の分類	部位	最大長(mm)	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石材	備考	遺物ラベル番号／その他	原典図版
	M1-99-1-999-436-2	117	戦中	磨製石斧	局部磨製	局部磨製	完形	149.64	149.64	61.54	20.95	424.60	粘板岩	偏平な円礫の幅広な端部が両面研磨され、円弧状の外湾する刃部が形成される。両刃になるが、片面では段となる。片側縁に偏る偏刃となる	S834 粘板岩	-
64	M1-99-1-999-436-20	117	戦中	磨製石斧	磨製／両刃	磨製（擦切式）	完形	78.82	78.82	37.18	22.23	135.40	輝緑岩	両側縁がほぼ直角に研磨された両刃の磨製石斧。横断面が長方形となる。片側面に擦切痕が残る。刃部は円弧状となるが、偏刃	S898 輝緑岩	大場(1957)第20図
65	M1-99-1-999-436-21	117	戦中	磨製石斧	磨製／両刃	磨製（三類・有角）	完形	114.52	114.52	45.16	28.84	262.40	安山岩	器体中央の側面に突起をもつ角柱状の磨製石斧。刃部両面は刃先からの剥離によって欠損する	S912 安山岩	大場(1957)第23図
	M1-99-1-999-436-3	117	戦中	磨製石斧	局部磨製	局部磨製	完形	150.44	150.44	66.25	15.62	353.70	粘板岩	偏平な円礫の幅広な端部が両面研磨され、円弧状の外湾する刃部が形成される。器体の自然面にも細かな擦痕がみられる	S835 粘板岩	-
58	M1-99-1-999-436-4	117	戦中	磨製石斧	局部磨製	局部磨製	完形	106.68	106.68	49.04	15.18	141.60	粘板岩	偏平な円礫の幅広な端部が両面研磨され、円弧状の外湾する刃部が形成される。片側縁に偏る偏刃となる。刃部の反対の端部から大きな階段状の剥離が残される	S855 粘板岩	大場(1957)第14図
	M1-99-1-999-436-5	117	戦中	磨製石斧	局部磨製	半打・半磨製	完形	172.90	172.90	52.44	16.65	262.20	粘板岩	器体に剥離痕を残し、刃部を中心に研磨された両刃の磨製石斧。刃部は円弧状に外湾する	S841 粘板岩	-
	M1-99-1-999-436-6	117	戦中	磨製石斧	磨製／両刃	半打・半磨製	完形	92.56	92.56	48.16	15.90	120.60	片岩	器体の一部に剥離痕を残す両刃の石斧。刃部は直線	S843 結晶片岩	-
	M1-99-1-999-436-7	117	戦中	磨製石斧	磨製／両刃	磨製（一類・両刃）	完形	108.80	108.80	36.69	13.74	99.80	片岩	器体の全面が研磨された両刃の石斧。刃部は円弧状に外湾する	S863 藍閃石片岩	-
	M1-99-1-999-436-8	117	戦中	磨製石斧	磨製／片刃	磨製（一類・片刃）	完形	76.04	76.04	29.80	13.13	61.40	粘板岩	器体の全面が研磨された両刃の石斧。側面が直角となり、横断面は四角形となる。刃部は円弧状に外湾する	S900 珪質粘板岩	-
	M1-99-1-999-436-9	117	戦中	磨製石斧	磨製／両刃	磨製（二類・両刃）	完形	87.72	87.72	33.22	21.97	111.60	粘板岩	側面に敲打痕を残す両刃の磨製石斧。刃先は外湾する偏刃。器体下半部は斜めの折れ面により大きく欠損する	S867 粘板岩	-
	M1-99-1-999-437-1	118	戦中	磨製石斧	磨製／両刃	半打・半磨製	完形	92.63	92.63	48.03	17.29	122.60	ホルンフェルス	器体中央の側面に突起をもつ角柱状の磨製石斧。刃部両面は刃先からの剥離によって欠損する	S846 ホルンフェルス	-
	M1-99-1-999-437-2	118	戦中	磨製石斧	磨製／両刃	磨製（三類・普遍形）	完形	149.65	149.65	41.81	38.10	395.70	安山岩	敲打痕を残すものの、全面が研磨された角柱状の磨製石斧。器体中央から刃部が形成される。刃先から片面にかけて研磨面が壊され凹凸のある面となる。被熱による破砕の影響の可能性あり	S902 安山岩	-
64	M1-99-1-999-437-3	118	戦中	磨製石斧／敲石	磨製／両刃	磨製（三類・普遍形）	欠損	118.58	118.58	42.22	28.47	210.20	安山岩	横断面が楕円となる磨製石斧。刃部から側面にかけて破損。基端には平滑な礫面の上に敲打された痕跡があり、敲石としても利用された可能性がある。主面中央に短軸方向の細い溝が連続する。装着痕跡の可能性がある	S903 安山岩	大場(1957)第21図
	M1-99-1-999-437-4	118	戦中	磨製石斧	磨製／両刃	磨製（三類・普遍形）	完形	165.35	165.35	58.16	36.27	556.40	安山岩	側面に敲打痕を残し、器面が平滑に研磨された磨製石斧。刃部は研磨面を切る剥離痕が残される	S904 安山岩	-
	M1-99-1-999-437-5	118	戦中	磨製石斧	磨製／片刃	磨製（三類・普遍形）	完形	143.12	143.12	55.30	40.51	607.80	輝緑岩	敲打痕を多く残す角柱状の磨製石斧。刃部の研磨痕を切る剥離がみられる	S905 輝緑岩	-
	M1-99-1-999-437-6	118	戦中	磨製石斧	磨製／片刃	磨製（三類・普遍形）	完形	124.41	124.41	60.35	34.33	483.80	輝緑岩	整形時の敲打痕を多く残す角柱状の磨製石斧。器体中央から刃部にかけて研磨面が形成されている。刃部は剥離によって一部欠損し、側面と主面の一部に抉れたような痕跡が残る	S906 輝緑岩	-
	M1-99-1-999-437-7	118	戦中	磨製石斧	磨製／両刃	磨製（三類・普遍形）	完形	90.04	90.04	39.52	27.71	174.80	玄武岩	整形時の敲打痕を多く残す角柱状の両刃の磨製石斧	S907 粗粒玄武岩	-
	M1-99-1-999-437-8	118	戦中	磨製石斧	磨製／両刃	磨製（三類・普遍形）	完形	90.85	90.85	41.58	25.33	179.90	安山岩	主面の一部に敲打痕を残す両刃の磨製石斧	S908 安山岩	-
65	M1-99-1-999-437-9	118	戦中	磨製石斧	磨製／両刃	磨製（三類・抉入）	完形	130.21	130.21	47.56	38.60	405.20	凝灰岩	器体上半部に敲打による抉りが短軸方向に器体を1周する。装着のための抉りの可能性あり。主面中央付近から刃部が形成される	S911 輝緑凝灰岩	大場(1957)第23図
67	M1-99-1-999-455-1	548	戦中	石錘	抉溝を有するもの	石錘	完形	164.00	147.00	130.00	94.00	2000.00	安山岩	楕円形の転礫の長軸方向に幅2cm、深さ1.5cmの溝を入れた石錘。器体を切る亀裂があることと全面が赤褐色を呈することから被熱している可能性がある	S978	大場(1957)第26図

PLATE	ID	旧所蔵NO	発掘時期	器種	器種細分類／形態／工程	大場(1957)、名取・大場(1964)の分類	部位	最大長(mm)	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石材	備考	遺物ラベル番号／その他	原典図版
	M1-99-1-999-455-2	548	戦中	石錘	未成品	石錘	欠損	101.00	101.00	100.00	80.00	480.00	砂岩	転礫の一端の両面に対となる径4cmの円形の窪みがみられる。穿孔途中で放棄した石錘の未成品と考えられる。器体の半分以上が欠損によって失われている	－	－
	M1-99-1-999-455-3	548	戦中	石錘	未成品	石錘	完形	189.00	189.00	106.00	90.00	2000.00	安山岩	楕円形の転礫の一端の両面に対となる径4cmの円形の窪みがみられる。穿孔途中で放棄した石錘の未成品と考えられる	S975	－
	M1-99-1-999-456-1	548	戦中	石錘	抉溝を有するもの	石錘	完形	190.00	180.00	136.00	94.00	3.00	安山岩	楕円形の転礫の長軸方向に幅2cm、深さ0.5cmの溝を入れた石錘	S977	－
67	M1-99-1-999-458-1	549	戦中	石錘	抉溝を有するもの	石錘	完形	194.00	194.00	120.00	67.00	2383.00	安山岩	器体中央を通る短軸に平行する溝がめぐる石錘	S970（第26図では976と記載）	大場(1957)第26図
	M1-99-1-999-458-2	549	戦中	石錘	抉溝を有するもの	石錘	欠損	104.00	90.00	95.00	77.00	928.00	安山岩	器体の長軸と短軸に沿って十字の溝を入れた石錘。器体下半部が溝の部分から失われている	S982	－
	M1-99-1-999-458-3	549	戦中	石錘	穿孔を有するもの	石錘	完形	202.00	202.00	110.00	108.00	2807.00	安山岩	上端に穿孔をもつ大形の石錘。器体に擦れた痕跡をもつ平面が残される。磨石としても用いられた可能性あり	－	－
	M1-99-1-999-458-4	549	戦中	石錘	穿孔を有するもの	石錘	完形	144.00	144.00	95.00	77.00	1063.00	砂岩	上端に穿孔のある石錘。ただし穿孔が人為によるかは明確ではなく、浸食に伴って穴部が形成されたいわゆる虫食い石の可能性がある。器体全面は風化によって脆くなっている	－	－
	M1-99-1-999-458-5	549	戦中	石錘	抉溝を有するもの	石錘	完形	122.00	122.00	78.00	64.00	760.00	安山岩	楕円形の器体の一端に短軸方向にめぐる溝が作られた石錘。この溝に直交する長軸方向に細い溝があるが、端部まではめぐらない	－	－
	M1-99-1-999-459-1	550	戦中	石鏃	不明	－	先端のみ	18.70	13.24	12.51	2.00	17.20	黒曜石	剥片縁辺の微細な剥離によって先端部を作出しようとしている	－	－
	M1-99-1-999-459-10	550	戦中	二次加工剥片	－	－	頭部	19.98	18.84	12.47	2.20	0.90	頁岩	主剥離面の打面付近および右側縁に深さ1mmの微細な剥離痕が連続する	－	－
	M1-99-1-999-459-11	550	戦中	石核	－	－	完形	28.60	22.62	19.61	13.51	8.81	黒曜石	小円礫を素材とし、剥片を剥離	－	－
	M1-99-1-999-459-12	550	戦中	石核	－	－	完形	41.46	41.46	26.54	8.78	8.90	頁岩	寸詰まりの剥片が多方向から剥離された小型の両面石核	－	－
	M1-99-1-999-459-13	550	戦中	石核	－	－	中間部	29.86	29.86	23.60	7.58	5.00	メノウ	薄手の礫の両面に剥離痕が残された両面石核。両面調整による定型石器（石槍など）への加工途次の可能性もある	－	－
	M1-99-1-999-459-14	550	戦中	剥片	－	－	末端	66.83	66.70	21.38	11.26	17.55	黒曜石		－	－
	M1-99-1-999-459-15	550	戦中	剥片	－	－	完形	33.28	33.28	25.11	18.45	13.39	黒曜石		－	－
	M1-99-1-999-459-16	550	戦中	剥片	－	－	完形	38.79	38.79	21.18	8.25	6.68	黒曜石		－	－
	M1-99-1-999-459-17	550	戦中	剥片	－	－	末端	24.57	24.57	18.28	5.59	2.80	黒曜石		－	－
	M1-99-1-999-459-18	550	戦中	剥片	－	－	頭部	37.42	30.16	15.17	7.26	5.82	黒曜石		－	－
	M1-99-1-999-459-19	550	戦中	剥片	－	－	頭部	25.05	22.92	16.56	3.94	1.67	黒曜石		－	－
	M1-99-1-999-459-2	550	戦中	両面調整石器	－	－	完形	104.46	104.46	49.36	25.63	99.20	頁岩	両面に剥離痕をもつ厚手の両面調整石器。縁辺に微細な剥離が重複する。片面に対向する縁辺まで届く剥離痕（overshot）がみられる。もう片面に礫面を残す。石槍への加工途次でスクレイパーなどへ転用された可能性あり	－	－
	M1-99-1-999-459-20	550	戦中	剥片	－	－	頭部	33.20	33.20	32.14	6.73	6.56	黒曜石	被熱	－	－
	M1-99-1-999-459-21	550	戦中	剥片	－	－	完形	41.95	41.95	25.18	6.51	8.40	頁岩	末端が先鋭となる三角形の剥片	－	－
	M1-99-1-999-459-22	550	戦中	剥片	－	－	完形	32.93	30.62	31.75	4.54	5.90	頁岩	背面が転礫面となる寸詰まりの剥片	－	－
	M1-99-1-999-459-23	550	戦中	剥片	－	－	縦半部欠損	42.26	42.26	16.70	9.57	8.10	頁岩	末端が先鋭となる剥片。左半部を主剥離面からの急角度の打撃による剥離によって欠損する	－	－
	M1-99-1-999-459-24	550	戦中	剥片	－	－	完形	45.75	39.74	28.22	9.01	14.90	チャート	末端がヒンジ・ターミネーションとなる末広がりの剥片。赤色の良質チャートを用いる	－	－
	M1-99-1-999-459-25	550	戦中	剥片	－	－	頭部	39.39	39.40	27.98	11.18	14.00	チャート	乳白色と赤色がまだらに入るチャートを素材とする	－	－
	M1-99-1-999-459-26	550	戦中	剥片	－	－	頭部	30.54	30.54	21.41	9.46	6.40	メノウ	剥片内部に割れが多数みられる。主剥離面の下半部が平坦な節理面。円礫面の打面。乳白色の半透明なメノウを用いる。半透明な面と白濁した面が分かれている	－	－
	M1-99-1-999-459-27	550	戦中	剥片	－	－	完形	28.61	23.76	21.13	3.29	4.40	メノウ	転礫面残す	－	－
	M1-99-1-999-459-28	550	戦中	剥片	－	－	完形	42.52	31.80	30.87	5.30	9.00	頁岩	背面は転礫面	－	－
	M1-99-1-999-459-29	550	戦中	剥片	－	－	縦半部欠損	35.82	35.06	17.70	2.62	2.10	玉髄		－	－

PLATE	ID	旧所蔵NO	発掘時期	器種	器種細分類／形態／工程	大場(1957)、名取・大場(1964)の分類	部位	最大長(mm)	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石材	備考	遺物ラベル番号／その他	原典図版
	M1-99-1-999-459-3	550	戦中	スクレイパー	削器	－	完形	52.81	52.81	35.62	10.72	25.00	頁岩	石核の90度打面転移によって剥離された剥片を素材とし、片側縁にやや張り出す円弧状の刃部を作出。主剥離面のバルブ付近の厚めの部分が打面からの剥離によって除去されている	－	－
	M1-99-1-999-459-30	550	戦中	剥片	－	－	完形	19.28	16.43	14.89	5.86	1.70	チャート	暗赤色の良質チャート	－	－
	M1-99-1-999-459-31	550	戦中	剥片	－	－	末端	21.32	21.32	12.16	7.16	1.50	泥岩	背面に礫面を残す	－	－
	M1-99-1-999-459-32	550	戦中	砥石	－	砥石	欠損	55.15	55.15	42.59	7.26	19.30	砂岩	両面が平滑に研磨された薄手の砥石。両面の線状痕は多方向。側面の一端にも一方向の平行する線状痕が見られる	－	－
	M1-99-1-999-459-35	550	戦中	石核	－	－	完形	49.23	49.23	34.63	19.82	43.7	メノウ	円礫をバイポーラーによって半割	－	－
	M1-99-1-999-459-36	550	戦中	石核	－	－	欠損	32.29	32.29	26.43	15.03	16.4	メノウ	円礫の平坦な面に剥離痕あり	－	－
	M1-99-1-999-459-37	550	戦中	石核	－	－	完形	45.61	33.48	42.25	21.85	45.4	メノウ	赤色チャートの転礫を素材とし、分割面に1枚の剥離面あり	－	－
	M1-99-1-999-459-4	550	戦中	スクレイパー	削器	－	下半欠損	43.44	38.11	39.06	12.62	24.30	頁岩	右側縁に素材剥片の厚さと同等な深さの急角度な二次加工が連続する	－	－
	M1-99-1-999-459-5	550	戦中	スクレイパー	削器	－	打面・縦半部欠損	46.94	46.94	16.27	7.86	8.70	頁岩	左側縁に深さ1－4mmの二次加工が連続し円弧状の刃部を作出する	－	－
	M1-99-1-999-459-6	550	戦中	剥片	－	石刃形石器	完形	48.24	46.36	20.95	2.30	5.50	頁岩	背面に剥離された剥片石核の主剥離面を残す縦長剥片。わずかに背面側へ凸に湾曲する	－	－
	M1-99-1-999-459-7	550	戦中	剥片	－	石刃形石器	完形	51.84	49.75	18.74	4.25	6.10	頁岩	左側縁が末端で末広がりとなる縦長剥片	－	－
	M1-99-1-999-459-8	550	戦中	二次加工剥片	－	－	完形	50.83	31.26	32.51	8.25	15.44	黒曜石	主剥離面の右側縁に二次加工あり	－	－
	M1-99-1-999-459-9	550	戦中	二次加工剥片	－	－	完形	41.34	41.34	18.37	5.94	5.80	頁岩	縁辺と末端に深さ1mmの微小な剥離が残される。背面中央の稜が摩滅する	－	－
	M1-99-1-999-460-1	550	戦中	円石	－	円石	完形	56.48	56.48	49.26	36.14	138.30	頁岩	自然礫	S924	－
	M1-99-1-999-460-11	550	戦中	円石	－	円石	完形	32.51	32.51	28.36	21.81	27.40	頁岩	自然礫	S934	－
	M1-99-1-999-460-12	550	戦中	円石	－	円石	完形	29.17	29.17	27.50	23.29	20.10	チャート	自然礫、表面はクルミの果皮のような凹凸をもつ	S935	－
	M1-99-1-999-460-14	550	戦中	円石	－	円石	完形	18.30	18.30	16.55	14.91	6.00	頁岩	自然礫、小礫(pebble)	－	－
	M1-99-1-999-460-2	550	戦中	円石	－	円石	完形	51.15	51.15	38.80	39.17	109.90	頁岩	自然礫	S925	－
	M1-99-1-999-460-3	550	戦中	円石	－	円石	完形	46.78	46.78	45.50	41.96	128.40	頁岩	自然礫	S926	－
	M1-99-1-999-460-4	550	戦中	円石	－	円石	完形	50.33	50.38	45.09	27.73	89.00	頁岩	自然礫	S927	－
	M1-99-1-999-460-5	550	戦中	円石	－	円石	完形	42.26	42.26	37.69	30.99	70.00	チャート	自然礫	S928	－
	M1-99-1-999-460-8	550	戦中	円石	－	円石	完形	36.09	36.09	33.05	26.65	39.30	流紋岩	自然礫(赤褐色に黒の縞入る)	S931	－
	M1-99-1-999-460-9	550	戦中	円石	－	円石	完形	35.22	35.22	31.61	30.68	43.90	砂岩	自然礫	S932	－
	M1-99-1-999-461-1	550	戦中	石刀	－	石刀(刀形打砕器)	完形	386.00	386.00	70.25	30.83	1203.00	緑色泥岩	自然面を大きく残す長大な原石を素材とする。一端に研磨面があり、表面に擦痕が残る	S920 粘板岩	
	M1-99-1-999-463-1	550	戦中	砥石	－	砥石	完形	340.00	340.00	124.45	38.66	2687.70	砂岩	片面中央が窪み、平滑となる。器体長軸方向の擦痕が見られる。右側縁は剥離によって整形されている。90°に立ち切られたように割れた左側面は凹凸を残すものの、平滑となることから、側面も研磨されたことがうかがえる。全体的に赤褐色を呈する	S964 砂岩	－
68	M1-99-1-999-463-2	550	戦中	砥石	－	砥石	完形	262.57	262.57	152.45	25.55	1776.10	砂岩	偏平な礫の両面に全面的に擦痕(縦横斜め方向)が残される。灰色の砂岩を利用	S965 砂岩	－
68	M1-99-1-999-463-3	550	戦中	砥石	－	砥石	完形	241.01	240.01	85.97	45.27	1502.50	砂岩	平滑な片面は広範囲にわたって研磨されており、器体長軸方向の条痕が確認される。対する片面は研磨によって平滑となる面は少なく、幅1－3mm間隔で器体長軸方向に条痕がみられる。この研磨面には径1.5cm程の窪みが数か所確認できる。左側面は平坦な研磨面で、中央には幅5mm、長さ15cmの細い溝が残される。刀子などの鉄製品の刃の研磨に用いられた可能性が考えられる	S966 珪質砂岩	－
	M1-99-1-999-463-4	550	戦中	砥石	－	砥石	欠損	177.73	177.73	76.41	32.40	826.50	砂岩	直方体に近い円礫の一面に研磨面を残す。節理が発達する砂岩を利用	S967 砂岩	－
	M1-99-1-999-463-5	550	戦中	砥石	－	砥石	欠損	174.88	174.88	59.16	25.89	620.60	砂岩	M1-99-1-999-463-4と同様、直方体に近い円礫の一面に研磨面を残す。長軸方向の擦痕(長さ5mm程)が側面と接する部分に見られる。節理が発達する砂岩を利用	S968 砂岩	－

PLATE	ID	旧所蔵NO	発掘時期	器種	器種細分類／形態／工程	大場(1957)、名取・大場(1964)の分類	部位	最大長(mm)	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石材	備考	遺物ラベル番号／その他	原典図版
	M1-99-1-999-463-6	550	戦中	砥石	−	砥石	完形	116.50	116.50	34.79	33.41	273.60	珪質砂岩	4面が研磨され直方体を呈する砥石。研磨面は面全体に及び、内湾する。「金属器の磨研に使用したと思われる痕跡を有する」(大場1957:205)の記載あり。赤褐色で葉理の発達する珪質の堆積岩	S969 珪岩	−
	M1-99-1-999-71-1	50	戦中	砥石	−	砥石	完形	234.00	236.00	159.00	108.00	6,500.00	多孔質安山岩	ドーム型を呈する大形の砥石。偏平な面に擦り面を有し、反対の外湾する自然面の中央部にも擦り面が残される。器体は上下に割れ、接合する	−	−
	M1-99-1-999-72-1	51	戦中	石斧	石斧素材	−	完形	204.00	204.00	128.00	105.00	3,000.00	ロジン岩	擦切り技法によって石斧を切り出した研磨痕を残す大形の礫。石材は縄文早期に多用されるロジン岩(変成岩)	−	−
	M1-99-1-999-72-2	51	戦中	石錘	抉溝を有するもの	石錘	完形	166.00	160.00	142.00	79.00	2,896.00	安山岩	平面が円形の器体の長軸と短軸に沿って十字の溝を入れた石錘	S980	−
	M1-99-1-999-72-3	51	戦中	石錘	抉溝を有するもの	石錘	完形	158.00	155.00	110.00	90.00	2,244.00	安山岩	楕円形の器体の長軸と短軸に沿って十字の溝を入れた石錘。長軸の溝の一端には溝よりも深い窪み(長さ3cm、幅5cm)がある。窪みは両面に2箇所対となる	S981	−
	M1-99-1-999-72-4	51	戦中	石錘	未成品	石錘	完形	102.00	102.00	97.00	90.00	1,015.00	砂岩	敲打によって円形に整形した石錘。一端に対となる2つの窪みが突起を挟んで位置する	S974	−
66	M1-99-99-999-462-1	550	戦中	敲石	磨製	敲石(石槌)／斧形	完形	140.06	140.06	53.38	27.92	342.10	凝灰岩	斧形の直方体で両端が面を構成。端部および接する側面部に敲打痕あり。片面はよく研磨されている	S938	大場(1957)第25図
66	M1-99-99-999-462-2	550	戦中	敲石	磨製	敲石(石槌)／斧形	完形	126.50	126.50	50.79	38.92	382.40	石英粗面岩	全面が研磨され、中央および正面と裏面が張り出す角柱状を呈する。側面は幅2.5cmの平坦な研磨面であり、表裏面とはほぼ直角に接する。両端には敲打によるつぶれが見られる。大場(1957)では斧形の敲石(石槌)と分類される	S939	−
65	M1-99-99-999-462-3	550	戦中	磨製石斧	敲打まで	敲石(石槌)	完形	125.15	125.15	57.57	28.73	318.10	安山岩	明確な研磨痕がないものの、敲打によって全体が斧形に形作られることから、磨製石斧の未成品と判断される	S940	大場(1957)第25図
	M2-1-1-092-235-1	58	戦後	剥片	−	−	完形	37.11	19.44	13.00	4.64	3.83	黒曜石	転礫面打面	−	−
	M2-1-1-094-236-2	58	戦後	剥片	−	−	縦半部欠損	30.93	27.55	16.55	5.26	3.45	黒曜石	転礫面打面	−	−
	M2-1-1-094-236-3	58	戦後	剥片	−	−	頭部	23.08	16.07	11.46	2.73	0.75	黒曜石		−	−
	M2-1-1-094-236-4	58	戦後	剥片	−	−	頭部	20.17	17.74	9.25	4.56	1.16	黒曜石		−	−
	M2-1-1-095-299-5	60	戦後	剥片	−	−	末端	17.80	17.80	10.82	4.10	0.49	黒曜石		−	−
	M2-1-1-095-299-6	60	戦後	石鏃	−	−	−	16.31	16.31	9.32	2.44	0.46	黒曜石	両面に加工のある外湾する刃部をもつ欠損した石器。両面調整と器体の薄さから石鏃と分類	−	−
	M2-1-1-095-299-7	60	戦後	剥片	−	−	頭部	14.60	14.60	7.64	3.60	0.22	黒曜石		−	−
	M2-1-1-095-299-8	60	戦後	剥片	−	−	頭部	10.29	9.71	4.98	1.33	0.10	黒曜石		−	−
	M2-1-1-095-299-9	60	戦後	剥片	−	−	末端	9.19	9.19	8.23	1.08	0.10	黒曜石		−	−
	M2-1-1-098-229-2	58	戦後	砕片	−	−	−	−	−	−	−	0.06	黒曜石	4点の砕片。重量は4点の総計	−	−
	M2-1-1-102-311-1	60	戦後	剥片	−	−	完形	32.04	24.51	16.76	3.93	3.37	黒曜石	転礫面を残す	−	−
	M2-1-1-102-311-2	60	戦後	剥片	−	−	完形	30.78	22.99	10.40	2.85	1.01	黒曜石		−	−
	M2-1-1-102-311-3	60	戦後	剥片	−	−	頭部	26.28	23.52	13.08	3.28	1.00	黒曜石	転礫面を残す	−	−
	M2-1-1-102-311-4	60	戦後	剥片	−	−	末端	20.55	20.55	15.16	2.73	1.13	黒曜石	転礫面を残す	−	−
	M2-1-1-102-311-5	60	戦後	剥片	−	−	完形	19.42	16.81	11.41	5.06	1.45	黒曜石	転礫面を残す	−	−
	M2-1-1-104-314-1	60	戦後	石鏃	無茎	−	先端欠損	16.39	16.39	7.68	1.70	0.33	黒曜石		−	−
	M2-1-1-110-316-1	60	戦後	砕片	−	−	完形	5.06	4.61	3.07	0.58	0.02	黒曜石		−	−
	M2-1-1-110-316-2	60	戦後	砕片	−	−	完形	5.56	4.19	4.69	0.65	0.01	黒曜石		−	−
	M2-1-1-999-26-11	45	戦後	石鏃	不明	−	先端のみ	11.96	11.51	9.64	2.60	0.10	黒曜石	両側縁からの剥離が中央で収束。断面凸レンズ状	−	−
	M2-1-1-999-29-10	45	戦後	スクレイパー	削器	−	完形	62.64	62.64	52.15	12.27	31.70	黒曜石		−	−
	M2-1-1-999-29-11	45	戦後	二次加工剥片	−	−	完形	38.88	35.51	32.79	12.62	14.80	黒曜石	背面に細かい二次加工が施される	−	−
	M2-2-1-101-307-1	60	戦後	剥片	−	−	縦半部欠損	36.83	36.83	17.07	8.57	8.08	黒曜石	転礫面を残す	−	−
95	M2-2-1-101-308-1	60	戦後	石鏃	無茎	石鏃(人骨No.15に伴う副葬品)	完形	40.23	34.81	17.22	2.55	1.80	黒曜石	基部にえぐりあり	M.人.15	名取・大場(1964) Fig.8-15
	M2-2-1-999-241-49	59	戦後	剥片	−	−	完形	24.87	24.19	15.21	5.65	2.10	黒曜石	ステップ・ターミネーションとなる寸詰まり剥片	−	−
	M2-2-1-999-25-8	45	戦後	剥片	−	−	完形	27.15	24.00	20.62	3.69	2.40	黒曜石	礫打面あり	−	−

PLATE	ID	旧所蔵NO	発掘時期	器種	器種細分類／形態／工程	大場(1957)、名取・大場(1964)の分類	部位	最大長(mm)	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石材	備考	遺物ラベル番号／その他	原典図版
	M2-2-1-999-406-1	109	戦後	石鏃	有茎	－	完形	34.82	34.82	12.16	3.92	1.50	黒曜石		－	－
	M2-2-1-999-406-2	109	戦後	スクレイパー	削器	－	頭部	54.81	54.81	23.63	8.07	16.00	黒曜石	両側縁の連続する二次加工は末端へ向けて収斂する	－	－
	M2-2-1-999-406-3	109	戦後	スクレイパー	削器	－	頭部	40.90	40.90	27.59	8.89	11.10	黒曜石		－	－
	M2-2-1-999-406-4	109	戦後	剥片	－	－	末端	53.50	53.50	21.30	10.91	14.30	黒曜石		－	－
	M2-2-1-999-408-1	109	戦後	被熱(発泡)した黒曜石	－	－	－	50.73	50.73	31.13	14.39	23.30	黒曜石	原形を留めない程に被熱した黒曜石の石器もしくは原石。表面には深くヒビが入り、一部は剥落する。ざらつきをもつ表面は褐色で、内部は白色となる	－	－
95	M2-2-1-999-409-1	109	戦後	石槍	有茎	－	完形	50.11	50.11	30.48	7.76	7.80	安山岩	基部をもつ薄手の石槍。縁辺からの調整剥離は器体中央へ及ばずステップ・ターミネーションとなる	－	－
	M2-2-1-999-418-1	109	戦後	石鏃	柳葉形	－	完形	21.56	21.56	8.81	2.56	0.70	黒曜石		－	－
	M2-3-1-254-404-1	109	戦後	石鏃	柳葉形	－	基部欠損	41.73	41.73	13.45	3.20	1.60	頁岩	器体中央付近で最大幅をもつ柳葉形の石鏃。基部の末端を欠損する	－	－
	M2-3-1-999-395-10	107	戦後	石鏃	有茎	－	上下端欠損	23.21	19.71	10.18	3.01	0.70	黒曜石	上下両端を欠損し、器体中央部のみ残す。形態的には、M2-99-99-999-244-2に似る	－	－
	M2-3-1-999-395-11	107	戦後	両面調整石器	未成品	－	完形	104.07	104.07	55.18	23.81	190.00	頁岩	両面に剥離痕が残される両面調整石器。縁辺の剥離痕の稜が鋭利なのに対し、大部分の稜は摩耗する。鋭利な稜をと接する剥離面はその他の表面と色が異なる。再利用されたと考えられる	－	－
	M2-3-1-999-395-12	107	戦後	スクレイパー	掻器	－	完形	57.77	49.70	42.31	8.51	28.10	黒曜石	素材剥片は発達したバルブをもち、打面を残す。全周に二次加工が施される。素材剥片の末端に直線の刃部が作られる	－	－
97	M2-3-1-999-395-13	107	戦後	石匙	削器	－	中間部	64.32	64.32	39.20	10.02	20.40	黒曜石	素材剥片の両側縁に内湾する刃部を作り出す。末端の刃部は側縁に直行するが左半部を欠損する。形態はM2-4-1-999-361-14と似る	－	－
97	M2-3-1-999-395-14	107	戦後	磨製石斧	未成品	－	欠損	105.68	105.68	98.21	36.74	442.60	緑色泥岩	両面が平滑に研磨された緑色の泥岩。片面の中央にV字状の溝(深さ約10mm)があり、縁辺近くにも平行する浅い溝が残されている。片側縁も研磨によって平滑な面となり、上下の溝にはさまれた2cm程の範囲は擦切りによって切り取られたと推測される。石斧製作のための擦切り工程を示す資料	－	－
	M2-3-1-999-395-15	107	戦後	剥片	－	－	中間部	32.31	32.31	7.63	2.21	0.80	黒曜石		－	－
	M2-3-1-999-395-6	107	戦後	石槍	有茎	石槍	先端欠損	30.85	27.31	20.22	5.76	2.60	黒曜石	端部へ向かってすぼまる。両面ともに大きく素材剥離面を残す	－	－
	M2-3-1-999-395-7	107	戦後	石鏃	未成品	－	半分欠損	26.50	22.69	21.77	4.19	2.70	黒曜石	片面に素材面を残す。素材面の端部がステップ・ターミネーションとなり、未調整の状態である	－	－
	M2-3-1-999-395-8	107	戦後	石鏃	有茎	－	完形	39.71	39.72	12.78	2.64	2.20	黒曜石	片面には先端からの長い剥離が調整を切るネガティブ面となって残される	－	－
	M2-3-1-999-395-9	107	戦後	石鏃	有茎	－	完形	35.61	35.61	12.27	3.93	1.40	黒曜石	器体中央に肩部が片側のみとなる左右非対称をなす	－	－
	M2-3-1-999-410-3	109	戦後	石鏃	有茎	－	完形	35.64	35.64	11.47	3.08	1.30	黒曜石	縁辺から器体中央へ入念な調整が施される	－	－
	M2-3-1-999-410-4	109	戦後	石鏃	有茎	－	完形	34.47	34.47	10.89	3.21	1.10	黒曜石	器体中央で肩部が張り出す。茎部の付け根には側縁からノッチ上の抉りあり	－	－
	M2-3-1-999-410-5	109	戦後	石鏃	有茎	－	完形	31.33	31.33	12.64	2.30	1.00	黒曜石		－	－
	M2-3-1-999-410-6	109	戦後	石鏃	柳葉形	－	完形	30.21	30.21	13.62	2.58	0.90	黒曜石		－	－
	M2-3-1-999-410-7	109	戦後	石鏃	有茎	－	完形	31.64	31.64	13.64	4.56	1.20	頁岩	基部が三角形で先鋭となる	－	－
	M2-3-1-999-410-8	109	戦後	石鏃	有茎	－	完形	27.60	27.60	9.56	2.35	0.60	頁岩	基部が三角形で先鋭となる。片面に素材面を残す	－	－
	M2-4-1-999-360-1	99	戦後	石鏃	柳葉形	－	基部欠損	30.79	30.48	14.79	5.99	2.80	黒曜石	縁辺に微細な調整剥離。ステップ・ターミネーション	－	－
	M2-4-1-999-360-10	99	戦後	剥片	－	－	中間部	37.09	37.09	9.36	3.32	2.12	黒曜石		－	－
	M2-4-1-999-360-2	99	戦後	石鏃	未成品	－	上下端欠損	26.50	22.57	16.35	2.63	1.10	黒曜石	片面に大きく素材剥片の剥離面を残す	－	－
	M2-4-1-999-360-3	99	戦後	石鏃	未成品	－	基部・側縁欠損	47.93	46.69	10.24	4.15	2.80	黒曜石	側縁からの大きめの剥離によって器体を整形。先端と基部側の側縁の一部に微細な調整あり	－	－
	M2-4-1-999-360-4	99	戦後	スクレイパー	削器	－	先端のみ	32.68	32.68	18.59	5.54	2.99	黒曜石	つまみ付きナイフの先端(二次加工部)	－	－
	M2-4-1-999-360-5	99	戦後	スクレイパー	削器	－	完形	76.66	70.56	43.55	8.64	30.52	黒曜石	腹面左側縁に深さ3－5mmの離痕が連続的に施される。転礫面打面	－	－
	M2-4-1-999-360-6	99	戦後	楔形石器	－	－	完形	22.93	18.94	18.06	5.65	2.33	黒曜石		－	－

PLATE	ID	旧所蔵NO	発掘時期	器種	器種細分類／形態／工程	大場(1957)、名取・大場(1964)の分類	部位	最大長(mm)	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石材	備考	遺物ラベル番号／その他	原典図版
	M2-4-1-999-360-7	99	戦後	剥片	-	-	末端	47.08	47.08	22.53	4.34	4.60	黒曜石	背面にポジティブ面を残す剥片	-	-
	M2-4-1-999-360-8	99	戦後	剥片	-	-	完形	46.31	45.84	18.43	5.15	3.96	黒曜石		-	-
	M2-4-1-999-360-9	99	戦後	剥片	-	-	頭部	41.21	39.84	16.21	3.35	2.48	黒曜石		-	-
99	M2-4-1-999-361-10	99	戦後	石鏃	有茎	石鏃	完形	28.72	28.72	12.88	4.74	1.50	黒曜石	被熱によって黒曜石の光沢消失	上.9	名取・大場(1964) Fig.1-9
99	M2-4-1-999-361-11	99	戦後	石鏃	無茎	石銛先	基部欠損	31.78	29.99	19.22	3.92	2.80	黒曜石	基部はやや内湾。基部の一端が欠損するが、ほぼ完形	M.上.10	名取・大場(1964) Fig.1-11
99	M2-4-1-999-361-12	99	戦後	石鏃	無茎	石銛先	先端欠損	35.93	32.86	18.21	2.82	2.50	黒曜石	先端が欠損するが、ほぼ完形。基部はやや内湾	-	名取・大場(1964) Fig.1-10
100	M2-4-1-999-361-13	99	戦後	石匙	縦長	縦型削器	下端欠損	50.94	50.94	23.92	5.19	7.36	黒曜石	素材剥片の打点側を基部とする	M.上.15	名取・大場(1964) Fig.1-14
100	M2-4-1-999-361-14	99	戦後	石匙	縦長	ノッチ	上端欠損	49.63	49.63	16.13	5.40	7.76	黒曜石	素材剥片の側面に内湾する刃部を作出	M.上.17	名取・大場(1964) Fig.1-17
100	M2-4-1-999-361-15	99	戦後	スクレイパー	削器	縦型削器	末端	63.82	63.82	30.54	7.54	16.82	黒曜石	腹面の打面側に調整が施される。右側縁は直刃、左側縁は外湾する	M.上.14	名取・大場(1964) Fig.1-15
100	M2-4-1-999-361-16	99	戦後	スクレイパー	削器	縦型削器	完形	86.13	84.31	19.60	6.16	14.51	黒曜石	両側縁は剥離痕が密に入る部分で内湾する。末端部は剥離によって円弧状をなす。石刃素材	M.上.16	名取・大場(1964) Fig.1-16
100	M2-4-1-999-361-17	99	戦後	スクレイパー	掻器	円形削器	完形	34.41	31.47	25.05	7.01	6.52	黒曜石	寸詰まりの剥片の末端から左側縁にかけて連続する二次加工が施され、円弧状の刃部をなす	M.上.18	名取・大場(1964) Fig.1-18
100	M2-4-1-999-361-18	99	戦後	磨製石斧	磨製／両刃	石斧	完形	63.13	62.28	23.46	11.09	32.08	緑色泥岩	両刃。小型。片側面に敲打・擦切痕あり	M.上.19	名取・大場(1964) Fig.1-19
99	M2-4-1-999-361-3	99	戦後	石槍	無茎	石槍	基部欠損	108.21	107.85	31.62	9.48	35.90	黒曜石	「モヨロ貝塚上層出土品」(名取・大場1964)。下半部側縁がわずかに張り出すものの、緩やかに基部へと収束する柳葉形。基部が折れによってわずかに欠損する	M.上.12	名取・大場(1964) Fig.1-12
99	M2-4-1-999-361-4	99	戦後	石槍	無茎	石槍	基部のみ	71.84	63.00	47.18	9.29	33.30	黒曜石	「モヨロ貝塚上層出土品」(名取・大場1964)。上半部を欠損した基部のみの大型の石槍。入念な調整によって側縁がややすぼまる平基となる。断面は凸レンズ状	M.上.13	名取・大場(1964) Fig.1-13
99	M2-4-1-999-361-5	99	戦後	石鏃	有茎	石鏃	基部欠損	38.11	37.83	12.99	2.97	1.90	黒曜石	先端と茎部の端部を欠損。上層出土品	M.上.4	名取・大場(1964) Fig.1-4
99	M2-4-1-999-361-6	99	戦後	石鏃	有茎	石鏃	完形	27.13	27.13	13.59	3.82	1.10	黒曜石	上層出土品	上.6	名取・大場(1964) Fig.1-5
99	M2-4-1-999-361-7	99	戦後	石鏃	有茎	石鏃	完形	27.75	27.75	10.01	3.05	1.00	黒曜石	先端をわずかに欠損する	上.7	名取・大場(1964) Fig.1-6
99	M2-4-1-999-361-8	99	戦後	石鏃	有茎	石鏃	上下端欠損	24.83	22.35	12.58	3.19	1.10	黒曜石	両端ともに折損部付近の縁辺に抉りがある。幅の狭い方の折損部の抉りは再加工による	M.上.5	名取・大場(1964) Fig.1-7
99	M2-4-1-999-361-9	99	戦後	石鏃	有茎	石鏃	基部欠損	24.09	23.56	10.99	3.07	0.90	黒曜石	片面中央に素材剥離面を残す	-	名取・大場(1964) Fig.1-8
	M2-4-1-999-365-2	100	戦後	被熱(発泡)した黒曜石	-	-	欠損	50.08	50.07	25.93	19.57	2.87	黒曜石	熱を受けて発泡した黒曜石。発泡前は剥片と推測される	-	-
	M2-4-1-999-366-2	100	戦後	剥片	-	-	完形	52.36	39.42	37.76	9.69	17.79	黒曜石	転礫面を打面とする横長の剥片	-	-
	M2-4-1-999-370-1	101	戦後	石槍	有茎	-	基部のみ	39.97	28.43	39.97	7.08	10.10	黒曜石	器体の大部分を欠損した弧状の基部。折れ面を含む縁辺や稜線が全体的に摩耗する	-	-
	M2-4-1-999-370-2	101	戦後	石槍	有茎	-	基部のみ	38.42	35.29	24.14	6.08	6.10	黒曜石	末端へ向かってすぼまる長い基部。片面に素材剥離面を残す半両面調整	-	-
	M2-4-1-999-370-3	101	戦後	石鏃	有茎	-	先端欠損	24.02	21.24	15.83	3.48	1.30	黒曜石	茎部のみ	-	-
	M2-4-1-999-370-4	101	戦後	石鏃	不明	-	先端のみ	24.32	21.61	16.74	3.37	1.10	黒曜石	器体中央で欠損	-	-

PLATE	ID	旧所蔵NO	発掘時期	器種	器種細分類／形態／工程	大場(1957)、名取・大場(1964)の分類	部位	最大長(mm)	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石材	備考	遺物ラベル番号／その他	原典図版
	M2-4-1-999-370-5	101	戦後	石鏃	不明	−	先端のみ	19.62	17.25	15.86	3.75	0.70	黒曜石	折面は夾雑物から欠損	−	−
	M2-4-1-999-370-6	101	戦後	石鏃	不明	−	先端のみ	20.18	17.34	12.17	3.90	0.70	黒曜石	片面の一部に素材剥片の剥離面を残す	−	−
	M2-4-1-999-370-7	101	戦後	スクレイパー	削器	−	末端	81.55	81.55	52.32	10.52	41.04	黒曜石	背面に礫面を大きく残す末端が広がる剥片を素材とし、左側縁に連続する二次加工が施される	−	−
	M2-4-1-999-370-8	101	戦後	二次加工剥片	−	−	末端	45.40	45.40	30.64	8.10	8.13	黒曜石	背面はポジティブ面。末端に微細な剥離あり	−	−
	M2-4-1-999-370-9	101	戦後	剥片	−	−	末端	29.14	29.14	11.07	3.60	1.42	黒曜石	背面に連続する深い剥離痕を残す調整剥片	−	−
	M2-4-1-999-372-1	101	戦後	石鏃	有茎	−	完形	36.31	36.31	11.49	3.96	1.50	黒曜石	注記（下6）からは下層出土品。名取・大場(1964)の図版には当該物の写真なし	下6	−
99	M2-4-1-999-372-10	101	戦後	石鏃	無茎	石箆	完形	34.26	33.47	16.26	3.02	3.00	黒曜石	先端が先鋭とならず厚みをもつ。名取・大場(1964)では石箆と分類されている	下15	名取・大場(1964) Fig.5-15
100	M2-4-1-999-372-11	101	戦後	スクレイパー	掻器	端削器	完形	57.25	57.25	14.38	4.55	6.02	黒曜石	両側縁および稜線が平行する石刃を素材とし、左側縁から末端および右側縁から打面部にかけて連続する微小な二次加工が施される。末端および打面側は二次加工によって急角度となり、器体中央に対して上下対称な形態を呈する	下16	名取・大場(1964) Fig.5-16
100	M2-4-1-999-372-12	101	戦後	スクレイパー	削器	縦型削器	完形	79.92	79.92	25.93	8.86	18.96	黒曜石	縦長剥片の左側縁に不規則な小剥離が見られる。背面一部に転礫面を残す。打面欠損	下17	名取・大場(1964) Fig.5-17
99	M2-4-1-999-372-2	101	戦後	石鏃	有茎	石鏃	完形	30.51	30.51	11.98	3.06	1.00	黒曜石	肩部の片側が欠損	下7	名取・大場(1964) Fig.5-7
99	M2-4-1-999-372-3	101	戦後	石鏃	有茎	石鏃	完形	31.23	31.23	12.37	3.03	1.30	黒曜石	下層出土品	下8	名取・大場(1964) Fig.5-6
99	M2-4-1-999-372-4	101	戦後	石鏃	有茎	石鏃	完形	32.25	32.25	11.18	2.92	0.90	黒曜石		下9	名取・大場(1964) Fig.5-9
99	M2-4-1-999-372-5	101	戦後	石鏃	有茎	石鏃	完形	30.43	30.43	11.84	2.75	0.80	黒曜石		下10	名取・大場(1964) Fig.5-10
99	M2-4-1-999-372-6	101	戦後	石鏃	有茎	石鏃	先端欠損	26.27	25.23	11.75	2.30	0.90	黒曜石	片面の器体中央に素材剥離面を残す。素材剥離面の中央は先端からの剥離によって段となる	下11	名取・大場(1964) Fig.5-11
99	M2-4-1-999-372-7	101	戦後	石鏃	有茎	石鏃	完形	15.93	15.93	8.61	2.63	0.30	黒曜石	有茎部は肩部からすぼまる小型石鏃	下12	名取・大場(1964) Fig.5-12
99	M2-4-1-999-372-8	101	戦後	石鏃	無茎	石鏃	完形	18.73	14.39	13.28	3.06	0.50	黒曜石	基部に抉りが3か所あり、左右対称。形状が特殊	下13	名取・大場(1964) Fig.5-13
99	M2-4-1-999-372-9	101	戦後	石鏃	有茎	石鏃	完形	21.86	21.86	11.06	3.10	0.70	頁岩	寸詰まりの小型の石鏃	下14	名取・大場(1964) Fig.5-14
	M2-4-1-999-374-1	102	戦後	石鏃	有茎	−	先端欠損	20.84	18.00	15.40	3.20	1.90	黒曜石	側縁がすぼまる方の側縁に抉りがあることから、基部と判断される。器体上半部を大きく欠損。素材は薄手の剥片	−	−
	M2-4-1-999-374-10	102	戦後	スクレイパー	削器	−	末端	35.34	35.34	19.27	2.62	2.58	黒曜石	ヒンジ・ターミネーションとなる剥片を素材とし、右側縁の下部に二次加工が施される。上半部（打面側）は背面からの折れによって欠損	−	−
	M2-4-1-999-374-11	102	戦後	剥片	−	−	完形	31.80	31.80	20.97	3.44	2.00	チャート	明暗のある緑色がまだらに入るチャート	−	−
	M2-4-1-999-374-12	102	戦後	剥片	−	−	完形	29.02	26.51	21.42	4.85	2.98	黒曜石	転礫面打面	−	−
	M2-4-1-999-374-13	102	戦後	剥片	−	−	頭部	26.98	25.12	12.58	3.39	1.48	黒曜石	転礫面打面	−	−
	M2-4-1-999-374-14	102	戦後	剥片	−	−	頭部	21.64	14.74	20.50	2.51	0.77	黒曜石	転礫面打面	−	−
	M2-4-1-999-374-15	102	戦後	剥片	−	−	末端	15.04	14.30	10.46	5.86	1.00	黒曜石	背面に転礫面残す	−	−
	M2-4-1-999-374-2	102	戦後	石槍	有茎	−	上下端欠損	21.80	19.70	18.18	4.22	1.60	黒曜石	ステップ・ターミネーションとなる粗い調整によって整形されている。肩部がやや張り出す	−	−
	M2-4-1-999-374-3	102	戦後	石鏃	無茎	−	先端欠損	27.13	17.16	20.18	3.35	1.90	黒曜石	基部は先端方向への剥離によって薄く調整され、内湾する。先端を大きく欠損する	−	−
	M2-4-1-999-374-4	102	戦後	石鏃	有茎	−	基部欠損	18.35	18.35	10.04	3.11	0.50	黒曜石	片側からの剥離によって基部をわずかに欠損する。肩部の下にわずかな抉りが入る	−	−

PLATE	ID	旧所蔵NO	発掘時期	器種	器種細分類／形態／工程	大場(1957)、名取・大場(1964)の分類	部位	最大長(mm)	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石材	備考	遺物ラベル番号／その他	原典図版
	M2-4-1-999-374-5	102	戦後	石鏃	不明	−	先端のみ	26.88	20.79	14.98	5.25	1.40	黒曜石	両面に素材剥離面を残すものの、縁辺から連続する調整は器体中央まで及び、尖頭状となる	−	−
	M2-4-1-999-374-6	102	戦後	石鏃	未成品	−	半分欠損	25.54	23.30	11.39	4.15	1.30	黒曜石	片面に素材剥離面を残す。片側縁は側面からみた縁辺が直線とならないことから、未成品ととらえられる	−	−
	M2-4-1-999-374-7	102	戦後	石鏃	有茎	−	基部のみ	15.56	13.88	14.12	4.05	0.70	黒曜石	三角形状にすぼまる基部。器体本体は欠損	−	−
	M2-4-1-999-374-8	102	戦後	スクレイパー	削器	−	完形	39.13	36.52	25.85	6.42	7.33	黒曜石	素材剥片の左側縁から末端にかけて円弧状の二次加工が施される。右側縁の下部は二次加工によって2か所が内湾する。右側縁上半部は折れによって欠損。背面に一部岩屑面を残す	−	−
	M2-4-1-999-374-9	102	戦後	スクレイパー	削器	−	中間部	30.72	30.72	10.90	5.27	2.32	黒曜石	右側縁に二次加工あり。左側面は屈曲した折れとなり、光沢の強い面をもつ。被熱による破砕の可能性あり	−	−
	M2-4-1-999-375-1	102	戦後	剥片	−	−	縦半部欠損	61.04	61.05	16.79	8.15	14.62	黒曜石	転礫面を打面とする縦長の剥片	−	−
	M2-4-1-999-375-2	102	戦後	剥片	−	−	末端	15.63	15.63	12.14	1.23	0.27	黒曜石		−	−
100	M2-4-1-999-377-10	102	戦後	スクレイパー	掻器	円形削器	完形	41.63	38.65	39.76	10.66	16.60	黒曜石	素材剥片の打面を残し、全周に二次加工が施され、円形となる掻器	中11	名取・大場(1964) Fig.3-11
100	M2-4-1-999-377-4	102	戦後	スクレイパー	無茎／周縁加工	縦型削器	完形	51.59	49.95	20.85	7.18	8.50	黒曜石	下部に素材となる縦長剥片の打面を残し、側縁に急角度の調整を施し、先端を尖らす	中10	名取・大場(1964) Fig.3-10
99	M2-4-1-999-377-5	102	戦後	石鏃	有茎	石鏃	基部欠損	29.11	28.28	8.22	3.46	1.00	黒曜石	第3層(貝殻層)出土品	中5	名取・大場(1964) Fig.3-5
99	M2-4-1-999-377-6	102	戦後	石鏃	有茎	石鏃	完形	22.71	22.71	11.91	3.13	0.70	黒曜石	茎部は肩部からすぼまり三角形となる。第3層(貝殻層)出土品	中6	名取・大場(1964) Fig.3-6
100	M2-4-1-999-377-7	102	戦後	スクレイパー	削器	縦型削器	完形	70.32	65.06	26.36	6.06	17.30	黒曜石	石刃を素材とし、平行する両側面に二次加工が両面に施される。全体的に黒曜石の光沢が弱く、背面稜線と打面の周縁が摩耗する	中7	名取・大場(1964) Fig.3-7
100	M2-4-1-999-377-8	102	戦後	スクレイパー	削器	縦型削器	末端欠損	62.18	56.49	25.55	7.65	15.70	黒曜石	石刃を素材とし、平行する両側M2-4-1-999-377-7と同じ特徴をもつ。石刃を素材とし、平行する両側面に二次加工が両面に施される。全体的に黒曜石の光沢が弱く、背面稜線と打面の周縁が摩耗する	中8	名取・大場(1964) Fig.3-8
100	M2-4-1-999-377-9	102	戦後	スクレイパー	削器	縦型削器	完形	53.57	52.25	22.92	4.35	7.80	黒曜石	縦長剥片の周縁に連続する二次加工が両面に施される。打面および背面中央に平坦な礫面を残す	中9	名取・大場(1964) Fig.3-9
100	M2-4-1-999-386-1	104	戦後	磨製石斧	磨製／両刃	石斧	完形	67.83	67.83	26.80	12.38	42.80	緑色泥岩	両刃。小型。敲打・擦切痕あり	M.貝.12(文中ではM.中.12)	名取・大場(1964) Fig.4-12
100	M2-4-1-999-386-2	104	戦後	磨製石斧	磨製／両刃	石斧	完形	159.47	159.47	58.60	35.21	569.30	安山岩	両刃の磨製石斧。器体全面に整形時の敲打痕があり、片面の中央に擦り減った面が形成され、凹面となる。刃部と反対の端部には両面からの剥離痕あり	M.貝.13(文中ではM.中.13)	名取・大場(1964) Fig.4-13
100	M2-4-1-999-386-3	104	戦後	磨製石斧	磨製／両刃	石斧	完形	111.12	111.12	42.29	25.65	227.20	砂岩	両刃。整形時の敲打痕あり	M.貝.14(文中ではM.中.14)	名取・大場(1964) Fig.4-14
100	M2-4-1-999-386-4	104	戦後	磨製石斧	磨製／両刃	石斧	両端部欠損	89.41	84.71	50.94	27.70	198.80	緑色泥岩	両刃。側面には整形時の敲打痕あり	M.貝.15(文中ではM.中.15)	名取・大場(1964) Fig.4-15
	M2-5-1-248-325-1	61	戦後	石槍	不明	−	基部欠損	59.56	57.18	34.43	8.71	21.70	黒曜石	器体中央より奥まで延びる大きな剥離と縁辺部の急角度な小剥離によって特徴づけられる。断面D字となり、背面側に礫面(岩屑面)を残す	−	−
	M2-5-1-248-325-2	61	戦後	石核	−	−	完形	63.24	30.54	58.52	9.84	33.52	黒曜石	横長剥片を素材とし、主剥離面に剥離痕を残す石核	−	−
	M2-5-1-248-325-3	61	戦後	剥片	−	−	頭部	57.80	44.41	35.20	9.20	20.90	黒曜石		−	−
	M2-5-1-248-325-4	61	戦後	剥片	−	−	頭部	48.53	40.36	29.67	10.19	15.27	黒曜石	転礫面を残す横長剥片	−	−
	M2-5-1-248-325-5	61	戦後	剥片	−	−	縦半部欠損	38.60	29.90	29.19	6.79	6.50	黒曜石		−	−
	M2-5-1-248-331-76	63	戦後	剥片	−	−	頭部	55.00	52.96	47.15	8.41	22.00	黒曜石	背面が転礫面となる剥片	−	−

PLATE	ID	旧所蔵NO	発掘時期	器種	器種細分類／形態／工程	大場(1957)、名取・大場(1964)の分類	部位	最大長(mm)	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石材	備考	遺物ラベル番号／その他	原典図版
	M2-5-1-248-331-77	63	戦後	剥片	－	－	頭部	51.61	50.27	29.71	9.64	15.26	黒曜石		－	－
	M2-5-1-248-331-78	63	戦後	剥片	－	－	完形	35.06	31.91	19.74	6.34	4.11	黒曜石	転礫面を打面とする	－	－
	M2-5-1-248-331-79	63	戦後	剥片	－	－	頭部	28.32	19.99	15.38	5.38	2.99	黒曜石	転礫面を打面とする横長の剥片。打面と接する腹面に凹凸がみられる	－	－
	M2-5-1-248-331-80	63	戦後	剥片	－	－	完形	23.67	23.67	7.43	6.74	2.42	黒曜石		－	－
	M2-5-1-248-333-189	63	戦後	スクレイパー	削器	－	末端	70.79	70.80	33.62	12.49	36.82	黒曜石	背面が転礫面となる厚手の剥片を素材とし、主剥離面の右側縁に背面から厚手の刃部を作出する	－	－
	M2-5-1-248-333-190	63	戦後	スクレイパー	削器	－	末端	60.25	60.25	19.82	2.39	6.54	黒曜石	縦長剥片の右側縁に深さ2mmの連続する剥離をもつ縦型の削器	－	－
	M2-5-1-248-333-191	63	戦後	スクレイパー	削器	－	末端	51.64	51.64	26.17	5.24	10.57	黒曜石	縦長剥片の側縁に二次加工が施された縦型の削器	－	－
	M2-5-1-248-333-192	63	戦後	スクレイパー	削器	－	中間部	31.88	31.88	17.13	8.98	5.10	黒曜石	主剥離面の右側縁に深さ約5mmの連続する二次加工を残す。器体上下を大きく欠損	－	－
	M2-5-1-248-333-193	63	戦後	二次加工剥片	－	－	完形	50.99	49.10	28.56	12.12	19.69	黒曜石	剥片の左側縁に不連続な二次加工が残る。背面に転礫面を残す	－	－
	M2-5-1-248-333-194	63	戦後	二次加工剥片	－	－	完形	53.22	40.91	28.17	9.45	20.06	黒曜石	主剥離面の左側縁に内湾する二次加工あり。打面に転礫面を大きく残す	－	－
	M2-5-1-248-333-195	63	戦後	二次加工剥片	－	－	完形	63.67	62.03	12.54	2.06	5.02	黒曜石	側縁が平行しないが石刃の範疇となる縦長剥片。打面と背面に岩屑面を残す。ヒンジ・ターミネーション	－	－
	M2-5-1-248-333-196	63	戦後	石核／二次加工剥片	－	－	完形	49.44	40.47	45.19	10.95	22.51	黒曜石	バルブが発達した剥片の主剥離面側に小型剥片の剥離痕を残す。背面左側縁は二次加工によって外湾する。背面に転礫面を残す	－	－
	M2-5-1-248-333-197	63	戦後	石核	－	－	完形	84.67	84.99	29.57	18.02	67.55	黒曜石	転礫面を残す剥片石核。素材剥片の主剥離面側に横長剥片の剥離痕を残す	－	－
	M2-5-1-248-333-198	63	戦後	石核	－	－	完形	38.33	38.33	24.95	14.25	17.19	黒曜石	岩屑面を残す剥片石核。小型の寸詰まり剥片が両面から剥離される	－	－
	M2-5-1-248-333-199	63	戦後	剥片	－	－	完形	67.84	65.37	35.43	12.81	27.76	黒曜石	末端がすぼまる三角形の剥片。打面は転礫面	－	－
	M2-5-1-248-333-200	63	戦後	剥片	－	－	縦半部欠損	50.16	47.24	32.40	10.22	19.45	黒曜石		－	－
	M2-5-1-248-333-201	63	戦後	剥片	－	－	完形	57.31	35.53	22.60	16.01	18.40	黒曜石	転礫面を打面とする横長剥片。ヒンジ・ターミネーション	－	－
	M2-5-1-248-333-202	63	戦後	剥片	－	－	完形	42.84	42.84	39.10	8.78	14.61	黒曜石	ウートラパッセとなる末広がりの剥片	－	－
	M2-5-1-248-333-203	63	戦後	剥片	－	－	頭部	45.27	36.05	28.38	7.35	12.0	黒曜石	厚い打面を幅広の剥片	－	－
	M2-5-1-248-333-204	63	戦後	剥片	－	－	頭部	45.04	28.58	18.61	8.29	8.89	黒曜石	転礫面を打面とする横長の剥片。下半部を大きく欠損	－	－
	M2-5-1-248-333-205	63	戦後	剥片	－	－	完形	43.72	43.72	33.98	3.31	5.16	黒曜石		－	－
	M2-5-1-248-333-206	63	戦後	剥片	－	－	末端	44.26	44.26	27.87	5.85	7.23	黒曜石	左側面に転礫面をとりこむ	－	－
	M2-5-1-248-333-207	63	戦後	剥片	－	－	完形	38.43	29.11	37.07	5.38	7.71	黒曜石	転礫面を打面とする剥片	－	－
	M2-5-1-248-333-208	63	戦後	剥片	－	－	末端	32.78	32.78	23.47	8.53	6.87	黒曜石		－	－
	M2-5-1-248-333-209	63	戦後	剥片	－	－	完形	35.17	31.06	24.50	7.90	5.85	黒曜石	背面に転礫面を残す寸詰まり剥片	－	－
	M2-5-1-248-333-210	63	戦後	剥片	－	－	完形	29.06	24.09	25.32	7.52	4.32	黒曜石		－	－
	M2-5-1-248-333-211	63	戦後	剥片	－	－	頭部	24.60	21.80	18.37	4.72	2.02	黒曜石		－	－
	M2-5-1-248-333-212	63	戦後	剥片	－	－	完形	20.47	13.98	13.81	2.61	0.67	黒曜石		－	－
	M2-5-1-248-333-213	63	戦後	剥片	－	－	末端	13.55	12.42	4.69	3.75	0.24	黒曜石		－	－
	M2-5-1-999-397-1	108	戦後	スクレイパー	掻器	－	打点部欠損	51.20	51.20	29.83	8.16	10.80	黒曜石	素材剥片の両側縁から末端にかけて二次加工が施され、刃部は弧状となる	－	－
	M2-5-1-999-397-2	108	戦後	二次加工剥片	－	－	頭部	51.27	48.95	29.52	3.06	7.30	黒曜石	背面の先行剥離面は素材石核の主剥離面を取り込んでいる	－	－
	M2-5-1-999-401-1	108	戦後	石槍	柳葉形	－	上半欠損	76.60	76.64	35.32	11.43	26.60	黒曜石	上半部を大きく欠損する石槍。全面が被熱よって光沢を消失	－	－
	M2-5-1-999-401-2	108	戦後	剥片	－	－	完形	40.16	36.86	32.87	8.41	10.50	黒曜石		－	－
	M2-6-1-224-300-2	60	戦後	二次加工剥片	－	－	完形	41.60	36.69	35.10	8.77	15.00	黒曜石	背面打面部付近に転礫面を残す	－	－
	M2-6-1-224-300-3	60	戦後	剥片	－	－	中間部	21.09	21.09	15.33	13.14	2.50	黒曜石	剥片だったと推測されるが、元の形状を留めないまでに発泡した黒曜石	－	－
	M2-6-1-224-300-4	60	戦後	剥片	－	－	末端	24.94	25.36	12.10	3.94	1.16	黒曜石	被熱	－	－
	M2-99-1-999-420-10	110	戦後	石鏃	無茎	－	完形	36.37	32.44	17.19	4.80	2.90	黒曜石	基部が内湾する	－	－
	M2-99-1-999-420-11	110	戦後	石鏃	有茎	－	完形	38.82	38.82	10.53	4.31	1.70	黒曜石	先端は三角となり、器体中央の側縁は平行する	－	－
	M2-99-1-999-420-12	110	戦後	石鏃	有茎	－	完形	36.87	36.87	11.55	3.26	1.50	黒曜石		－	－
	M2-99-1-999-420-13	110	戦後	石鏃	有茎	－	完形	35.81	35.81	12.50	4.01	1.70	黒曜石		－	－

PLATE	ID	旧所蔵NO	発掘時期	器種	器種細分類／形態／工程	大場(1957)、名取・大場(1964)の分類	部位	最大長(mm)	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石材	備考	遺物ラベル番号／その他	原典図版
	M2-99-1-999-420-14	110	戦後	石鏃	有茎	−	完形	36.89	36.89	13.55	3.35	1.60	黒曜石		−	−
	M2-99-1-999-420-15	110	戦後	石鏃	有茎	−	基部欠損	32.60	32.60	10.28	3.17	1.30	黒曜石	茎部の末端をわずかに欠損	−	−
	M2-99-1-999-420-16	110	戦後	石鏃	有茎	−	基部欠損	32.90	32.90	12.54	3.99	1.70	黒曜石	茎部の末端をわずかに欠損	−	−
	M2-99-1-999-420-17	110	戦後	石鏃	有茎	−	基部欠損	33.07	33.07	11.19	2.73	1.20	黒曜石	茎部の末端を欠損	−	−
	M2-99-1-999-420-18	110	戦後	石鏃	有茎	−	先端欠損	30.04	30.04	11.19	3.28	1.20	黒曜石	舌状の剥離痕によって先端をわずかに欠損	−	−
	M2-99-1-999-420-19	110	戦後	石鏃	有茎／鋸歯縁	−	完形	34.72	34.72	13.68	3.59	1.50	黒曜石	両側縁が鋸歯状となる。基部をわずかに欠損	−	−
	M2-99-1-999-420-20	110	戦後	石鏃	柳葉形	−	完形	30.90	30.90	12.88	3.81	1.40	黒曜石	茎部は肩部からゆるやかにすぼまる	−	−
	M2-99-1-999-420-21	110	戦後	石鏃	有茎	−	完形	29.82	29.82	11.82	2.68	1.00	黒曜石	側縁と基部の一部から器体中央まで届く他の剥離を切る大きめの剥離が残される	−	−
	M2-99-1-999-420-22	110	戦後	石鏃	有茎	−	完形	33.97	33.97	13.87	3.71	1.90	珪岩	先端が三角、側縁が平行する六角形となる	−	−
	M2-99-1-999-420-23	110	戦後	石鏃	有茎	−	完形	29.78	29.78	12.72	3.54	1.10	黒曜石	肩部がやや張り出す	−	−
	M2-99-1-999-420-24	110	戦後	石鏃	有茎	−	完形	30.19	30.19	11.08	4.08	1.30	黒曜石	先端は三角となり、器体中央の側縁は平行する。形状から、大場(1957)の「特殊型」のうち「将棋駒形」に相当する。茎部は細い	−	−
	M2-99-1-999-420-25	110	戦後	石鏃	柳葉形	−	完形	32.07	32.07	13.29	3.57	1.30	黒曜石		−	−
	M2-99-1-999-420-26	110	戦後	石鏃	柳葉形	−	完形	24.77	24.77	10.88	2.82	1.00	黒曜石	先端と基部の区別が困難。大場(1957)における「柳葉形」のうち「類菱形」に近い	−	−
	M2-99-1-999-420-27	110	戦後	石鏃	不明	−	下端欠損	23.19	22.70	11.83	2.38	0.80	黒曜石	半両面加工（片面が周縁加工で素材面を残す）の石鏃。側縁が弧状に外湾する。基部を欠損するため、茎部の有無は不明	−	−
	M2-99-1-999-420-28	110	戦後	石鏃	無茎	−	完形	24.53	24.53	13.69	2.50	1.00	黒曜石	両面ともに素材面を大きく残す周縁加工の石鏃。基部が素材剥片の末端（ヒンジ・フラクチャー）となる	−	−
	M2-99-1-999-420-29	110	戦後	石鏃	有茎	−	完形	29.81	29.81	10.56	2.83	0.90	黒曜石	片面に素材剥離面を残す	−	−
	M2-99-1-999-420-30	110	戦後	石鏃	有茎	−	完形	26.90	26.90	12.16	4.25	1.10	頁岩	基部がわずかに欠損。全体的に光沢を呈する。石材の色調は白色・黒褐色・淡黄白色の部分が混在する	−	−
	M2-99-1-999-420-31	110	戦後	石鏃	有茎	−	完形	30.04	30.04	10.88	3.79	0.90	頁岩	基部が三角形状に尖る小型の石鏃	−	−
	M2-99-1-999-420-32	110	戦後	石鏃	有茎	−	完形	28.37	28.37	8.53	2.81	0.90	黒曜石		−	−
	M2-99-1-999-420-33	110	戦後	石鏃	柳葉形	−	完形	26.92	26.92	8.62	4.15	1.00	黒曜石	柳葉形で先端がやや丸く外湾する	−	−
	M2-99-1-999-420-34	110	戦後	石鏃	有茎	−	基部欠損	25.86	24.93	9.80	3.31	0.80	黒曜石	茎部の基部をわずかに欠損する	−	−
	M2-99-1-999-420-35	110	戦後	石鏃	有茎	−	完形	27.17	27.17	10.54	3.23	0.80	黒曜石	側縁中央がわずかに欠損する	−	−
	M2-99-1-999-420-36	110	戦後	石鏃	有茎	−	完形	26.30	26.30	10.29	2.73	0.80	黒曜石		−	−
	M2-99-1-999-420-37	110	戦後	石鏃	有茎	−	先端欠損	24.17	23.57	9.85	2.71	0.70	黒曜石	先端の欠損は舌状の剥離を片面に残す	−	−
	M2-99-1-999-420-38	110	戦後	石鏃	有茎	−	完形	25.10	25.10	11.58	4.18	1.00	黒曜石	先端が三角、側縁が平行する六角形となる。大場(1957)の「将棋駒形」に似る。基部にやや抉りあり	−	−
	M2-99-1-999-420-39	110	戦後	石鏃	有茎	−	完形	27.48	27.48	11.56	3.35	1.10	黒曜石	先端からの剥離が器体上半部中央でステップ・ターミネーションとなる。この剥離を切る調整加工が先端から器体側縁までつながるため、先端が欠損した後に再加工されたと推測できる	−	−
106	M2-99-1-999-420-4	110	戦後	石槍	柳葉形	−	完形	90.27	90.27	28.89	11.05	30.90	黒曜石	基部が自然面となる柳葉形の石槍。断面は凸レンズ状。片面の基部付近に素材剥離面を残す	−	−
	M2-99-1-999-420-40	110	戦後	石鏃	有茎	−	完形	26.20	26.20	10.53	2.86	0.60	黒曜石	断面がD字状となる	−	−
	M2-99-1-999-420-41	110	戦後	石鏃	有茎	−	完形	26.08	26.08	12.81	2.88	0.80	黒曜石	両面に素材剥離面を残す	−	−
	M2-99-1-999-420-42	110	戦後	石鏃	不明	−	下半欠損	23.17	23.17	11.05	4.19	0.80	頁岩	縁辺には連続する二次加工によって先鋭な先端をなす。下半部を大きく欠損する。黒褐色と茶褐色の部分が混じる石材	−	−
	M2-99-1-999-420-43	110	戦後	石鏃	有茎	−	完形	27.62	27.62	11.26	3.46	0.90	黒曜石	片面に素材剥離面を残す	−	−
	M2-99-1-999-420-44	110	戦後	石鏃	柳葉形	−	基部欠損	23.14	23.10	10.03	2.69	0.70	黒曜石	周縁加工の石鏃。基部をわずかに欠損する	−	−
	M2-99-1-999-420-45	110	戦後	石鏃	有茎	−	基部欠損	24.24	24.24	13.47	3.28	1.00	黒曜石	片方の側縁にわずかに張り出しがある。茎部を大きく欠損する	−	−
	M2-99-1-999-420-46	110	戦後	石鏃	有茎	−	上端欠損	22.05	21.43	10.13	3.14	0.90	黒曜石	有茎の石鏃。先端を折れによって欠損。基部から先端方向への剥離によって茎部が薄く作出される	−	−
	M2-99-1-999-420-47	110	戦後	石鏃	有茎	−	完形	22.04	22.04	10.81	3.01	0.70	黒曜石	先端がステップ・フラクチャーとなる、基部から先端方向への小剥離がある	−	−
	M2-99-1-999-420-48	110	戦後	石鏃	有茎／鋸歯縁	鋸歯辺式	中間部	21.41	18.75	14.69	4.10	1.00	黒曜石	側縁が鋸歯縁となる幅広な有茎石鏃。大場(1957)の「鋸歯辺式」に該当。先端を大きく欠損する	−	−

PLATE	ID	旧所蔵NO	発掘時期	器種	器種細分類／形態／工程	大場(1957)、名取・大場(1964)の分類	部位	最大長(mm)	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石材	備考	遺物ラベル番号／その他	原典図版
	M2-99-1-999-420-49	110	戦後	石鏃	柳葉形	−	下端欠損	18.19	17.41	10.15	2.83	0.50	黒曜石	両側縁が平行する柳葉形の石鏃。茎部の有無は不明	−	−
	M2-99-1-999-420-5	110	戦後	石槍	不明	−	基部のみ	44.36	40.29	27.47	8.61	11.10	黒曜石		−	−
	M2-99-1-999-420-50	110	戦後	石鏃	有茎	−	基部欠損	16.15	15.73	10.22	2.09	0.30	黒曜石	残されている基部の片側には抉りがあるため、大場(1957)の「類アメリカ型」やside-notched pointと考えられる	−	−
	M2-99-1-999-420-51	110	戦後	石鏃	有茎	−	上端欠損	16.72	16.72	8.70	2.40	0.40	黒曜石	欠損する先端側がやや厚い	−	−
	M2-99-1-999-420-52	110	戦後	石鏃	有茎	−	完形	18.61	18.61	9.87	1.86	0.40	黒曜石	小型の石鏃	−	−
	M2-99-1-999-420-53	110	戦後	石鏃	無茎	−	上端欠損	13.24	12.61	7.71	2.10	0.30	黒曜石	背腹両面に素材剥離面を残す。基部が内湾	−	−
	M2-99-1-999-420-54	110	戦後	二次加工剥片	二次加工痕を有する石刃	−	完形	88.75	88.75	32.79	10.05	30.80	黒曜石	腹面左側縁中央と右側縁下部に深さ2mm未満の剥離痕が連続する。背面左側縁には深さ1−3mmの剥離痕や縁辺に直交する剥離痕が残される。左側縁をはさむ背腹面の4分の1が白色となる	−	−
	M2-99-1-999-420-55	110	戦後	スクレイパー	削器	−	完形	60.69	60.69	42.86	6.28	26.50	黒曜石	末端がヒンジ・フラクチャーとなり広がる幅広の剥片の両側縁に二次加工が施される。二次加工は深さ1−10mmの剥離痕が重複し、左側縁は外湾、右側縁は直線となる	−	−
	M2-99-1-999-420-56	110	戦後	スクレイパー	削器	−	頭部欠損	47.04	47.04	17.13	5.80	5.40	黒曜石	縦長剥片の両側縁に二次加工が施される。二次加工は末端へむかって収斂し、腹面となす角も急になる	−	−
	M2-99-1-999-420-57	110	戦後	スクレイパー	削器	−	中間部	48.97	48.97	18.29	5.22	4.90	黒曜石	縦長剥片を素材とし、背面両側縁に深さ2−5mmの二次加工が施され、下半部へ向けて先細りとなる。下半部には背面の中央を越える深い剥離がみられる。腹面の二次加工は平坦で下半部全面を覆う。削器としたのちに両面調整の石器(石鏃など)へ転用を試みた可能性がある	−	−
	M2-99-1-999-420-58	110	戦後	剥片	−	−	縦半部欠損	37.93	37.93	22.06	8.05	5.90	黒曜石		−	−
	M2-99-1-999-420-59	110	戦後	二次加工剥片	−	−	頭部	33.77	33.77	26.25	6.61	4.90	黒曜石	横長剥片の右側縁と端部に二次加工あり	−	−
	M2-99-1-999-420-6	110	戦後	石鏃	有茎	−	完形	58.97	58.97	14.25	4.01	5.20	黒曜石	柳葉形。長さ6cmの大型	−	−
	M2-99-1-999-420-60	110	戦後	剥片	−	−	縦半部欠損	44.66	44.66	14.85	6.18	5.20	黒曜石		−	−
	M2-99-1-999-420-61	110	戦後	被熱(発泡)した黒曜石	−	−	縦半部欠損	38.80	38.80	19.55	8.52	5.78	黒曜石	縦半部を欠損した剥片の全体が被熱し、背面と側面は餅のように膨れる	−	−
	M2-99-1-999-420-62	110	戦後	剥片	−	−	末端	37.44	37.44	15.62	3.97	2.40	黒曜石		−	−
	M2-99-1-999-420-63	110	戦後	両面調整石器	−	−	端部欠損	28.16	28.16	19.48	4.63	3.10	黒曜石	素材剥片の端部に両面に内奥する縦長の二次加工を施す	−	−
	M2-99-1-999-420-64	110	戦後	剥片	−	−	頭部	31.47	31.47	19.99	2.93	1.70	黒曜石		−	−
	M2-99-1-999-420-65	110	戦後	石槍	有茎	−	先端欠損	29.43	29.43	20.15	3.24	1.90	黒曜石	茎部は幅7mm小さく、末端は欠損する。先端は欠損する	−	−
	M2-99-1-999-420-66	110	戦後	剥片	−	−	完形	25.68	25.06	16.01	3.73	1.50	黒曜石	転礫面打面	−	−
	M2-99-1-999-420-67	110	戦後	二次加工剥片	−	−	中間部	21.38	21.37	11.13	1.29	0.70	黒曜石	残存する縁辺の両面に二次加工あり	−	−
	M2-99-1-999-420-7	110	戦後	石鏃	無茎	−	完形	48.38	45.69	21.80	2.42	4.30	黒曜石	基部から先端方向への連続する剥離によって基部の厚さを薄くしている。基部がわずかに内湾	−	−
	M2-99-1-999-420-8	110	戦後	石鏃	有茎	−	完形	49.96	49.96	9.47	3.41	1.90	黒曜石	柳葉形。縦方向に細長い	−	−
	M2-99-1-999-420-9	110	戦後	石鏃	柳葉形	−	下端欠損	40.04	39.92	12.89	2.91	2.10	黒曜石	下半部を欠損する	−	−
	M2-99-1-999-423-1	111	戦後	被熱(発泡)した黒曜石	−	−	−	51.58	51.59	19.53	16.46	4.81	黒曜石	破損した内部は軽石様となり、全体が発泡して容積が増えている	−	−
	M2-99-99-248-330-56	63	戦後	石鏃	柳葉形	−	上下端欠損	29.00	27.80	13.21	5.47	2.70	黒曜石	片面には側縁付近に素材剥離面を残す。本資料は、残された形状から基部側の下半部と思われるが、左右対称となるまで加工されていないため、未成品の可能性もある	−	−
	M2-99-99-248-330-57	63	戦後	剥片	−	−	完形	45.75	43.70	25.02	10.37	14.70	黒曜石	全面が均等に摩耗する。水磨によると考えられる	−	−
	M2-99-99-999-242-13	59	戦後	石核	−	−	完形	52.24	52.24	28.82	9.40	16.79	黒曜石	円礫面打面をもつ剥片の両面を作業面とする剥片石核。小型寸詰まりの剥片を剥離	−	−
	M2-99-99-999-242-14	59	戦後	石核	−	−	完形	32.63	32.57	27.22	12.37	12.80	頁岩	転礫面から剥離された厚手の剥片の主剥離面で多方向から剥片が剥離されている。素材剥片に割れ円錐を残す。赤褐色の頁岩	−	−

PLATE	ID	旧所蔵NO	発掘時期	器種	器種細分類／形態／工程	大場(1957)、名取・大場(1964)の分類	部位	最大長(mm)	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石材	備考	遺物ラベル番号／その他	原典図版
	M2-99-99-999-242-15	59	戦後	剥片	−	−	頭部	34.69	23.50	22.46	7.00	6.58	黒曜石		−	−
	M2-99-99-999-242-16	59	戦後	剥片	−	−	端部・縦半部欠損	30.86	28.14	19.27	6.59	4.73	黒曜石	転礫面打面	−	−
106	M2-99-99-999-242-17	59	戦後	敲石	−	−	欠損	104.42	104.42	52.60	18.94	158.20	安山岩	扁平な円礫の表裏・側面に敲打痕あり。石斧への加工途次に欠損した可能性あり	−	−
106	M2-99-99-999-242-18	59	戦後	軽石製品	−	−	完形	73.57	73.57	51.90	22.94	25.95	軽石	磨製軽石製品。表裏両面と側面の4面に平坦な研磨面をもつ。平滑に研磨された片面を切る方側縁からの凹みがある	−	−
	M2-99-99-999-242-40	59	戦後	剥片	−	−	末端	42.37	42.37	30.14	8.89	10.21	頁岩		−	−
	M2-99-99-999-244-1	59	戦後	石槍	無茎	−	基部のみ	21.32	16.43	18.36	4.50	1.70	黒曜石	基部の両端がやや張り出す。器体上半部を大きく欠損。基部下の側面に黒曜石の転礫面を残す	−	−
	M2-99-99-999-244-10	59	戦後	石鏃	無茎	−	基部欠損	22.13	21.13	12.90	2.28	0.70	黒曜石	M2-99-99-999-244-6同様に、全体形状はやや角張る。片面に素材剝離面を残す。基部に内湾あり	−	−
	M2-99-99-999-244-100	59	戦後	剥片	−	−	縦半部欠損	27.82	27.82	9.08	3.82	0.97	黒曜石		−	−
	M2-99-99-999-244-101	59	戦後	剥片	−	−	縦半部欠損	26.44	26.44	12.07	2.16	1.76	黒曜石		−	−
	M2-99-99-999-244-102	59	戦後	剥片	−	−	中間部	27.37	27.37	11.02	7.57	2.62	黒曜石		−	−
	M2-99-99-999-244-103	59	戦後	剥片	−	−	末端	20.93	20.93	17.46	3.88	1.11	黒曜石		−	−
	M2-99-99-999-244-104	59	戦後	剥片	−	−	完形	18.34	14.18	17.53	7.01	1.60	黒曜石		−	−
	M2-99-99-999-244-105	59	戦後	剥片	−	−	末端	27.53	27.53	9.26	3.05	0.85	黒曜石		−	−
	M2-99-99-999-244-106	59	戦後	剥片	−	−	縦半部欠損	24.18	24.18	12.46	2.89	0.79	黒曜石		−	−
	M2-99-99-999-244-107	59	戦後	剥片	−	−	縦半部欠損	24.99	22.22	11.99	3.03	1.15	黒曜石		−	−
	M2-99-99-999-244-108	59	戦後	剥片	−	−	縦半部欠損	27.94	27.94	10.70	4.12	1.67	黒曜石		−	−
	M2-99-99-999-244-109	59	戦後	剥片	−	−	中間部	24.96	24.96	13.56	2.49	0.86	黒曜石		−	−
	M2-99-99-999-244-11	59	戦後	石鏃	有茎	−	中間部	17.95	17.12	11.35	2.53	0.70	黒曜石	M2-99-99-999-244-6同様に、全体形状はやや角張る。片面に素材剝離面を残す	−	−
	M2-99-99-999-244-110	59	戦後	剥片	−	−	末端	22.46	22.46	20.51	6.51	2.54	黒曜石	背面に転礫面残す	−	−
	M2-99-99-999-244-111	59	戦後	剥片	−	−	末端	28.42	28.42	9.16	3.92	1.55	黒曜石	背面に転礫面残す	−	−
	M2-99-99-999-244-112	59	戦後	剥片	−	−	縦半部欠損	23.07	23.07	12.54	1.72	0.91	黒曜石		−	−
	M2-99-99-999-244-113	59	戦後	剥片	−	−	完形	19.74	18.26	17.17	3.98	1.20	黒曜石	寸詰まり剥片	−	−
	M2-99-99-999-244-114	59	戦後	剥片	−	−	縦半部欠損	20.32	20.67	13.24	4.61	1.39	黒曜石	転礫面打面	−	−
	M2-99-99-999-244-115	59	戦後	剥片	−	−	頭部	18.86	18.43	13.06	3.92	1.02	黒曜石	両極剥片。表面に白色付着物	−	−
	M2-99-99-999-244-116	59	戦後	剥片	−	−	縦半部欠損	20.30	20.30	11.52	4.98	1.22	黒曜石	転礫面打面	−	−
	M2-99-99-999-244-117	59	戦後	剥片	−	−	末端	28.06	28.06	12.85	3.89	0.77	黒曜石		−	−
	M2-99-99-999-244-118	59	戦後	剥片	−	−	縦半部欠損	25.15	25.15	8.42	4.60	1.00	黒曜石	転礫面打面	−	−
	M2-99-99-999-244-119	59	戦後	剥片	−	−	末端	23.01	23.01	12.64	3.52	0.88	黒曜石		−	−
	M2-99-99-999-244-12	59	戦後	石鏃	有茎	−	完形	18.03	18.03	8.42	2.83	0.40	黒曜石	M2-99-99-999-244-6同様に、全体形状はやや角張る	−	−
	M2-99-99-999-244-120	59	戦後	剥片	−	−	末端	21.32	21.32	14.10	3.66	1.32	黒曜石	表面に白色付着物	−	−
	M2-99-99-999-244-121	59	戦後	剥片	−	−	縦半部欠損	22.45	20.00	11.87	3.55	1.53	黒曜石	横長剥片	−	−
	M2-99-99-999-244-122	59	戦後	剥片	−	−	中間部	20.59	20.59	12.58	2.50	0.81	黒曜石		−	−
	M2-99-99-999-244-123	59	戦後	剥片	−	−	完形	21.37	18.14	8.73	7.80	1.34	黒曜石	背面に転礫面残す	−	−
	M2-99-99-999-244-124	59	戦後	剥片	−	−	頭部	19.65	19.65	10.67	2.74	0.87	黒曜石		−	−
	M2-99-99-999-244-125	59	戦後	剥片	−	−	頭部	19.94	19.94	16.04	1.65	0.54	黒曜石	表面に白色付着物	−	−
	M2-99-99-999-244-126	59	戦後	剥片	−	−	縦半部欠損	21.67	21.67	12.48	4.77	1.01	黒曜石	表面に白色付着物	−	−
	M2-99-99-999-244-127	59	戦後	剥片	−	−	完形	19.08	19.08	12.72	3.46	0.79	黒曜石		−	−
	M2-99-99-999-244-128	59	戦後	剥片	−	−	頭部	18.53	18.53	13.72	3.67	1.05	黒曜石		−	−
	M2-99-99-999-244-129	59	戦後	剥片	−	−	完形	22.18	19.85	14.52	2.64	0.66	黒曜石		−	−
	M2-99-99-999-244-13	59	戦後	石鏃	無茎	−	基部のみ	16.24	12.99	9.14	3.27	0.50	黒曜石	M2-99-99-999-244-6同様に、全体形状はやや角張る柳葉形。片面に素材剝離面を残す	−	−
	M2-99-99-999-244-130	59	戦後	剥片	−	−	頭部	18.15	15.69	11.75	3.27	0.87	黒曜石		−	−

PLATE	ID	旧所蔵NO	発掘時期	器種	器種細分類／形態／工程	大場(1957)、名取・大場(1964)の分類	部位	最大長(mm)	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石材	備考	遺物ラベル番号／その他	原典図版
	M2-99-99-999-244-131	59	戦後	剥片	−	−	末端	17.73	17.73	8.66	7.41	1.22	黒曜石		−	−
	M2-99-99-999-244-132	59	戦後	剥片	−	−	中間部	17.40	17.40	10.76	5.33	0.98	黒曜石		−	−
	M2-99-99-999-244-133	59	戦後	剥片	−	−	中間部	19.59	19.59	8.69	5.42	1.08	黒曜石		−	−
	M2-99-99-999-244-134	59	戦後	剥片	−	−	中間部	23.30	20.10	8.35	7.16	1.29	黒曜石		−	−
	M2-99-99-999-244-135	59	戦後	二次加工剥片	−	−	頭部	22.44	14.64	6.23	5.75	1.09	黒曜石	剥片の主剥離面に側縁から内側に伸びる剥離あり	−	−
	M2-99-99-999-244-136	59	戦後	剥片	−	−	末端	22.21	22.25	8.86	3.16	0.7	黒曜石		−	−
	M2-99-99-999-244-137	59	戦後	剥片	−	−	末端	18.48	15.61	12.96	4.69	1.04	黒曜石		−	−
	M2-99-99-999-244-138	59	戦後	剥片	−	−	頭部	18.72	15.57	8.44	4.61	0.93	黒曜石		−	−
	M2-99-99-999-244-139	59	戦後	剥片	−	−	頭部	19.10	14.67	11.40	5.80	1.50	黒曜石	転礫面打面。黒と茶の黒曜石	−	−
	M2-99-99-999-244-14	59	戦後	両面調整石器	未成品	−	縦半部欠損	60.75	60.75	24.37	10.85	17.20	黒曜石	剥片の腹面に側面から平坦な剥離を施す。対する面は多方向からの剥離痕をもつ。梨肌の黒曜石を利用	−	−
	M2-99-99-999-244-140	59	戦後	剥片	−	−	完形	22.52	13.41	8.78	2.88	0.63	黒曜石	横長剥片	−	−
	M2-99-99-999-244-141	59	戦後	剥片	−	−	頭部	19.61	19.61	9.98	1.46	0.38	黒曜石		−	−
	M2-99-99-999-244-142	59	戦後	剥片	−	−	中間部	20.53	20.54	9.49	1.73	0.39	黒曜石		−	−
	M2-99-99-999-244-143	59	戦後	剥片	−	−	末端	19.16	19.16	12.98	3.03	0.62	黒曜石		−	−
	M2-99-99-999-244-144	59	戦後	剥片	−	−	頭部	21.79	21.79	10.12	1.30	0.55	黒曜石		−	−
	M2-99-99-999-244-145	59	戦後	剥片	−	−	末端	23.01	23.01	8.25	3.45	0.69	黒曜石	ヒンジ・ターミネーション	−	−
	M2-99-99-999-244-146	59	戦後	剥片	−	−	頭部	20.34	20.34	7.47	1.38	0.46	黒曜石		−	−
	M2-99-99-999-244-147	59	戦後	剥片	−	−	完形	18.15	15.20	12.40	2.58	0.59	黒曜石		−	−
	M2-99-99-999-244-148	59	戦後	剥片	−	−	頭部	17.12	17.12	15.82	2.40	0.67	黒曜石		−	−
	M2-99-99-999-244-149	59	戦後	剥片	−	−	頭部	15.99	15.92	6.87	2.40	0.73	黒曜石	転礫面打面	−	−
	M2-99-99-999-244-15	59	戦後	両面調整石器	未成品	−	端部欠損	28.75	28.75	16.73	5.28	3.10	黒曜石	剥片の打面側から腹面に対して微細な調整が施され、抉りもある。平面にも内奥する剥離がみられる。石鏃への加工途中ととらえられる	−	−
	M2-99-99-999-244-150	59	戦後	剥片	−	−	縦半部欠損	19.73	19.28	7.60	2.71	0.70	黒曜石		−	−
	M2-99-99-999-244-151	59	戦後	剥片	−	−	中間部	20.74	20.31	6.84	4.41	0.88	黒曜石		−	−
	M2-99-99-999-244-152	59	戦後	剥片	−	−	完形	16.35	16.01	9.76	2.36	0.60	黒曜石	転礫面打面	−	−
	M2-99-99-999-244-153	59	戦後	剥片	−	−	完形	16.83	10.78	10.04	1.41	0.30	黒曜石	転礫面打面	−	−
	M2-99-99-999-244-154	59	戦後	剥片	−	−	完形	16.23	10.75	8.83	5.25	1.11	黒曜石		−	−
	M2-99-99-999-244-155	59	戦後	剥片	−	−	完形	17.59	9.30	7.95	2.22	0.50	黒曜石		−	−
	M2-99-99-999-244-156	59	戦後	剥片	−	−	完形	16.33	16.41	13.39	2.37	0.59	黒曜石		−	−
	M2-99-99-999-244-157	59	戦後	剥片	−	−	中間部	17.43	17.43	8.39	4.60	0.75	黒曜石		−	−
	M2-99-99-999-244-158	59	戦後	剥片	−	−	中間部	20.22	20.22	7.70	4.81	0.77	黒曜石		−	−
	M2-99-99-999-244-159	59	戦後	剥片	−	−	末端	15.56	15.56	9.77	2.67	0.50	黒曜石		−	−
	M2-99-99-999-244-16	59	戦後	石槍	有茎／未成品	−	上下端欠損	22.93	15.06	21.78	4.16	2.70	黒曜石	M2-99-99-999-244-5と折れ面接合。両面に素材剥離面を残す。縁辺から連続する剥離がなされるが、多くがステップ・ターミネーションを呈する。薄いため、石鏃への加工途上の可能性あり	−	−
	M2-99-99-999-244-160	59	戦後	剥片	−	−	中間部	15.17	15.17	10.96	1.53	0.40	黒曜石		−	−
	M2-99-99-999-244-161	59	戦後	剥片	−	−	頭部	15.40	14.12	10.23	1.90	0.29	黒曜石		−	−
	M2-99-99-999-244-162	59	戦後	剥片	−	−	末端	15.61	15.08	10.44	6.60	0.68	黒曜石		−	−
	M2-99-99-999-244-163	59	戦後	剥片	−	−	中間部	15.73	15.74	10.19	1.90	0.33	黒曜石		−	−
	M2-99-99-999-244-164	59	戦後	剥片	−	−	頭部	15.06	11.59	13.55	1.90	0.30	黒曜石		−	−
	M2-99-99-999-244-165	59	戦後	剥片	−	−	頭部	18.95	7.45	16.03	4.91	0.70	黒曜石		−	−
	M2-99-99-999-244-166	59	戦後	剥片	−	−	中間部	16.38	16.38	8.16	3.01	0.49	黒曜石		−	−
	M2-99-99-999-244-167	59	戦後	剥片	−	−	頭部	20.92	17.74	6.86	0.74	0.20	黒曜石		−	−
	M2-99-99-999-244-168	59	戦後	剥片	−	−	頭部	13.81	13.81	7.74	2.18	0.32	黒曜石		−	−
	M2-99-99-999-244-169	59	戦後	剥片	−	−	完形	14.45	14.45	9.82	2.04	0.33	黒曜石		−	−
	M2-99-99-999-244-17	59	戦後	両面調整石器	未成品	−	端部欠損	30.09	30.09	14.38	5.28	2.40	黒曜石	剥片の打面から背面、末端部の折れから腹面に平坦な剥離が施される。石鏃への加工途中ととらえられる	−	−
	M2-99-99-999-244-170	59	戦後	剥片	−	−	完形	12.70	11.16	11.48	3.17	0.37	黒曜石		−	−
	M2-99-99-999-244-171	59	戦後	剥片	−	−	縦半部欠損	15.01	15.01	6.07	2.90	0.33	黒曜石		−	−
	M2-99-99-999-244-172	59	戦後	剥片	−	−	末端	13.44	13.44	7.60	0.88	0.23	黒曜石	末端はウートラパッセ	−	−
	M2-99-99-999-244-173	59	戦後	剥片	−	−	完形	14.57	10.19	7.34	1.75	0.26	黒曜石		−	−
	M2-99-99-999-244-174	59	戦後	剥片	−	−	末端	14.94	14.94	9.87	2.92	0.36	黒曜石		−	−
	M2-99-99-999-244-175	59	戦後	剥片	−	−	中間部	13.72	13.72	5.38	0.81	0.08	黒曜石		−	−
	M2-99-99-999-244-176	59	戦後	剥片	−	−	頭部	12.68	12.68	9.00	1.65	0.19	黒曜石		−	−

PLATE	ID	旧所蔵NO	発掘時期	器種	器種細分類／形態／工程	大場(1957)、名取・大場(1964)の分類	部位	最大長(mm)	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石材	備考	遺物ラベル番号／その他	原典図版
	M2-99-99-999-244-177	59	戦後	剥片	－	－	頭部	12.04	11.91	10.81	1.52	0.21	黒曜石		－	－
	M2-99-99-999-244-178	59	戦後	剥片	－	－	完形	11.91	10.19	11.03	3.05	0.37	黒曜石		－	－
	M2-99-99-999-244-179	59	戦後	剥片	－	－	完形	12.97	10.79	12.23	1.90	0.26	黒曜石		－	－
	M2-99-99-999-244-18	59	戦後	剥片	－	－	末端	20.05	20.05	12.88	4.80	1.56	黒曜石	両面調整石器の調整剥片	－	－
	M2-99-99-999-244-180	59	戦後	剥片	－	－	完形	14.25	13.55	7.79	3.85	0.38	黒曜石		－	－
	M2-99-99-999-244-181	59	戦後	剥片	－	－	頭部	16.46	14.64	9.96	1.62	0.23	黒曜石		－	－
	M2-99-99-999-244-182	59	戦後	剥片	－	－	頭部	14.86	9.06	8.05	1.77	0.28	黒曜石		－	－
	M2-99-99-999-244-183	59	戦後	剥片	－	－	完形	13.31	9.91	8.37	1.06	0.26	黒曜石		－	－
	M2-99-99-999-244-184	59	戦後	剥片	－	－	中間部	14.47	14.55	6.32	2.07	0.22	黒曜石		－	－
	M2-99-99-999-244-185	59	戦後	剥片	－	－	中間部	10.03	10.03	7.35	1.99	0.16	黒曜石		－	－
	M2-99-99-999-244-186	59	戦後	剥片	－	－	頭部	12.05	8.74	8.49	0.65	0.14	黒曜石		－	－
	M2-99-99-999-244-187	59	戦後	剥片	－	－	中間部	9.55	9.55	6.09	1.16	0.10	黒曜石		－	－
	M2-99-99-999-244-188	59	戦後	剥片	－	－	完形	12.27	9.74	7.83	2.24	0.23	黒曜石		－	－
	M2-99-99-999-244-189	59	戦後	剥片	－	－	頭部	15.85	15.85	9.07	1.86	0.24	黒曜石		－	－
	M2-99-99-999-244-19	59	戦後	石核／スクレイパー	石核／削器	－	末端	43.49	32.50	34.51	12.17	13.50	黒曜石	剥片石核を素材とする。剥片背面に平坦な礫面が残る。礫面から微細な剥離が施される。腹面に横長の剥片を剥離したネガティブな剥離痕があり、相対的に新しい剥離痕は末端の二次加工を切る	注記あるが判読不能	－
	M2-99-99-999-244-190	59	戦後	砕片	－	－	－	－	－	－	－	17.28	黒曜石	1cm以下の剥片・砕片多数のため1件としてカウント	－	－
	M2-99-99-999-244-2	59	戦後	石槍	有茎	－	基部のみ	30.70	22.85	24.56	4.61	3.20	黒曜石	内湾する基部の両端を欠損する。先端を含む器体上半部を大きく欠損。形態的には、M2-3-1-999-395-10に似る。大場(1957)の「石槍・無茎」に相当	－	－
	M2-99-99-999-244-20	59	戦後	スクレイパー	削器	－	頭部	25.40	23.28	21.17	4.86	3.21	黒曜石	素材剥片の左側縁に二次加工を施し、突出する刃部を形成	－	－
	M2-99-99-999-244-21	59	戦後	二次加工　剥片	－	－	頭部	35.33	29.48	17.58	7.05	6.43	黒曜石	転礫面打面	－	－
	M2-99-99-999-244-22	59	戦後	二次加工　剥片	－	－	縦半部欠損	24.27	23.57	18.74	4.74	2.99	黒曜石	転礫面打面	－	－
	M2-99-99-999-244-23	59	戦後	二次加工　剥片	－	－	末端	28.36	28.36	19.16	4.08	1.96	黒曜石	剥片末端の両面に二次加工	－	－
	M2-99-99-999-244-24	59	戦後	二次加工　剥片	－	－	末端	16.18	16.18	14.84	4.13	0.78	黒曜石		－	－
	M2-99-99-999-244-25	59	戦後	石核	石核	－	完形	70.18	23.63	53.84	11.30	30.60	黒曜石	転礫面を残す横長の剥片を素材とする石核。素材剥片はヒンジ・ターミネーションとなる。背腹両面から寸詰まりの剥片が数枚剥離されている	－	－
	M2-99-99-999-244-26	59	戦後	石核	石核	－	完形	42.86	40.37	21.78	16.36	17.10	黒曜石	黒曜石の転礫から剥離された剥片を素材とする。主剥離面に不定形な剥離痕が残される	－	－
	M2-99-99-999-244-27	59	戦後	石核	石核	－	完形	42.43	22.85	37.60	11.34	19.90	黒曜石	黒曜石の転礫から剥離された厚手の剥片を素材とし、打面転位を繰り返しながら寸詰まりの剥片を剥離している	－	－
	M2-99-99-999-244-28	59	戦後	石核	石核	－	完形	46.33	35.49	45.50	13.74	21.70	黒曜石	黒曜石の転礫から剥離された楕円形の剥片の主剥離面に求心状の剥離痕が残される	－	－
	M2-99-99-999-244-29	59	戦後	石核	石核	－	欠損	41.96	33.39	32.56	10.80	16.00	黒曜石	M2-99-99-999-244-30と接合。黒曜石の転礫から剥離された横長の剥片の主剥離面を作業面とし、打面側と末端の対向方向から小型の剥片が剥離されている	－	－
	M2-99-99-999-244-3	59	戦後	石槍	無茎	－	基部のみ	23.70	16.71	23.83	4.62	1.50	黒曜石	両面からの調整によって薄くなる。器体を大きく欠損	－	－
	M2-99-99-999-244-30	59	戦後	石核	石核	－	欠損	34.23	28.50	25.41	10.21	11.70	黒曜石	M2-99-99-999-244-29と接合	－	－
	M2-99-99-999-244-31	59	戦後	石核	石核	－	完形	35.52	25.71	24.48	6.01	7.20	黒曜石	両極打撃による石核。中央が厚くなる剥片に端部から対向する剥離痕が残される。一端の打面は直線で、階段状となる微細な剥離痕が重複する。この打面に接して転礫面がわずかに残る	－	－
	M2-99-99-999-244-32	59	戦後	石核	石核	－	欠損	36.74	18.32	34.06	9.33	6.90	黒曜石	剥片を素材とする石核。両面に寸詰まりの小型の剥離痕が残される。両面の作業面を切って、長軸方向に平行する折れ面が2箇所ある。打点は折れ面により、欠失する	－	－

PLATE	ID	旧所蔵NO	発掘時期	器種	器種細分類／形態／工程	大場(1957)、名取・大場(1964)の分類	部位	最大長(mm)	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石材	備考	遺物ラベル番号／その他	原典図版
	M2-99-99-999-244-33	59	戦後	石核	石核	－	完形	39.73	25.36	10.69	19.74	8.00	黒曜石	打面転位を繰り返し、縦長・横長の不定形な剥片が剥離されている。一端の平坦な剥離面から作業面に対して細かな階段状の剥離痕がみられる	－	－
	M2-99-99-999-244-34	59	戦後	石核	石核	－	欠損	40.92	27.18	8.64	33.72	14.20	黒曜石	厚手の剥片を素材とする石核。古い剥離痕を切る新規の剥離面がみられる	－	－
	M2-99-99-999-244-35	59	戦後	石核	石核	－	完形	36.72	30.68	20.01	15.83	12.50	黒曜石	転礫面を残す横長の剥片を素材とする石核。素材剥片の両面に横長・縦長の剥離痕が残される	－	－
	M2-99-99-999-244-36	59	戦後	石核	石核	－	完形	31.32	29.30	22.57	8.70	8.10	黒曜石	転礫面を残す横長の剥片を素材とする石核。素材剥片の両面に横長・縦長の剥離痕が残される	－	－
	M2-99-99-999-244-37	59	戦後	剥片	－	－	頭部	57.01	38.24	26.75	7.02	10.55	黒曜石	横長剥片	－	－
	M2-99-99-999-244-38	59	戦後	剥片	－	－	端部・縦半部欠損	48.44	47.62	19.51	8.89	14.00	黒曜石	転礫面打面	－	－
	M2-99-99-999-244-39	59	戦後	剥片	－	－	末端	46.15	46.15	36.82	7.76	13.05	黒曜石	背面に転礫面残す	－	－
	M2-99-99-999-244-4	59	戦後	石槍	不明	－	基部のみ	26.08	18.75	16.48	3.76	1.30	黒曜石	周辺からの中央へと収斂する調整によって弧状となる。大きさからは、大場(1957)の「石槍」もしくは「槍鏃」の範疇に入ると推測される	－	－
	M2-99-99-999-244-40	59	戦後	剥片	－	－	末端	42.37	42.37	33.00	6.21	10.60	黒曜石	背面全面が転礫面	－	－
	M2-99-99-999-244-41	59	戦後	剥片	－	－	中間部	42.51	42.52	26.39	12.77	15.36	黒曜石	背面全面が転礫面	－	－
	M2-99-99-999-244-42	59	戦後	剥片	－	－	頭部	40.26	37.85	20.17	10.32	10.60	黒曜石	打面の大部分は欠損するが、打点のある打面部分のみ残る	－	－
	M2-99-99-999-244-43	59	戦後	剥片	－	－	完形	40.87	36.83	27.24	11.01	13.44	黒曜石	背面に転礫面残す	－	－
	M2-99-99-999-244-44	59	戦後	剥片	－	－	完形	45.00	45.03	23.13	8.33	11.40	黒曜石		－	－
	M2-99-99-999-244-45	59	戦後	剥片	－	－	末端	40.82	40.10	20.79	2.93	4.75	黒曜石		－	－
	M2-99-99-999-244-46	59	戦後	剥片	－	－	頭部	36.19	36.19	16.46	9.16	6.52	黒曜石	背面に転礫面残す	－	－
	M2-99-99-999-244-47	59	戦後	剥片	－	－	完形	32.37	32.37	17.84	6.82	5.25	黒曜石		－	－
	M2-99-99-999-244-48	59	戦後	剥片	－	－	完形	42.25	42.28	14.12	2.57	3.10	黒曜石		－	－
	M2-99-99-999-244-49	59	戦後	剥片	－	－	縦半部欠損	50.71	50.71	15.55	2.80	3.41	黒曜石	背面に岩屑面を残す	－	－
	M2-99-99-999-244-5	59	戦後	石槍	有茎／未成品	－	上下端欠損	28.78	22.15	25.23	4.93	1.70	黒曜石	M2-99-99-999-244-16と折れ面接合。大きめの調整剥離。素材剥離面残す。薄いため、石鏃への加工途上の可能性あり	－	－
	M2-99-99-999-244-50	59	戦後	剥片	－	－	縦半部欠損	33.48	31.49	17.54	3.63	4.53	黒曜石		－	－
	M2-99-99-999-244-51	59	戦後	剥片	－	－	縦半部欠損	35.71	35.71	28.03	5.02	8.69	黒曜石	背面に転礫面残す	－	－
	M2-99-99-999-244-52	59	戦後	剥片	－	－	末端	34.90	34.45	20.55	5.63	5.99	黒曜石		－	－
	M2-99-99-999-244-53	59	戦後	剥片	－	－	末端	38.41	38.41	18.99	8.02	6.63	黒曜石	背面に転礫面残す	－	－
	M2-99-99-999-244-54	59	戦後	剥片	－	－	完形	30.55	23.63	28.80	8.88	6.85	黒曜石	背面全面が転礫面	－	－
	M2-99-99-999-244-55	59	戦後	剥片	－	－	縦半部欠損	38.39	38.39	14.61	5.72	5.72	黒曜石	背面に転礫面残す	－	－
	M2-99-99-999-244-56	59	戦後	剥片	－	－	頭部・縦半部欠損	34.71	31.94	31.44	10.58	7.98	黒曜石		－	－
	M2-99-99-999-244-57	59	戦後	剥片	－	－	欠損	29.50	30.50	17.30	13.70	8.78	黒曜石	熱破砕を受けた破片(chunk)。転礫面、クラックのある光沢を消失した剥離面、それを切る光沢のある破砕面からなる	－	－
	M2-99-99-999-244-58	59	戦後	剥片	－	－	末端	34.20	28.15	12.27	9.83	6.17	黒曜石		－	－
	M2-99-99-999-244-59	59	戦後	剥片	－	－	完形	28.82	23.67	21.24	11.41	6.16	黒曜石	背面に転礫面残す	－	－
	M2-99-99-999-244-6	59	戦後	石鏃	柳葉形	－	完形	37.72	37.72	12.72	2.50	1.50	黒曜石	先端と基部が三角形状に尖るため、全体形状はやや角張る柳葉形となる。六角形をなす	－	－
	M2-99-99-999-244-60	59	戦後	剥片	－	－	中間部	30.23	30.37	16.58	12.84	8.64	黒曜石		－	－
	M2-99-99-999-244-61	59	戦後	剥片	－	－	末端	31.55	31.55	20.74	9.44	5.00	黒曜石	転礫面打面	－	－
	M2-99-99-999-244-62	59	戦後	剥片	－	－	頭部	33.57	25.78	19.40	6.90	5.40	黒曜石	転礫面打面	－	－
	M2-99-99-999-244-63	59	戦後	剥片	－	－	縦半部欠損	28.69	27.27	22.15	5.62	4.46	黒曜石	転礫面打面	－	－
	M2-99-99-999-244-64	59	戦後	剥片	－	－	縦半部欠損	36.71	36.71	14.85	10.29	4.26	黒曜石		－	－
	M2-99-99-999-244-65	59	戦後	剥片	－	－	完形	40.72	25.93	22.32	5.49	4.41	黒曜石	転礫面打面	－	－
	M2-99-99-999-244-66	59	戦後	剥片	－	－	縦半部欠損	35.61	34.22	18.57	3.84	2.89	黒曜石		－	－
	M2-99-99-999-244-67	59	戦後	剥片	－	－	末端	32.83	32.83	15.01	5.47	4.11	黒曜石		－	－
	M2-99-99-999-244-68	59	戦後	剥片	－	－	頭部	32.28	21.02	12.10	4.66	2.39	黒曜石		－	－

PLATE	ID	旧所蔵NO	発掘時期	器種	器種細分類／形態／工程	大場(1957)、名取・大場(1964)の分類	部位	最大長(mm)	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石材	備考	遺物ラベル番号／その他	原典図版
	M2-99-99-999-244-69	59	戦後	剥片	−	−	完形	26.94	26.63	14.58	5.07	2.31	黒曜石		−	−
	M2-99-99-999-244-7	59	戦後	石鏃	柳葉形	−	完形	30.23	30.23	10.68	3.84	1.30	黒曜石	M2-99-99-999-244-6同様に、全体形状はやや角張る柳葉形。片面に素材剥離面を残す。六角形をなす	−	−
	M2-99-99-999-244-70	59	戦後	剥片	−	−	頭部	24.35	18.27	15.08	8.97	4.63	黒曜石		−	−
	M2-99-99-999-244-71	59	戦後	剥片	−	−	末端	29.63	28.34	16.82	4.36	3.53	黒曜石	背面全面が転礫面	−	−
	M2-99-99-999-244-72	59	戦後	剥片	−	−	縦半部欠損	29.52	27.64	18.42	4.45	3.45	黒曜石	背面全面が転礫面	−	−
	M2-99-99-999-244-73	59	戦後	剥片	−	−	頭部	28.84	24.52	19.13	8.19	4.21	黒曜石		−	−
	M2-99-99-999-244-74	59	戦後	剥片	−	−	縦半部欠損	29.32	28.57	16.75	3.88	2.30	黒曜石	転礫面打面	−	−
	M2-99-99-999-244-75	59	戦後	剥片	−	−	完形	24.50	19.80	16.94	4.84	2.35	黒曜石	背面全面が転礫面	−	−
	M2-99-99-999-244-76	59	戦後	剥片	−	−	縦半部欠損	30.37	28.61	13.53	5.53	2.40	黒曜石	転礫面打面	−	−
	M2-99-99-999-244-77	59	戦後	剥片	−	−	完形	26.26	24.22	22.45	6.47	3.97	黒曜石	単剥離面打面	−	−
	M2-99-99-999-244-78	59	戦後	剥片	−	−	中間部	24.03	24.03	12.72	6.26	3.31	黒曜石		−	−
	M2-99-99-999-244-79	59	戦後	剥片	−	−	頭部	25.09	23.73	19.71	5.46	3.48	黒曜石	転礫面打面	−	−
	M2-99-99-999-244-8	59	戦後	石鏃	不明	−	上下端欠損	18.09	14.63	15.35	3.20	0.80	黒曜石	M2-99-99-999-244-6同様に、全体形状はやや角張る柳葉形。片面に素材剥離面を残す	−	−
	M2-99-99-999-244-80	59	戦後	剥片	−	−	縦半部欠損	31.47	28.65	16.38	9.48	4.61	黒曜石	転礫面打面	−	−
	M2-99-99-999-244-81	59	戦後	剥片	−	−	末端	27.27	27.27	14.16	3.44	2.12	黒曜石		−	−
	M2-99-99-999-244-82	59	戦後	剥片	−	−	頭部	25.85	25.61	16.17	4.27	1.97	黒曜石		−	−
	M2-99-99-999-244-83	59	戦後	剥片	−	−	末端	31.46	31.46	10.03	5.84	2.20	黒曜石		−	−
	M2-99-99-999-244-84	59	戦後	剥片	−	−	中間部	31.47	27.71	14.94	6.18	3.52	黒曜石		−	−
	M2-99-99-999-244-85	59	戦後	剥片	−	−	頭部	22.52	19.27	16.19	7.91	2.94	黒曜石	転礫面打面。末端は球果で欠損	−	−
	M2-99-99-999-244-86	59	戦後	剥片	−	−	縦半部欠損	20.68	21.92	13.31	4.61	2.80	黒曜石	転礫面打面	−	−
	M2-99-99-999-244-87	59	戦後	剥片	−	−	末端	30.72	30.72	11.27	6.18	2.28	黒曜石		−	−
	M2-99-99-999-244-88	59	戦後	剥片	−	−	頭部	33.92	25.27	12.37	5.65	2.16	黒曜石		−	−
	M2-99-99-999-244-89	59	戦後	剥片	−	−	中間部	25.28	25.28	11.57	5.36	2.83	黒曜石		−	−
	M2-99-99-999-244-9	59	戦後	石鏃	有茎	−	基部欠損	19.72	19.72	11.44	2.85	0.70	黒曜石	M2-99-99-999-244-6同様に、全体形状はやや角張る。片面に素材剥離面を残す	−	−
	M2-99-99-999-244-90	59	戦後	剥片	−	−	完形	21.93	19.70	18.44	3.48	1.30	黒曜石		−	−
	M2-99-99-999-244-91	59	戦後	剥片	−	−	中間部	26.38	25.38	11.22	9.19	2.92	黒曜石		−	−
	M2-99-99-999-244-92	59	戦後	剥片	−	−	末端	21.65	21.65	16.26	3.45	1.05	黒曜石		−	−
	M2-99-99-999-244-93	59	戦後	剥片	−	−	縦半部欠損	26.14	20.81	17.02	5.08	2.75	黒曜石		−	−
	M2-99-99-999-244-94	59	戦後	剥片	−	−	頭部	24.17	20.28	13.52	2.55	1.21	黒曜石		−	−
	M2-99-99-999-244-95	59	戦後	剥片	−	−	完形	19.24	18.06	17.08	4.80	2.16	黒曜石		−	−
	M2-99-99-999-244-96	59	戦後	剥片	−	−	縦半部欠損	21.72	21.02	15.46	3.02	1.16	黒曜石		−	−
	M2-99-99-999-244-97	59	戦後	剥片	−	−	中間部	24.30	24.31	17.18	5.39	3.42	黒曜石		−	−
	M2-99-99-999-244-98	59	戦後	剥片	−	−	完形	31.24	31.13	9.78	6.22	1.88	黒曜石		−	−
	M2-99-99-999-244-99	59	戦後	剥片	−	−	縦半部欠損	28.59	26.76	10.33	5.83	1.76	黒曜石	転礫面打面	−	−
	M2-99-99-999-32-1	45	戦後	両面調整石器	−	−	上下端欠損	46.33	46.33	28.36	8.64	15.25	黒曜石	石槍の可能性あり	−	−
	M2-99-99-999-32-2	45	戦後	剥片	−	−	下半欠損	37.35	34.67	29.97	8.66	6.27	黒曜石	縁辺に接する背面に礫面あり	−	−
106	M9-99-3-999-429-1	113	不明	装身具・装飾品	垂飾	−	完形	26.73	26.73	25.92	13.22	4.90	砂岩	円形に研磨され中央が穿孔されている。外縁の一部に粗い加工部を残すが、これが研磨後か研磨前かは不明	−	−
	M9-99-4-999-93-1	55	不明	石槍	無茎	−	上下端欠損	85.42	84.78	23.46	7.59	18.90	黒曜石	側縁から平行する調整が内奥する。断面が凸レンズ状	−	−
	M9-99-4-999-93-2	55	不明	磨製石斧	局部打製	−	半分欠損	106.44	106.44	39.49	23.81	145.30	砂岩	偏平な円柱状の円礫の一端に作出した磨製の刃部をきる剥離が両面に残される。剥離面の稜に研磨痕がみられることから、繰り返し用いたことがうかがえる	−	−
	M9-99-4-999-93-3	55	不明	磨製石斧	局部磨製	−	完形	148.22	148.22	53.72	23.15	257.50	頁岩	偏平な長めの礫の一端に円弧状の両刃を作出。側面片側に長軸方向に垂直な盛り上がりがみられる	−	−

PLATE	ID	旧所蔵NO	発掘時期	器種	器種細分類／形態／工程	大場(1957)、名取・大場(1964)の分類	部位	最大長(mm)	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石材	備考	遺物ラベル番号／その他	原典図版
	M9-99-4-999-93-4	55	不明	磨製石斧	局部磨製	-	完形	125.44	125.44	46.31	17.86	187.20	頁岩	偏平な角柱状の礫の一端に磨製の直線的な刃部を作出。片刃で刃先から長軸方向へ4cm程まで研磨面が及び、側面観はノミ状となる。刃の上に厚さ3mm程の直交する研磨面がみられ、それを切る剥離痕が刃のつけられた面と反対の面にみられる	-	-
	M9-99-4-999-93-5	55	不明	磨製石斧	磨製	-	完形	149.92	149.96	45.92	19.44	246.10	頁岩	全面を研磨し、縦長の撥上に整形した両刃の磨製石斧。側面には敲打痕や両面への剥離痕が残される	-	-
	M9-99-4-999-93-6	55	不明	磨製石斧	磨製	-	完形	71.08	71.28	30.06	6.82	28.10	粘板岩	側面を含めた全面を研磨し、片刃を付けた小型の撥型の磨製石斧。暗緑色と黒褐色の層理が発達する石材を利用	-	-
	M9-99-4-999-93-7	55	不明	磨製石斧	磨製	-	完形	73.31	73.31	18.51	5.97	15.80	粘板岩	側面を含めた全面を研磨し、両刃を付けた小型の磨製石斧。暗緑色と黒褐色の層理が発達する石材を利用	-	-
	M9-99-4-999-93-8	55	不明	磨製石斧	磨製／両刃	-	完形	123.18	123.18	58.54	28.48	350.60	安山岩	両刃の石斧。側面の片側に平滑な研磨された窪みあり	-	-

表3 骨角器属性表

PLATE	ID	旧所蔵NO	器種1	器種2	部位(完形・未成品・欠損など)	最大長(mm)	重量(g)	備考	遺物ラベル番号	原典図版
	M1-99-1-999-73-1	51	骨篦			223.77	360.50	先端は裏面から加工して薄くし、刃部を作出(両刃)。体部に肩を作出し、一側面にのみ突起あり	K948	大場1955 第20表
71	M1-99-1-999-73-2	51	骨篦			176.08	121.60	刃部は両面より研磨。体部中央両側面に肩作出	K949	大場1955 第23図
	M1-99-1-999-73-3	51	骨篦			222.06	547.30	刃部は両面から削られているが粗く、厚みが残っている。体部中央両側面に一対の突起あり。基部の端はやや粗く、突起を形成	K951	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-73-4	51	骨篦			226.57	199.70	刃部は両面より研磨。体部一側面のみに突起あり。基部の端に突起形成	K954	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-73-5	51	骨篦		刃部欠損	236.78	200.80	体部中央側面に一対の突起あり。基部の端にも突起形成	K955	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-73-6	51	骨篦			166.91	145.60	刃部は両面より丁寧に研磨。体部中央側面に一対の突起あり。基部の端に突起形成	K957	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-73-7	51	骨篦			158.53	100.70	刃部は両面より研磨されているが一部再加工中。体部中央側面に一対の突起あり。基部の端に突起あり	K959	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-73-8	51	骨篦		刃部一部欠損	209.74	165.80	体部中央側面に一対の突起あり。基部の端に突起あり	K962	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-73-9	51	骨篦			259.30	265.60	刃部は両面より研磨。体部中央よりやや上方で肩を作出。側面との稜が明瞭で、断面は長方形。基部の端に突起形成(片方欠損)	K975	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-73-10	51	骨篦			183.67	191.80	体部の厚みに比べ刃部は研磨され刃厚薄い。体部中央に肩を作出。基部の端に突起形成。基部の抉りが深い。	K978	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-73-11	51	骨篦		刃部欠損	145.54	56.30	体部中央両側面に肩を作出。基部の端に突起形成。直接遺物に鉛筆書きで「十六.七.十一 三号」の注記あり。昭和16年7月11日に3号人骨が発掘されたことを示すとみられ、最寄3に伴う遺物だった可能性がある(付表1参照)	K990	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-73-12	51	骨篦		刃部～体部欠損	192.26	206.20	体部中央に肩、基部の端に浅い突起をもつ(片方欠損)	K1000	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-73-13	51	骨篦			236.81	298.00	刃部は薄く、両面より研磨。体部中央に肩を作出。基部の端に浅い突起形成	K1019	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-73-14	51	骨篦			190.07	194.90	刃部は両面ともによく研磨されている。体部中央に肩を作出。体部の両面には細かい削りによる調整がみられる。基部の端に突起形成。体部側面に「阿部」の注記あり	K1028	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-73-15	51	骨篦			193.75	333.90	刃部は幅広で両面ともよく研磨されている。体部中央に肩を作出。基部の端に突起形成	K1066	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-73-16	51	骨篦			246.12	201.60	体部中央に肩(一部欠損)、基部の端に浅い突起をもつ	K●98	
	M1-99-1-999-73-17	51	骨篦			257.18	172.80	全体に劣化してもろい。体部中央に肩を作出		
	M1-99-1-999-73-18	51	骨篦			240.15	206.80	刃部は両面より研磨(一部欠損)。体部中央に肩を作出。基部の端に突起形成(一部欠損)		
	M1-99-1-999-74-1	51	骨篦			271.95	377.70	刃部は両面より研磨。体部中央に肩を作出。基部の端に突起形成(一部欠損)	K994	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-74-2	51	骨篦			255.67	224.80	刃部は両面より研磨。体部中央に肩を作出。基部の端に突起形成	K996	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-74-3	51	骨篦		半分欠損	297.46	312.80	刃部は両面より研磨。体部中央に肩、基部の端に浅い突起をもつ	K1007	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-74-4	51	骨篦		刃部欠損	279.77	311.90	体部中央に肩、基部の端に浅い突起をもつ	K1008	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-74-5	51	骨篦			242.74	272.90	刃部は両面より研磨。体部中央に肩を作出。側面の加工粗い。基部の端に突起形成(端部欠損)	K1012	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-74-6	51	骨篦		刃部一部欠損	182.47	139.00	刃部は両面より研磨。体部中央よりやや上方に肩を形成。基部の端に突起形成(片方欠損)	K1035	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-74-7	51	骨篦			214.41	179.00	刃部は両面より研磨。体部は平坦で中央に肩を作出。基部の端に突起形成(片方欠損)	K1067	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-74-8	51	骨篦			248.57	391.40	刃部は両面より研磨。(加工途中)。体部中央に肩を作出。基部は長く、端に突起形成(片方欠損)	K1068	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-74-9	51	骨篦		基部欠損	163.39	149.20	刃部は両面より研磨され、刃厚薄い。体部に肩を作出	K1099	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-74-10	51	骨篦			251.78	334.40	刃部は両面より研磨。基部の端に突起形成(片方欠損)		
	M1-99-1-999-74-11	51	骨篦			252.80	328.20	刃部は両面より研磨。体部中央に肩を作出。基部の端に突起形成		
	M1-99-1-999-75-1	52	骨斧			150.84	148.20	刃部は両刃で、両側面中間部に一対の突起あり	K858	大場1955 第19表
74	M1-99-1-999-75-2	52	骨篦			232.93	262.90	刃部は両面より研磨。体部中央側面に二対の突起あり	K859	大場1955 第26図、第20表
	M1-99-1-999-75-3	52	骨篦			296.17	186.40	刃部は両面より研磨されているが加工途中。側面中間部に交互に突起あり(計3個)	K862	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-75-4	52	骨篦		肩部片方欠損	303.17	312.70	刃部は両面より研磨。体部中央より上方で肩を作出。基部の端に突起形成。全面に渡りよく研磨され平坦で滑らか	K974	大場1955 第20表
74	M1-99-1-999-75-5	52	骨篦			162.37	66.30	刃部は両面より研磨。体部中央側面に二対の突起あり。基部の端に突起形成	K1333	大場1955 第25図、第20表

PLATE	ID	旧所蔵NO	器種1	器種2	部位(完形・未成品・欠損など)	最大長(mm)	重量(g)	備考	遺物ラベル番号	原典図版
	M1-99-1-999-75-6	52	骨鍬			182.82	233.80	刃部は両面より研磨。(加工途中)。体部中央に一対の楕円形の窓を持つ。体部は全面研磨され平坦。有柄。M1-99-1-999-85-3と接合	K1132	大場1955 第21表
	M1-99-1-999-75-7	52	骨器未成品			180.07	130.10	円柱状の動物骨を縦に半裁したものを素材としている。先端は一端を斜めに面取りして尖らせている。断面は半円形。上端には加工痕あり	K1122	大場1955 第22表
	M1-99-1-999-75-8	52	骨製打突器			259.35	122.40	棒状。断面は半円形。先端は研磨により尖っている	K1183	大場1955 第23表
	M1-99-1-999-76-1	52	骨篦			319.00	442.00	全体に削り、研磨され滑らか。特に刃部は両面より研磨。体部中央の両側面に一対の突起あり。基部の端に突起形成	K967	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-76-2	52	骨篦			349.00	603.90	刃部は表面は加工途中、裏面は研磨されている。体部中央で肩を作出。基部の端に突起形成	K1055	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-76-3	52	骨篦			179.75	280.30	刃部は両面より研磨。体部中央に肩を作出。基部の端に突起形成	K1071	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-77-1	52	骨斧		一部欠損	192.96	162.50	刃部は両面より研磨。肩をもち、刃部が基部よりも幅広い	K847	大場1955 第19表
	M1-99-1-999-77-2	52	骨斧		基部欠損	117.29	115.10	刃部は両面より研磨。浅い肩をもち、刃部が基部よりやや幅広い	K868	
	M1-99-1-999-77-3	52	骨斧		刃部一部、基部欠損	193.49	212.60	刃部は両面より研磨。体部両側面に浅い肩をもつ(非対称)	K869	大場1955 第19表
	M1-99-1-999-77-4	52	骨篦			199.78	125.70	刃部は両面より研磨。体部上方の両側面に肩を作出。基部の端に突起形成。M1-99-1-999-80-8と接合	K1021	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-77-5	52	骨篦		骨鍬から再加工	220.32	236.50	刃部は両面より研磨。表面は研磨により滑らか。裏面は削り、研磨により成形。壊れた窓を利用して肩を作出(片方)。骨鍬からの転用品	K1103	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-77-6	52	骨篦		再加工	229.24	162.40	刃部は両面より研磨。体部中央両側面から肩を作出。骨篦類の再加工品	K1104	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-77-7	52	骨篦		刃部一部欠損	202.26	234.40	刃部は両面より研磨。体部中央と基部付近に二対の突起あり	K1●12	
	M1-99-1-999-77-8	52	骨篦		一部欠損	175.43	50.00	小型。粗製。体部中央側面に肩を作出。基部の端に突起形成		
	M1-99-1-999-77-9	52	骨篦			194.93	196.10	刃部は幅広で、縁辺は細かい削り調整、研磨により成形。側面に肩を作出	K1096	
	M1-99-1-999-77-10	52	骨鍬		一部欠損	192.69	366.50	刃部は両面より研磨。体部中央に二つの楕円形の窓あり。有柄	K1138	大場1955 第21表
	M1-99-1-999-77-11	52	骨鍬		刃部欠損	285.50	370.70	体部に二つの楕円形の窓あり。有柄	K1344	
	M1-99-1-999-77-12	52	骨鍬		基部欠損	225.08	303.60	体部中央に二つの楕円形の窓の痕跡あり		
	M1-99-1-999-78-1	52	骨斧		基部欠損	186.57	192.40	刃部は両面より研磨。肩をもち、刃部の幅が基部よりも広い。側面中間部に一対の突起あり	K852	大場1955 第19表
	M1-99-1-999-78-2	52	骨斧			164.13	104.40	刃部は両面より研磨。両側面中間部に一対の突起あり	K857	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-78-3	52	骨斧		刃部一部欠損	201.17	215.20	刃部は両面より研磨。体部中央側面に突起あり。基部の端に突起形成	K879	大場1955 第19表
	M1-99-1-999-78-4	52	骨篦		基部欠損	197.32	164.30	刃部は両面より研磨。両側面中間部に一対の突起あり。	K855	
	M1-99-1-999-78-5	52	骨篦		基部欠損	172.20	152.10	刃部は両面より研磨。両側面中間部に突起あり(片方欠損、もう一方は加工途中)	K856	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-78-6	52	骨篦		再加工	171.85	59.00	刃部は両面より研磨。体部中央側面に突起あり(片方のみ)。縦に半裁した部分に再加工。包丁状をなす	K873	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-78-7	52	骨篦		刃部一部欠損	224.31	220.60	刃部は両面より研磨。体部上方両側面に一対の突起あり。体部中央よりやや下方に肩を作出	K874	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-78-8	52	骨篦			199.72	111.80	刃部は両面より研磨。体部中央側面に突起あり(片方のみ)	K905	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-78-9	52	骨篦			375.00	460.20	大型。刃部は両面より研磨。体部中央両側面に浅い肩を作出。上方は加工途中なのか調整粗い	K942	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-78-10	52	骨篦			272.95	246.30	刃部は上下端にあり、いずれも両面より研磨。体部中央側面に肩を作出(2箇所)	K945	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-78-11	52	骨楔状残片			183.50	70.80	基部の端に突起形成(片方のみ)。骨篦類を再加工した際の残片か？	K1123	
	M1-99-1-999-78-12	52	骨楔状残片			153.96	100.10	形状は二等辺三角形。縁辺に加工あり。骨篦類を再加工した際の残片	K1112	大場1955 第22表
	M1-99-1-999-78-13	52	骨楔状残片			157.47	64.10	形状は二等辺三角形。縁辺に加工あり。短片に刃部残す。骨篦類を再加工した際の残片	K1113	大場1955 第22表
	M1-99-1-999-78-14	52	骨楔状残片			162.72	65.00	形状は二等辺三角形。縁辺に加工あり。骨篦類を再加工した際の残片	K1115	大場1955 第22表
	M1-99-1-999-78-15	52	骨楔状残片			125.99	35.40	形状は二等辺三角形。縁辺に加工あり。骨篦類を再加工した際の残片	K1359	
	M1-99-1-999-79-1	52	骨篦		基部欠損	214.27	395.50	刃部は両面より研磨	K895	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-79-2	52	骨篦			206.32	183.90	刃部は両面より研磨。特に表面は体部もよく研磨されている。肩をもたない	K896	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-79-3	52	骨篦		縦に半分欠損	204.96	138.30	刃部は両面より研磨。肩をもたない	K897	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-79-4	52	骨篦		刃部一部欠損	260.80	309.00	刃部は両面より研磨(片刃)。側面からみるとやや湾曲。体部中央側面に肩を作出。基部の端に突起形成	K941	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-79-5	52	骨篦			207.59	161.90	刃部は両面より研磨。体部中央側面に肩を作出	K947	
	M1-99-1-999-79-6	52	骨篦			209.63	196.10	刃部は両面より研磨。体部中央側面に一対の突起あり。基部の端に突起形成(浅い)	K963	大場1955 第20表

PLATE	ID	旧所蔵NO	器種1	器種2	部位(完形・未成品・欠損など)	最大長(mm)	重量(g)	備考	遺物ラベル番号	原典図版
	M1-99-1-999-79-7	52	骨篦			172.70	119.10	刃部は両面より研磨。体部中央側面に一対の突起あり。基部の端に突起形成	K964	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-79-8	52	骨篦			236.28	249.20	刃部は両面より研磨。体部中央側面に肩を作出。基部の端に突起形成	K1016	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-79-9	52	骨篦			225.69	345.40	刃部は両面より研磨。体部中央に肩を作出。基部の端に突起形成	K1015	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-79-10	52	骨篦			236.33	303.80	刃部は両面より研磨。体部中央に肩を作出。基部の端に突起形成	K1018	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-79-11	52	骨篦		半分欠損	216.55	190.20	体部中央に肩を作出。基部の端に突起形成。縦に半分欠損しており、片側だけ残存。	K1022	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-79-12	52	骨篦			221.95	123.10	刃部は片面より研磨。体部両側面に抉りを入れ肩を作出しているが、右側面の抉りは浅い。基部の端に突起形成しているが片方は抉りが浅く不明瞭	K1031	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-79-13	52	骨篦			203.62	170.50	刃部は両面より研磨。体部両側面に肩を作出。体部の幅が狭く細身。基部の端に突起形成	K1032	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-79-14	52	骨篦		体部両側面一部欠損	195.35	126.40	刃部は両面より研磨(片刃)。体部中央に肩を作出。基部の端に突起形成。側面は欠損後研磨している	K1033	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-79-15	52	骨篦		刃部一部欠損	208.30	110.40	刃部は両面より研磨。体部中央に肩を作出。基部の端に突起形成	K1036	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-79-16	52	骨篦		刃部のみ	130.68	126.60	刃部は両面より研磨	K1038	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-79-17	52	骨篦			166.82	173.90	刃部は片面より研磨。体部中央の両側面に肩を作出。基部の端に突起形成(片方不明瞭)	K1049	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-79-18	52	骨篦			154.10	88.90	刃部は片面より研磨。体部中央の側面に肩を作出。基部の端に突起形成(片方のみ)	K1052	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-79-19	52	骨篦			202.55	305.00	刃部は両面より研磨。体部中央の側面に肩を作出。基部の端に突起形成(片方欠損、抉りは深い)。全面に細かい削り調整を加えてから研磨して成形	K1064	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-79-20	52	骨篦			208.54	272.70	刃部は両面より研磨。体部中央側面に肩を作出。基部の端は山形をなして突出	K1072	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-79-21	52	骨篦			229.20	224.60	刃部は片面より研磨。体部上方の側面に肩を作出。基部の端に突起の痕跡みられるが浅く不明瞭。加工途中か？	K1081	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-79-22	52	骨篦		再加工	169.40	110.30	刃部は両面より研磨。体部中央側面に肩を作出。骨篦類の再加工品	K1124	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-79-23	52	骨篦			228.82	161.10	刃部は片面より研磨。体部中央側面に肩を作出。基部の端に突起形成。表面はよく研磨され平坦	K1320	
	M1-99-1-999-79-24	52	骨篦			178.47	79.30	刃部は両面より研磨。体部中央側面に肩を作出。基部の端に突起形成(片方欠損)。消去法によりK1017と推測	K101●	
	M1-99-1-999-80-1	52	骨斧		基部欠損	159.17	205.40	刃部は両面より研磨(両刃)。肩をもち、肩を作出。体部肥厚。消去法によりK867と推測	K867？	
	M1-99-1-999-80-2	52	骨篦		基部欠損	177.76	87.60	刃部は両面より研磨。体部側面に肩を作出。細身。側面からみるとやや湾曲	K932	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-80-3	52	骨篦		刃部一部欠損	155.86	114.10	刃部は両面より研磨。体部中央側面に肩を作出。基部の端に突起形成	K987	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-80-4	52	骨篦		縦に半分欠損	150.92	57.70	刃部は両面より研磨。体部中央側面に肩を作出。基部の端に突起形成	K988	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-80-5	52	骨篦		刃部一部欠損	167.47	101.80	刃部は両面より研磨。体部中央側面に肩を作出。基部の端に突起形成	K989	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-80-6	52	骨篦			141.93	77.90	刃部は両面より研磨。体部中央両側面に肩を作出。体部上方側面に一対の突起あり。基部の端に突起形成。M1-99-1-999-447-1と形状類似	K1045	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-80-7	52	骨篦		基部欠損	153.12	126.10	刃部は両面より研磨。肩をもち、刃部の幅が基部よりも広い。側面からみるとやや湾曲。消去法によりK866と推測	K86●	
	M1-99-1-999-80-8	52	骨篦			106.53	42.50	M1-99-1-999-77-4と接合	K9●3	
	M1-99-1-999-80-9	52	骨篦		刃部欠損、体部上方欠損	213.44	288.20	刃部は両面より研磨。体部中央側面に肩を作出。基部の端に突起形成	K10●5	
	M1-99-1-999-80-10	52	骨篦		刃部～体部欠損	169.53	67.40	体部両側面に肩を作出。基部の端に突起形成(片方不明瞭)	K10●9	
	M1-99-1-999-80-11	52	骨篦		基部欠損	130.67	101.20	刃部は両面より研磨。肩をもち、直下に一対の抉りを入れている。 M1-99-1-999-446-7と接合	K1●00	
	M1-99-1-999-80-12	52	骨篦			229.09	317.50	刃部は両面より研磨。体部中央側面に肩を作出。基部の端に突起形成(片方欠損)		
	M1-99-1-999-80-13	52	骨篦			235.64	269.40	刃部は両面より研磨。体部中央側面に肩を作出。基部の端に突起形成(片方欠損)		
	M1-99-1-999-80-14	52	骨篦			221.02	220.00	刃部は両面より研磨。側面からみると湾曲。体部中央側面に肩を作出。その直下に一対の突起あり。基部の端に突起形成(片方欠損)		
	M1-99-1-999-80-15	52	骨篦			232.70	348.10	刃部は両面より研磨。体部中央側面に肩を作出。基部の端に突起形成(抉り浅い、片方不明瞭)		
	M1-99-1-999-80-16	52	骨篦			198.64	197.70	刃部は両面より研磨。体部中央側面に肩を作出(浅い)。基部の端に突起形成(片方欠損)		

PLATE	ID	旧所蔵NO	器種1	器種2	部位(完形・未成品・欠損など)	最大長(mm)	重量(g)	備考	遺物ラベル番号	原典図版
	M1-99-1-999-80-17	52	骨篦			193.61	185.40	刃部は両面より研磨。体部中央側面に肩を作出(浅い)。基部の端に突起形成。その直上に片側面のみ抉りあり。破損後再利用か？		
	M1-99-1-999-80-18	52	骨篦			171.52	142.10	刃部は両面より研磨。体部中央側面に肩を作出(片方不明瞭)。基部の端に突起形成		
	M1-99-1-999-80-19	52	骨篦			181.68	85.40	刃部は両面より研磨。体部中央側面に肩を作出		
	M1-99-1-999-80-20	52	骨篦			156.23	90.10	刃部は片面より研磨。体部中央に肩を作出(片方のみ)。基部の端に突起形成(浅い)		
	M1-99-1-999-83-15	53	骨篦			98.35	235.80	刃部は片面より研磨。刃部は幅広で丸みがあり、しゃもじのような形成。基部の端に突起形成(片方欠損)。K1160番台以降に骨篦はないためK1067と推測。	K1●67	
	M1-99-1-999-81-1	53	骨篦		刃部欠損	246.77	206.20	両側面に二対の突起あり。側面からみると湾曲	K860	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-81-2	53	骨篦			214.85	284.60	刃部は両面より研磨。体部中央に肩を作出。基部の端に突起形成(片方欠損)	K991	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-81-3	53	骨篦			204.09	314.00	刃部は両面より研磨。体部中央側面に肩を作出。基部の端に突起形成(片方不明瞭)。全面に細かい削り調整されるがその後の研磨は粗い	K1057	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-81-4	53	骨篦			251.43	401.50	刃部は両面より研磨。両面はよく研磨され滑らか。体部中央側面に肩を作出。基部の端に突起形成	K1058	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-81-5	53	骨篦			249.40	436.40	刃部～体部にかけて両面から研磨。体部中央側面に肩を作出。基部の端に突起形成。	K1059	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-81-6	53	骨篦			229.90	329.50	刃部は片面より研磨。刃先は裏面から細かい削り調整で成形。体部中央側面に肩を作出。基部の端に突起形成	K1061	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-81-7	53	骨篦			216.27	579.30	刃部は両面より研磨。体部中央両側面に肩を作出。直下の両側面に八の字状の刻み(幅0.3～0.4cm)あり。基部の端に突起形成していたが両方とも欠損	K1077	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-81-8	53	骨篦		一部欠損	141.53	99.90	刃部、基部ともに表面のみ研磨。体部中央側面に肩を作出。基部の端に突起形成(片方欠損)	K1082	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-81-9	53	骨篦		刃部一部欠損	240.73	180.20	刃部、体部ともに表面のみ研磨。体部中央側面に二対の突起あり	K921	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-81-10	53	骨篦			193.79	131.60	刃部は片面より研磨。体部中央側面に肩を作出。基部の端に突起形成	K1●62	
	M1-99-1-999-81-11	53	骨篦			185.15	77.00	刃部は両面より研磨。体部中央に肩を作出(片側面のみ浅い)。大型の骨篦類を再利用したものと思われる。K2000番台以降はないためK1039と推測	K●039	
	M1-99-1-999-81-12	53	骨篦		0	190.89	257.50	刃部は両面より研磨。体部中央に肩を作出		
	M1-99-1-999-81-13	53	骨篦		一部欠損	167.65	104.60	刃部は両面より研磨。体部中央両側面に肩を作出。基部の端に突起形成。側面は特によく研磨されている		
	M1-99-1-999-82-1	53	骨斧		縦に半分欠損	143.76	117.40	刃部は両面より研磨。体部側面に突起あり	K872	
	M1-99-1-999-82-2	53	骨篦			221.50	320.20	刃部は両面より研磨。体部中央に肩を作出。体部～基部にかけて斜・横に擦痕あり	K918	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-82-3	53	骨篦			240.87	249.80	刃部は両面より研磨。体部中央に肩を作出。基部の端に突起形成	K940	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-82-4	53	骨篦			265.57	483.50	刃部は両面より研磨。体部中央に肩を作出。基部の端に突起形成	K1003	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-82-5	53	骨篦			230.77	319.20	刃部は両面より研磨。体部中央側面に階段状に肩を作出(二段)。基部の端に突起形成(片方欠損)	K1014	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-82-6	53	骨篦		一部欠損	238.19	260.70	刃部は両面より研磨しているが成形のための加工痕残る。体部中央両側面に肩を作出。基部の端に突起形成(片方欠損)	K1027	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-82-7	53	骨篦			185.77	366.60	刃部は両面より研磨。体部中央両側面に肩を作出(片方欠損)。基部の端に突起形成(片方欠損)	K1074	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-82-8	53	骨篦		体部一部欠損	168.51	159.90	刃部は両面より研磨。体部中央両側面に肩を作出。基部の端に突起形成(片方有無不明、抉り深い)	K1085	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-82-9	53	骨篦		刃部一部、基部欠損	171.98	160.20	刃部～体部にかけて両面より研磨。体部は幅広で厚み薄い。体部中央両側面に肩を作出	K1098	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-82-10	53	骨篦			243.02	249.50	刃部は片面より研磨。体部中央両側面に肩を作出	K1936	
	M1-99-1-999-82-11	53	骨篦			181.93	101.70	刃部は両面より研磨。刃部は幅狭で刃厚薄い。体部中央両側面に肩を作出。基部の端に突起形成		
	M1-99-1-999-82-12	53	骨篦			195.11	136.80	刃部は両面より研磨。体部中央両側面に肩を作出(片方欠損)。基部の端に突起形成(片方欠損)		
	M1-99-1-999-82-13	53	骨篦			160.58	80.20	刃部は両面より研磨されているが明瞭ではない。体部中央に肩を作出しているが抉り浅い。基部の端に突起形成(片方欠損)		

PLATE	ID	旧所蔵NO	器種1	器種2	部位(完形・未成品・欠損など)	最大長(mm)	重量(g)	備考	遺物ラベル番号	原典図版
	M1-99-1-999-82-14	53	骨篦			162.55	28.90	体部上方の両側面に肩を作出。基部の端に突起形成。M1-99-1-999-86-12と接合	K1054	
	M1-99-1-999-82-15	53	骨楔状残片			112.19	28.40	形状は二等辺三角形。全体に研磨。上端に切断痕あり。骨篦類を再加工した際の残片	K1121	大場1955 第22表
	M1-99-1-999-83-1	53	骨斧			177.54	252.70	上下端とも加工途中だが柄に近い端部の方が刃部になると思われる。体部の両側面に一対の突起あり。肩を作出	K876	
	M1-99-1-999-83-2	53	骨斧			161.92	140.40	刃部は片面のみ研磨。体部中央側面に突起あり(片方欠損)。基部の端に突起形成(片方欠損)		
	M1-99-1-999-83-3	53	骨篦		基部欠損	294.27	240.10	刃部は両面より研磨。右側面中間部に2つ、左側面中間部に1つ、交互に突起あり。基部は突起をもたないと思われるが一部欠損しており不明	K861	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-83-4	53	骨篦			190.01	194.60	刃部は両面より研磨。肩をもち、肩を作出する	K864	大場1955 第20表
74	M1-99-1-999-83-5	53	骨篦			147.50	129.70	刃部は両面より研磨。体部中央両側面に肩を作出	K883	大場1955 第26図 第20表
	M1-99-1-999-83-6	53	骨篦		体部側面一部欠損	168.91	135.70	刃部は両面より研磨。体部中央両側面に肩を作出	K920	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-83-7	53	骨篦		基部欠損	170.84	116.40	刃部は両面より研磨。体部中央両側面に肩を作出	K937	
	M1-99-1-999-83-8	53	骨篦			290.35	348.00	刃部は両面より研磨。体部中央両側面に肩を作出。着瓶部短い	K939	大場1955 第20表
72	M1-99-1-999-83-9	53	骨篦			194.39	173.70	刃部は両面より研磨。表面と側面は丁寧に研磨され滑らか。体部中央に二対の突起あり。基部の端に突起形成(片方欠損)	K960	大場1955 第24図、第20表
	M1-99-1-999-83-10	53	骨篦			240.53	409.20	刃部は削り調整後研磨。体部中央両側面に階段状の肩を作出。基部の端に突起形成	K972	
	M1-99-1-999-83-11	53	骨篦			260.93	484.40	刃部は両面より研磨。体部中央両側面に肩を作出。基部の端に突起形成。肩部、着柄部とも抉り深い	K973	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-83-12	53	骨篦		刃部、肩部一部欠損	270.60	219.50	刃部は両面より研磨。体部中央側面に肩を作出(片方欠損)。基部の端に突起形成(片方欠損)	K1006	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-83-13	53	骨篦		刃部一部欠損	246.46	191.50	両端に刃部をもつ。いずれも刃部は両面より研磨。体部中央両側面に抉りを入れ、両端の刃部に向けて肩を作出。	K1316	
	M1-99-1-999-83-14	53	骨篦			181.54	92.90	刃部は両面より研磨。体部両側面に抉りがあり肩を作出しようとしていたと思われるが欠損しており不明	K8●8	
	M1-99-1-999-83-16	53	骨器未成品			152.67	15.40	一面は研磨され平坦。骨篦や骨鍬の一部か？		
	M1-99-1-999-84-1	53	骨篦			219.42	177.50	刃部は両面より研磨。側面からみると湾曲。両側面中間部に2個ずつ突起が交互につく	K863	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-84-2	53	骨篦		刃部一部欠損	203.04	186.30	刃部は両面より研磨。肩をもち、肩を作出。側面からみるとやや湾曲。側面は削り調整後、研磨して成形	K865	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-84-3	53	骨篦		刃部一部欠損	228.63	176.90	刃部は両面より研磨。体部中央よりやや上方の両側面に肩を作出。基部の端に突起形成(抉り浅い)	K976	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-84-4	53	骨篦		体部一部欠損	172.09	99.50	刃部は両面より研磨。体部中央側面に肩を作出。基部の端に突起形成	K1050	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-84-5	53	骨篦			191.75	193.80	刃部は両面より研磨。体部中央側面に肩を作出。基部の端に突起形成	K1056	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-84-6	53	骨篦			224.05	503.70	刃部は両面より研磨。体部中央側面に肩を作出。基部の端に突起形成。大型	K1060	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-84-7	53	骨篦		刃部欠損	218.69	168.30	体部中央よりやや上方の両側面に肩を作出。基部の端に突起形成	K1065	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-84-8	53	骨篦			175.84	171.10	刃部は片面より研磨。基部の端に突起形成(片方欠損)。基部が短い	K1076	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-84-9	53	骨篦			217.43	215.80	刃部は片面より研磨。体部中央に肩を作出。基部の端に突起形成(片方欠損)	K1078	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-84-10	53	骨篦			208.51	215.50	刃部は片面より研磨(片刃)。体部中央に肩を作出した痕あるが、両側面欠損のため不明。基部の端に突起形成	K1080	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-84-11	53	骨篦			197.41	143.30	刃部は両面より研磨。器厚薄い。体部両側面に肩を作出。無茎	K1090	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-84-12	53	骨篦			183.72	154.30	刃部は片面より研磨。体部中央両側面に肩を作出。基部の端に突起形成	K1094	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-84-13	53	骨篦			163.47	127.80	刃部は両面より研磨(片刃)。体部中央両側面に肩を作出。基部の端に突起形成	K1095	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-84-14	53	骨篦		基部欠損？	170.21	169.30	刃部は両面より研磨(片刃)。体部両側面に肩を作出	K1097	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-84-15	53	骨篦			205.53	267.10	刃部は両面より研磨(片刃)。端部右側面に抉りあり(1つ)。肩部なのか突起なのか不明	K1101	
	M1-99-1-999-84-16	53	骨篦			266.87	230.10	刃部は両面より研磨。刃厚薄い。体部上方両側面に肩を作出。基部の端に突起形成。遺物に直接墨書で「贈　遠江先生　北海道北見国網走町モヨリ貝塚ニテ発掘セルモノ　一千二百年前アイヌ先住者使用セシ手鍬ナリ　昭和十六年八月六日　坂口秀龍」と注記あり	K1321	

PLATE	ID	旧所蔵NO	器種1	器種2	部位(完形・未成品・欠損など)	最大長(mm)	重量(g)	備考	遺物ラベル番号	原典図版
	M1-99-1-999-84-17	53	骨篦			197.33	44.40	刃部は両面より研磨。体部上方に抉りあり(1箇所)。再利用か？直接遺物に鉛筆書きで「骨篦-2」と注記あり		
	M1-99-1-999-85-1	53	骨篦			205.62	246.50	刃部は両面より研磨。体部中央両側面に一対の突起あり。基部の端に突起形成(片方欠損)。器面は細かい削り調整後研磨	K880	
	M1-99-1-999-85-2	53	骨鍬			198.42	224.60	刃部は片面より研磨。体部は窓2つの痕跡みられるが、ほとんど欠損している。有柄(突起の片方欠損)	K1133	
	M1-99-1-999-85-3	53	骨鍬		体部のみ	141.84	55.20	表面は研磨されていて滑らか。体部に楕円形の窓1つあり。M1-99-1-999-75-6と接合	K1132	
	M1-99-1-999-85-4	53	骨楔状残片			207.96	145.20	形状は長三角形。短辺に刃部を残す。骨篦類を再加工した際の残片。側面からみるとやや湾曲	K1109	大場1955 第22表
	M1-99-1-999-85-5	53	骨楔状残片			184.44	67.00	形状は長三角形。短辺に刃部を残す。縁辺に加工あり。骨篦類を再加工した際の残片	K1110	大場1955 第22表
	M1-99-1-999-85-6	53	骨楔状残片			120.31	42.40	形状は長三角形。縁辺に加工あり。短辺に刃部を残す。骨篦類を再加工した際の残片	K1116	大場1955 第22表
	M1-99-1-999-85-7	53	骨楔状残片			162.80	38.70	形状は長三角形。短辺に刃部を残す(両面から研磨)。骨篦類を再加工した際の残片	K1117	大場1955 第22表
	M1-99-1-999-85-8	53	骨楔状残片			164.68	60.80	形状は長三角形。骨篦類を再加工した際の残片	K1118	
76	M1-99-1-999-85-9	53	骨楔状残片			174.15	52.10	形は弓状。骨篦類を再加工した際の残片	K1119	
	M1-99-1-999-85-10	53	骨楔状残片			209.85	153.10	形状は長三角形。短辺に刃部を残す。骨篦類を再加工した際の残片		
	M1-99-1-999-85-11	53	骨篦		刃部～体部のみ	88.81	30.60	M1-99-1-999-88-7と接合。刃部は片面より研磨。刃厚薄い。板状	K903	
	M1-99-1-999-86-1	54	骨篦		縦に半分欠損	239.79	123.50	M1-99-1-999-447-1同様、両端が刃部(両刃)。体部に肩を作出し中央に握部あり	K890	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-86-2	54	骨篦			232.01	268.70	刃部は両面より研磨。全体に劣化してもろい	K900	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-86-3	54	骨篦			229.91	243.60	刃部は片面より研磨。体部中央両側面に肩を作出しているが浅く不明瞭	K908	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-86-4	54	骨篦			220.76	226.90	刃部は片面より研磨。体部中央両側面に肩を作出。全体に劣化してもろい	K919	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-86-5	54	骨篦		右側面欠損	232.31	308.90	刃部は両面より研磨。体部上方に肩を作出(片方欠損)	K925	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-86-6	54	骨篦		基部欠損	50.95	61.60	刃部は片面より研磨。体部中央両側面に肩を作出(片方不明瞭)	K926	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-86-7	54	骨篦		基部欠損	169.08	90.20	刃部は片面より研磨。体部中央両側面に肩を作出	K929	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-86-8	54	骨篦			155.96	68.50	刃部は両面より研磨。体部中央両側面に一対の突起あり。基部の端に突起形成	K956	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-86-9	54	骨篦			286.88	396.10	刃部は両面より研磨。体部中央両側面に肩を作出。その直下に二対の突起あり。基部の端に突起形成	K970	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-86-10	54	骨篦			156.35	87.70	刃部は両面より研磨。体部中央両側面に肩を作出。基部の端に突起形成	K1037	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-86-11	54	骨篦			134.14	40.90	小型。刃部は両面より研磨。体部中央両側面に肩を作出。基部の端に突起形成	K1046	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-86-12	54	骨篦			287.95	346.70	M1-99-1-999-82-14と接合	K1054	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-86-13	54	骨篦		基部欠損	164.76	171.10	刃部は片面より研磨。刃部の側縁は末端に向かいすぼまり、先端では刃部と着柄部の幅が同等となる。体部中央両側面に肩を作出。基部の端に突起形成(片面のみ)	K1075	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-86-14	54	骨篦			185.27	227.50	刃部は両面より研磨。刃厚薄い。体部中央両側面に肩を作出。着柄部の右側面に抉りあり。突起形成途中か？基部の端に突起形成	K1083	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-86-15	54	骨篦		刃部一部欠損	143.73	70.20	刃部は両面より研磨。体部中央側面に突起あり(1つ)	K906	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-86-16	54	骨篦			244.73	191.70	刃部は片面より研磨。体部中央両側面に肩を作出。基部の端に突起形成(片方のみ)	K935	
	M1-99-1-999-86-17	54	骨篦		刃部～体部のみ	149.30	60.60	刃部は両面より研磨。体部に肩を作出(片方のみ)。直接遺物に鉛筆書きで「骨篦-1」と注記		
	M1-99-1-999-87-1	54	骨篦			255.30	400.20	刃部は両面より研磨。体部中央両側面に肩を作出(浅いため不明瞭)	K909	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-87-2	54	骨篦		刃部、左側面欠損	201.58	113.00	体部中央に肩を作出(片方欠損)	K912	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-87-3	54	骨篦			196.17	158.60	刃部は両面より研磨(片刃)。体部中央に肩を作出(片方不明瞭)	K913	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-87-4	54	骨篦			208.19	157.70	刃部は片面より研磨。体部中央に肩を作出(片方不明瞭)	K914	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-87-5	54	骨篦			199.14	173.80	刃部は片面より研磨。体部中央に肩を作出(片方欠損)	K915	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-87-6	54	骨篦		基部欠損	224.67	293.50	刃部は両面より研磨。体部上方両側面に肩を作出	K922	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-87-7	54	骨篦		基部欠損	209.61	216.70	刃部は片面より研磨(片刃)。体部上方両側面に肩を作出	K923	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-87-8	54	骨篦		基部欠損	189.76	141.40	刃部は片面より研磨。体部上方両側面に肩を作出	K924	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-87-9	54	骨篦		基部欠損	185.32	136.00	刃部は片面より研磨。体部上方両側面に肩を作出	K931	大場1955 第20表

PLATE	ID	旧所蔵NO	器種1	器種2	部位(完形・未成品・欠損など)	最大長(mm)	重量(g)	備考	遺物ラベル番号	原典図版
	M1-99-1-999-87-10	54	骨篦			217.56	335.20	刃部は両面より研磨。体部中央両側面に肩を作出。基部の端に突起形成	K1009	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-87-11	54	骨篦		刃部欠損	224.58	102.30	体部中央両側面に肩を作出。基部の端に突起形成(片方不明瞭)	K1010	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-87-12	54	骨篦			158.51	128.90	刃部は片面より研磨。体部中央両側面に肩を作出。基部の端に突起形成(片方欠損)	K1011	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-87-13	54	骨篦			166.22	165.40	刃部は片面より研磨。体部中央両側面に肩を作出。基部の端に突起形成	K1051	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-87-14	54	骨篦			231.51	295.90	刃部は片面より研磨。体部中央両側面に肩を作出。基部の端に突起形成。器面は平らにするために細かく削り調整、研磨している	K1079	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-87-15	54	骨篦			134.22	58.20	小型。刃部は両面より研磨。体部中央両側面に階段状の肩を作出(二段)。基部の端に突起形成		
70	M1-99-1-999-88-1	54	骨斧		基部欠損	140.90	151.10	刃部は両面より研磨	K849	大場1955 第19表
	M1-99-1-999-88-2	54	骨斧		縦に半分欠損	154.90	126.80	両端に刃部をもつ。刃部は両面より研磨(両刃)。体部側面に二対の突起あり	K886	大場1955 第19表
	M1-99-1-999-88-3	54	骨篦			219.63	199.60	刃部は両面より研磨。側面からみるとやや湾曲。体部中央両側面に一対の突起あり。その直下に肩を作出	K871	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-88-4	54	骨篦		刃部片方欠損	262.11	197.10	両端に刃部？一端は両面より研磨(両刃)。もう一端は研磨が粗雑。体部中央上方の両側面に一対の突起あり	K891	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-88-5	54	骨篦		刃部一部欠損	210.05	81.20	器厚薄く、板状で長方形をなす。刃部は片面より研磨	K899	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-88-6	54	骨篦			186.58	61.40	刃部は両面より研磨。基部の両端に抉りあり	K901	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-88-7	54	骨篦			207.52	106.80	M1-99-1-999-85-11と接合	K903	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-88-8	54	骨篦		刃部欠損	281.55	280.30	体部中央両側面に一対の突起あり。基部の端に突起の痕跡みられるが不明瞭	K904	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-88-9	54	骨篦		基部一部欠損	224.89	390.10	刃部は両面より研磨。体部中央両側面に肩を作出。基部の端に突起形成していると思われるが欠損しているため不明瞭	K916	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-88-10	54	骨篦		縦に1/3欠損	249.61	351.00	大型。刃部は両面より研磨しているが先端に調整痕残る。体部上半には細かな削り痕あり、平らに成形。体部中央に肩を作出(片方欠損)	K917	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-88-11	54	骨篦		基部欠損	214.84	178.90	刃部は片面より研磨。体部中央両側面に肩を作出。側面からみるとやや湾曲	K928	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-88-12	54	骨篦			172.26	56.40	刃部は両面より研磨していて形状は尖っている。体部中央両側面に一対の突起あり。基部の端に突起形成(片方欠損)。側面からみるとやや湾曲	K958	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-88-13	54	骨篦			291.71	368.60	刃部は片面より研磨。体部中央両側面に肩を作出。基部の端に突起形成	K1053	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-88-14	54	骨篦		骨鏃から再加工	144.07	91.20	刃部は両面より研磨。壊れた窓を利用して肩を作出(片方のみ)。左側面に突起あり(1つ)。骨鏃の破損後転用したものか？	K1105	大場1955 第20表
76	M1-99-1-999-88-15	54	骨楔状残片			203.35	124.90	刃部を残す。骨篦類を再加工した際の残片	K1108	大場1955 第22表
	M1-99-1-999-88-16	54	骨篦			159.19	164.10	体部中央両側面に肩形成。右面半分は細かく加工して成形している。左面は全体に研磨されている。先端(刃部)は加工途中。基部の端に突起作出？骨篦類の再加工品か？		
	M1-99-99-999-90-1	54	骨器未成品			88.41	6.10	約8cmの棒状をなす。一部研磨痕確認できるが劣化で不明瞭。骨角器の破片と思われる		
	M1-99-1-999-92-1	55	鹿角製品			114.78	91.30	鹿角製。先端は両面より削って刃厚を薄くし、さらに研磨して刃部を作出。加工途中か？K2000番台以降はないため、K1188と推測	K●188	
	M1-99-1-999-92-2	55	骨篦			98.14	82.30	端部は面取りで平らに、基部は両面から面取りしV字にする。骨篦の肩部と思われる。ほかの骨角器として転用途中か？		
	M1-99-1-999-92-3	55	骨篦		基部欠損	144.26	87.60	刃部は両面より研磨。体部右側面に抉りあり。肩を作出か？	K1195	
77	M1-99-1-999-92-4	55	骨器未成品			144.84	100.80	海獣骨を素材。大場1955では骨頭部を利用して打突したとあるが痕跡確認できず。下端に加工痕あり	K1189	大場1955 第23表
	M1-99-1-999-92-5	55	骨器未成品			115.64	101.10	海獣骨を素材。下端に切断痕あり		
77	M1-99-1-999-92-6	55	未詳骨器			216.73	93.30	形状はヘラ状。全面研磨	K1187	
	M1-99-1-999-92-7	55	未詳骨器			223.07	265.00	しゃもじ状をなす。握部は研磨され滑らか	K1193？	
	M1-99-1-999-94-1	56	骨篦		刃部のみ	145.84	40.60	刃部は両面より研磨	K902	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-94-2	56	骨篦			129.52	75.80	刃部は片面より研磨。体部中央両側面に肩を作出(浅く不明瞭)	K910	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-94-3	56	骨篦			128.69	26.40	小型。刃部は片面より研磨。体部上方両側面に肩を作出	K927	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-94-4	56	骨篦		刃部一部欠損	146.90	37.10	小型。刃部は片面より研磨。体部中央側面に肩を作出。表面は使用によるものか擦痕みられる(斜め)	K933	
	M1-99-1-999-94-5	56	骨篦			109.05	31.60	小型。刃部は片面より研磨。体部中央両側面に肩を作出	K934	
	M1-99-1-999-94-6	56	骨篦		刃部一部欠損	151.50	48.10	小型。刃部は片面より研磨。体部中央に一対の突起あり。基部の端に突起形成	K953	大場1955 第20表

PLATE	ID	旧所蔵NO	器種1	器種2	部位(完形・未成品・欠損など)	最大長(mm)	重量(g)	備考	遺物ラベル番号	原典図版
	M1-99-1-999-94-7	56	骨篦		刃部一部、基部欠損	183.20	115.10	刃部は片面より研磨。体部中央側面に突起あり(左右の大きさ異なる)。右側面の突起は欠損後下部に抉りを入れて突起を再形成している。基部の端に突起形成(片方欠損)	K965	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-94-8	56	骨篦			175.79	144.50	刃部は両面より研磨。体部中央両側面に肩を作出。その直上に一対の突起あるが抉り浅く不明瞭。基部の端に突起形成	K966	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-94-9	56	骨篦			106.45	31.50	小型。刃部は片面より研磨。基部の端に突起形成。肩部直下に突起あり(片方、左側面のみ)	K968	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-94-10	56	骨篦			131.51	70.50	刃部は片面より研磨。体部中央両側面に肩を作出。基部の端に突起形成(片方欠損)	K980	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-94-11	56	骨篦			165.99	75.40	刃部は片面より研磨。体部中央両側面に肩を作出。基部の端に突起形成(片方欠損)	K981	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-94-12	56	骨篦			165.24	96.90	刃部は両面より研磨。基部の端に突起形成	K986	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-94-13	56	骨篦			141.62	53.30	刃部は片面より研磨。体部2箇所に肩を作出。両端とも刃部の可能性あり	K1042	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-94-14	56	骨篦			136.64	49.30	刃部は両面より研磨。体部中央両側面に肩を作出。基部の端に突起形成(片方欠損)	K1044	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-94-15	56	骨篦		基部欠損	152.35	85.40	刃部は両面より研磨。側面からみると湾曲。側面は丁寧に加工、研磨されている	K1313	
	M1-99-1-999-94-16	56	骨篦			108.18	25.40	小型。刃部は片面より研磨。体部中央両側面に肩を作出	K1315	
	M1-99-1-999-94-17	56	骨篦			146.95	43.30	小型。刃部は両面より研磨。体部中央両側面に肩を作出。基部の端に突起形成(片方欠損)	K1324	
	M1-99-1-999-94-18	56	骨篦			143.74	59.30	小型。刃部は片面より研磨。体部中央両側面に肩を作出(浅い)。基部の端に突起形成(片方欠損)	K1325	
	M1-99-1-999-94-19	56	骨篦			139.16	37.90	小型。刃部は両面より研磨。体部中央両側面に肩を作出。基部の端に突起形成(片方欠損)	K1326	
	M1-99-1-999-94-20	56	骨篦			143.67	58.40	小型。刃部は両面より研磨。体部中央両側面に肩を作出。基部の端に突起形成	K1327	
	M1-99-1-999-94-21	56	骨篦		刃部一部欠損	119.90	31.80	小型。刃部は片面より研磨。刃部小さい。体部中央両側面に肩を作出。基部の端に突起形成	K1329	
	M1-99-1-999-94-22	56	骨篦		刃部一部欠損	143.97	43.30	刃部は両面より研磨。体部中央両側面に一対の突起あり。基部の端に突起形成	K1331	
	M1-99-1-999-94-23	56	骨篦		体部一部欠損	98.22	15.70	小型。刃部は片面より研磨。体部中央側面に肩を作出(片方欠損)。基部の端に突起形成(片方欠損)	K1332	
	M1-99-1-999-94-24	56	骨篦		刃部一部欠損	305.00	416.40	刃部は両面より研磨。体部中央両側面に肩を作出。側面からみると湾曲。基部の端に突起形成	K100●	
	M1-99-1-999-94-25	56	骨篦			150.06	87.30	刃部は片面より研磨。体部中央両側面に肩を作出	K9●5	
	M1-99-1-999-94-26	56	骨篦			146.27	84.30	刃部は劣化して研磨不明。体部中央両側面に肩を作出。基部の端に突起形成		
	M1-99-1-999-94-27	56	骨篦		縦に半分欠損	226.03	120.50	刃部は両面より研磨。側面には細かな削り痕みられる。直接遺物に鉛筆書きで「骨鍬-1」と注記あり。再加工品。		
	M1-99-1-999-94-28	56	骨篦		縦に半分欠損	258.35	140.20	刃部は両面より研磨。直接遺物に鉛筆書きで「骨鍬-2」と注記あり		
	M1-99-1-999-94-29	56	骨篦		縦に半分欠損	225.95	119.00	刃部は両面より研磨(一部削りあり)。肩を作出。側面からみるとやや湾曲。直接遺物に鉛筆書きで「骨鍬-3」と注記あり		
	M1-99-1-999-94-30	56	骨篦		縦に半分欠損	204.82	97.20	刃部は片面より研磨。板状で肩をもつ。直接遺物に鉛筆書きで「骨鍬-6」と注記あり		
	M1-99-1-999-95-1	56	骨篦			242.84	326.90	刃部は両面より研磨。体部上方の両側面に肩を作出。基部の端に突起形成	K1013	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-95-2	56	骨篦			151.79	161.10	刃部は片面より研磨。体部中央の両側面に肩を作出。基部の端に突起形成	K1323	
	M1-99-1-999-95-3	56	骨篦		肩部欠損	275.85	266.40	刃部は片面より研磨。体部中央両側面に肩を作出。基部の端に突起形成(片方欠損)		
	M1-99-1-999-95-4	56	骨篦			272.98	339.30	刃部は片面より研磨。体部上方の両側面に肩を作出(片方不明瞭)。基部の端に突起形成		
	M1-99-1-999-95-5	56	骨篦			276.12	462.20	大型。刃部は両面より研磨。体部中央両側面に肩を作出。基部の端に突起形成。基部側面の稜は明瞭	K1091	
	M1-99-1-999-95-6	56	骨鍬		基部欠損	264.41	353.10	大型。刃部は両面より研磨。体部中央に楕円形の窓2つあり。有柄。柄部の側面の稜は明瞭	K1143	大場1955 第21表
	M1-99-1-999-95-7	56	骨篦		基部欠損	251.36	329.10	大型。刃部は両面より研磨。体部中央両側面に肩を作出。器厚薄い	K1144	大場1955 第21表
	M1-99-1-999-95-8	56	骨鍬		基部欠損	217.36	297.20	刃部は両面より研磨。体部中央に楕円形の窓2つあり。体部右側面に突起あり(1つ)	K1345	

PLATE	ID	旧所蔵NO	器種1	器種2	部位(完形・未成品・欠損など)	最大長(mm)	重量(g)	備考	遺物ラベル番号	原典図版
	M1-99-1-999-95-9	56	骨篦			207.28	280.80	刃部は両面より研磨。体部中央両側面に肩を作出。基部の端に突起形成	K●93	
	M1-99-1-999-96-1	56	骨篦			142.04	56.20	小型。刃部は片面より研磨。体部中央両側面に肩を作出(片方不明瞭)。基部の端に突起形成	K884	大場1955 第20表
73	M1-99-1-999-96-2	56	骨篦			249.42	267.20	刃部は両面より研磨。体部中央両側面に肩を作出。基部の端に突起形成	K950	大場1955 第25図、第20表
	M1-99-1-999-96-3	56	骨篦			253.52	434.80	刃部は両面より研磨。体部中央両側面に階段状に肩を作出(二段)。基部の端に突起形成	K971	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-96-4	56	骨篦			282.70	315.50	刃部は両面より研磨。体部上方両側面に肩を作出。基部の端に突起形成	K995	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-96-5	56	骨篦		再加工	138.79	108.10	刃部は両面より研磨。体部中央両側面に肩を作出。基部の端に突起形成。骨篦類の破損品を再利用したものと思われる	K1102	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-96-6	56	骨篦		基部のみ	105.49	60.50	基部の端に突起形成。基部中央に両面から加工した孔あり。	K1125	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-96-7	56	骨篦			187.10	142.40	刃部は片面より研磨。体部中央両側面に肩を作出	K1319	
	M1-99-1-999-96-8	56	骨篦			235.29	234.90	刃部は片面より研磨。体部中央両側面に肩を作出。基部の端に突起形成の痕跡みられるが抉り浅く不明瞭	K1322	
75	M1-99-1-999-96-9	56	骨篦			199.12	362.50	刃部は両面より研磨。体部中央両側面に肩を作出。基部の端に突起形成	K1092	
	M1-99-1-999-96-10	56	骨鏃		左側面一部欠損	272.34	338.30	刃部は両面より研磨。長楕円形の窓2つあり。有柄(突起片方欠損)	K1127	大場1955 第21表
	M1-99-1-999-96-11	56	骨篦		左側面欠損	165.22	153.30	刃部は両面より研磨。体部上方の側面に肩を作出。基部が短い。基部の端に突起形成	K1128	大場1955 第21表
75	M1-99-1-999-96-12	56	骨鏃			273.45	515.60	刃部は両面より研磨。体部上方に長楕円形の窓2つあり。握部狭い。体部上方両側面に肩を作出	K1136	大場1955 第27図、第21表
	M1-99-1-999-96-13	56	骨鏃		左側面、基部欠損	224.82	137.50	刃部は両面より研磨。体部上方に肩を作出。体部上方に楕円形の窓あり	K1137	大場1955 第21表
	M1-99-1-999-96-14	56	骨鏃		基部欠損	263.40	346.30	刃部は両面より研磨。体部上方に長楕円形(長さ4cm)の窓あり(2つ)	K1142	大場1955 第21表
	M1-99-1-999-96-15	56	骨鏃		右側面欠損	214.81	273.90	刃部は両面より研磨。体部上方に肩を作出。体部中央に窓あり(2つ、1つは欠損)。右側面破損後、再研磨。再利用か？	K1343	大場1955 第21表
	M1-99-1-999-96-16	56	骨鏃		刃部欠損	177.92	112.10	刃部は片面より研磨。体部中央に窓1つあり。有柄(突起片方欠損)。直接遺物に鉛筆書きで「骨鏃-4」と注記あり		
	M1-99-1-999-96-17	56	骨篦		刃部欠損	229.65	229.40	体部中央側面に肩作出(片方欠損)。直接遺物に鉛筆書きで「骨鏃-5」と注記あり		
	M1-99-1-999-96-18	56	骨鏃		基部欠損	289.40	454.20	刃部は片面より研磨。体部中央に窓あり(一部のみ)。有柄(突起片方欠損)		
	M1-99-1-999-97-1	56	骨篦			115.58	30.30	小型。刃部は両面より研磨。体部上方両側面に肩を作出。基部の端に突起形成(片方欠損)	K983	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-98-1	56	骨篦			165.73	71.50	形状では棒状で断面は楕円形と推定。M1-99-1-999-86-1のような両端に刃部のあるタイプと思われる	K1314	
69	M1-99-1-085-101-1	57	骨製針入			111.83	8.10	鳥管状骨製。両端とも真っ直ぐに切断。全面研磨。文様は片面のみに施される。格子状の線刻の間を、並行する線刻によって区切っている		
	M1-99-1-025-115-1	57	骨鏃	C型	先端欠損	53.45	1.40	有茎で下端は研磨により平坦。M2-99-1-999-420-109と同タイプ		
	M1-99-1-025-115-2	57	骨器未成品			59.60	2.10	三角錐形の骨片で加工痕あり。骨角器の破片か？		
	M1-99-1-025-116-1	57	骨鏃	E型	基部一部欠損	33.92	0.80	先端尖鋭。茎部は下端より0.2cm。茎部の断面は円形でソケットあり。		
	M1-99-1-120-117-1	57	骨製刺突具			74.38	3.40	縦長骨片を素材。先端は一側面を斜めに削って尖らせている。下端に削り痕あり		
	M1-99-1-015-125-1	57	釣針軸	B型	下半欠損	130.42	17.50	J字形主軸。頭部に幅1.1cmの糸かけ溝がめぐる。		
	M1-99-1-215/216-143-2	57	骨器未成品			115.14	26.90	先端はやや尖っている。全面を研磨、特に下半の裏面と両側面は研磨によって平坦になっている		
77	M1-99-1-038-193-1	58	骨器未成品	装飾骨	上腕骨	183.33	45.50	イヌの上腕骨に斜めに線刻の入って部分が数か所確認できる。それ以外の加工はなく、風化によりもろく骨の表面が剥がれてきている。装飾のあるイヌの上腕骨は礼文町香深井1遺跡などに類例あり		
	M1-99-1-037-196-1	58	骨器未成品		上端欠損	61.03	1.40	約6cmの縦に半裁した骨片を素材としている、両面ともよく研磨されている		
	M1-99-1-008-208-1	58	骨器未成品			33.56	5.90	両面とも平坦で研磨された破片。骨篦や骨鏃などの骨角器の一部(肩部)と思われる		
97	M2-2-1-105-222-1	58	骨小刀	精製		174.54	6.40	先端は丁寧に研磨され鋭利。器厚薄く、柳葉形をなす。	M.人.20	名取・大場1964 Fig8-20右上
97	M2-2-1-105-222-2	58	骨小刀	精製		142.06	6.20	柳葉形。器厚薄い。全体に丁寧に研磨され先端尖る。側面からみるとやや湾曲。上端に線刻、彫刻あり。	M.人.20	名取・大場1964 Fig8-20右上
97	M2-2-1-105-222-3	58	円盤形垂飾			41.97	16.80	マッコウクジラの歯を素材にしている。表面は二重丸に文様を施す。外側の円は実線、内側は破線の円を描く。クックルケシ状製品	M.人.20	名取・大場1964 Fig8-20左上

PLATE	ID	旧所蔵NO	器種1	器種2	部位(完形・未成品・欠損など)	最大長(mm)	重量(g)	備考	遺物ラベル番号	原典図版
97	M2-2-1-105-223-1	58	骨篦			177.55	178.00	刃部は両面より研磨。体部中央両側面で肩を作出。基部の端に突起形成	M.人.20	名取・大場1964 Fig8-20左下
	M1-99-1-055-252-1	60	骨楔状残片			107.48	21.60	形状は四角柱形。上端には切断痕、表面と側面には加工痕あり。骨角器の原材か？		
	M1-99-1-020-256-1	60	骨器未成品		半分欠損	76.22	14.90	形状は四角柱形。側面に加工痕あり。骨角器の原材か？		
	M1-99-1-142-275-1	60	骨篦		刃部のみ	77.51	11.40	骨篦や骨鏃の一部と思われる。再加工残片か		
96	M2-2-1-101-308-2	60	骨鏃	E型		32.02	1.10	有茎。先端は薄く先鋭。茎部は下端より0.2cm。茎部の断面は楕円形で円形のソケットあり	M.人.15	名取・大場1964 Fig8-15
96	M2-2-1-101-308-3	60	骨鏃	E型		31.12	1.30	有茎。先端は薄く先鋭。茎部は下端より0.6cm。茎部の断面は楕円形で円形のソケットあり	M.人.15	名取・大場1964 Fig8-15
96	M2-2-1-101-308-4	60	骨鏃	E型		35.81	1.10	有茎。先端は薄く先鋭。茎部は下端より0.2cm。茎部の断面は楕円形で円形のソケットあり	M.人.15	名取・大場1964 Fig8-15
96	M2-2-1-101-308-5	60	骨鏃	E型		41.53	1.40	有茎。先端は薄く先鋭。両面とも研磨により中央に稜線あり。茎部は下端より0.5cm。茎部の断面は楕円形で円形のソケットあり	M.人.15	名取・大場1964 Fig8-15
96	M2-2-1-101-308-6	60	骨鏃	E型		34.23	1.10	有茎。先端は薄く先鋭。両面とも研磨により中央に稜線あり。茎部は下端より0.4cm。茎部の断面は楕円形で円形のソケットあり	M.人.15	名取・大場1964 Fig8-15
96	M2-2-1-101-308-7	60	骨鏃	E型		38.68	1.40	有茎。先端は薄く先鋭。茎部は下端より0.2cm。茎部の断面は楕円形で円形のソケットあり。	M.人.15	名取・大場1964 Fig8-15
96	M2-2-1-101-308-8	60	骨鏃	E型		36.62	1.20	有茎。先端は薄く先鋭。両面とも研磨により中央から基部まで稜線あり。茎部は下端より0.2cm。茎部の断面は楕円形で円形のソケットあり	M.人.15	名取・大場1964 Fig8-15
96	M2-2-1-101-308-9	60	骨鏃	E型		45.13	1.40	有茎。先端は薄く先鋭。両面とも研磨により中央に稜線あり。茎部は下端より0.3cm。茎部の断面は楕円形で円形のソケットあり	M.人.15	名取・大場1964 Fig8-15
96	M2-2-1-101-308-10	60	骨鏃	E型		45.51	1.70	有茎。先端は薄く先鋭。両面とも研磨により中央から基部まで稜線あり。茎部は下端より0.2cm。茎部の断面は楕円形で円形のソケットあり	M.人.15	名取・大場1964 Fig8-15
96	M2-2-1-101-308-11	60	骨鏃	E型		48.72	1.50	有茎。先端は薄く先鋭。両面とも研磨により中央に稜線あり。茎部は下端より0.4cm。茎部の断面は楕円形で円形のソケットあり	M.人.15	名取・大場1964 Fig8-15
96	M2-2-1-101-308-12	60	骨鏃	E型		48.11	1.50	有茎。先端は薄く先鋭。両面とも研磨により中央に稜線あり。茎部は下端より0.4cm。茎部の断面は楕円形で円形のソケットあり	M.人.15	名取・大場1964 Fig8-15
96	M2-2-1-101-308-13	60	骨鏃	E型		53.76	2.00	有茎。先端は薄く先鋭。両面とも研磨により中央に稜線あり。茎部は下端より0.7cm。茎部の断面は円形で円形のソケットあり	M.人.15	名取・大場1964 Fig8-15
96	M2-2-1-101-308-14	60	骨鏃	E型		37.93	1.20	有茎。先端は薄く先鋭。両面とも研磨により中央から茎部まで稜線あり。茎部は下端より0.2cm。茎部の断面は楕円形で円形のソケットあり	M.人.15	名取・大場1964 Fig8-15
96	M2-2-1-101-308-15	60	骨鏃	E型		34.99	1.20	有茎。先端は薄く先鋭。両面とも研磨により中央に稜線あり。茎部は下端より0.2cm。茎部の断面は円形で円形のソケットあり	M.人.15	名取・大場1964 Fig8-15
96	M2-2-1-101-308-16	60	骨鏃	E型		29.73	0.90	有茎。先端は薄く先鋭。茎部は下端より0.2cm。茎部の断面は楕円形で円形のソケットあり	M.人.15	名取・大場1964 Fig8-15
96	M2-2-1-101-308-17	60	骨鏃	E型		32.11	1.00	有茎。先端は薄く先鋭。茎部は下端より0.2cm。茎部の断面は楕円形で円形のソケットあり	M.人.15	名取・大場1964 Fig8-15
96	M2-2-1-101-308-18	60	骨鏃	E型		34.81	1.10	有茎。先端は薄く先鋭。茎部は下端より0.2cm。茎部の段はやや逆鉤様である。茎部の断面は楕円形で円形のソケットあり	M.人.15	名取・大場1964 Fig8-15
96	M2-2-1-101-308-19	60	骨鏃	E型		35.60	1.20	有茎。先端は薄く先鋭。茎部は下端より0.2cm。茎部の断面は楕円形で円形のソケットあり	M.人.15	名取・大場1964 Fig8-15
96	M2-2-1-101-308-20	60	骨鏃	E型		37.74	1.30	無茎。先端は薄く先鋭。体部中央に稜線あり。全体に研磨されている。下端の断面は楕円形で円形のソケットあり	M.人.15	名取・大場1964 Fig8-15
96	M2-2-1-101-308-21	60	骨鏃	E型		49.18	1.50	無茎。先端は薄く先鋭。全体に研磨されている。下端の断面は楕円形で円形のソケットあり	M.人.15	名取・大場1964 Fig8-15
96	M2-2-1-101-308-22	60	骨鏃	E型		45.43	1.60	無茎。先端は薄く先鋭。全体に研磨されている。下端の断面は楕円形で円形のソケットあり	M.人.15	名取・大場1964 Fig8-15
96	M2-2-1-101-308-23	60	骨鏃	E型		38.80	1.40	有茎。先端は薄く先鋭。両面とも研磨により中央から基部まで稜線あり。茎部は下端より0.2cm。茎部の断面は楕円形で円形のソケットあり	M.人.15	名取・大場1964 Fig8-15
96	M2-2-1-101-308-24	60	骨鏃	E型		28.40	0.90	無茎。先端は薄く先鋭。全体に研磨されている。下端の断面は楕円形で円形のソケットあり	M.人.15	名取・大場1964 Fig8-15
96	M2-2-1-101-308-25	60	骨鏃	E型		37.04	1.50	有茎。先端は薄く先鋭。茎部は下端より0.2cm。茎部の断面は楕円形で円形のソケットあり	M.人.15	名取・大場1964 Fig8-15
96	M2-2-1-101-308-26	60	骨鏃	E型		46.70	1.50	無茎。先端は薄く先鋭。全体に研磨されている。下端の断面は楕円形で円形のソケットあり	M.人.15	名取・大場1964 Fig8-15

PLATE	ID	旧所蔵NO	器種1	器種2	部位(完形・未成品・欠損など)	最大長(mm)	重量(g)	備考	遺物ラベル番号	原典図版
96	M2-2-1-101-308-27	60	骨鏃	E型		49.52	1.70	無茎。先端は薄く先鋭。全体に研磨されている。下端の断面は楕円形で円形のソケットあり	M.人.15	名取・大場1964 Fig8-15
96	M2-2-1-101-308-28	60	骨鏃	E型		51.50	1.80	無茎。先端は薄く先鋭。全体に研磨されている。下端の断面は楕円形で円形のソケットあり	M.人.15	名取・大場1964 Fig8-15
96	M2-2-1-101-308-29	60	骨鏃	E型		48.83	1.50	無茎。先端は薄く先鋭。全体に研磨されている。下端の断面は円形で円形のソケットあり	M.人.15	名取・大場1964 Fig8-15
96	M2-2-1-101-308-30	60	骨鏃	E型		52.62	1.70	無茎。先端は薄く先鋭。全体に研磨されている。下端の断面は楕円形でソケットあり	M.人.15	名取・大場1964 Fig8-15
96	M2-2-1-101-308-31	60	骨鏃	A型		75.67	3.90	骨の一端を斜めに切断して先端を尖らせている。下端は面取りして平坦にしている	M.人.15	名取・大場1964 Fig8-15
96	M2-2-1-101-308-32	60	骨鏃	B型		76.89	2.30	先端は薄く削られ先鋭。先端の断面はひし形。下端は両面から面取りをして薄く平坦。全体に横方向に擦痕あり	M.人.15	名取・大場1964 Fig8-15
96	M2-2-1-101-308-33	60	骨鏃	B型		87.54	2.50	鳥の骨を素材としている。先端は薄く削られ尖鋭。先端の断面はひし形。体部中央に浅い抉り作出。下端は両面から面取りをして薄く平坦	M.人.15	名取・大場1964 Fig8-15
96	M2-2-1-101-308-34	60	骨鏃	B型		93.33	2.70	鳥の骨を素材としている。先端は薄く削られ尖鋭。先端の断面はひし形。下端は両面から面取りをして薄く平坦	M.人.15	名取・大場1964 Fig8-15
106	M2-7-1-110-318-1	60	骨鏃	E型		64.55	2.70	先端は先鋭で断面ひし形。中央に稜線あり。茎部は下端より1.5cm。その直上に抉りを入れて加飾。茎部の断面は円形で円形のソケットあり		
	M2-5-1-248-325-6	61	釣針軸	B型	未成品	220.85	77.70	J字形・交差式。全体を大きく削って成形した段階。おそらく接合式になるもの		
	M2-5-1-248-325-7	61	骨篦		刃部、基部欠損	126.61	59.10	体部中央側面に肩を作出		
	M2-5-1-248-325-8	61	鹿角製品	残片		66.20	8.10	枝先端を切り落としたもの		
	M2-99-1-999-338-1	95	骨篦		刃部一部欠損	139.50	45.60	刃部は両面より研磨。体部中央両側面に一対の突起あり。基部の端に突起形成(片方欠損)		
	M2-99-1-999-339-1	95	骨篦			172.39	63.90	刃部は片面より研磨。体部中央両側面に抉りを入れ、肩を作出		
	M2-99-1-999-340-1	95	骨鍬		左右側面欠損	249.22	218.00	刃部は片面より研磨。体部中央に並列して窓2つあったが、欠損している。基部は有柄。基部と窓の間に、帯状の変色部2本あり。柄に固定した跡だろう	K1590	
94	M2-1-1-096-341-1	95	釣針軸	A型	未成品	176.65	119.60	U字形。チモト側頭部は山形に加工され、糸通し孔あり。アグ側頭部には加工がない。屈曲部下端に削り痕あり。体部は研磨により成形されている	K1540	
	M2-1-1-096-341-2	95	骨篦			265.70	342.50	大型。先端は両面より研磨。体部上方両側面より抉りを入れ、肩を作出。その直下に一対の突起あり。基部の端に突起形成(片方欠損)	K1586	
94	M2-1-1-096-341-3	95	骨篦		刃部、基部一部欠損	256.33	283.70	刃部は両面より研磨。体部中央両側面に肩を作出。基部の端に突起形成しているが、対ではなく、ややずれている	K1591	
	M2-1-1-096-341-4	95	骨篦			278.84	542.80	大型。刃部は両面より研磨。体部中央両側面に肩を作出。基部の端に突起形成の痕跡がみられるが不明	K1595	
	M2-1-1-096-341-5	95	骨篦		刃部～体部欠損	87.90	18.10	体部に突起と思われる痕跡を確認(1つ)。基部の端に突起形成(片方欠損)		
	M2-1-1-096-341-6	95	骨篦		刃部、基部欠損	91.15	41.90	体部に一対の突起あり。骨篦の一部と思われる		
	M2-1-1-096-341-7	95	骨篦			105.05	6.40	M2-1-1-096-341-4の破片の可能性あり		
	M2-1-1-096-341-8	95	骨篦			57.01	7.40	M2-1-1-096-341-4の破片の可能性あり		
94	M2-1-1-096-341-9	95	骨器未成品	鯨ひげ		319.00	14.60	ヒゲクジラのひげ(baleen)。上端は繊維に沿って縦に細かく割かれており、箒の穂の部分のようである。下端は研磨され尖っている。大場報告では鳥の羽毛とされていたもの	K1580	大場1955 第34図、第25表
	M2-1-1-096-341-10	95	骨器未成品	鯨ひげ		278.42	9.60	ヒゲクジラのひげ(baleen)。M2-1-1-096-341-9と同タイプのもの	K1581	
	M2-1-1-096-341-11	95	骨器未成品	鯨ひげ	破片	103.57	3.60	M2-1-1-096-341-9かM2-1-1-096-341-10の破片		
108	M2-99-1-999-343-1	96	釣針先	無鈎		47.64	2.40	アグのないタイプ。三日月形で板状に研磨される。M2-99-1-999-441-23の釣針軸(A型)の嵌溝にはめた状態で出土したと報告されたもの	K1538	大場1955 第13図、第8表
110	M2-99-1-999-344-1	96	バックル		上下端一部欠損	66.27	4.90	板状の骨を利用。両端には直径0.2cmの円形の孔が、また、上端の直下にV字形の窓(空間)が開けられている。さらに窓の下には、円形小孔が多数あけられている。装飾付きのバックル	K1574	大場1955 第33図、第24表
110	M2-99-1-999-345-1	96	バックル			86.11	11.40	形状は逆台形。上下端にそれぞれ円形の孔2つ(直径0.3～0.4cm)が並列してあり。上端の直下にV字形の窓(空間)が開けられており、先端は先鋭。表面には左右対称となる浮文や線刻みられる。両側面にも等間隔に削ってからさらに研磨し、波状の文様を作出。M2-99-1-999-344-1よりも装飾が細かく緻密。装飾付きのバックル	K1573	大場1955 第33図、第24表
110	M2-99-1-999-346-1	96	骨角製垂飾	管状垂飾		35.15	0.50	長さ3.5cmの管状で、直径0.3cmの空洞あり。表面には10本の線刻を入れている	K1578	大場1955 第33図、第24表(※表では「K1978」と誤植)

PLATE	ID	旧所蔵NO	器種1	器種2	部位(完形・未成品・欠損など)	最大長(mm)	重量(g)	備考	遺物ラベル番号	原典図版
110	M2-99-1-999-347-1	96	貝器			20.05	0.60	サイズからは大場1955で貝鏃とされた資料の可能性あり		
110	M2-99-1-999-348-1	96	貝器			72.58	13.60	サイズ、形状から大場1955でウバガイ製匙とされた資料		
	M2-99-1-999-350-1	96	骨鏃	A型		89.61	4.30	縦長の骨片を素材。形状は柳葉形で両端が尖る。先端は細く尖鋭。頭部片側に浅いアグ状の段がつく。釣針先の可能性もある		
	M2-99-1-999-350-2	96	骨製刺突具			73.10	0.80	細い鳥の管状骨の一端を斜めに切断している		
	M2-99-1-999-350-3	96	骨鏃	B型？	下端欠損	68.36	2.70	陸獣骨製。全体に研磨され、擦痕多数(斜め)残る。下端近くに面取りして平らにした部分がある		
	M2-99-1-999-350-4	96	釣針先	無鈎		46.57	2.30	アグのないタイプ。海獣牙製。周縁を削ってから斜めに研磨し三日月形に成形		
	M2-99-1-999-350-5	96	釣針軸	B型	上半分欠損	95.10	12.00	J字形・接合式。頭部欠損しており、主軸か副軸かは不明。結合部に平坦面を作り、反対の側面には溝を3段設けている		
	M2-99-1-999-350-6	96	釣針軸	不明	下端欠損	76.71	6.40	全形不明。アグ側頭部。上端に幅1.1cmの嵌溝あり。		
	M2-99-1-999-350-7	96	骨製刺突具			104.10	7.70	海獣肋骨を上下端と両側面より加工し、先端を尖らせている。断面からみると湾曲。		
	M2-99-1-999-350-8	96	骨製刺突具			85.97	2.30	管状の動物骨を縦に半裁して一端を細く削り研磨して尖らせている		
	M2-99-1-999-351-1	96	未詳骨器			33.54	3.60	器面全体研磨して滑らか。断面からみるとやや湾曲。上端には溝が一周し、両側面に抉りを入れている	K1582	
	M2-99-1-999-351-2	96	骨篦			240.72	294.00	刃部は両面より研磨。刃部から体部両側面は特によく研磨されている。体部中央両側面に一対の突起あり。基部の端に突起形成	K1584	
	M2-99-1-999-351-3	96	骨篦			199.59	248.10	刃部は両面より研磨。体部中央両側面に肩を作出。両側面はよく研磨されている。基部の端に突起形成(両方とも欠損)。裏面に直接鉛筆書きで「貝塚東一層」と注記あり	K1585	
	M2-99-1-999-351-4	96	骨篦			238.95	131.00	刃部は片面より研磨。体部中央両側面に肩を作出。基部の端に突起形成	K1587	
	M2-99-1-999-351-5	96	骨篦			216.90	179.70	刃部は片面より研磨。体部中央両側面に肩を作出。基部の端に突起形成	K1588	
	M2-99-1-999-351-6	96	骨篦		体部左側面欠損	165.53	188.30	刃部は両面より研磨され刃厚薄い。体部中央両側面に肩を作出。その直下に突起あり(片方欠損)。基部の端に突起形成	K1589	
	M2-99-1-999-351-7	96	骨篦			162.23	112.70	刃部は両面より研磨。刃部から体部にかけての側面も丁寧に研磨され平ら。体部中央両側面に肩を作出。基部の端に突起形成	K1592	
	M2-99-1-999-351-8	96	骨篦			149.37	55.20	小型。刃部は片面より研磨。刃部から体部の側面は研磨されているが、握部は粗雑な加工が多く残る。肩部から握部は再加工、調整途中の可能性あり	K1593	
	M2-99-1-999-351-9	96	骨篦			126.05	43.10	小型。刃部は両面より研磨。使用によるものか刃部は小さく尖っている。体部中央両側面に肩を作出。基部の端に突起形成	K1594	
109	M2-99-1-999-351-10	96	骨鍬			229.03	353.90	刃部は両面より研磨(片刃)。体部中央に一対の楕円形の窓あり。有柄で柄部の幅狭い	K1583	
	M2-99-1-999-352-1	97	銛頭	回転式A群	尾部一部欠損	108.94	9.20	先端は尖鋭。背面中央に索溝あり(幅1.0cm)。双尾	K1600	
	M2-99-1-999-352-2	97	骨鏃	E型	未成品	42.54	1.30	鹿角製。先端を研磨し尖鋭、右側面に浅い抉りを入れて茎部を作る。ソケットは未作出	K1602	
	M2-99-1-999-352-3	97	骨鏃	C型	未成品、先端欠損	49.79	4.20	全面を面取りして柳葉形に成形。下端は四面を面取りして尖らせ、基部を形成。未成品と思われる	K1605	
	M2-99-1-999-353-1	97	骨器未成品	クジラの骨製板状製品		720.30	593.30	長さ約72cmの板状。側面に刻みが確認できる	K1617	
	M2-99-1-999-354-1	97	骨篦	再加工残片	基部のみ	142.75	205.00	基部に突起。下端や両側面を再加工している		
	M2-99-1-999-355-1	97	骨器未成品			199.03	196.70	縦に半裁した大型海獣骨を素材としている。両側面は縦に長く削って、上端に突起を残している。下端は表面側を面取りして先端を丸くしている。骨篦類の未成品か。	K1616	
	M2-99-1-999-356-1	97	釣針軸	B型		255.82	138.70	J字形主軸・交差式。海獣尺骨製。頭部は細くなるが、くびれがめぐりノブ状になっている。下端は関節突起を削って成形している。		
	M2-99-1-999-357-1	97	骨楔状残片		一部欠損	128.87	77.50	形状は二等辺三角形。骨篦類を再加工した際の残片	K1612	
	M2-99-1-999-358-1	98	骨製刺突具			104.91	1.80	海獣肋骨製。柳葉形で側面からみるとやや湾曲。先端は両面より研磨し尖鋭。下端も両側面から加工しやや細身に作っている		
108	M2-99-1-999-358-2	98	釣針軸	A型	アグ側欠損	143.02	49.30	U字形。海獣下顎骨製。頭部にはやや浅いが、糸かけ溝あり。チモト側の体部中央に2～3本の線刻が施される	K1610	
	M2-99-1-999-358-3	98	骨錐			72.07	2.00	オットセイの腓骨製。先端は尖鋭。全体に研磨され滑らか。一部にカットマークみられる		
	M2-99-1-999-358-4	98	骨篦			168.04	50.50	刃部は片面より研磨。体部中央両側面に肩を作出		

PLATE	ID	旧所蔵NO	器種1	器種2	部位(完形・未成品・欠損など)	最大長(mm)	重量(g)	備考	遺物ラベル番号	原典図版
	M2-99-1-999-358-5	98	骨篦		基部一部欠損	139.57	64.70	刃部は両面より研磨され薄い。体部中央両側面に肩を作出。基部の右側面に突起あり(1つ)。肩部形成。直接遺物に鉛筆書きで「7号竪穴」と注記あり	K1611	
	M2-99-1-999-358-6	98	骨篦			140.12	37.60	刃部は両面より研磨。体部側面に肩を作出(片方欠損)	K1614	
	M2-99-1-999-358-7	98	骨篦		刃部欠損	173.02	73.60	体部中央両側面に抉りあり、肩を作出していたと思われる。基部の端に突起形成しているが左右対称ではない。左の肩部を欠損後に作り直している		
109	M2-99-1-999-358-8	98	骨製打突器			193.09	69.70	全面を縦に面取りした多面体の棒状骨角器。先端は使用している。カットマークあり	K1615	
109	M2-99-1-999-358-9	98	骨角製垂飾	椎骨製垂飾		44.36	13.50	イルカ類椎骨(おそらく腰椎)の突起を削り円形に成形。中央に穿孔1つあり(直径0.6cm)		
	M2-99-1-999-358-10	98	骨角製垂飾	椎骨製垂飾		28.27	3.00	板鰓類椎骨を素材として円形に成形。中央に穿孔1つあり(直径0.3cm)		
	M2-99-1-999-358-11	98	骨器未成品			55.08	2.40	約5cmの棒状骨角器。シカ中手中足骨製。断面は半円形。表面の一端に2本の線刻あり。骨鏃の未成品か		
	M2-99-1-999-358-12	98	骨器未成品			172.10	427.30	大型の海獣肋骨製。形状は約15×11cmの長方形。両端部に加工あり	K1596	
	M2-99-1-999-358-13	98	骨器未成品			152.20	69.70	両側面を縦に削り、形状は長方形をなす。断面は六角形。骨製打突器になるものか		
	M2-4-1-999-360-11	99	銛頭	回転式E群	上下端欠損	37.73	1.70	横位2索孔。背面の索孔間に導索溝あり。単尾		
102	M2-4-1-999-360-12	99	銛頭	回転式F群	先端のみ	18.82	0.30	M2-4-1-999-361-23と接合。F群の先端部で尖鋭		
	M2-4-1-999-360-13	99	骨製刺突具		先端のみ	30.02	0.80	先端は先鋭。もとは柳葉形だと思われる。全体に研磨されている		
	M2-4-1-999-360-14	99	骨鏃	A型	先端欠損	76.31	4.70	シカ中手中足骨製。断面が円形の棒状。全体に研磨されている。基部はやや細くなる		
102	M2-4-1-999-361-19	99	銛頭	逆鉤式	逆鉤一部欠損	85.83	4.10	先端に刃溝あり。逆鉤は左右対称に2段。基部に両凸レンズ断面形の索孔	上20／C.上	名取・大場1964 Fig1-20
102	M2-4-1-999-361-20	99	銛頭	回転式A群	先端欠損、尾部半分欠損	69.77	5.10	先端は欠損しているが刃溝あったと思われる。全体に擦痕あり(斜め)。背面に索溝(1.2cm幅)、腹面に柄溝あり。尾部は双尾(片側欠)	上21	名取・大場1964 Fig1-21
102	M2-4-1-999-361-21	99	銛頭	回転式A群	先端欠損	73.02	3.90	背面中央と尾部寄りに幅0.8cmと0.7cmの索溝が2段にわたってある。再加工品。腹面に柄溝あり。尾部の両端には浅い抉りを入れている	上22	名取・大場1964 Fig1-22
102	M2-4-1-999-361-22	99	銛頭	回転式F群	先端、尾部欠損	41.48	3.10	先端の刃溝は片側を欠損するが、赤錆状の赤色物が付着する。横位の2索孔。ソケットの側壁はやや内傾する。尾部は片側を欠くが双尾で、尾部の抉りはアーチ状	上23	名取・大場1964 Fig1-23
102	M2-4-1-999-361-23	99	銛頭	回転式F群	先端欠損	47.77	3.40	M2-4-1-999-360-12と接合。縦位の2索孔。ソケットの側壁は内傾しフラスコ状。尾部は双尾で端が尖り、アーチ状の抉りが入る	上24	名取・大場1964 Fig1-24
102	M2-4-1-999-361-24	99	骨鏃	D型		96.54	4.00	鳥管骨製。全面に擦痕あり(斜め)。特に表面下半は研磨され平坦	上25	名取・大場1964 Fig1-26
102	M2-4-1-999-361-25	99	骨鏃	D型		92.74	3.70	鳥管骨製。裏面は特に研磨され平坦面作出	上26	名取・大場1964 Fig1-25
102	M2-4-1-999-361-26	99	骨鏃	B型？	下端欠損	66.55	2.40	シカ中手中足骨製。先端先鋭。形状は柳葉形で全体に研磨され成形	上27	名取・大場1964 Fig1-27
102	M2-4-1-999-361-27	99	骨鏃	A型		76.87	2.80	縦に半裁した鳥の骨を素材としてる。先端は薄く削り尖鋭。全体に研磨して成形(斜め)。基部は斜めに切断し、反対側の端に突起あり	上28	名取・大場1964 Fig1-28
102	M2-4-1-999-361-28	99	骨鏃	E型		34.87	2.10	無茎。形状は砲弾形。先端先鋭。下端断面は円形で円形のソケットあり	上29	名取・大場1964 Fig1-29
103	M2-4-1-999-361-29	99	釣針先	有鉤		52.88	3.70	内側に浅いアグあり。体部全体に擦痕(斜め)あり。体部はやや湾曲	上34	名取・大場1964 Fig1-34
	M2-4-1-999-361-30	99	釣針先	無鉤		52.80	4.40	アグのないタイプ。形状は三日月形。体部全体に器面成形のための擦痕(斜め)あり		
103	M2-4-1-999-361-31	99	釣針軸	A型	両側頭部欠損	129.77	32.00	頭部は欠損しているが、U字形の軸である	上30	名取・大場1964 Fig2-32
103	M2-4-1-999-361-32	99	釣針軸	B型		165.42	37.20	J字形副軸・交差式。海獣骨製。肋骨頭から外側縁にかけて削って成形。頭部には幅1.3cmの嵌溝あり。溝の下1.0cm付近には浅い溝が一周している。体部には多数の斜め方向の擦痕が確認できる	上31	名取・大場1964 Fig2-30
103	M2-4-1-999-361-33	99	釣針軸	B型		172.05	29.10	J字形主軸・交差式。海獣の肋骨を素材としている。頭部には糸かけ溝あり。体部上半には7本の線刻あり。さらに両側面を5～6箇所削って波状に加飾している	上32	名取・大場1964 Fig2-31
103	M2-4-1-999-361-34	99	釣針軸	B型		103.03	14.50	J字形副軸。アグ側頭部。幅2.3cmの嵌溝あり	上33	名取・大場1964 Fig2-33
104	M2-4-1-999-361-35	99	骨製刺突具		下端一部欠損	116.19	9.30	柳葉形で両面研磨され平坦。先端は両側面より加工して尖鋭。先端の断面は四角形	上36	名取・大場1964 Fig2-37

PLATE	ID	旧所蔵NO	器種1	器種2	部位(完形・未成品・欠損など)	最大長(mm)	重量(g)	備考	遺物ラベル番号	原典図版
104	M2-4-1-999-361-36	99	骨器未成品			170.43	22.90	海獣肋骨製の縦長の骨片で、側面からみるとやや湾曲。先端は細くなり、下端は面取りされている。銛頭(回転式A群)の未成品か？	上37	名取・大場1964 Fig2-36
104	M2-4-1-999-361-37	99	骨錐			102.04	4.50	先端を斜めに切断し研磨	上35	名取・大場1964 Fig2-35
105	M2-4-1-999-361-38	99	骨小刀	精製		110.95	3.20	幅約1cmの縦長の海獣肋骨製品。基部の端には両側から抉りを入れて貫通しない小孔6個、直下には隆帯あり。側面からみると先端やや湾曲。	上42	名取・大場1964 Fig1-42
105	M2-4-1-999-361-39	99	骨小刀	精製	先端欠損	86.86	5.30	海獣骨製。基部の端には幅広の抉りと2段の斜めの抉りをいれて加飾している。	上43	名取・大場1964 Fig1-43
	M2-4-1-999-361-40	99	骨角製垂飾	環状垂飾	半分欠損	55.71	6.50	ドーナツ形。中央に穿孔あり(1つ)。表裏面は研磨され光沢あり		
105	M2-4-1-999-361-41	99	骨角製垂飾	楕円形垂飾		34.22	5.00	円形。中央に両面からの穿孔1つあり(直径0.3cm)。両面とも無文だが擦痕あり	上45	名取・大場1964 Fig1-45
105	M2-4-1-999-361-42	99	バックル	円盤形垂飾		52.59	5.40	全体の1/4程度残存。本来は長楕円形の板状製品で、多数の小孔と細い溝を入れていたもの。孔と溝はいずれも裏面まで貫通する。溝は鈍角に曲がっており、残存部を大きく2つに分けている。溝の上側には直径0.3cmの両面穿孔の孔が1個あり、左側割れ口にも孔の一部が1個残る。溝の右下側には直径0.2cmの片面穿孔の孔が溝に沿うように3個、その下に横方向に2個あり、下側割れ口にも2個残る。左側の割れ口には溝の一部が残り、本来は左右対称だった可能性がある。バックルの未成品か。	上44	名取・大場1964 Fig1-44
	M2-4-1-999-363-1	100	骨器未成品			150.86	103.50	長方形で裏面平坦。両端に切断痕あり。骨角器の素材か？		
	M2-4-1-999-363-2	100	骨器未成品			180.22	29.80	板状。表面に擦痕残る		
	M2-4-1-999-363-3	100	骨器未成品			133.32	25.50	細長の角柱状で側面に加工痕残る。骨篦類再加工の残片か、骨製打突器の未成品かもしれない		
	M2-4-1-999-363-4	100	骨器未成品			107.90	25.30	縦長の海獣骨加工品。上端に折り取り痕あり		
	M2-4-1-999-363-5	100	鹿角製品	残片		95.95	16.60	枝先端部。基部は折れており、明確な加工痕はない。全体に摩耗する		
	M2-4-1-999-364-1	100	釣針軸	不明	上下端欠損	42.89	4.00	全形不明。上端直下は斜めに加工あり。釣針軸の嵌溝の可能性あり		
	M2-4-1-999-364-2	100	骨篦			17.49	0.70	側縁の突起部分の破片		
	M2-4-1-999-364-3	100	骨器未成品		先端一部欠損	51.15	2.80	一端を斜めに切断して尖らせている。カットマークあり。骨鏃の未成品か？		
	M2-4-1-999-364-4	100	骨篦			65.87	16.10	基部破片		
	M2-4-1-999-364-5	100	鹿角製品	柄？	下端欠損	72.66	17.00	上端は切断した断面を研磨して平らにしている。海面質部分に断面紡錘形の孔あり。表裏面にカットマークあり		
	M2-4-1-999-364-6	100	骨器未成品			119.53	4.30	縦長の骨片で、一端を両側面より削って細く薄くしている。カットマークあり		
	M2-4-1-999-365-3	100	骨角製垂飾	椎骨製垂飾		25.87	1.90	板鰓類椎骨を素材として円形に成形。中央に穿孔1つあり(直径0.5cm)		
	M2-4-1-999-366-3	100	骨製刺突具		先端のみ	30.42	0.40	先端尖っている。表面劣化		
105	M2-4-1-999-368-1	100	骨篦			217.06	281.60	刃部は両面より研磨。体部中央両側面に肩を作出。基部の端に突起形成。握部側面は研磨により滑らか	M.上.38	名取・大場1964 Fig2-38
105	M2-4-1-999-368-2	100	骨篦		刃部一部欠損	208.52	249.40	刃部は両面より研磨。体部中央両側面に肩を作出。基部の端に突起形成	M.上.39	名取・大場1964 Fig2-39
105	M2-4-1-999-368-3	100	骨篦			107.53	24.20	小型。刃部は片面より研磨。体部中央両側面に肩を作出(片方欠損)。基部の端に突起形成(片方欠損)	上.40	名取・大場1964 Fig2-40
104	M2-4-1-999-368-4	100	骨斧		基部欠損	105.63	72.10	刃部は両面より研磨。上端の両側面に一対の突起あり	M.上.41	名取・大場1964 Fig2-41
	M2-4-1-999-370-10	101	骨篦			57.72	11.20	刃部は片面より研磨。骨篦の一部と思われる		
	M2-4-1-999-371-1	101	骨製刺突具		先端欠損	57.17	2.70	表面に成形痕や加工痕を残す		
	M2-4-1-999-371-2	101	骨小刀	粗製	先端のみ	59.04	1.10	鳥管状骨製。ペーパーナイフ状の刃部で先端尖っている		
	M2-4-1-999-371-3	101	骨製刺突具		基部欠損	78.47	3.10	先端は研磨され尖鋭。表面に擦痕多数あり		
	M2-4-1-999-371-4	101	骨角製垂飾	椎骨製垂飾		29.69	3.70	板鰓類椎骨を素材として円形に成形。中央に穿孔1つあり(直径0.3cm)		
	M2-4-1-999-371-5	101	骨器未成品		先端欠損	46.99	1.50	側面からみるとやや湾曲。側面に抉りあり		
102	M2-4-1-999-372-13	101	銛頭	回転式A群	尾部一部欠損	74.57	3.60	先端は折り取った痕跡あり。再加工か。背面中央に索溝あり(幅0.8cm)。腹面には柄溝あり。単尾	下18	名取・大場1964 Fig5-18
102	M2-4-1-999-372-14	101	骨鏃	C型？	未成品？基部欠損	70.07	1.40	シカ中手中足骨製。先端は研磨により尖鋭	下19	名取・大場1964 Fig5-19
105	M2-4-1-999-372-15	101	骨小刀	精製	半分欠損	51.19	1.30	全体に研磨され滑らか。一端に5本のカットマークあり	下29	名取・大場1964 Fig5-29
103	M2-4-1-999-372-16	101	釣針先	有鈎		92.95	13.00	下顎骨製。内側にアグあり。三日月形で、全体に擦痕あり。先端は研磨され尖鋭	下24	名取・大場1964 Fig5-24

PLATE	ID	旧所蔵NO	器種1	器種2	部位(完形・未成品・欠損など)	最大長(mm)	重量(g)	備考	遺物ラベル番号	原典図版
103	M2-4-1-999-372-17	101	釣針軸	B型		181.31	21.80	J字形副軸・交差式。海獣肋骨の肋骨頭などを削って平らにしている。頭部に幅1.3cmの嵌溝あり。頭頂部は山形	下20	名取・大場1964 Fig5-20
103	M2-4-1-999-372-18	101	釣針軸	B型	未成品	134.93	21.00	J字形。主軸か副軸かは不明。海獣肋骨製。頭頂部が山形になる以外の加工なし	下22	名取・大場1964 Fig5-22
103	M2-4-1-999-372-19	101	釣針軸	不明	体部欠損	100.86	13.40	J字形主軸。海獣肋骨製。チモト側頭部。頭部に糸かけ溝あり(幅0.7cm)	下23	名取・大場1964 Fig5-23
104	M2-4-1-999-372-20	101	骨製針入	未成品？	一部欠損	110.72	12.60	鳥管状骨の両端を切断し筒状にし、切断面は研磨している。表面は擦り減っていて明瞭ではないが、一部に横や斜め方向の刻みが確認できる	下25	名取・大場1964 Fig5-25
	M2-4-1-999-374-16	102	骨鏃	D型	先端のみ	29.16	0.30	鳥管状骨製。先端は研磨され尖鋭		
105	M2-4-1-999-374-17	102	骨角製垂飾	椎骨製垂飾		28.02	4.00	板鰓類椎骨を素材として円形に成形。中央に穿孔1つあり(直径0.3cm)		
	M2-4-1-999-375-3	102	骨鏃	B型	先端欠損	55.68	1.30	幅0.7cmの棒状。全体を研磨して成形。基部は薄くなる		
	M2-4-1-999-375-4	102	釣針軸	不明	頭部のみ	43.56	3.80	全形不明。チモト側頭部。頭部に幅0.9cmの糸かけ溝あり		
	M2-4-1-999-375-5	102	骨製刺突具			120.07	6.70	長方形の骨片の先端を加工して尖らせている。両側面は研磨によって平坦で滑らか		
	M2-4-1-999-376-1	102	骨鏃	D型	先端欠損	29.96	1.00	鳥管状骨製。基部の端には研磨されやや平坦になっている面あり		
105	M2-4-1-999-376-2	102	骨器未成品			129.05	30.50	角柱状で上下両端に切断痕あり		
	M2-4-1-999-376-3	102	未詳骨器		上下端欠損	61.53	4.20	海獣肋骨製。表面側面に少なくとも5本の刻みあり。裏面は削られて平坦面を作出。骨角器の中間部と思われる		
	M2-4-1-999-376-4	102	骨器未成品			40.40	1.20	棒状。一部平坦面みられるが、摩耗していて不明		
102	M2-4-1-999-377-11	102	銛頭	逆鉤式		76.53	3.40	先端欠損しているが、中央に目釘孔の痕跡あり左右交互に逆鉤が作られている(左3右1)。基部に楕円形の索孔が1つあり、この部分で幅が広がる	C中／中16	名取・大場1964 Fig3-16
102	M2-4-1-999-377-12	102	銛頭	回転式A群	先端一部欠損	100.77	13.80	先端欠損しているが、刃溝あり。目釘孔の痕跡あり。頭部に左右対称の逆鉤1対をもつ。背面中央には幅1.4cmの索溝あり。腹面には柄溝あり。双尾で、端部に山形の平行する線刻や側縁の刻みを入れて加飾している	中17	名取・大場1964 Fig3-17
102	M2-4-1-999-377-13	102	銛頭	回転式A群		91.14	3.70	先端は両面より研磨して薄く尖らせている。背面中央には幅0.8cmの索溝あり。腹面には柄溝あり。単尾	中18	名取・大場1964 Fig3-18
102	M2-4-1-999-377-14	102	銛頭	回転式A群		46.48	1.10	小型。先端は両面より研磨して尖鋭。背面中央に索溝。腹面の柄溝は浅い。単尾	中19	名取・大場1964 Fig3-19
102	M2-4-1-999-377-15	102	銛頭	回転式F群	尾部一部欠損	68.72	3.50	先端尖鋭。縦位2索孔。ソケット側壁はわずかに内傾する。幅0.5cmの柄結縛溝あり。尾部は片側を欠くが双尾で、アーチ状の抉りが入る	C.中20	名取・大場1964 Fig3-20
102	M2-4-1-999-377-16	102	骨鏃	B型		81.38	2.10	先端は研磨により尖鋭。下端も細くなり、全体形は柳葉形	中21	名取・大場1964 Fig3-21
102	M2-4-1-999-377-17	102	骨鏃	B型	先端欠損	96.16	3.00	柳葉形で断面ひし形。基部は両面より加工して薄く平らにしている。擦痕残る	中22	名取・大場1964 Fig3-22
102	M2-4-1-999-377-18	102	骨鏃	B型		83.39	2.90	先端は摩耗している。基部は両面より加工して薄く平らにしている。擦痕残る	中23	名取・大場1964 Fig3-23
102	M2-4-1-999-377-19	102	骨鏃	B型	先端欠損	85.67	4.10	基部は両面より加工して薄く平らにしている	中24	名取・大場1964 Fig3-24
102	M2-4-1-999-377-20	102	骨鏃	C型	先端欠損	88.51	3.40	先端断面は両凸レンズ断面形。有茎で基部は両側面を削り出して細くしている	中25	名取・大場1964 Fig3-25
102	M2-4-1-999-377-21	102	骨鏃	C型		62.70	2.10	柳葉形で有茎。先端断面は両凸レンズ断面形で尖る。両側面より加工して抉りをつけ茎部を作出	中26	名取・大場1964 Fig3-26
102	M2-4-1-999-377-22	102	骨鏃	A型	先端欠損	64.43	2.50	下端は斜めの面で、側面に縛着するためのコブ状の突起あり	中27	名取・大場1964 Fig3-27
102	M2-4-1-999-377-23	102	骨鏃	E型		40.78	1.50	先端は尖鋭で断面は両凸レンズ断面形。茎部は下端より0.2cm。下端の断面は楕円形で円形のソケットあり	中28	名取・大場1964 Fig3-28
103	M2-4-1-999-377-24	102	釣針先	有鉤		90.29	9.40	アグのあるタイプ。体部中央に紐ずれのような痕跡あり(斜め)	中30	名取・大場1964 Fig3-30
103	M2-4-1-999-377-25	102	釣針先	有鉤		80.28	8.20	海獣肋骨製。三日月形で体部の内側に浅いアグ(逆鉤)あり	中31	名取・大場1964 Fig3-31
103	M2-4-1-999-377-26	102	釣針先	無鉤		77.99	9.60	アグのないタイプ。下顎骨製。三日月形で全体に研磨(斜め)	中32	名取・大場1964 Fig3-32
103	M2-4-1-999-377-27	102	釣針軸	A型	アグ側欠損	141.60	27.50	U字形でチモト側頭部から屈曲部にかけて残る。頭部に糸かけ溝(幅0.7cm)があり、その直下を突帯上にする。頭頂部には上方から刻みが入る。これが口の表現だとすれば、動物意匠の可能性もある	中29	名取・大場1964 Fig4-29
104	M2-4-1-999-377-28	102	骨製刺突具			125.37	5.10	鳥の管状骨を素材。一端を斜めに切断して尖らせている。先端の切り口に擦痕あり	中36	名取・大場1964 Fig3-36

PLATE	ID	旧所蔵NO	器種1	器種2	部位(完形・未成品・欠損など)	最大長(mm)	重量(g)	備考	遺物ラベル番号	原典図版
104	M2-4-1-999-377-29	102	骨製刺突具			99.14	2.40	鳥の管状骨を素材。一端を斜めに切断して尖らせている	中37	名取・大場1964 Fig3-37
104	M2-4-1-999-377-30	102	骨製刺突具			102.39	6.40	鳥の管状骨を素材。一端を斜めに切断して尖らせている。先端の切り口に擦痕あり	中38	名取・大場1964 Fig3-38
104	M2-4-1-999-377-31	102	骨錐			114.29	7.50	形状は柳葉形。先端は研磨され尖鋭。体部は平らで、断面は四角形。体部下半の両側面に何本もの刻みあり。下端には削り痕みられる	中33	名取・大場1964 Fig3-33
104	M2-4-1-999-377-32	102	骨錐			118.07	9.80	棒状で一端は先頭。全体に研磨されていて滑らか。擦痕あり	中34	名取・大場1964 Fig3-34
104	M2-4-1-999-377-33	102	骨錐			109.16	5.20	形状は柳葉形。先端は研磨し尖鋭。体部は平らで、断面は四角形。側面からみるとやや湾曲	中35	名取・大場1964 Fig3-35
104	M2-4-1-999-377-34	102	未詳骨器	棒状		75.97	6.60	形状は雫形で扁平。側面からみるとやや湾曲。下端は両面より研磨されて滑らかで、擦痕残る。		
104	M2-4-1-999-382-2	103	骨斧		刃部一部・基部欠損	147.08	85.60	刃部は両面より研磨(両刃)。体部両側面に一対の突起あり(片方欠損)	下27	名取・大場1964 Fig5-27
104	M2-4-1-999-382-3	103	骨斧		基部欠損	130.32	59.40	刃部は両面より研磨(両刃)。体部側面に突起あり(片方欠損)	下28	名取・大場1964 Fig5-28
105	M2-4-1-999-382-4	103	骨篦		刃部一部欠損	217.85	217.40	刃部は両面より研磨(両刃)。体部両側面に肩を作出。基部の端に突起形成	下26	名取・大場1964 Fig5-26
	M2-4-1-999-382-5	103	骨篦		基部欠損	159.26	137.80	刃部は両面より研磨。体部側面に肩を作出(片方欠損)		
	M2-4-1-999-382-6	103	骨篦			159.64	127.90	体部中央両側面に肩を作出。刃部は切断痕残り、加工途中と思われる		
	M2-4-1-999-384-1	104	骨角製垂飾	椎骨製垂飾		30.37	5.80	板鰓類椎骨を素材として円形に成形。中央に穿孔1つあり(直径0.3cm)		
	M2-4-1-999-384-2	104	骨角製垂飾	椎骨製垂飾		28.99	7.30	板鰓類椎骨を素材として円形に成形。中央に穿孔1つあり(直径0.5cm)		
105	M2-4-1-999-386-5	104	骨篦			278.97	376.50	刃部は片面より研磨。体部中央両側面に肩を作出。基部の端に突起形成(片方欠損)。劣化してもろい	M.貝.39	名取・大場1964 Fig4-39
105	M2-4-1-999-386-6	104	骨篦		刃部一部欠損	111.73	42.00	小型。刃部は片面より研磨。基部の端に突起形成	M.貝.40	名取・大場1964 Fig4-40
	M2-4-1-999-386-7	104	骨篦			204.48	250.70	刃部は片面より研磨。体部上半には成形のための削り痕あり。骨篦の一部と思われる		
	M2-3-1-999-388-3	105	銛頭	逆鉤式	基部のみ	46.06	3.20	軸部の両側面の稜に刻みあり(4つ1組×2)。索孔は縦長のスリット状。索孔より下で両肩が張る。基部は板状で擦痕残る		
98	M2-3-1-999-388-4	105	銛頭	回転式A群	先端欠損	103.40	8.00	頭部両側に逆鉤をもつ。背面中央には幅1.2cmの索溝あり。腹面には柄溝あり。単尾で、下端はV字形になる。逆鉤の直上には横方向の線刻が1本みられる		
	M2-3-1-999-388-5	105	釣針先	有鉤	未成品	121.59	20.40	板状で全体に湾曲する。両側面のややずれた位置に逆鉤様の段をもつ。釣針先の未成品の可能性があると考えたが、別器種かもしれない		
	M2-3-1-999-388-6	105	銛頭	回転式A群	尾部欠損	103.22	4.60	先端尖鋭。背面に索溝あり(幅0.9cm)。腹面に柄溝あり		
	M2-3-1-999-388-7	105	銛頭	回転式A群	尾部欠損	76.58	2.80	先端は平坦で尖鋭。側面からみるとやや湾曲。背面の索溝(幅1.0cm)は浅い。単尾になるものと思われる。		
	M2-3-1-999-388-8	105	銛頭	回転式A群	中間部のみ	42.17	2.30	背面に索溝あり。腹面に柄溝あり。		
	M2-3-1-999-388-9	105	骨小刀	粗製	先端のみ	86.11	2.50	鳥管状骨製。ペーパーナイフ状の刃部で先端尖っている。		
99	M2-3-1-999-388-10	105	釣針軸	A型		198.14	66.50	U字形。チモト側頭部には糸かけ溝(幅1.0cm)、アグ側頭部には嵌溝(幅1.3cm)あり。丁寧に研磨して成形しているが、屈曲部はやや角ばり、側縁から刻みが1カ所入る		
	M2-3-1-999-388-11	105	骨篦			249.10	162.20	刃部は片面より研磨。体部中央両側面に肩を持ち、基部の端に突起あり		
	M2-3-1-999-388-12	105	骨楔状残片			181.66	56.70	長二等辺三角形。骨篦類を再加工した際の残片		
	M2-3-1-999-388-13	105	骨篦	残片？		72.63	25.20	形状は正方形で上下端に加工痕あり。骨篦類の肩部と思われる。再加工による残片の可能性あり		
	M2-3-1-999-388-14	105	骨楔状残片		被熱	107.50	30.40	片側側面に加工痕あり		
	M2-3-1-999-388-15	105	骨器未成品			197.75	22.40	動物の肋骨を素材。棒状。先端を山形に切断している。全体に摩耗		
	M2-3-1-999-392-5	106	骨鏃	C型	中間部破片	68.63	1.30	縦に割れているが、頭部と体部、基部が区分されている。頭部と体部の境は逆鉤様		
98	M2-3-1-999-394-1	107	銛頭	回転式A群	尾部一部欠損	101.56	5.90	先端は尖鋭。上半部全体にらせん状に赤褐色の痕跡が残る。背面下方の索溝(幅0.6cm)には平紐状のものが巻き付いた状態で残存する。腹面には柄溝をもつが、上記の紐が巻き付いている。紐状の物体は幅0.2cmで、植物質と思われる		
	M2-3-1-999-395-16	107	銛頭	回転式A群	上半部	60.27	3.50	先端は平らで尖鋭。背面には索溝、腹面には柄溝あり。中央で折れる		

PLATE	ID	旧所蔵NO	器種1	器種2	部位(完形・未成品・欠損など)	最大長(mm)	重量(g)	備考	遺物ラベル番号	原典図版
	M2-3-1-999-395-17	107	銛頭	回転式A群	未成品	139.17	9.80	先端は両面より研磨し尖鋭。背面中央より下方に索溝あり(幅0.7cm)。腹面の柄溝は浅く削りかけで、未成品である。単尾で側面からみると湾曲している		
	M2-3-1-999-395-18	107	骨鏃	B型		138.55	5.20	細長い柳葉形。一端を尖らせ稜をもつ		
99	M2-3-1-999-395-19	107	骨鏃	B型		99.42	3.60	細長い柳葉形。下端の両面を薄く平らに加工している		
	M2-3-1-999-395-20	107	骨鏃			55.05	1.20	先端を削り細く尖らせている		
	M2-3-1-999-395-21	107	骨鏃	B型	先端、基部一部欠損	48.45	1.10	柳葉形で先端は両面より研磨して尖鋭。先端の断面弓形		
	M2-3-1-999-395-22	107	骨鏃	D型	下端一部欠損	47.34	0.70	先端尖鋭。表面は研磨されている		
	M2-3-1-999-395-23	107	骨鏃	A型	先端欠損	46.31	1.10	棒状。下端を平らに加工して基部を形成		
	M2-3-1-999-395-24	107	骨鏃	B型		44.42	0.40	柳葉形で先端尖鋭。下端はもろく、劣化しており加工が明瞭ではない		
	M2-3-1-999-395-25	107	骨鏃		先端のみ	33.30	0.50	研磨され先端尖鋭。断面両凸レンズ断面形		
	M2-3-1-999-395-26	107	釣針軸	B型	下端欠損	146.10	14.10	J字形。チモト側頭部。海獣肋骨製。頭部には大きさ1.0×0.5cmの楕円形の糸通し孔あり。孔の下には4本の線刻みられる		
	M2-3-1-999-395-27	107	釣針軸	A型	両側頭部欠損	38.57	25.10	屈曲部破片だがU字形になると思われる。表面は研磨されていて平坦。外側縁に沿って幅1.0cmの溝がある		
99	M2-3-1-999-395-28	107	骨鑿			34.14	2.00	形状は長方形で扁平、石斧に似ているが器厚は極めて薄い(0.4cm)。刃部は両面より研磨され両刃をなす。体部に擦痕あり。他の骨角器の破損品を再利用した可能性がある		
	M2-5-1-999-400-1	108	釣針先	無鈎		82.94	8.90	アグのないタイプ。下顎骨製。三日月形で全体を研磨し成形		
	M2-5-1-999-401-3	108	未詳骨器	棒状		46.51	14.40	棒状で側面から見るとやや湾曲。両側面には研磨による成形。下端は両面より研磨されていて滑らか(鈍刃)		
	M2-5-1-999-401-4	108	骨鏃	D型	下端欠損	56.37	3.40	鳥管状骨製。一端を研磨して薄く尖らせている		
106	M2-5-1-999-401-5	108	未詳装身具	小鐶状	一部欠損	44.14	2.70	楕円柱の側縁を長さ2.8cm、幅0.5cmの長方形にくりぬいたような形状である。小鐶状でベルト通しのように用いられたものかもしれない。中央部には縦方向にジグザグ、上下端には横方向に直線と波線の浮線文を施す。形状は大場1955第34図・K825と類似		
	M2-2-1-999-406-5	109	骨鏃	D型		83.23	3.60	鳥管状骨製。一端を斜めに切断するタイプで、下端に擦痕あり		
	M2-2-1-999-406-6	109	釣針先	無鈎		56.36	3.40	体部はやや反る。全体を研磨して成形		
	M2-2-1-999-407-3	109	骨鏃	C型	先端欠損	68.29	1.90	下端は両面より加工して薄くしている。体部・基部の境の両側面に刻みあり		
	M2-2-1-999-407-4	109	骨鏃	B型	基部破片	42.79	0.60	両面より加工して薄くしている		
	M2-2-1-999-408-2	109	銛頭	回転式A群		64.16	2.10	先端は研磨され尖鋭。背面中央に浅い索溝あり(幅0.6cm)。腹面に柄溝あり。単尾で末端にくびれあり		
	M2-2-1-999-408-3	109	銛頭	回転式C群	未成品	84.14	9.40	C群銛頭の未成品と思われる。一端を斜めに切断して尾部を作出している。索孔やソケットはまだ作られていない。		
96	M2-2-1-999-409-2	109	骨鏃	C型	先端欠損	97.59	2.90	柳葉形で柄を持つタイプ。断面から見るとやや湾曲。両側面より削り、柄部を作出		
	M2-2-1-999-411-1	109	銛頭	逆鈎式		62.28	2.80	先端には刃溝、体部両側面には逆鈎が左右1つずつあり。基部に縦長の索孔1つ		
	M2-2-1-999-411-2	109	釣針先	無鈎		72.44	7.10	アグのないタイプ。海獣肋骨製。体部には加工痕や擦痕みられる		
97	M2-2-1-251-412-1	109	骨小刀	精製		238.06	9.30	先端尖鋭。長さ約23.5cmの縦長骨片を素材としている。側面からみると湾曲。基部両側面には抉りを入れ、波状をなす装飾を、さらに末端には線刻をほどこしている。大場(1955)では「骨小刀」、名取・大場(1964)では「髪容具？」とされたもの。ヘアピンやかんざしの類か？	K1551(M2-99-1-999-441-16もK1551のラベルあり) M.7人骨	大場1955 第12表、名取・大場1964 Fig8-7
	M2-2-1-999-413-1	109	骨器未成品			107.21	13.00	板状。表面は研磨されている		
	M2-2-1-999-414-1	109	骨小刀	精製		100.55	4.20	先端尖鋭。先端から体部にかけて線刻あり(幾何学模様)。基部末端にも加工あり。かんざしの類と思われる		
98	M2-3-1-253-415-1	109	銛頭	回転式A群	未成品	83.06	4.70	海獣肋骨を切断して一端を尖らせる。側面からみるとやや湾曲。索溝は未作出だが、背面下方に何本かの線刻がある。索溝の位置を示す下書きか？腹面には柄溝作出中。	M.人.24	名取・大場1964 Fig8-24
99	M2-3-1-253-415-2	109	骨鏃	C型		122.59	5.10	先端尖鋭。全体に丁寧に研磨(斜め)して成形。片側縁に逆鈎様の浅い段がついている。下端は両面から加工して平らにし、基部を作出	M.人.24	名取・大場1964 Fig8-24
99	M2-3-1-253-415-3	109	骨鏃	C型		109.16	4.40	体部両側縁は浅くくびれる。両面には調整痕(横、斜め)残る。下端は両面から加工して平らにし、基部を作出	M.人.24	名取・大場1964 Fig8-24

PLATE	ID	旧所蔵NO	器種1	器種2	部位(完形・未成品・欠損など)	最大長(mm)	重量(g)	備考	遺物ラベル番号	原典図版
99	M2-3-1-253-415-4	109	骨鏃	B型	先端欠損	96.90	2.90	下端は両面より加工して平らにし、基部を作出	M.人.24	名取・大場1964 Fig8-24
99	M2-3-1-253-415-5	109	骨鏃	C型	先端欠損	87.11	3.70	頭部を段で区分する。頭部に線刻あり。下端は両面より削り扁平に加工	M.人.24	名取・大場1964 Fig8-24
99	M2-3-1-253-415-6	109	骨鏃	A型	先端欠損	83.14	4.10	棒状。体部中央に一周する線刻あり。下端は両面から削り平坦。断面が円形のもの	M.人.24	名取・大場1964 Fig8-24
99	M2-3-1-253-415-7	109	骨鏃	C型	先端欠損	121.75	5.40	全体に丁寧に研磨(斜め)して成形。下端は両面より削り扁平に加工	M.人.24	名取・大場1964 Fig8-24
99	M2-3-1-253-415-8	109	骨製刺突具		下端欠損	87.76	1.10	細身で先端先鋭。側面からみるとやや湾曲。特に裏面はよく研磨されており、下端付近では平らになる	M.人.24	名取・大場1964 Fig8-24
99	M2-3-1-253-415-9	109	骨鏃	B型	先端欠損	49.29	1.30	基部は両面より扁平に加工されている	M.人.24	名取・大場1964 Fig8-24
99	M2-3-1-253-415-10	109	骨鏃	B型	先端欠損	44.66	1.00	基部は両面より扁平に加工されている	M.人.24	名取・大場1964 Fig8-24
	M2-3-1-253-415-11	109	骨製刺突具		先端欠損	91.28	2.40	シカ中手中足骨製。先端は縦長に削り出して細く尖らせている		
	M2-3-1-253-415-12	109	骨鏃	B型	基部破片？	33.43	0.70	破片。両面より面取りして平らな面を作出。基部の可能性あり。劣化してもろい		
	M2-3-1-253-415-13	109	骨鏃		先端のみ	26.37	0.50	先端先鋭。断面は両凸レンズ断面形。M2-3-1-253-415-10の先端の可能性あり		
	M2-3-1-253-415-14	109	骨鏃		破片	16.36	0.20	M2-3-1-253-415-6の破片の可能性あり		
	M2-2-1-999-418-2	109	骨製刺突具		未成品	193.45	45.80	先端尖っているが作りは粗く、未成品と思われる。手持ちの短剣状の形態であり、握部となる部分は薄く削り握りやすくしている		
107	M2-99-1-999-420-68	110	銛頭	回転式C群		107.31	29.40	先端に刃溝、体部中央に楕円形の索孔、導索溝(幅0.8cm)あり。頭部腹面側に逆鈎様の段を持つ。段や索孔を二重線や曲線の刻線で縁取る。単尾で内側に突起を持ち、その縁を波状に加飾。ソケットは大きさ0.9×0.3cm、深さ0.8cmの長角孔		
	M2-99-1-999-420-69	110	銛頭	回転式A群	先端欠損	99.56	13.80	先端に幅広の刃溝、背面中央に索溝(幅1.2cm)、腹面には柄溝あり。尾部の両側面に2カ所ずつ深い刻みを入れて加飾		
	M2-99-1-999-420-70	110	銛頭	回転式C群	表面摩耗	81.52	12.10	体部中央に楕円形の索孔、導索溝(幅0.7cm)あり。側面に線刻あり(短斜線2本×2組)。ソケットは大きさ1.0×0.3cmの長方形		
	M2-99-1-999-420-71	110	銛頭	回転式A群		96.67	5.90	先端尖鋭。側面からみると湾曲。背面中央に索溝(幅0.7～0.8cm)、腹面に柄溝あり。単尾で末端に瘤状の小突起あり		
107	M2-99-1-999-420-72	110	銛頭	回転式A群		95.44	5.20	先端尖鋭。側面からみると湾曲。背面の索溝は両側面の抉りのみ(幅0.9～1.0cm)。腹面に柄溝あり。単尾で末端に瘤状の小突起あり		
	M2-99-1-999-420-73	110	銛頭	回転式A群	先端一部欠損	92.82	4.50	海獣肋骨製。先端尖鋭。背面下方に索溝(幅1.0cm)あり。腹面には柄溝あり。単尾で研磨により尖鋭		
	M2-99-1-999-420-74	110	銛頭	回転式A群		70.14	3.20	先端尖鋭。背面中央に索溝(幅1.0cm)、腹面に柄溝あり。単尾で薄くなる		
107	M2-99-1-999-420-75	110	銛頭	回転式F群	ソケット部破損	57.50	4.40	先端尖鋭。斜位2索孔、ソケット側壁はやや内傾し、周囲に段がめぐる。尾部は双尾で端が尖り、アーチ状の抉りが入る		
107	M2-99-1-999-420-76	110	銛頭	回転式E群	未成品	56.68	2.90	先端に刃溝あり。尾部は単尾で研磨により尖鋭。穿孔は未作出。ソケットは扁平な楕円形。形状はM2-99-1-999-441-4に類似。海獣肋骨製		
	M2-99-1-999-420-77	110	銛頭	回転式A群	先端欠損	56.42	2.00	側面からみるとやや湾曲。背面下方の索溝は両側面の抉りのみ(幅0.7cm)。単尾で研磨により尖鋭		
	M2-99-1-999-420-78	110	銛頭	回転式F群	上半欠損	26.77	1.60	斜位2索孔。ソケットはフラスコ状。双尾でアーチ状の抉りが入り、後端は尖る		
	M2-99-1-999-420-79	110	骨鏃	D型		71.40	1.10	先端薄く尖鋭。全面に擦痕多数あり(斜め)		
	M2-99-1-999-420-80	110	骨鏃	D型		67.21	1.30	先端研磨により薄く尖鋭。全面に擦痕あり(斜め)		
	M2-99-1-999-420-81	110	骨鏃	D型		107.55	3.20	先端尖鋭。裏面には擦痕多数あり(斜め)		
	M2-99-1-999-420-82	110	骨鏃	D型		101.26	2.00	先端尖鋭		
	M2-99-1-999-420-83	110	骨鏃	D型		93.09	3.60	先端尖鋭。全面に擦痕あり(斜め)		
	M2-99-1-999-420-84	110	骨鏃	D型		97.17	3.00	先端尖鋭。全面に擦痕あり(横)		
	M2-99-1-999-420-85	110	骨鏃	D型		92.79	3.00	先端尖鋭		
	M2-99-1-999-420-86	110	骨鏃	D型	先端一部欠損	106.32	2.50			
	M2-99-1-999-420-87	110	骨鏃	D型		37.55	0.90	小型。先端薄く尖鋭。全面に擦痕あり(斜め)		
	M2-99-1-999-420-88	110	骨鏃	D型		38.42	0.90	小型。先端薄く尖鋭。全面に擦痕あり(斜め)		
	M2-99-1-999-420-89	110	骨鏃	D型	先端一部欠損	87.17	1.60	裏面に擦痕あり(斜め)		
	M2-99-1-999-420-90	110	骨鏃	D型		36.07	0.80	小型。先端薄く尖鋭。全面に擦痕あり(斜め)		

PLATE	ID	旧所蔵NO	器種1	器種2	部位(完形・未成品・欠損など)	最大長(mm)	重量(g)	備考	遺物ラベル番号	原典図版
	M2-99-1-999-420-91	110	骨鏃	D型	先端欠損	81.02	2.50	全面に擦痕多数あり(斜め)		
	M2-99-1-999-420-92	110	骨鏃	D型	先端一部欠損	32.38	0.30	小型。全体に研磨		
	M2-99-1-999-420-93	110	骨製刺突具		下端欠損	54.91	0.50	先端先鋭。斜めに切断して尖らせた後、研磨しており切口の孔は小さい。棒状で幅は約3.5cmと細い		
	M2-99-1-999-420-94	110	骨鏃	D型		46.53	1.50	先端尖鋭。全面に擦痕あり(横)		
	M2-99-1-999-420-95	110	骨鏃	D型	先端一部欠損	28.34	0.90	小型。全面に擦痕あり(斜め)		
	M2-99-1-999-420-96	110	骨鏃		下端欠損	64.16	0.80	鳥管骨製。全面に擦痕あり(横)。細いため、骨鏃ではない可能性もある		
	M2-99-1-999-420-97	110	骨鏃	D型		58.23	0.80	全面に擦痕あり(横)。やや粗雑なつくり		
	M2-99-1-999-420-98	110	骨鏃	D型		52.81	1.00	先端薄く尖鋭。全面に擦痕あり(斜め)		
	M2-99-1-999-420-99	110	骨鏃	D型	先端欠損	40.25	1.00	全面に擦痕あり(横)		
	M2-99-1-999-420-100	110	骨鏃	D型	先端一部欠損	25.17	0.40	小型。全面に擦痕あり(斜め)		
	M2-99-1-999-420-101	110	骨鏃	D型	先端一部欠損	24.34	0.40	小型。擦痕残る(横)		
	M2-99-1-999-420-102	110	骨鏃	D型		50.73	1.10	一端を斜めに切断して先端を尖らせている。下端は単尾の尾部をもつ		
	M2-99-1-999-420-103	110	骨鏃	B型	先端欠損	52.72	1.20	M2-99-1-999-420-104と接合。下端を両面から加工して平らにしている基部を作出		
	M2-99-1-999-420-104	110	骨鏃			39.59	0.80	M2-99-1-999-420-103と接合		
	M2-99-1-999-420-105	110	骨鏃	B型		93.89	2.50	形状は柳葉形。先端はドリルのように細く尖らせている。下端を両面から加工して平らにしている基部を作出。全面に明瞭な擦痕あり(斜め)		
	M2-99-1-999-420-106	110	骨鏃	B型	基部一部欠損	75.69	1.70	形状は柳葉形。先端尖鋭。下端を両面から加工して平らにしている基部を作出。全面に明瞭な擦痕あり(斜め)		
	M2-99-1-999-420-107	110	骨鏃	B型		91.08	2.50	形状は柳葉形。先端尖鋭。下端を両面から加工して平らにしている基部を作出。基部に明瞭な擦痕あり(斜め)		
	M2-99-1-999-420-108	110	骨鏃	C型	下端一部欠損	85.95	1.60	先端尖鋭。体部中央側面にかえしのようなものあり。表面下端は面取りされている		
	M2-99-1-999-420-109	110	骨鏃	C型		131.62	5.50	先端尖鋭。体部中央に抉りを入れている。下端は両面から面取りして平らにし、柄をはめやすくしている		
	M2-99-1-999-420-110	110	骨鏃	B型		126.59	3.50	先端尖鋭。基部は両面より加工している、基部に擦痕あり(斜め)		
	M2-99-1-999-420-111	110	骨鏃	B型		65.49	1.30	先端尖鋭。下端を両面から加工して平らにして基部を作出		
	M2-99-1-999-420-112	110	骨鏃	C型		29.55	0.40	先端尖っている。有茎。両側面より削り基部を作出		
	M2-99-1-999-420-113	110	骨鏃	E型	基部一部欠損	33.87	0.90	有茎。茎部は下端より1.0cm。ソケットあり		
	M2-99-1-999-420-114	110	骨鏃	E型		35.19	0.70	有茎。茎部は下端より0.2cm。体部に稜あり。円形のソケットあり		
	M2-99-1-999-420-115	110	骨鏃	E型	基部一部欠損	33.45	0.60	有茎。茎部は下端より0.3cm。ソケットあり		
	M2-99-1-999-420-116	110	骨鏃	E型		34.14	0.70	無茎。先端薄く尖鋭。円形のソケットあり		
	M2-99-1-999-420-117	110	骨鏃	E型		39.11	0.70	無茎。先端薄く尖鋭。基部の断面は楕円形で円形のソケットあり		
	M2-99-1-999-420-118	110	骨鏃	E型	先端一部欠損	33.24	0.90	無茎。先端薄く尖鋭。基部の断面は楕円形で円形のソケットあり		
	M2-99-1-999-420-119	110	骨鏃	E型	基部欠損	29.52	0.40	先端尖鋭。体部に稜なし。ソケットあり		
	M2-99-1-999-420-120	110	釣針先	有鉤		66.67	5.00	先端内側に浅いアグがつく。全体を研磨し成形		
109	M2-99-1-999-420-121	110	骨錐	素材		175.21	34.10	陸獣尺骨製。先端は加工し尖鋭。下端は関節部を持ち手としてそのまま生かす。		
	M2-99-1-999-420-122	110	骨錐	素材		99.40	25.60	海獣骨製。形状は二等辺三角形で、先端は研磨し尖鋭。一側面を削って凹みをつくり、持ちやすくしている		
	M2-99-1-999-420-123	110	骨錐	素材		122.32	5.10	動物骨の一端を斜めに削り先端を尖らせている		
	M2-99-1-999-420-124	110	骨錐	素材		73.55	3.50	動物骨の一端を斜めに削り先端を尖らせている		
	M2-99-1-999-420-125	110	骨楔状残片			191.67	97.30	形状は二等辺三角形。短辺に刃部を残す。骨篦類を再加工した際の残片。表面は研磨により平らで滑らか		
	M2-99-1-999-420-126	110	骨製刺突具		下端欠損	109.05	8.40	アホウドリ上腕骨製。一端を斜めに切断している		
	M2-99-1-999-426-1	111	釣針先	有鉤	未成品	85.86	6.70	未成品。三日月形でアグを作り出そうとしている		
	M2-99-1-999-426-2	111	骨角製垂飾	椎骨製垂飾		30.65	3.20	板鰓類椎骨を素材として円形に成形。中央に穿孔1つあり(直径0.7cm)		
111	M2-99-1-999-426-3	111	カットマークのある骨			78.22	10.50	海獣肋骨の表面に骨の組織と直交するカットマークあり		
	M2-99-1-999-426-4	111	カットマークのある骨			87.00	8.60	表面中央に骨の組織と直交するカットマークあり。未成品か		
111	M2-99-1-999-426-5	111	カットマークのある骨			223.76	38.60	クジラの上顎骨破片に長さ約8cmのカットマークあり(斜め)		
	M2-99-1-999-426-6	111	骨器未成品			144.15	10.90	海獣肋骨を縦に削っている。側面からみると湾曲する。両端に切断痕		

PLATE	ID	旧所蔵NO	器種1	器種2	部位(完形・未成品・欠損など)	最大長(mm)	重量(g)	備考	遺物ラベル番号	原典図版
	M2-99-1-999-426-7	111	骨器未成品			44.61	2.40	海獣骨製。全体に研磨。下端は鑿状の刃部を作出途中か？		
	M2-99-1-999-426-8	111	骨器未成品			95.41	9.90	海獣肋骨製。下端は切断されている		
	M2-99-1-999-426-9	111	鹿角製品	残片		29.23	1.70	切断痕あり		
	M2-99-1-999-427-3	110	鹿角製品			125.64	89.20	左角の角座～第1分岐部。落角。第1枝は擦り切り、幹は切断している		
	M2-99-1-999-427-4	110	鹿角製品			135.76	46.80	幹部の両端を切断したもの		
	M2-99-1-999-428-1	112	鹿角製品	ハンマー？		263.05	304.20	左角角座骨～第1枝。第1枝は20cmを超える長さである。全体的に表面は摩耗しているが、根元側の角座骨と先端側の幹部は、いずれも非常に摩耗している(第1枝先端は折れ)。あるいはハンマーのように使用したものかもしれない		
	M2-99-1-999-427-1	112	鹿角製品	残片		177.05	173.80	左角の第2分岐部～第3分岐部。分岐間の距離が短い。幹両端と第3枝を切断		
	M2-99-1-999-427-2	112	鹿角製品	残片		197.53	337.40	左角の前頭骨～第2分岐。先端側は幹を擦り切っている(枝2カ所は折れ)。第2枝の位置が低い(第一枝に近い)		
	M9-99-3-999-429-2	113	骨篦		基部のみ	98.24	49.50	基部の端に突起形成		
	M9-99-3-999-430-4	113	骨篦			227.19	242.90	刃部は両面より研磨。体部中央両側面に肩を形成。基部の端に突起形成		
	M1-99-1-999-438-1	119	釣針軸	A型	未成品　片側頭部欠損	188.79	35.70	U字形。体部丁寧に研磨している	K487	
	M1-99-1-999-438-2	119	釣針軸	A型	未成品	165.13	47.80	U字形。下端は動物骨の凸凹を削り平らに成形。頭部に加工なし	K488	
	M1-99-1-999-438-3	119	釣針軸	A型	両側頭部欠損	123.67	33.90	U字形。体部丁寧に研磨している。屈曲部尖る	K489	
	M1-99-1-999-438-4	119	釣針軸	A型	両側頭部欠損	120.08	38.70	U字形。全面研磨。チモト側軸部の外縁に突起あり	K490	
	M1-99-1-999-438-5	119	釣針軸	A型	両側頭部欠損	110.38	58.60	U字形。全面研磨	K491	
69	M1-99-1-999-438-6	119	釣針軸	B型		178.34	26.90	J字形主軸・交差式。海獣肋骨製。頭部には糸通し孔。下端の不要な突起部分を削って平らに成形	K569	大場1955 第8表
	M1-99-1-999-438-7	119	釣針軸	不明	中間部	74.24	8.60	軸部から屈曲部にかけての破片	K492	
	M1-99-1-999-438-8	119	釣針軸	A型	アグ側欠損	193.78	65.80	U字形。頭部には糸かけ溝(幅0.8cm)あり。溝の下端は突帯状。チモト側軸はやや外反する。研磨によって表面滑らか	K500	
	M1-99-1-999-438-9	119	釣針軸	A型	アグ側欠損	202.12	32.40	U字形。頭部には糸かけ溝(幅0.7cm)あり。研磨によって表面滑らか	K501	
	M1-99-1-999-438-10	119	釣針軸	A型	チモト側欠損	196.58	58.10	U字形。頭部に幅1.5cmの嵌溝あり	K502	
	M1-99-1-999-438-11	119	釣針軸	A型	チモト側欠損	161.07	32.40	U字形。頭部に幅1.0cmの嵌溝あり。溝は軸に対してほぼ直交する。研磨によって表面滑らか	K503	
	M1-99-1-999-438-12	119	釣針軸	A型	チモト側欠損	217.66	51.30	U字形。頭部に幅1.4cmの嵌溝あり(副軸)。特に体部下端は丁寧に研磨して成形(擦痕あり)	K504	
	M1-99-1-999-438-13	119	釣針軸	A型	未成品	210.01	59.20	U字形。全体に縦長に面取りし成形。頭部未加工	K505	
	M1-99-1-999-438-14	119	釣針軸	A型	チモト側欠損	151.85	36.00	U字形。頭部に幅1.3cmの嵌溝あり。溝の直下に段あり	K506	
	M1-99-1-999-438-15	119	釣針軸	A型	アグ側欠損	168.77	22.20	U字形。頭部には幅0.8cmの糸かけ溝あり	K507	
	M1-99-1-999-438-16	119	釣針軸	A型	両側頭部欠損	127.62	40.30	U字形。全体に研磨して成形	K508	
	M1-99-1-999-438-17	119	釣針軸	B型		217.60	56.90	J字形副軸・交差式。海獣肋骨製。頭部には幅1.8cmの嵌溝、その反対側に突起あり。下端の肋骨頭のあたりは丁寧に面取りされ平らになっている	K533	
	M1-99-1-999-438-18	119	釣針軸	B型		189.44	50.40	J字形副軸・交差式。頭部に幅2.0cmの嵌溝あり。下端は表面を面取りして平坦面を作出。全体に研磨して成形	K534	
	M1-99-1-999-438-19	119	釣針軸	B型		202.57	44.80	J字形主軸・交差式。頭部に不明瞭な溝あり。下端は切断後研磨して平らに成形	K535	
	M1-99-1-999-438-20	119	釣針軸	B型		191.95	49.70	J字形副軸・交差式。海獣肋骨製。頭部に幅2.0cmの嵌溝あり。溝の反対側に突起あり。下端の不要な突起部分を削って平らに成形	K536	
	M1-99-1-999-438-21	119	釣針軸	B型		165.57	42.90	J字形副軸・交差式。頭部に幅1.5～2.0cmの嵌溝あり。頭頂部に一周する浅い段、嵌溝の下にも段あり。全体に擦痕残る(斜め)	K537	
	M1-99-1-999-438-22	119	釣針軸	B型		159.68	41.10	J字形副軸・交差式。頭部に幅1.6cmの嵌溝あり。溝の下に段あり。全体に擦痕残る(斜め)	K538	
	M1-99-1-999-438-23	119	釣針軸	B型		175.84	19.20	J字形主軸・交差式。海獣肋骨製。頭部に浅い糸かけ溝あり。全体に研磨	K541	
	M1-99-1-999-438-24	119	釣針軸	B型		153.57	27.90	J字形主軸・交差式。海獣肋骨製。頭部に浅い糸かけ溝あり	K543	
	M1-99-1-999-438-25	119	釣針軸	B型		155.57	25.90	J字形主軸・交差式。海獣肋骨製。頭部には幅1.1cmの糸かけの抉りを両側に入れる。抉りの上下と軸部の左右両側3カ所ずつに突起と刻みを入れる。下端の関節突起を削って平らにしている	K545	
	M1-99-1-999-438-26	119	釣針軸	B型	頭部一部欠損	156.82	23.10	J字形主軸・交差式。頭部に幅1.0cmの糸かけ溝あり	K546	

PLATE	ID	旧所蔵NO	器種1	器種2	部位(完形・未成品・欠損など)	最大長(mm)	重量(g)	備考	遺物ラベル番号	原典図版
	M1-99-1-999-438-27	119	釣針軸	B型		94.87	152.15	J字形主軸・交差式。海獣肋骨製。頭部には幅0.9cmの糸かけの抉りを両側から入れる。下端の関節突起を削って平らにしている	K548	
	M1-99-1-999-438-28	119	釣針軸	B型		148.96	21.50	J字形主軸・交差式。海獣肋骨製。頭部に浅い糸かけ溝めぐる	K549	
	M1-99-1-999-438-29	119	釣針軸	B型		163.79	25.30	J字形主軸・交差式。海獣肋骨製。頭部に幅0.5cmの糸かけ溝あり(主軸)	K550	
	M1-99-1-999-438-30	119	釣針軸	B型		156.44	25.60	J字形副軸・交差式。海獣肋骨製。頭部に幅1.4cm、深さ0.5cmの嵌溝あり。下端の関節突起を削って平らにしている	K551	
	M1-99-1-999-438-31	119	釣針軸	B型		157.93	21.60	J字形副軸・交差式。海獣肋骨製。頭部に幅0.9cmの嵌溝あり。下端の関節突起を削って平らにしている	K552	
	M1-99-1-999-438-32	119	釣針軸	B型		166.12	29.40	J字形主軸・交差式。海獣肋骨製。頭部には両側から幅0.7cmの糸かけの抉りを入れる。頭頂部は山形。下端の関節突起を削って平らにしている	K553	
	M1-99-1-999-438-33	119	釣針軸	B型		162.96	27.40	J字形主軸・交差式。海獣肋骨製。頭部に幅0.7cmの糸かけ溝あり。溝の下に段。頭頂部は山形。下端の関節突起を削って平らにしている	K554	
	M1-99-1-999-438-34	119	釣針軸	B型	頭部のみ	136.37	19.90	J字形主軸。海獣肋骨製。頭部には両側から幅0.6cmの糸かけの抉りを入れる。抉りの下に段あり	K555	
	M1-99-1-999-438-35	119	釣針軸	B型		153.27	23.90	J字形主軸・交差式。海獣肋骨製。頭部に幅0.6cmの糸かけ溝あり。頭頂部は山形	K556	
	M1-99-1-999-438-36	119	釣針軸	B型		153.95	21.70	J字形副軸・交差式。海獣肋骨製。頭部に幅1.3cmの嵌溝あり。下端の関節突起を削って平らにしている	K557	
	M1-99-1-999-438-37	119	釣針軸	B型	未成品	158.47	13.40	J字形・交差式。海獣肋骨を削って成形している段階。頭部の片側には抉りを入れている。糸かけ溝を作る過程で破損したか？他の器種の可能性もある	K558	
	M1-99-1-999-438-38	119	釣針軸	B型	未成品？	142.17	17.20	J字形主軸・交差式。動物の肋骨を素材。頭部の溝は一周しない。加工途中か？	K559	
	M1-99-1-999-438-39	119	釣針軸	B型	未成品？	121.95	16.50	J字形主軸・交差式。頭部の加工は粗く糸かけ溝をつくる途中か？下端の関節突起を削って平らにしている	K560	
	M1-99-1-999-438-40	119	釣針軸	B型	頭部半分欠損	122.74	15.60	J字形主軸。頭部には両側から幅0.6cmの糸かけの抉りを入れる。両側面に一対の段あり	K561	
	M1-99-1-999-438-41	119	釣針軸	B型	頭部一部欠損	168.75	30.10	J字形主軸・交差式。海獣肋骨製。頭部に幅0.7cmの糸かけ溝あり	K562	
	M1-99-1-999-438-42	119	釣針軸	B型	頭部一部欠損	171.64	27.20	J字形主軸・交差式。海獣肋骨製。頭部には両側から幅1.3cmの糸かけの抉り入れる	K563	
	M1-99-1-999-438-43	119	釣針軸	B型		171.82	50.90	J字形主軸・交差式？。頭部に糸通し孔、その下に一周する浅い段あり。器面全体に擦痕残る(斜め)	K567	大場1955 第8表
	M1-99-1-999-438-44	119	釣針軸	B型		187.32	55.60	J字形主軸・交差式。頭部に糸通し孔あり。体部にカットマーク多数	K568	大場1955 第8表
	M1-99-1-999-438-45	119	釣針軸	B型	頭～体部一部欠損	148.59	16.50	J字形副軸・交差式。海獣肋骨製。頭部に幅0.9cmの嵌溝あり。下端の関節突起を削って平らにしている	K597	
	M1-99-1-999-438-46	119	釣針軸	B型		193.91	14.60	J字形主軸・交差式。海獣肋骨製。頭部の糸かけ溝は両側から幅0.2cmの小さい抉りを入れる	K598	
	M1-99-1-999-438-47	119	釣針軸	B型	頭部欠損	153.38	12.50	J字形。海獣肋骨製。主軸か副軸かは不明		
	M1-99-1-999-438-48	119	釣針軸	B型	未成品、欠損	150.11	16.70	J字形。上端に切断痕。下端は折損		
	M1-99-1-999-438-49	119	釣針軸	A型	両側頭部欠損	126.01	43.80	U字形。表面摩耗。劣化してもろい。表面摩耗するが、加工痕あり		
	M1-99-1-999-438-50	119	釣針軸	不明	頭部のみ	107.98	14.10	全形不明のチモト側頭部。頭部に幅0.5cmの糸かけ溝あり。溝の直下に横方向の線刻あり		
	M1-99-1-999-438-51	119	釣針軸	不明	頭部のみ	108.44	14.90	全形不明のチモト側頭部。頭部に幅0.9cmの糸かけ溝あり。側面に長さ5cmほどの細い紐のような浮彫あり。波状で軸との間にスリット状の孔2箇所あり。オンネモト遺跡のヘビ浮彫釣針軸に類似しており、頭部の表現はないが動物意匠の可能性がある		
	M1-99-1-999-438-52	119	釣針軸	不明	頭部のみ	109.82	15.40	全形不明のアグ側頭部。頭部に幅1.5cmの嵌溝あり。裏面は研磨され平坦		
	M1-99-1-999-438-53	119	釣針軸	A型？	頭部欠損	102.38	21.10	U字形？全体に研磨されている		
	M1-99-1-999-438-54	119	釣針軸	不明	頭部のみ	86.46	9.60	全形不明のチモト側頭部。頭部に幅0.7cmの索溝があり、溝の下には浮線と沈線による装飾がめぐる		
	M1-99-1-999-438-55	119	釣針軸	A型？	頭部欠損	54.61	9.50	U字形？表面、側面は研磨して成形		
	M1-99-1-999-438-56	119	釣針軸	不明	頭部のみ	41.40	4.20	全形不明のアグ側頭部。頭部に幅1.2～1.6cmの嵌溝あり。全体に擦痕あり(斜め)。破断面中央が暗褐色		
	M1-99-1-999-439-1	120	骨鍬			196.36	214.50	刃部は両面より研磨。体部中央一対の楕円形の窓あり。有柄	K1126	大場1955 第21表
107	M2-99-1-999-441-1	120	銛頭	逆鉤式		84.44	4.10	先端尖鋭。頭部に横方向の沈線(2本)。逆鉤は左右対称に1段つく。軸部に逆鉤の延長のように装飾的な段あり。基部は肩が張り、スリット状の索孔は側面から横方向にあく	K1524	大場1955 第1表

PLATE	ID	旧所蔵NO	器種1	器種2	部位(完形・未成品・欠損など)	最大長(mm)	重量(g)	備考	遺物ラベル番号	原典図版
	M2-99-1-999-441-2	120	銛頭	逆鉤式	先端、基部一部欠損	73.86	3.30	先端に刃溝。左右対称3段の逆鉤あり。逆鉤と軸の間に装飾的な段を設けている。基部は破損しているが円形の穿孔が残る	K1525	
107	M2-99-1-999-441-3	120	銛頭	逆鉤式		76.59	4.70	先端に刃溝。左右対称2段の逆鉤。索孔は縦長のスリット状。器体表面を縁取るように、浮線による装飾あり	K1526	
107	M2-99-1-999-441-4	120	銛頭	回転式E群	先端一部欠損	55.85	2.40	先端に刃溝。横位2索孔。背面側では索孔間、腹面側では索孔から下方に導索溝あり。単尾で後端は尖る。海獣肋骨製	K1527	大場1955 第2図、第2表
107	M2-99-1-999-441-5	120	銛頭	回転式A群		113.38	5.50	先端尖鋭。背面中央より下方に索溝(幅1.2cm)、腹面側に柄溝あり。単尾	K1528	
	M2-99-1-999-441-6	120	銛頭	回転式A群	尾部一部欠損	101.92	3.90	先端は研磨され尖鋭。背面中央より下方に索溝(幅1.0cm)、腹面に柄溝あり。側面からみると湾曲。尾部は欠損しているが単尾だと思われる	K1529	
	M2-99-1-999-441-7	120	銛頭	回転式A群		66.45	2.00	先端は研磨され尖鋭。背面中央に索溝(幅0.7cm)、腹面に柄溝あり。側面からみると湾曲。単尾の先端に小突起あり	K1530	
	M2-99-1-999-441-8	120	銛頭	回転式A群	尾部一部欠損	68.05	3.60	先端は研磨され尖鋭。背面中央に索溝(幅1.0cm)、腹面に柄溝あり。単尾で尾部が長い	K1531	
	M2-99-1-999-441-9	120	銛頭	回転式A群	尾部一部欠損	66.62	2.40	先端は研磨され尖鋭。背面中央より下方に索溝(幅0.8cm)、腹面に柄溝あり。側面からみるとやや湾曲。単尾	K1532	
	M2-99-1-999-441-10	120	銛頭	回転式A群		51.69	1.30	先端は研磨され尖鋭。背面中央より下方に索溝(幅0.6cm)、腹面に柄溝あり。側面からみるとやや湾曲。単尾で両側面を削って尖らせている	K1533	
107	M2-99-1-999-441-11	120	銛頭	回転式D群		61.31	6.60	先端に刃溝。索孔は楕円形。尾部は双尾。背面に稜をもち、尾部を縁取る刻線あり	K1547	
	M2-99-1-999-441-12	120	銛頭	回転式A群		125.25	8.50	先端尖鋭。左右非対称の位置に逆鉤1段ずつあり。背面下方に幅0.9cmの索溝あり。腹面のソケットは溝が浅く不明瞭。単尾で側縁に刻みを入れる	K1559	
	M2-99-1-999-441-13	120	銛頭	回転式A群	先端一部欠損	85.59	8.00	先端に刃溝。背面中央に幅0.9cmの索溝、腹面に柄溝あり。双尾で側縁から抉りを入れる。索溝の上下縁に突帯状の装飾あり	K1560	
	M2-99-1-999-441-14	120	骨鏃	D型	先端一部欠損	78.85	2.70	両面は研磨され平坦	K1535	
	M2-99-1-999-441-15	120	骨鏃	D型	先端欠損	61.91	1.20	切断した切り口に擦痕(斜め)残る	K1536	
	M2-99-1-999-441-16	120	骨鏃	A型		83.58	2.70	先端尖鋭。形状は柳葉形に近く、側面からみるとやや湾曲。下端に瘤状の小突起?あり。鹿角製。M2-2-1-251-412-1もK1551のラベルあり。	K1551(重複?)	
	M2-99-1-999-441-17	120	骨鏃	D型		82.45	3.20	先端尖鋭	K1562	
	M2-99-1-999-441-18	120	釣針先	有鉤	先端欠損	77.07	10.30	体部の内側に浅いアグがつく。全体に研磨されている	K1542	
	M2-99-1-999-441-19	120	釣針先	有鉤	先端欠損	62.09	3.10	体部内側にアグがつく。基部末端に溝あり	K1543	
	M2-99-1-999-441-20	120	釣針先	無鉤	体部一部欠損	67.18	4.20	アグのないタイプ。先端尖鋭。全体に研磨されている	K1545	
	M2-99-1-999-441-21	120	釣針先	無鉤		55.26	2.60	アグのないタイプ。先端尖鋭。全体に研磨されている	K1546	
108	M2-99-1-999-441-22	120	釣針軸	B型		222.31	42.90	J字形主軸・接合式。頭部に幅0.7cmの糸かけ溝あり。頭頂部に刻みを入れ、穿孔(2つ重複してひょうたん形)あり。動物意匠(海獣頭部?)である。糸かけ溝の下には横方向の刻線あり。結合部には平坦面を設け、反対側に2箇所の段をもつ	K1541	大場1955 第13図、第8表
108	M2-99-1-999-441-23	120	釣針軸	A型		197.76	78.50	U字形。チモト側頭部は、頭頂部が山形で糸かけ溝あり。チモト側軸は表面が研磨により平坦で、外縁が波状になる。アグ側頭部は幅1.5cmの嵌溝あり。釣針先(M2-99-1-999-343-1)が装着状態で出土したと報告されたもの	K1538	大場1955 第13図、第8表
109	M2-99-1-999-441-24	120	骨製針入		半分欠損	75.73	7.10	一面のみに平行した線刻あり	K1572	
	M2-99-1-999-441-25	120	骨製刺突具		基部欠損	126.23	13.40	動物の管状骨を素材とし、一端を斜めに切断して尖らせている。下端は研磨され平坦	K1549	
109	M2-99-1-999-441-26	120	骨小刀	粗製		134.34	17.30	縦長骨片を素材とし、柳葉形で先端尖鋭。全面研磨されている	K1555	
	M2-99-1-999-441-27	120	骨錐			124.57	11.80	先端尖鋭。基部は動物骨をそのまま使用。全体に研磨されている	K1556	
	M2-99-1-999-441-28	120	骨錐			107.89	4.40	先端尖鋭。基部は動物骨をそのまま使用	K1557	
	M2-99-1-999-441-29	120	骨錐			130.09	9.00	先端尖鋭。海獣肋骨製	K1566	
109	M2-99-1-999-441-30	120	骨角製垂飾	牙製垂飾		47.52	3.80	動物の歯牙に直径約0.3cmの穿孔1つあり		
109	M2-99-1-999-441-31	120	円盤形垂飾		一部破損	46.94	14.90	直径4.5cmの円盤形。中央に直径1.1cmの穿孔あり。表面には三重の環状の浮文あり。裏面はよく研磨されている。海獣歯牙製。クックルケシ状製品	K1575	
109	M2-99-1-999-441-32	120	円盤形垂飾			47.20	15.20	直径4.5cmの円盤形。中央に直径0.5cmの穿孔あり。両面ともに無文だがよく研磨されている。骨製。クックルケシ状製品	K1576	
	M2-99-1-999-441-33	120	円盤形垂飾		一部破損	45.43	17.90	直径4.5cmの円盤形。中央に直径0.5cmの穿孔あり。表面に六重の環状の浮文あり。海獣歯牙製。クックルケシ状製品	K1577 (K1327を消して)	

PLATE	ID	旧所蔵NO	器種1	器種2	部位(完形・未成品・欠損など)	最大長(mm)	重量(g)	備考	遺物ラベル番号	原典図版
110	M2-99-1-999-441-34	120	未詳装身具	有孔細板状製品		102.21	9.60	側面からみると湾曲している。折損しているが、一端に長軸と直交する方向の長方形、2カ所に紡錘形の穿孔をもつ。3～4本一組の刻線を4カ所に施している	K1607	大場1955 第33図、第25表
110	M2-99-1-999-441-35	120	未詳装身具	口唇装具類似品		30.77	12.70	牙製。円盤の縁に深い溝をめぐらせたような形。上側は笠状。直径2.8cm、高さ2.5cm。エスキモーの口唇装具(ラブレット)類似品とされたものである	K1608	大場1955 第35図
	M2-99-1-999-441-36	120	骨製刺突具		破片	95.86	8.00	一端を斜めに切断した痕跡あり	K1552	
	M1-99-1-999-442-1	121	骨鏃		未成品？先端欠損	136.43	10.40	やや湾曲した縦長骨片を素材としている。下端の両側面を削り基部を作出。基部の付近はよく研磨されている	K775	
69	M1-99-1-999-442-2	121	骨小刀	粗製		128.25	5.70	鳥管状骨製。上端は両面より研磨して薄く平らにペーパーナイフ状に加工して尖る。下端に加工痕あり		
	M1-99-1-999-442-3	121	骨鏃	C型	頭部	61.25	2.90	先端尖鋭。全体に研磨。下端両側面に段あり。表面中央に矢印(↑)のような線刻あり		
	M1-99-1-999-442-4	121	骨小刀	粗製		93.78	3.40	鳥管状骨製。先端は両面より研磨され平坦で薄いペーパーナイフ状。先端右側縁の刃部に約1.3cmに渡って刻みあり		
	M1-99-1-999-442-5	121	骨小刀	粗製		73.54	2.20	鳥管状骨製。先端は両面より研磨され平坦で薄いペーパーナイフ状。先端右側縁の刃部に約1.6cmに渡って刻みあり		
	M1-99-1-999-442-6	121	骨小刀	粗製	下端欠損	92.61	2.80	鳥管状骨製。先端は両面より研磨され平坦で薄いペーパーナイフ状。右側面に細かな削り痕あり		
	M1-99-1-999-442-7	121	骨小刀	粗製		70.65	1.90	鳥管状骨製。先端は両面より研磨され平坦で薄いペーパーナイフ状		
	M1-99-1-999-442-8	121	骨小刀	粗製		53.35	1.60	鳥管状骨製。先端は両面より研磨され平坦で薄いペーパーナイフ状		
	M1-99-1-999-442-9	121	骨小刀	粗製		83.24	2.50	鳥管状骨製。先端は両面より研磨され平坦で薄いペーパーナイフ状		
	M1-99-1-999-442-10	121	骨小刀	粗製	下端欠損	96.72	3.50	鳥管状骨製。先端は両面より研磨され平坦で薄いペーパーナイフ状		
	M1-99-1-999-442-11	121	骨小刀	粗製	下端欠損	89.49	3.30	鳥管状骨製。先端は両面より研磨され平坦で薄いペーパーナイフ状		
	M1-99-1-999-442-12	121	骨小刀	粗製	先端一部欠損	151.92	8.00	陸獣骨製。長く先端尖鋭。先端は両面より研磨され平坦で薄いペーパーナイフ状	K745	
	M1-99-1-999-442-13	121	骨小刀	粗製		129.31	5.00	鳥管状骨製。先端尖鋭。先端は両面より研され平坦で薄いペーパーナイフ状		
69	M1-99-1-999-442-14	121	骨小刀	粗製		139.64	7.70	鳥管状骨製。先端尖鋭。先端は両面より研磨し平坦で薄いペーパーナイフ状		
	M1-99-1-999-442-15	121	骨小刀	粗製	未成品？	143.91	17.20	半裁した縦長の海獣骨の先端を両面より研磨。側面からみるとやや湾曲。下端に加工痕あり。作りが粗く未成品だろう		
	M1-99-1-999-442-16	121	骨製刺突具	粗製		128.56	15.20	海獣肋骨製。一端から斜めに面取りをした部分をさらに両面から研磨して刃部としている		
69	M1-99-1-999-442-17	121	骨小刀	粗製	先端一部欠損	128.38	14.00	陸獣骨製。両面ともに丁寧に研磨され先端は薄く尖るペーパーナイフ状。刃部には使用による刃こぼれみられる		
69	M1-99-1-999-442-18	121	骨製刺突具	粗製	下端欠損	105.48	10.30	海獣骨製。両面とも丁寧に研磨されている。擦痕(斜め)残る。先端尖鋭		
	M1-99-1-999-442-19	121	骨製刺突具	粗製		99.43	6.30	縦長骨片を素材。先端尖鋭。特に裏面はよく研磨されている		
	M1-99-1-999-442-20	121	骨製刺突具	粗製	下端欠損	96.99	17.40	縦長骨片を素材。先端は両面より研磨されている。表面にラベルが付いていた痕跡残る		
	M1-99-1-999-442-21	121	骨製刺突具	粗製	下端欠損	75.77	8.90	縦長骨片を素材。先端は両面より研磨されている		
	M1-99-1-999-442-22	121	骨製刺突具			139.47	35.70	縦長骨片を素材としている。先端は両面より研磨され尖っている	K732	大場1955 第13表
	M1-99-1-999-442-23	121	骨製刺突具			124.83	21.80	鹿角製。先端は両面より研磨して薄くして尖らせている。	K735	大場1955 第13表
	M1-99-1-999-442-24	121	骨小刀	粗製	先端欠損	189.59	19.30	鳥の上腕骨製。一端を斜めに切断して尖らせている。ペーパーナイフ状	K746	大場1955 第13表
69	M1-99-1-999-442-25	121	骨製刺突具			119.77	10.20	鳥の上腕骨製。一端を斜めに切断して尖らせている	K748	大場1955 第13表
	M1-99-1-999-442-26	121	骨製刺突具			112.48	6.90	鳥の上腕骨製。一端を斜めに切断して薄く尖らせている	K749	大場1955 第13表
	M1-99-1-999-442-27	121	骨製刺突具			121.13	5.80	鳥管状骨製。一端を斜めに切断して尖らせている	K751	大場1955 第13表
69	M1-99-1-999-442-28	121	骨製刺突具			113.59	6.40	鳥管状骨製。一端を斜めに切断して尖らせている	K752	大場1955 第13表
	M1-99-1-999-442-29	121	骨製刺突具		先端欠損	138.82	27.70	シカ中手中足骨製。一端を斜めに切断している	K756	大場1955 第13表
	M1-99-1-999-442-30	121	骨製刺突具			186.59	14.60	鳥管状骨製。一端を斜めに切断して尖らせている	K759	大場1955 第13表
	M1-99-1-999-442-31	121	骨小刀	粗製	先端欠損	85.05	2.90	鳥管状骨製。先端は両面より研磨して尖鋭。ペーパーナイフ状	K763	大場1955 第13表
	M1-99-1-999-442-32	121	骨小刀	粗製		111.87	5.60	鳥管状骨製。先端は両面より研磨して尖鋭。ペーパーナイフ状	K764	大場1955 第13表
	M1-99-1-999-442-33	121	骨製刺突具		先端欠損	62.69	3.20	鳥の尺骨製	K769	大場1955 第13表
	M1-99-1-999-442-34	121	骨製刺突具		先端欠損	55.35	3.10	アホウドリ尺骨製。一端を斜めに切断して尖らせている	K772	
	M1-99-1-999-442-35	121	骨小刀	粗製	先端のみ	77.94	3.00	鳥管状骨製。先端は両面より研磨して薄くしている。ペーパーナイフ状		
	M1-99-1-999-442-36	121	骨製刺突具		先端のみ	82.80	3.00	海獣骨製。先端尖鋭		
	M1-99-1-999-442-37	121	骨小刀	粗製	下端欠損	127.36	7.20	鳥管状骨製。一端を斜めに切断して尖らせている。先端尖鋭でペーパーナイフ状		

PLATE	ID	旧所蔵NO	器種1	器種2	部位(完形・未成品・欠損など)	最大長(mm)	重量(g)	備考	遺物ラベル番号	原典図版
	M1-99-1-999-442-38	121	骨製刺突具		先端欠損	157.76	25.10	鳥の上腕骨製。一端を斜めに切断している		
	M1-99-1-999-442-39	121	骨製刺突具			122.05	4.20	海獣骨製。一端を斜めに切断して尖らせている。先端尖鋭		
	M1-99-1-999-442-40	121	骨製刺突具			73.22	2.60	鳥管状骨製。一端を斜めに切断して尖らせている。先端尖鋭		
	M1-99-1-999-442-41	121	骨製刺突具			73.73	5.80	鳥管状骨製。一端を斜めに切断して尖らせている。先端尖鋭		
	M1-99-1-999-442-42	121	骨錐		体部欠損	78.64	3.80	海獣骨製。棒状。研磨され先端尖鋭	K771(下にはK798のラベルが貼ってあった)	
	M1-99-1-999-442-43	121	骨錐			125.73	13.20	海獣骨製。海獣骨製。先端は研磨され尖鋭。一端を斜めに切断して尖らせている	K790	大場1955 第15表
	M1-99-1-999-442-44	121	骨錐			120.10	15.00	海獣骨製。先端を細く削り尖らせている	K791	大場1955 第15表
	M1-99-1-999-442-45	121	骨錐			105.54	5.30	海獣骨製。先端は研磨され尖鋭	K794	大場1955 第15表
	M1-99-1-999-442-46	121	骨錐		体部欠損	71.39	3.50	海獣骨製。先端は研磨され尖鋭	K796	大場1955 第15表
	M1-99-1-999-442-47	121	骨錐			104.74	4.70	海獣骨製。先端は研磨され尖鋭		
	M1-99-1-999-442-48	121	骨錐		体部欠損	93.71	5.30	海獣骨製。先端は研磨され尖鋭		
	M1-99-1-999-442-49	121	骨錐		体部欠損	82.56	5.70	海獣骨製。先端は研磨され尖鋭		
	M1-99-1-999-442-50	121	骨錐		体部欠損	75.47	4.60	海獣骨製。先端は研磨され尖鋭		
	M1-99-1-999-442-51	121	骨器未成品			170.18	10.20	海獣肋骨を縦に半裁し、内側の棒状骨片を素材としている。側面からみると湾曲。両端の側面を削り細く加工している		
	M1-99-1-999-442-52	121	骨器未成品		先端一部欠損	151.37	8.90	海獣肋骨を縦に半裁し、内側の棒状骨片を素材としている。側面からみると湾曲。先端は外側面を研磨して扁平。体部下方両側面を削って柄を作出か？		
	M1-99-1-999-442-53	121	骨器未成品			131.93	21.40	海獣骨製。縦長骨片の両側面に加工あり。長二等辺三角形になる		
	M1-99-1-999-442-54	121	骨器未成品			112.87	11.90	下顎骨製。側面に研磨痕あり。釣針先の未成品か？		
	M1-99-1-999-443-1	122	釣針軸	A型	未成品	211.56	157.20	U字形。全体に縦に削り出し成形している	K493(未完)	
	M1-99-1-999-443-2	122	釣針軸	A型	未成品	109.02	39.60	U字形の屈曲部。海獣骨製。研磨痕残る	K494	
	M1-99-1-999-443-3	122	釣針軸	A型	未成品	102.24	37.10	U字形。研磨痕残る	K495(未完)	
	M1-99-1-999-443-4	122	釣針軸	A型	両側頭部欠損	106.31	55.90	U字形。幅の広い屈曲部破片で、よく磨かれている	K496	
	M1-99-1-999-443-5	122	釣針軸	A型	未成品	154.35	44.30	U字形。切り出した段階で破損したものか	K497	
	M1-99-1-999-443-6	122	釣針軸	A型	アグ側欠損	150.12	42.50	U字形。寛骨を素材としており、屈曲部側面側に寛骨臼がくる。頭部には両側から糸かけの抉りを入れており、直下に一対の小突起あり	K513	
	M1-99-1-999-443-7	122	釣針軸	A型	未成品	156.39	104.90	U字形。海獣寛骨製。頭部の溝等は未作出だが、内側は面取りされている	K517	
	M1-99-1-999-443-8	122	釣針軸	A型	未成品	145.13	95.10	U字形。海獣寛骨製。頭部の溝等は未作出	K518	
	M1-99-1-999-443-9	122	釣針軸	A型	未成品	106.94	40.10	U字形。海獣寛骨製。頭部の溝等は未作出	K519	
	M1-99-1-999-443-10	122	鹿角製品	鉤状角製品		129.12	45.40	鹿角の分岐部付近で幹部を半裁し、切り取ったもの。枝部含む。幹部両端の両側に突起あり	K524	
	M1-99-1-999-443-11	122	鹿角製品	残片		121.09	49.90	鹿角の第3分岐部を切り落としたもの。第4枝先端部に加工痕あり。残片？	K525	
	M1-99-1-999-443-12	122	鹿角製品	鉤状角製品		181.85	120.20	鹿角の角座から幹にかけて幹部を縦に切断したもの。第1枝含む。落角。上端はノブ状に作られている	K526	
	M1-99-1-999-443-13	122	釣針軸	B型	未成品	142.93	26.10	J字形。海獣骨製。主軸か副軸かは不明	K573	
	M1-99-1-999-443-14	122	釣針軸	A型	未成品	231.75	110.00	U字形？海獣骨製。頭部に加工なし	K611	
	M1-99-1-999-443-15	122	釣針軸	B型	未成品	180.28	66.20	J字形。海獣骨を素材としている。骨篦類の再加工	K612	
108	M2-99-1-999-444-1	123	釣針軸	B型		181.68	38.50	J字形主軸・接合式。頭部に糸通し孔あり。頭頂部は山形。軸は外反する。軸にカットマークあり	下.21	名取・大場1964 Fig5-21
	M1-99-1-999-444-2	123	未詳骨器		下端欠損	170.21	15.10	海獣肋骨製。頭部片面に幅0.3cmの溝あり。頭頂部は山形。骨製釣針軸B型の可能性もある		
	M1-99-1-999-444-3	123	釣針軸	B型	下端切断	108.66	19.70	J字形主軸。海獣肋骨製。頭部両側に幅1.0cmの糸かけの抉り入れる。下端は切断痕を残す		
69	M1-99-1-999-444-4	123	釣針軸	B型	下端欠損	93.86	8.90	J字形主軸。海獣肋骨製。頭部に幅0.7cmの糸かけ溝あり。溝直下に横線、軸部にX字状の文様が線刻される。外縁に波状の浮彫をもつ		
	M1-99-1-999-444-5	123	釣針軸	B型	下端欠損	103.09	12.00	J字形副軸。海獣肋骨製。頭部は嵌溝(幅1.4cm)をもつ。溝の反対側に突起あり		

PLATE	ID	旧所蔵NO	器種1	器種2	部位(完形・未成品・欠損など)	最大長(mm)	重量(g)	備考	遺物ラベル番号	原典図版
	M1-99-1-999-444-6	123	釣針軸	B型	頭部のみ	106.03	11.90	J字形主軸。海獣肋骨製。頭部に索孔あり		
	M1-99-1-999-444-7	123	釣針軸	B型	下端欠損	69.08	8.30	J字形主軸。海獣肋骨製。頭部に幅0.9cmの糸かけ溝あり。頭頂部は山形。軸部の左右面に2本1組の線刻が2～3箇所施される		
	M1-99-1-999-444-8	123	釣針軸	B型	下端欠損	64.81	8.30	J字形副軸。海獣肋骨製。頭部に幅1.4cmの嵌溝あり。		
	M1-99-1-999-444-9	123	釣針軸	B型	下端欠損	61.46	9.90	J字形主軸。海獣肋骨製。頭部に幅0.9cmの糸かけ溝あり。直下の両側面に二対の刻みあり。体部全体に擦痕あり(斜め)		
	M1-99-1-999-444-10	123	骨器未成品			174.58	25.90	頭部を山形に加工。釣針軸(J字形)未成品の可能性あり	K572	
	M1-99-1-999-444-11	123	骨器未成品			164.24	31.30	海獣肋骨製。頭部を山形に加工。釣針軸(J字形)未成品の可能性あり	K575	
	M1-99-1-999-444-12	123	骨器未成品			192.48	34.70	海獣肋骨製。下端は肋骨頭を削り扁平にしている。頭部には切断痕あり。釣針軸(J字形)未成品の可能性あり	K576	
	M1-99-1-999-444-13	123	骨器未成品			151.83	32.60	海獣肋骨製。頭部を山形に加工。釣針軸(J字形)未成品の可能性あり	K577	
	M1-99-1-999-444-14	123	骨器未成品			167.37	22.20	海獣肋骨製。頭部を平らに加工。下端は肋骨頭を削り扁平にしている。釣針軸(J字形)未成品の可能性あり	K578	
	M1-99-1-999-444-15	123	骨器未成品		上下端欠損	133.09	19.10	頭部に加工痕あり。釣針軸(J字形)未成品の可能性あり	K579	
	M1-99-1-999-444-16	123	骨器未成品			162.72	26.10	海獣肋骨製。肋頭部を山形に加工。骨結節を削り扁平にしている。釣針軸(J字形)未成品の可能性あり	K582	
	M1-99-1-999-444-17	123	骨器未成品			145.42	20.90	海獣肋骨製。頭部全体を面取りし細く加工。釣針軸(J字形)未成品の可能性あり	K585	
	M1-99-1-999-444-18	123	骨器未成品			144.90	16.30	海獣肋骨製。先端を面取りして尖らせている。釣針軸(J字形)未成品の可能性あり	K588	
	M1-99-1-999-444-19	123	骨器未成品		頭部欠損	126.77	16.60	海獣肋骨製。肋骨頭付近に加工痕あり。釣針軸(J字形)未成品の可能性あり	K590	
	M1-99-1-999-444-20	123	骨器未成品			105.47	5.50	海獣肋骨製。頭部を山形に加工。体部にくの字に抉りを入れている(片方のみ)。銛頭の加工途中か？	K591	
	M1-99-1-999-444-21	123	骨器未成品			103.26	5.80	先端は両面より研磨	K593	
	M1-99-1-999-444-22	123	骨器未成品			116.31	4.10	海獣肋骨製。頭部を山形に加工。体部側面に三角形の字に抉りを入れている(片方のみ)。銛頭の加工途中か？	K594	
	M1-99-1-999-444-23	123	骨器未成品			207.37	15.40	海獣肋骨製。一端を斜めに削り出し先端尖鋭。釣針軸(J字形)未成品の可能性あり	K599	
	M1-99-1-999-444-24	123	骨器未成品		上下端欠損	266.36	34.20	海獣肋骨製。体部両側面をくの字に削り索溝を作出。釣針軸(J字形)未成品の可能性あり	K600	
	M1-99-1-999-444-25	123	骨器未成品			196.89	28.50	海獣肋骨製。頭部に切断痕あり。もう一端は研磨されている		
	M1-99-1-999-444-26	123	骨器未成品			187.93	26.70	海獣肋骨製。頭部は両側面より削り溝をつけていた痕跡あり(索溝？)。体部に2本の線刻あり		
	M1-99-1-999-444-27	123	骨器未成品			154.13	18.20	海獣肋骨製。頭部に切断痕あり		
	M1-99-1-999-445-1	124	鹿角製品			141.63	28.60	左角第1枝。被熱。根元側は折れている。明確な加工なし	K780	大場1955 第14表
69	M1-99-1-999-445-2	124	鹿角製品	柄？		114.35	31.70	右角第2枝。根元側に切断痕あり。海面質に径0.8cmの穴があり、柄の可能性がある	K781	大場1955 第14表
69	M1-99-1-999-445-3	124	鹿角製品	残片		102.20	15.50	右角第2枝。根元側に切断痕あり	K782	大場1955 第14表
	M1-99-1-999-445-4	124	鹿角製品	残片		71.98	24.60	左角第3枝。根元側に切断痕あり	K778	大場1955 第14表
	M1-99-1-999-445-5	124	鹿角製品	残片		143.63	56.60	右角角座～第1枝。落角。幹部を第1分岐部近くで切断している		
	M1-99-1-999-445-6	124	鹿角製品	残片		106.28	19.20	枝先端部。根元側に切断痕あり		
	M1-99-1-999-445-7	124	鹿角製品			106.36	13.70	枝先端部。根元側は折れている。明確な加工なし		
	M1-99-1-999-445-8	124	骨錐			136.30	26.20	全体に研磨。先端は加工して尖らせている	K787	
69	M1-99-1-999-445-9	124	骨鑿		上端欠損	82.41	10.30	形状は長方形で扁平。側面からみるとやや湾曲。下端は両面より研磨されている	K841	大場1955 第16表
	M1-99-1-999-445-10	124	骨鑿			97.46	12.30	一端を斜めに削り出している	K845	大場1955 第16表
69	M1-99-1-999-445-11	124	未詳骨器	棒状	半分欠損	116.49	20.50	断面が円形の棒状。先端は鈍刃。全体に研磨されている	K836	大場1955 第18表
	M1-99-1-999-445-12	124	骨篦			171.48	44.70	両端とも刃部。研磨され先端尖鋭。左右側面に抉りを1つずつ作出(非対称)。被熱	K475	大場1955 第23表
	M1-99-1-999-445-13	124	骨篦		半分欠損	73.67	14.30	片側側面に突起あり	K476	
	M1-99-1-999-445-14	124	骨製打突器			171.55	35.70	棒状で側面に突起が各1個あり(非対称)。刃部研磨され先端尖鋭	K477	大場1955 第23表
	M1-99-1-999-445-15	124	骨製打突器		上下端欠損	143.94	15.60	片側側面に突起1個あり	K478	大場1955 第23表
	M1-99-1-999-445-16	124	骨製打突器		下端一部欠損	456.50	103.70	大きさ約45cmの板状で、先端は面取りして尖らせている。側面からみると湾曲。体部途中で凹みをつくり握りやすくしている。全体によく研磨されている	K1181	大場1955 第23表

PLATE	ID	旧所蔵NO	器種1	器種2	部位(完形・未成品・欠損など)	最大長(mm)	重量(g)	備考	遺物ラベル番号	原典図版
	M1-99-1-999-445-17	124	骨製打突器			338.00	115.80	大型の動物骨を縦に半裁した骨片を使用。やや湾曲。先端は両面より研磨。大きさ約34cm	K1182	大場1955 第23表
	M1-99-1-999-445-18	124	骨製打突器			200.58	71.80	形状は四角柱をなし、一端を両面より削って薄くしている	K1184	大場1955 第23表
76	M1-99-1-999-445-19	124	骨製打突器			252.32	62.90	全体を縦に面取りして棒状にしている。一端は削り、研磨によって平らにしている	K1185	大場1955 第23表
77	M1-99-1-999-445-20	124	骨器未成品			201.53	174.80	上下端に切断痕あり。長方形をなし、裏面は研磨され平坦。骨角器の素材か？	K1186	大場1955 第23表
	M1-99-1-999-445-21	124	骨器未成品		下端欠損	216.17	78.00	縦長骨片素材。先端尖らせている。両側面には細かな加工痕あり	K1194	
	M1-99-1-999-445-22	124	未詳骨器	棒状	半分欠損	63.79	8.50	断面が楕円形の棒状。先端は鈍刃。全体に研磨されている		
	M1-99-1-999-445-23	124	未詳骨器	棒状	上下端欠損	83.90	7.80	断面が楕円形の棒状。縦長に削って棒状に成形。特に上端はよく研磨されている		
	M1-99-1-999-446-1	125	骨篦			269.70	275.20	刃部は両面より研磨。体部中央両側面に浅い抉りあり。肩を作出途中か？	K907	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-446-2	125	骨鍬			241.54	419.40	刃部は両面より研磨。体部中央に一対の長楕円形の窓あり。有柄で柄部の幅狭い	K1130	大場1955 第21表
	M1-99-1-999-446-3	125	骨鍬		基部欠損	200.10	363.60	刃部は両面より研磨。一対の長楕円形の窓あり	K1131	大場1955 第21表
75	M1-99-1-999-446-4	125	骨鍬			353.00	677.70	刃部は両面より研磨。基部は有枝で端は山形になる。一対の楕円形の窓あり。大型	K1135	大場1955 第21表
	M1-99-1-999-446-5	125	骨鍬			187.01	122.20	刃部は片面より研磨。体部中央に一対の楕円形の窓あり。基部が二叉に分かれている？大場1955では「基部凹湾スル異形」と記載あり	K1139	大場1955 第21表
	M1-99-1-999-446-6	125	骨篦		基部欠損	167.31	144.00	刃部は両面より研磨。両側面に肩をもち、直下に一対の抉りを入れている	K1145	大場1955 第21表
	M1-99-1-999-446-7	125	骨篦			233.82	290.30	M1-99-1-999-80-11と接合	K1340	
	M1-99-1-999-446-8	125	骨鍬		基部欠損	157.24	148.90	刃部は両面より研磨。有柄。体部中央に一対の楕円形の窓あり	K1342	大場1955 第21表
71	M1-99-1-999-447-1	126	骨篦			226.29	112.80	両端とも刃部で両刃。よく研磨されている。中央を一段細くして着柄部とする	K944	大場1955 第23図、第20表
73	M1-99-1-999-447-2	126	骨篦			207.02	196.70	刃部は両面より研磨。体部中央に明瞭な肩をもつ。基部端と側面の両側に突起あり	K961	大場1955 第24図、第20表
	M1-99-1-999-447-3	126	骨篦			159.47	98.70	刃部は両面より研磨。体部中央で抉りを入れ肩を作出。基部の端に突起形成	K984	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-447-4	126	骨篦			249.34	383.90	刃部は片面より研磨。体部中央で抉りを入れ肩を作出。基部の端に突起形成	K992	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-447-5	126	骨篦			224.43	384.00	刃部は両面より研磨。体部中央で抉りを入れ肩を作出。基部の端に突起形成	K1020	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-447-6	126	骨篦			186.36	129.60	刃部は両面より研磨。体部中央で抉りを入れ肩を作出。基部の端に突起形成	K1030	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-447-7	126	骨篦			194.04	285.90	刃部は両面より研磨。体部中央に肩を作出。器厚厚い。基部の端に突起形成	K1073	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-447-8	126	骨篦			204.99	379.70	刃部は両面より研磨。体部中央に強く張り出す肩を作出。基部の端に突起形成	K1086	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-447-9	126	骨篦			190.02	242.10	刃部は両面より研磨。体部中央に肩を作出。基部の端に突起形成	K1088	大場1955 第20表
71	M1-99-1-999-447-10	126	骨篦			255.96	271.20	刃部は両面より研磨。体部両側面に二対の抉りを入れる	K1317	大場1955 第23図
	M1-99-1-999-447-11	126	骨篦			266.67	392.90	刃部は両面より研磨。体部上方で抉りを入れ肩を作出。基部の端に突起形成	K1318	
	M1-99-1-999-447-12	126	骨篦			127.16	61.70	小型。刃部は両面より研磨。刃部は摩滅している。体部中央で抉りを入れ肩を作出。基部の端に突起形成。片面に非常に緻密な研磨がなされる	K1330	
	M1-99-1-999-447-13	126	骨篦			130.86	39.90	小型。刃部は両面より研磨。体部中央で抉りを入れ肩を作出。基部の端に突起形成	K1336	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-447-14	126	骨篦			100.52	30.10	小型。刃部は片面より研磨。体部中央で抉りを入れ肩を作出。基部の端に突起形成	K1337	大場1955 第20表
73	M1-99-1-999-447-15	126	骨篦			111.02	18.20	小型。刃部は両面より研磨。体部は細身で中央に浅い抉りあり(片方のみ)。基部の端に突起形成(片方欠損)	K1338	大場1955 第25図、第20表
	M1-99-1-999-448-1	127	骨篦			290.05	254.60	刃部は両面より研磨。側面観やや湾曲。体部中央に一対の突起あり。基部の端に突起形成	K875	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-448-2	127	骨篦			257.11	262.60	両端とも刃部。刃部は両面より研磨。体部中央に二対の突起あり。側面観やや湾曲。基部の端に突起形成(片方欠損)	K887	大場1955 第20表
74	M1-99-1-999-448-3	127	骨篦			242.63	129.70	両端とも刃部。刃部は両面より研磨。側面観やや湾曲。体部中央両側面に突起あり(非対称)	K888	大場1955 第26図、第20表

PLATE	ID	旧所蔵NO	器種1	器種2	部位(完形・未成品・欠損など)	最大長(mm)	重量(g)	備考	遺物ラベル番号	原典図版
	M1-99-1-999-448-4	127	骨篦			287.67	156.30	両端とも刃部。刃部は両面より研磨。体部中央に二対の突起あり。側面観ややや湾曲	K892	大場1955 第20表
72	M1-99-1-999-448-5	127	骨篦			235.28	251.60	刃部は両面より研磨。特に片面は摩滅しておりやや凹んでいる。体部両側面に二対の突起あり。基部の端に突起形成(片方欠損)	K969	大場1955 第24図、第20表
	M1-99-1-999-448-6	127	骨篦			218.07	126.30	刃部は両面より研磨。体部上方に肩を作出。基部の端に突起形成	K977	大場1955 第20表
	M1-99-1-999-448-7	127	骨篦			395.00	496.70	大型。刃部は両面より研磨。体部上方で抉りを入れ肩を作出。基部の端に突起形成	K1047	大場1955 第20表
73	M1-99-1-999-448-8	127	骨篦			206.20	68.10	刃部は両面より研磨。体部中央上方に一対の突起あり。側面からみるとやや湾曲。基部の端に突起形成	K1334	大場1955 第25図、第20表
73	M1-99-1-999-448-9	127	骨篦			115.96	36.90	刃部は両面より研磨。体部中央両側面に一対の突起あり	K1335	大場1955 第25図、第20表
76	M1-99-1-999-448-10	127	骨楔状残片			153.95	143.70	刃部を残す(両面より研磨)。骨篦類を再加工した際の残片	K1106	大場1955 第22表
76	M1-99-1-999-448-11	127	骨楔状残片			161.72	60.70	骨篦類を再加工した際の残片	K1114	大場1955 第22表
	M1-99-1-999-449-1	128	骨斧			202.51	147.10	刃部は両面より研磨(両刃)	K846	大場1955 第19表
	M1-99-1-999-449-2	128	骨斧		刃部一部欠損	196.38	169.00	刃部は両面より研磨(両刃)。基部の末端は丁寧に研磨されている	K848	大場1955 第19表
	M1-99-1-999-449-3	128	骨斧		基部欠損	179.48	227.10	刃部は両面より研磨(片刃)。体部肥厚。両側面中間部に一対の突起あり	K851	大場1955 第19表
	M1-99-1-999-449-4	128	骨斧		基部欠損	145.12	121.20	刃部は両面より研磨(両刃)。体部肥厚。両側面中間部に一対の突起あり	K853	大場1955 第19表
	M1-99-1-999-449-5	128	骨斧		基部欠損	204.21	388.40	刃部は両面より研磨(両刃)。体部肥厚。両側面中間部に一対の突起あり	K854	大場1955 第19表
70	M1-99-1-999-449-6	128	骨斧			130.81	112.20	刃部は両面より研磨(両刃)。体部中央側面に抉りあり。肩を作出途中か？基部の末端を丁寧に加工し、突起作出途中(片側面のみ)	K870	大場1955 第22図、第19表
70	M1-99-1-999-449-7	128	骨斧			181.93	265.80	刃部は両面より研磨(両刃)。体部肥厚。体部中央両側面ぶー対の突起あり。基部の端にも突起形成	K877	大場1955 第22図、第19表
	M1-99-1-999-449-8	128	骨斧		基部一部欠損	194.45	207.40	刃部は両面より研磨(両刃)。体部肥厚。体部中央両側面に一対の突起あり。基部の端にも突起形成(片方欠損)	K882	大場1955 第19表
70	M1-99-1-999-449-9	128	骨斧			176.33	169.80	両端に刃部をもつ。刃部は両面より研磨(両刃)。両側面に二対の突起あり。体部肥厚	K885	大場1955 第22図、第19表
76	M1-99-1-999-449-10	128	骨刀		先端欠損	357.00	140.80	右側縁に細かな調整を加えて刃部作出。柄頭に瘤状の突起あり	K1146	
76	M1-99-1-999-449-11	128	骨刀			426.00	205.60	包丁形。体部側面に抉りを入れて柄を作出。柄頭に突起あり	K1147	
	M2-99-1-999-450-1	129	鹿角製品	残片		139.67	113.50	右角の角座～第1枝。落角。幹を切断		
	M2-99-1-999-450-2	129	鹿角製品	残片		86.68	78.10	右角の角座～第1分岐部。落角。幹・第1枝を切断		
	M2-99-1-999-450-3	129	鹿角製品	残片		86.05	67.50	右角の角座～第1分岐部。落角。幹・第1枝を切断。側面に加工痕あり		
	M2-99-1-999-450-4	129	鹿角製品	残片		82.26	82.50	左角の角座～第1分岐部。落角。幹・第1枝を切断		
	M2-99-1-999-450-5	129	鹿角製品	残片		75.52	69.30	角座～角座骨。骨付角。角座直上に加工痕あり		
111	M2-99-1-999-450-6	129	鹿角製品	残片		99.34	34.70	角座～第1枝。落角。角の先端や側面に加工痕あり		
	M2-99-1-999-450-7	129	鹿角製品	残片		51.58	22.20	角座。落角。角座直上に切断痕あり		
	M2-99-1-999-450-8	129	鹿角製品	残片		108.91	102.30	右角の第1分岐部。角座の部分はない。全体に摩耗し、カットマークあり		
	M2-99-1-999-450-9	129	鹿角製品	残片		82.32	13.80	右角の第2～第3分岐部。切断痕あり		
	M2-99-1-999-450-10	129	鹿角製品	残片		102.55	38.40	左角の第2分岐～幹部。両端に切断痕あり		
	M2-99-1-999-450-11	129	鹿角製品	原材		110.01	72.40	幹部。両端に切断痕や加工痕あり		
	M2-99-1-999-450-12	129	鹿角製品	残片		114.19	59.20	右角の幹部～第2分岐。第2枝を切断。他は折れ		
111	M2-99-1-999-450-13	129	鹿角製品	原材		115.96	46.60	幹部。両端に加工痕あり		
	M2-99-1-999-450-14	129	鹿角製品	原材		103.63	31.50	幹部を縦に半裁。カマボコ状。上端に切断痕		
	M2-99-1-999-450-15	129	鹿角製品	原材		107.60	12.80	幹部を縦に半裁		
	M2-99-1-999-450-16	129	鹿角製品	残片		81.28	83.50	右角第1分岐部。全面に加工痕あり。3方向切断。表面剥落		
	M2-99-1-999-450-17	129	鹿角製品	残片		71.18	87.80	分岐部。全面に加工痕あり		
	M2-99-1-999-451-1	130	骨器未成品			242.61	91.10	海獣骨を素材としている。一端を斜めに切断して尖らせる。刺器の類か？		
	M2-99-1-999-451-2	130	骨器未成品			169.56	150.50	鋸歯状の加工痕あり。板状。M2-99-1-999-451-15と接合		
111	M2-99-1-999-451-3	130	骨器未成品			155.62	228.60	形状は長方形で側面からみると湾曲をなす。上下端に加工痕あり		
	M2-99-1-999-451-4	130	骨器未成品			149.59	91.50	長方形で板状、両端に切断痕あり。カットマークあり		
	M2-99-1-999-451-5	130	骨器未成品			248.24	109.30	体部中央の側面に抉り入れて柄を作出。体部下半は全体を丁寧に加工して棒状にし、握りやすくしている。M1-99-1-999-449-11に形状類似		
	M2-99-1-999-451-6	130	骨器未成品			119.83	91.30	上端の両側面に抉りのような加工みられる。柄を作出か？下端は片面より研磨して刃部を作出。骨篦などの一部か？		

PLATE	ID	旧所蔵NO	器種1	器種2	部位(完形・未成品・欠損など)	最大長(mm)	重量(g)	備考	遺物ラベル番号	原典図版
	M2-99-1-999-451-7	130	骨器未成品		下端欠損	189.02	37.90	縦長の板状の素材を使用。全体に研磨。特に左側縁は薄く研磨され刃部をなす。骨小刀の一部か？		
	M2-99-1-999-451-8	130	骨器未成品			77.81	101.80	上端は斜めに削って平坦に、下端には加工痕あり		
	M2-99-1-999-451-9	130	骨器未成品			147.33	26.10	一端を細かく面取りしている		
	M2-99-1-999-451-10	130	骨器未成品			153.72	28.00	先端尖っている。側面に加工痕あり。骨小刀の未成品か？		
	M2-99-1-999-451-11	130	骨器未成品			139.20	67.90	研磨痕あり		
	M2-99-1-999-451-12	130	骨器未成品		上半欠損	112.74	14.20	全体に研磨して平らにしている		
111	M2-99-1-999-451-13	130	骨器未成品			121.47	58.00	角柱状。両端に横方向の切断痕あり。側面は面取りされ全体が研磨されている		
	M2-99-1-999-451-14	130	骨器未成品		上下端欠損	117.85	23.20	全体に研磨して平らにしている		
	M2-99-1-999-451-15	130	骨器未成品			43.71	6.40	M2-99-1-999-451-2と接合		
	M2-99-1-999-452-1	131	未詳骨器			46.70	1.30	骨の三叉になる部分		
	M2-99-1-999-452-2	131	未詳骨器			38.35	1.60	骨の三叉になる部分		
	M2-99-1-999-452-3	131	骨錐			59.05	1.50	鳥管状骨の骨片の一端を細く尖らせている		
	M2-99-1-999-452-4	131	骨製刺突具			76.58	0.70	鳥管状骨の骨片の一端を両側面から細かく加工して尖らせている		
	M2-99-1-999-452-5	131	骨製刺突具			118.64	2.50	先端尖鋭。擦痕あり		
	M2-99-1-999-452-6	131	骨小刀	粗製		117.19	3.30	先端加工し平ら。側縁に刻みあり。下端にカットマークあり		
	M2-99-1-999-452-7	131	骨製刺突具			125.73	1.30	細長い骨片の一端を尖らせている。表面は研磨されている		
	M2-99-1-999-452-8	131	骨製刺突具			105.90	1.20	鳥管状骨の骨片の一端を尖らせている。下端に擦痕あり		
	M2-99-1-999-452-9	131	骨鏃		下端欠損	104.40	1.10	鳥管状骨の骨片の一端を尖らせている。先端付近の両側面には細かい削り痕あり		
	M2-99-1-999-452-10	131	骨鏃			110.86	1.50	鳥管状骨の骨片の一端を尖らせている。下端は削ってし平らにしている		
	M2-99-1-999-452-11	131	骨鏃		下端欠損	113.27	3.30	鳥管状骨の骨片の一端を尖らせている。全体に研磨		
	M2-99-1-999-452-12	131	骨鏃			109.99	3.80	鳥管状骨の骨片の一端を尖らせている。全体に研磨され滑らか		
	M2-99-1-999-452-13	131	骨小刀	粗製		106.37	2.50	鳥管状骨の骨片の一端を研磨し平らにしている。表面に擦痕あり		
	M2-99-1-999-452-14	131	骨小刀	粗製	側縁・基部欠損	107.30	3.40	鳥管状骨の骨片の一端を研磨し平らにしている		
	M2-99-1-999-452-15	131	骨小刀	粗製	先端一部・基部欠損	90.63	4.60	鳥管状骨の骨片の一端を研磨し平らにしている。表面研磨され滑らか		
	M2-99-1-999-452-16	131	骨製刺突具			94.87	1.80	鳥管状骨の骨片の一端を尖らせている。表面に擦痕あり		
	M2-99-1-999-452-17	131	骨錐			72.45	0.90	鳥管状骨の骨片を研磨し、一端を細く尖らせている。下端に切断痕あり		
	M2-99-1-999-452-18	131	骨鏃	B型		88.54	3.20	鳥管状骨の骨片の一端を尖らせ、もう一端を表裏から削って基部を作出。柳葉形		
	M2-99-1-999-452-19	131	骨鏃	C型		56.69	1.30	鳥管状骨の骨片の一端を研磨して尖らせている。下端は両側面より削って茎部を作出		
	M2-99-1-999-452-20	131	骨製刺突具		下端欠損	57.85	1.10	鳥管状骨製。先端は研磨され尖鋭		
	M2-99-1-999-452-21	131	骨錐			88.89	1.00	鳥管状骨の骨片の一端を研磨して尖らせている		
	M2-99-1-999-452-22	131	骨製刺突具		先端一部・下端欠損	66.80	1.40	鳥管状骨の骨片の一端を尖らせている		
	M2-99-1-999-452-23	131	骨製刺突具			77.74	1.10	鳥管状骨の骨片の一側面より削りし尖らせている。表面全体に擦痕あり		
	M2-99-1-999-452-24	131	骨鏃	D型	先端一部・下端欠損	82.87	1.60	鳥管状骨製。表面全体には擦痕、研磨痕残る		
	M2-99-1-999-452-25	131	骨小刀	粗製	先端破片	34.05	0.70	鳥管状骨の一端を研磨して薄く平坦にしている。骨小刀の先端破片かと考えたが、骨鏃の破片の可能性もある		
	M2-99-1-999-452-26	131	骨製刺突具			82.32	0.90	鳥管状骨の骨片の一端を両側縁から細かく削って尖らせている		
	M2-99-1-999-452-27	131	骨製刺突具			76.30	1.20	鳥管状骨の骨片の一端を尖らせている。下端は削って平らにしている		
	M2-99-1-999-452-28	131	骨製刺突具			75.25	1.60	鳥管状骨の骨片の一端を尖らせている。表面は研磨されている		
	M2-99-1-999-452-29	131	骨製刺突具			69.33	1.60	鳥管状骨の骨片の一端を尖らせている。表面は研磨されている		
	M2-99-1-999-452-30	131	骨製刺突具			80.17	1.00	鳥管状骨の骨片の一端を片側から削って尖らせている		
	M2-99-1-999-452-31	131	骨製刺突具			80.43	1.50	鳥管状骨の骨片の一端を尖らせている		
	M2-99-1-999-452-32	131	骨製刺突具		下端欠損	78.38	1.90	鳥管状骨の一端を尖らせている。表面は全体に研磨。下端に擦痕残る。骨鏃の先端破片の可能性あり		
	M2-99-1-999-452-33	131	骨製刺突具			79.72	1.20	鳥管状骨の骨片の一端を尖らせている。全体に薄く、下端に擦痕残る		
	M2-99-1-999-452-34	131	骨小刀	粗製		77.15	1.40	鳥管状骨の骨片を研磨し、薄く平らにしている		
	M2-99-1-999-452-35	131	骨製刺突具			69.83	0.80	鳥管状骨の骨片の一端を尖らせている。両側縁は割れ口残す		
	M2-99-1-999-452-36	131	骨製刺突具			60.40	1.10	鳥管状骨の一端を尖らせている。表表面に擦痕残る。骨鏃の先端破片の可能性あり		

PLATE	ID	旧所蔵NO	器種1	器種2	部位（完形・未成品・欠損など）	最大長（mm）	重量（g）	備考	遺物ラベル番号	原典図版
	M2-99-1-999-452-37	131	カットマークのある骨			138.93	4.40	一端にカットマークあり		
	M2-99-1-999-452-38	131	カットマークのある骨			96.91	2.40	両端に切断痕あり。表面にカットマーク多数		
	M2-99-1-999-452-39	131	カットマークのある骨			65.17	1.30	斜めにカットマーク残る		
	M2-99-1-999-452-40	131	骨器未成品			111.22	4.20	縦長に削ってから研磨して成形		
	M2-99-1-999-452-41	131	骨錐			118.14	3.90	鳥の尺骨を素材としている。一端を斜めに切断して先端を針のように尖らせている		
	M2-99-1-999-453-1	132	銛頭	回転式A群		55.68	1.40	側面からみるとやや湾曲。両側面からの抉りが一部残り、索溝の部分で折れたものだろう。単尾で丁寧に研磨されている		
	M2-99-1-999-453-2	132	骨鏃			61.05	2.70	先端は研磨され薄い。側面からみるとやや湾曲。尾部にかけて細くなる		
	M2-99-1-999-453-3	132	骨器未成品			65.04	6.50	面取りして角錐形に尖らせている		
	M2-99-1-999-453-4	132	骨錐			88.88	4.70	海獣肋骨製。側面からみるとやや湾曲		
	M2-99-1-999-453-5	132	骨製刺突具		先端のみ	55.49	1.30	先端尖鋭。基部下端に段ないし切断痕あり。側面からみるとやや湾曲。回転式A群銛頭の先端部破片の可能性もあるが、確実ではない		
	M2-99-1-999-453-6	132	骨鏃		先端のみ	27.32	0.70	先端尖っている。研磨され平ら		
	M2-99-1-999-453-7	132	骨器未成品			54.29	3.60	全体に研磨、擦痕あり。加工途中？		
	M2-99-1-999-453-8	132	骨器未成品			52.63	2.90	先端尖っている。銛頭を再利用したものか？		
	M2-99-1-999-453-9	132	骨器未成品			51.45	2.90	全体に研磨。先端尖っている		
	M2-99-1-999-453-10	132	未詳骨器			167.26	43.30	縦長骨片の片側縁に内湾する抉りがあり、その抉りから端部の範囲が摩耗している。表面にカットマークあり		
	M2-99-1-999-453-11	132	骨小刀	粗製	下端欠損	78.60	3.70	先端を研磨して尖り、ペーパーナイフ状に薄くなる		
	M2-99-1-999-453-12	132	骨小刀	粗製		69.33	4.70	先端を研磨して尖る。ペーパーナイフ状に薄くなるが、先端は器体中央よりも厚い。形状は二等辺三角形		
	M2-99-1-999-453-13	132	骨製刺突具			166.19	28.60	先細りの端部の破断面が摩耗している		
	M2-99-1-999-453-14	132	骨製刺突具			90.99	9.00	破断して鋭る端部が研磨されている		
	M2-99-1-999-453-15	132	カットマークのある骨			63.35	3.70			
	M2-99-1-999-453-16	132	カットマークのある骨			199.84	95.00			
	M2-99-1-999-453-17	132	カットマークのある骨			166.13	42.40			
	M2-99-1-999-453-18	132	カットマークのある骨			148.42	28.90			
	M2-99-1-999-453-19	132	カットマークのある骨			134.06	19.80			
	M2-99-1-999-453-20	132	カットマークのある骨			138.96	11.90			
	M2-99-1-999-453-21	132	カットマークのある骨			139.50	26.90			
	M2-99-1-999-453-22	132	カットマークのある骨			138.38	30.80			
	M2-99-1-999-453-23	132	カットマークのある骨			128.30	31.10			
	M2-99-1-999-453-24	132	カットマークのある骨			127.86	14.90			
	M2-99-1-999-453-25	132	カットマークのある骨			119.30	12.80			
	M2-99-1-999-453-26	132	カットマークのある骨			124.16	26.30			
	M2-99-1-999-453-27	132	カットマークのある骨			121.52	24.80			
	M2-99-1-999-453-28	132	カットマークのある骨			104.24	17.90			
	M2-99-1-999-453-29	132	カットマークのある骨			102.05	20.10			

PLATE	ID	旧所蔵NO	器種1	器種2	部位（完形・未成品・欠損など）	最大長（mm）	重量（g）	備考	遺物ラベル番号	原典図版
	M2-99-1-999-453-30	132	カットマークのある骨			87.59	11.60			
	M2-99-1-999-453-31	132	カットマークのある骨			80.30	9.40			
	M2-99-1-999-453-32	132	カットマークのある骨			81.65	12.30			
	M2-99-1-999-453-33	132	カットマークのある骨			82.17	7.50			
	M2-99-1-999-453-34	132	カットマークのある骨			99.91	6.10			
	M2-99-1-999-453-35	132	カットマークのある骨			67.16	6.20			
	M2-99-1-999-453-36	132	カットマークのある骨			68.42	10.10			
	M2-99-1-999-453-37	132	カットマークのある骨			69.64	4.70			
	M2-99-1-999-453-38	132	カットマークのある骨			77.14	2.60			
	M2-99-1-999-453-39	132	カットマークのある骨			199.01	48.50			
	M2-99-1-999-453-40	132	カットマークのある骨			186.75	53.40			
	M2-99-1-999-453-41	132	カットマークのある骨			184.52	61.50			
	M2-99-1-999-453-42	132	カットマークのある骨			139.02	46.90			
	M2-99-1-999-453-43	132	カットマークのある骨			118.89	33.70			
	M2-99-1-999-453-44	132	カットマークのある骨			155.12	13.10			
	M2-99-1-999-453-45	132	カットマークのある骨			126.55	27.10			
	M2-99-1-999-453-46	132	カットマークのある骨			127.02	11.50			
	M2-99-1-999-453-47	132	カットマークのある骨			103.52	21.40			
	M2-99-1-999-453-48	132	カットマークのある骨			108.05	15.60			
	M2-99-1-999-453-49	132	カットマークのある骨			117.92	5.50			
	M2-99-1-999-453-50	132	カットマークのある骨			111.49	4.50			
	M2-99-1-999-453-51	132	カットマークのある骨			96.55	5.50			
	M2-99-1-999-453-52	132	カットマークのある骨			76.14	3.80			
	M2-99-1-999-453-53	132	カットマークのある骨			70.03	11.60			
	M2-99-1-999-453-54	132	カットマークのある骨			62.02	14.80			
	M2-99-1-999-453-55	132	カットマークのある骨			42.69	2.50			
	M2-99-1-999-453-56	132	カットマークのある骨			50.83	1.80			
	M2-99-1-999-453-57	132	骨器未成品			71.98	6.20	棒状で断面は半円形。全体に研磨。上下端には面取りあり		
	M2-99-1-999-453-58	132	骨器未成品			59.25	1.80	鳥の管状骨を縦に半裁したものを素材としている。表面に線刻あり		

PLATE	ID	旧所蔵NO	器種1	器種2	部位(完形・未成品・欠損など)	最大長(mm)	重量(g)	備考	遺物ラベル番号	原典図版
	M2-99-1-999-453-59	132	骨器未成品		下端欠損	63.20	4.20	棒状で断面は半円形。全体に研磨。上端は両側面から削って山形をなす。銛頭や釣針軸の未成品か？		
	M2-99-1-999-453-60	132	骨器未成品		先端欠損	130.65	32.00	先端や側面に削り痕あり。骨錐の未成品か？		
	M2-99-1-999-453-61	132	骨器未成品			92.60	8.30	両側面ともに削り痕あり		
	M2-99-1-999-453-62	132	骨器未成品			145.31	11.40	側面からみると湾曲。一端の側面に抉りあり		
	M2-99-1-999-453-63	132	骨器未成品			123.81	16.80	側面に加工痕あり。一端に削り痕あり		
	M2-99-1-999-453-64	132	骨器未成品			118.29	29.10	両面より研磨し刃部作出(片刃)。骨篦や骨鏃の一部か？		
	M2-99-1-999-453-65	132	骨器未成品			124.07	14.50	縦に半裁した骨片を素材。一端は擦痕(横)、研磨により先端尖らせている		
	M2-99-1-999-453-66	132	骨器未成品			128.27	19.60	一端は両面より研磨し刃部？を作出。側面に削り痕あり		
	M2-99-1-999-453-67	132	骨器未成品			116.68	16.80	動物の肋骨の湾曲した部分を素材としている。全体によく研磨		
	M2-99-1-999-453-68	132	骨器未成品			117.67	7.10	縦長骨片を素材としている。裏面に擦痕あり		
	M2-99-1-999-453-69	132	骨器未成品			119.47	15.50	上端の両側面には縦方向に削り痕多数みられる。下端は被熱？して黒色に変色している		
	M2-99-1-999-453-70	132	骨器未成品			121.45	16.90	動物の肋骨の湾曲した部分を素材としている。断面三角形。裏面はよく研磨されている		
	M2-99-1-999-453-71	132	骨器未成品			110.54	7.80	先端は両側面より加工している。側面には大きな削り痕あり		
	M2-99-1-999-453-72	132	骨器未成品			98.06	10.60	形状は板状。両側面は研磨され平滑。表面には加工痕あり		
	M2-99-1-999-453-73	132	骨器未成品			103.72	8.70	先端は加工と研磨により尖っている。両側面に削り痕あり。側面からみるとやや湾曲。下端には切断痕あり		
	M2-99-1-999-453-74	132	骨器未成品			94.11	12.20	刃部は両面より研磨。体部中央の側面には抉りを入れ柄を作出。基部の端は研磨により器厚薄い。破損した骨角器の再利用か？		
	M2-99-1-999-453-75	132	骨器未成品			103.19	6.50	骨篦や骨鏃の破損品の一部と思われる。表面や側面は研磨され平ら		
	M2-99-1-999-453-76	132	骨器未成品			97.98	17.90	先端は研磨され尖鋭。下端には剝離痕あり		
	M2-99-1-999-453-77	132	骨器未成品			104.98	8.70	両端に面取りあり。カットマークあり		
	M2-99-1-999-453-78	132	骨器未成品			84.25	11.00	上下端ともに両面からの削り痕あり。カットマークや擦痕多数		
	M2-99-1-999-453-79	132	骨器未成品			93.88	13.40	動物の肋骨を素材としている。上端の表面、側面に剝離痕あり		
	M2-99-1-999-453-80	132	骨器未成品			92.46	15.60	削りと研磨により成形。形状から鉤先の未成品か？		
	M2-99-1-999-453-81	132	骨器未成品			92.53	13.10	両面より削って器面平らにしている		
	M2-99-1-999-453-82	132	骨器未成品			93.01	3.00	先端は細かな削りで成形した後研磨して尖らせている。体部にも擦痕残る。骨錐の未成品か？		
	M2-99-1-999-453-83	132	骨器未成品			97.13	6.20	板状の破片。一面は研磨され平ら。骨篦や骨鏃などの一部か？		
	M2-99-1-999-453-84	132	骨器未成品			86.83	10.90	棒状。両側面は削った後研磨して平らにしている		
	M2-99-1-999-453-85	132	骨器未成品		半分欠損	71.70	6.40	表面に縦長の削り痕あり。断面は半円形で棒状		
	M2-99-1-999-453-86	132	骨器未成品			65.60	4.10	一端は両側面より削って先端尖らせている。表面は削りにより平らにしている		
	M2-99-1-999-453-87	132	骨器未成品			92.46	8.00	両端ともに側面を切断して先端を山形に尖らせている。柳葉形		
	M2-99-1-999-453-88	132	骨器未成品		上端欠損	67.25	26.30	全面に削り痕、研磨痕みられる		
	M2-99-1-999-453-89	132	骨器未成品			65.78	5.30	銛頭の一部と思われる。前田A群？全面研磨されている。断面半円形。索溝一部残る		
	M2-99-1-999-453-90	132	骨器未成品			61.33	7.30	先端尖鋭。断面三角形。両側面に加工痕あり。骨鏃の未成品か？		
	M2-99-1-999-453-91	132	骨器未成品			51.60	2.90	側面に擦痕あり		
	M2-99-1-999-453-92	132	骨器未成品			187.34	52.50	先端研磨して尖らせている。側面に細かい削りあり		
	M2-99-1-999-453-93	132	骨器未成品		先端一部欠損	32.69	1.90	M2-99-1-999-453-94と接合。断面は半円形で棒状。端部の両側面を斜めに切断して細く山形にしている。両面は加工と研磨で成形		
	M2-99-1-999-453-94	132	骨器未成品			51.69	5.80	M2-99-1-999-453-93と接合		
	M2-99-1-999-453-95	132	骨器未成品			126.95	7.80	骨篦類を再加工したものと思われる。側面には破損後の研磨痕みられる		
	M2-99-1-999-453-96	132	骨器未成品			87.87	4.30	形状は柳葉形。一端は研磨により滑らか。加工途中か？		
	M2-99-1-999-453-97	132	骨器未成品		上下端欠損	54.85	4.30	動物骨を半裁したものを素材としている。両側面と裏面には擦痕残る		

表4　金属器属性表

PLATE	ID	旧所蔵NO	器種1	器種2	状態	最大長(mm)	最大幅(mm)	保存処理	備考	遺物ラベル番号	原典図版
	M9-99-99-999-53-1	46	その他の鉄製品	マレク	ほぼ完形	66	48	なし	自在銛。		
	M1-99-1-204-104-1	57	刀子？	？	破片	31	27	なし			
91	M1-99-1-114-108-1	57	刀子	刀子	破片	60	10	なし	柄に木部残る。柄部は27×1mm。小刀か？		
	M1-99-1-027-119-1	57	刀子	曲手刀子	破片	97	19	なし	茎頭が下方に湾曲		
	M1-99-1-019-123-1	57	鉄製品	不明	破片	54	28	なし	刀子破片か？		
	M1-99-1-019-123-1	57	鉄製品	不明	破片	36	23	なし	木部あり。柄部か？		
83	M1-99-1-035-128-1	57	刀子	曲手刀子	ほぼ完形	202	28	なし	切先尖鋭。茎頭が下方に湾曲。刀身には縦に木の繊維付着	「刀31」の小木札	大場1962 第5図31、第3表31 刀子
	M1-99-1-017-133-4	57	鉄製品	不明	破片	－	－	なし			
	M1-99-1-024/054-135-1	57	刀子	曲手刀子	ほぼ完形	117	23	なし	茎頭が下方に湾曲		
91	M1-99-1-024/054-135-2	57	刀子	曲手刀子	ほぼ完形	143	18	なし	茎頭が下方に湾曲。切先が上に反っている		
	M1-99-1-043-137-1	57	刀子	？	切先のみ	53	20	なし			
91	M1-99-1-158-160-1	58	刀子	曲手刀子	完形	92	13	なし	茎頭が下方に湾曲。柄部付近に布もしくは木のような有機物が酸化して付着		
	M1-99-1-081-164-1	58	鉄片	－	破片	39	16	なし			
78・79	M1-99-1-046-172-1	58	大刀	直刀	ほぼ完形	545	37	あり	刀身無反	「刀5」の小木札	大場1962 第1図5、第2表5 大刀
80	M1-99-1-046-173-1	58	大刀	直刀	ほぼ完形	500	45	なし	切先欠損。直径2mmの目釘孔あり	「刀13」の小木札	大場1962 第2図13、第2表13 大刀
90	M1-99-1-086-176-1	58	大刀	直刀	破片	542	29	なし	大場1962によると、最寄86の副葬品として他に青銅製垂飾用金具（第12図右上）が共伴している	「刀22」の小木札	大場1962 第2表22 直刀の可能性
	M1-99-1-125-182-1	58	刀子	曲手刀子	切先なし	69	29	なし	茎頭下方に湾曲		
	M1-99-1-003-188-1	58	その他の鉄製品	握りバサミ	半分欠損	64	17	なし	近現代のものと思われる		
	M1-99-1-116-203-1	58	刀子	？	破片	56	23	なし	刀身の一部と思われる		
	M1-99-1-116-203-1	58	刀子	？	破片	14	14	なし			
	M1-99-1-008-209-1	58	刀子	刀子	ほぼ完形	91	13	なし			
96	M2-2-1-105-221-1	58	刀子	曲手刀子	半分欠損	61	17	なし	茎頭下方に湾曲		名取・大場1964 Fig8-20
	M2-2-1-105-221-1	58	刀子	曲手刀子	半分欠損	24	10	なし			
83	M1-99-1-165-259-1	60	刀子	刀子	ほぼ完形	162	13	なし	切先一部欠損	「刀38」の小木札	大場1962 第5図38、第3表38 刀子
91	M1-99-1-074-262-1	60	刀子	刀子	破片	103	23	なし	柄部なし	「刀39」の小木札	大場1962 第3表39 刀子の可能性
91	M1-99-1-074-262-1	60	刀子	刀子	破片	45	12	なし			
91	M1-99-1-074-262-1	60	刀子	刀子	破片	43	11	なし			
90	M1-99-1-072-268-1	60	鉄製品	鞘金具	破片	72	28	なし			
90	M1-99-1-072-268-1	60	鉄製品	鞘金具	破片	39	27	なし			
91	M1-99-1-200-296-1	60	刀子	刀子	破片	168	19	なし		「刀29」の小木札	大場1962 第3表29 刀子の可能性
91	M1-99-1-200-296-1	60	刀子	刀子	破片	57	23	なし			
91	M1-99-1-200-296-1	60	刀子	刀子	破片	36	19	なし			
91	M1-99-1-200-296-1	60	刀子	刀子	破片	36	17	なし			
96	M2-2-1-101-310-1	60	鉄製品	不明	破片	46	24	なし	刀子の一部か？		名取・大場1964 Fig7-15 鉄鉾の可能性（図版では7-13となっているが7-15の間違い）
96	M2-2-1-102-312-1	60	刀子	？	破片	41	20	なし			名取・大場1964 文中に記載あり。伊藤1964 第1表
	M2-2-1-102-312-1	60	刀子	？	破片	41	13	なし			
	M2-2-1-102-312-1	60	刀子	？	破片	20	11	なし			
	M2-1-1-110-317-1	60	鉄片	－	破片	－	－	なし			
	M2-3-1-999-389-1	105	その他の鉄製品	ハサミ	ほぼ完形	88	55	なし	近現代の鉄製品と思われる		
98	M2-3-1-254-405-1	109	刀子	曲手刀子	一部欠損	52	12	なし			名取・大場1964 Fig8-25
	M2-3-1-255-417-1	109	鉄片	－	－	－	－	なし			
83	M1-99-1-999-464-1	551	刀子	曲手刀子	ほぼ完形	119	18	なし		「刀45」の小木札	大場1962 第5図45、第3表45 刀子
84	M1-99-1-999-465-1	551	マキリ形刀子	－	ほぼ完形	135	21	なし	茎部欠損。	「刀46」の小木札	大場1962 第6図46、第4表46 マキリ形刀子

PLATE	ID	旧所蔵NO	器種1	器種2	状態	最大長(mm)	最大幅(mm)	保存処理	備考	遺物ラベル番号	原典図版
84	M1-99-1-999-466-1	551	マキリ形刀子	−	ほぼ完形	127	18	なし	切先上向き、尖鋭。茎部18×7mm	「刀47」の小木札	大場1962 第6図47、第4表47 マキリ形刀子
84	M1-99-1-999-467-1	551	マキリ形刀子	−	ほぼ完形	138	22	なし	切先一部欠損	「刀48」の小木札	大場1962 第6図48、第4表48 マキリ形刀子
88	M1-99-1-036-468-1	551	鉄製鉈	−	ほぼ完形	205	60	なし	柄部に布？付着	「鉈様石器」の小木札	大場1962 第9図上 鉈様利器
83	M1-99-1-999-469-1	552	刀子	曲手刀子	ほぼ完形	178	23	なし		「刀30」の小木札	大場1962 第5図30、第3表30 刀子
83	M1-99-1-999-470-1	552	刀子	曲手刀子	ほぼ完形	180	22	なし		「刀32」の小木札	大場1962 第5図32、第3表32 刀子
91	M1-99-1-999-471-1	552	刀子	刀子	ほぼ完形	180	23	なし		「刀33」の小木札	大場1962 第3表33 刀子の可能性
91	M1-99-1-999-472-1	552	刀子	刀子	破片	105	28	なし		「刀34」の小木札	大場1962 第3表34 刀子の可能性
91	M1-99-1-999-472-1	552	刀子	刀子	破片	33	21	なし			
82	M1-99-1-999-474-1	553	刀子	曲手刀子	ほぼ完形	210	20	あり	柄部50×4mm	「刀26」の小木札	大場1962 第4図26、第3表26 刀子
91	M1-99-1-999-475-1	553	刀子	曲手刀子	ほぼ完形	268	40	なし		「刀27」の小木札	大場1962 第3表27 刀子の可能性
	M1-99-99-999-477-1	554	鉄片	−	破片	−	−	なし			
82	M1-99-1-999-478-1	554	刀子	曲手刀子	ほぼ完形	298	22	なし	茎頭やや下方に湾曲。柄部35×18mm	「刀23」の小木札	大場1962 第4図24、第3表24 刀子
82	M1-99-1-999-479-1	554	刀子	曲手刀子	ほぼ完形	295	22	なし	茎頭下方に湾曲。柄部52×11mm	「刀24」の小木札	大場1962 第4図23、第3表23 刀子
83	M1-99-1-189-480-1	555	刀子	刀子	ほぼ完形	103	14	なし	切先一部欠損	「刀40」の小木札	大場1962 第5図40、第3表40 刀子
88	M1-99-1-189-481-1	555	鉄製鉤形利器	−	ほぼ完形	88	21	なし	鉤部の幅は10mm	「鉤形石器」の小木札	大場1962 第9図右下 鉤形利器
	M1-99-1-189-482-1	555	鉄片	−	破片	15	11	なし			
91	M1-99-1-191-483-1	555	刀子	刀子	破片	91	17	なし		「刀41」の小木札	大場1962 第3表41 刀子の可能性
83	M1-99-1-999-484-1	555	刀子	刀子	ほぼ完形	290	20	あり		「刀42」の小木札	大場1962 第5図42、第3表42 刀子
84	M1-99-1-999-486-1	555	マキリ形刀子	−	ほぼ完形	145	17	あり		「刀34」の小木札	大場1962 第6図44、第4表44 マキリ形刀子
91	M1-99-1-999-487-1	556	刀子	曲手刀子	破片	166	18	なし	茎頭直角に曲がっている	「刀35」の小木札	大場1962 第3表35 刀子の可能性
91	M1-99-1-187-488-1	556	刀子	曲手刀子	破片	165	21	なし		「刀36」の小木札	大場1962 第3表36 刀子の可能性
	M1-99-1-187-489-1	556	鉄片	−	破片	−	−	なし	刀36の破片か？		
83	M1-99-99-194-490-1	556	刀子	曲手刀子	ほぼ完形	129	20	なし		「刀37」の小木札	大場1962 第5図37、第3表37 刀子
	M1-99-1-999-491-1	556	鉄片	−	破片	−	−	なし			
81	M1-99-1-999-492-1	557	大刀	直刀	破片	375	46	なし	刀身無反。茎部30×23mm	「刀18」の小木札	大場1962 第3図18、第2表18 大刀の可能性
90	M1-99-99-999-493-1	558	大刀？	直刀？		223	47	なし			
90	M1-99-99-999-493-1	558	大刀？	直刀？	破片	100	23	なし			
90	M1-99-99-999-493-1	558	大刀？	直刀？	破片	73	16	なし			
90	M1-99-99-999-493-1	558	大刀？	直刀？	破片	47	25	なし			
90	M1-99-99-999-493-1	558	大刀？	直刀？	破片	31	18	なし			
80	M1-99-1-999-494-1	559	大刀	直刀	ほぼ完形	435	47	なし	切先一部欠損	「刀9」の小木札	大場1962 第2図9、第2表9 大刀
81	M1-99-1-999-495-1	560	大刀	曲手刀	完形	317	19	あり	細身の刀。刀身無反。茎頭下方に湾曲。柄部92×12mm	「刀12」の小木札	大場1962 第3図12、第2表12 大刀
81	M1-99-1-999-496-1	561	大刀	曲手刀	破片	282	30	なし	茎頭が下方に湾曲	「刀11」の小木札	大場1962 第3図11、第2表11 大刀
	M1-99-1-999-497-1	562	鉄製品	不明	破片	121	18	なし	M1-99-1-999-498-1の一部と思われる	「刀15」の小木札	大場1962 第2表15 大刀の可能性
	M1-99-1-999-497-1	562	鉄製品	不明	破片	76	23	なし			
	M1-99-1-999-497-1	562	鉄製品	不明	破片	63	21	なし			
	M1-99-1-999-497-1	562	鉄製品	不明	破片	59	21	なし			
	M1-99-1-999-497-1	562	鉄製品	不明	破片	51	18	なし			
	M1-99-1-999-497-1	562	鉄製品	不明	破片	47	19	なし			
	M1-99-1-999-497-1	562	鉄製品	不明	破片	40	16	なし			
	M1-99-1-999-497-1	562	鉄製品	不明	破片	21	18	なし			
89	M1-99-1-999-498-1	562	大刀	直刀？	破片	228	44	なし	M1-99-1-999-497-1と同一個体か？鞘あり	「刀15」の小木札	大場1962 第2表15 大刀の可能性
89	M1-99-1-999-498-1	562	大刀	直刀？	破片	122	45	なし			

PLATE	ID	旧所蔵NO	器種1	器種2	状態	最大長(mm)	最大幅(mm)	保存処理	備考	遺物ラベル番号	原典図版
89	M1-99-1-999-498-1	562	大刀	直刀？	破片	60	38	なし			
89	M1-99-1-999-498-1	562	大刀	直刀？	破片	51	27	なし			
89	M1-99-1-999-498-1	562	大刀	直刀？	破片	49	37	なし			
89	M1-99-1-999-498-1	562	大刀	直刀？	破片	38	30	なし			
89	M1-99-1-999-498-1	562	大刀	直刀？	破片	33	21	なし			
89	M1-99-99-999-499-1	563	大刀	直刀		428	25	あり	細身。刀身が2つに折り曲げられている		
78・79	M1-99-1-999-500-1	563	大刀	直刀	ほぼ完形	562	43	なし		「刀3」の小木札	大場1962 第1図3、第2表3 大刀
	M1-99-99-999-501-1	563	鉄片	－	破片	55	8	なし			
80	M1-99-1-999-502-1	564	大刀	直刀	破片	425	35	なし		「刀8」の小木札	大場1962 第2図8、第2表8 大刀
	M1-99-99-999-503-1	564	刀子	刀子？	破片	71	32	なし	切先と思われる		
	M1-99-99-999-503-1	564	刀子	刀子？	破片	66	39	なし	茎部か？		
	M1-99-99-999-504-1	564	鉄製品	鞘金具	破片	30	29	なし	刀8の一部か？		
89	M1-99-1-999-505-1	565	大刀？	直刀	破片	162	39	なし		「刀21」の小木札	大場1962 第2表21 大刀の可能性
89	M1-99-1-999-505-1	565	大刀？	直刀	破片	96	32	なし			
89	M1-99-1-999-505-1	565	大刀？	直刀	破片	87	30	なし			
89	M1-99-1-999-505-1	565	大刀？	直刀	破片	82	29	なし			
89	M1-99-1-999-506-1	566	大刀	直刀	破片	395	25	なし	2つに折り曲げられている。細身	「刀10」の小木札	大場1962 第2表10 大刀の可能性
84	M1-99-99-999-507-1	566	マキリ形刀子	－	破片	214	30	なし	切先欠損。茎部18×11mm		
81	M1-99-1-004-508-1	567	大刀	曲手刀	ほぼ完形	397	38	なし	茎頭一部欠損	「刀16」の小木札	大場1962 第3図16、第2表16 大刀
90	M1-99-1-999-509-1	568	大刀	曲手刀	破片	256	35	なし	切先欠損。茎頭が下方に湾曲	「刀14」の小木札	大場1962 第2表14 大刀の可能性
90	M1-99-1-999-509-1	568	大刀	曲手刀	破片	130	35	なし	刀14の刀身か？		
91	M1-99-1-999-510-1	569	刀子	刀子	破片	305	47	なし	刀身はやや反る	「刀20」の小木札	大場1962 第3表20 刀子の可能性
91	M1-99-1-999-510-1	569	刀子	刀子	破片	145	39	なし	4mm幅の紐状の繊維痕あり		
78・79	M1-99-1-999-511-1	570	大刀	直刀	ほぼ完形	375	33	なし	刀身と茎部の区別不明瞭	「刀4」の小木札	大場1962 第1図4、第2表4 大刀
78・79	M1-99-1-999-512-1	571	大刀	直刀	破片	554	43	なし	茎部一部欠損	「刀2」の小木札	大場1962 第1図2、第2表2 大刀
	M1-99-1-999-512-2	571	刀子	刀子	破片	249	35	なし	刀身無反		
	M1-99-1-999-512-2	571	刀子	刀子	破片	226	29	なし			
81	M1-99-1-999-513-1	572	大刀	曲手刀	ほぼ完形	343	35	あり	茎頭側方に湾曲	「刀17」の小木札	大場1962 第3図17、第2表17 大刀
91	M1-99-1-999-514-1	573	刀子	刀子	破片	280	32	なし	切先欠損	「刀19」の小木札	大場1962 第3表19 刀子の可能性
87	M1-99-1-999-517-1	574	鉄製斧	袋柄	ほぼ完形	143	65	なし		「斧2」の小木札	大場1962 第8図2、第6表2 鉄斧
87	M1-99-1-999-518-1	574	鉄製斧	袋柄	ほぼ完形	143	57	なし		「斧3」の小木札	大場1962 第8図3、第6表3 鉄斧
87	M1-99-1-999-519-1	574	鉄製斧	袋柄	ほぼ完形	146	55	なし		「斧4」の小木札	大場1962 第8図4、第6表4 鉄斧
	M1-99-99-999-520-1	574	鉄製品	不明	破片	101	43	なし			
	M1-99-99-999-520-1	574	鉄製品	不明	破片	71	47	なし			
	M1-99-99-999-520-1	574	鉄製品	不明	破片	26	18	なし			
	M1-99-99-999-520-2	574	鉄製品	不明	破片	81	49	なし			
90	M1-99-99-999-521-1	576	大刀	直刀	完形	537	34	あり	刀身が反る。径6mmの目釘孔あり。	「出土地不明」の小木札	
	M1-99-99-999-522-1	577	刀子	刀子	半分欠損	104	26	なし	刀身から柄部と思われる。一部に布もしくは木のような繊維付着		
85・86	M1-99-99-999-523-1	578	鉄製鉾	－	完形	554	34	なし	柄元から下の空洞になっている袋の部分は125×31mm	「鉾2」の小木札	大場1962 第7図2、第5表2 鉾
85・86	M1-99-99-999-524-1	578	鉄製鉾	－	破片	493	47	なし	関(まち)から袋にかけては201×22mm	「鉾3」の小木札	大場1962 第7図3、第5表3 鉾
85・86	M1-99-99-999-525-1	579	鉄製鉾	－	完形	600	45	なし	柄元から下の空洞になっている袋の部分は160×40mm	「鉾1」の小木札	大場1962 第7図1、第5表1 鉾
86	M1-99-99-999-526-1	579	鉄製鉾	－	身	240	44	なし	鉾1と一緒に入っていたが別個体		
86	M1-99-99-999-526-1	579	鉄製鉾	－	身	63	19	なし			
86	M1-99-99-999-526-1	579	鉄製鉾	－	身	21	14	なし			
85・86	M1-99-99-999-527-1	580	鉄製鉾	－		250	25	あり	他の鉾よりも小形。袋87×30mm	「鉾4」の小木札	大場1962 第7図4、第5表4 鉾

PLATE	ID	旧所蔵NO	器種1	器種2	状態	最大長(mm)	最大幅(mm)	保存処理	備考	遺物ラベル番号	原典図版
	M1-99-99-999-528-1	580	鉄製品	不明	破片	37	25	なし	実測図とは一致せず	「鉾5」の小木札	大場1962 第7図5、第5表5 鉾の可能性
86	M1-99-99-999-529-1	580	鉄製鉾	−		283	28	あり	関(198×17mm)と袋(83×28mm)に分けられる	「鉾6」の小木札	大場1962 第5表6 鉾の可能性
86	M1-99-99-999-529-1	580	鉄製鉾？	−	身？	61	23		身と思われるが大場1962第5表6の内容とは一致せず		
86	M1-99-99-999-530-1	580	鉄製鉾	−		115	15	あり	関(まち)の一部分の可能性あり	「鉾7」の小木札	大場1962 第5表7 鉾の可能性
	M1-99-99-999-530-2	580	鉄製鉾	−	破片	255	22	あり	関(まち)から袋にかけてと推測するが、断面は空洞とは言えない	「鉾7」の小木札	大場1962 第5表7 鉾の可能性
	M1-99-99-999-530-2	580	鉄製鉾	−	破片	58	21	あり			
	M1-99-99-999-531-1	580	鉄片	−	破片	48	15	なし			
	M1-99-99-999-531-1	580	鉄片	−	破片	42	19	なし			
	M1-99-99-999-531-1	580	鉄片	−	破片	40	14	なし			
	M1-99-99-999-531-1	580	鉄片	−	破片	35	19	なし			
	M1-99-99-999-531-1	580	鉄片	−	破片	25	13	なし			
	M1-99-1-177-532-1	581	刀子	刀子	一部欠損	154	29	なし	形状からマキリ形刀子の可能性あり		
	M1-99-1-166-533-1	582	鉄片	−	破片	43	17	なし			
	M1-99-1-166-533-1	582	鉄片	−	破片	33	12	なし			
	M1-99-1-166-533-1	582	鉄片	−	破片	31	12	なし			
	M1-99-1-166-533-1	582	鉄片	−	破片	31	11	なし			
90	M1-99-1-195-534-1	583	大刀？	直刀？	切先のみ	115	37	なし			
91	M1-99-1-139-535-1	584	刀子	刀子	ほぼ完形	103	18	なし	刀身と茎部の区別不明瞭		
88	M1-99-1-999-536-1	585	鉄鍋	−	破片	115	77	なし	1個体分。内耳・縦耳あり、他破片26点あり。同一個体と思われる	「鍋1」の小木札	大場1962 第10図1上段(内耳部分) 鉄鍋
88	M1-99-1-999-536-1	585	鉄鍋	−	破片	302	215	なし	底部(脚部2本あり・長さ49mm)		大場1962 第10図1下段 鉄鍋

表5 礫属性表

PLATE	ID	旧所蔵NO	器種	石材	最大長(mm)	重量(g)	備考
92	M1-99-1-999-459-34	550	愛玩石	-	-	3,059.8	147点(瑪瑙 67点、チャート 53点、頁岩 16点、有孔礫 5点、棒状礫 4点、安山岩 1点、円礫〔材質:珪化木〕1点) 大場(1957) 第五章 愛岩石
	M2-2-1-999-27-5	45	礫	安山岩	601.1	109.2	
	M2-2-1-999-27-6	45	礫	安山岩	592.8	70.0	
	M1-99-1-012-148-20	57	礫	安山岩	51.3	51.1	
	M1-99-1-012-148-21	57	礫	安山岩	64.6	35.4	
	M1-99-1-012-148-29	57	礫	安山岩	30.1	12.3	
	M1-99-1-012-148-32	57	礫	安山岩	30.1	8.9	
	M1-99-1-012-148-39	57	礫	安山岩	22.9	5.8	
	M1-99-1-012-148-40	57	礫	安山岩	24.2	4.7	
	M1-99-1-012-148-41	57	礫	安山岩	20.9	2.9	
	M1-99-1-012-148-48	57	礫	安山岩	16.4	2.2	
	M1-99-1-012-148-50	57	礫	安山岩	25.3	2.6	
	M1-99-1-012-148-52	57	礫	安山岩	22.5	1.3	
	M1-99-1-012-148-54	57	礫	安山岩	17.3	2.0	
	M1-99-1-012-148-55	57	礫	安山岩	17.7	2.6	
	M1-99-1-012-148-59	57	礫	安山岩	19.2	1.4	
	M1-99-1-012-148-60	57	礫	安山岩	17.2	1.1	
	M1-99-1-012-148-64	57	礫	安山岩	16.9	1.2	
	M1-99-1-012-148-65	57	礫	安山岩	16.4	1.0	
	M1-99-1-012-148-66	57	礫	安山岩	12.6	0.8	
	M1-99-1-012-148-68	57	礫	安山岩	12.3	0.5	
	M1-99-1-012-148-69	57	礫	安山岩	18.0	1.2	
	M1-99-1-012-148-70	57	礫	安山岩	13.7	0.8	
	M1-99-1-012-148-71	57	礫	安山岩	10.9	0.6	
	M1-99-1-012-148-72	57	礫	安山岩	11.9	0.7	
	M1-99-1-012-148-74	57	礫	安山岩	12.6	0.7	
	M1-99-1-012-148-75	57	礫	安山岩	9.8	0.3	
	M1-99-1-999-150-3	57	礫	安山岩	37.2	8.1	
	M1-99-1-999-150-5	57	礫	安山岩	18.0	3.4	
	M1-99-1-039-177-2	58	礫	安山岩	40.6	7.6	
	M2-99-99-999-242-37	59	礫	安山岩	51.3	14.8	
	M2-6-1-224-300-5	60	礫	安山岩	12.5	0.5	

PLATE	ID	旧所蔵NO	器種	石材	最大長（mm）	重量（g）	備考
	M2-1-1-090-305-9	60	礫	安山岩	15.3	1.1	
	M2-5-1-248-325-22	61	礫	安山岩	105.2	85.4	板状礫
	M2-99-1-999-420-132	110	礫	安山岩	32.8	1.6	
	M2-99-99-999-242-53	59	軽石	軽石	87.4	38.5	
	M2-99-99-999-242-54	59	軽石	軽石	58.8	14.8	
	M2-99-99-999-242-55	59	軽石	軽石	56.1	16.0	
	M2-99-99-999-242-56	59	軽石	軽石	48.0	7.7	
	M9-99-1-250-320-2	60	軽石	軽石	28.9	1.4	
	M2-99-99-248-330-58	63	軽石	軽石	40.5	9.3	
	M2-5-1-248-333-221	63	軽石	軽石	39.1	3.3	
	M1-99-1-012-148-58	57	礫	珪岩	18.0	1.8	
	M2-5-1-248-325-14	61	礫	頁岩	72.0	180.8	
	M2-5-1-248-325-15	61	礫	頁岩	51.8	134.3	
	M2-4-1-999-365-6	100	礫	頁岩	36.5	14.1	
	M2-4-1-999-365-7	100	礫	頁岩	40.1	26.8	
	M2-4-1-999-366-5	100	礫	頁岩	47.6	17.7	
	M2-4-1-999-384-4	104	礫	頁岩	71.5	52.6	
	M2-4-1-999-385-1	104	礫	頁岩	93.6	78.4	
	M1-99-1-012-148-24	57	礫	砂岩	62.0	16.1	
	M1-99-1-012-148-25	57	礫	砂岩	26.2	11.6	
	M1-99-1-012-148-47	57	礫	砂岩	18.3	2.1	
	M1-99-1-012-148-49	57	礫	砂岩	16.6	1.8	
	M1-99-1-012-148-53	57	礫	砂岩	16.3	0.9	
	M1-99-1-012-148-61	57	礫	砂岩	22.7	1.0	
	M1-99-1-012-148-62	57	礫	砂岩	17.9	1.0	
	M1-99-1-012-148-67	57	礫	砂岩	13.8	1.0	
	M1-99-1-012-148-73	57	礫	砂岩	11.4	0.4	
	M1-99-1-012-148-76	57	礫	砂岩	10.1	0.3	
	M1-99-1-012-148-77	57	礫	砂岩	9.3	0.1	
	M1-99-1-012-148-78	57	礫	砂岩	7.9	0.3	
	M1-99-1-999-150-2	57	礫	砂岩	63.7	33.9	
	M1-99-1-218～222-152-9	57	礫	砂岩	61.2	13.9	
	M1-99-1-037-195-1	58	礫	砂岩	49.5	11.5	
	M1-99-1-058-199-7	58	礫	砂岩	52.7	18.5	

PLATE	ID	旧所蔵NO	器種	石材	最大長（mm）	重量（g）	備考
	M1-99-1-051-212-6	58	礫	砂岩	25.4	5.4	熱破砕礫
	M2-99-99-999-242-38	59	礫	砂岩	51.9	14.8	
	M2-5-1-248-331-81	63	礫	砂岩	100.2	96.5	棒状礫
	M2-5-1-248-333-218	63	礫	砂岩	47.7	9.3	
	M2-5-1-248-333-219	63	礫	砂岩	39.9	5.8	
	M2-99-99-999-242-52	59	礫	シルト	7.0	0.0以下	
	M2-5-1-248-325-19	61	礫	石灰岩	70.2	84.9	
	M2-5-1-248-325-20	61	礫	石灰岩	59.0	68.0	
	M2-4-1-999-365-5	100	礫	石灰岩	34.3	16.9	
	M2-4-1-999-366-18	100	礫	玉髄	10.3	0.4	
	M2-4-1-999-374-28	102	礫	玉髄	15.3	0.8	
	M2-3-1-999-395-34	107	礫	玉髄？	22.6	6.1	
	M1-99-1-035-127-20	57	礫	チャート	16.1	1.9	
	M1-99-1-043-136-6	57	礫	チャート	24.8	7.1	
	M1-99-1-046-170-9	58	礫	チャート	28.1	12.7	
	M1-99-1-051-212-5	58	礫	チャート	33.1	15.2	熱破砕礫
	M2-2-1-105-217-3	58	礫	チャート	9.3	0.5	
	M2-99-99-999-242-35	59	礫	チャート	69.9	19.6	
	M2-5-1-248-325-10	61	礫	チャート	62.1	54.8	
	M2-5-1-248-325-12	61	礫	チャート	32.9	18.4	
	M2-4-1-999-366-6	100	礫	チャート	46.1	32.1	
	M2-4-1-999-366-9	100	礫	チャート	31.5	12.1	
	M2-4-1-999-366-10	100	礫	チャート	27.5	6.2	
	M2-4-1-999-366-12	100	礫	チャート	22.1	4.4	
	M2-4-1-999-366-14	100	礫	チャート	20.7	4.2	
	M2-4-1-999-366-16	100	礫	チャート	14.5	1.6	
	M2-4-1-999-366-19	100	礫	チャート	10.2	0.6	
	M2-4-1-999-366-20	100	礫	チャート	9.7	0.5	
	M2-4-1-999-374-25	102	礫	チャート	28.8	6.2	
	M2-4-1-999-374-27	102	礫	チャート	13.7	1.0	
	M2-4-1-999-384-3	104	礫	チャート	48.5	25.3	熱破砕礫
	M2-3-1-999-395-35	107	礫	チャート	20.0	3.4	
	M2-2-1-999-406-9	109	礫	チャート	14.0	1.6	
	M2-99-1-999-420-131	110	礫	チャート	24.3	5.8	

PLATE	ID	旧所蔵NO	器種	石材	最大長（mm）	重量（g）	備考
	M2-99-1-999-420-133	110	礫	チャート	12.2	0.8	
	M2-4-1-999-366-7	100	礫	チャート（瑪瑙質）	44.6	18.9	
	M2-5-1-248-333-217	63	礫	チャート？	43.2	30.8	
	M1-99-1-012-148-16	57	礫	泥岩	70.8	32.6	
	M1-99-1-012-148-17	57	礫	泥岩	65.3	49.7	
	M1-99-1-012-148-18	57	礫	泥岩	63.0	21.0	
	M1-99-1-012-148-22	57	礫	泥岩	49.7	18.1	
	M1-99-1-012-148-23	57	礫	泥岩	46.0	32.0	
	M1-99-1-012-148-26	57	礫	泥岩	57.0	8.8	
	M1-99-1-012-148-27	57	礫	泥岩	42.4	6.9	
	M1-99-1-012-148-28	57	礫	泥岩	36.3	10.4	
	M1-99-1-012-148-30	57	礫	泥岩	29.6	5.3	
	M1-99-1-012-148-37	57	礫	泥岩	33.4	1.9	
	M1-99-1-012-148-45	57	礫	泥岩	24.4	1.9	
	M1-99-1-012-148-46	57	礫	泥岩	23.3	0.9	
	M1-99-1-012-148-51	57	礫	泥岩	21.5	1.7	
	M1-99-1-999-151-2	57	礫	泥岩	18.6	1.6	
	M1-99-1-058-199-8	58	礫	泥岩	38.0	7.3	
	M1-99-1-223-204-17	58	礫	泥岩	37.8	9.2	
	M1-99-1-223-204-18	58	礫	泥岩	27.1	0.8	
	M2-1-1-094-236-11	58	礫	泥岩	17.7	1.1	
	M2-99-99-999-242-27	59	礫	泥岩	91.4	38.5	
	M2-99-99-999-242-28	59	礫	泥岩	57.4	43.5	
	M2-99-99-999-242-29	59	礫	泥岩	61.0	33.0	
	M2-99-99-999-242-30	59	礫	泥岩	56.9	42.7	
	M2-99-99-999-242-31	59	礫	泥岩	56.0	28.0	
	M2-99-99-999-242-32	59	礫	泥岩	50.1	27.6	
	M2-99-99-999-242-33	59	礫	泥岩	48.0	25.0	
	M2-99-99-999-242-34	59	礫	泥岩	48.8	15.1	
	M2-99-99-999-242-36	59	礫	泥岩	45.9	14.1	
	M2-99-99-999-242-39	59	礫	泥岩	43.6	13.8	
	M2-99-99-999-242-41	59	礫	泥岩	47.4	7.3	
	M2-99-99-999-242-42	59	礫	泥岩	40.6	7.3	
	M2-99-99-999-242-44	59	礫	泥岩	42.0	11.0	

PLATE	ID	旧所蔵NO	器種	石材	最大長（mm）	重量（g）	備考
	M2-99-99-999-242-45	59	礫	泥岩	31.0	8.1	
	M2-99-99-999-242-46	59	礫	泥岩	38.2	6.0	
	M2-99-99-999-242-47	59	礫	泥岩	37.4	4.7	
	M2-99-99-999-242-48	59	礫	泥岩	42.4	3.0	
	M2-99-99-999-242-49	59	礫	泥岩	16.0	0.1	
	M2-99-99-999-242-50	59	礫	泥岩	18.1	0.2	
	M2-99-99-999-242-51	59	礫	泥岩	21.7	0.1	
	M1-99-1-053-257-3	60	礫	泥岩	37.4	6.8	
	M1-99-1-074-261-3	60	礫	泥岩	18.3	1.0	
	M2-5-1-248-325-16	61	礫	泥岩	92.7	32.9	棒状礫
	M2-5-1-248-325-17	61	礫	泥岩	93.2	20.4	棒状礫
	M2-5-1-248-325-18	61	礫	泥岩	54.6	8.1	棒状礫
	M2-5-1-248-333-214	63	礫	泥岩	127.2	50.9	
	M2-5-1-248-333-215	63	礫	泥岩	95.9	45.0	
	M2-5-1-248-333-216	63	礫	泥岩	70.3	13.8	
	M2-4-1-999-365-4	100	礫	泥岩	47.3	11.6	
	M2-4-1-999-366-15	100	礫	泥岩	26.5	1.3	
	M2-4-1-999-374-24	102	礫	泥岩	42.2	4.8	
	M1-99-1-176-454-15	547	礫	泥岩	51.1	34.1	
	M1-99-1-176-454-16	547	礫	泥岩	36.0	5.4	
	M2-99-1-999-420-129	110	礫	泥岩	56.3	7.1	
	M2-99-1-999-420-130	110	礫	泥岩	42.0	3.2	
	M2-3-1-999-28-15	59	礫	不明	593.4	55.1	
	M1-99-1-025-115-8	57	礫	不明	18.4	2.2	
	M2-99-99-999-242-43	59	礫	不明	41.4	17.5	
	M2-4-1-999-366-17	100	礫	不明	14.0	1.7	
	M2-4-1-999-384-5	104	礫	不明	47.5	27.3	
	M2-5-1-248-333-220	63	礫	不明（火成岩）	41.8	7.2	
	M2-3-1-999-28-16	59	礫	瑪瑙	609.5	67.6	
	M1-99-1-046-170-8	58	礫	瑪瑙	41.6	23.9	
	M1-99-1-053-257-2	60	礫	瑪瑙	32.8	17.5	
	M2-5-1-248-325-11	61	礫	瑪瑙	37.0	28.8	
	M2-5-1-248-325-13	61	礫	瑪瑙	32.2	11.7	
	M2-4-1-999-366-8	100	礫	瑪瑙	35.9	15.4	

PLATE	ID	旧所蔵NO	器種	石材	最大長（mm）	重量（g）	備考
	M2-4-1-999-366-11	100	礫	瑪瑙	25.7	7.9	
	M2-4-1-999-366-13	100	礫	瑪瑙	17.9	5.1	
	M2-4-1-999-374-23	102	礫	瑪瑙	38.6	9.2	
	M2-4-1-999-374-26	102	礫	瑪瑙	22.3	3.4	
	M2-4-1-999-386-8	104	礫	瑪瑙	81.4	299.7	
	M1-99-1-012-148-19	57	礫	礫岩	67.1	80.4	
	M1-99-1-012-148-31	57	礫	礫岩	31.0	10.1	
	M1-99-1-012-148-33	57	礫	礫岩	30.3	6.2	
	M1-99-1-012-148-34	57	礫	礫岩	34.6	4.8	
	M1-99-1-012-148-35	57	礫	礫岩	27.3	6.2	
	M1-99-1-012-148-36	57	礫	礫岩	30.3	4.0	
	M1-99-1-012-148-38	57	礫	礫岩	30.6	2.8	
	M1-99-1-012-148-43	57	礫	礫岩	22.9	2.9	
	M1-99-1-012-148-44	57	礫	礫岩	20.9	2.6	
	M1-99-1-012-148-56	57	礫	礫岩	19.6	1.5	
	M1-99-1-012-148-57	57	礫	礫岩	18.6	1.5	
	M1-99-1-012-148-63	57	礫	礫岩	15.0	1.2	
	M1-99-1-999-150-4	57	礫	礫岩	43.6	7.4	
	M1-99-1-223-204-16	58	礫	礫岩	43.6	7.8	
	M1-99-1-176-454-14	547	礫	礫岩	71.0	122.1	

表6　動物遺存体属性表

ID	旧所蔵NO	大分類	小分類（科など）	部位	備考
M2-2-1-999-31-1	45	陸獣類	イヌ	頭骨1、下顎骨R1・L1、歯14	
M2-99-99-999-32-3	45	類不明獣	−	不明5	
M2-99-99-999-32-4	45	魚類	カサゴ類	不明68	
M2-99-99-999-32-5	45	貝類	タマキビ	307	
M2-99-99-999-32-6	45	貝類	シジミ	267	
M2-99-99-999-32-7	45	貝類	マガキ	147	
M2-99-99-999-32-8	45	貝類	エゾチヂミボラ	18	
M2-99-99-999-32-9	45	貝類	チヂミボラ	2	
M2-99-99-999-32-10	45	貝類	アヤボラ	1	
M2-99-99-999-32-11	45	貝類	二枚貝	不明2	
M2-99-99-999-32-12	45	貝類	−	破片1	
M1-99-1-999-60-1	47	類不明獣	−	椎骨片1	
M1-99-1-999-60-2	47	貝類	−	破片1	
M1-99-99-999-89-1	54	貝類	マガキ	2	
M1-99-99-999-90-2	54	陸獣類	シカ	頭骨片1	
M1-99-99-999-90-3	54	陸獣類	イヌ	下顎骨R1・L1	
M1-99-99-999-90-4	54	陸獣類	クマ（幼）	歯M3：R1・L1	
M1-99-99-999-90-5	54	陸獣類	クマ（若）	側頭骨～上顎骨R2・L2、下顎骨R2・L2、歯（上顎M1：L1、上顎M2：R1・L1、上顎M3：R3・L1、上顎C：R2・L2、下顎M1：R1、部位不明24）	
M1-99-99-999-90-6	54	陸獣類	−	頭骨片19、下顎骨片4、歯3	
M1-99-99-999-91-1	54	陸獣類	シカ	環椎1	
M1-99-99-999-91-2	54	陸獣類	イヌ（幼）	下顎骨R1・L1、頭骨1、上顎骨R1・L1、軸椎2	
M1-99-99-999-91-3	54	陸獣類	イヌ（若）	頭骨1、耳骨包R1、上顎片L1、頸椎1、軸椎1	
M1-99-99-999-91-4	54	陸獣類	イヌ	前頭骨R1・L1、歯9	
M1-99-99-999-91-5	54	類不明獣	−	頭骨片12	
M1-99-1-999-92-8	55	海獣類	−	尺骨1、不明1	尺骨には「K1191」のラベルあり
M1-99-1-999-92-9	55	貝類	巻貝	1	
M1-99-1-999-96-19	56	貝類	−	不明1	
M1-99-1-241-100-1	57	陸獣類	イヌ	頬骨側頭突起L1、側頭骨頬骨突起L1	
M1-99-1-241-100-2	57	海獣類	−	脛骨1、腓骨？1、距骨1、肋骨5、椎骨1、不明6	
M1-99-1-241-100-3	57	鳥類	−	不明2	
M1-99-1-085-101-2	57	海獣類	アザラシ科	頸椎1、胸椎1、顴骨R1、距骨R1、踵骨R1、中足骨2	
M1-99-1-085-101-3	57	海獣類	−	肋骨2	
M1-99-1-234-102-1	57	陸獣類	イヌ	頸椎1、胸椎1、肋骨10	
M1-99-1-234-102-2	57	海獣類	−	肋骨10、中手骨4、寛骨（遠位端）R1、椎骨2、不明1	
M1-99-1-184-103-2	57	海獣類	オットセイ（若）	距骨L1	

ID	旧所蔵NO	大分類	小分類（科など）	部位	備考
M1-99-1-184-103-3	57	海獣類	-	中足骨1、肋骨1、椎体骨端1	
M1-99-1-184-103-4	57	類不明獣	-	不明2	
M1-99-1-184-103-5	57	鳥類	-	不明4	
M1-99-1-184-103-6	57	魚類	-	不明2	
M1-99-1-204-104-2	57	鳥類	-	不明1	
M1-99-1-204-104-3	57	貝類	-	不明2	
M1-99-1-204-105-1	57	類不明獣	-	不明1	
M1-99-1-047-106-1	57	海獣類	アシカ科	下顎骨片L1	
M1-99-1-010-107-1	57	海獣類	-	椎体1、肋骨1、距骨R1、不明2	
M1-99-1-010-107-2	57	鳥類	-	不明3	
M1-99-1-114-108-2	57	海獣類	アシカ科	脛骨（中間）L1	
M1-99-1-114-108-3	57	貝類	-	破片1	
M1-99-1-152-109-1	57	陸獣類	イヌ	橈骨L1、指趾骨1	
M1-99-1-152-109-2	57	陸獣類	クマ	中手骨1、中足骨R1・L1	
M1-99-1-152-109-3	57	陸獣類	カラフトブタ	手骨1	
M1-99-1-152-109-4	57	海獣類	オットセイ♂	寛骨1	
M1-99-1-152-109-5	57	海獣類	-	椎骨5、手根骨1、中手骨1、中足骨2、距骨2、肋骨1、不明4	
M1-99-1-152-109-6	57	鳥類	-	不明4	
M1-99-1-063-110-1	57	陸獣類	イヌ	後頭顆R1	
M1-99-1-063-110-2	57	海獣類	-	脛骨1	
M1-99-1-063-110-3	57	類不明獣	-	肋骨？1、胸椎1	
M1-99-1-145-111-1	57	海獣類	-	指骨1	
M1-99-1-009-112-1	57	陸獣類	イヌ	椎骨4、踵骨1	
M1-99-1-009-112-2	57	陸獣類	-	上腕骨1、脛骨1	
M1-99-1-009-112-3	57	海獣類	アシカ科	胸骨1、肋骨1、指骨2、中足骨1	
M1-99-1-009-112-4	57	鳥類	-	不明1	
M1-99-1-009-112-5	57	魚類	-	不明1	
M1-99-1-009-112-6	57	貝類	-	不明1	
M1-99-1-009-113-1	57	魚類	-	不明1	
M1-99-1-023-114-2	57	陸獣類	クマ	歯M1：R1	
M1-99-1-023-114-3	57	海獣類	-	中手骨1、中足骨1、指骨1	
M1-99-1-023-114-4	57	鳥類	-	不明2	
M1-99-1-023-114-5	57	貝類	-	不明1	
M1-99-1-025-115-3	57	陸獣類	イヌ	歯L1	
M1-99-1-025-115-4	57	海獣類	-	前頭骨1、鼓室骨1、肋骨3、指趾骨2	
M1-99-1-025-115-5	57	類不明獣	-	不明1	
M1-99-1-025-115-6	57	鳥類	-	不明2	

ID	旧所蔵NO	大分類	小分類（科など）	部位	備考
M1-99-1-025-115-7	57	魚類	-	前上顎骨1、尾骨1	
M1-99-1-120-117-2	57	陸獣類	イヌ	頭骨1	
M1-99-1-120-117-3	57	類不明獣	-	不明2	
M1-99-1-120-117-4	57	鳥類	-	不明2	
M1-99-1-027-118-1	57	類不明獣	-	椎骨1	
M1-99-1-027-118-2	57	魚類	-	尾骨1	
M1-99-1-027-120-1	57	貝類	-	破片1	
M1-99-1-235-121-1	57	海獣類	オットセイ？	下顎骨R1	
M1-99-1-235-121-2	57	海獣類	-	椎体1、椎骨片1	
M1-99-1-019-122-1	57	海獣類	アシカ科	脛骨1、指骨1、肋骨2	
M1-99-1-019-122-2	57	海獣類	海獣（若）	大腿骨骨端1	
M1-99-1-019-122-3	57	海獣類	-	肩甲骨1	
M1-99-1-019-122-4	57	類不明獣	-	前頭骨片1	
M1-99-1-019-122-5	57	魚類	-	不明2	
M1-99-1-019-124-1	57	海獣類	アシカ科	趾骨1	
M1-99-1-019-124-2	57	魚類	-	不明4	
M1-99-1-015-125-2	57	陸獣類	イヌ	環椎1	
M1-99-1-015-125-3	57	海獣類	オットセイ（幼）	環椎1	
M1-99-1-015-125-4	57	海獣類	オットセイ	尺骨L1	
M1-99-1-015-125-5	57	海獣類	-	肋骨3、椎体1	
M1-99-1-015-125-6	57	鳥類	-	手根中手骨1	
M1-99-1-015-125-7	57	魚類	-	歯骨1、椎骨1、主鰓蓋骨1	
M1-99-1-015-126-1	57	魚類	-	不明1	
M1-99-1-015-126-2	57	類不明獣	-	不明1	
M1-99-1-035-127-19	57	魚類	-	不明1	
M1-99-1-143-129-1	57	陸獣類	イヌ	大腿骨L1	
M1-99-1-143-129-2	57	類不明獣	-	軸椎1、椎体片2、肋骨1、胸骨1、不明3	
M1-99-1-236-130-1	57	陸獣類	イヌ	大腿骨L1、頬骨側頭突起R1・L1、指骨1	
M1-99-1-236-130-2	57	陸獣類	キツネ	犬歯1	
M1-99-1-236-130-3	57	陸獣類	カラフトブタ	腓骨L2	
M1-99-1-236-130-4	57	陸獣類	クマ	趾骨1	
M1-99-1-236-130-5	57	海獣類	アシカ科	大腿骨L1、椎骨5、橈骨1、腓骨1、頬骨側骨突起1、指骨8、膝蓋骨1、骨端2	
M1-99-1-236-130-6	57	海獣類	-	尺骨1、橈骨1、不明11	
M1-99-1-236-130-7	57	鳥類	-	上腕骨2、脛骨2、手根中手骨1、不明4	
M1-99-1-236-130-8	57	魚類	-	不明5	
M1-99-1-236-130-9	57	貝類	-	不明1	
M1-99-1-022-131-1	57	海獣類	海獣？	椎体1、胸骨2、脛骨（近位端）1	

ID	旧所蔵NO	大分類	小分類（科など）	部位	備考
M1-99-1-022-131-2	57	類不明獣	-	肋骨1	
M1-99-1-022-131-3	57	貝類	-	不明3	
M1-99-1-022-132-1	57	陸獣類	イヌ（幼）	軸椎1、上腕骨R1	
M1-99-1-022-132-2	57	海獣類	アシカ科（幼）	腓骨1	
M1-99-1-022-132-3	57	鳥類	-	尺骨1、橈骨1	
M1-99-1-017-133-5	57	陸獣類	イヌ	寛骨L1	
M1-99-1-017-133-6	57	海獣類	-	趾骨1	
M1-99-1-017-134-1	57	魚類	-	不明1	
M1-99-1-024/054-135-3	57	海獣類	-	指趾骨1	
M1-99-1-043-136-1	57	海獣類	-	後頭顆付近R1、眼窩上突起1、踵骨1、手根骨1	
M1-99-1-043-136-2	57	類不明獣	-	不明2	
M1-99-1-043-136-3	57	鳥類	-	大指基節骨1	
M1-99-1-043-136-4	57	魚類	-	椎骨5、鳴門骨1、不明3	
M1-99-1-043-136-5	57	貝類	-	不明2	
M1-99-1-043-138-1	57	魚類	-	椎骨1	
M1-99-1-040-139-1	57	陸獣類	イヌ	下顎（切歯）骨R1、頬骨側頭突起R1、上顎骨1	
M1-99-1-040-139-2	57	魚類	-	不明3	
M1-99-1-040-140-1	57	海獣類	-	不明1	
M1-99-1-040-140-2	57	鳥類	-	胸骨1	
M1-99-1-041-141-1	57	陸獣類	イヌ	頬骨側頭突起1	
M1-99-1-172～175-142-1	57	貝類	-	不明1	
M1-99-1-215/216-143-3	57	陸獣類	イヌ（若？）	中手骨1	
M1-99-1-215/216-143-4	57	陸獣類	イヌ	橈骨L1、大腿骨R1	
M1-99-1-215/216-143-5	57	陸獣類	キツネ	脛骨L1、距骨1	
M1-99-1-215/216-143-6	57	海獣類	トド	腓骨R1、第一中足骨R1、肩甲骨片1	
M1-99-1-215/216-143-7	57	海獣類	オットセイ科♂（若）	大腿骨骨端L1	
M1-99-1-215/216-143-8	57	海獣類	ゴマフアザラシ（幼）	上腕骨L2	
M1-99-1-215/216-143-9	57	海獣類	ゴマフアザラシ	上腕骨R1	
M1-99-1-215/216-143-10	57	海獣類	-	胸椎1、腰椎1、肋骨7、中手骨1、指趾骨1、不明12	
M1-99-1-215/216-143-11	57	類不明獣	-	不明1	
M1-99-1-215/216-143-12	57	鳥類	ウミウ	中手骨R1、脛骨R1	
M1-99-1-215/216-143-13	57	鳥類	大型ウ類	上腕骨R1、烏口骨R1、尺骨L1、大腿骨R1、脛骨R1・L1	
M1-99-1-215/216-143-14	57	鳥類	ウ類	上腕骨L1	
M1-99-1-215/216-143-15	57	鳥類	-	喙1、脛骨？1、不明1	
M1-99-1-215/216-143-16	57	魚類	-	尾椎1、歯骨1、主鰓蓋骨1	
M1-99-1-215/216-143-17	57	貝類	カキ	1	

ID	旧所蔵NO	大分類	小分類（科など）	部位	備考
M1-99-1-217-144-1	57	海獣類	海獣？	歯1	
M1-99-1-113/170-146-1	57	陸獣類	イヌ	頬骨側頭突起L2	
M1-99-1-113/170-146-2	57	陸獣類	キツネ	下顎骨L1	
M1-99-1-113/170-146-3	57	陸獣類	クマ	手根骨L1	
M1-99-1-113/170-146-4	57	陸獣類	カラフトブタ？	恥骨L1	
M1-99-1-113/170-146-5	57	陸獣類	−	不明2	
M1-99-1-113/170-146-6	57	海獣類	アシカ科	脛骨骨端1、頸椎1、腰椎1、寛骨1、椎体1	
M1-99-1-113/170-146-7	57	海獣類	アザラシ科（幼）	上腕骨1	
M1-99-1-113/170-146-8	57	海獣類	−	肋骨1、不明1	
M1-99-1-113/170-146-9	57	魚類	−	椎骨1	
M1-99-1-170-147-1	57	海獣類	アシカ科	脛骨R1	
M1-99-1-012-148-3	57	陸獣類	イヌ	頬骨側頭突起1、軸椎1、脛骨1	
M1-99-1-012-148-4	57	陸獣類	カラフトブタ	脛骨2	
M1-99-1-012-148-5	57	陸獣類	キツネ	下顎骨1	
M1-99-1-012-148-6	57	海獣類	アシカ科（若）	尺骨1	
M1-99-1-012-148-7	57	海獣類	アシカ科	椎骨1、不明3	
M1-99-1-012-148-8	57	海獣類	オットセイ♀	寛骨1	
M1-99-1-012-148-9	57	海獣類	−	指趾骨1、椎骨2、不明9	
M1-99-1-012-148-10	57	類不明獣	−	末端骨2、不明3	
M1-99-1-012-148-11	57	鳥類	アホウドリ	脛骨R1・L1	
M1-99-1-012-148-12	57	鳥類	−	尺骨2、脛骨2、複合仙骨1、烏口骨1、不明3	
M1-99-1-012-148-13	57	魚類	−	前上顎骨1、主鰓蓋骨1、腰帯1	
M1-99-1-012-148-14	57	貝類	カキ	30	
M1-99-1-012-148-15	57	植物遺存体	クルミ	1	
M1-99-1-213/214-149-1	57	貝類	−	破片1	
M1-99-1-999-150-1	57	貝類	−	不明1	
M1-99-1-999-151-1	57	魚類	−	鰓条骨？1	
M1-99-1-218～222-152-1	57	陸獣類	イヌ	中手骨1	
M1-99-1-218～222-152-2	57	陸獣類	カラフトブタ	大腿骨L1	
M1-99-1-218～222-152-3	57	海獣類	オットセイ科♂（若）	大腿骨（遠位端）R1	
M1-99-1-218～222-152-4	57	海獣類	アシカ科（若）	尺骨L1、大腿骨R1	
M1-99-1-218～222-152-5	57	類不明獣	−	肩甲骨1、大腿骨1、脛骨1	
M1-99-1-218～222-152-6	57	鳥類	−	上腕骨1	
M1-99-1-218～222-152-7	57	魚類	−	不明2	
M1-99-1-218～222-152-8	57	貝類	カキ	2	
M1-99-1-032-153-1	57	陸獣類	リス（若）	大腿骨R1、脛骨R1、橈骨（近位端）1	
M1-99-1-032-153-2	57	陸獣類	クマ	肩甲骨L1、指骨1	

ID	旧所蔵NO	大分類	小分類（科など）	部位	備考
M1-99-1-032-153-3	57	海獣類	アシカ科	肩甲骨1、趾骨1	
M1-99-1-032-153-4	57	海獣類	アザラシ科	尺骨L1、大腿骨（近位端）1	
M1-99-1-032-153-5	57	類不明獣	−	肋骨1、不明4	
M1-99-1-032-153-6	57	鳥類	−	大腿骨1、尺骨2	
M1-99-1-045-154-1	57	陸獣類	イヌ	趾骨1	
M1-99-1-045-154-2	57	海獣類	アシカ科	脛骨1	
M1-99-1-045-154-3	57	類不明獣	−	不明1	
M1-99-1-045-154-4	57	魚類	−	角舌骨1、不明1	
M1-99-1-084-155-1	58	海獣類	−	手根骨1	
M1-99-1-084-155-2	58	類不明獣	−	不明1	
M1-99-1-060-158-1	58	陸獣類	小型陸獣	上腕骨L1	
M1-99-1-158-159-1	58	海獣類	−	後趾末節1	
M1-99-1-158-159-2	58	鳥類	−	不明1	
M1-99-1-158-159-3	58	貝類	−	不明2	
M1-99-1-156-161-1	58	海獣類	−	上腕骨1、肩甲骨1、胸椎1、腰椎1、肋骨1	
M1-99-1-049-162-1	58	海獣類	−	中手骨1、手根骨1	
M1-99-1-115-163-1	58	鳥類	アホウドリ	烏口骨R1	
M1-99-1-081-164-2	58	陸獣類	イヌ	寛骨R1、大腿骨R1、脛骨R1、指趾骨2	
M1-99-1-081-164-3	58	鳥類	−	鎖骨1	
M1-99-1-081-165-1	58	陸獣類	イヌ	中手骨1、中足骨1、脛骨L1	
M1-99-1-081-165-2	58	鳥類	アホウドリ	上腕骨R1	
M1-99-1-042-166-1	58	陸獣類	イヌ	脛骨R1	
M1-99-1-042-166-2	58	海獣類	アシカ科	尺骨R1	
M1-99-1-042-167-1	58	貝類	−	破片	
M1-99-1-119-168-1	58	海獣類	アシカ科	頸椎1、胸椎1	
M1-99-1-119-168-2	58	海獣類	−	肋骨1	
M1-99-1-119-169-1	58	陸獣類	−	不明1	
M1-99-1-046-170-1	58	海獣類	クジラ	椎骨骨端1	
M1-99-1-046-170-2	58	海獣類	アシカ科	足根骨1	
M1-99-1-046-170-3	58	海獣類	アザラシ科	尺骨1	
M1-99-1-046-170-4	58	海獣類	アザラシ科？	第一中足骨L1、指趾骨1	
M1-99-1-046-170-5	58	海獣類	−	椎骨2、大腿骨骨端1、指骨2、椎体1、不明1	
M1-99-1-046-170-6	58	鳥類	−	肩甲骨R1	
M1-99-1-046-170-7	58	貝類	ウバガイ	2	
M1-99-1-086-174-1	58	海獣類	オットセイ	尺骨L1	
M1-99-1-086-174-2	58	海獣類	アシカ科	棘突起1	
M1-99-1-086-174-3	58	海獣類	アザラシ科	脛骨R1	

ID	旧所蔵NO	大分類	小分類（科など）	部位	備考
M1-99-1-039-177-1	58	海獣類	-	指趾骨1、不明1	
M1-99-1-246-178-1	58	陸獣類	エゾシカ	肩甲骨（近位端）R1	
M1-99-1-246-178-2	58	陸獣類	クマ	橈骨（遠位端）R1	
M1-99-1-246-178-3	58	海獣類	-	肋骨1	
M1-99-1-141-179-4	58	陸獣類	クマ	足根骨1	
M1-99-1-141-179-5	58	陸獣類	イヌ	上顎骨L1、大腿骨R1	
M1-99-1-141-179-6	58	類不明獣	-	肋骨1、不明2	
M1-99-1-141-179-7	58	魚類	-	椎骨2	
M1-99-1-141-180-1	58	貝類	-	破片1	
M1-99-1-125-181-1	58	海獣類	アシカ科	尺骨R1	
M1-99-1-169-183-3	58	陸獣類	イヌ	胸椎1	
M1-99-1-169-183-4	58	海獣類	アシカ科	橈骨（遠位端）L1、中手骨2、中足骨1、椎骨4	
M1-99-1-169-183-5	58	海獣類	-	頭骨1、肋骨7、不明6	
M1-99-1-169-183-6	58	海獣類	海獣？	足根骨1、手根骨1	
M1-99-1-169-183-7	58	類不明獣	-	中手骨1、指骨1	
M1-99-1-169-183-8	58	鳥類	アホウドリ	尺骨4、胸骨2、大腿骨1、不明8	
M1-99-1-169-183-9	58	魚類	-	前上顎骨1、擬鎖骨1、不明4	
M1-99-1-169-184-1	58	海獣類	アシカ科	上腕骨骨頭L1	
M1-99-1-021-185-1	58	類不明獣	-	肋骨1、椎骨2、不明2	
M1-99-1-021-185-2	58	鳥類	-	上腕骨1	
M1-99-1-029-186-1	58	海獣類	オットセイ♂	大腿骨L1	
M1-99-1-029-186-2	58	陸獣類	小型陸獣	下顎骨L1	
M1-99-1-029-186-3	58	類不明獣	-	肋骨2	
M1-99-1-003-187-1	58	陸獣類	イヌ	踵骨1、歯4	
M1-99-1-003-187-2	58	鳥類	-	趾指骨1	
M1-99-1-003-187-3	58	魚類	-	椎骨30、神経棘4、鳴門瘤2、不明2	
M1-99-1-003-189-1	58	類不明獣	-	不明2	
M1-99-1-003-189-2	58	鳥類	-	中手骨R1	
M1-99-1-003-189-3	58	魚類	-	不明1	
M1-99-1-003-189-4	58	貝類	-	破片1	
M1-99-1-016-190-1	58	海獣類	-	椎骨4、肋骨3、不明4	
M1-99-1-016-190-2	58	鳥類	-	大腿骨1	
M1-99-1-057-191-1	58	陸獣類	イヌ	頬骨側頭突起1、側頭骨1、中手骨1	
M1-99-1-057-191-2	58	陸獣類	シカ	中節骨1	
M1-99-1-057-191-3	58	海獣類	アザラシ科	距骨1	
M1-99-1-057-191-4	58	類不明獣	-	手根骨2、椎骨2、中手骨2	
M1-99-1-057-191-5	58	貝類	-	不明1	

ID	旧所蔵NO	大分類	小分類（科など）	部位	備考
M1-99-1-118-192-1	58	類不明獣	-	前頭骨2、肋骨2、基節骨1	
M1-99-1-037-196-2	58	魚類	-	不明1	
M1-99-1-026-198-1	58	鳥類	-	不明1	
M1-99-1-058-199-1	58	陸獣類	イヌ	尺骨R1	
M1-99-1-058-199-2	58	海獣類	トド	椎骨2、肋骨2	
M1-99-1-058-199-3	58	海獣類	アシカ科	鼓室骨付近R1、指趾骨1、下顎骨R1・L2	
M1-99-1-058-199-4	58	海獣類	アザラシ科	橈骨L1、寛骨L1、大腿骨L1、中足骨1	
M1-99-1-058-199-5	58	海獣類	-	胸椎1、肋骨4、不明4	
M1-99-1-058-199-6	58	魚類	-	主鰓蓋骨1	
M1-99-1-058-200-1	58	貝類	-	破片1	
M1-99-1-117-201-1	58	陸獣類	イヌ	寛骨R1、椎骨1	
M1-99-1-117-201-2	58	魚類	-	椎骨1	
M1-99-1-116-202-1	58	魚類	-	椎骨2	
M1-99-1-223-204-1	58	陸獣類	イヌ	橈骨L1、寛骨L1、脛骨R1、踵骨L1、指趾骨4、椎骨2	
M1-99-1-223-204-2	58	陸獣類	キツネ	上腕骨R1・L1、尺骨R1、脛骨R1	
M1-99-1-223-204-3	58	陸獣類	シカ	距骨L1	
M1-99-1-223-204-4	58	海獣類	トド	椎骨1、手根骨2	
M1-99-1-223-204-5	58	海獣類	オットセイ科♂（若）	橈骨L1	
M1-99-1-223-204-6	58	海獣類	アシカ科（若）	上腕骨L1	
M1-99-1-223-204-7	58	海獣類	アシカ科	仙骨2、脛骨L1	
M1-99-1-223-204-8	58	海獣類	アザラシ科	上腕骨R1・L1、脛骨L1、大腿骨1	
M1-99-1-223-204-9	58	海獣類	-	肋骨5、椎骨3	
M1-99-1-223-204-10	58	類不明獣	-	肋骨1、不明3	
M1-99-1-223-204-11	58	鳥類	ヒメウ	上腕骨R1	
M1-99-1-223-204-12	58	鳥類	ワシ類	上腕骨R1・L2、烏口骨R1	
M1-99-1-223-204-13	58	鳥類	-	下顎骨1、烏口骨R2、尺骨3、肋骨3、不明3	
M1-99-1-223-204-14	58	魚類	-	主鰓蓋骨2、主上顎骨1、肋骨1、角舌骨1、不明3	
M1-99-1-223-204-15	58	貝類	-	破片14	
M1-99-1-006-205-2	58	陸獣類	-	肋骨1	
M1-99-1-006-205-3	58	鳥類	アホウドリ	不明1	
M1-99-1-008-207-2	58	海獣類	-	椎骨骨端1	
M1-99-1-008-207-3	58	海獣類	海獣？	四肢骨1、肋骨1	
M1-99-1-008-207-4	58	魚類	-	椎骨1	
M1-99-1-008-208-2	58	海獣類	オットセイ♂	大腿骨L1	
M1-99-1-008-208-3	58	海獣類	アシカ科	肩甲骨L1	
M1-99-1-008-208-4	58	海獣類	アザラシ科	中足骨1	
M1-99-1-008-208-5	58	海獣類	-	頸椎1	

ID	旧所蔵NO	大分類	小分類（科など）	部位	備考
M1-99-1-008-208-6	58	鳥類	-	鎖骨1	
M1-99-1-008-208-7	58	魚類	-	椎骨28、舌弓5、肋骨1	
M1-99-1-008-208-8	58	貝類	-	破片1	
M1-99-1-244-210-1	58	陸獣類	イヌ	脛骨L1	
M1-99-1-244-210-2	58	海獣類	アシカ科	肩甲骨R2	
M1-99-1-244-210-3	58	海獣類	-	上腕骨1	
M1-99-1-244-210-4	58	類不明獣	-	歯1	
M1-99-1-244-210-5	58	鳥類	-	鎖骨1	
M1-99-1-052-211-2	58	陸獣類	イヌ	尺骨R1	
M1-99-1-052-211-3	58	陸獣類	イヌ？	指趾骨1	
M1-99-1-052-211-4	58	海獣類	-	肋骨1	
M1-99-1-051-212-3	58	海獣類	-	不明4	
M1-99-1-051-212-4	58	類不明獣	-	不明1	
M1-99-1-073-214-1	58	貝類	-	破片1	
M2-2-1-105-215-1	58	陸獣類	小型陸獣	歯1	
M2-2-1-105-216-1	58	海獣類	-	中足骨1、指趾骨2	
M2-2-1-105-216-2	58	魚類	-	不明1	
M2-2-1-105-217-1	58	鳥類	-	椎骨1	
M2-2-1-105-217-2	58	魚類	-	不明2	
M2-2-1-105-218-1	58	陸獣類	小型陸獣	歯1	
M2-2-1-105-218-2	58	海獣類	-	肩甲骨1、指趾骨2	
M2-2-1-105-219-2	58	魚類	フサカサゴ科	主上顎骨L1	
M2-2-1-105-219-3	58	貝類	-	不明5	
M2-2-1-105-220-1	58	海獣類	-	趾骨1	
M2-1-1-093-224-1	58	海獣類	オットセイ？	第五中手骨L1	オットセイ♂？
M2-1-1-093-224-2	58	海獣類	アシカ科	胸椎1	オットセイ♂サイズ
M2-1-1-093-224-3	58	海獣類	アザラシ科？	頭骨1	
M2-1-1-093-224-4	58	海獣類	-	肩甲骨1、四肢骨1、椎体1	
M2-1-1-093-224-5	58	鳥類	-	大指基節骨1	
M2-1-1-093-224-6	58	魚類	フサカサゴ科	前鰓蓋骨R1、舌顎骨L1	
M2-1-1-093-224-7	58	魚類	-	尾椎1	
M2-1-1-093-225-1	58	類不明獣	-	手根骨2、不明1	
M2-1-1-093-225-2	58	貝類	ホンエゾヒバリガイ	1	
M2-1-1-093-225-3	58	貝類	巻貝	1	
M2-1-1-093-225-4	58	貝類	-	破片4	
M2-1-1-093-226-1	58	類不明獣	-	不明1	
M2-1-1-098-227-1	58	海獣類	ゴマフアザラシ	大腿骨L1	

ID	旧所蔵NO	大分類	小分類（科など）	部位	備考
M2-1-1-098-228-3	58	陸獣類	イヌ	指趾骨2	
M2-1-1-098-228-4	58	海獣類	アシカ科	大腿骨1	
M2-1-1-098-228-5	58	類不明獣	−	不明1	
M2-1-1-098-228-6	58	貝類	−	不明2	
M2-2-1-091-230-1	58	陸獣類	イヌ	中手骨1、中足骨1、肋骨1	
M2-2-1-091-231-1	58	貝類	−	破片1	
M2-2-1-091-232-3	58	海獣類	フィリアザラシ（若）	大腿骨R1	
M2-2-1-091-232-4	58	鳥類	−	主根中手骨1	
M2-2-1-091-232-5	58	魚類	−	尾椎2、方形骨1、不明1	
M2-2-1-091-232-6	58	貝類	ヤマトシジミ	R1・L1	
M2-2-1-091-232-7	58	貝類	クロタマキビ	1	
M2-2-1-091-232-8	58	貝類	タマキビ	1	
M2-2-1-091-232-9	58	貝類	ヒメエゾボラ	1	
M2-2-1-091-232-10	58	貝類	マガキ？	4	
M2-2-1-091-232-11	58	貝類	−	不明3	
M2-2-1-091-233-1	58	海獣類	−	椎骨1	
M2-2-1-091-233-2	58	魚類	−	不明1	
M2-1-1-092-234-4	58	陸獣類	イヌ（幼）	上腕骨R1	
M2-1-1-092-234-5	58	海獣類	アシカ科	上腕骨（遠位端）R1	
M2-1-1-092-234-6	58	魚類	−	椎骨1、不明1	
M2-1-1-092-234-7	58	貝類	ウバガイ	1	
M2-1-1-092-235-2	58	陸獣類	イヌ（若）	歯1、上腕骨L1、脛骨L1	
M2-1-1-092-235-3	58	海獣類	アシカ科	肋骨1、不明2	
M2-1-1-092-235-4	58	海獣類	アザラシ科	上腕骨L1	
M2-1-1-092-235-5	58	鳥類	ウミウ	尺骨R1	
M2-1-1-092-235-6	58	鳥類	−	不明2	
M2-1-1-092-235-7	58	魚類	ヒラメ	歯骨L1、前鰓蓋骨1、主鰓蓋骨1、主上顎骨1、椎骨2、尾骨2、不明2	
M2-1-1-092-235-8	58	貝類	−	破片5	
M2-1-1-094-236-5	58	陸獣類	イヌ	歯1、頭骨片2	
M2-1-1-094-236-6	58	海獣類	−	中足骨1、舟状骨1、指骨2、肋骨1、尾椎1	
M2-1-1-094-236-7	58	類不明獣	−	肋骨4、頭骨1、不明4	
M2-1-1-094-236-8	58	鳥類	−	大指基節骨1、胸骨1、不明2	
M2-1-1-094-236-9	58	魚類	−	椎骨1	
M2-1-1-094-236-10	58	貝類	−	破片3	
M2-1-1-094-237-1	58	鳥類	−	椎骨2、脛骨1、鎖骨1	
M2-1-1-094-237-2	58	魚類	−	不明1	
M9-99-99-211-238-1	58	陸獣類	クマ	橈骨L1、手根骨L1	

ID	旧所蔵NO	大分類	小分類（科など）	部位	備考
M9-99-99-211-238-2	58	海獣類	トド	大腿骨R1、第5中足骨L1	
M9-99-99-211-238-3	58	海獣類	オットセイ♂	頭骨1	左側頭骨に人為孔あり
M9-99-99-211-238-4	58	海獣類	オットセイ♀	上腕骨L1	
M9-99-99-211-238-5	58	海獣類	アシカ科（若）	大腿骨L1	
M9-99-99-211-238-6	58	海獣類	アザラシ科	大腿骨L1	
M9-99-99-211-238-7	58	海獣類	-	指趾骨1、腰椎4、椎体骨端1、不明7	
M9-99-99-211-238-8	58	類不明獣	-	肋骨4、不明3	
M9-99-99-211-238-9	58	鳥類	ヒメウ	烏口骨L1	
M9-99-99-211-238-10	58	鳥類	-	複合仙骨1	
M9-99-99-211-238-11	58	魚類	ヒラメ？	前上顎骨L1	
M2-3-1-999-239-11	59	海獣類	クジラ	肩甲骨5	
M2-3-1-999-239-12	59	類不明獣	-	肩甲骨1、頭骨1、骨端2、不明3	
M2-3-1-999-239-13	59	鳥類	-	上腕骨L1	
M2-99-99-999-242-19	59	貝類	カキ	6	
M2-99-99-999-242-20	59	貝類	エゾイソシジミ	R1・L2	
M2-99-99-999-242-21	59	貝類	ウバガイ	R2	
M2-99-99-999-242-22	59	貝類	チヂミボラ	2	
M2-99-99-999-242-23	59	貝類	アサリ	1	
M2-99-99-999-242-24	59	貝類	エゾタマガイ	1	
M2-99-99-999-242-25	59	貝類	エゾヌノメガイ	1	
M2-99-99-999-242-26	59	貝類	-	不明1	
M2-2-1-252-243-1	59	陸獣類	イヌ（幼）	橈骨R1	
M2-2-1-252-243-2	59	陸獣類	イヌ（若）	肋骨34、肩甲骨L1、上腕骨R1・L（遠骨端）1、尺骨R1・L1、橈骨R1・L1、寛骨R1・L1、大腿骨R1・L1、脛骨R1・L1、距骨R1・L1、踵骨R1・L1、胸椎13、頸椎7、環椎1、腰椎8、仙骨2、尾椎2、骨端・椎体47、手・足根骨9、中足・中手骨13、指趾骨33、膝蓋骨1、歯17	
M2-2-1-252-243-3	59	陸獣類	イヌ	頭骨1、下顎骨R1・L1	
M2-2-1-252-243-4	59	陸獣類	クマ	趾骨1	
M2-2-1-252-243-5	59	陸獣類	ネズミ？	大腿骨2、上腕骨1、脛骨1	
M2-2-1-252-243-6	59	海獣類	アザラシ科（若）	尺骨R1、環椎？1	
M2-99-99-999-244-191	59	類不明獣	-	歯2、椎体4、肋骨1、骨端13、指趾骨4、不明12	
M2-99-99-999-244-192	59	鳥類	-	不明2	
M2-99-99-999-244-193	59	貝類	シジミ	3	
M2-99-99-999-244-194	59	貝類	巻貝	3	
M2-99-99-999-244-195	59	貝類	二枚貝	1	
M2-99-99-999-244-196	59	貝類	-	破片1	
M2-8-1-999-245-1	59	陸獣類	イヌ（幼）	頭骨1、下顎骨R1・L1	

ID	旧所蔵NO	大分類	小分類（科など）	部位	備考
M2-8-1-999-245-2	59	陸獣類	イヌ（若）	下顎骨R1	
M2-8-1-999-245-3	59	陸獣類	エゾユキウサギ	頭骨1	
M2-8-1-999-245-4	59	海獣類	トド	後頭骨1	左右穿孔？
M2-8-1-999-245-5	59	海獣類	アザラシ科	後頭骨1	右側穿孔
M2-8-1-999-245-6	59	類不明獣	−	不明4	
M2-99-99-999-246-1	59	陸獣類	シカ♂	頭骨2	袋角有り
M1-99-1-001-247-1	60	魚類	−	不明1	
M1-99-1-005-248-1	60	魚類	−	鳴門瘤1、歯2、椎骨6、不明6	
M1-99-1-007-249-1	60	魚類	−	椎骨23、不明12	
M1-99-1-065-250-1	60	魚類	カサゴ類	椎骨1	
M1-99-1-065-250-2	60	魚類	−	不明1	
M1-99-1-065-250-3	60	貝類	−	破片1	
M1-99-1-069-251-4	60	陸獣類	シカ	種子骨1	
M1-99-1-069-251-5	60	海獣類	アシカ科（若）	上腕骨R1	
M1-99-1-069-251-6	60	海獣類	−	肋骨2、椎骨2、指趾骨2、椎体2	
M1-99-1-069-251-7	60	類不明獣	−	不明8	
M1-99-1-069-251-8	60	鳥類	−	嘴1	
M1-99-1-069-251-9	60	魚類	フサカサゴ科	下顎（歯）骨L1、前鰓蓋骨1、主鰓蓋骨1、不明1	
M1-99-1-055-252-2	60	鳥類	アホウドリ	尺骨2、橈骨1	
M1-99-1-071-253-1	60	海獣類	オットセイ（若）	下顎骨L1	
M1-99-1-071-253-2	60	海獣類	−	尾椎1、不明2	
M1-99-1-071-253-3	60	類不明獣	−	不明1	
M1-99-1-071-253-4	60	鳥類	−	尺骨1	
M1-99-1-070-254-1	60	魚類	−	椎骨1	
M1-99-1-020-256-2	60	類不明獣	−	肋骨2、不明13	
M1-99-1-020-256-3	60	鳥類	−	烏口骨1、複合仙骨1	
M1-99-1-165-258-1	60	海獣類	−	椎骨1	
M1-99-1-167-260-1	60	海獣類	アシカ科	趾骨1	
M1-99-1-167-260-2	60	類不明獣	−	不明1	
M1-99-1-074-261-2	60	貝類	−	破片1	
M1-99-1-080-263-1	60	陸獣類	クマ（幼）	大腿骨R1	
M1-99-1-080-263-2	60	海獣類	アシカ科（若）	距骨L1	
M1-99-1-080-263-3	60	海獣類	アシカ科	手根骨1、中手骨1	
M1-99-1-080-263-4	60	海獣類	アザラシ科（若）	肩甲骨R1、上腕骨R1	
M1-99-1-080-263-5	60	海獣類	−	不明1	
M1-99-1-149-264-1	60	魚類	フサカサゴ科	主上顎骨L1、方骨1	
M1-99-1-185-265-2	60	海獣類	アシカ科	手根骨1、脛骨R1	

ID	旧所蔵NO	大分類	小分類（科など）	部位	備考
M1-99-1-185-265-3	60	海獣類	-	椎骨2、肋骨3	
M1-99-1-185-265-4	60	類不明獣	-	不明2	
M1-99-1-159-266-1	60	陸獣類	イヌ（幼）	尺骨R1、胸椎1	
M1-99-1-159-266-2	60	陸獣類	イヌ	側頭骨頬骨突起L2	
M1-99-1-159-266-3	60	類不明獣	-	骨端1	
M1-99-1-159-266-4	60	鳥類	-	烏口骨L1	
M1-99-1-072-267-2	60	魚類	-	椎骨19、神経棘1、肋骨2、不明2	
M1-99-1-075-270-1	60	魚類	タラ？	椎骨1	
M1-99-1-048-271-1	60	貝類	-	破片1	
M1-99-1-190-272-1	60	海獣類	-	不明2	
M1-99-1-190-272-2	60	魚類	-	不明3	
M1-99-1-126-273-1	60	海獣類	-	不明2	
M1-99-1-155-274-1	60	貝類	-	破片1	
M1-99-1-188-276-4	60	鳥類	-	不明1	
M1-99-1-079-277-1	60	海獣類	-	頸椎1	
M1-99-1-059-278-1	60	海獣類	-	不明2	
M1-99-1-059-278-2	60	鳥類	アホウドリ	鎖骨1	
M1-99-1-137-279-2	60	海獣類	アシカ科	指骨1	
M1-99-1-137-279-3	60	魚類	-	椎骨1	
M1-99-1-137-279-4	60	貝類	シジミ	1	
M1-99-1-136-280-1	60	陸獣類	イヌ	軸椎1、頸椎1	
M1-99-1-136-280-2	60	陸獣類	クマ	膝蓋骨R1	
M1-99-1-136-280-3	60	海獣類	オットセイ♂	上腕骨頭R1	
M1-99-1-136-280-4	60	海獣類	アシカ科	頸椎5、椎体1	
M1-99-1-124-281-1	60	海獣類	オットセイ科♂（若）	上腕骨R1	
M1-99-1-124-281-2	60	鳥類	アホウドリ	脛骨R1	
M1-99-1-076-282-2	60	陸獣類	イヌ	中手骨／中足骨1、大腿骨L1、指骨1	
M1-99-1-076-282-3	60	海獣類	-	犬歯1、椎体1、趾骨1、肋骨4	
M1-99-1-076-282-4	60	鳥類	ウミウ	大腿骨R1	
M1-99-1-076-282-5	60	鳥類	-	上腕骨1	
M1-99-1-076-282-6	60	魚類	ヒラメ？	主鰓蓋骨R1、椎骨1	
M1-99-1-064-283-1	60	陸獣類	キツネ	歯M1：R1	
M1-99-1-064-283-2	60	海獣類	アザラシ科	耳骨包付近R1	
M1-99-1-161-284-1	60	陸獣類	クマ	指骨1	
M1-99-1-161-284-2	60	類不明獣	-	不明1	
M1-99-1-161-284-3	60	鳥類	カモメ	烏口骨R1	
M1-99-1-162-285-1	60	海獣類	-	鼓室胞1	

ID	旧所蔵NO	大分類	小分類（科など）	部位	備考
M1-99-1-164-286-2	60	海獣類	アザラシ科	橈骨R1、中足骨1	
M1-99-1-164-286-3	60	海獣類	−	椎骨1	
M1-99-1-164-286-4	60	類不明獣	−	肋骨1、歯？1、不明3	
M1-99-1-164-286-5	60	魚類	−	椎骨1、鳴門瘤2、不明4、	
M1-99-1-164-286-6	60	貝類	−	破片1	
M1-99-1-153-287-2	60	陸獣類	シカ	基節骨1	
M1-99-1-153-287-3	60	海獣類	アシカ科	耳骨胞付近L1、肩甲骨R1	
M1-99-1-153-287-4	60	海獣類	アザラシ科（若）	上腕骨L1	
M1-99-1-153-287-5	60	海獣類	アザラシ科	脛骨L1	
M1-99-1-153-287-6	60	海獣類	−	頭骨付近2、肋骨3、椎体1	
M1-99-1-153-287-7	60	類不明獣	−	不明1	
M1-99-1-198-288-1	60	海獣類	アシカ科	軸椎1	
M1-99-1-201-289-1	60	海獣類	−	後頭骨L1	
M1-99-1-201-289-2	60	魚類	−	椎骨1	
M1-99-1-197-290-3	60	海獣類	アシカ科	趾骨1	
M1-99-1-196-291-1	60	貝類	−	破片6	
M1-99-1-202-292-1	60	陸獣類	イヌ	中手骨2、中足骨1	
M1-99-1-202-292-2	60	海獣類	−	椎骨2、後頭稟1、趾骨1	
M1-99-1-202-292-3	60	魚類	−	肋骨2、椎骨1、腹椎1	
M1-99-1-203-293-1	60	鳥類	−	不明1	
M1-99-1-150-294-1	60	類不明獣	−	不明3	
M1-99-1-150-294-2	60	魚類	−	椎骨1、不明3	
M1-99-1-150-294-3	60	貝類	−	破片1	
M1-99-1-200-295-1	60	魚類	ヒラメ？	主鰓蓋骨L1	
M1-99-1-087-297-1	60	陸獣類	キツネ	歯3	
M1-99-1-087-297-2	60	類不明獣	−	不明1	
M1-99-1-140-298-1	60	海獣類	−	肋骨1、椎骨1	
M1-99-1-140-298-2	60	貝類	−	破片1	
M2-1-1-095-299-10	60	陸獣類	イヌ	中手／中足骨3	
M2-1-1-095-299-11	60	陸獣類	クマ？	指骨1	
M2-1-1-095-299-12	60	陸獣類	−	指骨1、椎骨2、大腿骨1、脛骨1	
M2-1-1-095-299-13	60	海獣類	アシカ科	手根骨1	
M2-1-1-095-299-14	60	海獣類	オットセイ♀	橈骨R1	
M2-1-1-095-299-15	60	海獣類	−	肋骨2、指趾骨2、中足骨3、手／足根骨5、骨端2	
M2-1-1-095-299-16	60	類不明獣	−	不明5	
M2-1-1-095-299-17	60	鳥類	ワシ・タカ科（幼）	大腿骨R1	
M2-1-1-095-299-18	60	鳥類	−	尺骨1、橈骨1	

ID	旧所蔵NO	大分類	小分類（科など）	部位	備考
M2-1-1-095-299-19	60	魚類	タラ	主上顎骨R1、前上顎骨L4、歯骨3、椎骨43、鳴門瘤1、不明8	
M2-1-1-095-299-20	60	貝類	–	破片5	
M2-1-1-097-301-1	60	類不明獣	–	不明5	
M2-1-1-097-301-2	60	魚類	–	椎骨6	
M2-1-1-097-301-3	60	貝類	–	破片2	
M2-5-1-088-303-1	60	海獣類	アシカ科	中手骨3	
M2-5-1-089-304-2	60	陸獣類	イヌ	中手／中足骨1	
M2-5-1-089-304-3	60	鳥類	–	鎖骨1、不明3	
M2-5-1-089-304-4	60	魚類	–	椎骨1	
M2-5-1-089-304-5	60	貝類	タマキビ	1	
M2-1-1-090-305-4	60	陸獣類	キツネ？	歯2	
M2-1-1-090-305-5	60	海獣類	–	椎骨2、指骨1	
M2-1-1-090-305-6	60	鳥類	–	複合仙骨2	
M2-1-1-090-305-7	60	魚類	–	椎骨66、歯骨2、肋骨5、神経間棘4、鳴門瘤1、尾骨1、不明12	
M2-1-1-090-305-8	60	貝類	–	破片6	
M2-6-1-225-306-1	60	海獣類	–	椎骨1	
M2-2-1-101-307-2	60	陸獣類	ネズミ？	後頭骨2	
M2-2-1-101-307-3	60	海獣類	アザラシ科	下顎骨R1	
M2-2-1-101-307-4	60	海獣類	–	胸椎1	
M2-2-1-101-307-5	60	類不明獣	–	肋骨1、不明1	
M2-2-1-101-307-6	60	鳥類	ウミウ	橈骨R1	
M2-2-1-101-307-7	60	鳥類	アホウドリ	尺骨（遠位端）R1・（近位端）R1	
M2-2-1-101-307-8	60	鳥類	–	複合仙骨1	
M2-2-1-101-307-9	60	貝類	ヌノメアサリ	43	
M2-2-1-101-307-10	60	貝類	マガキ	13	
M2-2-1-101-307-11	60	貝類	ベニサラガイ	1	
M2-2-1-101-307-12	60	貝類	エゾチヂミボラ	1	
M2-2-1-101-307-13	60	貝類	タマキビ	1	
M2-2-1-101-307-14	60	貝類	二枚貝	5	
M2-2-1-101-307-15	60	貝類	–	破片17	
M2-1-1-102-311-6	60	海獣類	–	不明1	
M2-1-1-102-311-7	60	鳥類	アホウドリ	中足骨L1	
M2-1-1-102-311-8	60	貝類	–	破片4	
M2-2-1-103-313-1	60	類不明獣	–	不明1	
M2-2-1-103-313-2	60	魚類	カサゴ類	主上顎骨1	
M2-2-1-103-313-3	60	貝類	–	破片2	

ID	旧所蔵NO	大分類	小分類（科など）	部位	備考
M2-1-1-104-314-2	60	類不明獣	−	不明5	
M2-1-1-104-314-3	60	魚類	−	主鰓蓋骨1、歯1、歯骨1、鰓条骨1、椎骨144、尾舌骨1、鳴門瘤5、尾骨1、不明45	
M2-1-1-104-314-4	60	貝類	タマキビ	22	
M2-1-1-104-314-5	60	貝類	ヌノメアサリ	5	
M2-1-1-104-314-6	60	貝類	チヂミボラ	2	
M2-1-1-104-314-7	60	貝類	ヒメエゾボラ	2	
M2-1-1-104-314-8	60	貝類	−	破片13	
M2-2-1-106-315-1	60	海獣類	アザラシ科	尺骨L1	
M2-1-1-110-316-3	60	魚類	−	椎骨12、肋骨10、不明12	
M2-1-1-110-316-4	60	貝類	−	破片3	
M2-3-1-109-319-1	60	海獣類	オットセイ科♂（若）	橈骨L1	
M2-3-1-109-319-2	60	海獣類	アシカ科	頸椎1	
M2-3-1-109-319-3	60	海獣類	−	手根骨1	
M2-3-1-109-319-4	60	貝類	ヌノメアサリ	1	
M9-99-1-250-320-1	60	魚類	−	不明1	
M1-99-3-077-321-1	60	類不明獣	−	肋骨2	
M2-5-1-248-325-9	61	海獣類	−	肩甲骨1	
M2-5-1-248-325-21	61	類不明獣	−	椎骨1	
M2-5-1-248-326-1	61	海獣類	トド	橈骨L1、側頭骨破片R1	
M2-5-1-248-326-2	61	海獣類	アザラシ科（幼）	下顎骨L1、肩甲骨R1・L1、上腕骨R1・L1、大腿骨R1、脛骨L1、腓骨L1	
M2-5-1-248-326-3	61	海獣類	アザラシ科（若）	上腕骨R3・L2、大腿骨R1・L1、橈骨R1・L1、腓骨L1、尺骨L1	
M2-5-1-248-327-1	61	陸獣類	イヌ（若）	上腕骨R1	
M2-5-1-248-327-2	61	陸獣類	イヌ	下顎骨R3・L1、側頭～口蓋骨R1・L2、環椎1、軸椎1、頸椎1、腰椎1、尺骨L1、骨盤R1・L1、腓骨R1	
M2-5-1-248-327-3	61	陸獣類	クマ	踵骨R1、手骨L1、指骨1	
M2-5-1-248-327-4	61	陸獣類	ブタ（幼）	脛骨L1	
M2-5-1-248-327-5	61	陸獣類	ブタ	肩甲骨L1、大腿骨R1、腓骨R1	
M2-5-1-248-327-6	61	陸獣類	キツネ	頭骨1、歯R2・L3	
M2-5-1-248-327-7	61	陸獣類	タヌキ	下顎骨L1	
M2-5-1-248-327-8	61	陸獣類	シカ	角片1	
M2-5-1-248-327-9	61	陸獣類	テン	頭骨1	
M2-5-1-248-327-10	61	海獣類	イルカ科	頭骨1、耳骨包付近1、下顎骨R1・L1、胸椎1、腰椎1	
M2-5-1-248-327-11	61	海獣類	クジラ	椎骨骨端1、尾骨1、不明7	
M2-5-1-248-327-12	61	海獣類	オットセイ♂	上腕骨L2	

ID	旧所蔵NO	大分類	小分類（科など）	部位	備考
M2-5-1-248-327-13	61	海獣類	オットセイ♀	上腕骨L1	
M2-5-1-248-327-14	61	海獣類	オットセイ科♂（若）	上腕骨L1	
M2-5-1-248-327-15	61	鳥類	カモメ	大腿骨L1、中手骨R1	
M2-5-1-248-327-16	61	鳥類	ウミガラス	中手骨L1	
M2-5-1-248-327-17	61	鳥類	アホウドリ	橈骨R1	
M2-5-1-248-327-18	61	鳥類	オオミズナギドリ	尺骨R1	
M2-5-1-248-327-19	61	鳥類	–	脛骨R1、複合仙骨1、不明3	
M2-5-1-248-327-20	61	魚類	ヒラメ	椎骨3	
M2-5-1-248-327-21	61	魚類	マダラ	歯骨L1	
M2-5-1-248-327-22	61	魚類	マグロ	主鰓蓋骨1	
M2-5-1-248-327-23	61	魚類	カサゴ類	歯骨L1	
M2-5-1-248-327-24	61	魚類	板鰓類	椎骨1	
M2-5-1-248-327-25	61	魚類	–	主鰓蓋骨L1、椎骨2、歯骨1、不明1	
M2-5-1-248-327-26	61	貝類	シジミ	R5・L4	
M2-5-1-248-327-27	61	貝類	ウバガイ	R3・L5	
M2-5-1-248-327-28	61	貝類	ヒメエゾボラ	5	
M2-5-1-248-327-29	61	貝類	ホタテ	3	
M2-5-1-248-327-30	61	貝類	マガキ	2	
M2-5-1-248-327-31	61	貝類	エゾチヂミボラ	1	
M2-5-1-248-327-32	61	貝類	–	破片1	
M2-5-1-248-328-1	61	海獣類	アシカ科（幼）	下顎骨L1、肩甲骨R1	
M2-5-1-248-328-2	61	海獣類	アシカ科	大腿骨L2、尺骨R4・L2、橈骨R1・L2、肩甲骨R1・L3、下顎骨♂R2・L1、腓骨L1、脛骨？R1、距骨L1、骨盤R2、中手骨2、指骨3	
M2-5-1-248-328-3	61	海獣類	アザラシ科	後頭骨破片1、鼓室骨付近R18・L14、鼓室骨破片8、上腕骨R2、橈骨R2、脛骨R1・L2、肩甲骨R1・L1、骨盤R1・L1、距骨L1、中足骨2	
M2-5-1-248-328-4	61	海獣類	–	環椎3、軸椎3、頸椎3、腰椎4、仙椎3、胸椎16、椎骨片1、骨端4、肋骨19、歯5、不明2	
M2-5-99-248-329-1	62	陸獣類	イヌ	肩甲骨L1、脛骨L1、歯5	
M2-5-99-248-329-2	62	陸獣類	クマ	大腿骨L1、距骨1	
M2-5-99-248-329-3	62	海獣類	イルカ科	胸椎1、腰椎1、椎体1	
M2-5-99-248-329-4	62	海獣類	トド	肩甲骨L1、頸椎1、中手骨1、側頭骨頬骨突起R1	
M2-5-99-248-329-5	62	海獣類	アシカ科	肩甲骨L1	
M2-5-99-248-329-6	62	海獣類	アザラシ科	前頭骨2、後頭骨1、頭骨片8、下顎骨R1・L1、耳骨包付近R4・L2、肩甲骨L1、骨盤R1・L1、上腕骨L1、尺骨R1、環椎2、踵骨1	
M2-5-99-248-329-7	62	海獣類	–	頸椎3、胸椎2、腰椎1、椎骨片3	
M2-5-99-248-329-8	62	類不明獣	–	肩甲骨2、肋骨9、脛骨1、中足骨1、不明1	

ID	旧所蔵NO	大分類	小分類（科など）	部位	備考
M2-5-99-248-329-9	62	鳥類	オオミズナギドリ	中足骨R1	
M2-5-99-248-329-10	62	鳥類	ウミウ	中手骨？R1	
M2-5-99-248-329-11	62	貝類	シジミ	R23・L18	
M2-5-99-248-329-12	62	貝類	クロタマキビ	8	
M2-5-99-248-329-13	62	貝類	サビシラトリガイ	1	
M2-5-99-248-329-14	62	貝類	二枚貝	8	
M2-5-99-248-329-15	62	魚類	-	椎骨1	
M2-5-1-248-332-1	63	陸獣類	イヌ（若）	下顎骨R1、肩甲骨R1	
M2-5-1-248-332-2	63	陸獣類	イヌ	上顎骨R1、尺骨L2、脛骨R1、歯2	
M2-5-1-248-332-3	63	陸獣類	キツネ	下顎骨R2	
M2-5-1-248-332-4	63	陸獣類	キツネ？	歯10	
M2-5-1-248-332-5	63	海獣類	トド♂	下顎骨L1	
M2-5-1-248-332-6	63	海獣類	オットセイ科♂（若）	上腕骨R1	
M2-5-1-248-332-7	63	海獣類	アシカ科	肩甲骨R1・L2、橈骨R1、中足骨1、中手骨2	
M2-5-1-248-332-8	63	海獣類	アザラシ科（幼）	大腿骨L1	
M2-5-1-248-332-9	63	海獣類	アザラシ科（若）	大腿骨L1	
M2-5-1-248-332-10	63	海獣類	アザラシ科	下顎骨R2・L1、耳骨包付近R6・L5、環椎1、上腕骨L1、大腿骨L1、尺骨L1、中足骨1	
M2-5-1-248-332-11	63	海獣類	イルカ科	下顎骨R1、腰椎2	
M2-5-1-248-332-12	63	海獣類	-	頸椎6、胸椎5、尾椎2、肋骨8、橈骨1、不明10	
M2-5-1-248-332-13	63	鳥類	アホウドリ	烏口骨L1、中足L1	
M2-5-1-248-332-14	63	鳥類	カモメ	上腕骨R1	
M2-5-1-248-332-15	63	鳥類	ウ類	大腿骨R1、中足骨L1	
M2-5-1-248-332-16	63	鳥類	-	橈骨1	
M2-5-1-248-332-17	63	魚類	タラ？	主鰓蓋骨R3・L3	
M2-5-1-248-332-18	63	魚類	-	椎骨3、神経棘1	
M2-5-1-248-332-19	63	貝類	ウバガイ	R4・L2、破片4	
M2-5-1-248-332-20	63	貝類	マガキ	5	
M2-5-1-248-332-21	63	貝類	シジミ	4	
M2-5-1-248-334-1	64	陸獣類	クマ	大腿骨L1、上腕骨R1	
M2-5-1-248-334-2	64	海獣類	オットセイ科♂（若）	大腿骨R1	
M2-5-1-248-334-3	64	海獣類	オットセイ♂	上腕骨L1、環椎2	
M2-5-1-248-334-4	64	海獣類	オットセイ♀	上腕骨R2・L2	
M2-5-1-248-334-5	64	海獣類	クジラ類	肋骨？1	
M2-5-1-248-334-6	64	海獣類	海獣（若）	頸椎4	
M2-5-1-248-334-7	64	海獣類	-	頭骨片8、鋤骨片1、頸椎7、腰椎8、尾椎2、胸椎13、椎体1、肩甲骨1、仙骨4、歯6、中手骨5、中足骨11、指趾骨5	

ID	旧所蔵NO	大分類	小分類（科など）	部位	備考
M2-5-1-248-335-1	64	陸獣類	イヌ（若）	脛骨L1、下顎骨L1	
M2-5-1-248-335-2	64	陸獣類	イヌ	頭骨1、歯11、上顎骨R1、下顎骨R1・L1、肩甲骨L1、軸椎1、頸椎1、上腕骨R1・L1、大腿骨R1・L1、橈骨R1、尺骨R1、橈骨+尺骨1、骨盤R1・L1	
M2-5-1-248-335-3	64	海獣類	イルカ科	腰椎3、尾椎1	
M2-5-1-248-335-4	64	海獣類	アシカ科（若）	脛骨R1	
M2-5-1-248-335-5	64	海獣類	アシカ科	前頭骨R1・L1、側頭～後頭骨R1、下顎骨L3、肩甲骨1、環椎1、橈骨L1、尺骨R1	
M2-5-1-248-335-6	64	類不明獣	-	肋骨42、不明131（焼骨3含む）	
M2-5-1-248-335-7	64	鳥類	アホウドリ	上腕骨R1、頸椎2、脛骨L2、尺骨R1・L2	
M2-5-1-248-335-8	64	鳥類	ウミウ	大腿骨L1、脛骨L1、尺骨L1	
M2-5-1-248-335-9	64	鳥類	カモメ	中手骨L1	
M2-5-1-248-335-10	64	鳥類	カモメ類	上腕骨R5・L4	
M2-5-1-248-335-11	64	鳥類	ワシ・タカ科	中足骨R1	
M2-5-1-248-335-12	64	鳥類	-	上腕骨R1・L1、肩甲骨R1、大腿骨L1、骨盤1、複合仙骨8、脛骨R3・L3、不明11	
M2-5-1-248-335-13	64	魚類	ヒラメ	前上顎骨R2、歯骨R2・L1、第一血管棘1	歯骨L1に「PKA20217」と注記あり
M2-5-1-248-335-14	64	魚類	-	椎骨2、鰭条棘2、歯骨1、不明2	
M2-5-1-248-336-1	64	海獣類	アザラシ科（幼）	下顎骨L1、上腕骨R1・L1、橈骨R1	
M2-5-1-248-336-2	64	海獣類	アザラシ科（若）	上腕骨R3・L1、大腿骨R3・L2、橈骨R1・L1、脛骨R2・L1	
M2-5-1-248-336-3	64	海獣類	アザラシ科	後頭骨底部1、後頭顆附近R1・L1、耳骨包附近R16・L20、環椎2、下顎骨R4・L3、肩甲骨R2・L2、骨盤R2・L1、脛骨R4・L2、脛骨？L1、距骨L1、踵骨2	
M2-5-1-248-337-1	64	類不明獣	-	不明14	貝破片に混入していた
M2-5-1-248-337-2	64	貝類	シジミ	R78・L181	
M2-5-1-248-337-3	64	貝類	タマキビ	28	
M2-5-1-248-337-4	64	貝類	ウバガイ	R6・L8、破片6	
M2-5-1-248-337-5	64	貝類	マガキ	7	
M2-5-1-248-337-6	64	貝類	ヒメエゾボラ	6	
M2-5-1-248-337-7	64	貝類	エゾチヂミボラ	4	
M2-5-1-248-337-8	64	貝類	ホタテ	1	
M2-5-1-248-337-9	64	貝類	エゾタマガイ	1	
M2-5-1-248-337-10	64	貝類	ウチムラサキガイ	1	
M2-5-1-248-337-11	64	貝類	二枚貝	39	
M2-5-1-248-337-12	64	貝類	-	破片120	
M2-1-1-096-342-1	95	陸獣類	イヌ	上腕骨L1	
M2-1-1-096-342-2	95	類不明獣	-	肋骨1、不明1	
M2-99-1-999-350-9	96	陸獣類	イヌ	下顎（犬歯）骨L1	

ID	旧所蔵NO	大分類	小分類（科など）	部位	備考
M2-99-1-999-350-10	96	陸獣類	ヒグマ	末節骨1	
M2-99-1-999-350-11	96	海獣類	−	歯8	
M2-99-1-999-350-12	96	類不明獣	−	不明1	
M2-99-1-999-350-13	96	鳥類	ワシ・タカ科	末節骨1	
M2-99-1-999-350-14	96	鳥類	−	不明4	
M2-99-1-999-358-14	98	陸獣類	タヌキ	下顎骨R2	
M2-99-1-999-358-15	98	陸獣類	キツネ（幼？）	下顎骨R1	
M2-99-1-999-358-16	98	陸獣類	キツネ	頭骨1、耳骨包附近R1、上顎骨R1・L？1、頭骨片7、歯9	
M2-99-1-999-358-17	98	海獣類	アシカ科	指骨1	
M2-99-1-999-358-18	98	海獣類	−	肋骨3、不明5	
M2-99-1-999-358-19	98	鳥類	−	不明5	
M2-99-1-999-358-20	98	魚類	−	不明1	
M2-99-1-999-358-21	98	貝類	−	破片3	
M2-4-1-999-360-15	99	鳥類	−	不明1	被熱
M2-4-1-999-360-16	99	貝類	−	破片1	
M2-4-1-999-364-7	100	貝類	−	破片1	
M2-4-1-999-364-8	100	海獣類	アシカ科（若）	中手骨1	
M2-4-1-999-364-9	100	類不明獣	−	肋骨2、不明10	
M2-4-1-999-364-10	100	鳥類	−	不明9	
M2-4-1-999-364-11	100	魚類	−	不明2	
M2-4-1-999-366-4	100	貝類	−	破片1	
M2-4-1-999-374-18	102	海獣類	アザラシ科	趾骨2	
M2-4-1-999-374-19	102	海獣類	−	歯1	
M2-4-1-999-374-20	102	鳥類	−	不明4	
M2-4-1-999-374-21	102	魚類	ヒラメ	第1血管棘1	
M2-4-1-999-374-22	102	貝類	−	不明1	
M2-4-1-999-376-5	102	海獣類	アザラシ科	趾骨1、歯1	
M2-4-1-999-376-6	102	海獣類	−	ペニスボーン1	
M2-4-1-999-376-7	102	鳥類	−	不明13	
M2-4-1-999-376-8	102	魚類	−	不明3	
M2-2-1-999-381-1	103	貝類	−	破片1	
M2-3-1-999-395-29	107	陸獣類	イヌ（幼）	上顎骨R1	
M2-3-1-999-395-30	107	陸獣類	イヌ	歯M1：L1	
M2-3-1-999-395-31	107	海獣類	アザラシ科	耳骨包付近L1	
M2-3-1-999-395-32	107	類不明獣	−	不明4	
M2-3-1-999-395-33	107	鳥類	−	鎖骨1、不明2	
M2-7-1-111-399-1	108	鳥類	−	不明1	

ID	旧所蔵NO	大分類	小分類（科など）	部位	備考
M2-7-1-111-399-2	108	魚類	-	不明2	
M2-7-1-111-399-3	108	貝類	ヌノメアサリ	6	
M2-7-1-111-399-4	108	貝類	チヂミボラ	2	
M2-7-1-111-399-5	108	貝類	タマキビ	2	
M2-7-1-111-399-6	108	貝類	クロタマキビ	2	
M2-7-1-111-399-7	108	貝類	エゾチヂミボラ	1	
M2-7-1-111-399-8	108	貝類	二枚貝	2	
M2-7-1-111-399-9	108	貝類	巻貝	1	
M2-5-1-999-401-6	108	海獣類	-	不明1	
M2-1-1-100-403-1	109	陸獣類	-	手根骨1	
M2-1-1-100-403-2	109	海獣類	イルカ科	上顎骨1	
M2-2-1-999-406-7	109	陸獣類	シカ	歯2	
M2-2-1-999-406-8	109	鳥類	-	不明2	
M2-2-1-999-407-5	109	類不明獣	-	不明1	
M2-2-1-999-408-4	109	海獣類	オットセイ	ペニスボーン1	
M2-2-1-999-408-5	109	類不明獣	-	肋骨1	
M2-2-1-999-408-6	109	貝類	-	不明1	
M2-2-1-999-413-2	109	鳥類	カモメ	上腕骨L1	
M2-2-1-999-413-3	109	鳥類	鳥類？	椎骨1	
M2-3-1-253-415-15	109	類不明獣	-	不明1	
M2-3-1-253-415-16	109	鳥類	-	不明1	
M2-1-1-999-416-1	109	魚類	-	不明2	
M2-99-1-999-420-127	110	鳥類	-	肩甲骨1、不明1	
M2-99-1-999-420-128	110	貝類	-	破片1	
M2-99-1-999-421-1	111	海獣類	クジラ	髭5	
M2-99-1-999-422-1	111	貝類	ウバガイ	1	
M2-99-1-999-424-1	111	海獣類	オットセイ？	ペニスボーン1	
M2-99-1-999-425-1	111	貝類	ウバガイ	1	
M2-99-1-999-425-2	111	貝類	エゾチヂミボラ	1	
M2-99-1-999-426-10	111	陸獣類	キツネ	歯2、上顎骨L2	
M2-99-1-999-426-11	111	陸獣類	クマ	手根骨L1	
M2-99-1-999-426-12	111	陸獣類	-	上顎骨R1、不明6	
M2-99-1-999-426-13	111	海獣類	クジラ	髭1、歯2	
M2-99-1-999-426-14	111	海獣類	オットセイ♂	ペニスボーン1	
M2-99-1-999-426-15	111	類不明獣	-	肋骨1、不明1	
M2-99-1-999-426-16	111	鳥類	ウミウ	上腕骨R1、橈骨L1、脛骨L1	
M2-99-1-999-426-17	111	鳥類	アホウドリ	橈骨L2	

ID	旧所蔵NO	大分類	小分類（科など）	部位	備考
M2-99-1-999-426-18	111	鳥類	カモメ	上腕骨L1	
M2-99-1-999-426-19	111	鳥類	−	肩甲骨L1、脛骨R1・L1、大腿骨L1、腓骨1、中足L1、椎骨2、不明23（焼骨2含む）	
M2-99-1-999-426-20	111	魚類	−	魚骨5、不明5	
M2-99-1-999-426-21	111	貝類	エゾキンチャクガイ	1	
M2-99-1-999-426-22	111	貝類	シジミ	1	
M2-99-1-999-426-23	111	貝類	−	不明5	
M1-99-1-999-442-55	121	陸獣類	イヌ	尺骨L1	
M1-99-1-999-442-56	121	類不明獣	−	不明1	
M1-99-1-999-442-57	121	鳥類	アホウドリ	尺骨R1	
M1-99-1-999-442-58	121	鳥類	−	尺骨R1	
M1-99-1-999-444-28	123	海獣類	−	肋骨11	K番号あるが加工痕なし（K571、K574、K580、K581、K583、K584、K586、K587、K589、K592、K613）
M1-99-1-999-444-29	123	海獣類	−	肋骨8	
M2-99-1-999-451-16	130	海獣類	クジラ	下顎骨R2、仙骨2、椎骨2	
M2-99-1-999-451-17	130	海獣類	イルカ科	下顎骨R2、指骨1	
M2-99-1-999-451-18	130	海獣類	トド	下顎骨R2	
M2-99-1-999-451-19	130	海獣類	−	肋骨1、指骨6	
M2-99-1-999-452-42	131	陸獣類	イヌ	上腕骨L1	
M2-99-1-999-452-43	131	類不明獣	−	不明13、橈骨1	
M2-99-1-999-452-44	131	鳥類	アホウドリ	上腕骨R3・L10、尺骨8、橈骨L1、脛骨L3	
M2-99-1-999-452-45	131	鳥類	ワシ・タカ科	上腕骨R2・L2、尺骨L1、大腿骨R？1・L1	
M2-99-1-999-452-46	131	鳥類	カモメ	上腕骨R2・L1、尺骨R2	
M2-99-1-999-452-47	131	鳥類	ウミウ	上腕骨R2・L1、尺骨R1	
M2-99-1-999-452-48	131	鳥類	−	鎖骨3、尺骨L2、脛骨R2・L1、不明43	
M2-99-1-999-452-49	131	魚類	ヒラメ	第1血管棘1	
M2-99-1-999-452-50	131	魚類	−	不明9	
M2-99-1-999-453-98	132	陸獣類	イヌ	頬骨側頭突起L1、歯2	
M2-99-1-999-453-99	132	海獣類	イルカ科	下顎骨R1、椎骨3	
M2-99-1-999-453-100	132	海獣類	−	肋骨1、不明5	
M2-99-1-999-453-101	132	海獣類	海獣？	耳骨胞L1	
M2-99-1-999-453-102	132	類不明獣	−	肋骨5、不明82（うち2点被熱）	
M2-99-1-999-453-103	132	鳥類	シロエリオオハム	脛骨L1	
M2-99-1-999-453-104	132	鳥類	−	不明3	
M1-99-1-176-454-10	547	陸獣類	イヌ	大腿骨L2	
M1-99-1-176-454-11	547	海獣類	オットセイ♂	下顎骨L1	
M1-99-1-176-454-12	547	鳥類	ウミガラス	上腕骨R1	

ID	旧所蔵NO	大分類	小分類(科など)	部位	備考
M1-99-1-176-454-13	547	魚類	タラ	椎骨1	
M1-99-1-138-457-1	548	鳥類	ウ類	中手骨L1	
M1-99-1-999-459-33	550	海獣類	-	膝蓋骨1	

表7　その他の遺物属性表

PLATE	ID	旧所蔵NO	器種	重量(g)	備考	遺物ラベル番号	原典図版
	M2-99-99-999-10-35	42	土製品(土玉)	13.2	最大長:26.20mm		
	M2-3-1-999-28-17	45	土壌サンプル	18.8			
	M2-99-99-999-32-13	45	ガラス片	1.8	最大長:27.50mm		
	M1-99-1-999-92-10	55	炭化物	2.8			
	M1-99-1-999-92-11	55	炭化物	6.7			
	M1-99-1-999-92-12	55	木片	10.5	M1-99-1-999-92-13～M1-99-1-999-92-16と同一個体と思われる		
	M1-99-1-999-92-13	55	木片	4.9	M1-99-1-999-92-12～M1-99-1-999-92-16と同一個体と思われる		
	M1-99-1-999-92-14	55	木片	13.3	M1-99-1-999-92-12～M1-99-1-999-92-16と同一個体と思われる		
	M1-99-1-999-92-15	55	木片	4.8	M1-99-1-999-92-12～M1-99-1-999-92-16と同一個体と思われる		
	M1-99-1-999-92-16	55	木片	17.6	M1-99-1-999-92-12～M1-99-1-999-92-15と同一個体と思われる		
	M1-99-1-184-103-1	57	木片	1.2			
	M1-99-1-120-117-5	57	粘土塊	6.9			
	M1-99-1-120-117-6	57	粘土塊	5.7			
	M1-99-1-027-120-2	57	土壌サンプル	31.7	炭化物、獣骨片、焼け礫、魚骨、貝片、残渣		
	M1-99-1-172～175-142-2	57	陶器	113.7			
	M1-99-1-215/216-143-18	57	木片	4.9			
	M1-99-1-217-145-1	57	矢筒	0.8	最大長:38.3mm		
	M1-99-1-113/170-146-10	57	木片	0.2			
	M1-99-1-113/170-146-11	57	木片	0.2			
	M1-99-1-012-148-42	57	土製品	2.1	破片		
	M1-99-1-012-148-79	57	木片	3.0			
	M1-99-1-012-148-80	57	木片	1.5			
	M1-99-1-012-148-81	57	樹皮片	4.0			
	M1-99-1-218～222-152-10	57	木片	0.7			
	M1-99-1-169-183-10	58	炭化物	0.1			
	M1-99-1-117-201-3	58	石炭片	0.4			
	M1-99-1-006-206-1	58	土壌サンプル	22.0	obsチップ、炭化物、魚骨、貝片、不明骨片、残渣		
	M1-99-1-051-212-7	58	炭化物	0.1			
	M2-2-1-105-219-4	58	炭化物	1.0			
	M2-2-1-105-219-5	58	土壌サンプル	49.3	土器片、礫片、obsチップ、炭化物、カサゴ類他、不明獣骨片、魚骨、貝片、残渣		
	M2-1-1-093-224-8	58	土壌サンプル	10.5	不明獣骨片、魚骨、貝片、残渣		
	M2-1-1-098-227-2	58	土壌サンプル	6.7	獣骨片、残渣		
	M2-1-1-098-228-7	58	土壌サンプル	30.6	獣骨片、obsチップ、炭化物、貝片、残渣		
	M2-2-1-091-232-12	58	土壌サンプル	4.8	貝片、残渣		
	M2-2-1-091-233-3	58	炭化物	0.1			
	M9-99-99-211-238-12	58	木片	0.1			
	M2-99-99-999-244-197	59	炭化物	1.0			
	M2-99-99-999-244-198	59	土壌サンプル	34.5	炭化物、鳥骨片、カレイ類他、魚骨片、貝片、obsチップ		
	M1-99-1-007-249-2	60	炭化物	0.1			
	M1-99-1-007-249-3	60	土壌サンプル	28.5	炭化物、貝類、チップ、不明獣骨片、残渣		
	M1-99-1-072-267-3	60	炭化物	0.1			
	M2-1-1-095-299-21	60	炭化物	0.1			

PLATE	ID	旧所蔵NO	器種	重量(g)	備考	遺物ラベル番号	原典図版
	M2-6-1-224-300-6	60	炭化物	0.1			
	M2-1-1-097-301-4	60	炭化物	0.1			
	M2-1-1-099-302-2	60	土壌サンプル	101.3			
	M2-1-1-090-305-10	60	炭化物	0.5			
	M2-2-1-101-309-1	60	炭化物	0.7			
	M2-1-1-110-316-5	60	炭化物	0.3			
	M2-5-1-248-331-82	63	木片	4.5	最大長:45.90mm		
	M2-5-1-248-335-15	64	土壌サンプル	68.4	土器細片、obsチップ、炭化物、獣骨片、貝片、魚骨、残渣		
	M2-99-1-999-349-1	96	発泡したガラス質製品?	8.0	中央に穿孔あり(径約5mm)、最大長:54.48mm		
104	M2-4-1-999-365-8	100	化石	38.2	円礫の中に巻貝、最大長:34.28mm		
	M2-4-1-999-367-1	100	一銭銅貨	3.7	大正十一年製		
104	M2-4-1-999-377-35	102	木製品	5.4	刺器(竹管を素材とし、一端を斜めに切断して先端を作り出している)、最大長:106.04mm	M.貝.41	名取・大場1964 Fig4-41
	M2-4-1-999-379-1	103	土壌サンプル	12.3			
	M2-3-1-999-391-1	106	赤色顔料	68.2			
105	M2-5-1-999-396-1	108	土製品	35.8	紡錘車(外面に縄の端点で押圧した文様が螺旋状に施される)、中央に穿孔あり(径約7mm)、最大長:58.85mm		
	M2-7-1-111-399-10	108	土壌サンプル	22.9	炭化物、obsチップ、獣骨片、魚骨片、貝片、残渣		
94	M2-1-3-100-402-1	109	青小玉(ガラス玉)	0.2	表に「S.1115 昭和二十二年 貝塚内14号附属」裏に「M.人.14青玉」と書かれた円形紙札が付いている	M.人.14	名取・大場1964 Fig8-14
93	M1-99-1-999-433-49	114	化石	308.1	クジラの鼓室胞、記載のないラベルあり、最大長:117.3mm		
93	M1-99-1-999-433-50	114	化石	194.4	貝、記載のないラベルあり、最大長:96.85mm		
	M1-99-1-999-433-51	114	ガラス片	30.6	最大長:47.08mm		
93	M1-99-1-999-460-6	550	土製品(土玉)	31.1	最大長:38.02mm	S929	大場1957 第三章 三円石
93	M1-99-1-999-460-7	550	土製品(土玉)?	23.8	最大長:34.75mm	S930	大場1957 第三章 三円石
93	M1-99-1-999-460-10	550	土製品(土玉)	14.0	最大長:34.42mm	S933	大場1957 第三章 三円石
93	M1-99-1-999-460-13	550	土製品(土玉)	14.1	最大長:30.04mm	S936	大場1957 第三章 三円石

表8 ラベル類の記載情報

PLATE	ID	旧所蔵No.		記載情報	備考
111	M2-4-1-999-359-0	99	1	二十三年度 貝塚BA地点 上層	
			2	モヨロ 二十三年度 貝塚(A.B地区) 上層 出土 ①	
			3	K.2141-2170	
111	M2-4-1-999-362-0	100	1	二十三年度 貝塚BA地点 上層	
			2	モヨロ 二十三年度 貝塚(A.B地区) 上層 出土 ②	
			3	K.2171ー2190	
111	M2-4-1-999-369-0	101	1	二十三年度 貝塚AB地区 下層	
			2	モヨロ 二十三年度 貝塚(A.B地区) 下層 出土 ①	
			3	K.2216ー2230	
111	M2-4-1-999-373-0	102	1	二十三年度 貝塚AB地区 貝層	
			2	モヨロ 二十三年度 貝塚(A.B地区) 貝層 出土 ①	
			3	K.2191ー2210	
111	M2-4-1-999-378-0	103	1	二十三年度 貝塚AB地区 下層	
			2	モヨロ 二十三年度 貝塚(A.B地区) 下層 出土 ②	
			3	K.2231ー2235	
			4	九月二十九日 貝塚B地区下層 地下1m17cm砂層	表
			4	M.下.4 5m 40cm B 5m 40cm	裏:手書きの長方形の図(トレンチ略図?)
112	M2-4-1-999-383-0	104	1	二十三年度 貝塚AB地区 貝層	
			2	モヨロ 二十三年度 貝塚(A.B地区) 貝層 出土 ②	
			3	K.2211ー2215	
112	M2-4-1-999-387-0	105	1	二十三年 貝塚C地区 上層	
			2	モヨロ 二十三年度 貝塚(C地区) 上層 出土	
			3	K.2236-2240	
112	M2-4-1-999-390-0	106	1	二十三年度 貝塚C地区 下層 ~~十月八日~~	
			2	モヨロ 二十三年度 貝塚(C地区) 下層 出土	
			3	K.2246	
112	M2-4-1-999-393-0	107	1	二十三年 貝塚C地区 貝層	
			2	モヨロ 二十三年度 貝塚(C地区) 貝層 出土	
			3	K.2241-2245	
112	M2-7-1-111-398-0	108	-	十月七日 竪穴附近 人骨歯牙アリ 貝塚	
112	M2-4-1-999-419-0	109	1	モヨロ 二十三年度 副葬サレタ遺物(貝塚.第二貝塚)	
			2	K.2300-2309	
112	M2-4-1-999-431-0	114	1	モヨロ 十二 破片(石槍等)	
			2	K.3026-3030	
113	M2-4-1-999-440-0	120	1	22年モヨロ貝塚出土品	
			2	K1542,1525+	
113	M2-4-1-999-473-0	553	-	刀(刀子) 25	
113	M2-4-1-999-476-0	553	-	刀(刀子) 28	
113	M2-4-1-999-485-0	555	1	十月二十六日 於最寄	
			2	43-20.5	
113	M2-4-1-999-515-0	574	-	斧 5	
113	M2-4-1-999-516-0	574	-	斧 1	

付表 1　遺物 ID における共伴コードと対応する古人骨標本番号

古人骨の共伴コード	標本名 (古人骨 No)	標本名補足	調査時期
001	最寄 1	昭和 16 年 1 号	戦中
003	最寄 3	昭和 16 年 3 号	戦中
004	最寄 4	昭和 16 年 4 号	戦中
005	最寄 5	昭和 16 年 5 号	戦中
006	最寄 6	昭和 16 年 6 号	戦中
007	最寄 7	昭和 16 年 7 号	戦中
008	最寄 8	昭和 16 年 8 号	戦中
009	最寄 9	昭和 16 年 9 号	戦中
010	最寄 10	昭和 16 年 10 号	戦中
015	最寄 15	昭和 16 年 15 号	戦中
016	最寄 16	昭和 16 年 16 号	戦中
017	最寄 17	昭和 16 年 17 号	戦中
019	最寄 19	昭和 16 年 19 号	戦中
020	最寄 20	昭和 16 年 20 号	戦中
021	最寄 21	昭和 16 年 21 号	戦中
022	最寄 22	昭和 16 年 22 号	戦中
023	最寄 23	昭和 16 年 23 号	戦中
025	最寄 25	昭和 16 年 25 号	戦中
026	最寄 26	昭和 16 年 26 号	戦中
027	最寄 27	昭和 16 年 27 号	戦中
029	最寄 29	昭和 17 年 29 号	戦中
032	最寄 32		戦中
035	最寄 35		戦中
036	最寄 36		戦中
037	最寄 37		戦中
038	最寄 38, 229		戦中
039	最寄 39		戦中
040	最寄 40		戦中
041	最寄 41		戦中
042	最寄 42		戦中
043	最寄 43		戦中
045	最寄 45		戦中
046	最寄 46		戦中
047	最寄 47		戦中
048	最寄 48		戦中
049	最寄 49		戦中
051	最寄 51		戦中
052	最寄 52		戦中
053	最寄 53		戦中
024/054	最寄 24/54	昭和 16 年 24 号 /-	戦中
055	最寄 55		戦中
057	最寄 57		戦中
058	最寄 57		戦中
059	最寄 57		戦中
060	最寄 60		戦中
063	最寄 63		戦中
064	NA		戦中
065	最寄 65		戦中
069	最寄 69		戦中
070	最寄 70		戦中
071	最寄 71		戦中
072	最寄 72		戦中
073	最寄 73		戦中
074	最寄 74		戦中
075	最寄 75		戦中
076	最寄 76		戦中
077	最寄 77		戦中
079	最寄 79		戦中
080	最寄 80		戦中
081	最寄 81		戦中
083	最寄 83		戦中
084	最寄 84		戦中

古人骨の共伴コード	標本名 (古人骨 No)	標本名補足	調査時期
085	最寄 85		戦中
086	最寄 86		戦中
087	最寄 87		戦中
088	最寄 88	昭和 22 年 1 号	戦後
089	最寄 89	昭和 22 年 2 号	戦後
090	最寄 90	昭和 22 年 3 号	戦後
091	最寄 91	昭和 22 年 4 号	戦後
092	最寄 92	昭和 22 年 5 号	戦後
093	最寄 93	昭和 22 年 6 号	戦後
094	最寄 94	昭和 22 年 8 号	戦後
095	最寄 95	昭和 22 年 9 号	戦後
096	最寄 96	昭和 22 年 10 号	戦後
097	最寄 97	昭和 22 年 11 号	戦後
098	最寄 98	昭和 22 年 12 号	戦後
099	最寄 99	昭和 22 年 13 号	戦後
100	最寄 100	昭和 22 年 14 号	戦後
101	最寄 101	昭和 23 年 15 号	戦後
102	最寄 102	昭和 23 年 16 号	戦後
103	最寄 103	昭和 23 年 17 号	戦後
104	最寄 104	昭和 23 年 19 号	戦後
105	最寄 105	昭和 23 年 20 号	戦後
106	最寄 106		戦後
115	最寄 115	番外 0-3	戦中
150	最寄 150	番外 34	戦中
152	最寄 152	番外 36	戦中
153	最寄 153	番外 37	戦中
155	最寄 155	番外 40	戦中
156	最寄 156	番外 41	戦中
158	最寄 158	番外 43	戦中
159	最寄 159	番外 44	戦中
161	最寄 161		戦中
162	最寄 162	番外 47	戦中
164	最寄 164	番外 49	戦中
165	最寄 165	番外 50	戦中
166	最寄 166	番外 51	戦中
167	最寄 167	番外 52	戦中
169	最寄 169	番外 54	戦中
170	最寄 170	番外 55?	戦中
172	最寄 172	番外 57 の頭部	戦中
173	最寄 173	体部 1	戦中
174	NA		戦中
175	最寄 175	体部 3	戦中
176	最寄 176	番外 58	戦中
177	最寄 177	番外 59	戦中
184	最寄 184	番外 66	戦中
185	最寄 185	番外 67	戦中
187	最寄 187	番外 69	戦中
188	最寄 188	番外 70	戦中
189	最寄 189	番外 71	戦中
190	最寄 190	番外 72	戦中
191	最寄 191	番外 73	戦中
194	最寄 194	番外 76	戦中
195	最寄 195	番外 77	戦中
196	最寄 196	番外 78	戦中
197	最寄 197	番外 79	戦中
198	最寄 198	番外 80	戦中
200	最寄 200	番外 82	戦中
201	最寄 201	番外 83	戦中
202	最寄 202	番外 84	戦中
203	最寄 203	番外 85	戦中
204	最寄 204	番外 86	戦中
211	最寄 211		不明

付表１　（続き）

古人骨の共伴コード	標本名 (古人骨 No)	標本名補足	調査時期
213/214	最寄 213/214	雑 1-1/ 雑 1-2	戦中
215/216	最寄 215/216	雑 3-1/ 雑 3-2	戦中
217	NA		戦中
218 ～ 222	最寄 218~222	雑 4-1 ～ 4-5	戦中
223	最寄 223	雑 5	戦中
224	最寄 224	七号竪穴一号人骨	戦中
225	最寄 225	七号竪穴二号人骨	戦中
234	最寄 234		戦中
235	最寄 235		戦中
236	最寄 236		戦中
241	最寄 241		戦中
243	最寄 243		戦中
244	NA		戦中
246	最寄 246		戦中
248	NA		戦後
250	NA	モヨロ貝塚深層 1	不明
251	最寄 109	昭和 22 年 7 号	戦後
252	No なし	昭和 23 年 18 号？	戦後
253	No なし	昭和 23 年 24 号	戦後
254	No なし	昭和 23 年 25 号	戦後
255	No なし	昭和 23 年 30 号	戦後
999	古人骨伴わず	-	-
246	246		戦中
248	NA		戦後
250	NA	モヨロ貝塚深層 1	不明
251	109	昭和 22 年 7 号	戦後
252	No なし	昭和 23 年 18 号？	戦後
253	No なし	昭和 23 年 24 号	戦後
254	No なし	昭和 23 年 25 号	戦後
255	No なし	昭和 23 年 30 号	戦後
999	古人骨伴わず	-	-

Summary

The present catalogue is the collection of archaeological materials from the Moyoro Shell Midden (Abashiri City), located on the southern coast along the Okhotsk Sea, northeastern Hokkaido. The artifacts were recovered from the two large excavation campaigns: the first two-seasons' excavations conducted by the scholars from the School of Medicine, Hokkaido University in 1941 and 1942 were the rescue excavation to conserve the artifacts exposed by the emergent construction of the Japanese navy port under the intensification of the World War II (WWII), while the second two-seasons' excavations in 1947 and 1948 were the post-WWII academic excavation organized by the archaeologists from University of Tokyo and the physical anthropologists from Hokkaido University. While the results of these excavations were embarrassed by the scholarly community, particularly under the circumstance of social revival after the devastation of WWII, the recovered artifacts were then brought into different organizations to curate in different manners. The purpose of this catalogue is to provide the basic artifact inventory with their contextual information (e.g., excavation units, levels, association to burials) that will aid not only for the current and future scholarly activity but also for gaining public awareness of this classic archaeological collection. Having created the inventory, a total of 4840 artifacts from these two large excavation campaigns are now curated in Hokkaido University. Most of them were from the trench excavation of the Second Shell Midden where a total of 26 burials of the Okhotsk people, an ancient cultural group persisted in southern coastal region of the Okhotsk Sea mainly during the Late Holocene (from the 5th to 9th century AD) were excavated. The types of artifacts are diverse, consisting of pottery, osseous artifacts, lithic artifacts, metal artifacts, faunal remains, and manuports. Some of them have been already reported in the research papers and monographs written by the earlier researchers during the 1950's and 1960's, while the present catalogue provides comprehensive inventory of a large portion of the artifacts from the two excavation campaigns.

北海道大学所蔵
モヨロ貝塚（網走市）収集考古資料

令和 7(2025)年 3 月 31 日発行

発行元　北海道大学
〒 060-0809 札幌市北区北 9 条西 8 丁目
TEL 011-706-2196

編集者　中沢祐一、伊藤麻由、大沼まり
澤井　玄、高橋　健、種石　悠

印刷所　株式会社アイワード